山形県埋蔵文化財センター調査報告書第256集

新庄城二の丸跡発掘調査報告書

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

新庄城二の丸跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 256 集



2026

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

新庄城二の丸跡（しんじょうじょうにのまるあと）

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 256 集

令和８年

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター



遺跡遠景（東から）



3 区 SX120 整地層瓦出土状況（北から）





92-4







80-9





91-1



74-10



87-10





67-5



91-3a



80-8







91-3b



87-2

出土陶磁器

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、新庄城二の丸跡の調査成果をまとめたものです。

新庄城二の丸跡は、山形県の北東部に位置する新庄市に所在します。新庄市は最上地域の産業の中心地として農業をはじめ商工業など広い分野で発展してきた中心都市です。古くは乱馬堂遺跡や山屋遺跡などの旧石器時代の遺跡群が有名です。江戸時代は戸沢家新庄藩の城下町として整備され、戸沢家墓所は国指定史跡となっています。藩政時代の宝暦６（1756）年からの伝統がある新庄まつりは、平成 28 年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。

この度、新庄市公立保育所整備事業に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、新庄城二の丸跡の発掘調査を実施しました。調査では、幕末の戊辰戦争で焼失した新庄藩の米蔵の建物跡や、その下の整地層下に確認された江戸時代前期の屋敷地跡の様子が明らかになりました。また、城内の建物に葺かれていた大量の瓦とともに、肥前産の陶磁器など当時使用されていた生活の器もまとまって出土しました。これより、江戸時代の新庄城内の生活の様子を復元することができる多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し、ご支援、ご協力をいただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和８年３月

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　黒田　あゆ美

凡　例

1　本書は、新庄市公立保育所整備に係る「新庄城二の丸跡」の発掘調査報告書である。

2　既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

3　調査は新庄市の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

4　本書の執筆・編集は菅原哲文が担当し、菅原靖男、髙桑弘美、髙桑登が監修した。

本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ章	菅原哲文
第Ⅳ章　第１節	パリノ・サーベイ株式会社　東澤　翔・田中義文
第Ⅳ章　第２節	上條信彦（弘前大学人文社会科学部）
第Ⅳ章　第３節	文化財調査コンサルタント株式会社　渡辺正巳

5　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ⅹ系（世界測地系）により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。

6　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

SB…建物跡　SD…溝跡　SK…土坑　SP…柱穴・ピット

SX…性格不明遺構・整地層・焼土遺構　EP…遺構内柱穴

RM…登録金属製品　RP…登録土器　RQ…登録石製品

7　遺構実測図の縮尺の用法は各図に示した。網点は、礫を黒アミ 30％、コンクリートを黒アミ 10％で表している。

8　遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、拓影断面図の配置であるが、須恵器・陶磁器は左から内面・断面・外面の順に掲載した。縮尺、網点の用法は各図に示した。

9　基本層序および遺構覆土の色調記載については、2008 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

10　発掘調査、整理作業および本書を作成するにあたり、下記の方々から御指導と御助言をいただいた。（敬称略）

弘前大学　上條信彦

山形大学　永井康雄

佐賀県立九州陶磁文化館　大橋康二

（公財）滋賀県文化財保護協会　山口誠司

山形市文化スポーツ部文化創造都市課　五十嵐貴久

（公財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター　岡本直久・河合君近

山形県立博物館　瀬戸大暉・佐藤巧庸

筑波大学大学院人間総合科学研究科　内田昌太朗

調 査 要 項

遺跡名	新庄城二の丸跡		
遺跡番号	205-129		
所在地	山形県新庄市堀端町４番地ほか		
調査委託者	新庄市		
調査受託者	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター		
受託期間	令和５年４月１日～令和６年３月 31 日（現地調査・整理作業）		
	令和６年４月１日～令和７年３月 31 日（整理作業）		
	令和７年４月１日～令和８年３月 31 日（整理作業・報告書刊行）		
現地調査	令和５年５月 15 日～ 11 月 14 日		
調査担当者	令和５年度	事務局長	髙桑弘美
		調整専門員	髙桑登
		調査研究専門員	菅原哲文（調査主任）
		主任主査	齊藤主税
	令和６年度	事務局長	髙桑弘美
		調整専門員	髙桑登
		調査研究専門員	菅原哲文（調査主任）
	令和７年度	事務局長	髙桑弘美
		調整専門員	髙桑登
		調査研究専門員	菅原哲文（調査主任）
調査指導	山形県観光文化スポーツ部　博物館・文化財活用課（令和５年度）		
	山形県観光文化スポーツ部　県民文化芸術振興課（令和６・７年度）		
調査協力	新庄ふるさと歴史センター		
業務委託	発掘調査区業務　株式会社新庄開発センター（令和５年度）		
	基準点測量業務　株式会社協同測量設計センター（令和５年度）		
	遺構空中写真撮影業務　株式会社ワクニ（令和５年度）		
	遺物保存処理業務　（公財）山梨文化財保存研究所（令和６年度）		
	理化学分析業務　パリノ・サーベイ株式会社（令和６年度）		
	理化学分析業務　文化財調査コンサルタント株式会社（令和６年度）		

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　　1　調査に至る経緯 …… 1
　　2　発掘調査の経過と方法 …… 1
　　3　整理作業の経過と方法 …… 4
Ⅱ　遺跡の位置と環境
　　1　地理的環境 …… 5
　　2　歴史的環境 …… 5
Ⅲ　調査成果
　　1　遺跡の概要 …… 11
　　2　遺構と遺物 …… 11
Ⅳ　理化学分析
　　1　新庄城二の丸跡出土遺物の自然科学分析　187
　　2　新庄城二の丸跡発掘調査出土イネの出土
　　状況と粒形質分析 …… 195
　　3　微化石分析 …… 219
Ⅴ　総括
　　1　遺構と遺物の概要と考察 …… 227
報告書抄録 ……巻末

表

表 1 遺跡地名表……8
表 2 柱穴一覧表……54
表 3 陶磁器観察表……162
表 4 瓦観察表……178
表 5 石製品観察表……185
表 6 金属製品観察表……185
表 7 木製品観察表……186
表 8 ガラス製品観察表……186
表 9 胎土分析試料一覧……187
表 10 ガラスビード作成条件……188
表 11 蛍光 X 線装置条件……188
表 12 蛍光 X 線定量測定条件……188
表 13 蛍光 X 線分析結果（化学組成）……188
表 14 樹種同定結果……190
表 15 観察資料と分析結果……196
表 16 出土米の粒形と粒大の分類基準……197
表 17 上條（2018）における粒形質遺跡パターン……206
表 18 新庄城跡出土米と他遺跡との比較……206
表 19 新庄城跡炭化米観察表 1……209
表 20 新庄城跡炭化米観察表 2……210
表 21 新庄城跡炭化米観察表 3……211
表 22 新庄城跡炭化米観察表 4……212
表 23 新庄城跡炭化米観察表 5……213
表 24 新庄城跡炭化米観察表 6……214
表 25 新庄城跡炭化米観察表 7……215
表 26 新庄城跡炭化米観察表 8……216
表 27 新庄城跡炭化米観察表 9……217
表 28 新庄城跡炭化米観察表 10……218
表 29 同定・検鏡対象分類群……220
表 30 微化石概査結果……220
表 31 花粉組成表……221
表 32 植物珪酸体組成表……222
表 33 出土陶磁器の産地組成……232
表 34 出土遺物の集計表……232

図　版

第 1 図　調査区概要図及びグリッド設定図……2
第 2 図　調査区概要図……3
第 3 図　地形分類図……7
第 4 図　遺跡位置図……9
第 5 図　新庄城絵図……10
第 6 図　第 1 面調査区全体図……27
第 7 図　第 1 面遺構平面図 1……28
第 8 図　第 1 面遺構平面図 2……29
第 9 図　第 1 面遺構平面図 3……30
第 10 図　第 1 面 3 区 SB1 建物跡平面・断面図……31
第 11 図　第 1 面 3 区 SB2 建物跡平面図・SB2・4・5 建物跡柱穴断面図……32
第 12 図　第 1 面 3 区 SB3・4・5 建物跡平面図……33
第 13 図　1 区 SB20 建物跡平面図……34
第 14 図　第 2 面調査区平面図……35
第 15 図　第 2 面遺構平面図 1……36
第 16 図　第 2 面遺構平面図 2……37
第 17 図　第 2 面遺構平面図 3……38
第 18 図　1 区南壁断面図……39
第 19 図　1 区南壁・3 区北壁土層注記……40
第 20 図　3 区北壁断面図……41
第 21 図　3 区東壁断面図……42
第 22 図　3 区南壁断面図……43
第 23 図　1 区 SB20 建物跡平面・断面図……44
第 24 図　1 区北壁断面図……45
第 25 図　1 区西 1 ～ 4 トレンチ平面図……46
第 26 図　1 区 SB201・247 建物跡平面図……47
第 27 図　1 区 SX254 焼土遺構炭化材平面図・SB247 建物跡平面図・断面図……48
第 28 図　SX215 瓦廃棄遺構遺物平面図……49
第 29 図　1 区柱穴群・SX200 瓦廃棄遺構……50
第 30 図　1 区中央柱穴群平面図・SB268・269・EP229・230・237・239・227・228 柱穴断面図……51
第 31 図　1 区 SB270EP220 ～ 222・231・241・244・SP223・224・234・235 他柱穴断面図・SP202・203 礎石平面図……52
第 32 図　1 区中央柱穴群土層注記……53
第 33 図　SX216 溝状遺構・SP218・219 柱穴断面図……54
第 34 図　1 区東遺構群平面図……55
第 35 図　3 区西第 2 面柱穴・土坑群平面図……56
第 36 図　3 区西第 2 面柱穴・土坑群 SK81・86・SP77・90・91・96・SX79 断面図……57

第 37 図　3 区東 SD64 ～ 66 溝跡・SX68・73 溝状遺構平面・断面図 …… 58
第 38 図　SX84 焼土遺構平面・断面図 …… 59
第 39 図　SX75 整地層上面平面図・断面図 …… 60
第 40 図　3 区 SX120 整地層平面図 …… 61
第 41 図　第 3 面調査区平面図 …… 62
第 42 図　第 3 面遺構平面図 1 …… 63
第 43 図　第 3 面遺構平面図 2 …… 64
第 44 図　第 3 面遺構平面図 3 …… 65
第 45 図　1 区第 3 面平面図 …… 66
第 46 図　1 区 SX260 整地層 4 トレンチ断面図 …… 67
第 47 図　1 区 7 トレンチ平面図・SK261・263・267 土坑・SP262・263 柱穴平面・断面図 …… 68
第 48 図　1 区 SK261・263・267 土坑・SP262・263 柱穴平面・断面図・SX217 落ち込み遺構断面図 …… 69
第 49 図　1 区東第 3 面平面図 …… 70
第 50 図　3 区東遺構平面図 1 …… 71
第 51 図　3 区東遺構平面図 2 …… 72
第 52 図　3 区東遺構平面図 3 …… 73
第 53 図　3 区 SB122 建物跡平面図・SX99・109 ～ 111 溝状遺構断面図 …… 74
第 54 図　SK105・107・112・115 土坑平面・断面図 …… 75
第 55 図　3 区 SX100 落ち込み遺構断面図 …… 76
第 56 図　SX100 落ち込み遺構遺物平面図 …… 77
第 57 図　SX120 整地層・5 トレンチ・6 トレンチ平面図 …… 78
第 58 図　3 区 SX75 整地層・3 区 5 トレンチ断面図 …… 79
第 59 図　2 区 6 トレンチ断面図・3 区 8 トレンチ平面図 …… 80
第 60 図　3 区 8 トレンチ断面図 …… 81
第 61 図　須恵器・青磁・珠洲・須恵器系陶器・1 区西出土陶磁器 1 …… 82
第 62 図　1 区西出土陶磁器 2 …… 83
第 63 図　1 区西出土陶磁器 3 …… 84
第 64 図　1 区西出土陶磁器 4 …… 85
第 65 図　1 区西出土陶磁器 5 …… 86
第 66 図　1 区西出土陶磁器 6 …… 87
第 67 図　1 区西出土陶磁器 7・東出土陶磁器 1 …… 88
第 68 図　1 区東出土陶磁器 2 …… 89
第 69 図　1 区東出土陶磁器 3 …… 90
第 70 図　1 区東出土陶磁器 4 …… 91
第 71 図　1 区東出土陶磁器 5 …… 92
第 72 図　2 区出土陶磁器・3 区西出土陶磁器 1 …… 93
第 73 図　3 区西出土陶磁器 2 …… 94
第 74 図　3 区西出土陶磁器 3 …… 95
第 75 図　3 区西出土陶磁器 4 …… 96
第 76 図　3 区西出土陶磁器 5 …… 97
第 77 図　3 区西出土陶磁器 6 …… 98
第 78 図　3 区東出土陶磁器 1 …… 99
第 79 図　3 区東出土陶磁器 2 …… 100
第 80 図　3 区東出土陶磁器 3 …… 101
第 81 図　3 区東出土陶磁器 4 …… 102
第 82 図　3 区東出土陶磁器 5 …… 103
第 83 図　3 区東出土陶磁器 6 …… 104
第 84 図　3 区東出土陶磁器 7 …… 105
第 85 図　3 区東出土陶磁器 8 …… 106
第 86 図　3 区東出土陶磁器 9 …… 107
第 87 図　3 区東出土陶磁器 10 …… 108
第 88 図　3 区東出土陶磁器 11 …… 109
第 89 図　3 区東出土陶磁器 12 …… 110
第 90 図　3 区東出土陶磁器 13 …… 111
第 91 図　3 区東出土陶磁器 14 …… 112
第 92 図　3 区東出土陶磁器 15・XO 出土陶磁器・かわらけ 1・土師質土器 1 …… 113
第 93 図　かわらけ 2・土師質土器 2 …… 114
第 94 図　かわらけ 3・土師質土器 3・瓦質土器・土人形・1 区出土瓦 1 …… 115
第 95 図　1 区出土瓦 2 …… 116
第 96 図　1 区出土瓦 3 …… 117
第 97 図　1 区出土瓦 4 …… 118
第 98 図　1 区出土瓦 5 …… 119
第 99 図　1 区出土瓦 6 …… 120
第 100 図　1 区出土瓦 7 …… 121
第 101 図　1 区出土瓦 8 …… 122
第 102 図　1 区出土瓦 9 …… 123
第 103 図　1 区出土瓦 10 …… 124
第 104 図　1 区出土瓦 11 …… 125
第 105 図　1 区出土瓦 12 …… 126
第 106 図　1 区出土瓦 13 …… 127
第 107 図　1 区出土瓦 14 …… 128
第 108 図　1 区出土瓦 15 …… 129
第 109 図　1 区出土瓦 16 …… 130
第 110 図　1 区出土瓦 17 …… 131
第 111 図　3 区出土瓦 1 …… 132
第 112 図　3 区出土瓦 2 …… 133
第 113 図　3 区出土瓦 3 …… 134
第 114 図　3 区出土瓦 4 …… 135
第 115 図　3 区出土瓦 5 …… 136

第116図　3区出土瓦6……137
第117図　3区出土瓦7……138
第118図　3区出土瓦8……139
第119図　3区出土瓦9……140
第120図　3区出土瓦10……141
第121図　3区出土瓦11……142
第122図　3区出土瓦12……143
第123図　3区出土瓦13……144
第124図　3区出土瓦14……145
第125図　3区出土瓦15……146
第126図　3区出土瓦16……147
第127図　3区出土瓦17……148
第128図　3区出土瓦18……149
第129図　3区出土瓦19……150
第130図　3区出土瓦20……151
第131図　1・2・3区出土瓦21……152
第132図　1・3区出土瓦22……153
第133図　1・3区出土瓦23……154
第134図　3区出土瓦24・石製品1……155
第135図　石製品2・金属製品1……156
第136図　金属製品2……157
第137図　金属製品3……158
第138図　金属製品4・木製品……159
第139図　軒丸瓦・丸瓦分類図……160
第140図　軒平瓦・平瓦・その他の瓦分類図……161
第141図　胎土化学組成散布図（1）……189
第142図　胎土化学組成散布図（2）……189
第143図　胎土分析瓦試料実測図……190
第144図　炭化材（1）……191
第145図　炭化材（2）……192
第146図　炭化材（3）……193
第147図　含炭化米層の剥ぎ取り……195
第148図　剥ぎ取りの詳細写真……198
第149図　炭化物塊の詳細写真……200
第150図　炭化物塊と関連資料の詳細写真……201
第151図　新庄城二の丸跡各地点間の比較……203
第152図　第2面炭化米出土地点と形質のまとまり……204
第153図　第3面炭化米出土地点と形質のまとまり……204
第154図　調査トレンチ平面図（試料採取断面の位置）……219
第155図　1区4トレンチ北壁断面図（試料採取層準）……219
第156図　花粉組成ダイアグラム……221
第157図　植物珪酸体ダイアグラム……222
第158図　花粉・胞子化石　光学顕微鏡写真……225
第159図　植物珪酸体化石　光学顕微鏡写真……226
第160図　新庄城二の丸跡第2面遺構概要図……228
第161図　新庄城二の丸跡第3面遺構概要図……229
第162図　出土陶磁器集成図1……230
第163図　出土陶磁器集成図2……231
第164図　出土陶磁器集成図3……232

写真図版

巻頭写真１　遺跡遠景・３区 SX120 整地層瓦出土状況

巻頭写真２　出土陶磁器

写真図版１　遺跡遠景・新庄城絵図（尾形芦香描）

写真図版２　環境整備・重機による表土除去・１区第１面の面整理作業・遺構精査・第１面遺構検出状況

写真図版３　３区西 SB1・３区東 SB4 建物跡検出状況

写真図版４　１区西 SB20・３区 SB2・３区 SB3・３区 SB5 建物跡検出状況・１区東第１面遺構検出状況

写真図版５　SB1 建物跡柱穴検出・SB1EP18・19・8・15・14・13・SB2EP23・31・SB4EP45・46・EP47 柱穴

写真図版６　１区西第２面遺構検出状況・１区西側北壁断面

写真図版７　１区 SX254 焼土遺構・SB247 建物跡検出状況・１区 SX215 瓦廃棄遺構遺物出土状況

写真図版８　１区 SX215 瓦廃棄遺構瓦・陶磁器出土状況・SB201EP211・212 礎石・１区東第２面遺構検出

写真図版９　１区東第２面柱穴群

写真図版 10　１区東柱穴群検出状況・SP202・203 礎石検出状況・SP202 礎石掘り方断面・SP203 礎石周辺の瓦出土状況・SP203 周辺の瓦 (96-6)・古銭 (138-7) 出土状況

写真図版 11　１区 SX200 瓦廃棄遺構南半部・SP203 礎石堀り形断面・SB268EP237・230・SB269EP238・229 柱穴

写真図版 12　SB269EP229・EP227・SB270EP220・221・222・231・241・SB268EP239・１区東 SP223・224 柱穴

写真図版 13　SP224・228・234・235・236・SB20EP205・EP208・209・SP218・219 柱穴・EP208 柱穴・かわらけ（92-22）・EP221 陶器出土状況・３区 SX120 陶器（73-13）出土状況

写真図版 14　１区東 SX225 焼土遺構及び遺物出土状況・SX217 落ち込み遺構及び遺物出土状況

写真図版 15　１区東 SX216 溝状遺構遺物出土状況・金属製品（137-4・5）出土状況・SX200 瓦廃棄遺構遺物取り上げ作業・瓦出土状況

写真図版 16　１区 SX200 瓦廃棄遺構２回目取り上げ前

写真図版 17　３区東・西第２面遺構検出状況

写真図版 18　３区 SX84 焼土遺構検出状況・断面・検出作業状況・焼土遺構内の蓆状炭化物出土状況・１区東炭化米出土状況

写真図版 19　３区東第２面遺構完掘状況・３区西 SK86 土坑断面・土坑遺物出土状況・SX79 性格不明遺構東側遺物出土状況・遺構完掘状況

写真図版 20　３区 SK81 土坑・SP91・90・96・77 柱穴・SD65・66 溝跡遺構断面及び陶磁器（82-3）出土状況・SX68 溝状遺構陶器擂鉢（82-10）出土状況・３区東２面染付碗（79-22）・３区東炭化材出土状況

写真図版 21　３区東 SX75 落ち込み遺構上層遺物出土状況・瓦・陶磁器出土状況

写真図版 22　３区西 SX120 整地層瓦出土状況・鯱瓦（133-2）出土状況

写真図版 23　第２面・３区東第２面遺構完掘状況

写真図版 24　３区西第２面柱穴群完掘状況・１区東第２面遺構完掘状況

写真図版 25　１区西２トレンチ断面・３トレンチ遺物出土状況・１トレンチ掘り下げ状況・２トレンチ遺物出土状況

写真図版 26　１区西４トレンチ断面・遺構検出・拡張状況・１トレンチ一分金（138-9）・染付碗（62-1）・２トレンチ染付碗（62-2）・３トレンチ色絵陶器碗（61-23）出土状況

写真図版 27　１区西 SX260 整地層検出状況・４トレンチ中央断面

写真図版 28　１区西４トレンチ西・東側断面・SK261 土坑遺物出土状況・SK261・267 土坑・SP263 柱穴

写真図版 29　１区東第３面遺構検出状況・１区東南壁断面

写真図版 30　１区東 SX217 落ち込み遺構中央トレンチ掘り下げ状況・１区 SP263 柱穴完掘状況・SD265 溝跡断面・SX217 落ち込み遺構中央トレンチ遺物出土状況

写真図版 31　１区東 SD245 溝跡掘り下げ状況・陶器擂鉢（71-1）出土状況・１区西４トレンチ陶磁器（63-9・64-3・92-25）出土状況・４トレンチかわらけ（92-25）出土状況・３区東第３面遺構検出状況

写真図版 32　３区東・北・南壁断面

写真図版 33　第３面調査区遠景・全景

写真図版 34　第３面３区東・西遺構掘り下げ状況

写真図版 35　３区東遺構掘り下げ状況

写真図版 36　３区東 SK115 土坑・EP103・106 柱穴・SX99・109・111 溝状遺構・３区 SX99 溝状遺構染付磁器（83-11）・瓦（114-6）出土状況

写真図版 37　３区東 SK105・112・107・115 土坑・SK112 青磁染付鉢（92-4）・SK115 土坑陶器皿（91-9）出土状況

写真図版 38　３区東 SX109・110 溝状遺構・３区東 SX100 落ち込み遺構トレンチ断面
写真図版 39　３区 SX100 落ち込み遺構・陶磁器（86-4・91-3a・87-12・10・88-7・90-2）出土状況
写真図版 40　３区 SX100 落ち込み遺構陶磁器（87-19・88-4・94-5・3・86-10・85-10）・金属製品（138-6）出土状況・SX75 落ち込み遺構遺物出土状況
写真図版 41　３区 SX100 落ち込み遺構完掘状況・SX75 落ち込み遺構断面
写真図版 42　３区 SX75 落ち込み遺構断面・鯱瓦（133-1）・陶器土瓶（83-9）出土状況・３区東第３面遺構完掘状況
写真図版 43　３区東第３面遺構完掘状況・３面西 SX120 整地層 5 トレンチ断面
写真図版 44　３区西 5・8 トレンチ・２区 6 トレンチ・１区西 7 トレンチ
写真図版 45　須恵器・青磁・珠洲・須恵器系陶器・１区西出土陶磁器 1
写真図版 46　１区西出土陶磁器 2
写真図版 47　１区西出土陶磁器 3
写真図版 48　１区西出土陶磁器 4・東出土陶磁器 1
写真図版 49　１区東出土陶磁器 2
写真図版 50　１区東出土陶磁器 3
写真図版 51　２・３区西出土陶磁器 1
写真図版 52　３区西出土陶磁器 2
写真図版 53　３区東出土陶磁器 1
写真図版 54　３区東出土陶磁器 2
写真図版 55　３区東出土陶磁器 3
写真図版 56　３区東出土陶磁器 4
写真図版 57　３区東出土陶磁器 5
写真図版 58　１・３区東出土陶磁器 6
写真図版 59　３区東出土陶磁器 7・３区西出土陶磁器 3・かわらけ 1・焼塩壺 1
写真図版 60　かわらけ 2・焼塩壺 2
写真図版 61　かわらけ 3
写真図版 62　かわらけ 4・焼塩壺 3・土師質土器・瓦質土器・土人形
写真図版 63　１区出土瓦 1
写真図版 64　１区出土瓦 2
写真図版 65　１区出土瓦 3
写真図版 66　１区出土瓦 4
写真図版 67　１区出土瓦 5
写真図版 68　１区出土瓦 6
写真図版 69　１区出土瓦 7
写真図版 70　３区出土瓦 1
写真図版 71　３区出土瓦 2
写真図版 72　３区出土瓦 3
写真図版 73　３区出土瓦 4
写真図版 74　３区出土瓦 5
写真図版 75　1・2・3 区出土平瓦・鬼瓦・鯱瓦 1
写真図版 76　1・3 区出土鯱瓦 2
写真図版 77　1・3 区出土鯱瓦 3・理化学分析試料瓦
写真図版 78　石製品
写真図版 79　金属製品 1
写真図版 80　金属製品 2・木製品・ガラス

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経緯

新庄市では、令和２年３月に「第２期新庄市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、老朽化した中部保育所を最上公園内の一角に新設し、市の特色を活かした施設の整備が計画された。令和３年の基本計画では、新庄新中部保育所（仮称）は新庄ふるさと歴史センター西側の最上公園内が候補地となり建設が計画された。発掘調査の終了後、令和７年３月に建設工事が開始され、令和８年夏頃の開所が予定されている。延べ床面積は1335 ㎡、利用定員は 80 名である。

事業予定地において、令和４年８月 17・18 日にかけて、山形県観光文化スポーツ部文化財活用課の指導・協力により、新庄市による試掘調査が実施された。４本の試掘トレンチを設定し調査が実施され、その結果、近世の遺構の分布や近世陶磁器・瓦、炭化米などの遺物が多数出土することが確認された。城内絵図面などから、新庄城二の丸米蔵の可能性が高く、遺存状態も良好なことから、遺跡登録し事業実施前に発掘調査が必要と判断された。新庄市には埋蔵文化財の専門の職員がおらず、市が調査する事、民間に委託した場合の管理が難しいことから、県文化財活用課は山形県埋蔵文化財センターに調査を委託する事が望ましいとし、市へ伝えた。市ではセンターへ調査を委託する事で調整し、９月９日に調査経費の概算額の見積りを依頼、センターでは概算額を作成し県へ提出した。令和５年度に発掘調査を実施し、令和６・７年度にかけて整理・報告書刊行の計画とした。その後、調査区内の屋外ステージ撤去範囲部分について県ではその範囲を調査不要とし調査面積の減となるため、正式な面積を 1,800 ㎡とし再度概算額の提出を行った。

令和５年３月 16 日に新庄市より令和５年度の発掘調査の見積り依頼を受け、３月 20 日に回答を行った。令和５年４月１日付けで、発掘調査の契約を締結した。

2　発掘調査の経過と方法

A　発掘調査

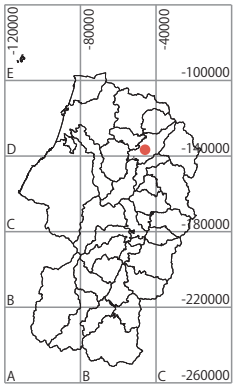
発掘調査の開始に先立ち、発掘調査区設定業務を（株）新庄開発センターへ委託し、令和５年５月 12 日に新庄市担当の立ち合いの下、調査区範囲の杭打設を実施した。発掘調査は令和５年５月 15 日より開始し機材の搬入を行った。調査区の面積は 1,800 ｍであるが、３面の遺構面がある事で調査を計画した。調査区は、北側より 1、2、3 区を設定した（第２図）。1･3 区は面積が広いため、東西に１区東・西、３区東・西に分けている。また、ドローンによる発掘調査区の空中写真撮影を実施した。

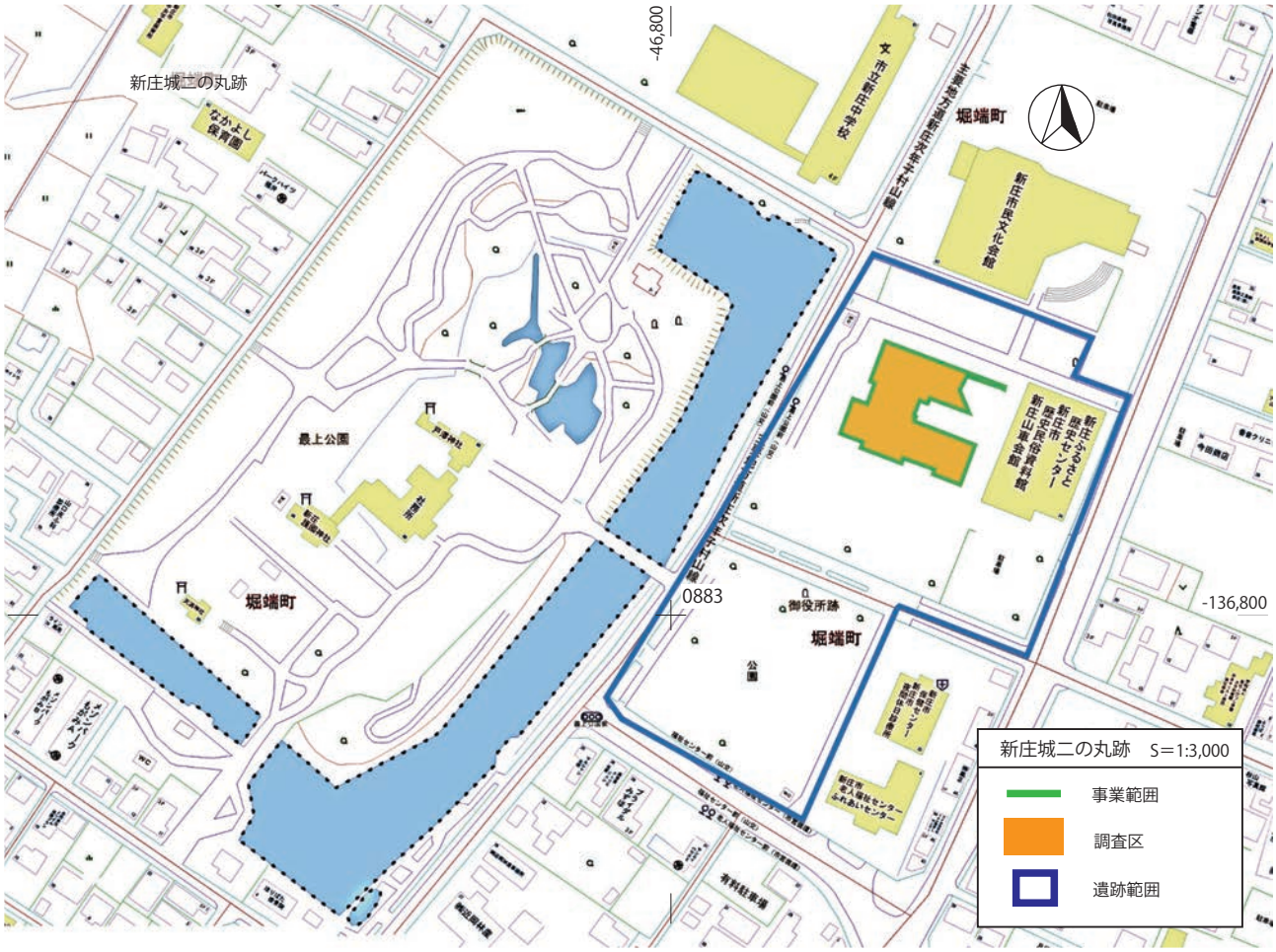
５月 16 日より重機を導入し、公園造成時の盛土を掘削し近現代の面の検出を行った。掘削は５月 26 日で終了した。並行して事務所と現場の環境整備を５月 19 日まで行い、その後調査区の壁面整形や第１面の面整理を行った。第１面は近現代の面で、新庄北高校のコンクリート基礎や校舎解体時の撹乱が随所に確認された。また学校造成や解体時の盛土・撹乱から瓦など近世の遺物も出土した。学校校舎に伴う根固石なども検出された。６月 14 日まで遺構検出を行った。５月 30 日・６月５日に委託業務の基準点測量を実施し、事業区内に３点の基準点を設置した。その後６月８日にグリッド杭の設置、遺構配置図の作成に着手した。６月 14 日に、ドローンによる第１面の遺構検出状況の写真撮影を実施した。検出された建物基礎や柱穴の半截、写真・記録を行う。

６月 19 日から６月 23 日にかけて第１面を重機により掘削し、第２面の検出を行う。掘削が終了した地点から面整理を行った。６月 27 日に第２面のグリッド杭打ちを行った。第２面の遺構配置図（1/60）の作成を行う。第２面は戊辰戦争時の遺構面と考えられ、焼土遺構、建物跡、溝跡、礎石、柱穴、土坑、瓦廃棄遺構などが検出された。焼土遺構は戊辰戦争の火災に由来するもので、覆土に炭化材や炭化米が含まれる。１区では江戸時代の建物跡の礎石や柱穴が検出された。７月 13 日から第２面の遺構精査を開始した。３区 SX75 落ち込み遺構、３区西側整地層（SX120）、１区 SX200 瓦廃棄遺構を随時

写真撮影や記録を取りながら、掘り下げと遺物の回収を行った。第２面の遺構の内容が概ね把握できたため、８月 19 日に１回目の発掘調査説明会を開催、53 名の参加があった。８月 21 日にセンターで、山形大学永井康雄教授より、調査区で確認された礎石に関して調査指導を受けた。８月 23 日に委託業務による遺構図化撮影を実施した。その後、瓦出土遺構の瓦の取り上げを進め、９月 11 日から 14 日にかけて重機によりⅣ層を掘削し、３面目の遺構検出にとりかかった。ただし、整地層で大量に遺物が出土している地点や、１区東側の柱穴群が密集している地点、１区西端の遺構が集中している地点の精査中の部分は残して次回の掘削とした。１区西側の整地層の深さを確認するため、４トレンチを設置し重機で掘削を行ったところ、瓦が密に入る整地層が深さ 80 ～ 90cm にわたる事を確認した。1 区西端の２面目を残した地点も、１～３トレンチを設置し、整地層の深さや遺物の出土量を確認した。1 区西側のトレンチにより、当初の予測よりも大幅に遺物量と作業量の増加が見込まれるため、市側に調査期間の延長が必要になる事を伝えた。９月 20 日に、残った第２面をドローンによる図化撮影を行った。９月 28・29 日に重機により、残った第２面の掘削と１区４トレンチを拡張、3 区西側に５トレンチ、２区に６トレンチを入れ、整地層の深さと瓦の出土状況を確認した。県博物館・文化財活用課と新庄市の担当と現地で確認を行い、今後の調査期間について協議し、現地調査期間を 11 月 14 日まで延長する事とした。

掘削終了後、各トレンチの断面や平面の記録を行った。３区西側の遺構検出を行い溝跡や柱穴、土坑などを検出し、精査を進めた。10 月 13 日に弘前大学の上條教授に調査区の土層断面の剥ぎ取り作成を実施していただく。10 月 19 日に、ドローンによる第３面の遺構検出状況の撮影を実施した。３区東側の SX100 落ち込み遺構、1 区 SX217 にトレンチを入れ、深さや遺物の出土状況を確認した。３区東側の遺





第１図　調査区概要図及びグリッド設定図

構群の精査を進めた。SX100 からは陶磁器や金属製品などが出土し、写真撮影や点取り・取り上げを行い、遺構断面等のオルソ図作成も並行して進めた。

10 月 23 日に、新庄中学校の 1 学年生徒 60 名と、今村翔吾氏が発掘現場の視察と体験発掘のために来跡した。11 月 1 日に、委託業務による第 3 面の遺構図化用撮影を実施した。11 月 3 日に第 2 回目の発掘調査説明会を実施、86 名の参加者があった。11 月 7 ・ 8 日に、重機により 1 区 SX260 整地層と 3 区 SX120 整地層、SX100 覆土上層を掘削し、瓦等の遺物の回収を行った。遺物回収後はただちに埋め戻したが、遺構状の土色変化を確認した部分はトレンチ状に残し 7・8 トレンチとした。トレンチは面整理と壁面の整形を行った後、平面・断面のオルソ図の作成を行った。調査が一段落し、残土のシートによる養生や現場機材の撤収を進めた。11 月 14 日に事務所の機材と遺物を搬出し調査を終了した。

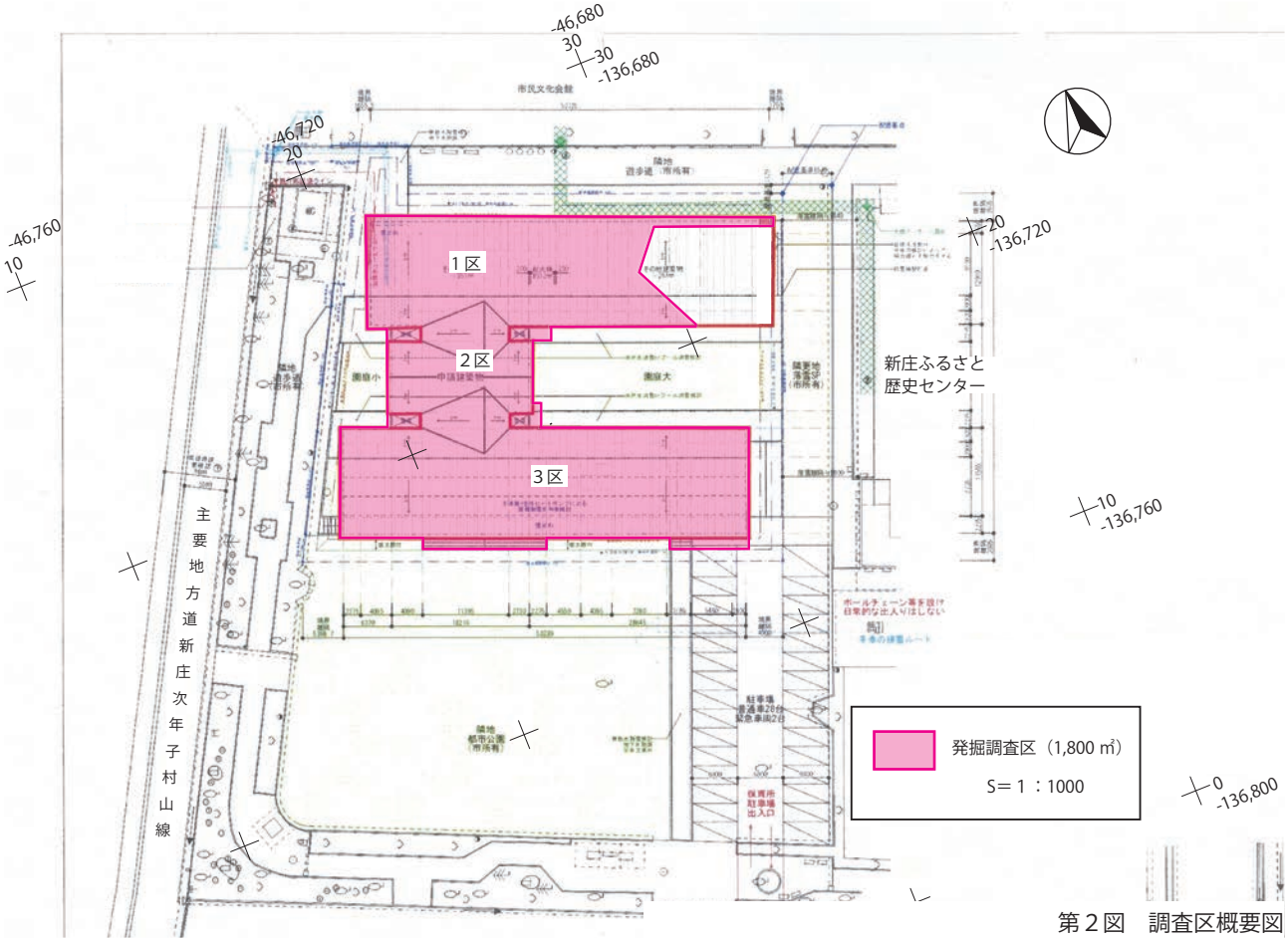
B　グリッドの設定

グリッド設定

発掘調査では、遺構・遺物の明確な位置を記録するために、国土座標関係を平面直角座標系第Ⅹ系（世界測地系）の X=-260,000、Y=-120,000 を原点として 40km 方眼の大グリッドを設定した（第 1 図右上）。原点から北及び東へ向かってⅩ軸（南北）とＹ軸（東西）にアルファベットを付し、Ⅹ軸・Ｙ軸のアルファベット 2 文字を大グリッド名とした。交点の第 1 象限がグリッド名の示す範囲である。大グリッドを 400m 方眼に分割し、中グリッドを設定した（第 1 図下）。大グリッドの交点を基準として 00 から 99 の数字を付し、Ⅹ軸とＹ軸の数字を合わせた 4 桁の数字と大グリッド名をつなげたものを中グリッド名とした。400 m方眼の中グリッドをさらに 4 m方眼に分割し、中グリッドと同じルールで設定した 4 桁の数字と中グリッド名をハイフンでつないだものを小グリッド名とした。今回の調査区（第 2 図）が中グリッド DB0883 の範囲に収まるため、遺構図版中には小グリッド名のみを記載した。

遺構・遺物の登録

検出し精査を実施した遺構に遺構番号を付した。番号は、遺構種別を問わず通し番号としている。調査区、遺構面毎の遺構番号は以下の通りである。



第 2 図　調査区概要図

1 ～ 124：3区（但し、SB20 のみ 1 区）
200 ～ 270：1 区

遺物の取り上げは遺構毎に取り上げ、特徴的な出土状況の遺物は登録番号を付し、詳細図や三次元座標を記録した。遺構外出土遺物や広範囲の遺構についてはグリッドと出土した層位毎に取り上げた。

3　整理作業の経過と方法

整理作業であるが、令和 5 年度は発掘調査終了後の令和 5 年 11 月 15 日から令和 6 年 3 月 31 日までの期間期間で実施した。作業内容は、出土遺物（瓦･陶磁器等）の洗浄、記録類の整理（図面・遺構デジタル写真の現像と整理）、発掘調査中に撮影を実施した委託業務の遺構平面図の校正を行った。理化学分析を実施するための試料（炭化材・炭化米）の写真とリスト作成を行った。

その他、11 月 21 日、資料比較検討として新庄城に瓦を供給していたと考えられる新庄市横前地区にある窯跡の現地視察と資料の採取を行った。

令和 6 年度の整理作業は、記録類整理、遺物の洗浄と注記、接合・復元作業、資料化する遺物の抽出、遺物の実測作業と拓本の作成、遺構オルソ図や現場で作成した遺構図面のトレース作業を行った。 4 月から 5 月末にかけて、未洗浄の遺物の洗浄を行った。洗浄済みの遺物について、併行して注記と接合・復元作業を進めた。遺物の注記は、遺跡名を「SN」、とし、出土遺構、グリッド、層位を記入している。遺構番号は、 1 ～ 200 番台、遺物番号は 1 ～ 100 番台を使用した。瓦が大量に出土している事もあり、注記は 10 月まで、接合・復元作業は 11 月まで時間を要した。遺構のトレース作業も随時行った。接合・復元が終了した遺物について、資料化する遺物の抽出を行った。陶磁器は、約 500 点を抽出し、瓦は約 700 点を抽出して図化や分析を行う上での基資料とした。12 月より、出土遺物の実測図および拓本作成を開始した。陶磁器、かわらけ、瓦の一部を図化した。

調査指導であるが、8 月 28 日に五十嵐貴久氏に、出土した瓦について御助言をいただいた。また、9 月 10、11 日に、佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問の大橋康二氏に肥前産を中心とする近世陶磁器について、産地や年代について鑑定をいただいた。その他、瀬戸・美濃産陶磁器については、（公財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センターの岡本直久・河合君近氏と筑波大学大学院内田昌太朗氏に、信楽焼については、（公財）滋賀県文化財保護協会の山口誠司氏に御助言いただいた。

前年度作成した遺構のオルソ図と、手取りの遺構平面・断面図について、トレース作業も併行して行った。

委託業務であるが、江戸時代の金属製品 54 点の保存処理を（公財）山梨文化財研究所に委託し実施した。理化学分析は、出土瓦の胎土分析と米蔵に由来すると考えられる炭化材の樹種同定をパリノ・サーベイ株式会社に、江戸時代の旧表土と考えらえる土壌の花粉分析と植物珪酸体分析を、文化財調査コンサルタント株式会社へ委託した。また出土瓦について、基本層や瓦廃棄遺構より出土した元のサイズを復元する事が難しい破片資料について、県と新庄市の協議を踏まえた上で約 1.6 t を業者へ委託し産業廃棄物としてキヨスミ産研鬼ヶ沢最終処分場（中山町大字土橋字鬼ヶ沢 1151 番）に廃棄処分した。

併行して記録類の整理、遺構オルソ画像の作成と遺構トレース図の作成、遺構のデジタル写真の現像を行った。

令和 7 年度は、引き続き遺物の実測図・拓本の作成を行った。遺構トレース図の作成と図面の編集を行った。

遺物実測図は、デジタルトレース作業を行い、拓本の画像と組み合わせた。陶磁器の絵付け等は、デジタルカメラによる画像データを実測図と合成した。

報告書に掲載する遺物はデジタルカメラで写真撮影を行った。遺物実測図のデータと遺構平面図のデータは Adobe InDesign による図版の編集作業を行い文章の執筆と遺物の観察表を作成した。また、弘前大学上條教授より、出土炭化米の分析について執筆いただいた（第Ⅳ章 2 節）。7 月 23 日に、出土した石製品の石材鑑定について山形県立博物館へ持参し、瀬戸大暉氏より御指導いただいた。また遺物に関連する情報を佐藤巧庸氏より御教示いただく。資料比較検討として 8 月 18 日に新庄市が所蔵する東山焼コレクションの観察を行った。令和 7 年度も、瓦や礫など約 220kg を前年度と同様に廃棄処分した。

本文の執筆は 10 月頃より開始、12 月下旬に報告書原稿を校了、令和 8 年 1 月に報告書データを入稿した。その後、報告書の校正や出土遺物と記録類についての収納準備作業を進める。 3 月に新庄市へ遺物と記録類を移管し、その後報告書の刊行と納品を行った。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

新庄城が所在する新庄市は、北緯 38 度 45 分 43 秒、東経 140 度 18 分 18 秒に位置し、面積は約 222.85 ㎢である。山形県北部にある最上地方の中央に位置し、最上郡 7 町村のすべてに隣接している当地方の中心都市である。また、ＪＲ東日本・奥羽本線や陸羽東・西線、国道 13・47 号線などが通り、平成 11 年には山形新幹線が開通するなど、交通の要地となっている。

当市は神室山などの山々に囲まれた新庄盆地の中央に位置し、山から流れ出る谷川によって段丘や広大な扇状地が形成されている。また、西山・東山・福田山・南山・上台などの丘陵が各地に存在する平坦地が少ない盆地となっている。丘陵は西側が第三紀鮮新世の地層、東側が向町カルデラ起因となっている所が多い。

新庄城二の丸跡は、新庄市街地のやや西寄り、最上川へ合流する首指野（さすの）川と中の川・戸前川の間の扇状地に立地する。標高は約 98 ～ 99 mを測る。遺跡のすぐ西側は主要地方道新庄次年子村山線が南北に通り、道路を挟んで西側は新庄城の本丸と堀が広がる。本丸は最上公園となっており、新庄城二の丸跡は公園敷地の一部となっている。

市内の気候であるが、オホーツク気団の勢力が強い年は山背という北東気流が 7 月下旬頃に流入し、冷夏となる。また、当市は霧の多い土地で、特に 9 月から 11 月は霧に包まれることが多く、周囲の山々の稜線部の冷気が盆地に流下して発生する寒気湖と呼ばれる濃い霧に覆われることもある。冬の積雪は年による変動が大きい。平均最深積雪は 145.3cm（1987 年時点）であるが、過去には 200cm 以上の積雪も観測されており、昭和 4・11 年には最深積雪 250cm を記録している。一方で最深積雪が 100cm 以下の年も記録されており、中には 50cm 前後の年もみられる。

植生では、最上地方は冷温帯に生えるコナラ・ミズナラ・ブナなどの落葉広葉樹に覆われている。当地方では最上峡など各所で天然のスギ＝ブナ混交林が分布し、その内の多くがユキツバキを下層植生として伴っている。また、雪の多い地域のため日本海要素の植物が多く分布している。

2　歴史的環境

新庄市では、山形県遺跡地図情報等において、128 カ所の遺跡が登録されている（2025 年度）。以下、市内の遺跡を中心として時代順に概観していく。

市内の旧石器時代であるが、山麓の台地沿いに市街地を囲むように、乱馬堂遺跡・山屋遺跡・横前遺跡・新堤遺跡・南野遺跡などの後期旧石器時代の遺跡が分布している。横前遺跡では、ナイフ形石器を中心とした石器群が出土した。南野遺跡では配石遺構や土坑が検出された。また、乱馬堂遺跡では 4,600 点を超える遺物が出土し、ナイフ形石器・掻器・削器・彫刻刀など豊富な石器類が出土した。これらの石器からは、新庄盆地が湖であった頃の湖畔に生活する狩猟民の生活様相がうかがわれる。

縄文時代に入ると土器が作られ、煮炊きや貯蔵が可能となった。また、弓矢の使用や竪穴建物を建て集落を作るようになるなど生活様式が大きく変化する。当市では、この時代の遺跡は台地や河川流域に多く分布している。市内の縄文時代早期・前期の遺跡では、福田山 A 遺跡、仁間磯ノ沢（にけんいそのさわ） B 遺跡などがある。早期中葉や後葉、前期初頭の土器が出土している（新庄市 1989・山形県教委 1981）。仁間磯ノ沢 B 遺跡では部分的であるが、早期末の建物跡が 2 棟検出された。福田山 A 遺跡では、前期の竪穴建物跡が 1 棟、土坑、陥穴が確認された。泉田川右岸の河岸段丘上に位置する中川原集落からは 3 カ所の遺跡が見つかっている。中川原遺跡は縄文時代中期を中心とする遺跡で土器や石器が出土し、石組炉をもつ竪穴建物跡が検出された（新庄市 1989）。中川原 C 遺跡は山形県埋蔵文化財センターによって 4 次にわたる発掘調査が実施され、縄文中期前半を中心とする集落跡の様子が明らかになった（山形埋文 2002・2007）。方形の大型建物跡や円形の建物跡が 22 棟、墓の可能性がある埋設土器群、大量の土器や石器が出土した捨て場が検出

された。土偶もまとまって出土し、舟形町の「縄文の女神」によく類似した形態である。後期の初めでは、中川原Ｃ遺跡で土坑などが、隣接する立泉川遺跡で捨て場が確認されている。指首野川と升形川の間の湿地帯に位置する宮内遺跡は、縄文時代晩期の遺跡である。亀ヶ岡式土器、石器、土偶などの遺物が出土した。令和７年に民間開発に関わる新庄市の試掘調査が行われ、遺物包含層や土坑などの遺構や縄文後期の遺物なども確認されている。

弥生時代であるが、当市の登録遺跡は、福田山Ａ遺跡と仁間磯ノ沢Ｂ遺跡のわずか２カ所のみである。両遺跡は新庄中核工業団地造成のため、昭和 55 年に山形県教育委員会によって発掘調査が行われた（山形県教委 1981）。弥生時代中期の土器片が出土した。現況では市内の弥生文化については不明な部分が多い。同じ最上地方の遺跡としては、大蔵村の上竹野遺跡、最上町のげんだい遺跡、金山町の朴山野中（ほうやまのなか）遺跡などがある。上竹野遺跡は、古くから弥生時代の遺跡として知られていたが、近年の発掘調査により弥生時代前期から中期初めの建物跡や土坑、捨て場、墓地の存在が明らかになった。墓は合口土器棺による再葬墓が中心である。しかし、稲作の痕跡は検出されておらず、縄文時代の伝統が継続する社会であった可能性がうかがわれる。

古墳時代から古代にかけての遺跡は最上地方では少なく、この時代の詳細は分かっていない。また、県内での古墳の分布は置賜地方に多く、最上地方から古墳は確認されていない。

奈良時代の和銅５（712）年９月に越後国の出羽郡をもとに出羽国が建てられる。この時は出羽・田川・飽海郡からなっており、翌月に陸奥国から最上（現在の村山・最上地方）・置賜の二郡を出羽国に編入したとされる。「続日本記」には天平９（737）年、陸奥按察使（あぜち）大野東人が多賀城から色麻柵を経て大室塞に到着し、その後北へ進み比羅保許（ひらほこ）山に陣を置いたとの記載がある。比羅保許山は最上地方であることは確かと考えられ、当地方が中央の歴史書に現れる最初とされる。天平宝字３（759）年８月 26 日条の「平戎」駅設置の記事から古代の官道が新庄を通ったことは十分に考えらえる。

奈良・平安時代の遺跡は９カ所登録されているが、詳細が分かっていない部分が多い。平安時代の宮野遺跡は新田川北岸の河岸段丘上に位置し、竪穴建物跡が１棟検出されている。煙道が付く隅丸方形である。10 世紀頃までの物と思われる須恵器・土師器や赤焼土器などが出土している（山形県教委 1981b・新庄市 1989）。市内金沢の中関屋遺跡は、（公財）山形県埋蔵文化財センターにより調査が行われ、掘立柱建物跡３棟、集落を囲む溝跡などが確認され、出土した須恵器・土師器より９世紀代の時期と考えられる（山形埋文 2020）。福田には八幡原窯跡があり、９世紀中頃から後半の時期に比定されている（山形県教委 2008）。本合海周辺には須恵器を出土する遺跡が分布する。また、出羽国内陸から出羽国府へと至る最上川沿いには、奈良時代末から平安時代初期にかけて、水駅が設置され、「水道駅路」が整備されていった。「野後（のじり）」駅推定地で官衙的施設の存在が指摘されている大石田町駒籠楯跡、「避翼（さるはね）」駅推定地とされる舟形町ホーヤ沢遺跡、「佐藝（さけ）」駅推定地の戸沢村出舟遺跡など、水駅に比定される遺跡が存在する。新庄市の八幡原１遺跡や八幡原窯跡などは、水駅や交通路との関わりがうかがわれる。

11 世紀中頃には、村山郡の中に摂関家領の寒河江・小田島荘が成立したが、新庄付近は国衙領として残っていたと考えられる。

中世に入ると最上氏は庶族を各地に配し、村山・最上地方の支配を固めた。最上地方には成沢兼義の六男・満久が清水（大蔵村）に配され、土地の名をとって清水氏を称した。清水氏は文明８（1476）年に築かれた清水城を本拠に、最上地方南部を支配した。

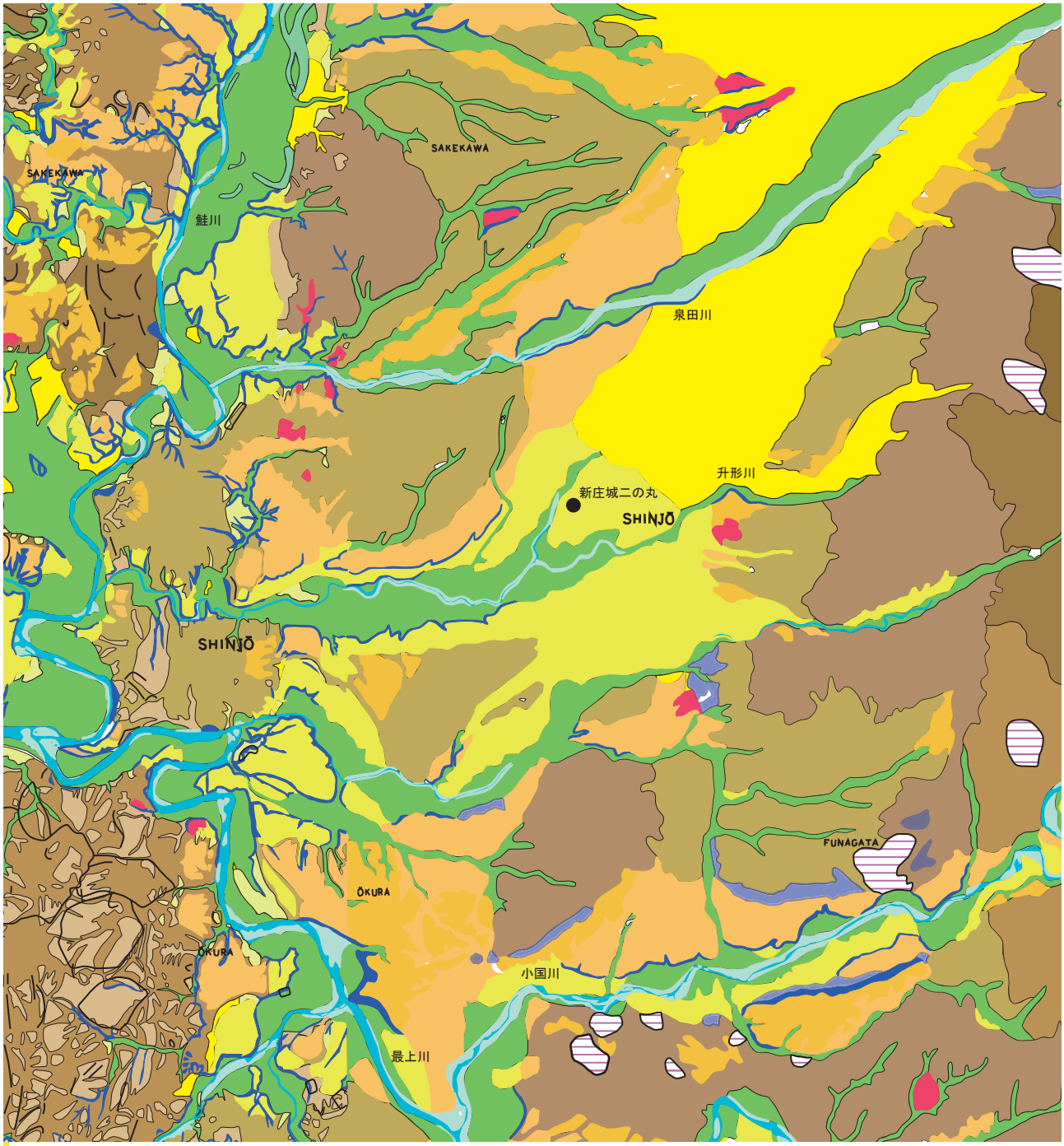
最上義光は最上地方への勢力拡大をはかり、天正８（1580）年に小国本城（最上町）を攻め、細川氏を追放した。細川氏に代わって家臣の蔵増氏が入部し、後に小国氏を称した。次に義光は天正９（1581）年に鮭延城を攻略し、城主・鮭延秀綱は義光に降った。その後、秀綱は最上家の重臣となり、現在の真室川町・金山町・鮭川村を治めた。こうして義光の最上地方支配は完了し、以降、本地方は清水氏・小国氏・鮭延氏の三勢力に分立し、それぞれの居城を中心に領内の繁栄に努めた。

関ヶ原の戦いで徳川方に付いた最上義光は、57 万石の領地を与えられ大々名となる。最上家は豊臣方についていたと噂されていた清水氏の討伐を決断する。慶長 19（1614）年、義親の庶兄である最上家親は延沢遠江守と左沢城主・日野将監に清水氏討伐を命じ、清水城を

攻撃、清水氏は滅亡した。

清水氏滅亡後、家親は日野将監に蔵入地となった遺領を管理させた。日野将監は清水城に入らず、新庄に居城（新城）を設け、城下町の整備など領地の管理にあたった。以後は清水に代わって新庄が最上地方の中心となる。しかし、家親の急死を発端とする重臣間の対立が深刻化し、元和８（1622）年に山形藩は改易を命ぜられた。

最上氏の改易後、山形藩の遺領のうち６万石が戸沢政盛に与えられ、元和８（1622）年に新庄藩が誕生した。領地は最上地方と谷地などを含む村山地方の一部であっ



※本図は『土地分類基本調査　新庄』（山形県企画調整部土地対策課　1979）、同じく『清川』の「地形分類図」（２万５千分の１）を合成し、加筆したものである。

第３図　地形分類図

表１　遺跡地名表

番号	遺跡名	種別	時代
1	新庄城二の丸跡	城館跡	中世～江戸
2	新庄城跡	城館跡	中世～江戸
3	中川原Ｂ遺跡	散布地	縄文時代 (晩期)
4	中川原遺跡	集落跡	縄文時代 (中期)
5	立泉川遺跡	散布地	縄文時代 (中期)
6	立泉川２遺跡	散布地	縄文時代
7	泉ヶ丘遺跡	集落跡	縄文時代 (中期)
8	中谷地遺跡	散布地	縄文時代 (早・中・晩期)
9	真室道遺跡	散布地	旧石器時代・縄文 (早期)
10	八幡裏遺跡	散布地	旧石器時代
11	中峯山遺跡	散布地	縄文時代 (早期)
12	下向野遺跡	散布地	縄文時代 (前期)
13	山崎Ｄ遺跡	散布地	旧石器時代 (早・前・晩期)・縄文時代
14	山崎Ｃ遺跡	散布地	旧石器時代
15	山崎Ｂ遺跡	散布地	縄文時代 (前期)
16	山崎Ａ遺跡	散布地	旧石器時代
17	下山崎Ａ遺跡	散布地	縄文時代
18	下山崎Ｂ遺跡	散布地	旧石器時代・縄文時代
19	山岸遺跡	散布地	旧石器時代
20	白山Ｅ遺跡	散布地	旧石器時代
21	白山Ｄ遺跡	散布地	旧石器時代
22	白山Ｃ遺跡	散布地	旧石器時代
23	白山Ｂ遺跡	散布地	旧石器時代・縄文時代
24	白山Ａ遺跡	散布地	旧石器時代・縄文時代
25	上野遺跡	集落跡	縄文時代 (前期)
26	下上野遺跡	集落跡	縄文時代 (中期)
27	下馬札遺跡	集落跡	縄文時代 (中期)
28	上ミ野Ａ遺跡	散布地	旧石器時代・縄文時代
29	丸森Ａ遺跡	散布地	旧石器時代 (後期)
30	丸森Ｂ遺跡	散布地	旧石器時代 (後期)
31	福田山Ａ遺跡	集落跡	縄文時代 (前・中期)・弥生時代
32	福田山Ｂ遺跡	集落跡	旧石器時代・縄文時代
33	仁間磯ノ沢Ａ遺跡	集落跡	縄文時代 (晩期)
34	海藤館跡	城館跡	中世時代
35	宮内遺跡	集落跡	縄文時代 (晩期)・平安時代
36	中川原Ｃ遺跡	集落跡	縄文時代
37	荒小屋遺跡	散布地	旧石器時代 (末葉)・縄文時代
38	稲荷前遺跡	散布地	縄文時代・鎌倉時代
39	大清水遺跡	散布地	縄文時代 (晩期)
40	梅ヶ崎山Ｂ遺跡	散布地	縄文時代
41	梅ヶ崎山Ａ遺跡	散布地	縄文時代 (中期)
42	山崎山Ｃ遺跡	散布地	縄文時代
43	山崎山Ｂ遺跡	散布地	縄文時代 (中期)
44	大福裏Ｄ遺跡	散布地	縄文時代 (中・後期)
45	大福裏Ｂ遺跡	散布地	縄文時代
46	大福裏Ｃ遺跡	散布地	縄文時代
47	山崎山Ａ遺跡	散布地	縄文時代
48	大福裏Ａ遺跡	散布地	旧石器時代・縄文時代 (前期)
49	山屋遺跡	集落跡	旧石器時代
50	乱馬堂遺跡	集落跡	旧石器時代・縄文時代・中世・近世
51	横前遺跡	集落跡	旧石器時代
52	安喰館跡	城館跡	中世時代
53	前野遺跡	散布地	縄文時代
54	新堤遺跡	集落跡	旧石器時代
55	熊ノ堂遺跡	散布地	中世
56	新町後遺跡	散布地	縄文時代 (中期)
57	駒場遺跡	散布地	縄文時代
58	鳥越館跡	城館跡	中世
59	滝ノ倉遺跡	散布地	旧石器時代・縄文時代 (早・前期)
60	上新田Ａ遺跡	散布地	縄文時代 (前期)
61	上新田Ｂ遺跡	散布地	縄文時代 (前・晩期)
62	滝ノ倉前Ａ遺跡	散布地	縄文時代
63	滝ノ倉前Ｂ遺跡	散布地	縄文時代
64	盃盛館跡	城館跡	中世
65	稲荷山遺跡	散布地	縄文時代 (前期)・平安時代
66	福宮遺跡	散布地	縄文時代・奈良時代
67	清水端遺跡	散布地	縄文時代・中世
68	八幡原１遺跡	散布地	縄文時代・奈良時代
69	八幡原２遺跡	散布地	縄文時代・奈良時代
70	高田遺跡	散布地	縄文時代・奈良時代
71	仁間磯ノ沢Ｂ遺跡	散布地	縄文時代・弥生時代
72	外久保遺跡	散布地	縄文時代 (早・中期)
73	虫の森遺跡	集落跡	縄文時代 (中世)
74	本宮後塚	石塚	中世
75	比丘尼館跡	城館跡	
76	小泉山遺跡	散布地	縄文時代
77	芝草山遺跡	散布地	縄文時代 (前・中期)
78	沢口遺跡	散布地	縄文時代 (前期)
79	小泉Ａ遺跡	散布地	縄文時代
80	小泉Ｂ遺跡	散布地	縄文時代 (中期)
81	杢蔵Ａ遺跡	散布地	縄文時代 (後期)
82	杢蔵Ｂ遺跡	散布地	縄文時代 (前・中期)
83	吉沢遺跡	散布地	縄文時代
84	仁間磯ノ沢Ｃ遺跡	散布地	縄文時代
85	中関屋遺跡	集落跡	平安時代
86	城南町遺跡	城館跡	中世・近世

た。政盛の義兄・鳥居忠政は最上川水運掌握のために大石田河岸の獲得を考え、政盛に要求して谷地２万石と大石田・尾花沢２万石を交換した。政盛は最初に真室城に入部したが手狭であったため、日野将監の居城であった新城を拡大整備し、寛永２（1625）年に新庄城（沼田城）が完成すると新庄に移住した。この頃の新庄藩の領知は、開発新田などを合わせて６万8,200石となった。移住後、新庄城は江戸時代を通じて、戸沢氏歴代の居城となった。

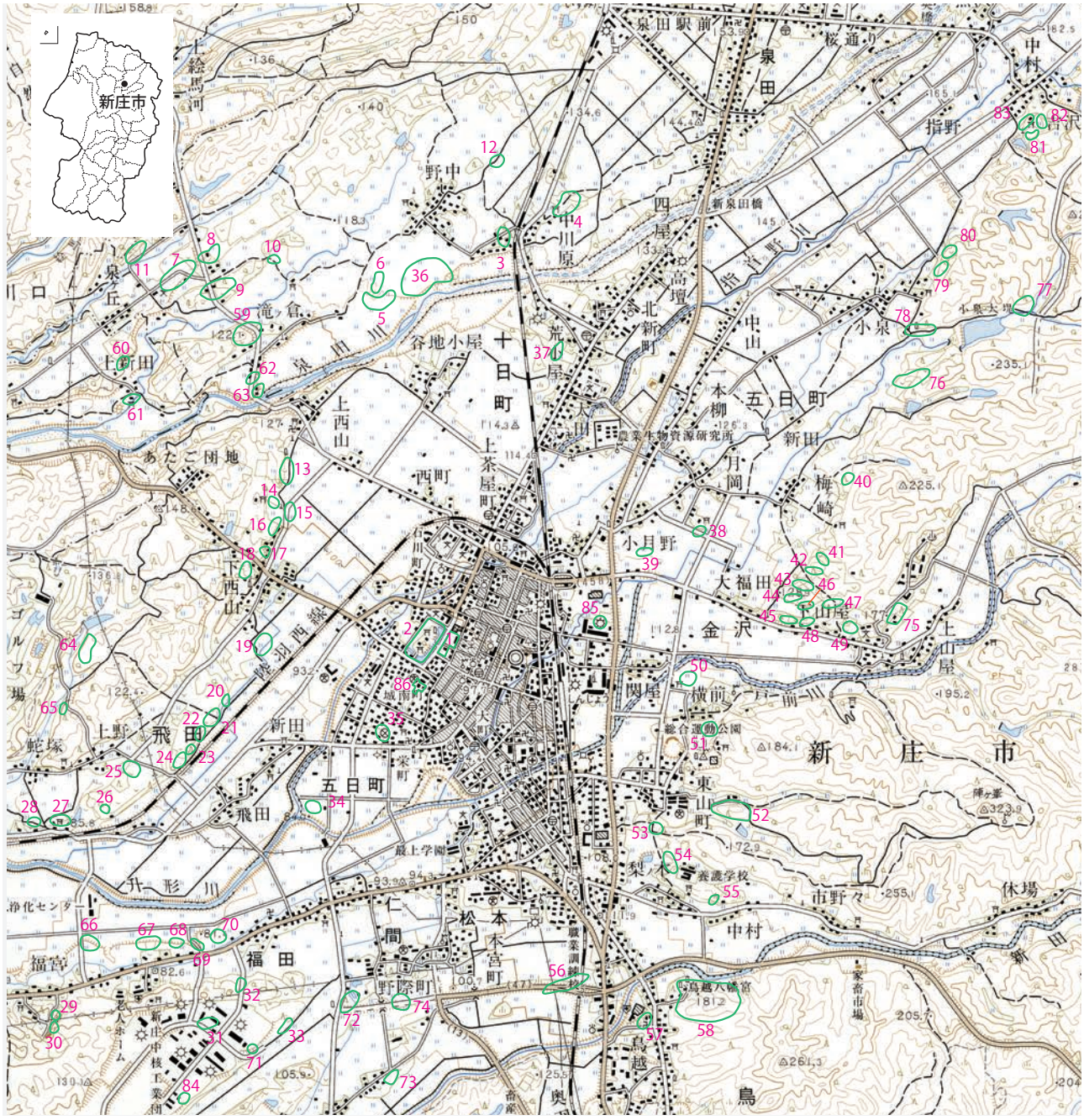
城は本丸・二の丸・三の丸を備える平城である。本丸は東西 110 m、南北 140 mの規模で、四囲に堀と土塁をめぐらし、天守櫓、隅櫓、北半分に城館を配していた。本丸を囲んで二の丸、三の丸が配され、二の丸は諸役所、米蔵、名門藩士の屋敷が置かれ、三の丸には侍屋敷が置かれた。発掘調査区地点は、米蔵が設置された場所である（第５図内の赤枠）。城址の建物は残っていないが、現在は市指定史跡に指定され最上公園となっている。また、「新庄藩主戸沢家墓所」は、国指定史跡となっている。新庄太田の瑞雲院境内（六棟）と、上西山の桂嶽寺境内（一棟）の二カ所にあり、「御霊屋（おたまや）」と呼ばれている。

藩政期の宝暦６（1756）年が発祥と伝えられる新庄

まつりは、東北地方最大の屋台まつりとして広く知られている。平成 28 年にユネスコ無形文化遺産に認定されている。

慶応３（1867）年の大政奉還により江戸幕府は倒れ、新政府が樹立し、戊辰戦争へと突入した。新政府軍に対抗するため奥羽越列藩同盟が結ばれ、新庄藩も同盟軍に加わった。しかし、新庄藩は同盟を離脱し、同盟離脱に対する庄内軍の攻撃により、慶応４（1868）年７月 14 日に新庄城は城下町もろとも焼失してしまう。藩主・戸沢正実は秋田に逃れ、明治元（1868）年 10 月１日に帰国、城下の復興が始められた。

版籍奉還、廃藩置県を経て明治４（1871）年に新庄藩は新庄県となる。その後まもなく山形県に合併され、山形県新庄出張所（同６年、新庄支庁に改称）に管轄される。また、同 22（1889）年には市制・町村制の施行により新庄町が誕生した。交通面では、初代山形県令・三島通庸による道路開削が行われ、同 36（1903）年には新庄で初となる鉄道（奥羽線）が開通し、新庄駅がつくられた。調査区地点は、廃城後に民地となっていたが、その後、明治 33 年に山形県山形中学校新庄分校がこの



※国土地理院発行５万分の地形図「新庄」を使用

第４図　遺跡位置図

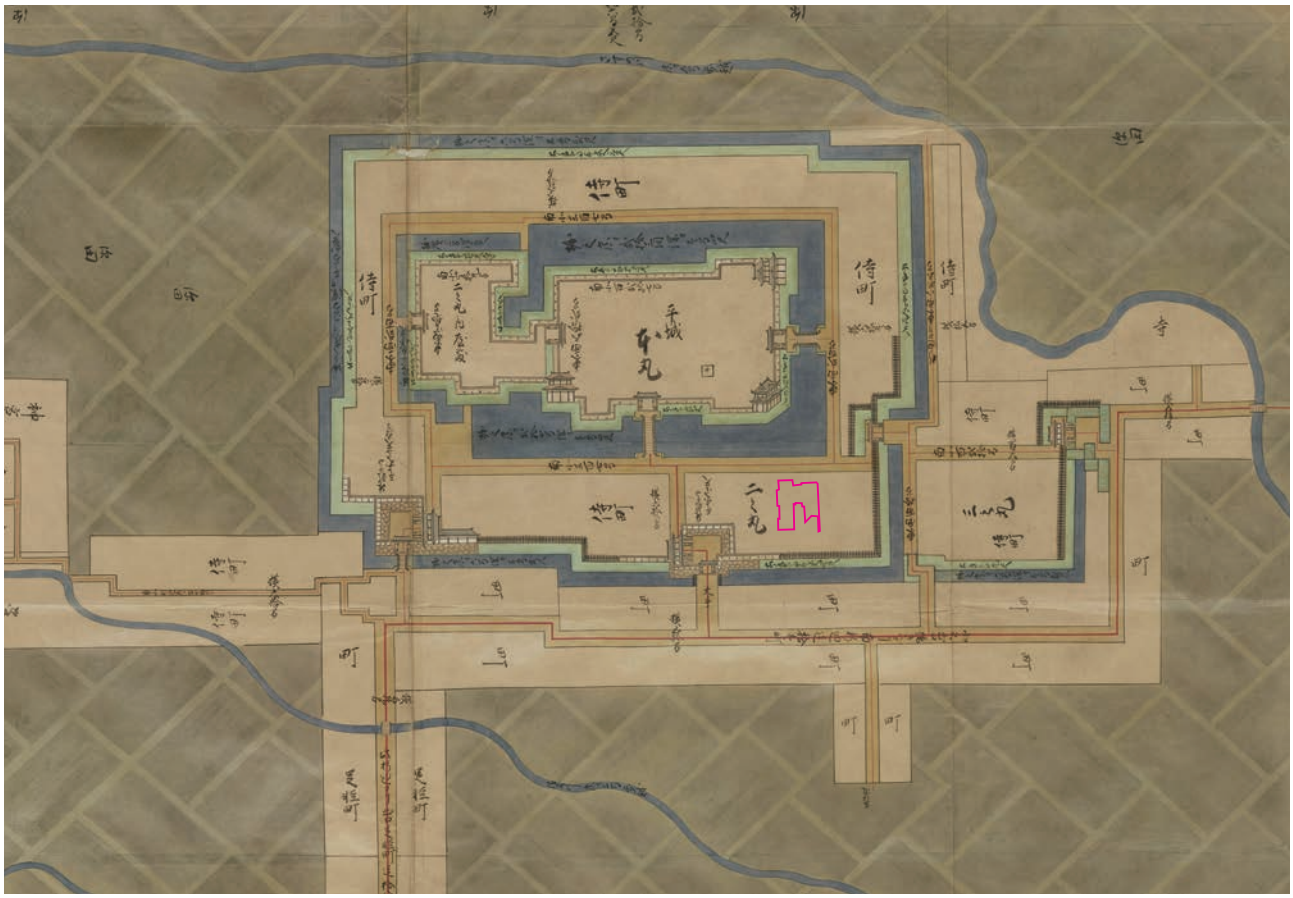
地に設立され、明治 35 年に新校舎が落成し山形県立新荘中学校と改名した（その後、昭和 27 年に山形県立新庄北高等学校に改名）。

大正３（1914）年の第一次世界大戦を契機に日本の産業が急速に発展し、国民生活が向上してきた。また、政治・社会・文化などの面で大正デモクラシーと呼ばれる新しい風潮が見られるようになった。教育の面では、自由主義教育や児童中心主義教育という新しい教育が行われるようになり、実科高等女学校が多くなった。交通の面では、大正３（1914）年に新庄・酒田間の酒田線（1917 年、陸羽西線に改称）、同６（1917）年には新庄・小牛田間の陸羽東線が全線開通した。

昭和 16（1941）年に太平洋戦争が始まり、アメリカによる空襲で新庄や真室川飛行場なども爆撃を受けた。昭和 20（1945）年８月 15 日の日本の降伏により戦争が終結し、同 24（1949）年４月１日から市制施行され新庄市が誕生する。その後、同 30（1955）年４月１日の萩野村合併、同 31（1956）年９月 30 日の八向村合併を経て現在の新庄市となる。

引用・参考文献

佐藤鎭雄　2008 『出羽国ができるころ－出羽建国期における南出羽の考古学－』 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
新庄市　1989 『新庄市史　第一巻　自然・原始・古代・中世編』
新庄市　2002 『新庄市史　別巻　自然・文化編』
山形県教育委員会　1981a 『新庄中核工業団地関連遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 43 集
山形県教育委員会　1981b 『分布調査報告書（８）』山形県埋蔵文化財調査報告書第 45 集
山形県教育委員会　2008 『最上川関連遺跡確認調査報告書（１）』山形県埋蔵文化財調査報告書第 209 集
山形県教育委員会　2009 『山形県内重要遺跡確認調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第 211 集
山形県高等学校社会科研究会最北支部地理部会　1991 『新庄・最上＝郷土資料＝』
山形県立新庄北高等学校八十周年記念誌編集委員会 1981『新庄北高等学校八十周年記念誌』山形県立新庄北高等学校
（公財）山形県埋蔵文化財センター　2002 『中川原 C 遺跡・立泉川遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 98 集
（公財）山形県埋蔵文化財センター　2007 『中川原 C 遺跡第 4 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 163 集
（公財）山形県埋蔵文化財センター　2019 『上竹野遺跡第１・２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 234 集
（公財）山形県埋蔵文化財センター　2020 『中関屋遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 236 集



第５図　新庄城絵図（国立公文書館所蔵・赤枠は調査区の推定位置）

Ⅲ　調査成果

1　遺跡の概要

A　基本層序

遺跡の基本層序は、大別でⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ層に分けて把えた。Ⅰ層は公園造成の際の現代の盛土である。昭和47年にこの場所に所在した新庄北高等学校が移転し、建物を解体・撤去後に盛られたものである。Ⅰ層の上部はにぶい黄橙色砂や明赤褐色シルトで層厚は約 10cm、下層は粗砂や礫層で厚さは約 40cm である。

Ⅱ層は、灰褐色砂混じりシルト層で、礫をやや含む。厚さは約 10 ～ 20cm、学校造成時に盛土された土壌と考えられる。明治期～近現代の遺物を含む。

Ⅲ層は、戊辰戦争の火災により生じた被災層、被災を受けた後に整地された層であり、焼土ブロックや炭化物､炭化米を含む。場所によって２～３層に分層される。厚さは 20 ～ 40cm である。

Ⅳ層は江戸時代に形成されたと思われる整地層である。調査区各地点で堆積状況は異なっている。各調査区の断面図については、第 18 ～ 22 図に示した。

遺物の取り上げの層位であるが、上記の基本層中から出土した物については、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ層の層位を記載している。また、Ⅳ層上面を２面上、Ⅳ層下の遺構面を３面上と記載している場合がある。

B　遺構と遺物の分布

遺構面は、廃城後に学校敷地となった第１面、幕末の戊辰戦争により火災となった第２面、整地層下の米蔵が建てられる以前の面と考えられる第３面があり、各面の概要について以下に記す。

第１面では、近現代の学校校舎建物跡が確認され、１区西端に SB20、３区西端に SB1、中央部に SB2、東側に SB3・4・5 がある。校舎建設や解体の際の撹乱された部分も認められる。遺物は近現代に伴うものがあるが量的に多くはない。下面の江戸時代の瓦や陶磁器も出土する。

第２面では、１区西端に整地層面が残り、SX254 焼土遺構と SB247 礎石建物跡、北壁に SB201 礎石建物跡が見られる。１区中央部北側には柱穴群が分布し SB268・269・270 が重複する。また、SX200 瓦廃棄遺構が南側に広がり大量に瓦が出土した。１区東側には、SX225 焼土遺構が広がり炭化米や炭化材が多く出土する。南側の３区では、西側に大量に瓦を含む整地層（SX120）の広がりを確認した。３区の中央部には、柱穴や土坑が分布するが建物は認識されなかった。３区東側は、SX75 とした瓦を多く出土する落ち込み遺構が検出された。東西方向に溝状に延びる遺構群が認められるが、近代以降に由来するものと考えられる。遺物は整地層を中心に、近世陶磁器が出土する。

第３面では、１区西側に SX260 の整地層の広がりを確認し、土坑や柱穴の分布が確認された。東側は、SX217 とした南北方向に延びる落ち込み状の遺構が確認される。３区西側は、SX120 整地層の広がりが認められる。東側は、SB122 礎石建物跡や数基の土坑、SX99・109 の浅い溝状の遺構が分布する。また、SX100、SX75 などの幅広の溝状の落ち込み遺構が確認され、17 世紀後半から 18 世紀代の遺物が出土する。

2　遺構と遺物

前述の通り、当遺跡の遺構面は、第 1、2、3 面が検出されている。第１面は近現代の面､第２面は幕末の面、３面は江戸時代のより古い時期の面が確認されている。遺物については、奈良・平安時代、中世、近世の遺物が出土している。以下、各面の内容を述べる。

A　第一面（近現代）の遺構と遺物

近現代の遺構として、建物跡が６棟確認された。第６～９図に第１面の遺構の全体図を示した。公園盛土（Ⅰ層）を掘り下げて除去し、Ⅱ層面で検出された。

（1）建物跡

新庄北高等学校の校舎建物の基礎と考えられるもので、円形の掘り方に円礫を入れている。校舎建物跡は、

3区SB1、2、3、4、5、1区SB20の6棟である。

SB1（第10図）

3区1817・1818・1917・1918・2017～2019グリッドで検出された。南側の柱穴群は、2間×2間の構造になると思われるが柱穴を欠く箇所もある。また、柱穴が重複する所（EP14→EP13）もあり、古い校舎建物に関係する柱穴も含まれていると推測される。掘り方は、南側にEP 7～15の9基、北側にEP16～19で構成される。北側のEP16～19は、南側の柱穴群に関連するものとして含めた。この上にコンクリートの基礎を据えたものと思われる。主軸方向は、N 21.1°-Eである。規模は南側柱穴群が東西約4.5 m、南北約4.0 mである。柱穴間の距離は、南側柱穴群が1.7～2 mを測る。EP16～19は、柱穴間距離は約1.8 mである。柱穴は円形が主で、一部は楕円形、不整円形を呈し、直径70～150cm、深さは20～30cmである。直径5～20cmの根固石が入る。南側の柱穴群を方形に囲むED6がある。範囲は、東西約8 m（検出長）、南北7.8 m、幅は約60～70cmである。建物の基礎を据える際の溝で、コンクリート基礎が上に乗っていた。遺物は、柱穴などから近世陶磁器の破片が出土しているが下層からの混入である。建物の時期は近現代と考えられる。

他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠より古い。

SB2（第11図）

3区1521・1522・1621～1623、1721～1723、1821・1822グリッドで検出された。東西に3間、南北に5間、北端に庇的に柱穴列が並ぶ（EP33～36）。西側の柱穴列は検出されなかった。掘り方柱穴はEP22～36の合計15基で構成される。主軸方向は、N -23.4°-Eである。規模は東西約4.5 m（EP29～32）、南北約7.8 mである。柱穴間の距離は、EP24～29・33が、南から0.7 m、1 m、1.7 m、1.7 m、1.7 m、1.1 m、EP29～32間が、西から1.8m、2m、1.8 mを測る。柱穴は円形が主で、一部は隅丸方形を呈し、直径55～110cm、深さは約30cmである。直径5～20cmの根固石が入る。遺物はEP22より第75図7の美濃産天目茶碗、第75図8の肥前磁器碗など近世陶磁器が出土している。下層からの混入と考えられる。建物の時期は近現代である。

他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠より古い。

SB3（第12図）

3区東1529・1629・1630・1729・1730グリッドで検出された。Ⅱ層上面で確認された。検出長は、南北約5.6 m、東西約3.1 mである。主軸方向は、N -22.5°-Eである。基礎部分には幅50～60cmの溝を布掘りし、中に凝灰岩製の石材（長さ30～80cm、幅20～30cm）を連続して据えている。

遺物の出土は無い。建物の時期は近現代と考えられる。

SB4（第11・12図）

3区　東1327～1329、1426～1429、1525～1529、1625～1627グリッドで検出された。SB5のすぐ西側に位置する。東西に7間以上、南北に4間以上の規模で、西側の柱穴列は検出されなかった。掘り方柱穴はEP37～56の合計20基で構成される。主軸方向は、N -22.5°-Wである。規模は東西約14.2 m、南北約7.2 mである。柱穴間の距離は、北辺で、EP40～47が、東から2.0 m、2.0 m、1.7 m、1.3 m、2 m、2.3 m、1.7 mである。東辺では、EP37～40間が、南から1.8m、3.5m、1.9 mを測る。間仕切り状に入る、EP51、52、53であるが、柱穴間距離は1.7～1.8 mである。EP48、49は2基のみ本体の柱穴列の東側に平行に配されている。柱穴は円形が主で、一部は隅丸方形を呈し、直径55～110cm、深さは32～45cmである。直径5～25cmの根固石が入る。

遺物はEP44より第81図15・16、EP48より第81図17の近世陶磁器と近代の陶磁器破片が、EP52より81図18の陶器窯道具が、EP46より第135図3の碁石が出土している。近世陶磁器は下層からの混入と考えられる。建物の時期は、近現代と考えられる。

他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠より古い。

SB5（第11・12図）

3区東1329・1429・1529グリッドで検出された。建物西端と思われる柱穴掘り方を一列検出した。規模は、南北に6間以上で、掘り方柱穴はEP57～63の計7基で構成される。主軸方向は、N -19.2°-Eである。規模は南北約7 m以上、東西の規模は不明である。柱穴間の距離は、EP57～59間が、南から1.2 m、1.9 m、

EP59 ～ 63 間が、0.8 ～ 0.9m を測る。柱穴掘り方は円形を呈し、直径 60 ～ 90cm、深さは 28cm（EP62）である。直径 5 ～ 30cm の根固石が入る。遺物は EP57 より第 134 図 13 の硯が、EP62 より第 81 図 19 の近世陶器擂鉢が出土している。混入と考えられる。建物の時期は近現代である。

SB20（第 13・23 図）

1 区西 2420・2421・2520・2521・2621・2622・2721・2722 グリッドで検出された。南北に 7 間以上、東西に 1 間以上の規模で、建物の北側と東側は調査区外となり本来の規模は不明である。掘り方柱穴は EP205 ～ 210、EP255 ～ 257 の 9 基、コンクリート基礎が残る EP578･579 の合計 11 基で構成される。主軸方向は、N -21.8° -E である。規模は東西約 3.8 m以上（EP256 ～ 259）、南北約 12.3 m（EP206 ～ EP257）である。柱穴間の距離は、EP205 ～ 206 が 1.5 m、EP206 ～ EP257 は、南から 1.6 m、2.0 m、1.9 m、1.7 m、1.8 m、1.5 m、1.8 mを測る。柱穴は円形を呈し、直径 80 ～ 110cm、深さは 20cm 以上（第 2 面での残存値）である。直径 5 ～ 30cm の根固石が入る。柱穴群の外側には、コンクリート基礎がめぐる。SD204 とした。コンクリート基礎を撤去した下は、溝となり円礫をつめている。

遺物は EP205 より近現代の磁器片、EP208 より第 92 図 22 のかわらけ、EP209 より第 61 図 22 の肥前染付磁器小碗が、ED204 からは第 61 図 21 の肥前染付磁器碗が出土した。近世陶磁器は下層からの混入と考えられる。建物の時期は近現代である。

他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠より古い。

（2）第 1 面の遺物

出土遺物は、1 区西地区においてⅡ層より第 61 図 9 ～ 13 の近世陶磁器、Ⅲ層より第 61 図 14 ～ 20 の近世陶磁器、第 92 図 17 かわらけ、第 94 図 15・16・第 95 図 1 の瓦（軒丸瓦・丸瓦）が出土した。

3 区西からは、Ⅱ層より第 72 図 20 ～ 27、第 73 図 1 ～ 11 の近世陶磁器、Ⅲ層より第 73 図 12・13 の近世陶磁器、第 93 図 21・26 かわらけ、第 135 図 8 の石筆が出土している。3 区東からは、Ⅱ層より第 78 図 2 ～ 6・8、11 ～ 19、第 79 図 1・2 の近世陶磁器、第 111 図 1 の瓦（桟瓦）が出土した。Ⅲ層より第 78 図 9･10 の近世陶磁器､第 111 図 2 の瓦(軒平瓦)が出土した。1 区東地区では、Ⅱ層より第 67 図 9 ～ 15・17、Ⅲ層より第 67 図 16・18・19 の近世陶磁器が出土した。

B　第二面（近世）の遺構と遺物

第二面の遺構は、Ⅲ層下面～Ⅳ層上面で検出された遺構である。かって米蔵が建てられていた面と考えられる。上から掘り込まれた近代の遺構と、戊辰戦争の火災に遭った際の江戸時代の遺構が検出された。

遺構は、建物跡が 5 棟、焼土遺構、土坑、瓦廃棄遺構、整地層、性格不明遺構、溝跡などが確認された。

（1）建物跡

建物跡は、1 区 SB201・SB247、SB268 ～ 270 の 5 棟である。

SB201（第 26 図）

1 区 2722・2723 グリッドで検出された。調査区北壁下にかかり、2 基の礎石（EP211・EP212）が検出された。Ⅲ層(戊辰戦争による火災層)下面での検出である。規模は礎石の中心間距離が東西約 4.5 mである。主軸方向は、N -20.6° -E と推測される。建物の東西の梁間の間隔になると考えられる（山形大学永井康雄教授の御教示)。南北方向の広がりであるが、建物北側は調査区外のため不明、南側は SB20 の学校校舎建物の基礎によって撹乱を受けたためか、関連する礎石は検出されなかった。EP211 の礎石は、55 × 45cm の方形で扁平な自然石。EP212 の礎石は、58 × 48cm のやや扁平な不整楕円形の自然石を用いている。両方の礎石は、火災により上面に被熱の痕が認められた。礎石下の掘り方は、断面で確認されたが明瞭ではない（第 24 図)。壁面の崩落防止のため、掘り方の深さは確認していない。

礎石の大きさや梁間の規模から、幕末に存在していた米蔵に相当するものと思われる。

SB247（第 26・27 図）

1 区 2521・2522・2621・2622 グリッドで検出された。Ⅲ層中の検出である。EP248 ～ 252 で構成される。礎石建物と考えられる。EP248・249・250 の礎石は、長軸約 55cm、短軸約 35 ～ 45cm の楕円形状の自然石を用いている。EP251、252 は、第 1 面検出時にこれに伴う礎石と思われる石が露出していたが、江戸時代に帰属するものとして認識していなかったため、第 1

面調査終了後の掘削時に除去してしまい、掘り方のみの記録となった。

規模は EP248 から EP252 の距離は約 3.6 mである。礎石間の距離は、各々約 90cm である。主軸方向は、N -25.0° -E である。建物の南北の礎石列になると考えられる。周囲を SB20 の建設時に撹乱を受けたためか、この礎石列に対応する可能性がある東や西側、南側に礎石列を確認できなかった。また、この礎石列の周囲には、強く焼けた面、SX254 焼土遺構が広がる。礎石は、火災により上面に被熱の痕が認められた。また礎石下の掘り方は、断面で確認されたが明瞭ではない。

江戸期に存在した建物と考えられるが、SB201 と別の建物と考えられる。

SB268（第 30 図）

1 区 2426・2427・2526・2527 グリッドで検出された。EP230、EP237、EP239 の 3 基の柱穴が検出された。EP237・230 には根固石が密に確認され、礎石建物であったと推測される。南側は校舎の撹乱により建物の広がりは不明、また東側も関連する柱穴は検出できなかった。東西 1 間以上、南北 1 間以上である。主軸方向は、N -22.8° -E である。柱穴間の距離は、EP230、237 が約 2.4 m、EP237、239 が約 2.4 mを測る。柱穴は EP230、237 が隅丸方形で、長軸 105 ～ 110cm、短軸は約 80cm、深さ約 25cm、大きさ 10 ～ 20cm の礫が入る。EP239 は、平面形は楕円形で、長軸 100cm、短軸 68cm、深さ 15cm を計る。他の柱穴よりも、礫の含有がまばらである。

出土遺物は、EP237 より第 71 図 7・9 の肥前陶器擂鉢が出土した。建物の時期は 18 世紀以降と考えられる。

他の遺構との重複関係であるが、SB269EP229 を EP230 が切っており、SB269 → SB268 の新旧関係がある。

SB269（第 30 図）

1 区 2426・2427・2527 グリッドで検出された。EP227、EP229、EP238 の 3 基の柱穴が検出された。柱穴内に根固石が認められ、礎石建物であったと考えられる。北側は調査区外、南側は校舎の撹乱により建物の広がりは不明、また東西側も関連する柱穴は検出できなかった。主軸方向は、N -31.2° -E である。規模は南北 2 間以上、東西は不明となる。EP227 ～ EP238 が約 3.7 mである。柱穴間の距離は、南から 1.8m、1.9 mである。柱穴掘り方は隅丸方形や円形で、長軸が 105 ～ 150cm、短軸は 95 ～ 100cm、深さは 20 ～ 32cm である。遺物は EP227 より第 70 図 11 肥前系陶器擂鉢、EP229 より第 70 図 10 肥前染付磁器碗、第 71 図 3 肥前系陶器皿、第 71 図 6 肥前陶器擂鉢などが出土している。

建物の時期は 18 ～ 19 世紀代と考えられる。他の遺構との重複関係であるが EP229 が SB268EP230 に切られおり、SB269 → SB268 の新旧関係がある。

SB270（第 30・31 図）

1 区 2426 ～ 2428、2526・2527 グリッドで検出された。EP220・221・222・231・241・244 の 6 基の柱穴が検出された。EP244、231、244 は、柱穴内に根固石が認められた。礎石建物であったと考えられる。規模は桁行 4 間以上、梁行は 1 間以上である。南側は校舎の撹乱により建物の広がりは不明、また東側に更に建物の規模が広がるのか不明である。主軸方向は、N -60.1° -W である。桁行の規模は、桁行 EP222 ～ EP241 間が約 6.3 m、梁行 EP241 ～ 244 間が 1.8m である。桁行の柱穴間の距離は、東から 1.2m、1.2 m、2.7 m、1.2 mである。柱穴掘り方は楕円形や円形で、長軸が 60 ～ 85cm、短軸は 45 ～ 65cm、深さは 18 ～ 60cm である。

遺物は、EP221 より第 70 図 8 肥前陶器碗、EP231 より第 61 図 25 肥前染付磁器皿、EP244 から第 71 図 10 陶器擂鉢が出土している。建物の時期は 18 世紀後半以降と推測される。

1 区東第 2 面の柱穴群（第 30 図）

1 区東第 2 面の柱穴群については、一覧を表 2 に示した。また、大型の礎石を伴う SP202、203 について、以下に内容を記述する。

SP202（第 31 図）

1 区の 2527 グリッドに位置する。Ⅲ層下面の検出で礎石は楕円形状の自然石を用い、長軸 70cm、短軸 50cm、厚さ 20cm である。礎石の外面は被熱し赤変している。掘り方が確認され、深さは約 15cm、覆土は 2 層に分かれる。部分的に小礫が入る。時期は、幕末頃と考えられる。

SP203（第 31 図）

1 区の 2326、2325 グリッドに位置する。Ⅲ層下面の検出で礎石は方形状の自然石を用い、一辺が 58cm、

厚さは 40cm である。礎石の外面は被熱し赤変している。掘り方が確認され、深さは約 30cm、覆土は 4 層に分かれる。覆土上層中には瓦の小破片が入る。他の遺構との新旧関係であるが、SX200 瓦廃棄遺構と重複しており、平面では SX200 を掘り込んでいるように見えるが、断面では判然としない。時期は、幕末頃と考えられる。

3 区西の柱穴群（第 35・36 図）

3 区西の 1621・1622・1721・1722・1822 グリッドにかけて、浅いピット群の分布が認められた。SP90、91、96、97 などである。建物を構成するまでには至らなかった。各ピットの観察については、表 2 に示した。

（2）焼土遺構

SX254（第 26・27 図）

1 区の 2521・2522・2621・2622 グリッドに位置する。火災により強く焼けた焼土の広がりで、平面形は不整形を呈し、長さは南北約 7m、東西 5.5m である。焼土の検出面からの深さは 2 トレンチで確認したところ、深い所で 15cm を測る。他遺構との重複であるが、現代の暗渠や SB20 の建物基礎（EP209・210・ED204）に切られる。また、SB247EP248 ～ 251 がこの中に含まれ、この建物が焼失した際に形成された焼土の広がりであると推定される。

出土遺物は、第 27 図に平面を示した RW16 ～ 24 炭化材がある。第 4 章で後述するが、炭化材の樹種同定を実施しており、概ねスギ材との結果が得られている。

時期は、幕末時になると考えられる。

SX225（第 34 図）

1 区の 2127 ～ 2129、2227 ～ 2229 グリッドに位置する。Ⅲ層を掘削中、下層に炭化物や炭化米が集中する広がりが確認されたため、残して手掘りによる精査を行った。火災による焼土ブロックの広がりで、溝状の落ち込み内に堆積している。平面形は南西から北東に延びる溝状を呈し、南側は調査区外に広がり、北側は現代の撹乱によって切られる。検出長は 6.9 m、幅は南端で最も長く長さは約 5.1m、北端で約 1.75m である。断面図を第 18 図に示した。図の 8、9 層が覆土に該当する。断面形は浅い皿状で、底面に不規則な凹凸が見られる。検出面からの深さは最深部で 26cm を測る。

出土遺物は、第 70 図 9･12、第 71 図 1 の近世陶磁器、第 134 図 2 の砥石、写真図版 80-4 の銭貨がある。

戊辰戦争の火災時に形成されたと考えられる。

SX84（第 38 図）

3 区の 1619・1620、1718 ～ 1720、1818 ～ 1820、1918・1919 グリッドに位置する。Ⅲ層を掘削中、下層に強く被熱した焼土面と、炭化物や炭化米が集中する広がりが確認された。落ち込み状ではなく、平面的な広がりを呈する。また、数センチの橙色の焼土プロックが多く見られた。平面形は不整形で検出された規模は、南北方向で 12 m、東西方向に 11 mに及ぶ。南側は調査区外に広がる。覆土の厚さは最深部で 14cm を測る。覆土は 4 層に分かれる。東端に、炭化した植物の薄い堆積層が認められた。サンプルを採取し、植物の種類の同定を行ったところイネ科植物という結果であった（第 4 章第 1 節）。他の遺構との重複関係であるが、SD88、SX85、SB20ED6 などの近現代の遺構や、公園造成時の暗渠に切られる。

時期は戊辰戦争時になると考えられる。

（3）瓦廃棄遺構

SX215（第 28 図）

1 区の 2721 グリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、長さは南北約 1.8m、東西 1.6m である。北と西側の広がりは調査区外となり不明である。検出面からの深さは概ね 10cm 程度である。黒褐色の覆土で炭化物などを含む。他遺構との重複であるが、SB20 の建物基礎に切られる。

出土遺物は、第 61 図 23 関西系色絵陶器碗、RP11 第 61 図 24 肥前青磁瓶、第 95 図 2 ～第 96 図 3 の瓦 (軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦) がある。

時期は、整地層の上層であり幕末時の廃棄層になると考えられる。

SX200（第 29 図）

1 区の 2024・2124・2224・2225・2325・2425・2426 グリッドに位置する。Ⅱ層を除去したところ、その下面に検出された。大量の瓦がまとめて廃棄された様相を示す。上面は、炭化物が多い土壌の薄い堆積が認められた。平面形であるが、東西に細長く広がる形状で、西側は校舎基礎によって切られ、南西側も校舎解体時の撹乱で切られている。南側は調査区外となる。東側の本来の広がりは不明である。その他、公園造成時の暗渠や近現代の溝状の遺構である SD253 に切られる。

検出された規模は、南北に 15.7 m、東西の最大幅は 3.3 mである。検出面からの深さは深い箇所で 20cm を測る。

瓦の廃棄状況であるが、完形品はほとんどなく、破損した破片が密に廃棄されていた。破片は小破片のものも多い。その他、陶磁器や金属製品なども一緒に出土しているが、時期的なまとまりに欠ける。

出土遺物は、第 68 図 7 ～ 16 の近世陶磁器、第 92 図 20 かわらけ、第 92 図 21 焼塩壺、第 96 図 4 ～第 101 図 4 の瓦（軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・谷丸瓦・谷唐草瓦・輪違いほか）、第 135 図 1 の碁石、第 137 図 7 不明金属製品、第 138 図 7 銭貨が出土した。

戊辰戦争後にまとめてこの場所に廃棄されたものと推測される。

（4）土坑

SK81（第 36 図）

３区の 1622・1722 グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長さ 98cm、幅 60cm である。断面形は浅い皿状で、検出面からの深さは最深部で 8cm を測る。覆土は 1 層のみである。

出土遺物は、第 134 図 5 砥石が出土した。

時期は、覆土にⅢ層由来の焼土や炭化米を含む事から、戊辰戦争後から近代に掘られた遺構の可能性がある。

SK86（第 36 図）

３区の 1722 グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長さ 142cm、幅 64cm である。断面形は皿状で西側が深い。検出面からの深さは最深部で 22cm を測る。覆土は 1 層のみである。時期は、覆土にⅢ層由来の焼土や炭化米を含む事から、戊辰戦争後から近代に掘られた遺構の可能性がある。

（5）溝跡・溝状遺構

３区東側に、東西方向に延びる溝跡 SD65・66、溝状遺構 SX67、SX68、73 が検出された。覆土中にⅢ層由来の堆積物が含まれたり、近代以降の遺物が含まれるため、明治以降に宅地となった時期に形成された遺構と考えられる。

SX216（第 33・34 図）

１区の 2326 グリッドに位置する。整地層・地山面での検出である。第２面より下の第３面の遺構面に帰属する可能性がある。平面形は東西に延びる溝状を呈し、西側は校舎基礎の撹乱によって切られる。検出長は 2.5 m、最大幅は西端で最も広く 1.7m である。断面形は台形状で、検出面からの深さは 40cm を測る。覆土は 1 層である。

出土遺物は第 69 図２～５、写真図版 48-1a・1b の近世陶磁器がある。金属製品として、第 137 図 4 の金具？、第 137 図 5 の容器がある。陶磁器の時期は、17 世紀後半である。

SD66（第 37 図）

３区の中央部から東端にかけて検出された。東端は調査区外となる。検出長は 36.5 m、幅 10 ～ 80cm、深さは 30cm である。東西に延びるが、1428 グリッドで北に曲がり、1529 グリッドでまた東へ向きを変える。覆土は２層に分かれる。他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠、SD64 に切られる。また、SX75 を切っている。遺物は、第 61 図 2、第 82 図 4 ～ 7 の近世陶磁器が出土した。遺構の時期は、調査区東壁でⅢ層併行の層を掘り込んでおり、近代以降の時期と考えられる。

SD65（第 37 図）

３区の 1327・1328・1425 ～ 1428・1525・1526 グリッドで検出された。検出長は 12.5 m、幅 35 ～ 55cm、深さは 12cm である。東西に延びる。覆土は 1 層で、断面は台形状である。他の遺構との重複関係であるが、SD64 暗渠に切られる。遺物は、第 81 図 20 ～ 22、第 82 図 1 ～ 3 が出土した。近代の陶磁器破片も含まれる。遺構の時期は、学校校舎建物と平行する位置にあり、近現代の時期と考えられる。

SX68（第 37 図）

３区の 1528・1626 ～ 1628・1725・1726 グリッドで検出された。検出長は 14.5 m、幅 50 ～ 150cm、深さは 10cm である。東西に延びる。覆土には焼土粒や炭化物を含まれる。他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠や、西側は校舎解体時の撹乱に切られる。遺物は、第 82 図 10 近世陶磁器が出土した。遺構の時期は近代以降と考えられる。

SX67（第 21・37 図）

３区の 1428・1429 グリッドで検出された。検出長は 4.8 m、幅 100cm、深さは 70cm である。東西に延びる。遺物は、第 82 図 8・9 の近世陶磁器、第 134 図 4 の砥石が出土した。Ⅱ層を掘り込んでおり、遺構の時期は近現代と考えられる。

SX73（第 37 図）

3 区の 1526・1527・1626・1627 グリッドで検出された。検出長は 6.4 m、幅 80 ～ 140cm、深さは 8cm である。東西に延びる。他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠や、西側は校舎解体時の撹乱に切られる。遺構の時期は近代以降と考えられる。

SX79（第 35 図）

3 区の 1723 グリッドで検出された。検出長は 2.44 m、幅 46 ～ 64cm、深さは 10cm である。東西に曲がりながら延びる。他の遺構との重複関係であるが、公園造成時の暗渠や SD66 に切られる。遺物は第 75 図 9 ～ 11 の近世陶磁器、第 93 図 10・11 かわらけ、第 112 図 1 の瓦（平瓦）が出土した。遺物の時期は 18 世紀前半と考えられる。

（6）整地層

1 区第 2 面の整地層トレンチ（第 25 図）

1 区第 2 面（Ⅳ層上面）に 1 ～ 4 の 4 箇所のトレンチを設定し、整地層中（後に SX260 とする）の遺物の出土状況の確認を行った（第 25 図）。

北端の 1 トレンチは、幅 1m、長さ 5.2 mで設定し、Ⅳ層を約 10cm 掘り下げた。西半部に瓦の出土が多い。遺物は第 62 図 1・3・5・7 の近世陶磁器、第 134 図 11 の硯？、第 135 図 10 の釘、第 138 図 9・10 の銭貨が出土した。トレンチ周囲より第 92 図 18 かわらけが出土している。

その南に 2 トレンチを設定した。SB247EP248、249、250 を半截するように（第 27 図）、幅 50cm、長さ約 3m で設定している。瓦や陶磁器が出土している。主な遺物は第 62 図 2 の近世陶磁器がある。

3 トレンチは 1 区南西側に設定した。幅 1m、長さ 5 mである。約 10cm を掘り下げた。トレンチ西端は撹乱の影響を受けるが、東側 2/3 の部分は瓦が多く出土した。主な遺物は第 62 図 6 の近世陶磁器、第 92 図 19 焼塩壺、第 102 図 4・第 104 図 4 の瓦（軒丸瓦・軒平瓦）、第 136 図 22 の鏃が出土している。

4 トレンチを 1 区西の中央、ED204 の東側に設定した。幅は 1.8 m、長さ 5.5 mである。地山面まで下げた。西側は深くなり約 90cm である。瓦を密に含む整地層が確認された。第 3 面の調査時に、4 トレンチを西側へ拡張し、整地層の深さや広がりを確認した。出土遺物については第 3 面の項目で述べる。

SX120（第 40 図）

3 区の 1817・1917 ～ 1919・2017 ～ 2019・2117 ～ 2120 グリッドに位置する。Ⅲ層中に瓦の出土が顕著な地点を確認したため、撹乱が及んでいる部分を除去し検出を行った。瓦の単純な廃棄層と当初思われたが、SX200 の場合よりも土の混入が多いため、瓦を入れた江戸時代に形成された整地層であると判断した。東西に延びるトレンチを 4 か所設定し掘り下げ、瓦の出土状況を確認したところ、特に 1918、2017 ～ 2019、2118、2119 グリッドに瓦の密な出土が確認された。整地層の広がりは、東西約 9.5 m、南北約 12 mである。西側、南側にも延びると考えられるが、調査区外となる。当初、3 区西のグリッド設定でⅢ、Ⅳ層に分層し、掘り下げて取り上げを行った順番から F ①～③としている。トレンチは約 15 ～ 20cm の深さで掘り下げた。また、大量の瓦の出土で手掘りによる掘り下げと瓦の取り上げにかなり時間を要する事から、トレンチ間の掘り下げは重機による掘削を行い、掘削中に出土した瓦等の遺物はⅣ層として一括して回収した。その後、改めて当整地層を SX120 と登録し、東西方向にトレンチを入れて地山面まで掘削し、堆積状況を確認した。調査後半については、第 3 面の遺構の項目で後述する。

他の遺構との重複関係であるが、近代以降の SD93 と、校舎の撹乱に切られる。

瓦の廃棄状況であるが、完形品はほとんどなく、破損した破片が廃棄されていた。その他、陶磁器や金属製品なども出土している。

3 区西Ⅳ層出土として取り上げた遺物について述べる。第 73 図第 14 ～ 21、第 74 図 1 ～ 17、第 75 図 1 ～ 6 近世陶磁器が、第 93 図 25 かわらけ、第 94 図 1 土師質土器焜炉、第 94 図 13 瓦質土器火鉢、瓦では、第 116 図 2 ～ 8、第 117 図 1 ～ 6・8 ～ 11、第 118 図 1 ～ 6、第 119 図 1 ～ 10、第 120 図 1・2・4 ～ 8、第 121 図 1 ～ 5、第 122 図 1 ～ 4、第 123 図 1 ～ 7、第 124 図 1 ～ 4、第 125 図 1 ～ 7、第 126 図 1 ～ 4（軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅瓦・輪違い・小型瓦 A・鯱瓦）がある。

その他、第 134 図 8・9 の砥石、第 135 図 4 の碁石、第 135 図 13・15 の釘、写真図版 80-2 の銭貨が出土した。

陶磁器の時期は 18 世紀代が多い。

（7）落ち込み遺構

SX75（第 39 図）

３区東側の、1523 ～ 1525・1623 ～ 1625・1723・1724 グリッドに位置する。Ⅳ層併行層の上面で検出された。広がりは、検出時には、北西～南東側に約 9.7 m、北東～南西側に約 5.7 mである。北側は撹乱で切られる。また、南西側にも延びると考えられるが、調査区外となる。ここでは第２面の調査時の内容を述べる。

遺物は、5cm 程度ずつ掘り下げ遺物を面的に残し、上からＦ①～③として層位を記し取り上げた。当初は、浅い落ち込みに瓦を入れて整地しているものと思われたが、掘り下げを進めると、整地層が深く堆積してる事が判明したため、遺物が少ない場所は重機による掘削を行い、第３面の遺構精査の際に再度精査を実施した。調査後半については第３面の遺構の項目で後述する。第２面精査時には約 15cm を掘り下げた。

他の遺構との重複関係であるが、SD66・87 に切られる。

瓦の廃棄状況であるが、完形品はほとんどなく、破損した破片が大量に廃棄されていた。その他、陶磁器や金属製品なども一緒に出土している。

出土遺物であるが、上層分の物として近世陶磁器の第 82 図 18、第 83 図 2、第 93 図 8 かわらけ、第 94 図 2 焼塩壺、瓦では、第 111 図 6、第 112 図 4 ～ 6、第 113 図 2・5、第 114 図 2・4・5（軒丸瓦・丸瓦・平瓦・軒平瓦・輪違い）がある。その他、第 135 図 5 石鉢・6 不明石製品、第 135 図 16・18 釘、第 136 図 20 鋲、第 137 図 1 金具が出土した。時期は 18 世紀末～ 19 世紀前半のものが見られる。

C　第三面（近世）の遺構と遺物

第三面の遺構は、１区西側ではⅣ層（SX260）を約 30cm 掘削し、整地層中で土坑やピット状の遺構を確認したため、この面で止め精査を行った。

３区は、東側については第２面のⅣ層を掘削し、その下の遺構の掘り込みが確認される面（第３面）まで掘削した。深さは約 30cm である。３区西側は、瓦を大量に含む整地層 SX120 を約 20cm 掘削し、なお整地層が堆積する事を確認したため、5 トレンチを設定し地山面まで掘り下げ深さの確認を行った。

第３面の遺構の分布であるが、３区東側に遺構の分布が密である。東端には、浅い溝状の SX99、SX109 が南北方向に延びる。それに重複して、SB122 建物跡、土坑など（SK107・SK112・SK115）が分布する。東側の遺構分布域のすぐ西側には、SX100・SK75 落ち込み遺構が広がる。

（1）建物跡

SB122（第 52・53 図）

３区 1426 ～ 1428 グリッドで検出された。EP103・124・123・106 の 4 基の柱穴が検出された。いずれも柱穴内に根固石（直径 5 ～ 20cm 大）が認められ、礎石建物であったと考えられる。EP124 は SX109 の精査中に確認したが、遺構の輪郭は不明瞭である。規模は桁行３間以上、梁行の広がりは不明である。西側は調査区外になり、また南北に関連すると思われる柱穴は検出されなかった。主軸方向は、N -81.5° -W である。桁行の規模は 9.2 m、桁行の柱穴間の距離は、西から 2.9m、2.7 m、3.6 mである。柱穴掘り方は楕円形や円形で、長軸が 80 ～ 132cm、短軸は 70 ～ 112cm、検出面からの柱穴深さ（EP106）10cm である。遺物は EP103 より染付磁器片が出土している。建物の時期は、17 世紀後半頃と推測される。

（2）土坑

SK261（第 47 図）

１区の 2622・2623 グリッドに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 118cm、短軸 96cm である。断面形は台形状で、検出面からの深さは最深部で 38cm を測る。覆土は２層に分かれる。覆土１層の上面には、瓦や礫が密に検出された。まだ覆土２層には円礫が多く含まれる。廃棄土坑と考えられる。

出土遺物は、瓦や第 61 図 26 の肥前染付磁器油壺などがある。時期は、18 世紀前半以降と考えられる。

SK267（第 48 図）

１区の 2523 グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈し、南北方向が 160cm、東西方向が 142cm である。東側が現代の撹乱により切られている。断面形は台形状で、検出面からの深さは最深部で 82cm を測る。覆土は４層に分かれる。覆土３層中はやや礫が多い。

出土遺物は、第 62 図 9 ～ 11 肥前陶磁器、第 93 図

4・5 かわらけ、第 101 図 6 の瓦（軒丸瓦）などがある。時期は 17 世紀後半以降と考えられる。

SK107（第 54 図）

3 区の 1327・1328・1427・1428 グリッドに位置する。平面形は概ね円形を呈し、長軸 232cm、短軸 216cm である。断面形は皿状で、検出面からの深さは最深部で 50cm を測る。覆土は 3 層に分かれる。他の遺構との重複であるが、SX109、SX111 より新しい。

出土遺物は、第 90 図 11・12 の近世陶磁器がある。時期は 17 世紀前半である。

SK105（第 54 図）

3 区の 1427 グリッドに位置する。平面形は概ね円形を呈し、長軸 70cm、短軸 60cm である。断面形は台形状で、検出面からの深さは最深部で 18cm を測る。覆土は 3 層に分かれる。

遺物は、第 90 図 9・10 の近世陶磁器、第 136 図 10 釘が出土した。時期は、17 世紀前半以降である。

SK112（第 54 図）

3 区の 1728 グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、直径 100cm である。断面形は皿形で、東側に段がつく。検出面からの深さは最深部で 20cm を測る。覆土は 1 層である。遺物は、第 92 図 4 の波佐見青磁染付鉢が出土した。時期は 17 世紀後半である。

SK115（第 54 図）

3 区の 1528・1529 グリッドに位置する。SX109 を精査していたところ下層より確認された。平面形は不整形を呈し、規模は東西長 320cm、南北長 300cm である。断面形は皿形であるが、底面は不規則に凹凸がある。検出面からの深さは最深部で 60cm を測る。覆土は 3 層に分かれる。SX109 と重複するが新旧関係は不明である。

遺物は、第 92 図 6・7 の近世陶磁器、第 136 図 16・18 の釘、第 137 図 11 不明金属製品が出土した。時期は 17 世紀後半である。

（3）溝跡・溝状遺構

SD265（第 49 図）

1 区の 2126・2226・2227 グリッドで検出された。検出長は 6.5 m、幅 180 ～ 230cm、深さは 52cm である。断面形は皿形である。断面図は第 18 図に示した（25 の層が覆土に該当）。南北方向に延びる。覆土は黒褐色シルトが主体である。他の遺構との重複関係であるが、SX216、SD245、SP219、SP218 に切られている。遺構の時期の詳細は不明である。

SD245（第 49 図）

1 区の 2326・2327 グリッドで検出された。検出長は 1.3 m以上、東西方向に延びる。幅 30 ～ 60cm、深さは約 10cm で、断面形は浅い皿形である。覆土は暗褐色シルトが主体である。他の遺構との重複関係であるが、SD265 が埋没した上にあるため SD265 より新しい。遺物は、第 71 図 5・11 ～ 13 の近世陶磁器が出土した。遺構の時期は 18 世紀前半以降と考えられる。

SX99（第 52・53 図）

3 区の 1326・1327・1426・1427・1526・1527 グリッドで検出された。浅い溝状を呈し、検出長は約 10 m、幅 0.80 ～ 3.4m、深さは 24cm である。南西から北東に向かって延びる。南に延びるが調査区外となる。覆土は 2 層で、黒褐色シルトが主体である。南側の覆土中に円礫が多い。整地に関係する遺構と推測される。他の遺構との重複関係であるが、SB122EP123・EP124 と重複するが新旧関係は不明である。遺物は、第 83 図 10 ～ 13・15 ～ 17、第 84 図 1 ～ 12 の近世陶磁器、第 93 図 12 かわらけ、第 114 図 6・7 の瓦（軒丸瓦・不明）が出土した。遺物は、17 世紀前半から後半、18 世紀代の時期が認められるが、17 世紀後半のものが多い。

SX109（第 52・53 図）

3 区の 1427・1428・1528・1529・1628・1629・1728・1728 グリッドで検出された。検出長は 16.5 m、幅 1.4 ～ 7.2m、深さは 30cm である。浅い溝状を呈し、南西から北東に向かって延びる。覆土は灰黄褐色シルトが主体である。北側の覆土中に礫が多い。整地に関係する遺構と推測される。他の遺構との重複関係であるが、SK107 より古い。SX115 とも重複するが新旧関係は不明である。遺物は、第 61 図 3 青磁碗、第 90 図 14 ～ 25、第 91 図 1 ～ 12 の近世陶磁器、第 136 図 11 釘、137 図 10 小柄が出土した。遺物は、17 世紀前半～後半、18 世紀代のものも認められるが、17 世紀後半のものが多い。

SX111（第 52・53 図）

3 区の 1328・1428 グリッドで検出された。浅い溝状を呈し、検出長は約 3 m、幅 1.4 ～ 2.1m、深さは

14cm である。東西に延びる。西側、東側は別な遺構に切られる。覆土は 4 層に分かれる。他の遺構との重複関係であるが、SK107、SX110 より古い。遺物は、第 92 図 3 肥前陶器小坏が出土した。遺物の時期は 16 世紀末から 17 世紀前葉である。

SX110（第 52・53 図）

3 区の 1328・1329・1428・1429・1529 グリッドで検出された。調査区東壁（第 21 図）の所見では、Ⅲ層下面から掘りこまれている。溝状を呈し、検出長は約 9.5 m、幅 3m 以上、南北に延びる。北側が浅く、南側が深さ 50cm と深くなる。東・南に延びるが調査区外となる。覆土は人為堆積で礫や、少量の炭化物や焼土が含まれる。上の面から掘りこまれている可能性もある。他の遺構との重複関係であるが、SX111 より新しい。遺物は、第 61 図 1 須恵器蓋、第 91 図 13、第 92 図 1・2 の近世陶磁器、第 136 図 15・17 釘が出土した。遺物は 17 世紀前半から後半の時期のものが出土している。

（4）整地層

SX260（第 45 図）

1 区西側の、2321・2322・2420 ～ 2422・2520 ～ 2523・2620 ～ 2623・2721 ～ 2723 グリッドに位置する。整地層の上部はⅣ層として遺物の取り上げを行っている。西側と南側は現代の撹乱によって切られ、本来の広がりは不明である。整地層の検出された広がりは、北東～南西側に約 16 m、北西～南東側に約 12 mである。

SX260 の堆積状況や深さを確認するために、第 2 面で設定していた 4 トレンチを西側に拡張した。幅約 2 m、長さ 11 mである（第 45 図）。トレンチの掘削は主に重機で行い、出土した遺物を回収した。トレンチ西端の幅 1 m×長さ 2m 分については、手掘りにより深さ 30cm まで掘り下げ、遺物の取り上げを行っている。

第 46 図に 4 トレンチの断面図を示した。断面図 3 ～ 9 層は、整地層である。整地層は水平堆積ではなく、西側に下がって堆積している。 7 層は特に瓦を多く含む。10a、10b、11 は旧表土層と考えられる。この層に関して花粉分析を行っており、詳細は第 4 章 3 節に記載した。

また、 4 トレンチや第 3 面整地層の遺構精査終了後、SX260 を地山面まで掘削し出土遺物の回収を行った。 4 トレンチに接して L 字状に拡張し 7 トレンチを設定、遺構の有無の確認を行った。

第 47 図に 7 トレンチの平面図を示した。整地層は北側は浅く、4 トレンチにかかる部分から深くなる事を確認した。また西側に楕円形状の土色変化を確認したが、遺構ではなかった。7 トレンチ内では、第 94 図 8 の焼塩壺、トレンチ周囲から第 109 図 3・第 110 図 6・7 の瓦（丸瓦・軒丸瓦・小型瓦 A）が出土した。

他の遺構との重複関係であるが、当整地層を掘り込んでいる SK261、263、267 等の遺構がある。

瓦の廃棄状況であるが、完形品はほとんどなく破損した破片が廃棄されていた。その他、陶磁器や金属製品なども一緒に出土している。遺物であるが、上層をⅣ層として取り上げを行っている。

1 区Ⅳ層出土遺物として、第 62 図 13 ～ 20、第 63 図 1 ～ 7 の近世陶磁器が、瓦では第 102 図 5 ～ 7・第 103 図 2 ～ 4・第 104 図 1 ～ 3・5、第 105 図 2（軒丸瓦・軒平瓦・平瓦赤）が出土した。金属製品では第 137 図 2 の銃の部品、第 137 図 8 の不明金属製品がある。

その下の SX260 として取り上げを行っている遺物は、第 62 図 12、第 63 図 8 ～ 24、第 64 図 1 ～ 14、第 65 図 1 ～ 12、第 66 図 1・6・9 の近世陶磁器、第 92 図 23・28、第 94 図 6・7 焼塩壺、第 92 図 24 ～ 27、第 93 図 2 かわらけ、瓦では第 105 図 4 ～ 8・第 106 図 1 ～ 6・第 107 図 1 ～ 7・第 108 図 1 ～ 3・第 109 図 4・5・7・8、第 110 図 1・3（軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦）がある。

石製品では、第 134 図 3 の砥石、第 134 図 12 の硯、金属製品では第 135 図 14 の釘、第 138 図 2 鉄砲玉が出土した。

4 トレンチ内では、第 66 図 2 ～ 5・7 ～ 9・10 ～ 14、第 67 図 1 ～ 5 の近世陶磁器、第 93 図 1 かわらけ、瓦では第 105 図 1・3、第 108 図 4 ～ 6、第 109 図 1・2・6、第 110 図 2 ～ 5、第 131 図 1・4、第 132 図 1・2（軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・輪違い・鬼瓦・鯱瓦）が出土している。

整理層が形成され初めた時期は、17 世紀末～ 18 世紀の前半頃で、18 世紀代も度々整地が行われたと考えられる。

SX120（第 57・58 図）

3 区西側の、1717 ～ 1719・1816 ～ 1820・1917 ～ 1921・2017 ～ 2021・2117 ～ 2121・2220 グリッ

ドに位置する。

整地層の上部は３区Ⅳ層としてグリッド帰属にして遺物の取り上げを行っている。瓦の包含が多く 5cm 程度掘り下げて瓦の広がりを確認した上で取り上げているが、１回目の取り上げを①、さらに下げて２回目の取り上げを②とし、①～④の番号を付している。下層は SX120 で取り上げを行った。SX120 の遺物取り上げの際、グリッドに帰属できなかった遺物については、５トレンチを境に、北側を SX120N、南側を SX120S として取り上げている。

西側と南側は調査区外となり広がりは不明である。北側は現代の撹乱によって切られる。整地層の検出された広がりは、南東～北西側に約 15.8 m、北東～南西側に約 19.2 mである。

整地層の堆積状況や深さを確認するために、５トレンチ（幅 2m ×長さ 11m）と、６トレンチ（幅２m×長さ４m）を設定し、重機で地山まで掘り下げた。また瓦の出土傾向を把握するために、５トレンチを南側へ１m 拡張し、手掘りで掘り下げを行った。第 58 図に５トレンチの断面図を示した。断面図１～４層は整地層である。深さは 60cm である。この地点の整地層は概ね水平に堆積している。F1 層と、F3 層西側には瓦が多く含まれる。北側の６トレンチであるが（第 59 図）、整地層の深さは 52cm である。東側は撹乱を受けている。当初、この整地層は５、６トレンチを掘り下げ、そのトレンチの記録と瓦の回収で終了する予定であったが、工事で掘削する深さが地山面まで達する深さであるため、残った周囲の整地層を掘削し瓦の回収を行う予定に変更となった。手掘りでは残りの調査期間では困難であるため、重機で少しずつ掘削し遺物を回収した。その際、地山面での遺構検出の有無を確認するため、８トレンチを設定（幅約 2m ×長さ 6.8m）し地山面まで掘削した（第 59 図）。断面を第 60 図に示した。西側に向かって落ち込む地形となり、整地層により埋め立てて水平な地形に造成している。１～４層は整地層で１～３層は瓦を多く含む。５・６層は旧表土と考えられる。地山は砂層であり、整地層が一部落ち込む箇所が見られたが、深さは 5cm 程度と浅い。８トレンチ底面に土色変化を確認し、SX121 とした。浅く、5cm 程度の掘り下げで地山面となる。遺物は第 77 図４の肥前色絵磁器油壺が出土した。

他の遺構との重複関係であるが、SX119 に切られる。

瓦の廃棄状況であるが、完形品は無く破損した破片が廃棄されていた。遺物であるが、近世陶磁器では、第 76 図８～ 19、第 77 図１～３・５～ 12・14・15 が出土した。このうち第 77 図９は５トレンチ拡張 F2 より出土した。瓦では、第 126 図５～８、第 127 図１～ 11、第 128 図１～７、第 129 図１～５、第 130 図１～３、第 131 図２、第 132 図４（軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・谷丸瓦・鬼瓦・鯱瓦）が出土した。金属製品では、第 136 図 13・14 釘が出土した。

遺物は、16 世紀末から 18 世紀代が出土しているが、17 世紀後半から 18 世紀前半頃の遺物が主と思われる。

（5）落ち込み遺構

SX217（第 48・49 図）

１区の 2127 ～ 2129・2227 ～ 2229 グリッドに位置する。第２面でも東端が検出されていた。SX217 の埋没した上に SX225 が堆積しており、SX225 を除去した下に東側の広がりが検出された。北側の広がりが不明瞭であるため、東西方向の幅 1m、長さ 10 mのトレンチ（SX217 中央トレンチ）を入れて深さや堆積状況の確認を行った（第 48 図）。

平面形は南西から北東に延びる幅広の溝状を呈し、南側は調査区外に広がり、北側は現代の撹乱によって切られる。検出長は 6.5 m、幅は南端で 7.7 m、北側のトレンチで幅 6.3m である。断面形は浅い皿状で、検出面からの深さは最深部で 70cm を測る。覆土は３層に分かれ（第 18 図の 20 ～ 22）、人為的に埋め戻されている様相を呈する。

出土遺物は、第 69 図６～ 22、第 70 図１～３・５～７、第 71 図８の近世陶磁器、SX217 の中央トレンチより、第 101 図５・第 102 図２・３・第 103 図１の瓦（軒丸瓦・丸瓦）がある。覆土中の遺物の時期は、16 世紀末から 18 世紀中葉頃にわたる。

SX100・75（第 50・51・55・56・58 図）

３区の 1523 ～ 1526・1623 ～ 1627・1725 ～ 1728・1826 グリッドに位置する。当初北側を SX100、南側を SX75 として登録し別々の遺構として調査を行っていたが、新旧関係が認められず、つながる事が判明したため、同一の遺構と判断し記述する。

平面形は南北に延びる幅広の溝状を呈し、北南側は調

査区外に広がり、西側は現代の撹乱によって切られる。検出長は南北 14.5 m、東西で 16.8 mである。断面形は皿状で、SX100 の東西トレンチ部分で検出面からの深さは最深部で 80cm、SX75 の東西トレンチ部分では、110cm である。覆土であるが、SX100 部分については 17 層に分かれる。遺物の帰属層については、F1、F1b、F2 に分けて取り上げを行っている。SX75 部分については、トレンチで 10 層に分層される。第 3 面で SX75 から取り上げを行った遺物については、帰属層を SX75 下層とした。

SX100 の出土遺物であるが、第 84 図 13 ～ 24、第 85 図 1 ～ 26、第 86 図 1 ～ 13、第 87 図 1 ～ 22、第 88 図 1 ～ 10、第 89 図 1 ～ 8、第 90 図 1 ～ 3・5 の近世陶磁器、第 93 図 13 ～ 19 のかわらけ、第 94 図 3・4 焼塩壺、第 94 図 5・9 土師質土器火鉢、第 115 図 3 ～ 5、第 132 図 3 の瓦（軒丸瓦・鯱瓦）、第 134 図 6・7 砥石・10 硯、第 135 図 19・20・第 136 図 1 ～ 9 の釘、第 136 図 21 不明金属製品、第 138 図 3 ～ 6 鉄砲玉が出土した。

SX75（下層）は、第 61 図 4 青磁皿、第 82 図 13 ～ 19、第 83 図 1･3 ～ 9･14 の近世陶磁器、第 93 図 6･7･9 かわらけ、第 135 図 17・21 の釘、第 137 図 9 不明金属製品が出土した。

出土遺物の時期は、SX100 は 16 世紀末～ 18 世紀代のものが認められるが、17 世紀後半のものが多い。SX75 では、16 世紀末から 19 世紀代と遺物の時期幅がある。

(6) 性格不明遺構

SX114（第 52 図）

３区の SX100 内、1626・1627 グリッドに位置する。SX100 を掘り下げたところ、底面近くでプランが確認された。平面形は概ね楕円形状を呈し、長軸 165cm、短軸 115cm である。断面形は浅い皿状で、検出面からの深さは 10cm 未満である。覆土は暗褐色シルトである。SX100 と重複するが、新旧関係は不明である。

出土遺物は、第 92 図 5 の近世陶器、第 136 図 12 の釘が出土した。時期は 17 世紀後半である。

(7) 第 3 面の遺構外出土遺物

１区第３面では、第 92 図 15･16 かわらけが出土した。

３区東のⅣ層出土として、第 79 図 12 ～ 22、第 80 図 1 ～ 11、第 81 図 1 ～ 14 の近世陶磁器、第 117 図 7 の瓦（軒丸瓦）、第 137 図 3 の金具、第 137 図 6 の煙管、写真図版 80-3 銭貨がある。

１区西第３面出土遺物では第 101 図 7 の瓦（軒丸瓦）がある。３区東第３面出土遺物として、第 79 図 3 ～ 11 の近世陶磁器、第 93 図 23・24 かわらけ、第 94 図 10 瓦質土器火鉢？がある。

D　出土遺物の概要

当遺跡では大部分が近世の遺物であるが、少量の古代や中世の遺物も出土している。以下、時代別・種類別に内容を述べる。

（1）奈良・平安時代の遺物

調査区で奈良・平安時代の明確な遺構は確認されていないが、遺物として須恵器が 1 点（第 61 図 1）出土した。

須恵器蓋の天井部で、出土地点は SX110 である。遺物は摩滅していない。新庄城築城時に当時期の遺構が存在し破壊したために混入したものか、あるいは他地点からの土砂の搬入によりもたらされた可能性もある。今後、同地点周囲の発掘調査が実施された際は注視が必要と思われる。

（2）中世の遺物

中世陶磁器

a　青磁（第 61 図）

第 61 図 2 ～ 4 が出土している。いずれも中国産の龍泉窯系青磁碗と考えられる。

第 61 図 2･3 は、線描き連弁文の青磁碗の破片である。15 世紀後半頃の時期と考えられる。第 61 図 4 は稜花皿である。口縁部内面に波状文が入る。同じく 15 世紀後半と考えられる。

b　青花・呉須赤絵（第 68 ～ 90 図）

中国産の青花は、中世に属するものと近世のものがあるが、ここの項目でまとめて述べる。また呉須赤絵皿についてもここに含めて述べる。中世の時期は少ない。第 80 図 4 は皿で見込みに玉取り獅子が描かれ、景徳鎮窯産、16 世紀前半の時期である。近世では、第 79 図 14 碗が 16 世紀末～ 17 世紀初め、皿類では、第 69 図 1 の大皿、第 68 図 15、第 69 図 5、写真図版 49-1、第 76 図 17、第 82 図 1 の皿、第 83 図 17・第 85 図 17 の芙蓉手皿、第 90 図 10 小鉢、第 90 図 12 皿があり、

景徳鎮窯かその可能性があるもので、17 世紀前半の時期である。

その他、漳州窯産として第 80 図 5 ～ 7 の大皿、第 85 図 18 の大皿があり 16 世紀末～ 17 世紀前葉の時期である。また、第 85 図 19 は呉須赤絵の大皿で 17 世紀前半の時期である。

c　珠洲・須恵器系陶器（第 61 図）

珠洲焼は、第 61 図 7 の 1 点、須恵器系陶器は第 61 図 5、6 を掲載した。甕・擂鉢・壺？が出土している。

第 61 図 5 は甕の体部破片で、外面には平行タタキ目が、内面にはアテ痕が認められる。第 61 図 9 は壺の底部である。底部は回転糸切りである。胎土の状況より、須恵器系陶器と考えられる。

第 61 図 7 は擂鉢の体部である。卸目が施される。珠洲及び須恵器系陶器の時期は、中世前期（13・14 世紀）と推測される。

(3) 近世の遺物

近世の遺物は、陶磁器・瓦・石製品・金属製品・木製品が出土している。出土した陶磁器について、生産地毎に概要を述べる。内容の詳細については表 3 に記した。

a　肥前陶磁器・肥前系陶磁器（第 61 ～ 92 図）

遺跡内から出土する近世陶磁器の大部分を占め、点数も多い。特徴的なものを中心に述べる。年代観は、大橋康二氏による肥前陶磁器の編年に沿った。

Ⅰ－ 2 期（16 世紀末～ 17 世紀初）は陶器が出土するが、点数は少ない。胎土目積みの皿（第 65 図 1、第 71 図 3）、鉄絵の大皿や小皿（第 74 図 15、第 82 図 7、第 87 図 22）、碗（第 75 図 13、第 87 図 17）などが認められる。Ⅰ期からⅡ期にかけての小坏（第 92 図 3）や皿（第 74 図 16）、壺（第 81 図 11）がある。

Ⅱ期（1610 ～ 1650 年代）では、遺物量が増える。陶器では、砂目積みの皿、溝縁皿（第 84 図 9、第 87 図 19・21、第 91 図 9）、碗（第 81 図 5）、二彩手の大皿（第 75 図 2）、三島手の大皿（第 88 図 5）、擂鉢（第 77 図 11 ～ 14、第 88 図 9、第 89 図 2・3、第 89 図 4 ～ 6）がある。

磁器は、1630 年代以降（Ⅱ－ 2 期）のものが見られる。染付碗（第 92 図 1・12）染付手塩皿（第 79 図 6、第 85 図 22）、染付小皿（第 84 図 1）、染付皿（第 63 図 22・23、第 84 図 2）、染付輪花皿（第 91 図 2）、色絵の皿（第 91 図 3）、仏飯器（第 86 図 8・9）などがある。Ⅱ期からⅢ期にかけてのものは、陶器壺・甕類（第 70 図 1）、染付碗（第 62 図 2）がある。

Ⅲ期（1650 ～ 1690 年代）は、第 3 面の遺構を中心に出土する。3 区 SX100 でこの時期の遺物がまとまって出土している。染付磁器では、碗（第 82 図 4、第 83 図 10 ～ 12、第 85 図 1 ～ 5 ほか）、小坏（第 85 図 11）、染付皿（第 86 図 5・6）、青磁皿（第 86 図 4）、青磁足付き皿（第 87 図 1）、Ⅱ～Ⅲ期のもので、染付香炉（第 87 図 2）がある。染付皿（第 63 図 24）は薄手で精巧な作りであり、柿右衛門窯の製品である。色絵碗（第 79 図 15）がある。その他の器種では、染付仏飯器（第 86 図 10）、染付瓶（第 84 図 5）、色絵油壺や瓶（第 87 図 3・4）がある。

Ⅲ期からⅣ期にかけての染付磁器では、コンニャク印判が施された染付碗（第 73 図 17・21）が見られる。

陶器では、銅緑釉が流し掛けされる玉子手の碗（第 87 図 10・11）、京焼風陶器の皿（第 65 図 5）、二彩手の大皿（第 68 図 6、第 88 図 2）、擂鉢がある（第 89 図 7、第 90 図 2）。Ⅲ～Ⅳ期にかけてのものは、壺甕類がある。

Ⅳ期（1690 ～ 1780 年代）は、SX100 でⅣ期の前半のものがみられる。また、3 区Ⅳ層や SX120、1 区Ⅳ層、SX120 からこの時期の資料の出土が多い。染付磁器では、碗（第 62 図 1、第 63 図 8 ～ 11、第 67 図 21、第 75 図 9）、筒型碗（第 63 図 18）、鉢（第 74 図 10）、深皿（第 76 図 18）、皿（第 62 図 12、第 80 図 9）、見込みに手描き五弁花が入る皿（第 85 図 26）、蛇ノ目釉剥ぎの青磁皿（第 86 図 1）。蛇ノ目釉剥ぎの波佐見系の皿（第 61 図 17、第 64 図 4）、波佐見系の皿（第 64 図 7）、二重斜格子目文の皿（第 61 図 25）、その他、氷裂菊花文の染付碗（第 62 図 14）が多く見られる。色絵磁器では碗（第 63 図 16、第 84 図 18）、蛇ノ目釉剥ぎの皿（第 64 図 3）がある。

その他の器種では、染付猪口（第 68 図 12）、染付蓋付き鉢（第 67 図 5）、染付蓋付き小鉢（第 63 図 21）、染付油壺（第 61 図 26）、染付瓶（第 61 図 19・20）、青磁瓶（第 61 図 24）、青磁火入れ（第 67 図 1）と灰落とし（第 67 図 2）などがある。

陶器では、陶胎染付の碗（第 69 図 7）、京焼風陶器の皿（第 75 図 11）、刷毛目の鉢（第 73 図 5）、擂鉢（第

65 図 8・10、第 81 図 12）、Ⅳ期からⅤ期では、擂鉢（第 65 図 9、第 71 図 6）などが見られる。

Ⅴ期（1780 ～ 1860 年代）であるが、この時期の遺物は少ない。主なものとして染付磁器では、碗（第 61 図 14）、広東碗（第 66 図 7）、小碗（第 62 図 13、第 63 図 13、第 72 図 21）、碗蓋（第 72 図 19）、手塩皿（第 67 図 9）、嬉野の志田窯産皿（第 66 図 9）などがある。

b　瀬戸・美濃産陶磁器（第 62 ～ 88 図）

16 世紀末から 17 世紀初めの大窯期のものが出土しており、大窯 4 段階が中心で美濃産である。天目茶碗（第 75 図 7、第 87 図 9、写真図版 57-2）、内禿皿（第 79 図 3、第 87 図 18）、灰釉丸皿（第 76 図 15）、灰釉折縁皿（第 64 図 11、第 78 図 1）、志野丸碗（第 73 図 13）、志野向付（写真図版 48-1）、志野菊皿（写真図版 50-1）がある。

江戸時代の連房期以後の遺物について述べる。

陶器では、型打ち皿（連房 1 ・第 83 図 5）、美濃陶器香炉（連房中期～ 18 世紀前半・第 88 図 6）、江戸後期の土瓶（第 63 図 4）、植木鉢（第 72 図 10、第 73 図 10）がある。染付磁器は幕末頃のものが認められる。染付碗（第 62 図 4 ・18、第 63 図 19、第 67 図 10、第 72 図 24・25）、碗蓋（第 67 図 12）、染付皿（幕末～明治・第 71 図 15）、湯呑碗（第 72 図 20）、蓮華（第 78 図 11）などが認められる。

c　関西系陶磁器（第 61 ～ 92 図）

出土は少ないものの確認される。京焼と称される色絵陶器の類もここに含めている。陶器では、若松文の碗（第 68 図 14）、色絵碗（第 61 図 23）、江戸後期では、小碗（第 63 図 7）、色絵小坏（18 世紀～幕末・第 66 図 11）、色絵小碗（18 世紀～ 19 世紀初頭・第 67 図 4）、小碗（第 83 図 2）、色絵碗（18 世紀・第 87 図 12）、鬢盥（写真図版 47-2）がある。

染付磁器では、小坏（19 世紀・第 61 図 15）がある。

d　信楽焼（第 69 ～ 91 図）

点数は少ないが陶器の壷類が出土している。壺では 17 世紀代のもの（第 70 図 5）、18 ～ 19 世紀代のもの（第 69 図 22、第 81 図 9）、白色釉の上に鉄釉がかけられるもの（第 91 図 8）があり、これらは茶壺であると考えられる。

e　その他の陶磁器（東北・在地）（第 61 ～ 83 図）

出土は少量であるが、福島県の大堀相馬焼と考えられる灰釉の陶器碗（第 69 図 16）、皿（第 79 図 11・第 81 図 7）がある。新庄市内で生産された新庄東山焼と考えられる陶器鉢（第 73 図 8）、甕（第 70 図 12）が認められる。甕には幕末の火災による被熱痕が残る。近代の鍋（第 62 図 5）なども出土している。なまこ釉や灰釉が施される。

その他、在地の窯の製品の可能性がある白磁角皿が認められる（第 63 図 2・第 68 図 3）。

かわらけ・土師質土器・瓦質土器・土製品（第 92 ～ 94 図）

合計 55 点を図示した。かわらけは、大型品と小型品が認められる。ロクロ成形で、底部が観察できる個体は全て回転糸切りである。

第 93 図 7・15 は大型品、他は小型品である。小型品は、底部が大きいもの（第 92 図 15 ～ 17 ほか）が多いが、やや小さいもの（第 92 図 24）、小さいもの（第 92 図 18）も少量ながら認められる。煤が付着し燈明皿に使用されたものが見られる（第 92 図 15・20・22、第 93 図 11）。また、底部中央に穿孔されたものが 2 個体確認された（第 92 図 15・第 93 図 3）。

焼塩壺は、蓋 4 点、身 6 点を図示した。蓋は円盤状で内側に浅く返りが付く（第 92 図 21・23、第 94 図 6・7）。身は少し外側に外傾する円筒状で、口縁に受けが付く（第 92 図 19、第 94 図 2 ～ 4・8）。第 92 図 28a、b は、筒状の形態や、強く被熱した状態が見られるため、焼塩壺に含まれると捉えた。第 92 図 19 は、外面に「泉湊伊織」とスタンプが入る。第 94 図 8 も、文字部分は欠けが多いが同じスタンプと考えられる。

火鉢（土師質土器）は 1 点（第 94 図 5）を図示した。口縁が内湾し、底面には脚の剥落した痕がある。第 94 図 10 は瓦質土器の火鉢と考えられる口縁部破片である。全体にミガキが施される。第 94 図 1 は土師質で焜炉と思われる。四角い隅の部分が残存する。第 93 図 27 は土師質土器の焙烙と思われる。口縁の一部が残存する。土製品として素焼きの土人形（第 94 図 14）が出土している。犬と思われる。

瓦（第 94 ～ 134 図）

瓦は、コンテナで約 300 箱の出土があり、最も多く出土した遺物で、江戸時代に帰属する、平瓦・軒平瓦、丸瓦・軒丸瓦が出土の多くを占める。その他、谷丸瓦・谷平瓦・隅瓦類・輪違いなどの道具瓦、鬼瓦や鯱瓦が出

土している。黒瓦と赤瓦が認められるが、ほとんどが無釉の黒瓦であり、赤瓦の出土はごく僅かである。赤瓦は無釉で素焼きに近いものや、よく焼き締まったもの、また釉薬（自然釉か）がかかるものがある。2面、3面の出土で、特にどちらかに赤瓦の出現頻度が多くなるような傾向は見られない。多く出土している遺構は、1区SX260整地層、SX200瓦廃棄遺構、3区SX120整地層、SX75落ち込み遺構などがある。

第139・140図に軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦の分類を示した。軒丸瓦は、瓦当面の文様により、九曜文が施されるA類と、巴文が施されるB類に分けた。A類は、瓦当の直径と、中に見られる九曜文の形状でさらに細分した。各個体の文様の分類については、第139図に記載した。また技法的な点で、瓦当部と丸瓦部の接合部の剥落部分にはカキヤブリが施される。接着部の強化と考えられる。瓦当面裏に観察されるカキヤブリは、円周に沿って平行に施すもの（第105図6）と、それに直交して頂部などに重ねて施すもの（第94図15）が見られる。地点毎の傾向であるが、SX200はA3a類で占められるが、整地層のSX120、260、Ⅳ層はA3a類が主であるもののA2、A4類も少量ながら伴う。

丸瓦は形状と寸法で分類される。玉縁部が左右対称になるものを1類、左右どちらかに寄るものを2類とした。1類は寸法により細分している（第139図参照）。長さは、30cm前後（一尺）から20cmまである。2類は、玉縁が左右のどちらかに寄り、玉縁部にヘラ書きの「×」が入る事が多い。長軸は長さ16～19cmである。

丸瓦類の内面には、布目痕や吊り紐痕（観察表に縄と記載）、またヘラ状の工具で連続して長軸方向にこそぎ落としたような痕が見られる（観察表ではヘラ、と記載した）。量的に出土している遺構では、1a類が主である。

軒平瓦であるが、瓦当面の大きさと文様の種類によって分類される。文様は均整唐草文で、唐草の太さや瓦当の大きさにより1a～d類に分類した。文様は、3類の出現頻度が最も多いが、SX200と3区Ⅳ層に顕著である。一方、1類はSX260に確認されるが他の遺構には見られない。技法的な点で、瓦当と平瓦部の接合面にはおもに斜方向のカキヤブリが施される。

平瓦は、大きさにより1a～d類に分けた（第140図参照）。1a、1b類が主で、他の類は少ない。

その他の瓦では、谷唐草瓦（第99図6、第101図1、第114図1）、谷丸瓦（第98図5、第111図3、第128図3）、隅平瓦と考えられるもの（第114図3、第125図5、）、隅切瓦と考えられるもの（第99図5）などがある。小型の瓦では、輪違いと考えられる瓦（第101図2～4他）、小型の長方形状で弧状に湾曲し、一端が短く外反するもの（第110図7、第115図2他、小型瓦Aと仮称する）がある。

鬼瓦は3点を図示した（第131図1～3）。全て黒瓦である。第131図1は、貼り付けによる九曜文が表される。裏面には、固定のための把手がある。第131図2も同様に貼り付けによる九曜文が見られるが剥落している。裏の把手部は剥落し、接合部分にカキヤブリが見られる。第131図3は把手部分と考えられ、刻書「大」が見られる。

鯱瓦は10点を図示した（第131図4、第132・133図、第134図1）。全て黒瓦である。第131図4は尾鰭の付け根の部分と考えられる。2枚の粘土板を貼り合わせた作りと思われる。第131図1は尾鰭の先端部と考えられる。第132図2～4は鰭の部分である。第132図5、第133図1～3、第134図1は胴体で、鱗が表現される。第132図5は鰭を差し込む孔があり、鱗の表現は立体的である。第133図1は、胴体の上部と下部を重ねる際の接合部分と考えられる。破片の下は粘土の輪積み部分から剥落している。鱗の表現は立体的である。第133図2は鰭を差し込む孔があり、鱗の表現はやや扁平である。第133図3も、鰭を差し込む孔が見られる。鱗は、半円形のスタンプを押して表現される。焼成はあまり良くない。第134図1も、鰭を差し込む孔があり粘土紐輪積みから剥落している。鱗の表現は立体的である。

近代の瓦は、Ⅱ層や撹乱などから出土しているが、全体の形状が判別できるものはほとんどない。第111図1は桟瓦と考えられ刻書が見られる。鉄釉が施される。

石製品（第134図2～13、第135図1～9）

石製品は21点を掲載した。内訳は、砥石が8点、硯が4点、碁石が4点、石鉢1点、石盤？が1点、石筆1点、不明2点である。大きさや石材等については、表5に記載した。第134図2～9は砥石である。2～4、8、9は泥岩製で、石材はきめ細かく薄い。仕上げ用か。5、

7 は凝灰岩製である。10、12、13 は硯である。10 は墨の付着が残り、裏面に人名と思われる刻書が認められる。13 も墨の付着が認められる。11 は両面を破損していると思われ本来の形状をとどめていないが、硯の可能性が考えられる。第 135 図 1 ～ 4 は黒色頁岩を使用した碁石である。出土地点はまちまちである。大きさはほぼ直径 24 ～ 25mm であるため、元々一つのセットであった事も推測される。第 135 図 5 は石鉢である。全体に加工痕が残る。第 135 図 6 は扁平な板状で大部分が欠損しており器種は不明である。表裏が平坦に整形される。玄武岩製と考えられる。第 135 図 7 は石盤の可能性がある。黒色の粘板岩製で厚さ 4mm と薄い。多くを欠損しているため元の形状は不明である。第 135 図 8 は石筆である。近代以降に所在した学校に由来する物と考えられる。第 135 図 9 は長方形の板状の石製品で、側面などに機械によると考えられる切断された痕跡がある。近代以降で学校校舎に由来するものと推測される。

金属製品（第 135 図 10 ～第 138 図 10）

金属製品は、主に保存処理を施した 52 点を含む合計 71 点を掲載した（第 135 図 10 ～ 21、第 136 図 1 ～ 22、第 137 図 1 ～ 11、第 138 図 1 ～ 10）、また脆弱な物については写真のみ（写真図版 80-1 ～ 4）を提示した。

釘は 31 点を掲載した（第 135 図 10 ～ 21、第 136 図 1 ～ 19）。断面四角形の和釘である。

第 136 図 20 は、鋲と考えられる。半円形の頭部で銅製である。第 136 図 22 は鏃である。

第 137 図 1 は金具と思われる。留め穴と考えられる円孔が 2 カ所ある。第 137 図 2 は銃の撃鉄部分と推測される。この時期は雷管銃（ゲベール銃）が日本各地で製造され、撃鉄部分は同様の形状であるが、他の洋銃も類似する形状であり銃の特定までは至っていない。第 137 図 3 は金具と思われ、片側が曲がり破損している。円孔が 2 カ所認められる。第 137 図 4 は把手状を呈し、接合されていたものが剥落したと推測される。第 137 図 5 は容器状となる銅製品で、口縁端分が内湾しながら外に開く。

第 137 図 6 は煙管である。金属製の基部と僅かに木質部が残存し変形している。

第 137 図 7 は環状になるが、途中で折れ曲がり破損している。

第 137 図 8・11、第 138 図 1 は板状の鉄製品の一部であるが、本来の形状は不明である。

第 137 図 9 は、円盤状を呈し鉛製品と思われる。

第 137 図 10 は小柄と考えられる。鞘は銅製である。

第 138 図 2 ～ 6 は鉄砲の鉛玉である。直径は 12 ～ 13mm、重さは 9.5 ～ 11g である。3 区 SX100 からの出土が集中している。

第 138 図 7･8 は江戸時代の寛永通宝、一文銭である。第 138 図 9 は元禄時代の一分金である。整地層からの出土である。第 138 図 10 は昭和 15 年の一銭である。

写真図版での掲載であるが、写真図版 80-2 ～ 4 は寛永通宝の一文銭である。

木製品（第 138 図）

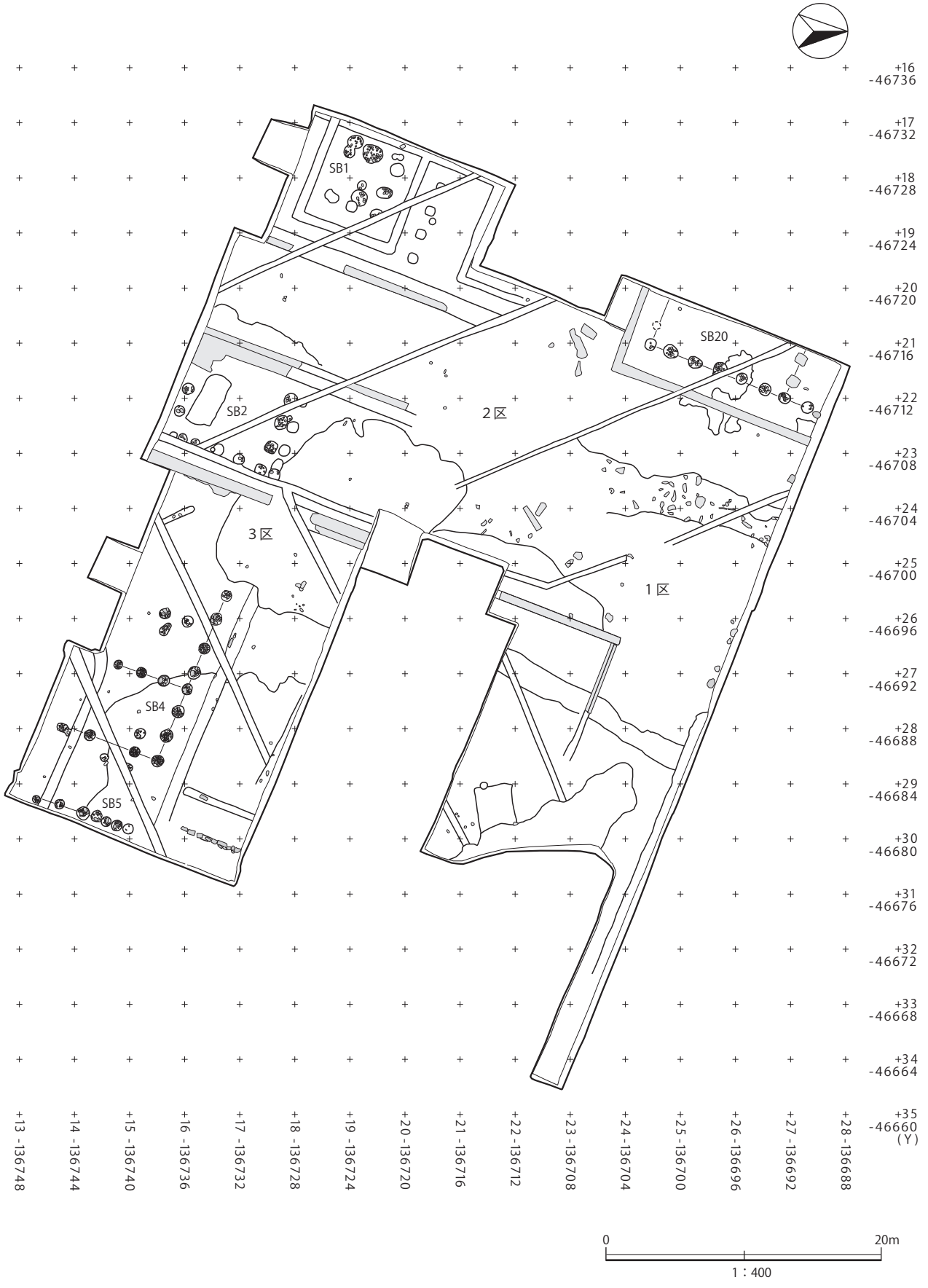
木製品は 2 点を図化した（第 138 図 11・12）。

SX260 の掘削中に出土した。11 は、柱材と推定され長さ 54cm が残存する。角材で、縦に半分に割れている。外面は全面わたり炭化している。火災によるものと思われる。12 は、杭である。先端を削り尖らせている。腐食し、本来よりも細くなっている。

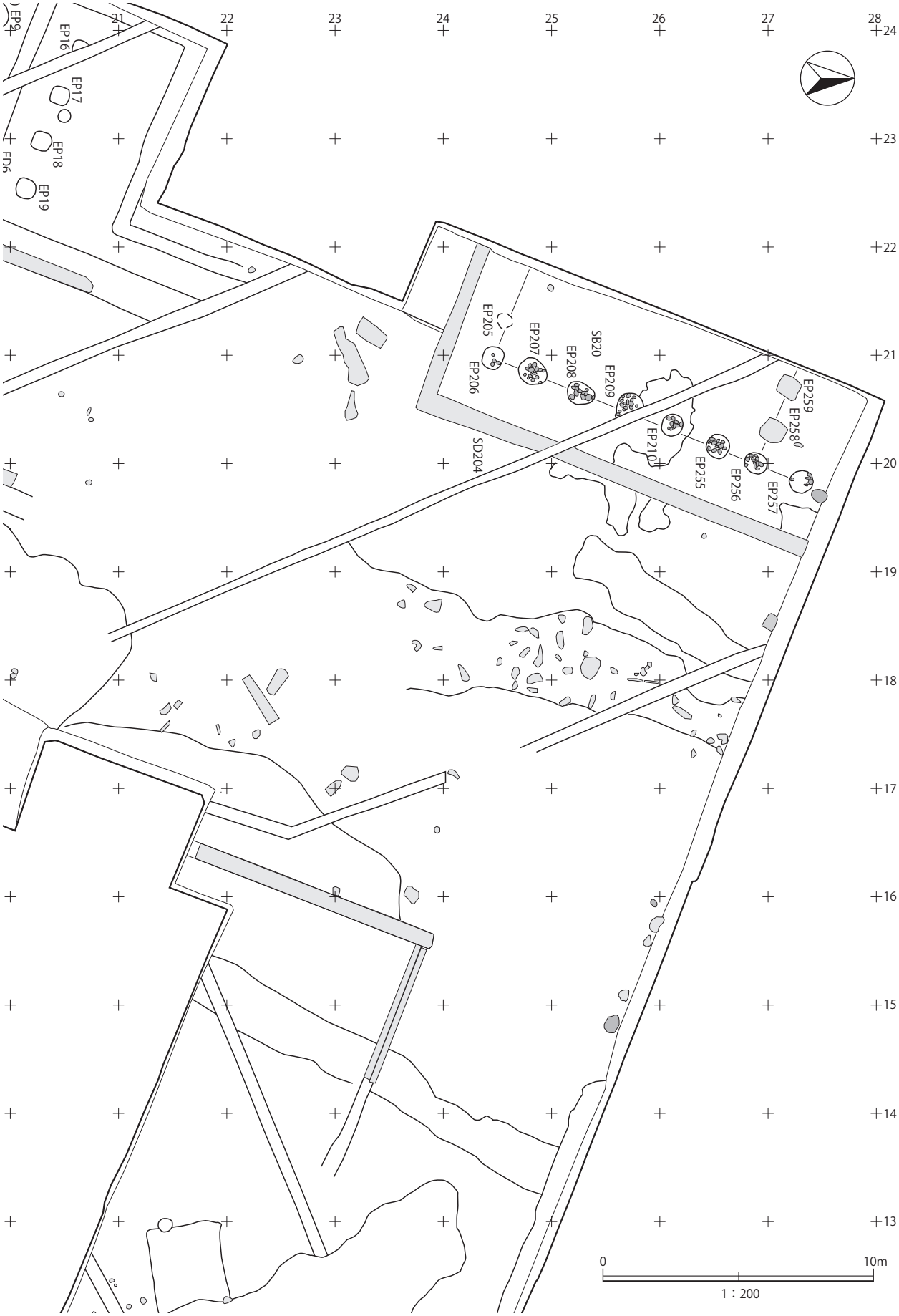
（4）近現代の遺物（第 62 ～ 81 図）

近代の遺物として、陶磁器や瓦、ガラス製品、金属製品などが出土している。

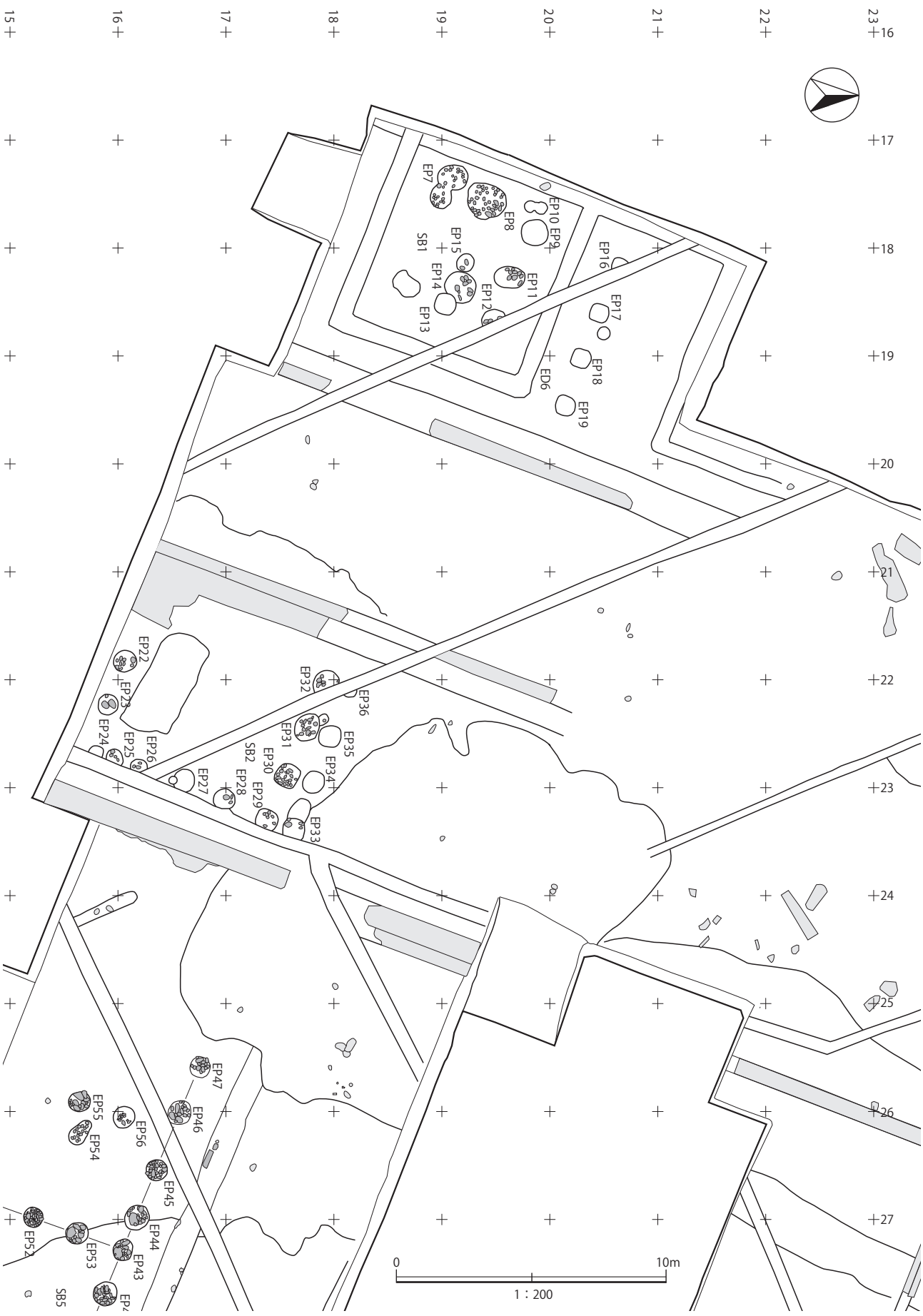
陶磁器では、瀬戸・美濃系の染付磁器碗（第 72 図 26）、吹き墨の磁器碗（写真図版 59-1）。磁器湯呑碗（第 62 図 20）、銅板転写の磁器碗（第 63 図 1・第 67 図 11）、湯呑碗（第 72 図 3）、コバルト顔料の碗蓋（第 67 図 7）、磁器碗（第 72 図 1）。銅板転写の磁器皿（明治・第 81 図 15）などが出土している。また学校で使用されていたパレットと思われる磁器（第 72 図 2）もある。その他、瓶などのガラス製品を 2 点（写真図版 80- 5・6）を掲載した。



第６図　第１面調査区全体図



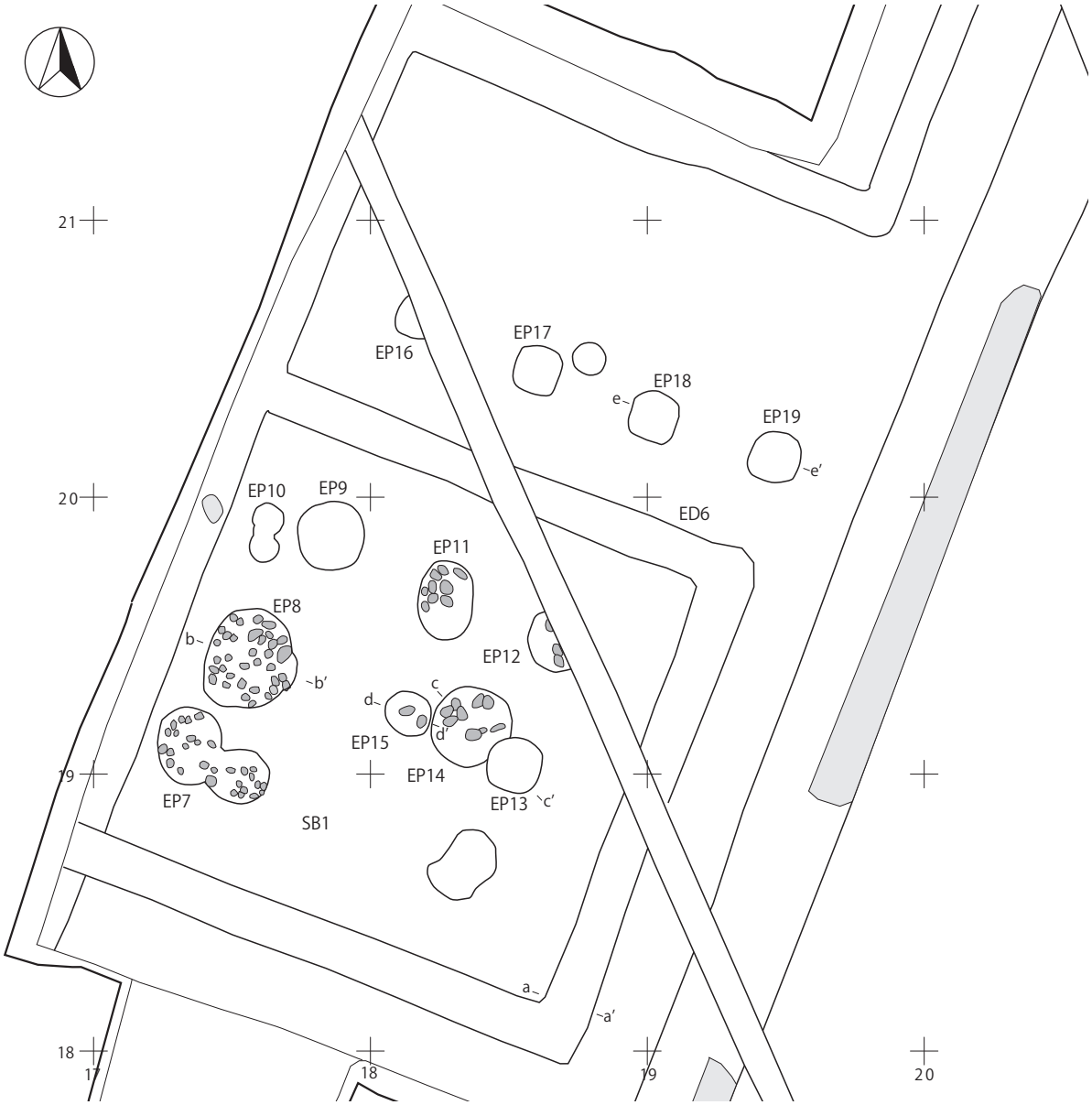
第７図　第１面遺構平面図１

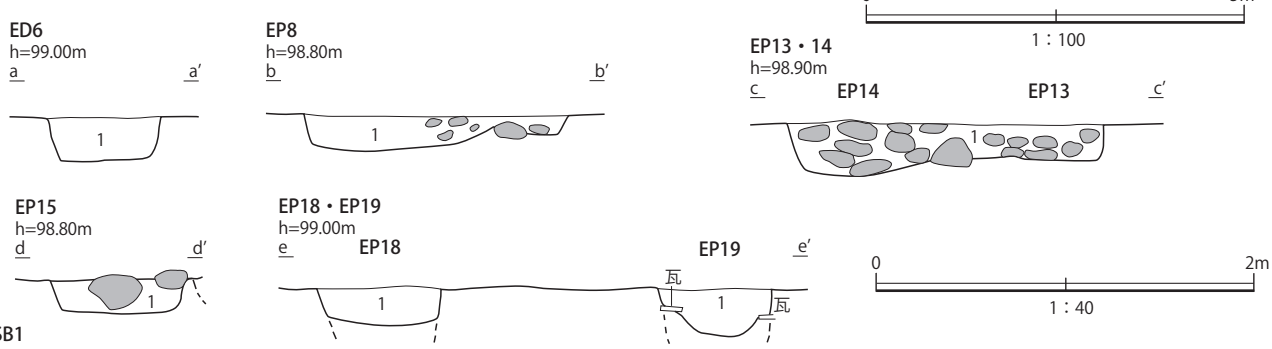


第８図　第１面遺構平面図２



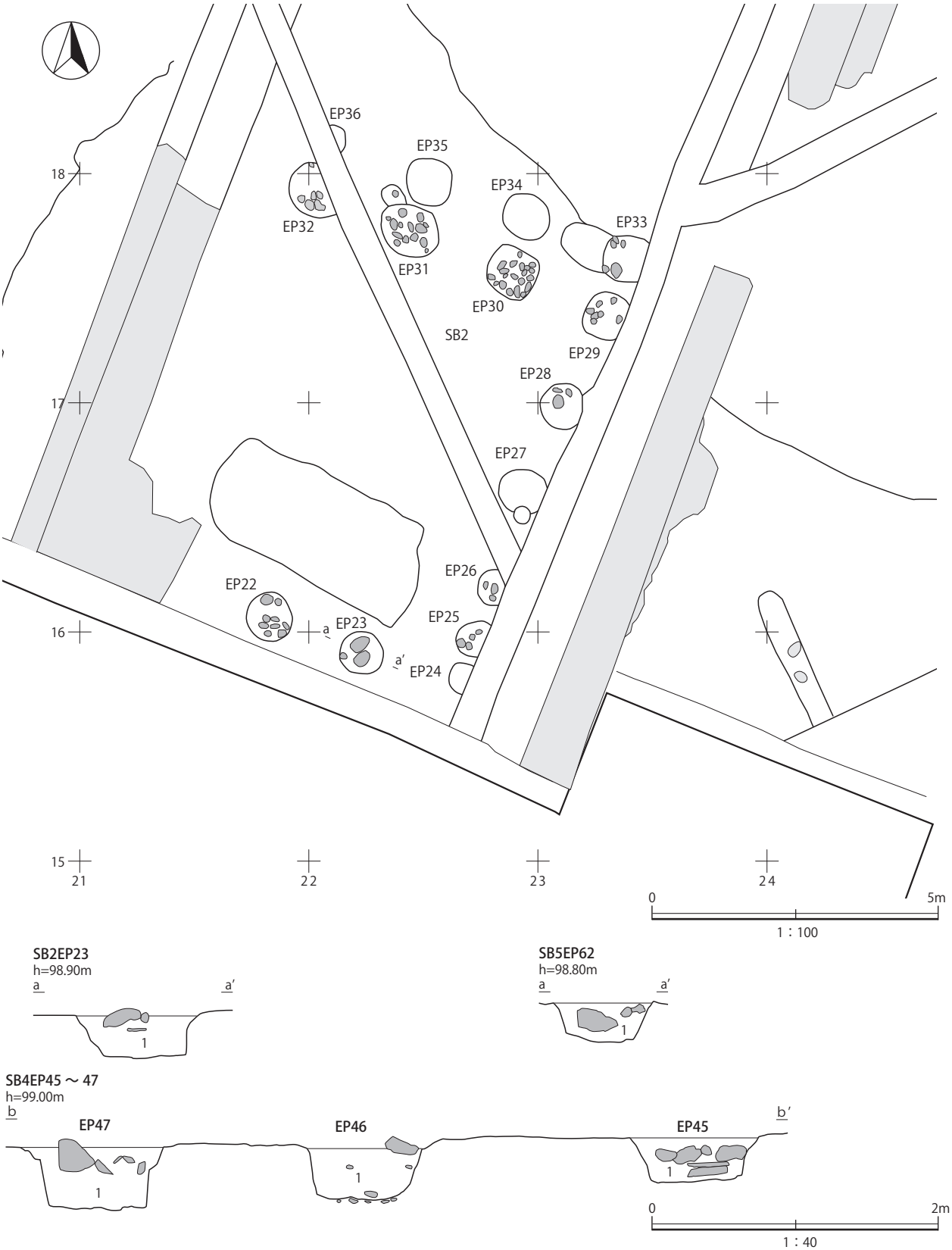
第 9 図　第 1 面遺構平面図 3





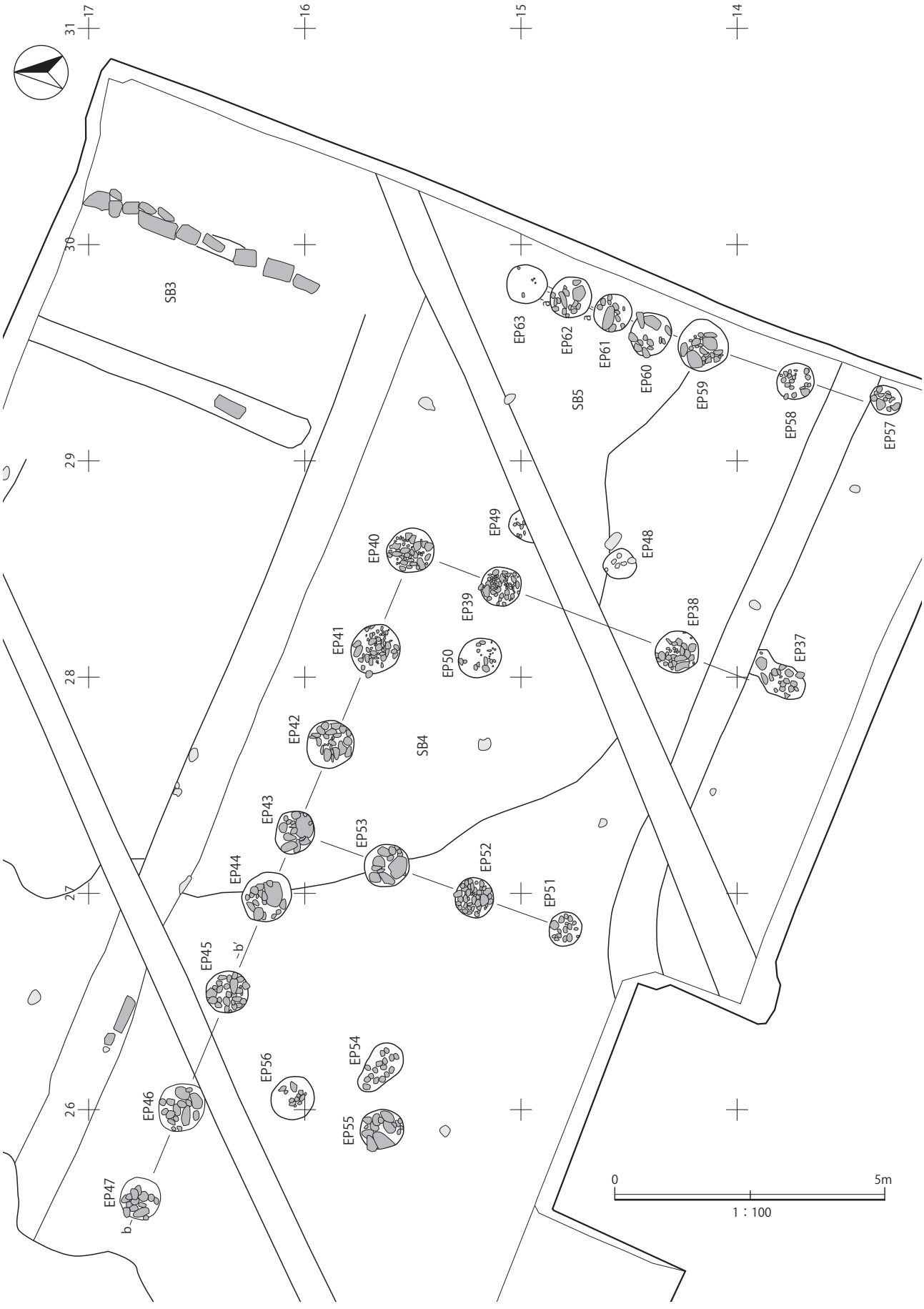
SB1
ED6
1　10Y5/1 褐灰色シルト　円礫（5 ～ 10cm）を含む。
EP8
1　10YR5/1 褐灰色シルト　礫（径 3 ～ 10cm）を含む。
EP13・14
1　10YR5/2 灰黄褐砂　円礫（5 ～ 20cm）を多く含む。
EP15
1　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト　円礫（3 ～ 25cm）を含む。
EP18
1　10YR6/2 灰黄褐色礫混じり砂　円礫（3 ～ 5cm 大）を多く含む。
EP19
1　10YR6/3 灰黄褐色礫混じり砂　円礫（3 ～ 8cm 大）を多く含む、下層の整地層由来の瓦を多く混入する。

第 10 図　第 1 面 3 区 SB1 建物跡平面・断面図



SB2EP23
1　10YR4/2 灰黄褐色シルト　円礫（5 ～ 20cm）を含む。
SB4EP62
1　10YR4/2 褐灰色シルト　礫（5 ～ 30cm）を含む。
SB5EP45
1　10YR4/2 灰黄褐色砂混じりシルト　礫（径 5 ～ 30cm）を含む。
SB5EP46
1　10YR4/2 灰黄褐砂混じりシルト　礫（5 ～ 20cm）を多く含む。
SB5EP47
1　10YR4/2 灰黄褐色砂混じりシルト　礫（5 ～ 20cm）を含む。

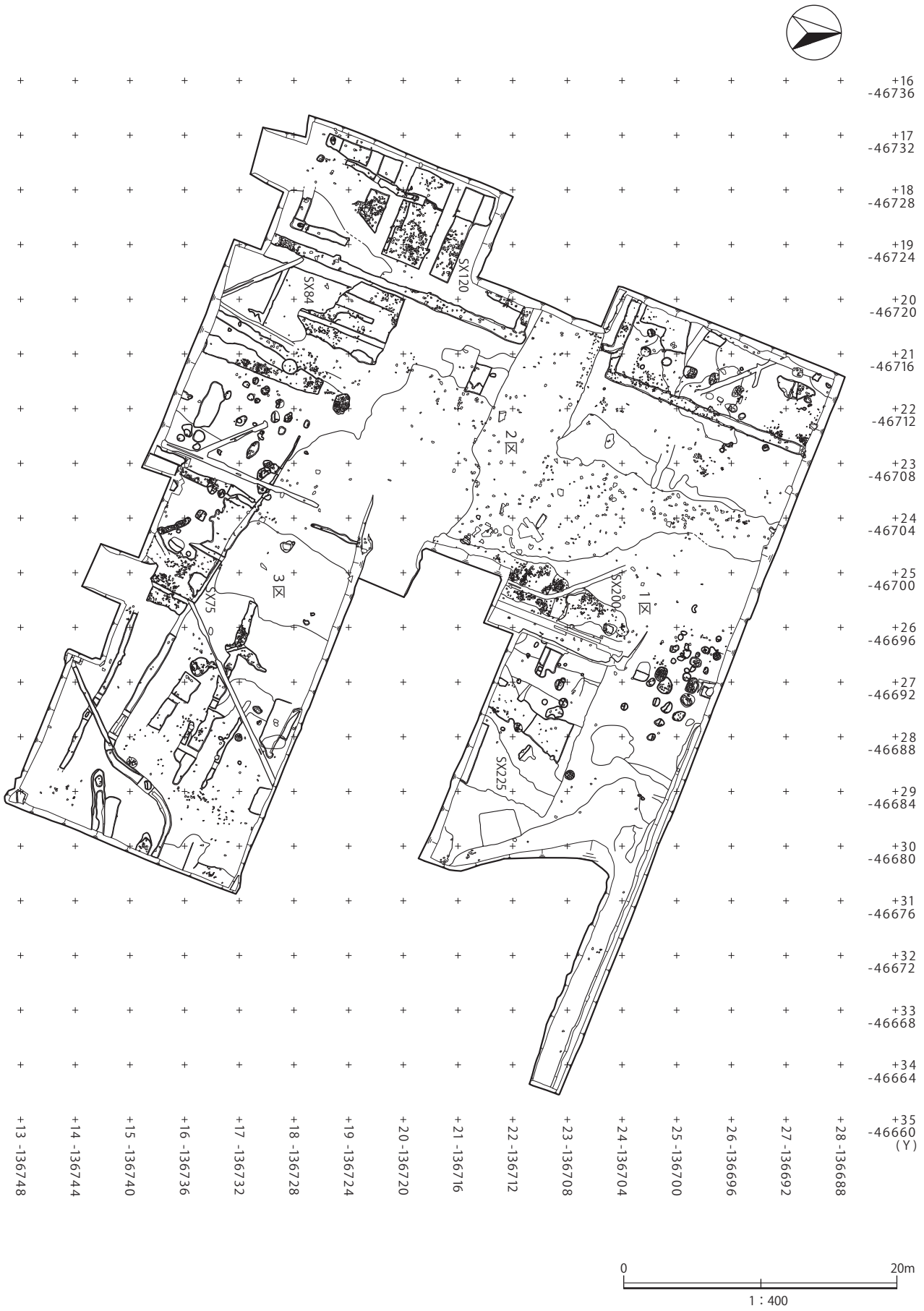
第 11 図　第 1 面 3 区 SB2 建物跡平面図・SB2・4・5 建物跡柱穴断面図



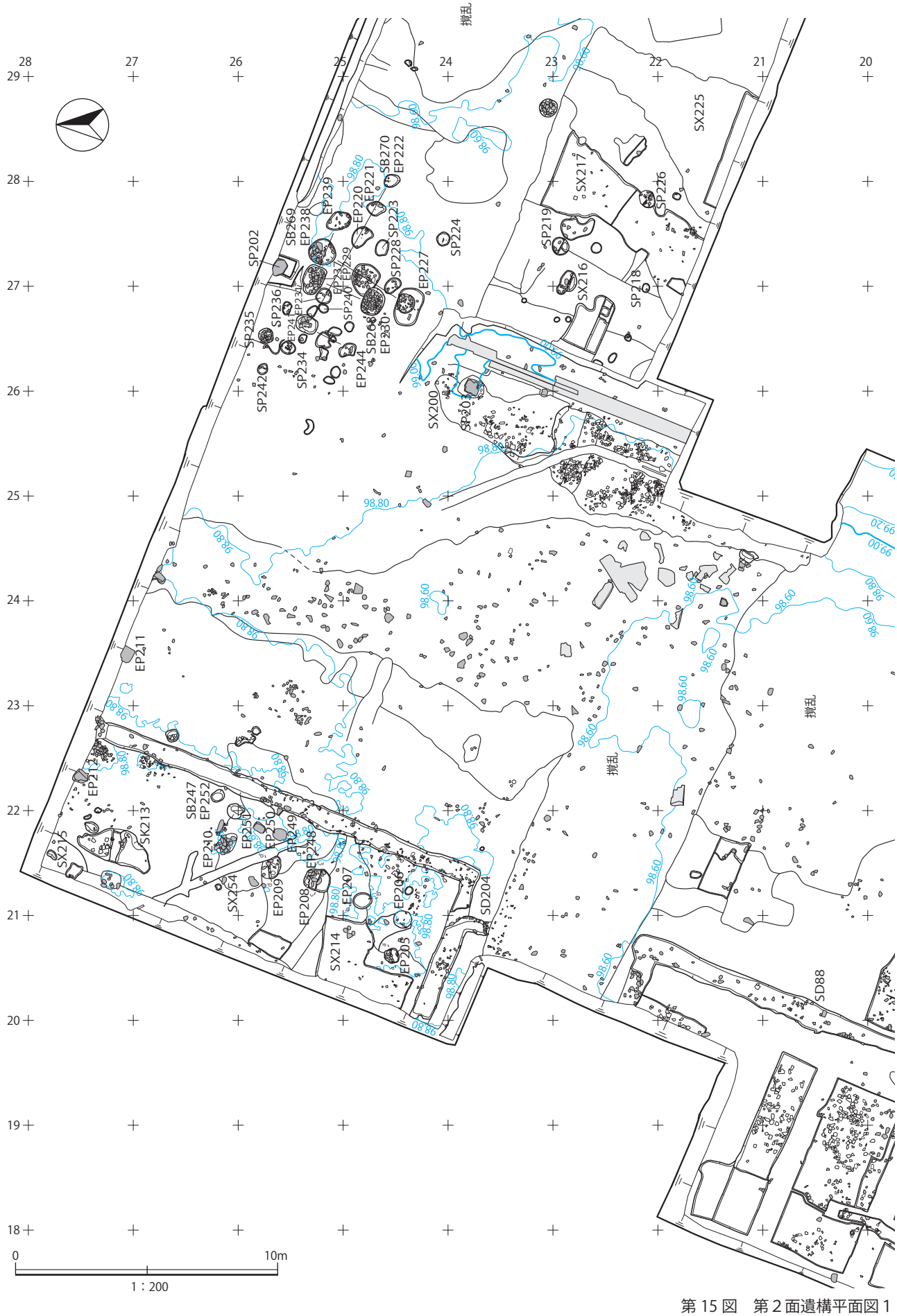
第 12 図　第 1 面 3 区 SB3・4・5 建物跡平面図



第 13 図　1 区 SB20 建物跡平面図



第 14 図　第 2 面調査区平面図



第 15 図　第 2 面遺構平面図 1



第 16 図　第 2 面遺構平面図 2



第 17 図　第 2 面遺構平面図 3

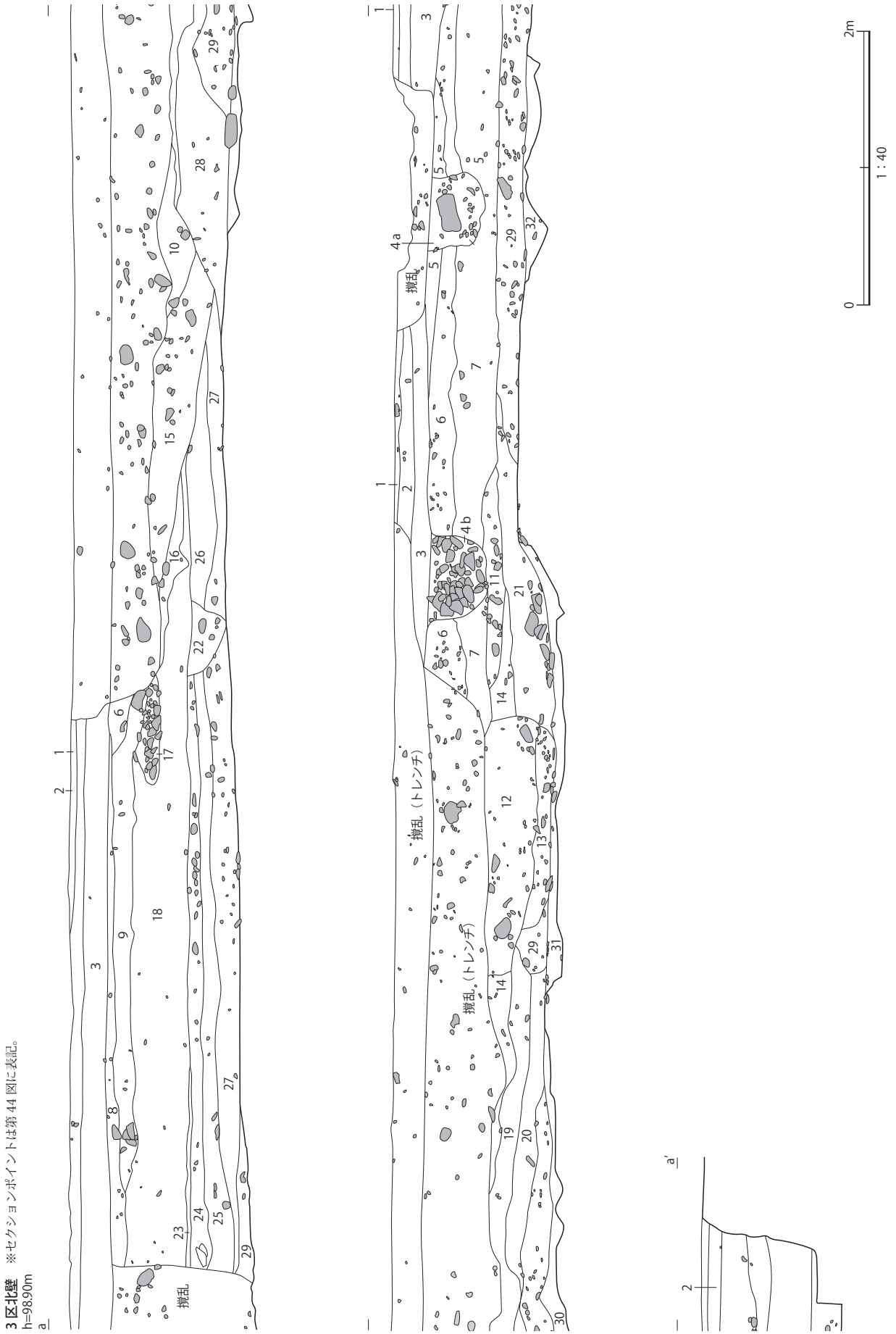


第 18 図　1 区南壁断面図

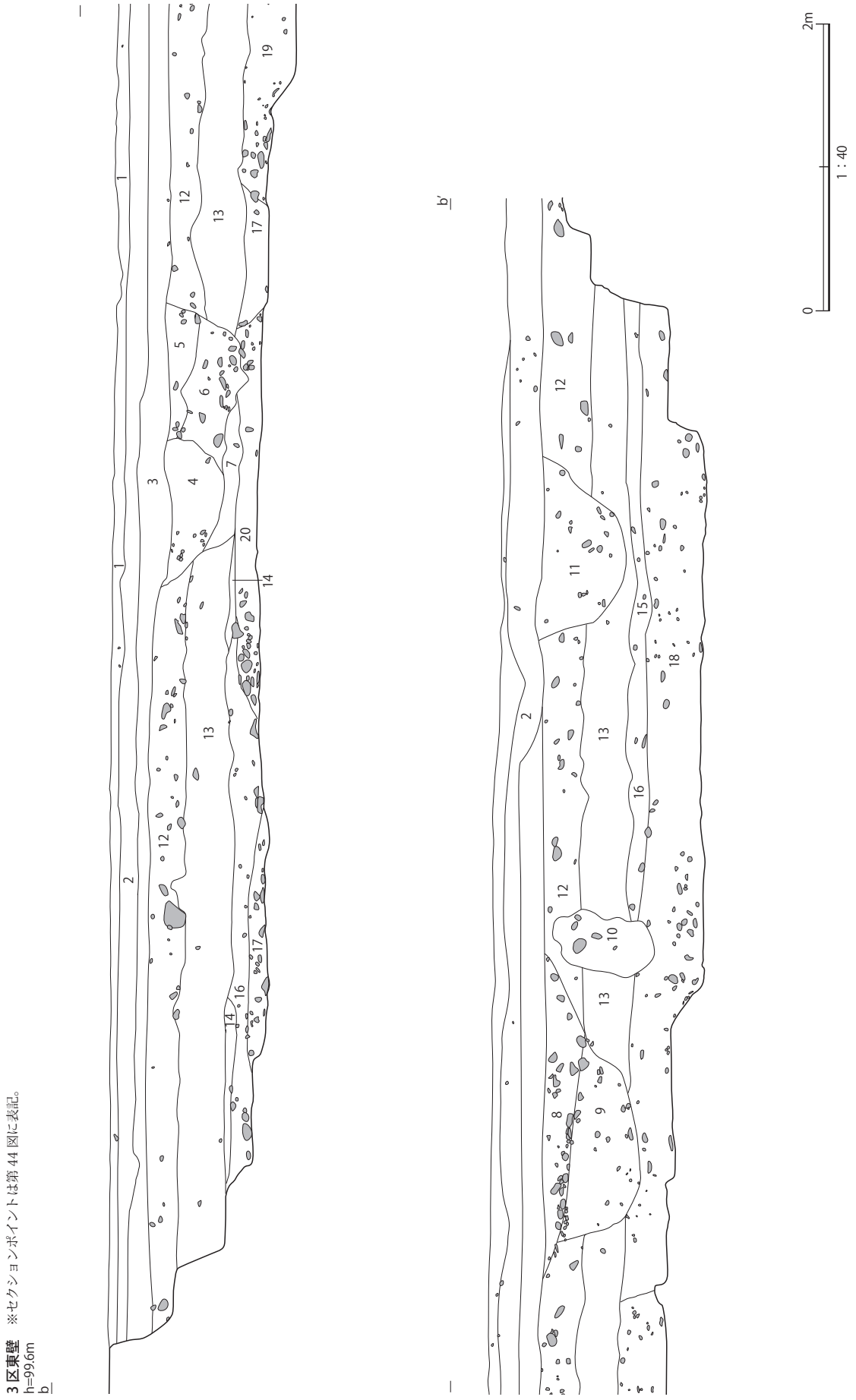
1 区南壁
1　10YR6/1 褐灰色砂　盛土（Ⅰ）。
2　7.5Y4/4 褐色シルト混じり砂　しまり強い、盛土（Ⅰ）。
3a　2.5Y5/1 黄灰色砂　しまり強い、盛土（Ⅰ）。
3b　7.5YR4/1 褐灰色砂　直径 30 ～ 50mm の礫を多く含む。現代の埋設管を入れた掘り方。
4　10YR4/1 褐灰シルト　しまり強い、粘性中、暗褐色シルト 10YR3/3 を多く含む（Ⅱ）。
5　10YR4/1 褐灰シルト　しまり強い。、粘性中、礫を少量含む（Ⅱ）。
6　7.5YR4/2 褐灰色砂混じりシルト　礫（30 ～ 50cm）を少量、焼土を含む。
7　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 5%、炭化物（直径 5mm）を 5%む、（Ⅲ）。
8　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり弱い、粘性中、炭化米を多く含む。
9　5YR4/6 赤褐シルト　しまり強い、粘性弱い、焼土、暗褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10 mm）を 5%（Ⅲ下）。
10　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、焼土粒（直径 5 ～ 20mm）を 5%、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 3%、礫（直径 20 ～ 50mm）を 3%含む。
11　10YR3/2 黒褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 3%、焼土粒（直径 5 ～ 20mm）を 5%、礫（直径 30 ～ 50mm）を少量含む。
12　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
13　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 50mm）を 5%、礫（直径 30 ～ 80mm）を 5%含む。
14　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
15　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙砂質シルトブロック（直径 5 ～ 30mm）を 2%、炭化物（直径 5mm）を 5%含む。
16　7.5YR2/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 5%、焼土粒（直径 5 ～ 50mm）を 15%含む。
17　7.5YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 10 ～ 50mm）を 10%、炭化物（直径 10 ～ 20mm）を 5%、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20 mm）を含む。
18　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性弱、礫（直径 20 ～ 40mm）を 2%含む。
19a　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり弱い、粘性中、灰黄褐粘質シルトブロック（直径 5 ～ 50mm）を 5%、礫（直径 30 ～ 50mm）を 1%含む。
19b　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中、炭化物、炭化米（直径 5 ～ 10mm）を 3 %、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3 %含む。
20　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、灰黄褐色シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 1%含む。
21　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性やや強い、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 3%、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 1%含む。
22　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
23　10YR4/3 にぶい黄褐砂　しまり中、礫（直径 10 ～ 150mm）を多く含む。
24　10YR4/2 灰黄褐シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 50mm）を 3%、炭化物微量含む。
25　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色砂質シルトブロック（直径 5 ～ 40mm）を 5%、人為堆積炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2%含む。SD245 覆土。
26　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、地山。
27　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5 ～ 20mm）を 3 %、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 30mm）を 3 %含む。

3 区北壁
1　10YR6/1 褐灰砂　盛土（Ⅰ層）。
2　7.5YR4/6 褐色　粗砂混じりシルト　しまり強い、粘性弱、盛土（Ⅰ層）。
3　10YR5/1 褐灰砂　しまり強い、盛土（Ⅰ層）。
4a　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を 3%、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 5%、礫（直径 10 ～ 50 mm）を 30%含む。SB3 基礎掘り方
4b　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を 1%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%、礫（直径 20 ～ 10 mm）50%以上含む。SB3 基礎掘り方
5　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 40mm）を 5%、盛土・炭化物（直径 5mm）を 3%含む、Ⅱ層併行。
6　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性弱、礫（直径 10 ～ 40mm）を 3%含む、Ⅱ層併行。
7　7.5YR2/3 極暗褐色　しまりやや強い、粘性やや弱い、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 10%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 10%含む、Ⅲ層併行。
8　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む、Ⅱ層併行。
9　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%、焼土粒（直径 5mm）を 1%、瓦を含む、Ⅱ層併行か。
10　10YR2/1 黒色シルト　礫（直径 30 ～ 50mm）を少量含む。
11　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 10%、礫（直径 30 ～ 100mm）を 5%含む。
12　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 5%、焼土粒（直径 5mm）を 2%、礫（直径 2 ～ 10cm）を 5%含む。
13　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 10%、礫（直径 30 ～ 100 mm）を 5%含む。
14　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 1%、円礫（直径 20 ～ 50mm）を 1%含む。
15　7/5YR3/1 黒褐色砂混じりシルト　礫（直径約 30 ～ 100mm）を含む、焼土粒を少量含む。
16　10YR6/2 灰黄褐色砂混じりシルト　礫（直径 30 ～ 50mm）を含む。
17　10YR3/2 黒褐色砂　しまり中、礫（直径 30 ～ 50mm）を多く含む。
18　10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり砂　しまり強い、礫（直径 5 ～ 30mm）を 3%含む。
19　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を 1%、礫（直径 30 ～ 50mm）を 1%含む。
20　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5 mm）を微量含む。
21　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 1%含む、遺構覆土。
22　10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり砂　礫（直径 30 ～ 50mm）を含む。
23　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む。
24　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%、焼土粒（直径 5mm）を 1%、瓦を含む。
25　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 1%、礫（直径 30 ～ 50mm）を少量、灰黄褐色粘質シルトブロック（直径 10 ～ 50mm）を 3%含む。
26　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 3%、焼土粒（直径 5mm）を 1%、10YR5/3 にぶい黄褐色シルト（直径 5 ～ 20mm）を 2%含む、25 と併行か。
27　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%、礫（直径 20 ～ 50mm）を 5%含む。
28　10YR6/4 にぶい黄橙砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、黒色シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 2%、礫（直径 10 ～ 30mm）を 3%含む。
29　10YR5/3 にぶい黄褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性弱、礫（直径 20 ～ 50mm）を 5%含む。
30　10YR5/3 にぶい黄褐色砂　礫（約 30 ～ 100mm）を含む。
31　10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり砂　にぶい黄橙色砂を含む、遺構覆土。
32　10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり砂　礫（30 ～ 80mm）を含む、遺構覆土。

第 19 図　1 区南壁・3 区北壁土層注記

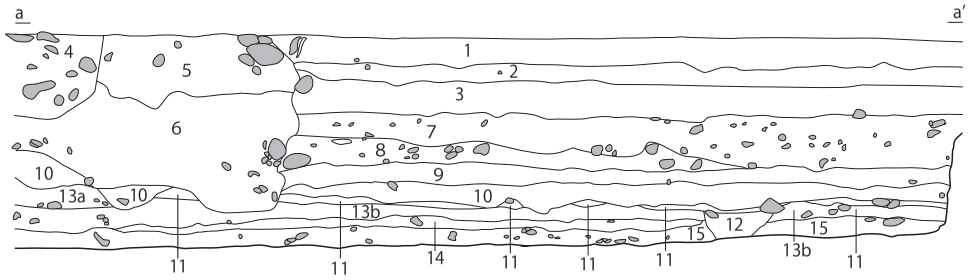


第 20 図　3 区北壁断面図

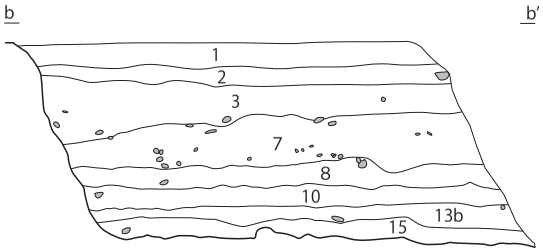


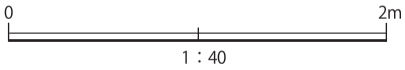
第 21 図　3 区東壁断面図

3 区南壁 a　※セクションポイントは第 43 図に表記。



3 区南壁 b





3 区東壁

1　10YR6/1 褐灰砂　盛土（Ⅰ層）
2　7.5YR4/6 褐色　粗砂混じりシルト　しまり強い、粘性弱、盛土（Ⅰ層）。
3　10YR5/1 褐灰砂　しまり強い、盛土（Ⅰ層）。
4　10YR6/1 褐灰色砂　礫を多く含む、現代の撹乱。
5　5YR6/1 褐灰色砂　礫を多く含む、現代の撹乱。
6　5YR3/1 黒褐色シルト混じり砂　礫を多く含む、現代の撹乱。
7　7.5YR3/1 黒褐色砂混じりシルト　礫を含む、現代の撹乱。
8　10YR6/1 褐灰色砂混じりシルト　礫を含む、SX67 覆土、現代の撹乱。
9　10YR6/2 灰黄褐色砂混じりシルト　礫を含む、SX67 覆土、現代の撹乱。
10　5YR4/1 褐灰色砂混じりシルト　礫（約 30 ～ 100mm）を少量含む、10YR7/4 にぶい黄橙色シルトブロックを少量含む、撹乱。
11　5YR4/1 褐灰色砂混じりシルト　礫（約 30 ～ 80mm）を少量含む、現代の撹乱。
12　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性弱、礫（直径 10 ～ 40mm）を 3％含む、Ⅱ層併行。
13　7.5YR2/3 極暗褐色　しまりやや強い、粘性やや弱い、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 10％、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 10％含む、Ⅲ層併行。
14　10YR6/3 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中。
15　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 1％、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 5％含む。
16　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、10YR5/3 にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3％。
17　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 20 ～ 50mm）を 3％含む。
18　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い､粘性弱い､人為堆積炭化物（直径 5mm）を 1％､焼土粒（直径 5mm）を 1％､礫（直径 30 ～ 50 mm）を 2％。
19　10YR4/2 灰黄褐砂質シルト　しまりやや強い、粘性弱い、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3％含む。
20　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、地山、部分的に礫を含む。

3 区南壁

1　10YR6/1 褐灰砂　盛土（Ⅰ層）
2　7.5YR4/6 褐色　祖砂混じりシルト　しまり強い、粘性弱、盛土（Ⅰ層）。
3　10YR5/1 褐灰砂　しまり強い、盛土（Ⅰ層）。
4　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト　礫（30 ～ 100mm）を含む、現代の撹乱。
5　10YR5/2 灰黄褐色砂混じりシルト　礫（30 ～ 100mm）を含む、現代の撹乱。
6　10YR7/1 灰白色砂、現代の撹乱。
7　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト、礫（30 ～ 100mm）を含む、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2％含む、Ⅱ層。
8　10YR6/1 褐灰色砂混じりシルト、礫（30 ～ 100mm）を含む、Ⅱ層。
9　10YR3/1 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、炭化物、炭化米（直径 5 ～ 20mm）5％、焼土粒（直径 5 ～ 20mm）を 3 ％含む、Ⅲ a 層、明治期。
10　10YR3/1 ～ 3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、炭化米を下層に多量に含む、炭化物（直径 5 ～ 20mm）5％、焼土粒（直径 5 ～ 30 mm）を 5％、Ⅲ b 層。
11　5YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、焼土層、Ⅲ c 層。
12　10YR6/1 褐灰色砂混じりシルト　炭化物（直径 5mm）を微量含む。
13　10YR4/2 灰黄褐シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 3％、Ⅳ層併行。
14　Ⅳ b　10YR4/2 灰黄褐シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 30％、整地層、Ⅳ層併行。
15　Ⅳ c　10YR4/2 ～ 3/2 シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 mm）を微量、礫（直径 30 ～ 50mm）を 5％、Ⅳ層併行。

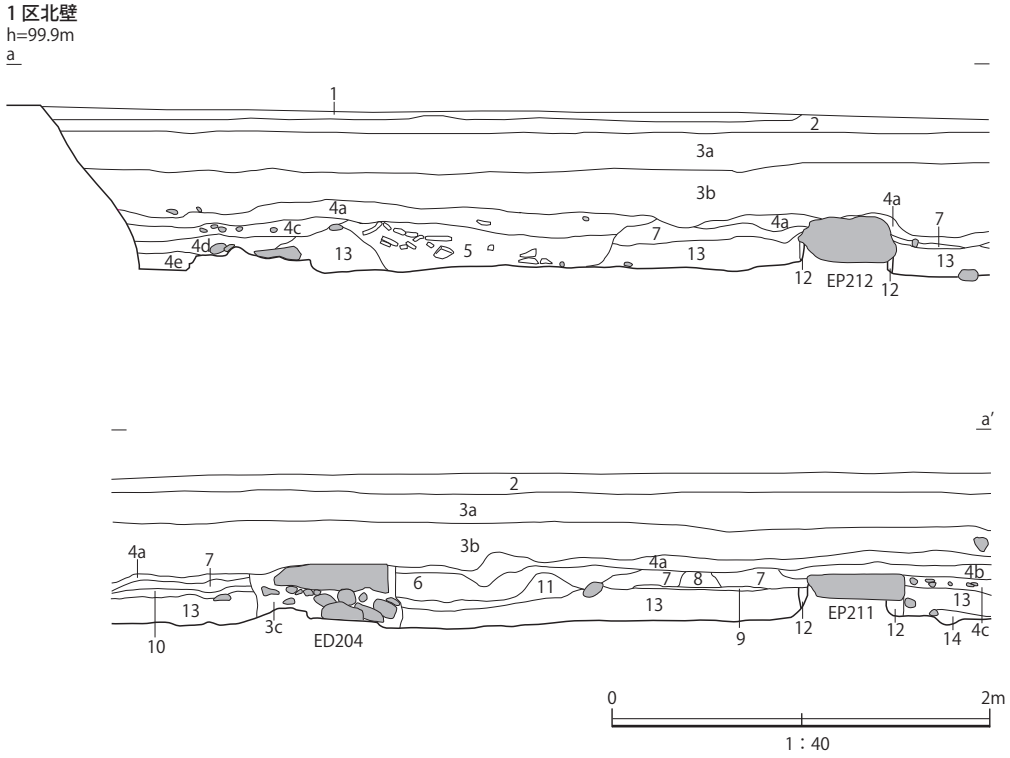
第 22 図　3 区南壁断面図



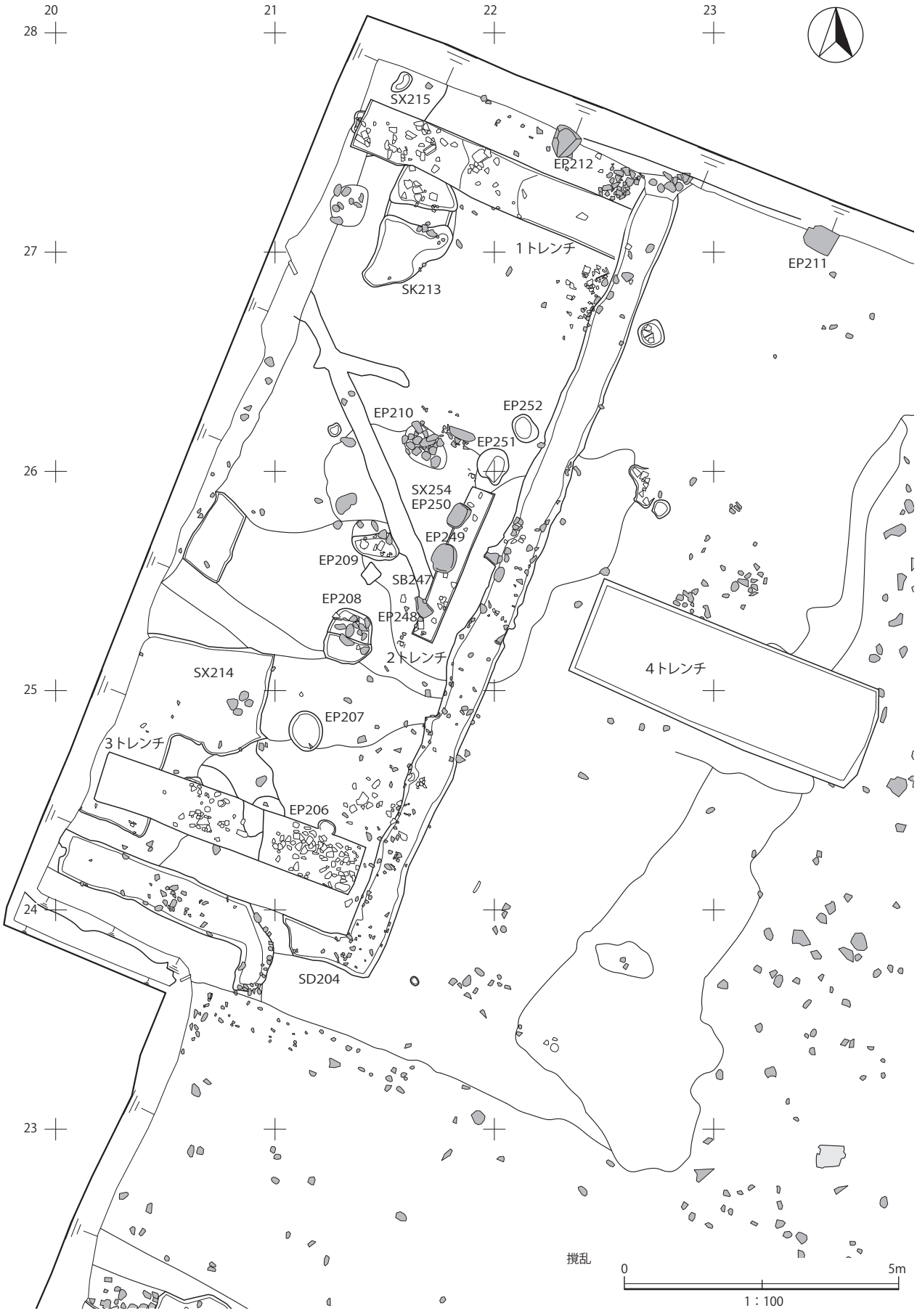
第 23 図　1 区 SB20 建物跡平面・断面図

1 区 SB20
EP207
1　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5 ～ 20 mm）を 3%、炭化物（直径 5 mm）を 2%含む。
EP205
1　SP207 と同じ。瓦や直径 100 ～ 150 mm 大の円礫含む。
EP208
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5 ～ 10 mm）を 5%、炭化物（直径 5 ～ 10 mm）を 3%、礫（直径 100 ～ 200mm）大を多く含む。
EP209
1　内容は EP208 に同じ。

1 区北壁（EP211・212）
1　10YR7/2 にぶい黄橙色砂　盛土（Ⅰ層）。
2　5YR5/6 明赤褐シルト　粗砂・小礫を含む、盛土（Ⅰ層）。
3a　10YR6/1 粗砂　盛土（Ⅰ層）。
3b　10YR7/1 灰白色砂混じり礫　直径約 20 ～ 40mm の角礫、盛土（Ⅰ層）
3c　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト　Ⅲ層由来の焼土粒を含む、学校建物のコンクリート基礎が入る。
4a　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト　しまり強い、礫（約 20 ～ 40mm）を少量、にぶい黄橙シルトブロック（直径約 20 ～ 40mm）を 10%、焼土粒（直径 10 ～ 20mm）を 3 %含む、Ⅱ層に併行。
4b　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト　しまり強い、内容は概ね 4a 層に同じ、焼土を含む割合が多い。
4c　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト　しまり強い、礫（直径約 50mm）を含む、その他の内容は概ね 4a 層に同じ。
4d　10YR5/1 褐灰色砂混じりシルト　しまり強い、黒褐色シルトブロック（直径 30 ～ 50mm）を 15%含む、層の末端に焼土粒を少量含む。撹乱された様相を示す。
4e　10YR5/1 褐灰色シルト　しまり強い、黒褐色シルトブロック（直径 30 ～ 50mm）を 5%含む。
5　7.5YR4/2 褐灰色シルト　しまり強い、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 2%含む、近現代の瓦片を多く含む。
6　10YR4/1 褐灰色シルト　しまり強い、炭化物・炭化材を多く含む、焼土塊（直径 10 ～ 100mm）を 20%含む、Ⅲ層。
7　5Y6/6 橙色シルト　しまり強い、焼土、被熱が弱い箇所は灰褐色となる。Ⅲ層。
8　5Y6/6 橙色シルト　7 層中に入る炭化物ブロック。
9　5YR5/4 にぶい赤褐色シルト　炭化物を 30%程度含む。
10　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり強い、炭化物（直径 10 ～ 20mm）を 5%、礫（10 ～ 30mm）を少量含む、Ⅳ層に併行か。
11　7.5YR6/1 灰白色シルト　礫（直径 10 ～ 50mm）を少量含む、6 層下の部分は被熱を受け焼土となる。7 層に併行するか。
12　10YR4/1 褐灰色シルト　礎石の掘り方覆土。
13　10YR4/1 褐灰色シルト　しまり強い、礫（直径 20 ～ 50mm）を少量含む、江戸時代の整地層、Ⅳ層。
14　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、礫を少量含む。



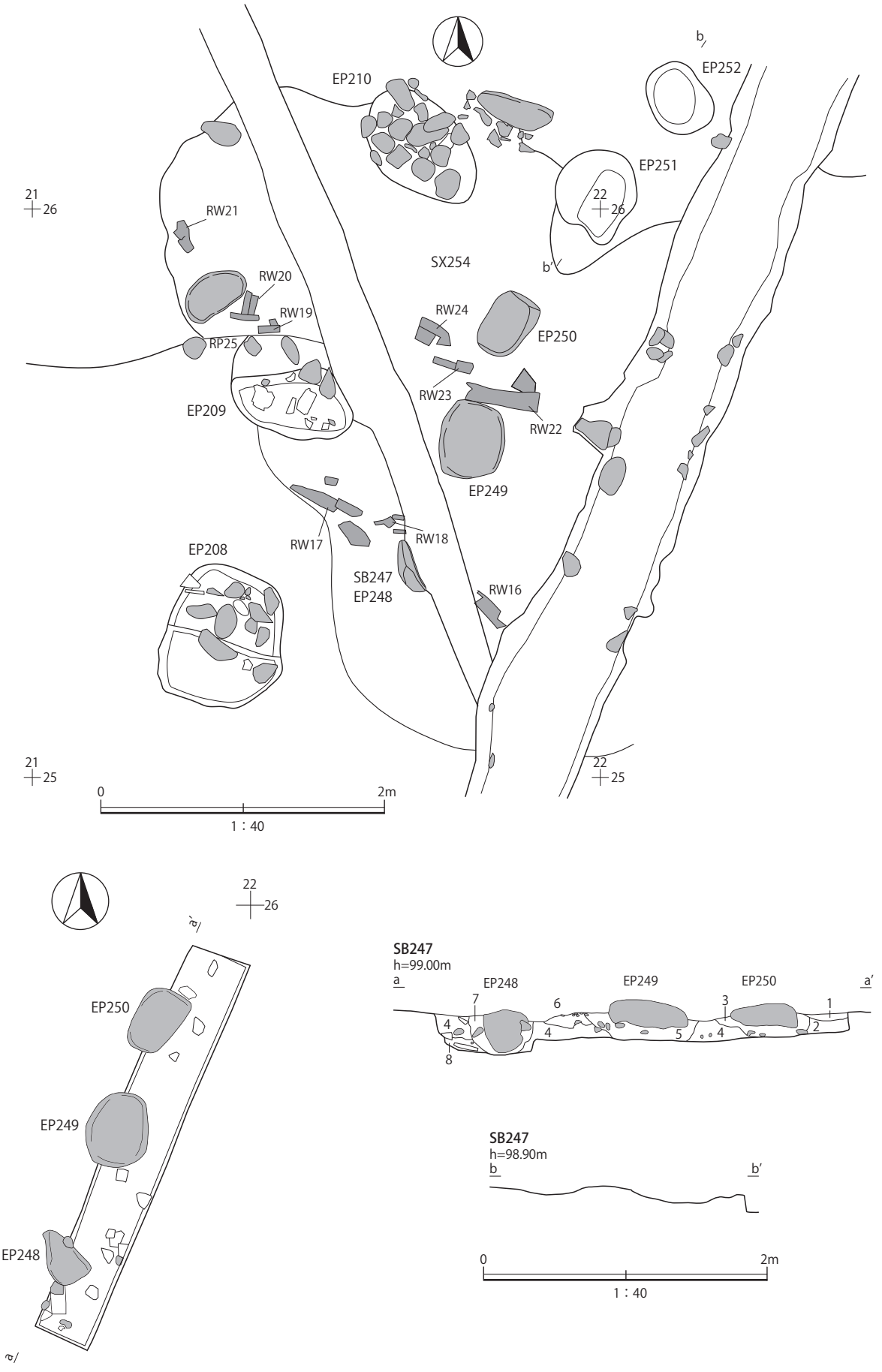
第 24 図　1 区北壁断面図



第 25 図　1 区西 1 ～ 4 トレンチ平面図

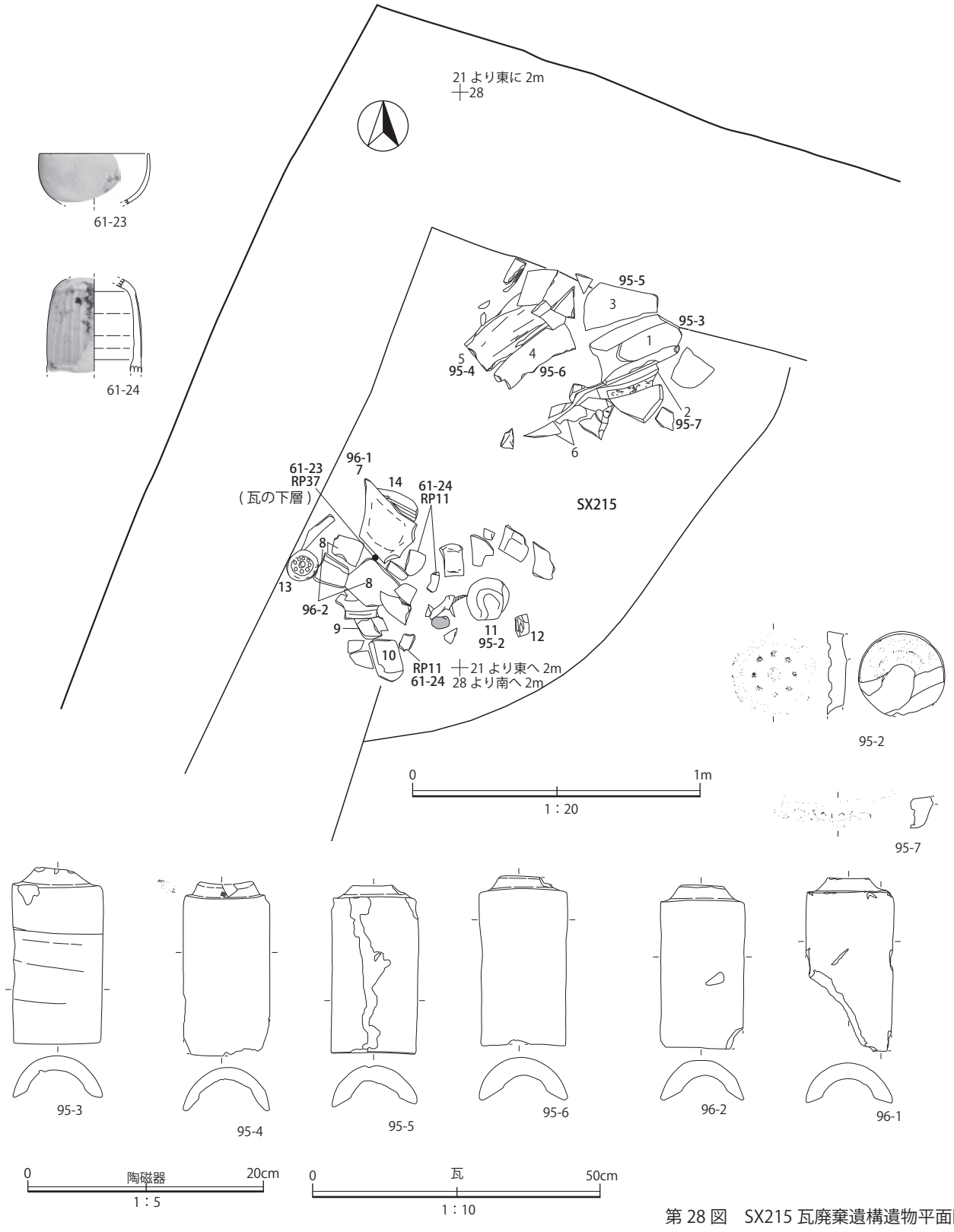


第 26 図　1 区 SB201・247 建物跡平面図



第 27 図　1 区 SX254 焼土遺構炭化材平面図・SB247 建物跡平面・断面図

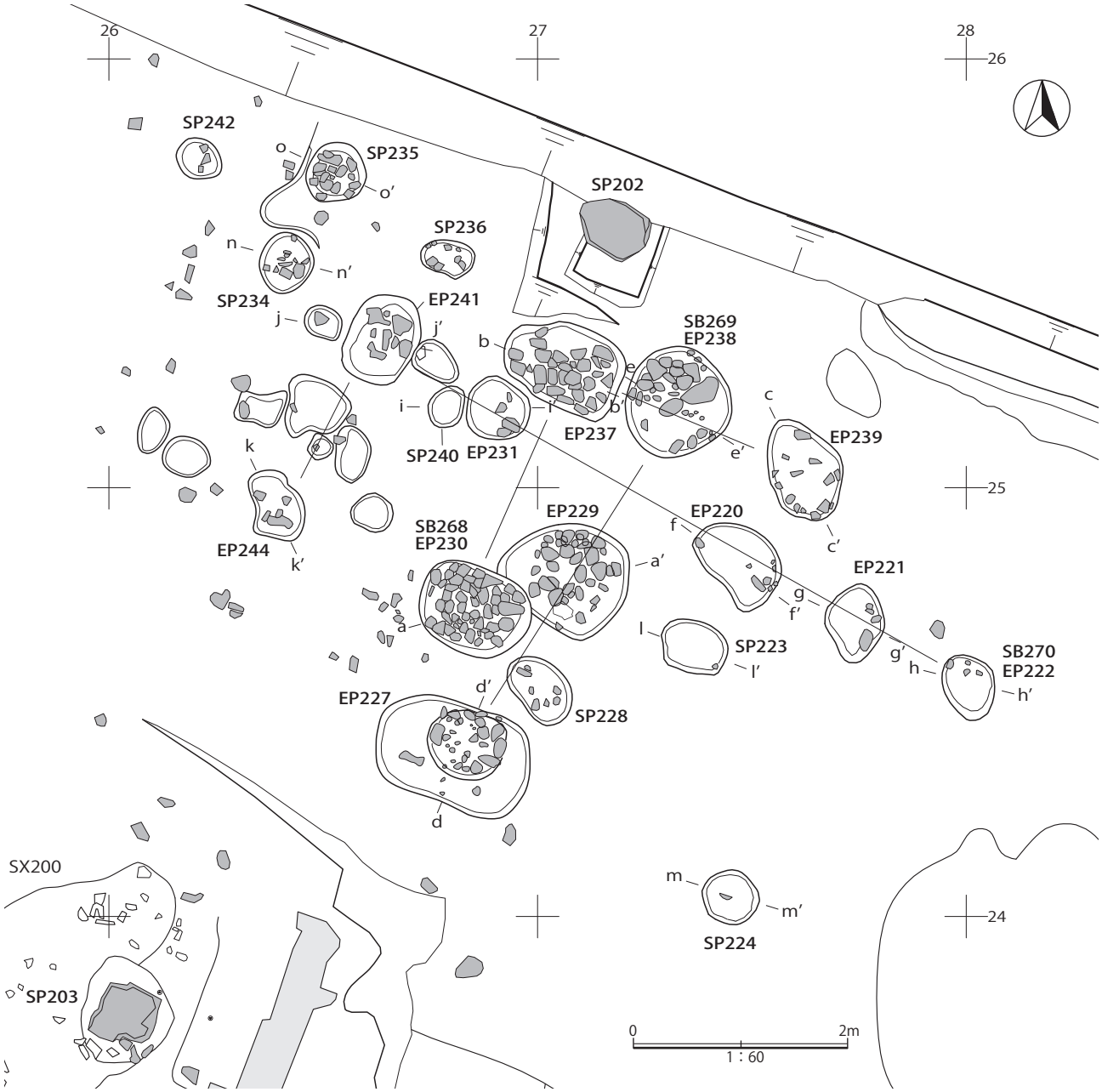
1区2トレンチ SB247
1　10YR7/1 シルト　しまり、粘性弱い、炭化物層。
2　10YR2/1 黒色シルト　しまり中、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 2%、焼土（直径 5mm）を 1%含む。
3　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 1%、黄褐色シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 3%含む。
4　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 5%含む。
5　3 に同じ。
6　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を 1%、炭化物（直径 5mm）を 2%含む。
7　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 20mm）を少量入る、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 3%含む。
8　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を微量含む。

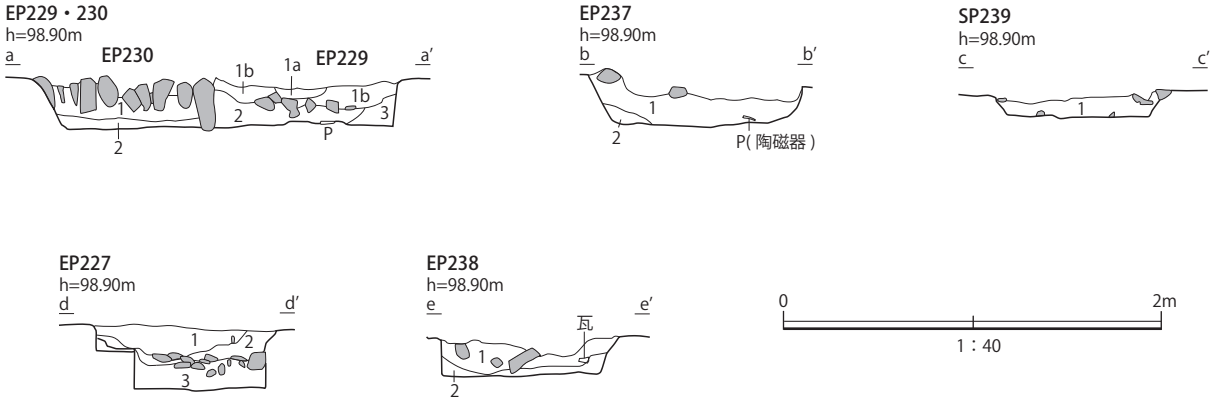


第 28 図　SX215 瓦廃棄遺構遺物平面図

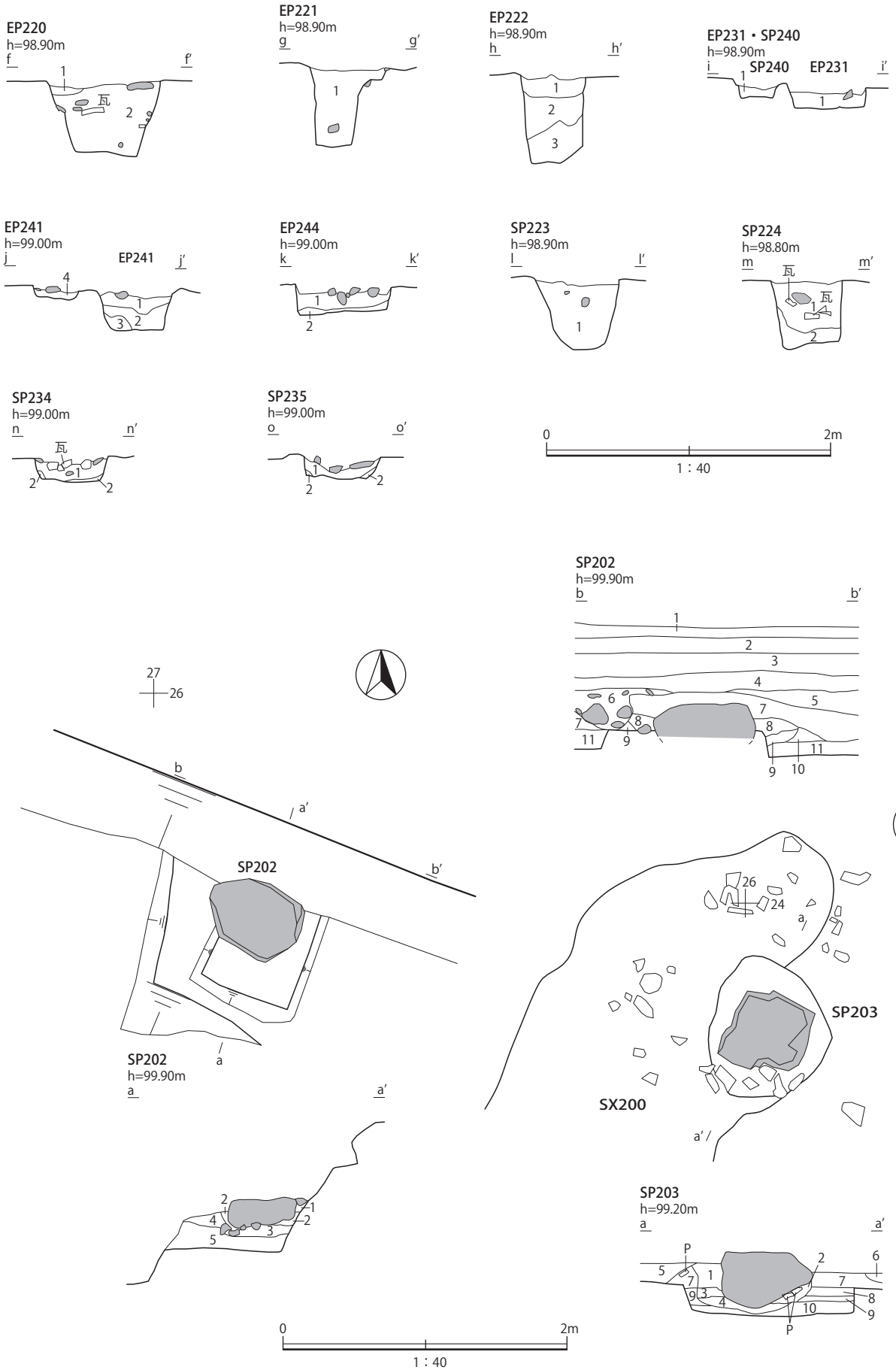


第 29 図　1 区柱穴群・SX200 瓦廃棄遺構





第 30 図　1 区中央柱穴群平面図・SB268・269・EP229・230・237・239・227・228 柱穴断面図

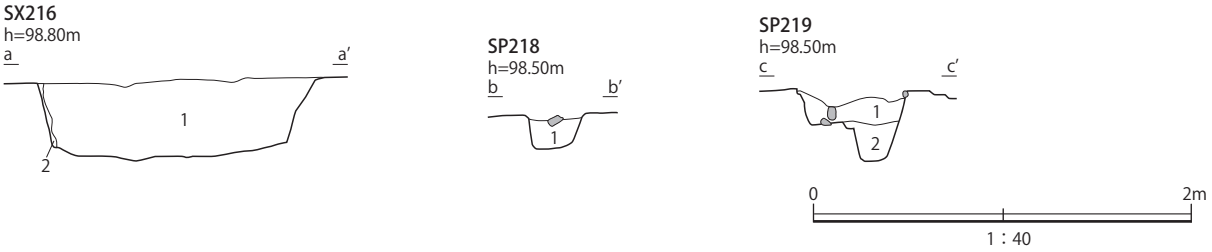


第 31 図　1 区 SB270EP220 ～ 222・231・241・244・SP223・224・234・235 他柱穴断面図・SP202・203 礎石平面図

EP229
1a　炭化米ブロック　堆積土のほとんどが炭化米、焼土ブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%　10YR3/3 暗褐色シルトブロック（直径 20 ～ 40mm）を 7%。
1b　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、焼土粒（直径 5mm）を微量、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 7%含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を微量含む。
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中。
EP230
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2%、10YR4/2 灰黄褐砂混じりシルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 2%。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 2%、にぶい黄褐シルトブロック（直径 10mm）を 1%含む。
EP237
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を 1%、炭化物（直径 5mm）を 1%含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を 5%含む。
EP239
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、焼土粒（直径 5 ～ 20mm）を 2%、炭化米 3%含む。
EP227
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化米層、焼土粒（直径 5mm）を 2 %含む。
2　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中、10YR5/6 黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 5%含む。
3　10YR2/3 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む。
EP238
1　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 20%含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を微量含む。
EP220
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、焼土粒（直径 10 ～ 20mm）3%、炭化米を 30%含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を 1%、炭化物（直径 5mm）を 1%、礫（直径 10 ～ 100mm）を 3%含む。
EP221
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、大型の礫が入る、炭化物（直径 5mm）微量、にぶい黄褐色砂質シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 2%。
EP222
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 30 mm）を 5%含む。
2　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 20 mm）を 2%、炭化物（直径 5mm）を微量含む。
3　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中。
EP231
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 20%含む。
SP240
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 mm）を微量、焼土粒（直径 3 ～ 5mm）を微量、10YR6/3 にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
EP241
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5mm）を 2%、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 3%、上面に礫を多く含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5mm）を微量、褐色シルトブロック（直径 5mm）を微量含む。
3　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、褐色シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 2%含む。
4　10YR 3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を微量、灰黄褐色シルトブロック（直径 10 ～ 20 mm）を 2%含む。
EP244
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 2%、焼土粒（直径 5mm）を微量含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5mm）を微量含む。
SP223
1　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）2%、上層に礫（直径 50 ～ 100mm）を含む。
SP224
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）微量含む。
2　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を含む。
SP234
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、瓦片・礫が多い。
2　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中。
SP235
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中。
SP202（b-b´）
1　1 区北壁の 1 に同じ、Ⅰ層。
2　1 区北壁の 2 に同じ、Ⅰ層。
3　1 区北壁の 3a に同じ、Ⅰ層。
4　1 区北壁の 4a に同じ、Ⅱ層。
5　1 区北壁の 4a に同じ、焼土の含有が上層より多い、Ⅱ層。
6　10YR5/2 灰黄褐色砂混じりシルト　礫（直径 5 ～ 20cm）を含む、近代の撹乱。
7　5YR4/2 灰褐色砂混じりシルト　焼土や炭化米を多く含む、Ⅲ層に併行。
8　5YR4/4 にぶい赤褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、強く焼けている、上層に炭化米を含む。
9　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 50mm）を 20 ～ 30%含む。
10　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 2%、礫（直径 10 ～ 30mm）を 2%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
11　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径約 5cm）を少量含む、整地層、Ⅳ層。
SP202（a-a´）
1　SP202（b-b´）の 7 に同じ。
2　SP202（b-b´）の 8 に同じ。
3　SP202（b-b´）の 9 に同じ。
4　SP202（b-b´）の 9 に概ね同じ、にぶい黄橙シルトブロックの含有が 3 より少ない。
5　SP202（b-b´）の 11 に同じ。
SP203
1　10YR4/2 灰黄褐砂混じりシルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 3%、礫（直径 10 ～ 50mm）5%含む。
2　10YR3/1 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、瓦の小破片を含む。
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 30mm）3%含む。
4　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
5　10YR2/2 黒褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 10%含む 、礫（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
6　10YR5/1 褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性やや弱い、黒褐色シルトブロック（直径 20 ～ 40mm）を 5%含む、SX200 覆土であるが撹乱を受ける。

第 32 図　1 区中央柱穴群土層注記

7　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20 mm）1%、礫（直径 10 ～ 30 mm）1 %含む。
8　10YR7/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、黒色シルトブロック（直径 10 ～ 20 mm）を 2%含む。
9　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 10 ～ 30 mm）を 10%含む。
10　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、地山か、暗褐色シルトブロック（直径 10 ～ 30 mm）を 1%含む。



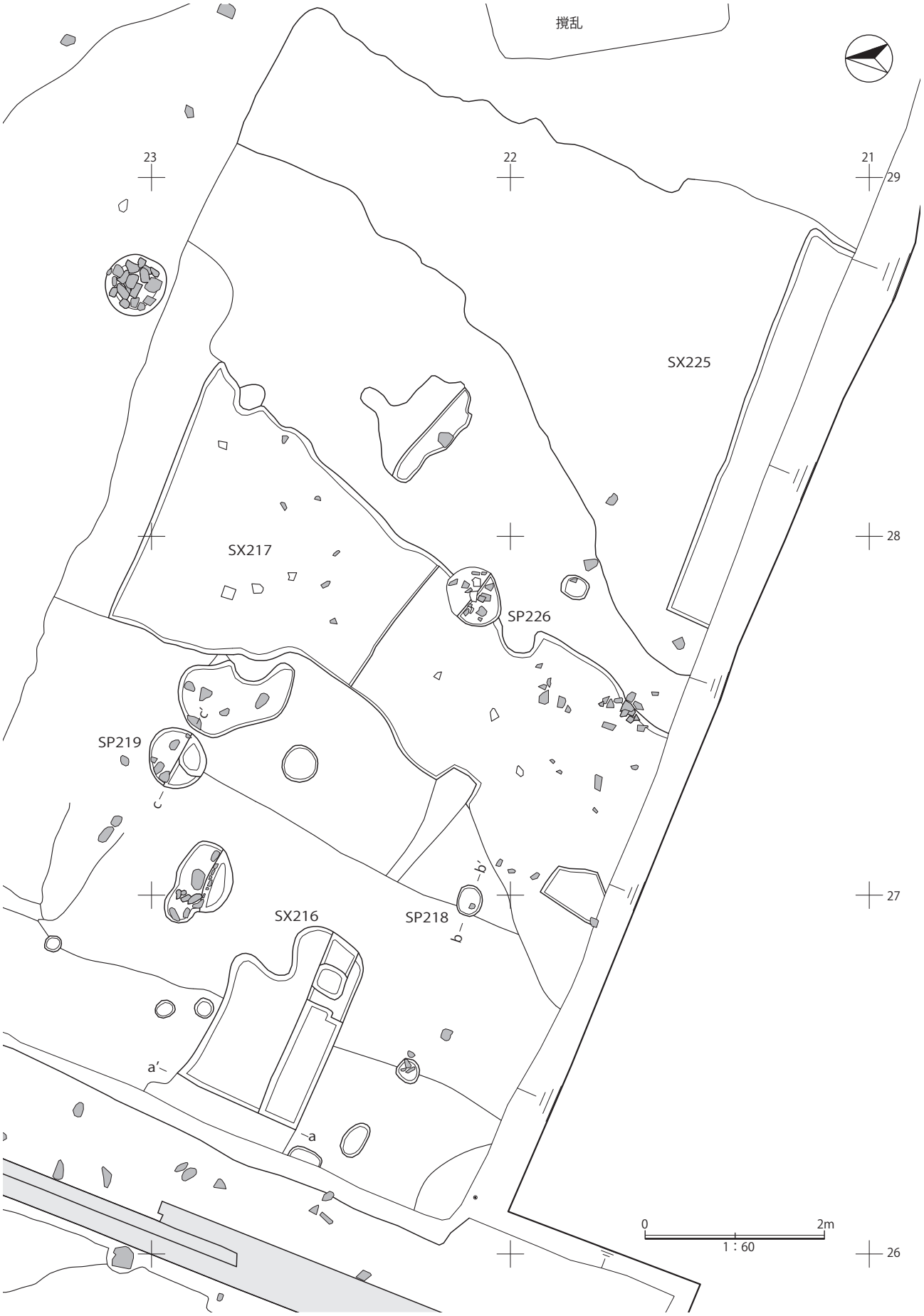
SX216
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10 mm）を 2%、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10 mm）を 2%含む。
2　10YR5/3 にぶい黄褐色砂　地山。
SP218
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 10 ～ 20 mm）を 3 %含む。
SP219
1　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 30 mm）を 5 %含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中。

第 33 図　SX216 溝状遺構・SP218・219 柱穴断面図

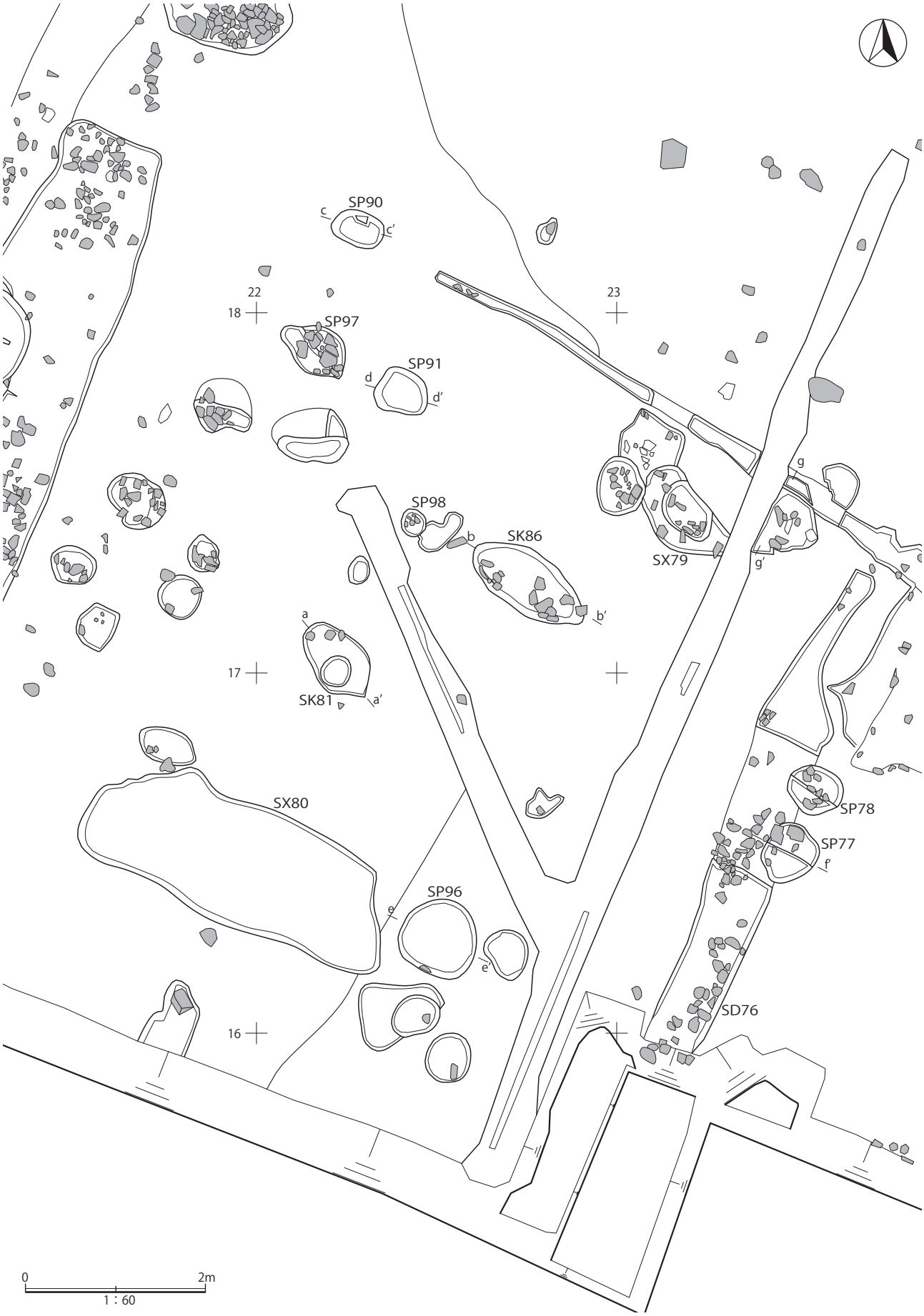
表 2　柱穴（SP・EP）一覧表

※[ ] の値は、残存値を現わす。

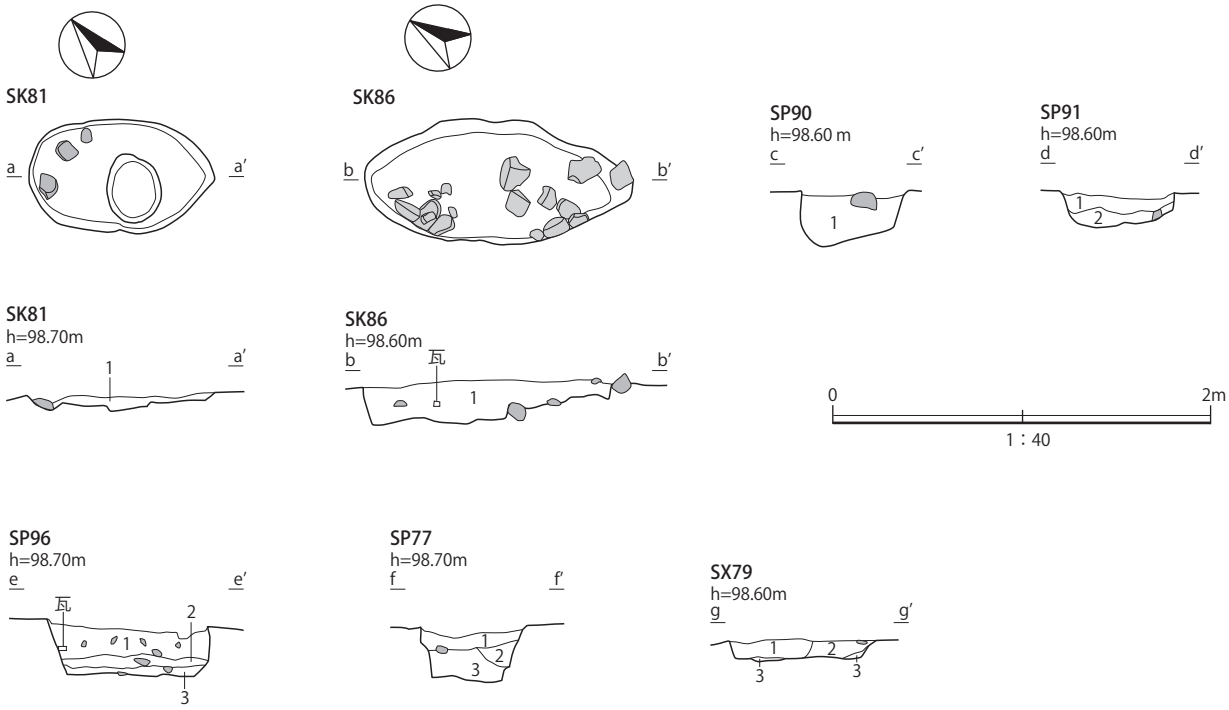
遺構番号	図版	写真図版	地区	グリッド	掘り方平面形	掘り方直径(cm)	深さ(cm)	柱痕平面形と直径（cm）・重複・出土遺物・備考
SP202	31	10	1 区 E	2527	不明		28	礎石（楕円形 70 × 50 × 20 ㎝）
SP203	31	10	1 区 E	2325・2326	楕円形	108 × 86	36	礎石（方形 58 × 58 × 40 ㎝）
SB270EP220	30	12	1 区 E	2427	楕円形	90 × 60	52	瓦破片
SB270EP221	30	12	1 区 E	2427	楕円形	72 × 54	60	陶磁器 (第 70 図 8)
SB270EP222	30	12	1 区 E	2427	楕円形	66 × 48	64	写真図版 49-1
SP223	30	12	1 区 E	2427	楕円形	66 × 48	52	
SP224	30	12・14	1 区 E	2427	円形	54	48	陶磁器 (第 70 図 4)
SB269EP227	30	12	1 区 E	2426	楕円形	150 × 66	36	根固石
SP228	30	13	1 区 E	2426・2427	楕円形	72 × 48		
SB269EP229	30	11・12	1 区 E	2426・2427	楕円形	126 × 111	28	EP229 → EP230・根固石・陶磁器 (第 70 図 10・第 71 図 3・6)・写真図版 50-1
SB268EP230	30	11	1 区 E	2426	楕円形	108 × 78	28	根固石
SB270EP231	30	12	1 区 E	2526	円形	60	24	陶磁器 (第 61 図 25)
SP234	30	13	1 区 E	2526	円形	60	18	根固石・陶磁器 (第 71 図 4)
SP235	30	13	1 区 E	2526	円形	54	16	根固石
SP236	30	13	1 区 E	2526	楕円形	51 × 36		
SB268EP237	30	11	1 区 E	2526・2527	不整楕円形	114	30	根固石・陶磁器 (第 71 図 7・9)
SB269EP238	30	11	1 区 E	2527	円形	96	20	根固石
SB268EP239	30	12	1 区 E	2427・2527	楕円形	102 × 72	16	
SP240	30		1 区 E	2526	楕円形	42 × 33	14	
SB270EP241	30	12	1 区 E	2526	楕円形	90 × 66	30	根固石
SP242	30		1 区 E	2526	円形	42		
SB270EP244	30		1 区 E	2426・2526	不整楕円形	72	18	根固石・陶磁器 (第 71 図 10)
SP218	34	13	1 区 E	2226・2227	円形	39	18	
SP219	34	13	1 区 E	2227	円形	69	40	円形・20 ㎝
SP226	34		1 区 E	2227	円形	69		瓦破片
SP77	35	20	3 区 W	1623	不整楕円形	69	26	近代以降・瓦破片
SP90	35	20	3 区 W	1822	楕円形	60 × 42	28	
SP91	35	20	3 区 W	1722	不整楕円形	60	20	
SP96	35	20	3 区 W	1622	円形	87	32	陶磁器 (第 76 図 4・6)・瓦破片
SP78	35		3 区 W	1623	円形	63		近代以降・瓦破片
SP97	35		3 区 W	1722	不整楕円形	84		陶磁器 (第 76 図 7)
SP98	35		3 区 W	1722	不整楕円形	57		



第 34 図　1 区東遺構群平面図



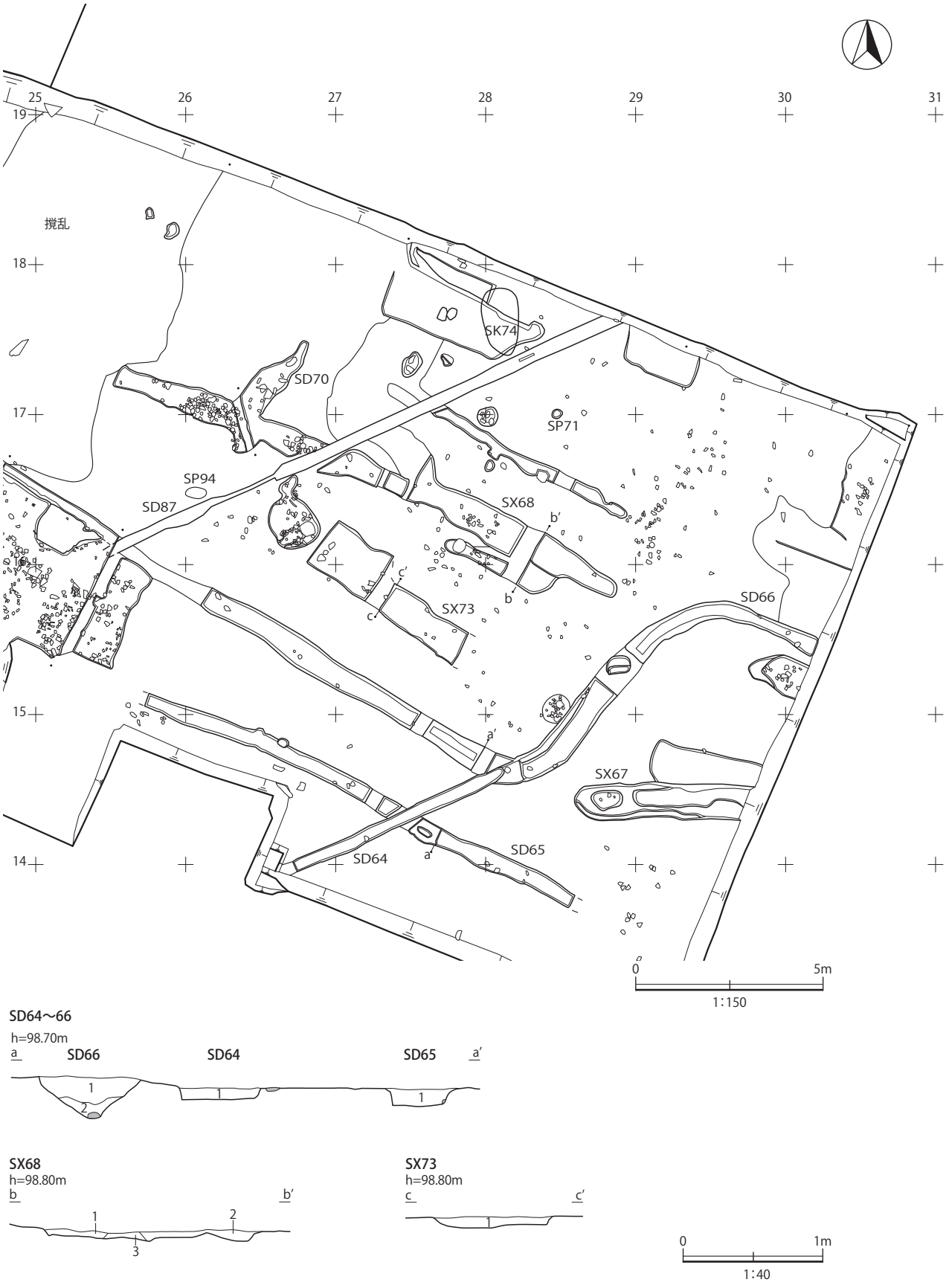
第 35 図　3 区西第 2 面柱穴・土坑群平面図



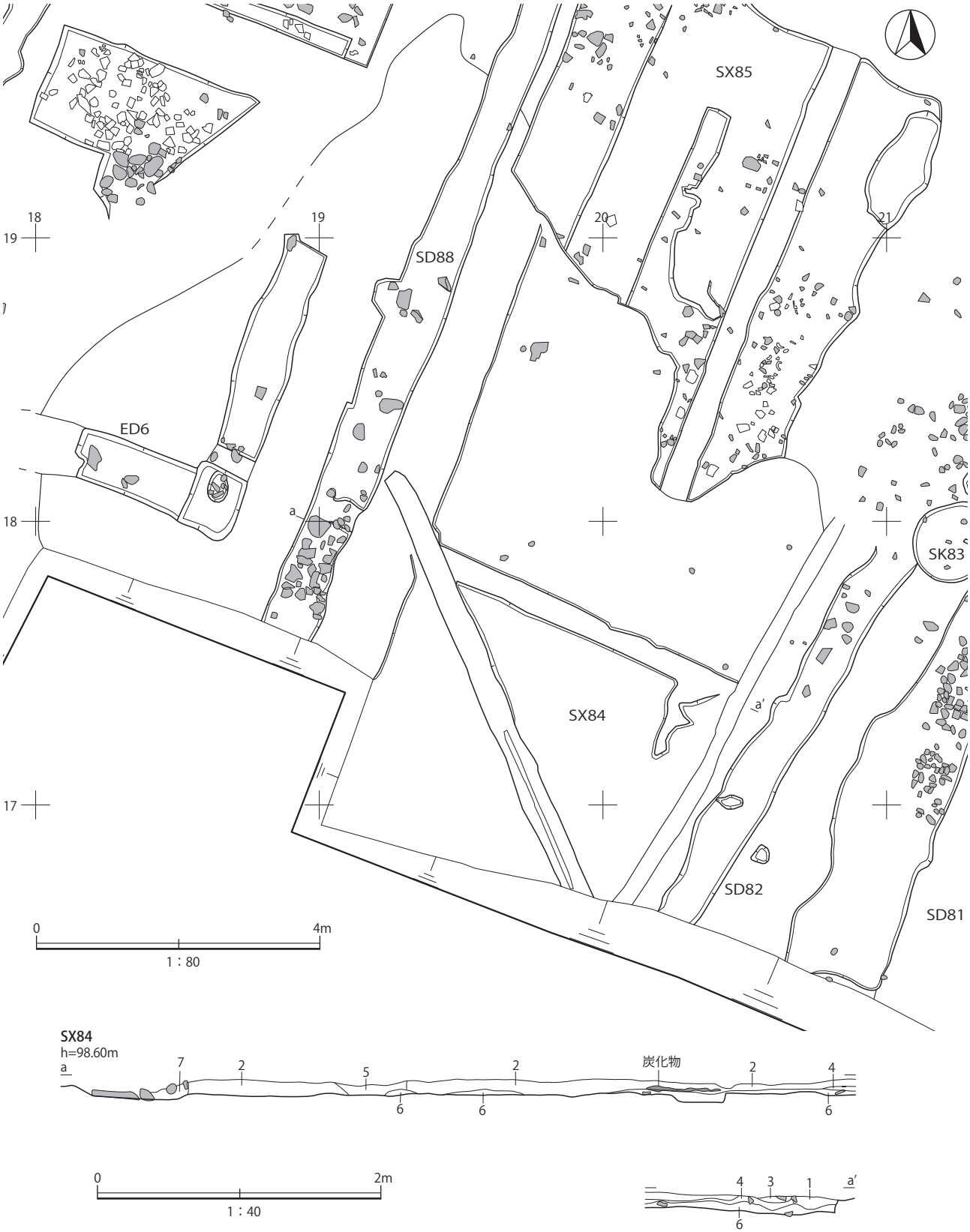
SK81
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや強い、粘性弱い、炭化米を多く含む、粘土粒（直径 5 ～ 10mm）を 3 %含む。
SK86
1　10YR2/1 黒色シルト　しまり中、粘性弱い、炭化米を多く含む、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 5 %含む。
SP90
1　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5mm）を 1%含む。
SP91
1　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中、10YR6/4 にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 5%含む、焼土粒（直径 5mm）を 3%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を少量含む。
2　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む。
SP96
1　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）10%含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）2%含む。
3　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）1%含む、暗褐色シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）10%含む。
SP77
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 7%含む、礫（直径 20 ～ 100 mm）を 10%含む。
2　10YR4/2 灰黄褐砂質シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）微量、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 10%含む。
3　7.5YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 10%含む。
SX79
1　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む、炭化物（直径 5mm）を 3%含む。
2　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 20mm）を 10%含む。
3　10YR4/4 褐色シルト　しまり強い、粘性中。

SD64
1　暗渠覆土　角礫 30 ～ 50mm。
SD65
1　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%、礫（直径 30 ～ 50mm）を 2%含む。
SD66
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 30mm）を 3%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
2　10YR4/2 灰黄褐シルト　しまり強い、粘性やや強い、礫（直径 10 ～ 30mm）を 1%含む。
SX68
1　7.5YR2/2 黒褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 10%、炭化米含む。
2　1に同じ。
3　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物を少量含む。
SX73
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化米微量含む、礫（10 ～ 100mm）を 10%含む。

第 36 図　3 区西第 2 面柱穴・土坑群 SK81・86・SP77・90・91・96・SX79 断面図



第 37 図　3 区東 SD64 ～ 66 溝跡・SX68・73 溝状遺構平面・断面図

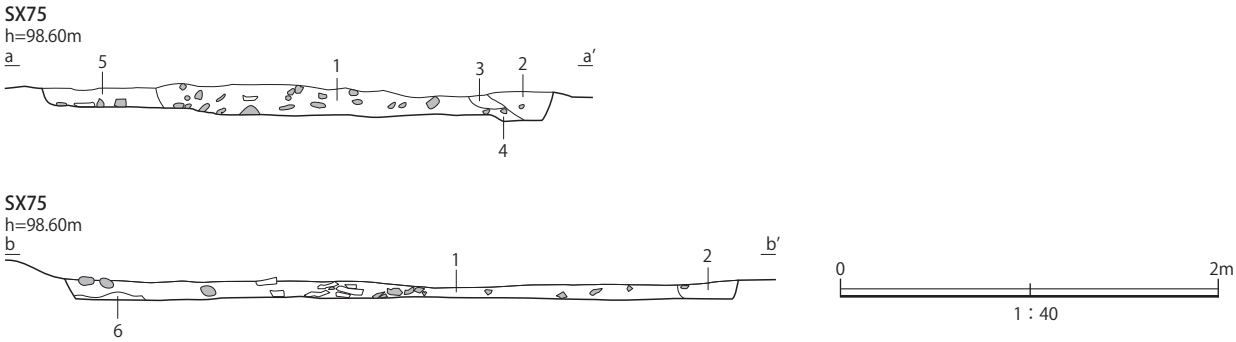


SX84

1　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　焼土粒（直径 5 ～ 10mm）7%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%含む、新しい。
2　7.5YR4/6 褐色シルト　しまり強い、粘性弱い、焼土ブロック・炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%含む。
3　10YR4/3 灰黄褐シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む。
4　10YR3/3 暗褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物層が入る、厚さ 2cm。
5　10YR3/2 黒褐色砂　礫を上層に多く含む（直径 20 ～ 50mm）、暗渠。
6　7.5YR6/1　褐灰色シルト混じり砂　しまり強い、粘性弱い
7　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、SD88 覆土、校舎基礎の礫（10 ～ 300mm）・コンクリート入る。

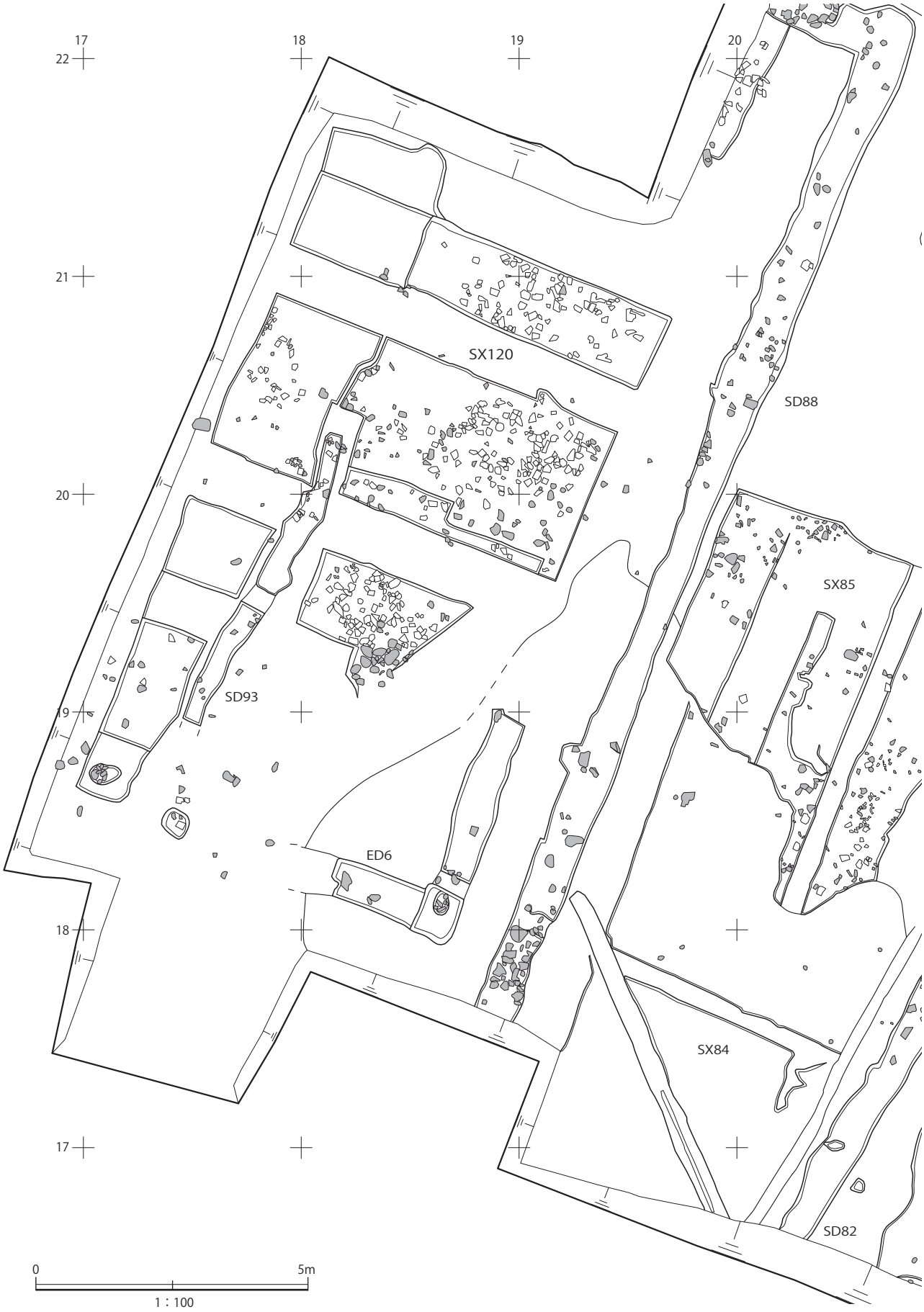
第 38 図　SX84 焼土遺構平面・断面図





3区 SX75（上層）
1　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3%、礫（直径 10 ～ 50mm）を 10%、瓦片を含む。
2　7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%含む、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 5%含む。
3　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 5%含む。
4　7.5YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 2%、焼土粒（直径 5mm）を 2%含む。
5　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を微量　礫（直径 10 ～ 50mm）を 3%含む。
6　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、礫（直径 20 ～ 50mm）を 2%含む。

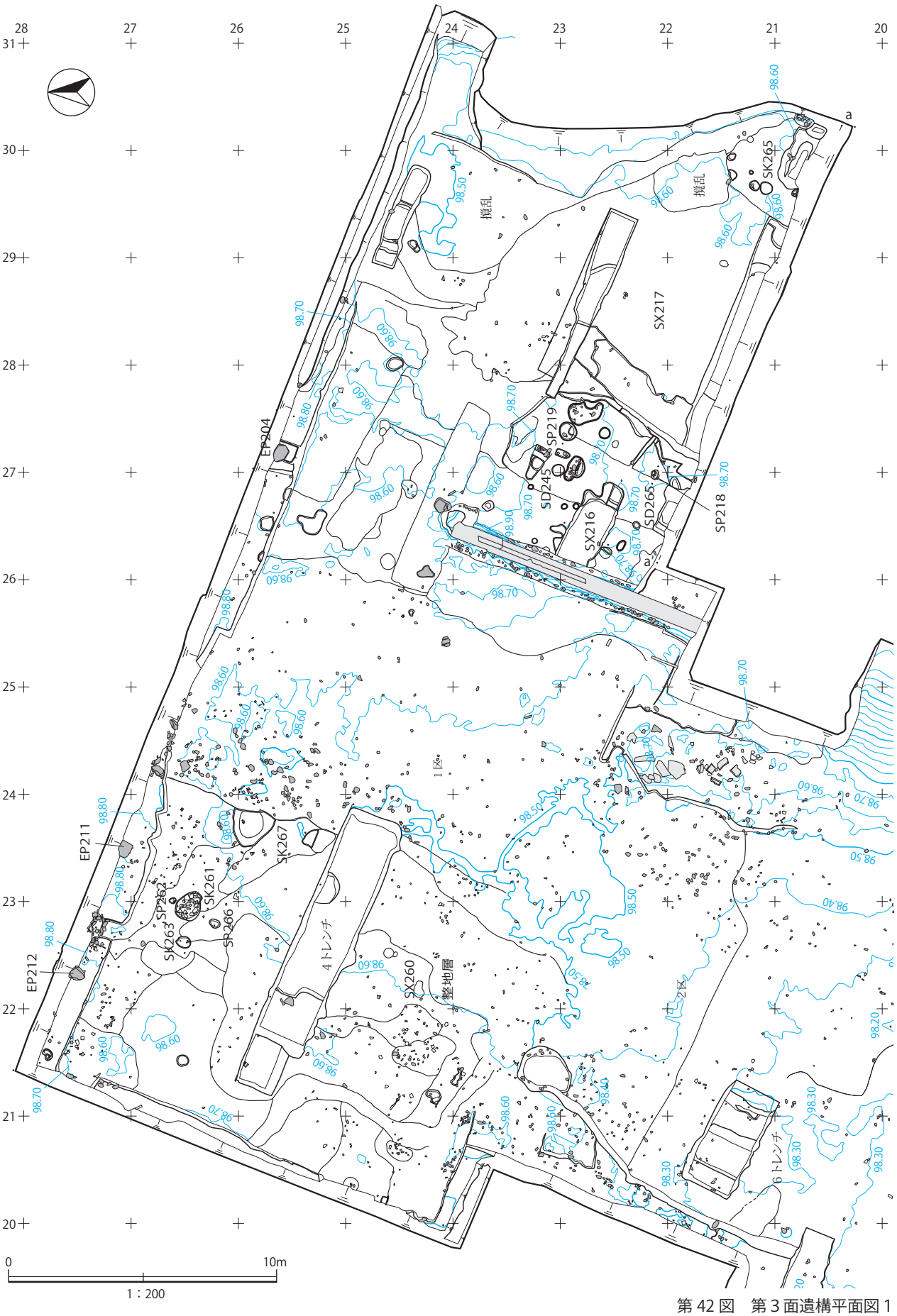
第 39 図　SX75 整地層上面平面図・断面図



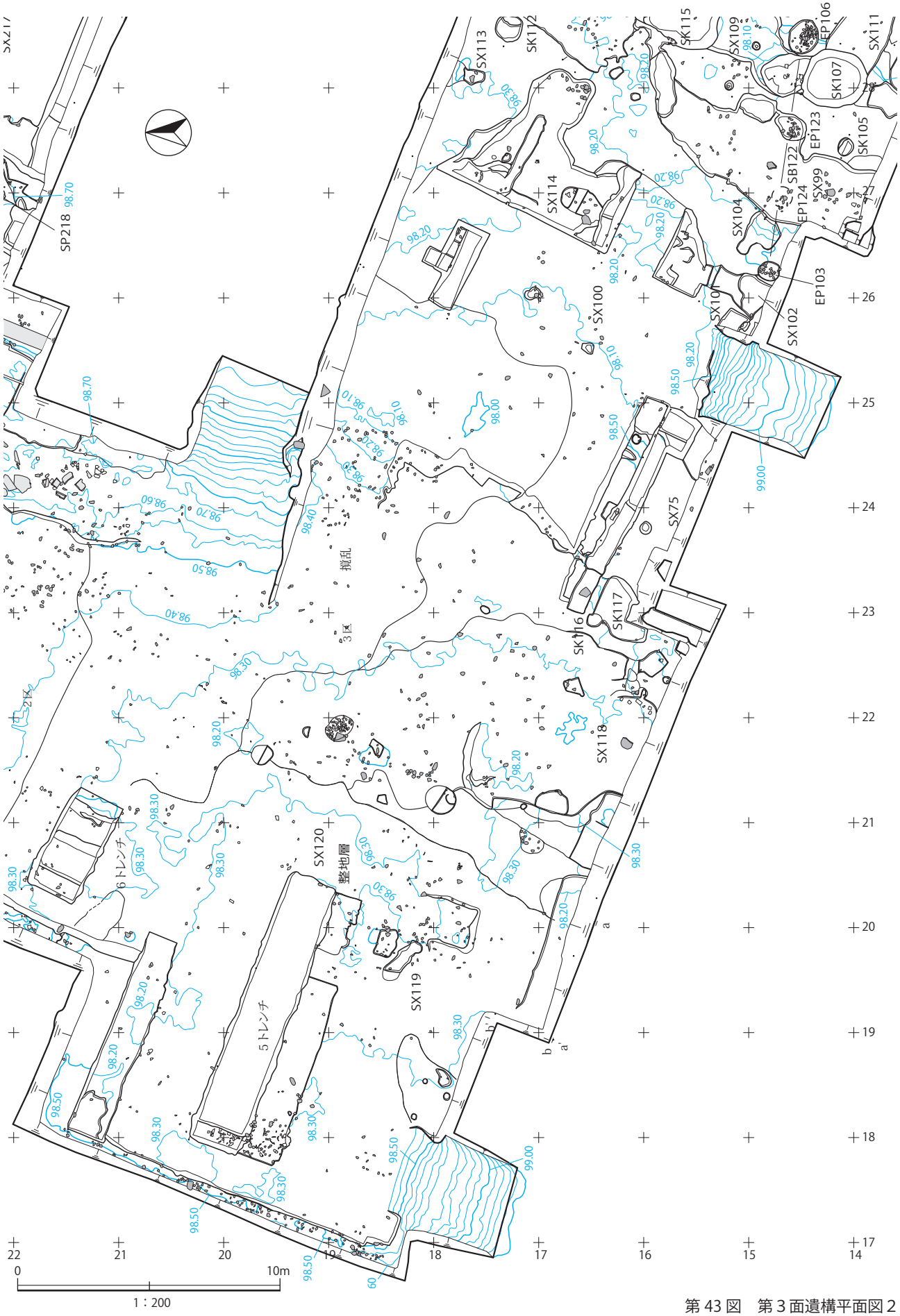
第 40 図　3 区 SX120 整地層平面図



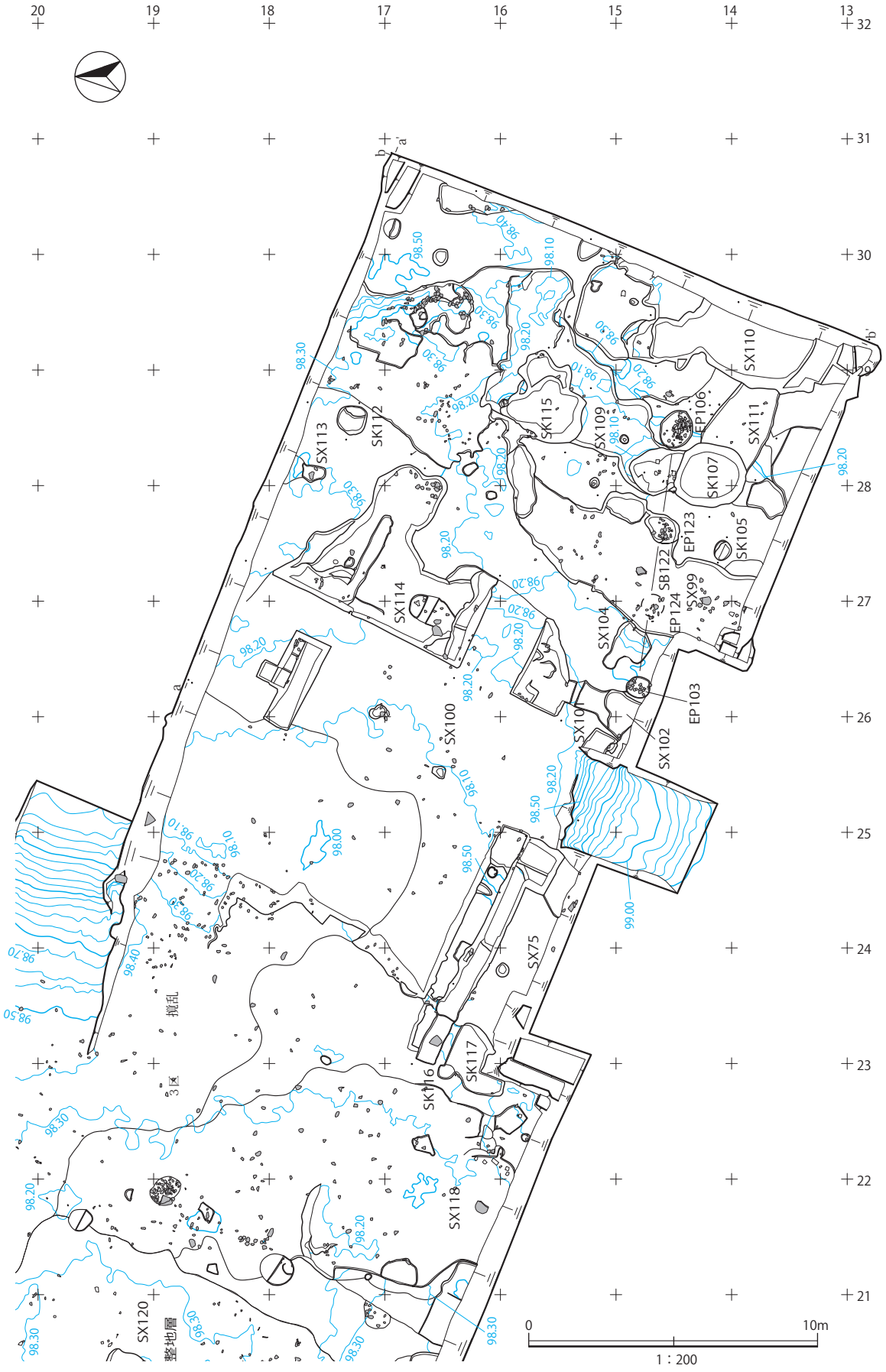
第 41 図　第 3 面調査区平面図



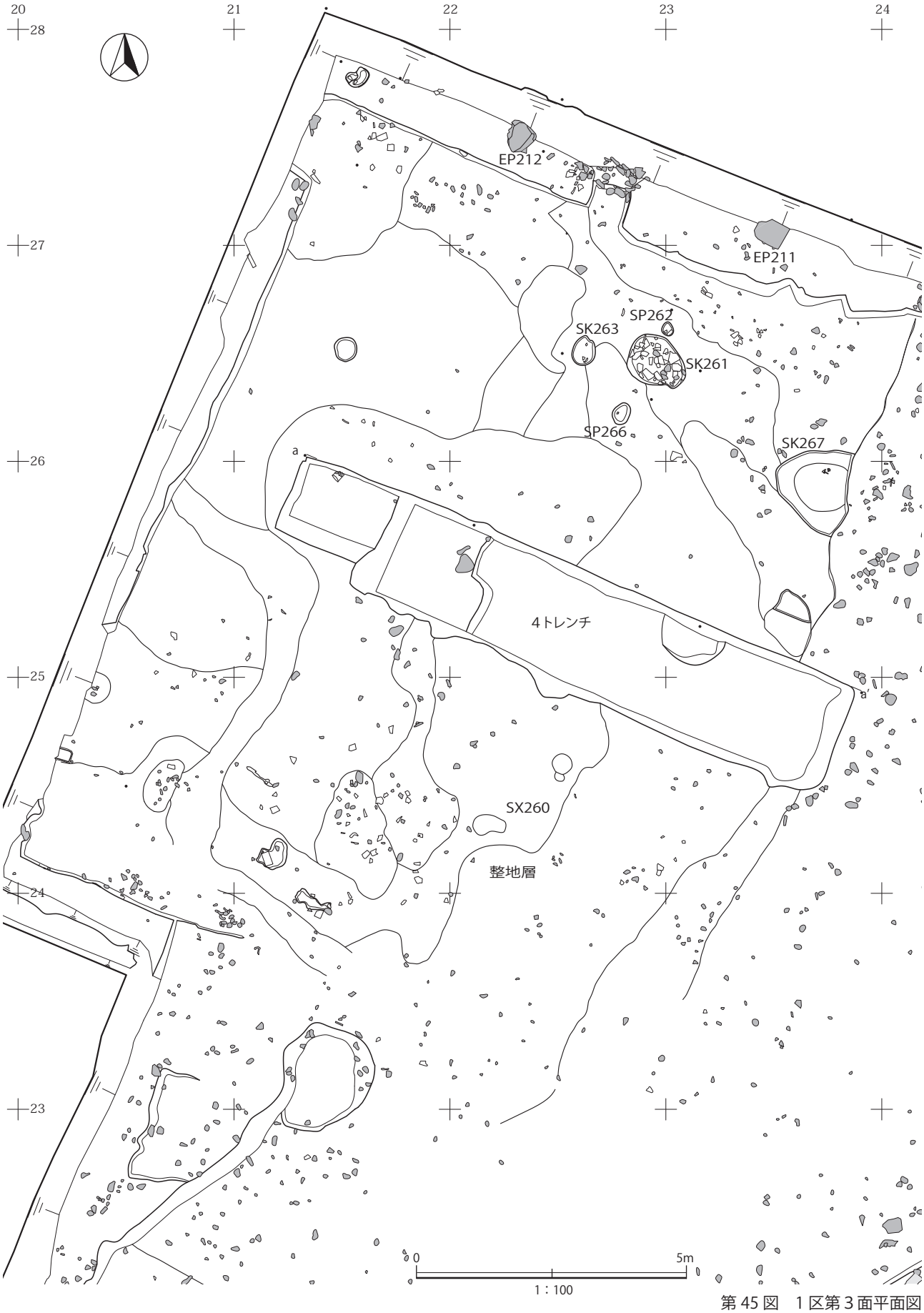
第 42 図　第 3 面遺構平面図 1



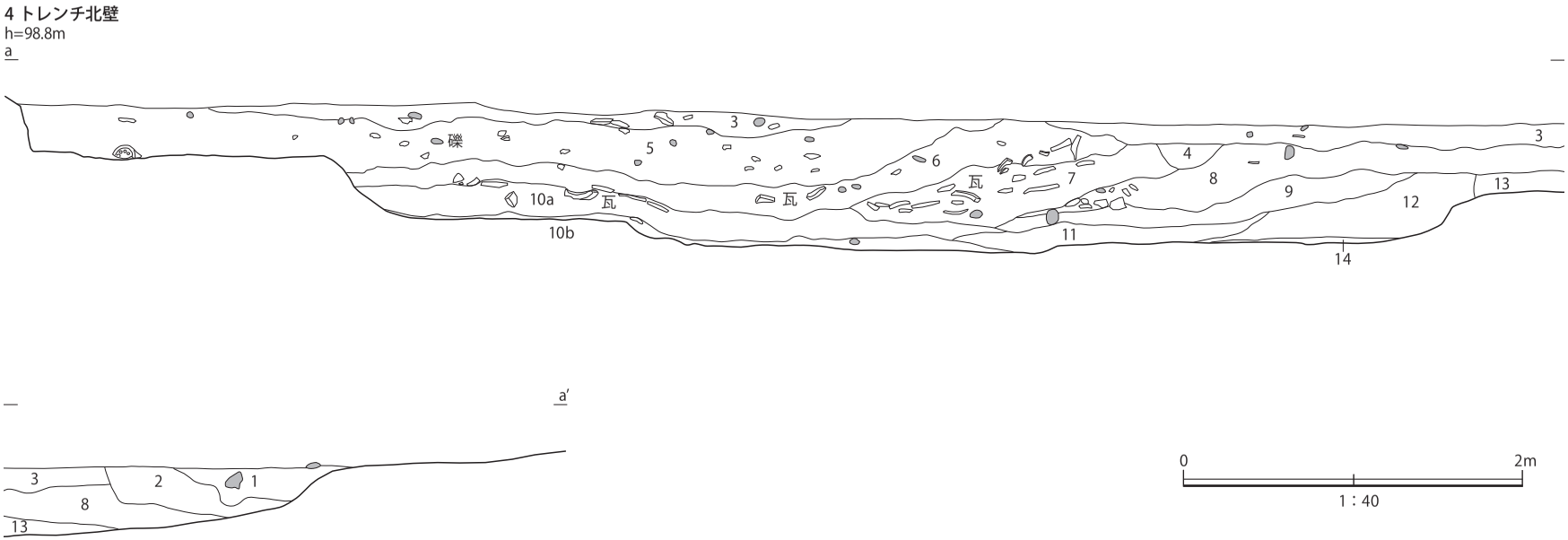
第 43 図　第 3 面遺構平面図 2



第 44 図　第 3 面遺構平面図 3



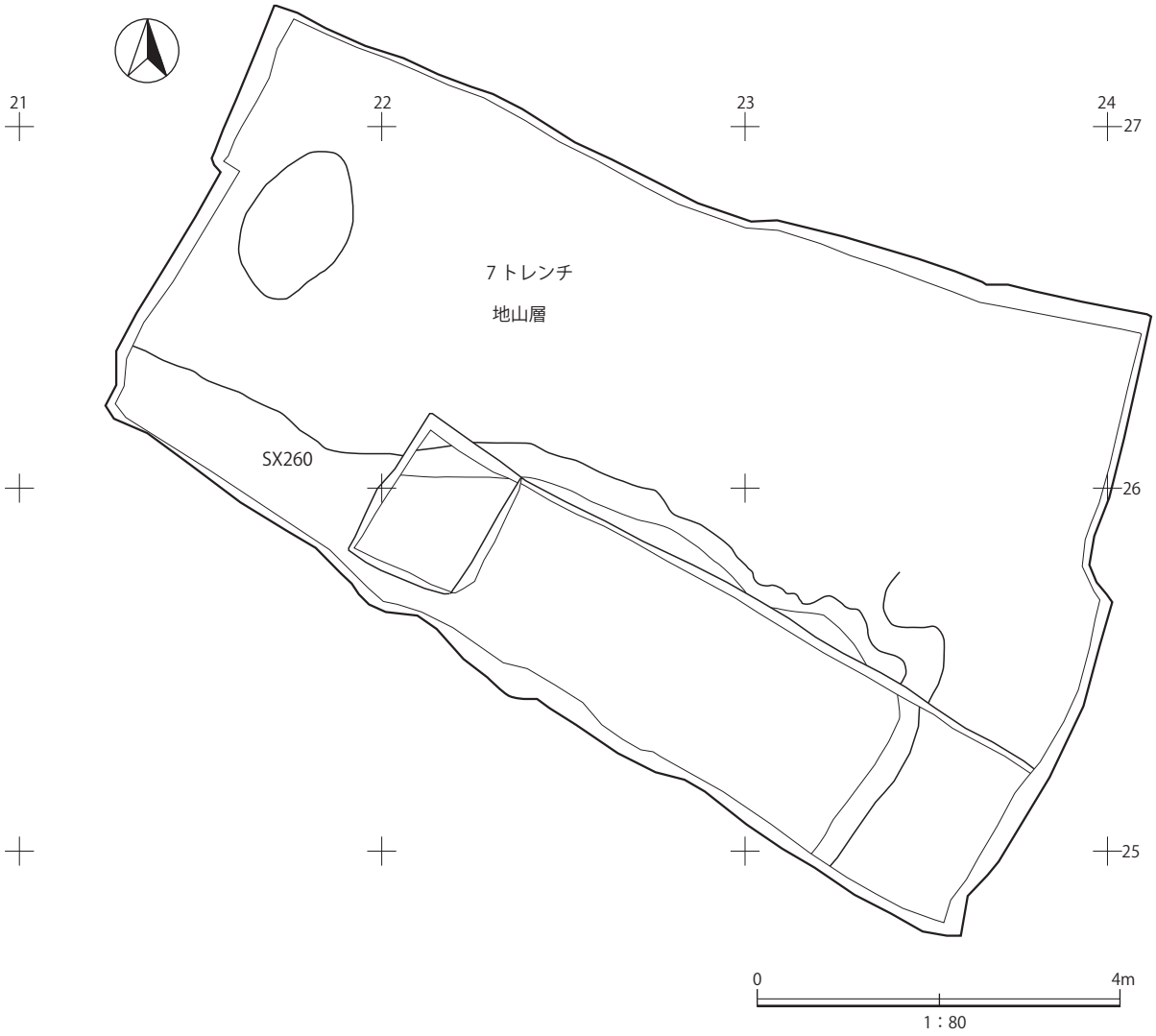
第 45 図　1 区第 3 面平面図

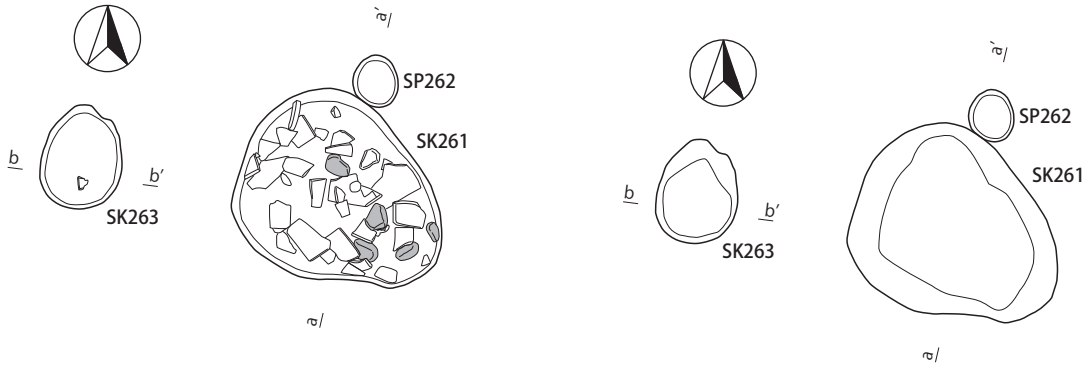


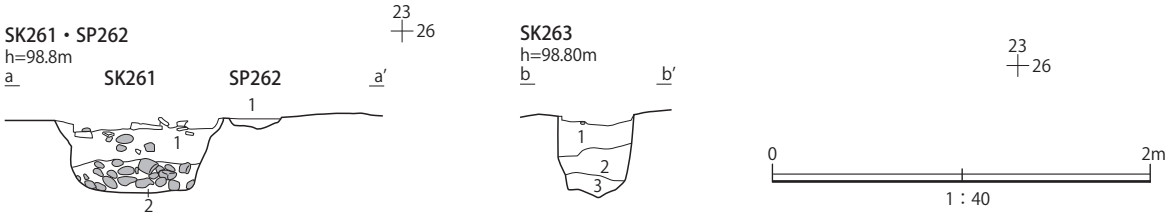
1 区 SX260　4 トレンチ

1　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、攪乱、上層に黒褐色シルト層が入る。
2　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を微量、酸化鉄を少量含む。
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2%、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 2%含む。
4　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3%、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
5　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 70 ～ 80mm）を 7%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む。
6　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 50mm）を 50%含む、炭化物（直径 5 ～ 10 mm）を 1%含む。
7　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 50mm）を 10%炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2%、瓦を多く含む。
8　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10 mm）を 20%、黒色シルトブロック（直径 10 ～ 30 mm）を 70%、瓦を含む、炭化物（直径 10 ～ 20mm）を 5%含む。
9　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
10a　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物塊（直径 10 ～ 100mm）を 15%、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 30mm）を 10%含む。
10b　10YR4/1 褐灰色シルト　しまり強い、粘性中。
11　10YR2/1 黒色シルト　しまり中、粘性中、上層に炭化物の層あり、植物依存体を多く含む。
12　10YR4/1 褐灰色シルト　しまり強い、粘性中、上層に炭化物混じりの層あり、酸化鉄を含む。
13　10YR6/3 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性やや強い、地山。
14　2.5Y7/2 灰黄色シルト　しまり強い、粘性やや強い、地山。

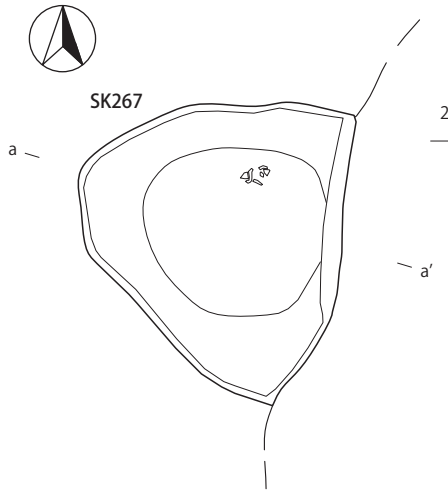
第 46 図　1 区 SX260 整地層 4 トレンチ断面図



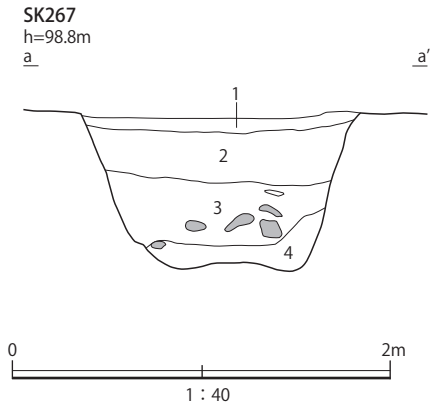




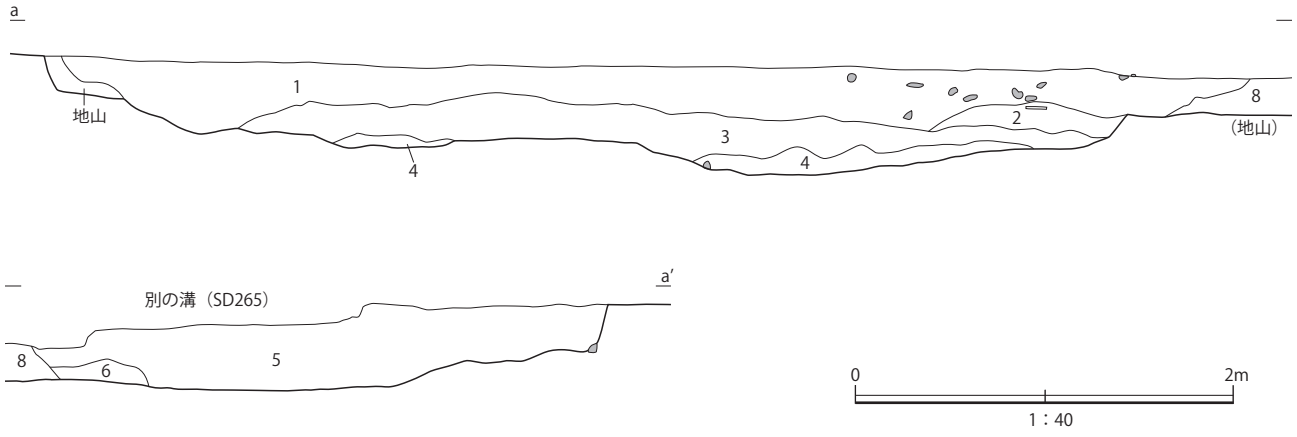
第 47 図　1 区 7 トレンチ平面図・SK261・263・267 土坑・SP262・263 柱穴平面・断面図



SK261
1　10YR3/3 暗褐色粘土質シルト　炭化物（直径 5 ～ 20mm）を含む、上面に瓦の大量廃棄。
2　礫層　拳大の円礫で構成される、暗褐色のシルトを含む。
SP262
1　10YR4/2 灰黄褐色シルト　炭化物（直径 5 ～ 10mm）を少量含む。
SK263
1　10YR2/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 5%含む。
2　10YR3/2 黒褐色砂　しまり弱い、礫（直径 30 ～ 50mm）を少量含む。
3　10YR4/2 灰黄褐色砂　しまりやや強い、礫を多く含む。
SK267
1　10YR3/1 黒褐色シルト　黄褐色土粒、炭化粒・材を多量に含む。
2　10YR3/3 暗褐色粘土質シルト　黄褐色土粒を含む。
3　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト　円礫を大量に含む。
4　10YR2/1 黒色粘土質シルト　円礫を大量に含む、黄褐色土粒を互層状に含む。



SX217　※セクションポイントは第 49 図に表記。



SX217
1　10YR4/2 ～ 3/2 灰黄褐色～黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 5 %、礫（直径 10 ～ 30mm）を 3%含む。
2　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり中、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 50mm）を 5 %、炭化物（直径 5 ～ 10 mm）を 2%含む。
3　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2%含む。
4　10YR6/3 にぶい黄橙砂質シルト　しまり強い、粘性中、暗褐色シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 7%、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
5　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%含む。
6　10YR4/2 灰黄褐砂質シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 10%含む。
7　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中。
8　10YR6/3 にぶい黄橙砂質シルト　しまり中、粘性中。

第 48 図　1 区 SK261・263・267 土坑・SP262・263 柱穴平面・断面図・SX217 落ち込み遺構断面図



第 49 図　1 区東第 3 面平面図



第 50 図　3 区東遺構平面図 1

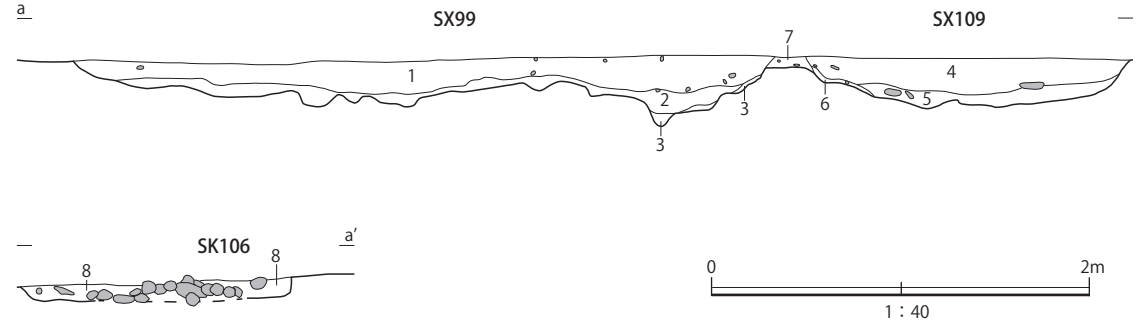


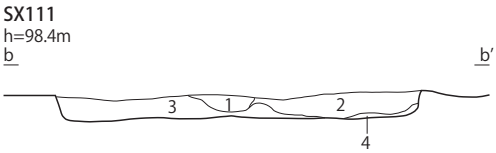
第 51 図　3 区東遺構平面図 2

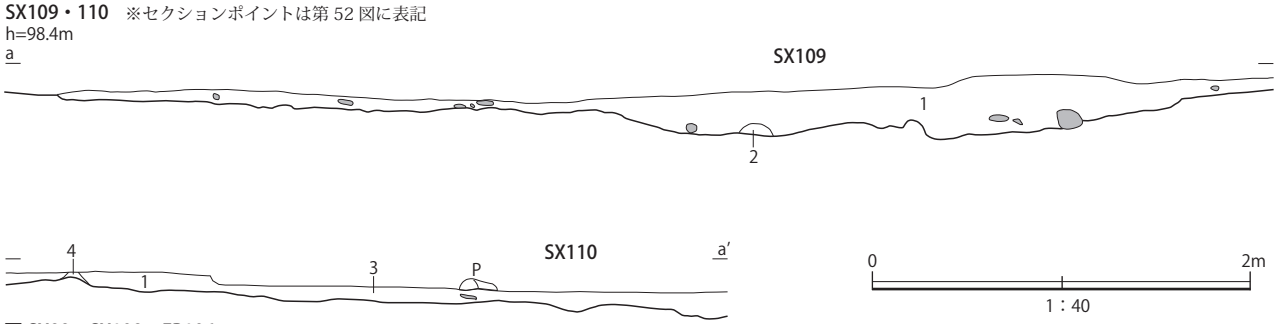


第 52 図　3 区東遺構平面図 3









3 区 SX99・SX109・EP106

1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、酸化鉄を少量、炭化物（直径 5mm）を微量、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
2　10YR3/3 暗褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 10%含む。
3　10YR5/3 にぶい黄褐色砂　しまり中、地山。
4　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、酸化鉄を少量、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
5　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 3%含む。
6　10YR5/3 にぶい黄褐色砂　しまり中、3 に類似する。
7　10YR4/2 灰黄褐色礫混じり砂　しまり強い、地山。
8　10YR4/2 灰黄褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性弱い、小礫・礫を含む。

第 53 図　3 区 SB122 建物跡平面図・SX99・109 ～ 111 溝状遺構断面図

SX111
1　10YR5/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロックを 5%含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色シルトブロックを 7%含む。
3　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロックを 3 %含む。
4　10YR3/3 にぶい黄褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性やや弱い、灰黄褐色シルトブロックを 5%含む。

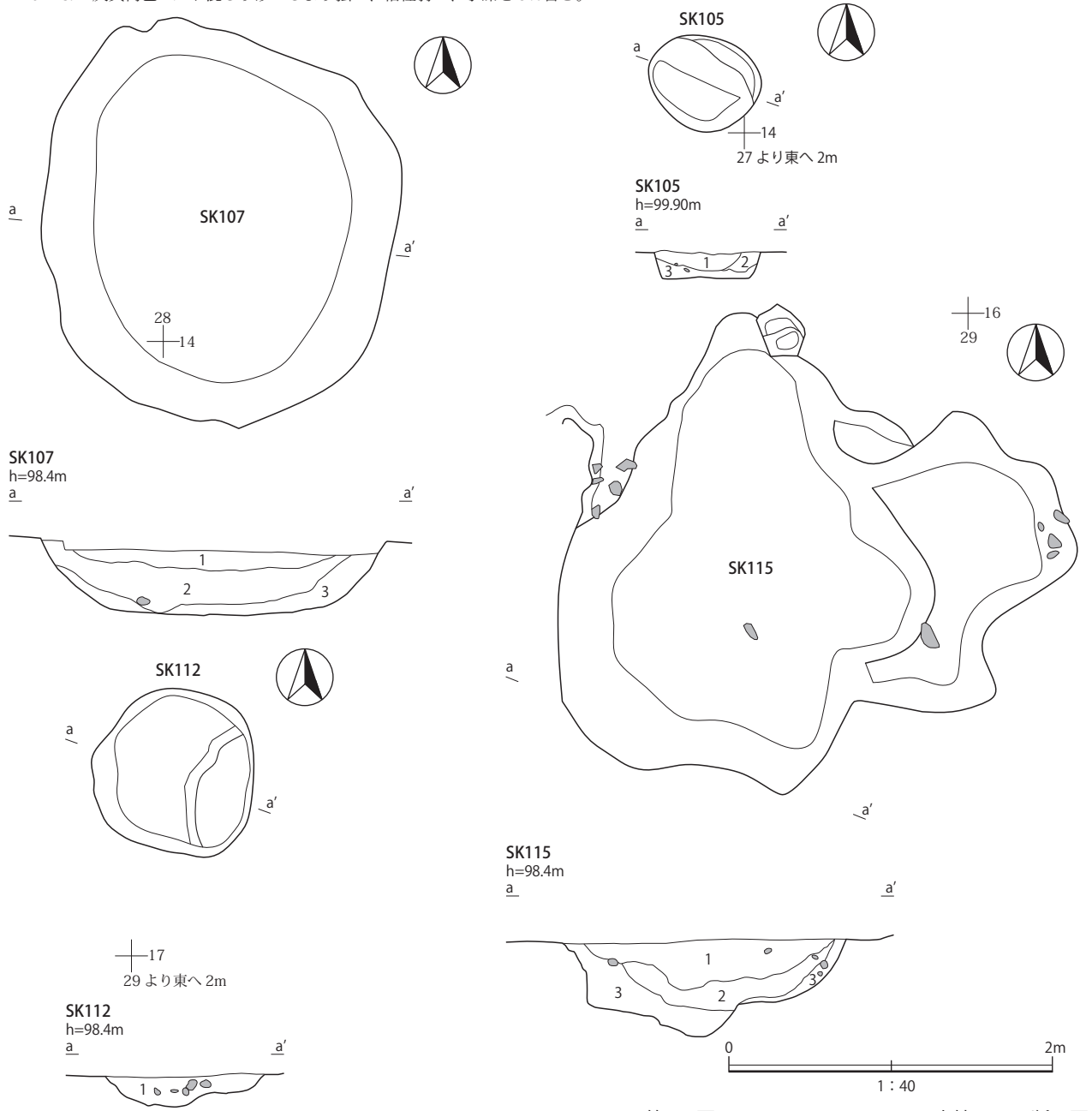
SX109・110
1　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロックを 3%含む。
2　10YR5/3 にぶい黄褐色砂　しまり中。
3　10YR3/2 黒褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロックを 3%含む。
4　10YR6/4 にぶい黄橙砂混じりシルト　しまり強い、粘性中、地山。

SK105
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い､粘性中､炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%､10YR6/4 にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 30mm）を 3%含む。
2　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2%、焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 1%、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 5%含む。

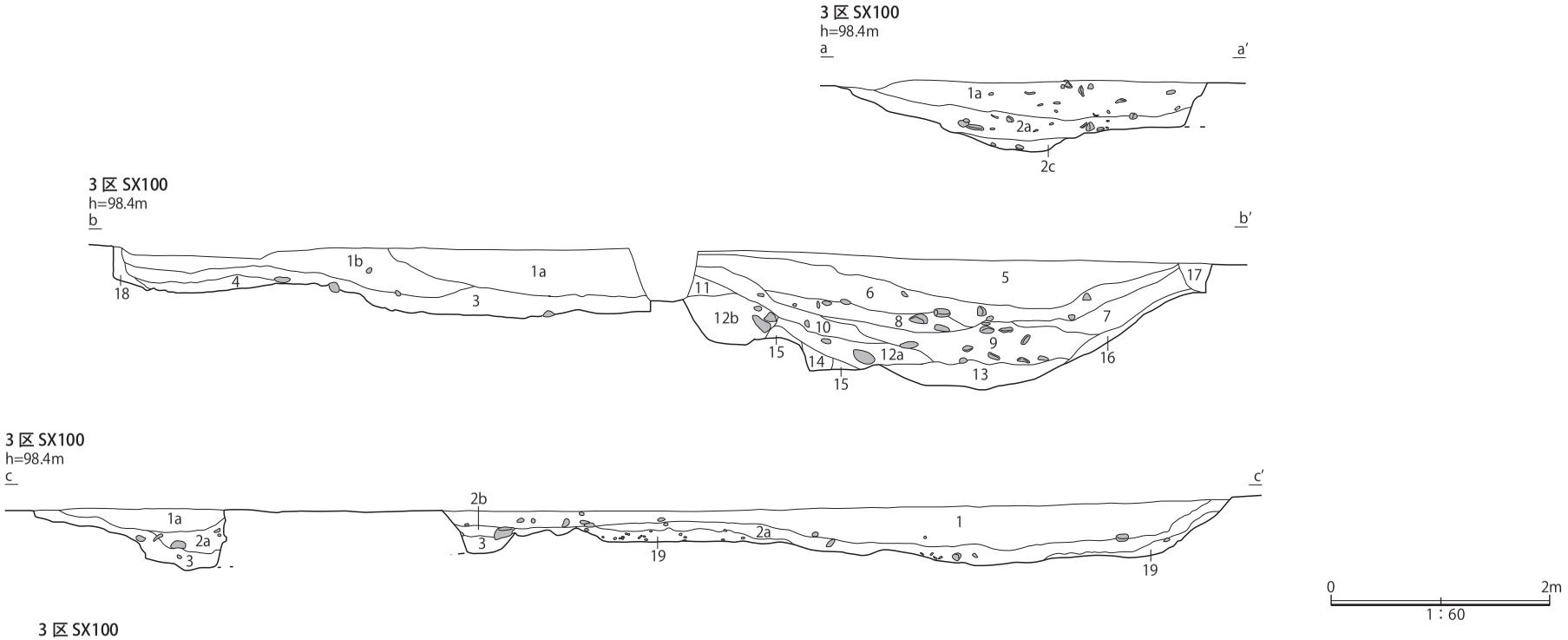
SK107
1　10YR4/2 にぶい黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 40mm）を 30%含む。
2　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 10 ～ 30mm）を 3%含む。
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 10mm）を微量含む。

SX112
1　10YR3/1 黒褐色シルト　明黄褐色土ブロックを含む。

SK115
1　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物を少量含む、礫（5 ～ 20mm）を 2 %含む。
2　10YR5/2 灰黄褐色シルト混じり砂　しまり強い、粘性やや弱い、小礫を 5%、にぶい黄橙色砂ブロックを 10%含む。
3　10YR3/2 灰黄褐色シルト混じり砂　しまり強い、粘性弱い、小礫を 5%含む。



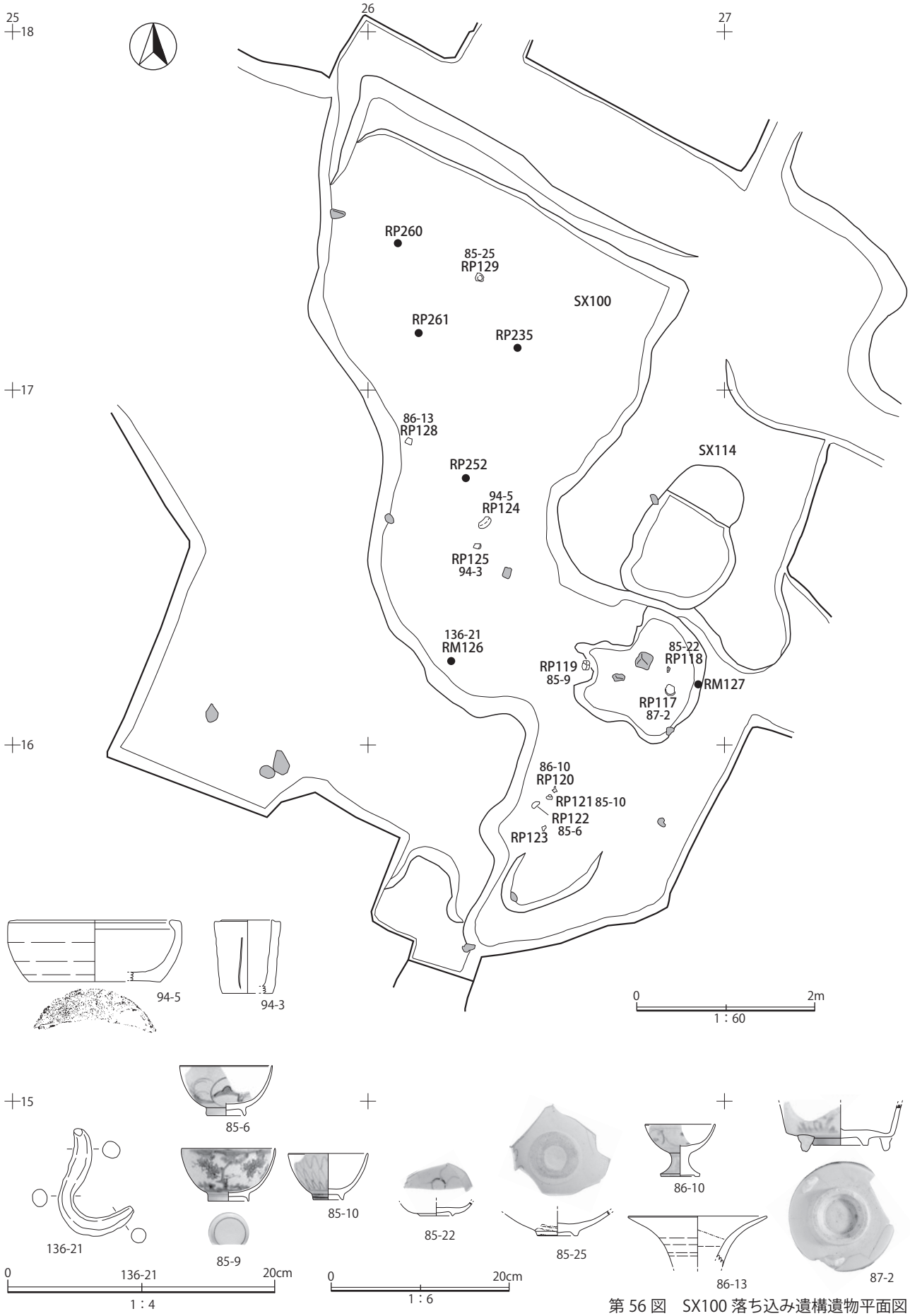
第 54 図 SK105・107・112・115 土坑平面・断面図



第 55 図 3 区 SX100 落ち込み遺構断面図

3 区 SX100

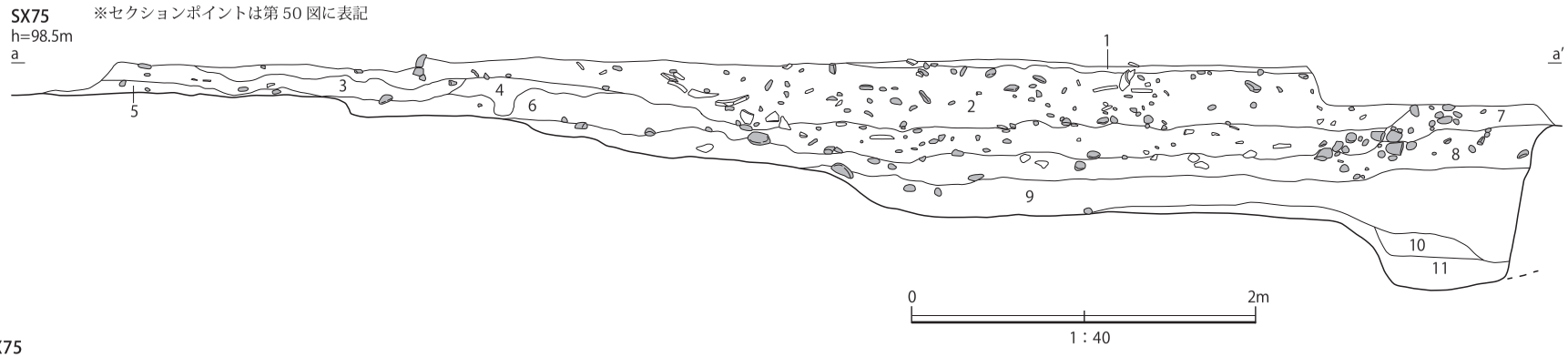
1 a　10YR4/2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 5％、円礫（直径 30 ～ 50mm）を少量含む、F1。
1 b　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を微量、礫（直径 30 ～ 50 mm）を 3％含む、F1b。
2 a　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 0.3％、礫（直径 20 ～ 100mm）を少量、F2。
2 b　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1％含む。
2 c　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 2％含む。
3　10YR5/3 にぶい黄褐砂　しまり強い、粘性弱い、礫（直径 10 ～ 30mm）を 30％含む。
4　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 10mm）を 3％
5　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い､粘性中､にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 5 ％含む､礫（直径 20 ～ 50 mm）を 2％含む､F1 併行。
6　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 2％含む、F1 併行。
7　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い、粘性中、礫（直径 20 ～ 50mm）を少量含む。
8　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや弱い、粘性中、礫（直径 30 ～ 200mm）大を含む。
9　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中、酸化鉄を含む、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2％　礫（直径 30 ～ 100mm）を 5％含む。
10　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり中、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 50mm）を 5％、礫（直径 30 ～ 50mm）を 5％含む。
11　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまりやや強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 100mm）を 3％含む。
12a　10YR4/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 10 ～ 100mm）を 50％含む、地山か。
12b　10YR3/2 黒褐色シルト　しまりやや強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10 mm）を 3％含む。
13　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径 10 ～ 50mm）を 20％含む。
14　10YR5/3 にぶい黄褐色砂　しまり中、礫（直径 10 ～ 50mm）を 50％、ピットか。
15　10YR4/3 にぶい黄褐色砂　地山。
16　10YR5/3 にぶい黄褐色砂　しまり中、粘性弱い、黒褐色シルトブロック（直径 20 ～ 50mm）を 5％含む。
17　10YR7/4 にぶい黄橙粘土　しまり強い、ブロック状に入る、黒褐色シルトが間を埋める、 5 ％以下。
18　10YR4/1 褐灰色砂混じりシルト　しまり強い、粘性やや弱い、地山（整地層の可能性）。
19　10YR4/3 にぶい黄褐色砂　しまり強い、礫（直径 10 ～ 50mm）を 30％、地山。



第 56 図　SX100 落ち込み遺構遺物平面図

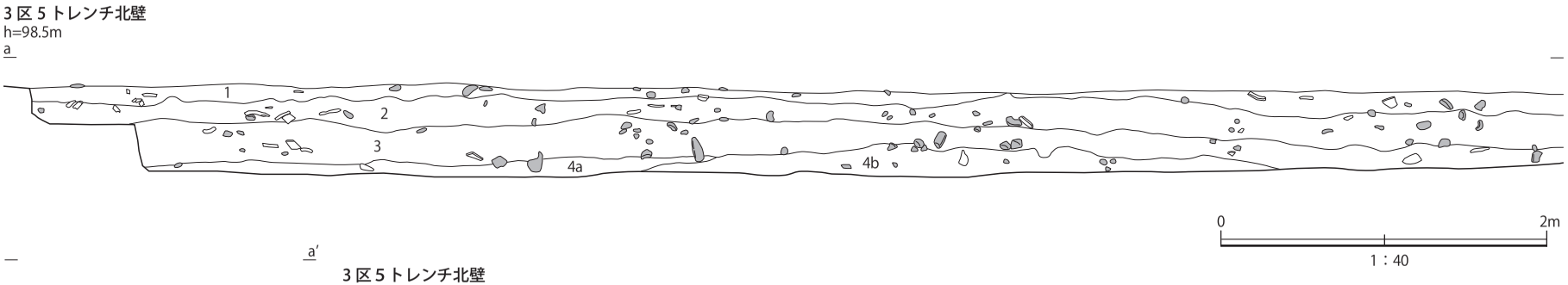


第 57 図　SX120 整地層・5 トレンチ・6 トレンチ平面図



3 区 SX75

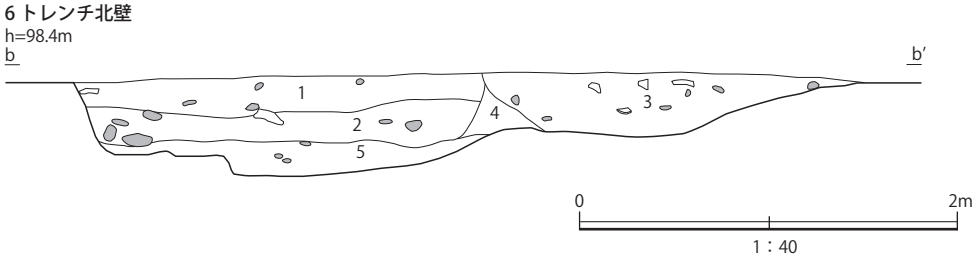
1　10YR6/4 にぶい黄橙砂質シルト　しまり強い、粘性弱い、黄褐色シルトブロックを含む。
2　10YR3/2 黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 3%、礫（直径 20 ～ 100mm）を 5%含む、瓦が多い。
3　10YR4/2　灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5mm）を 1%、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3%、礫（直径 20 ～ 80mm）を 15%含む。
4　10YR2/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 2%含む。
5　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 20mm）を 2%、礫（直径 30 ～ 80mm）を 5%含む。
6　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 10 ～ 40mm）を下層に多く含む、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
7　10YR3/1 ～ 3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径 20 ～ 100mm）を 20%、にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 10%含む。
8　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、酸化鉄を少量、礫（直径 20 ～ 50mm）を 1%含む。
9　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強　粘性中　酸化鉄を含む　にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3%。
10　9 とほぼ同じ　炭化物（直径 5mm）を 1%、にぶい黄橙シルト（直径 10 ～ 80mm）3%含む。
11　10YR4/3 にぶい黄橙砂、地山。



3 区 5 トレンチ北壁

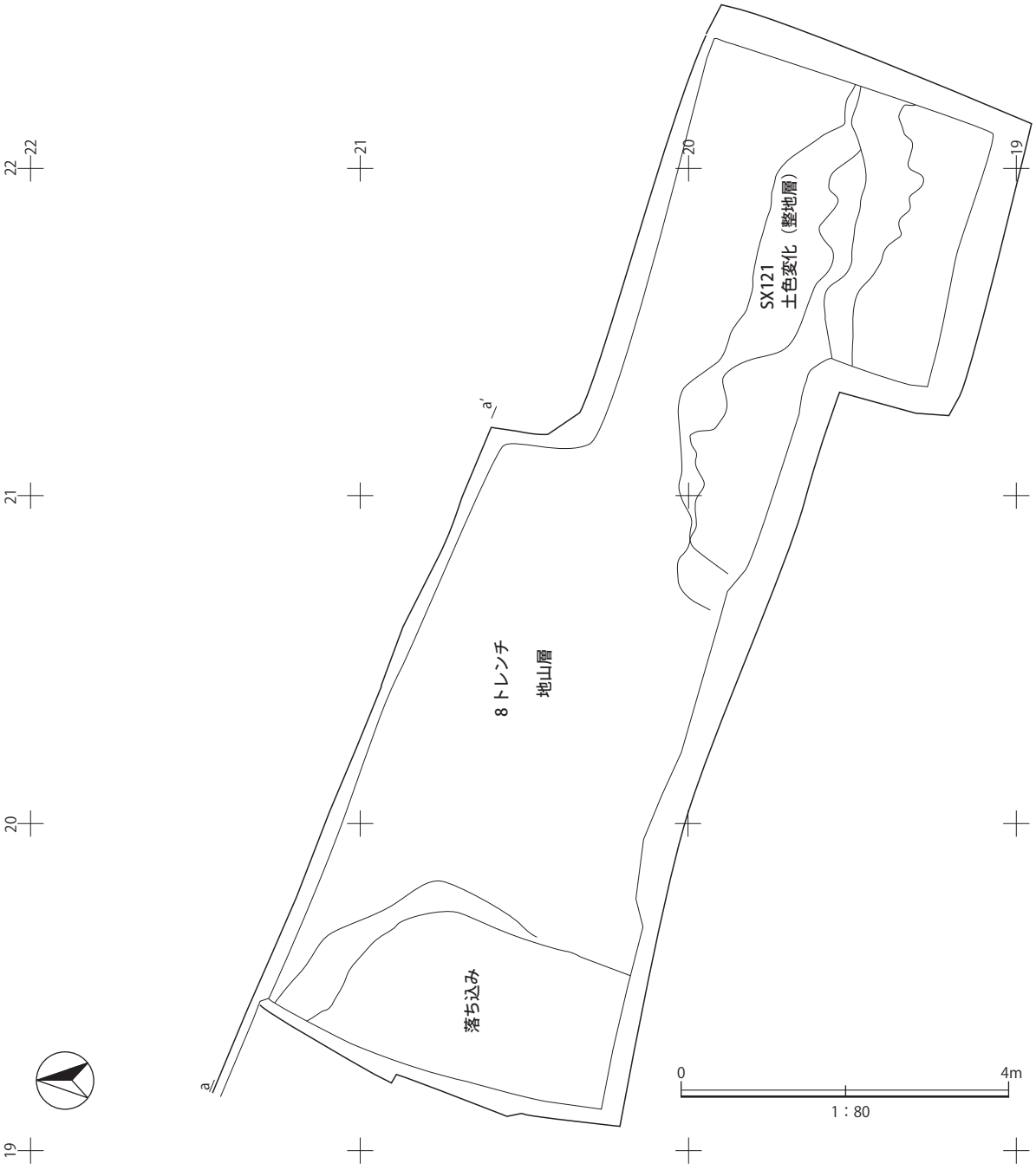
1　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%、にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5mm）を 1%含む、整地層。
2　10YR3/2 ～ 2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%、礫（直径 30 ～ 50mm）を 3%、10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 3%含む、整地層。
3　10YR2/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、炭化物（直径 5 ～ 10mm）を少量、礫（直径 30 ～ 50mm）を 2%、10YR4/4 褐色シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 1%含む。
4a　10YR3/2 黒褐色粘質土　しまり強い、粘性強い、漸移層。
4b　10YR6/4 にぶい黄橙砂　しまり強い、部分的にシルトや粘質土の所あり、礫（直径 10mm 以下）を 10%含む。

第 58 図　3 区 SX75 整地層・3 区 5 トレンチ断面図



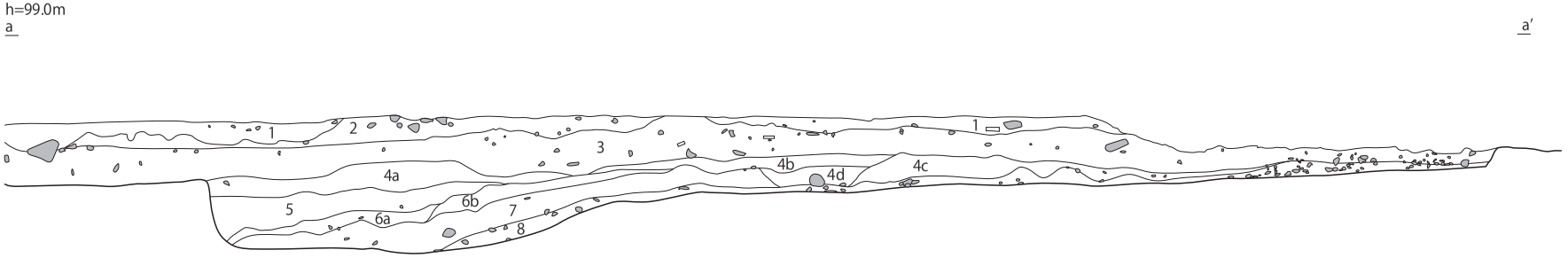
2区6トレンチ北壁

1　10YR5/2 灰黄褐砂質シルト　しまり強い、粘性弱い、礫（直径 20 ～ 50mm）を 3%含む。
2　10YR4/2 灰黄褐砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、礫（直径 20 ～ 80mm）を 3%含む。
3　10YR3/2 黒褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、攪乱が入っているか　にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 10%含む、瓦入る。
4　10YR5/3 にぶい黄褐砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、酸化鉄を少量、にぶい黄橙シルトブロック（直径 10mm）を 3%含む。
5　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、灰黄褐色シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 10%含む。



第 59 図　2区6トレンチ断面図・3区8トレンチ平面図

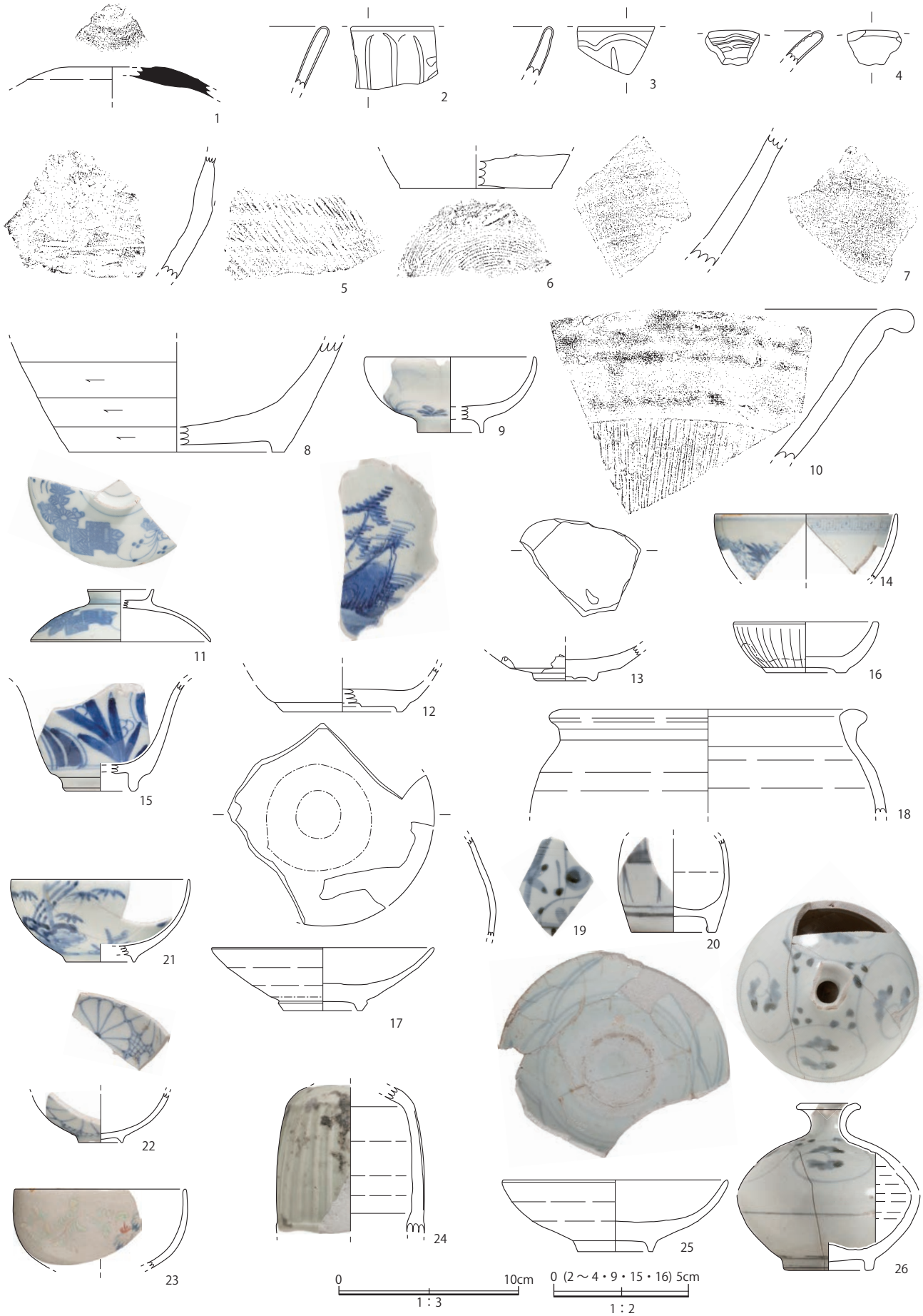
3区8トレンチ
h=99.0m



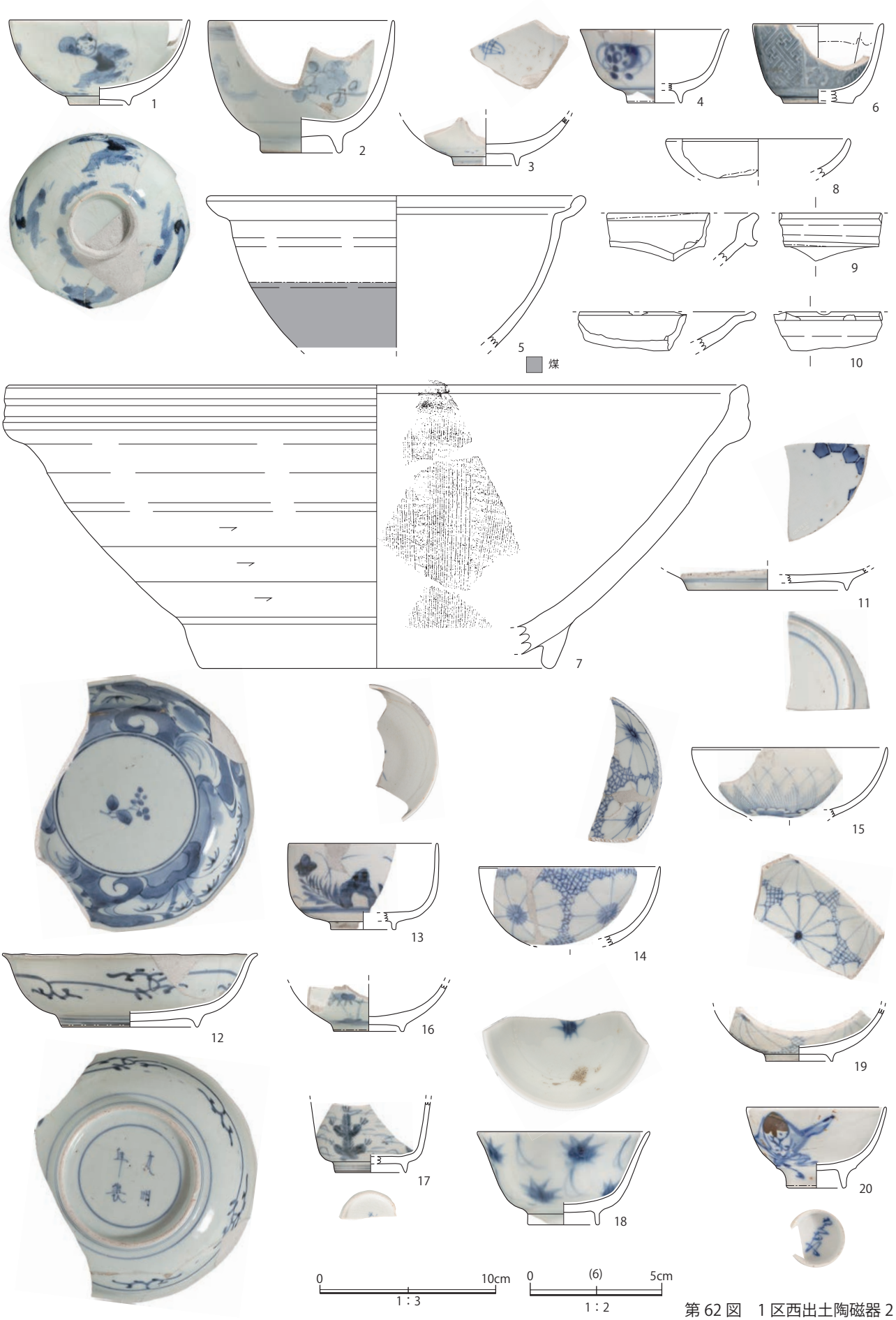
3区8トレンチ北壁

1　10YR3/2 黒褐色砂混じりシルト　しまり強い、粘性弱い、礫（直径10～40mm）を3%、炭化物（直径5～10mm）を2%含む。
2　10YR6/3 にぶい黄橙シルト　しまり強い、粘性中、黒褐色シルトブロック（直径10～30mm）を2%含む。
3　10YR3/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄橙シルトブロック（直径5～20mm）を2%含む。
4a　10YR2/2 黒褐色シルト　しまり強い、粘性やや強い。
4b　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、酸化鉄を少量、にぶい黄橙シルトブロック（直径5～10mm）を2%含む。
4c　10YR4/2 灰黄褐砂質シルト　しまり強い、粘性やや弱い、酸化鉄を含む。
4d　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　しまり強い、粘性中、酸化鉄を少量、にぶい黄橙シルトブロック（直径5～10mm）を5%含む。
5　10YR1.7/1 黒色シルト　しまり強い、粘性中、礫（直径50～200mm）を少量含む。
6a　5Y6/2 灰オリーブシルト　しまり強い、粘性中、オリーブ黒色シルトブロック（直径10～50mm）を15%含む。
6b　10YR5/2 灰黄褐色シルト　しまり強い、粘性中、にぶい黄褐色砂ブロックを5%含む。
7　10YR4/3 にぶい黄褐色砂混じりシルト　しまり強い、灰黄褐色シルトブロックを5%含む。
8　10YR4/3 にぶい黄褐色砂　しまり中、地山。

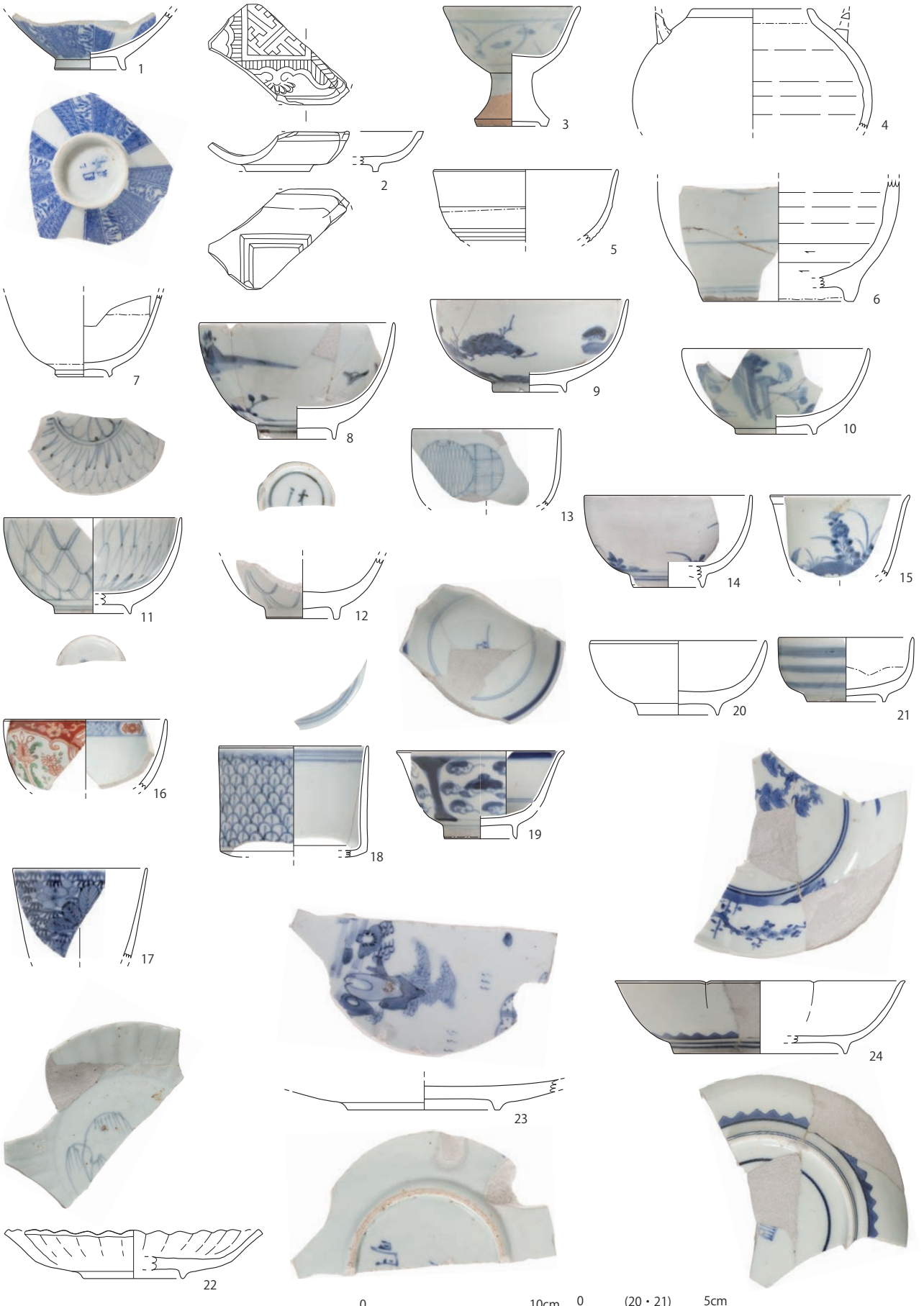
第60図　3区8トレンチ断面図



第 61 図　須恵器・青磁・珠洲・須恵器系陶器・1 区西出土陶磁器 1



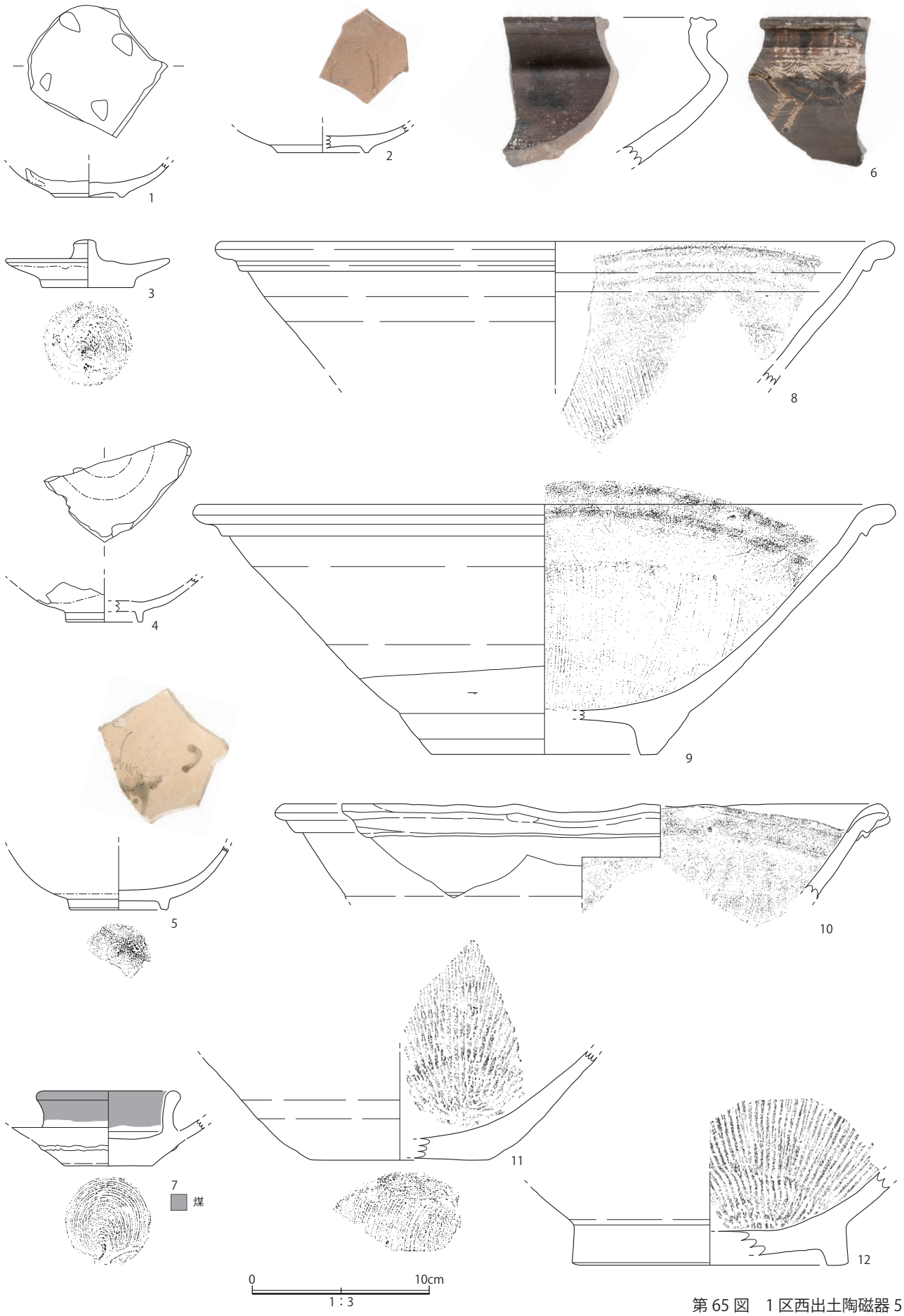
第 62 図　1 区西出土陶磁器 2



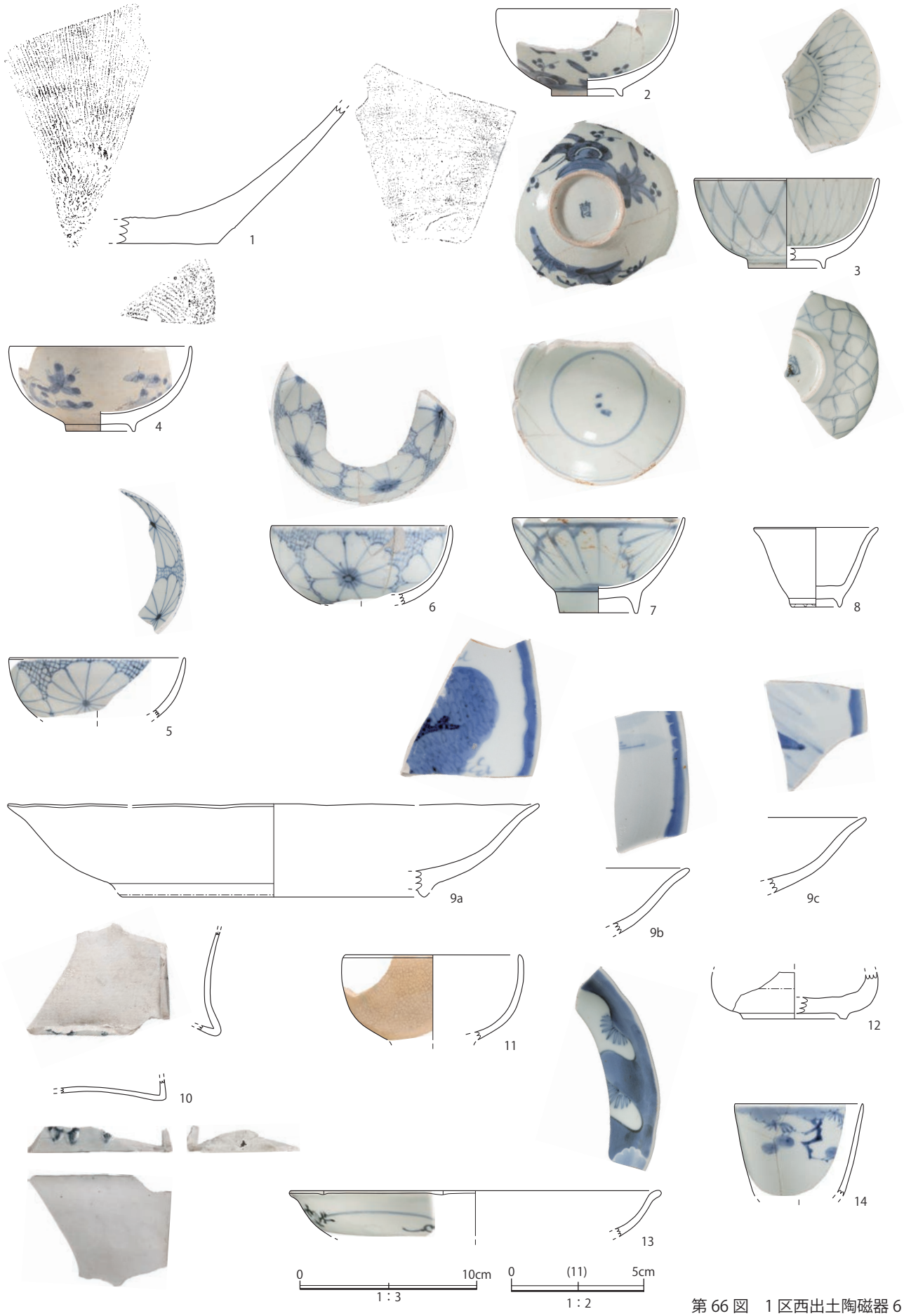
第 63 図　1 区西出土陶磁器 3



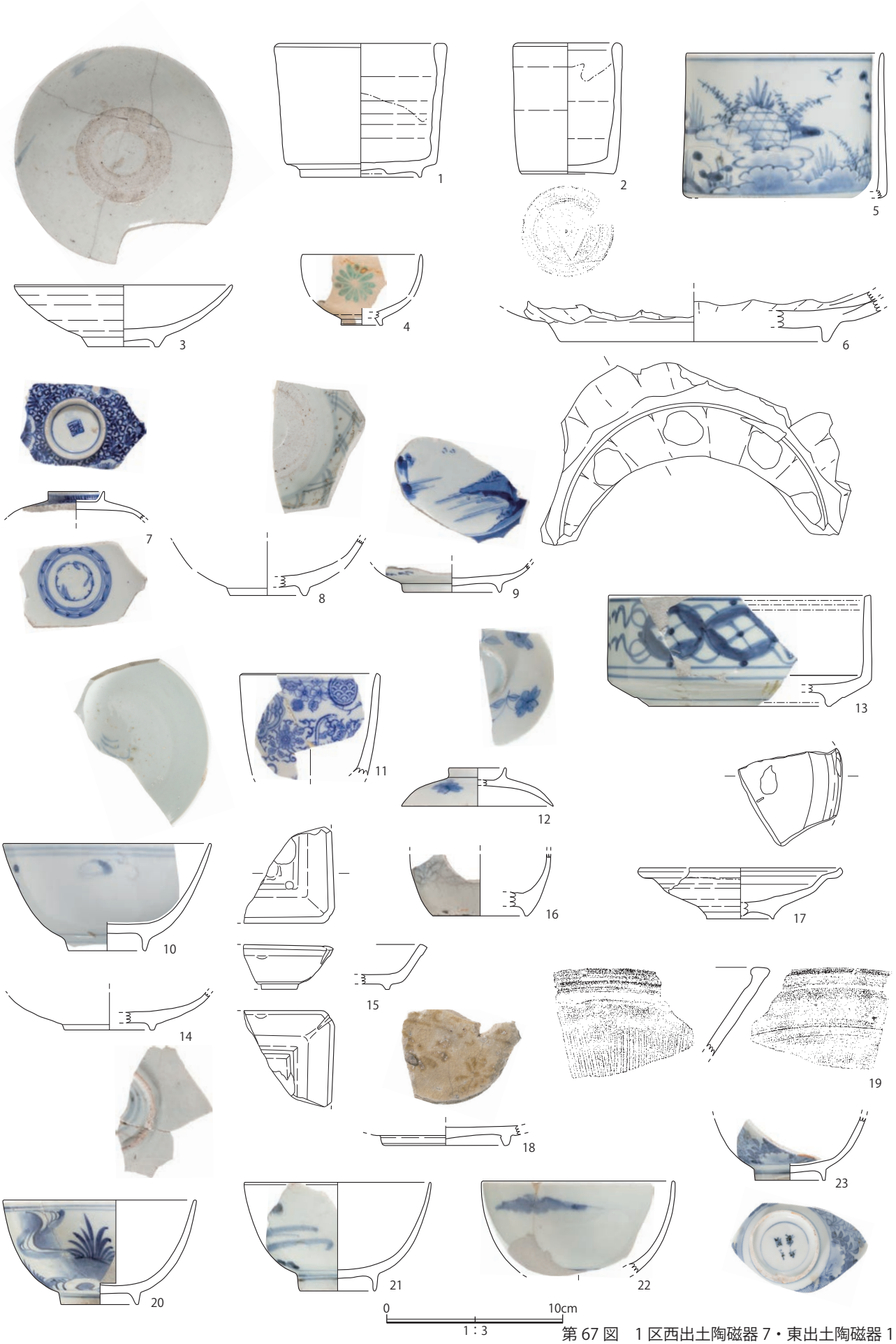
第 64 図　1 区西出土陶磁器 4



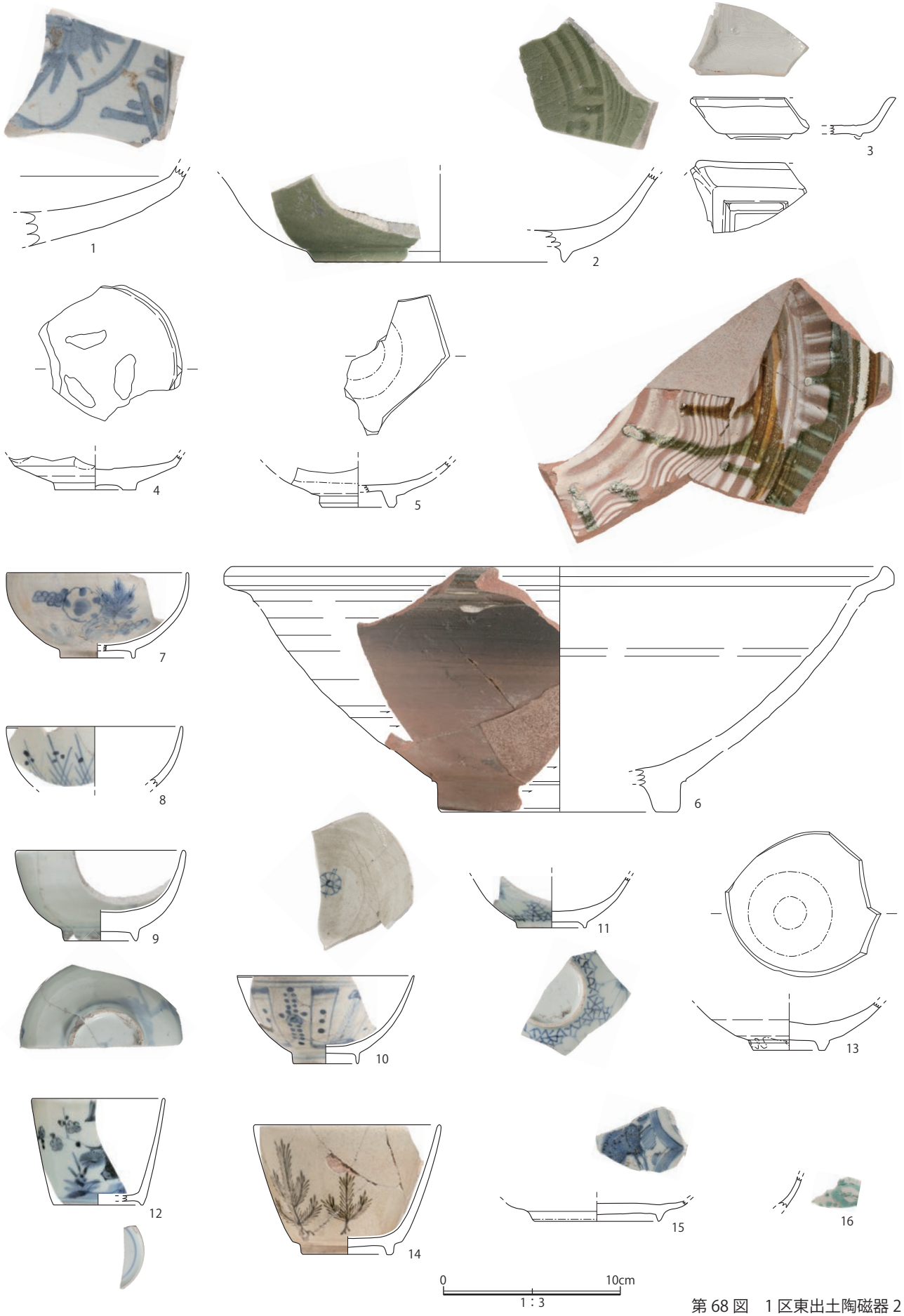
第 65 図　1 区西出土陶磁器 5



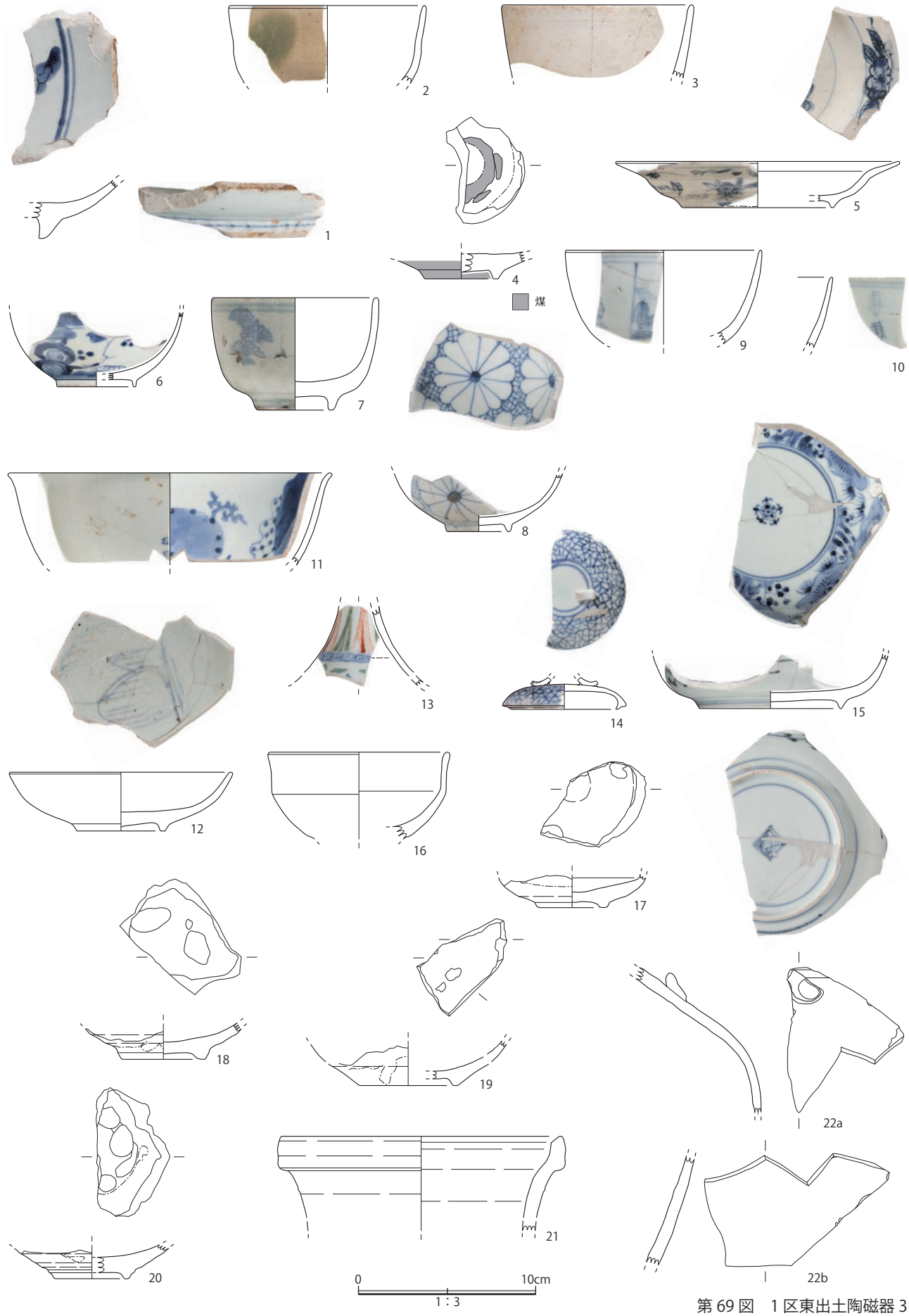
第 66 図　1 区西出土陶磁器 6



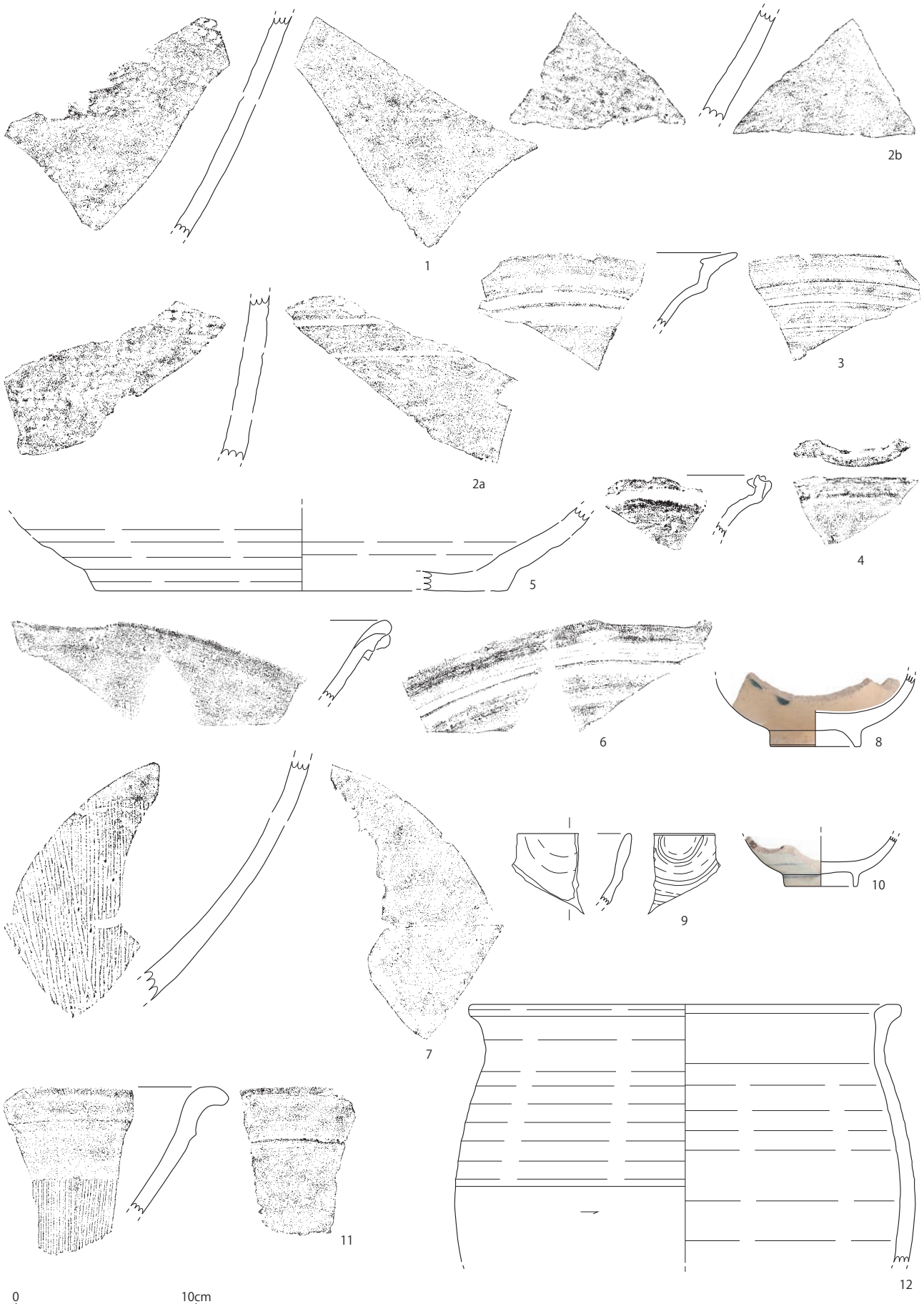
第 67 図　1 区西出土陶磁器 7・東出土陶磁器 1



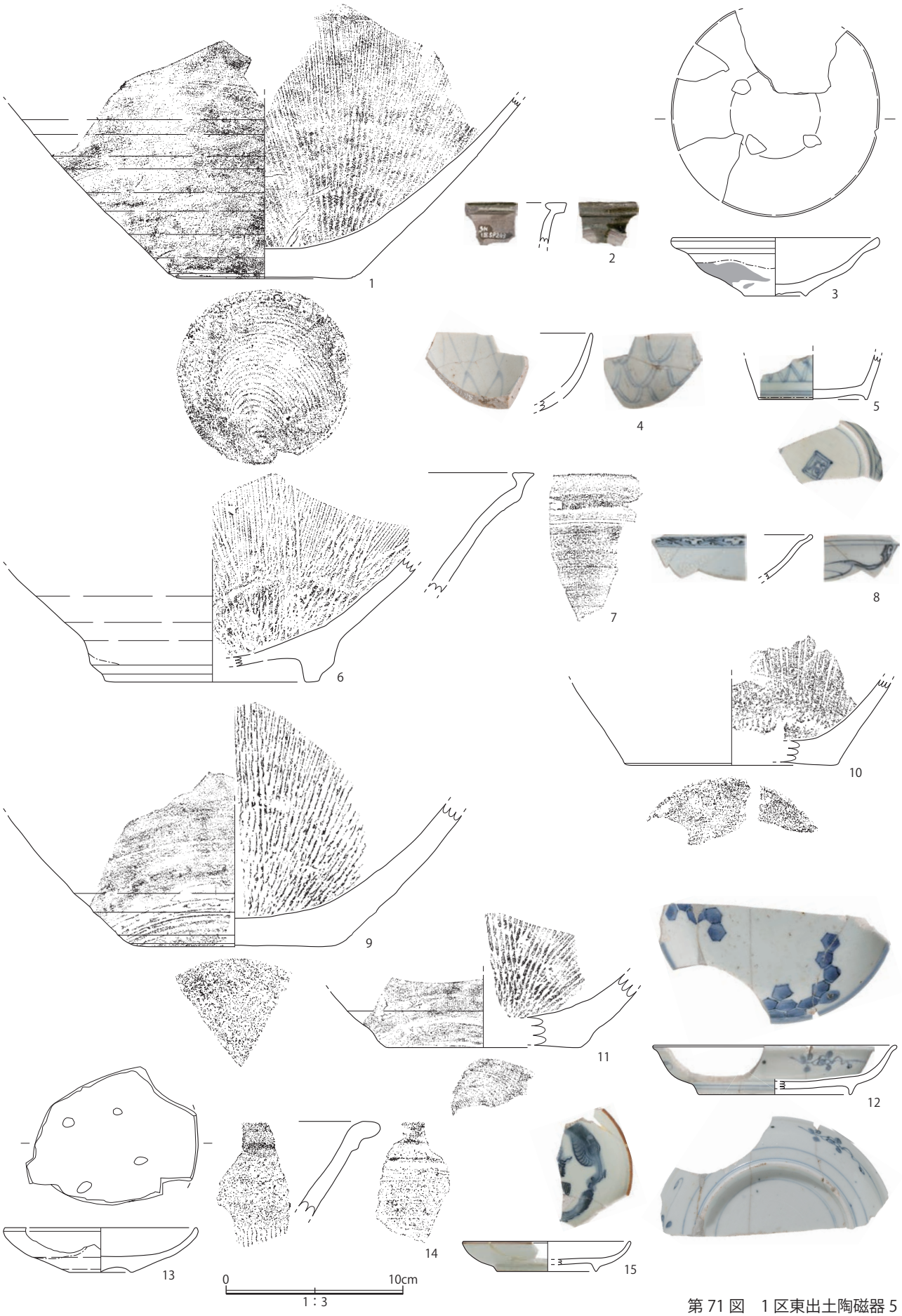
第 68 図　1 区東出土陶磁器 2



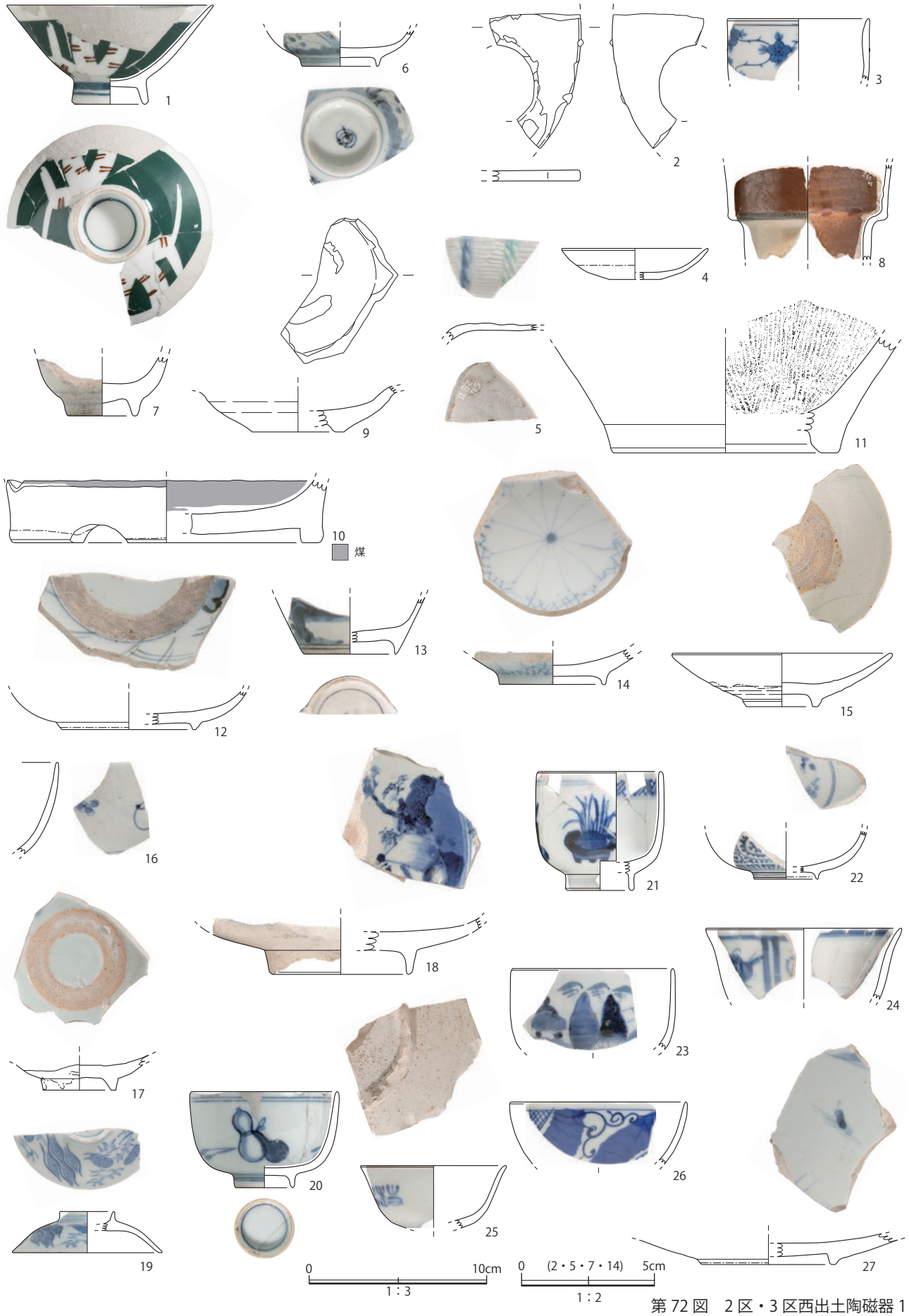
第 69 図　1 区東出土陶磁器 3



第 70 図　1 区東出土陶磁器 4



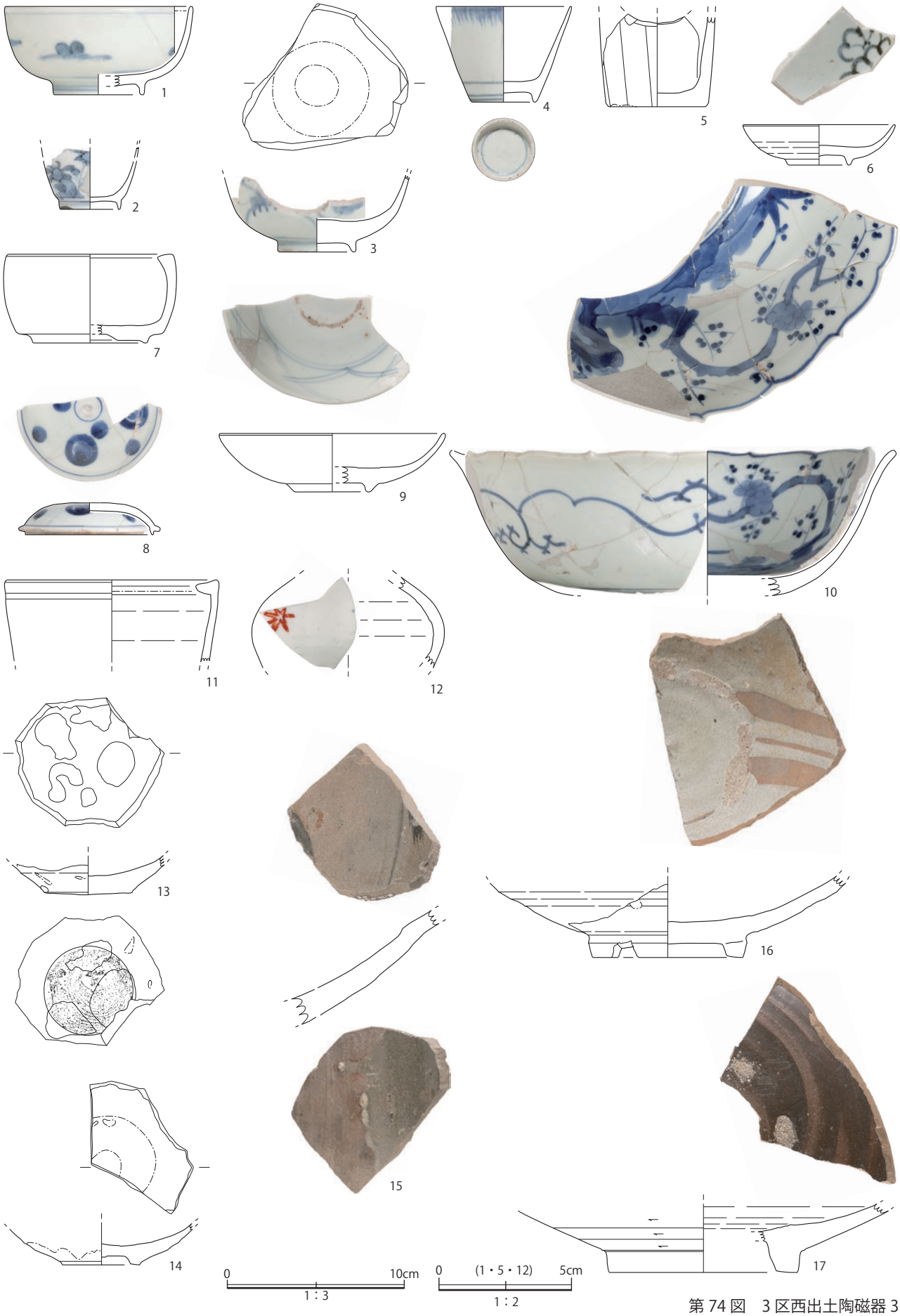
第 71 図　1 区東出土陶磁器 5



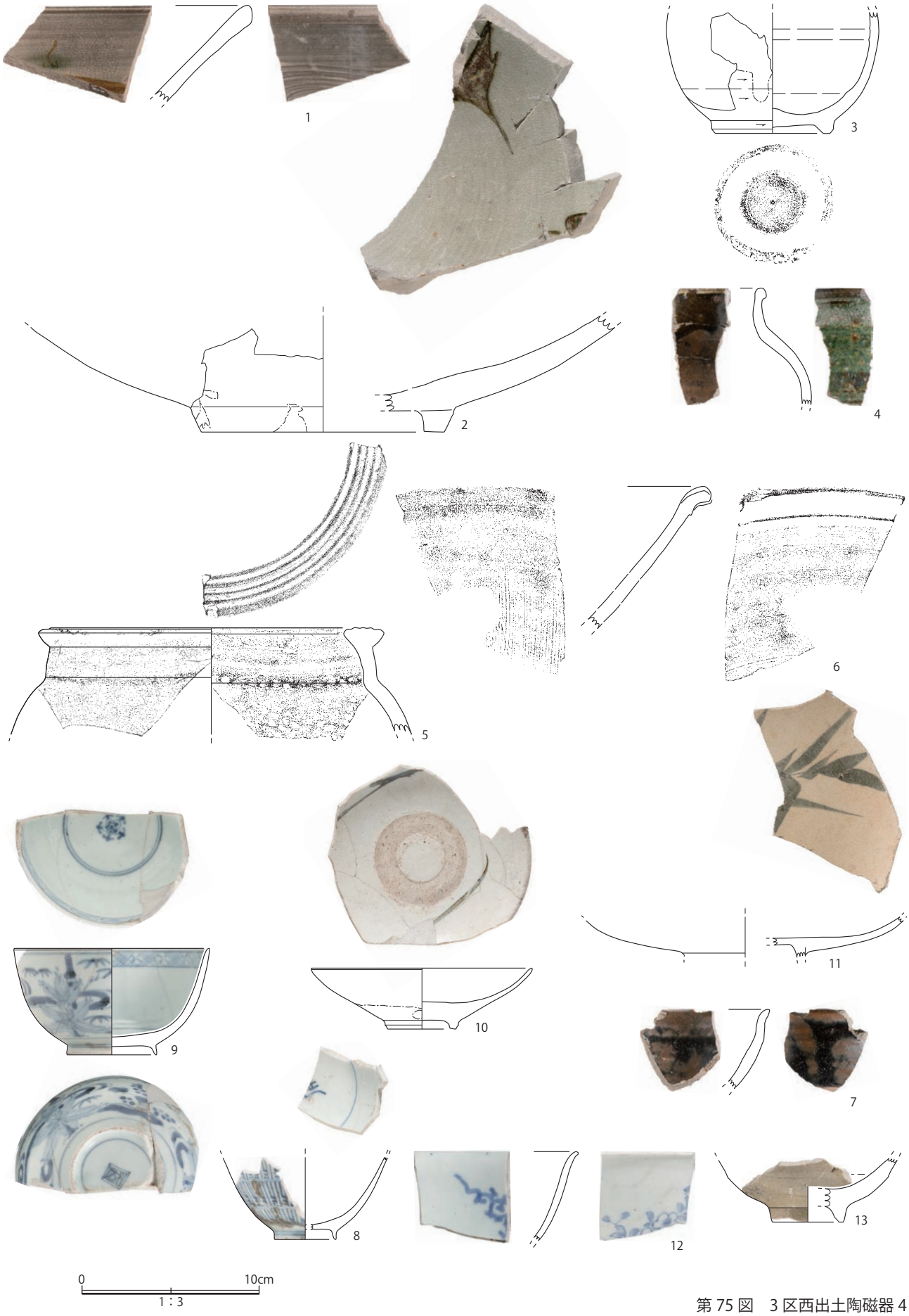
第 72 図　2 区・3 区西出土陶磁器 1



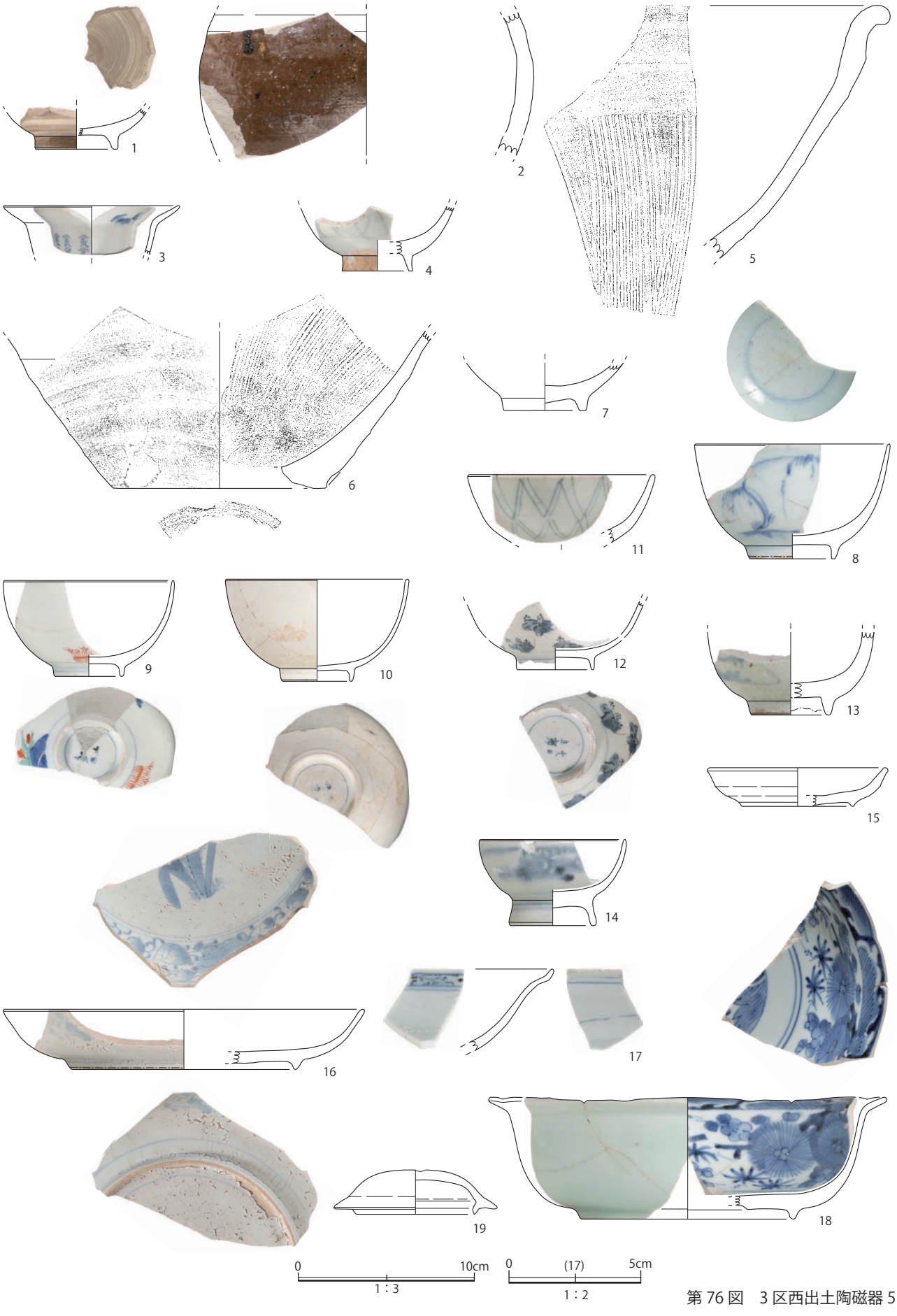
第 73 図　3 区西出土陶磁器 2



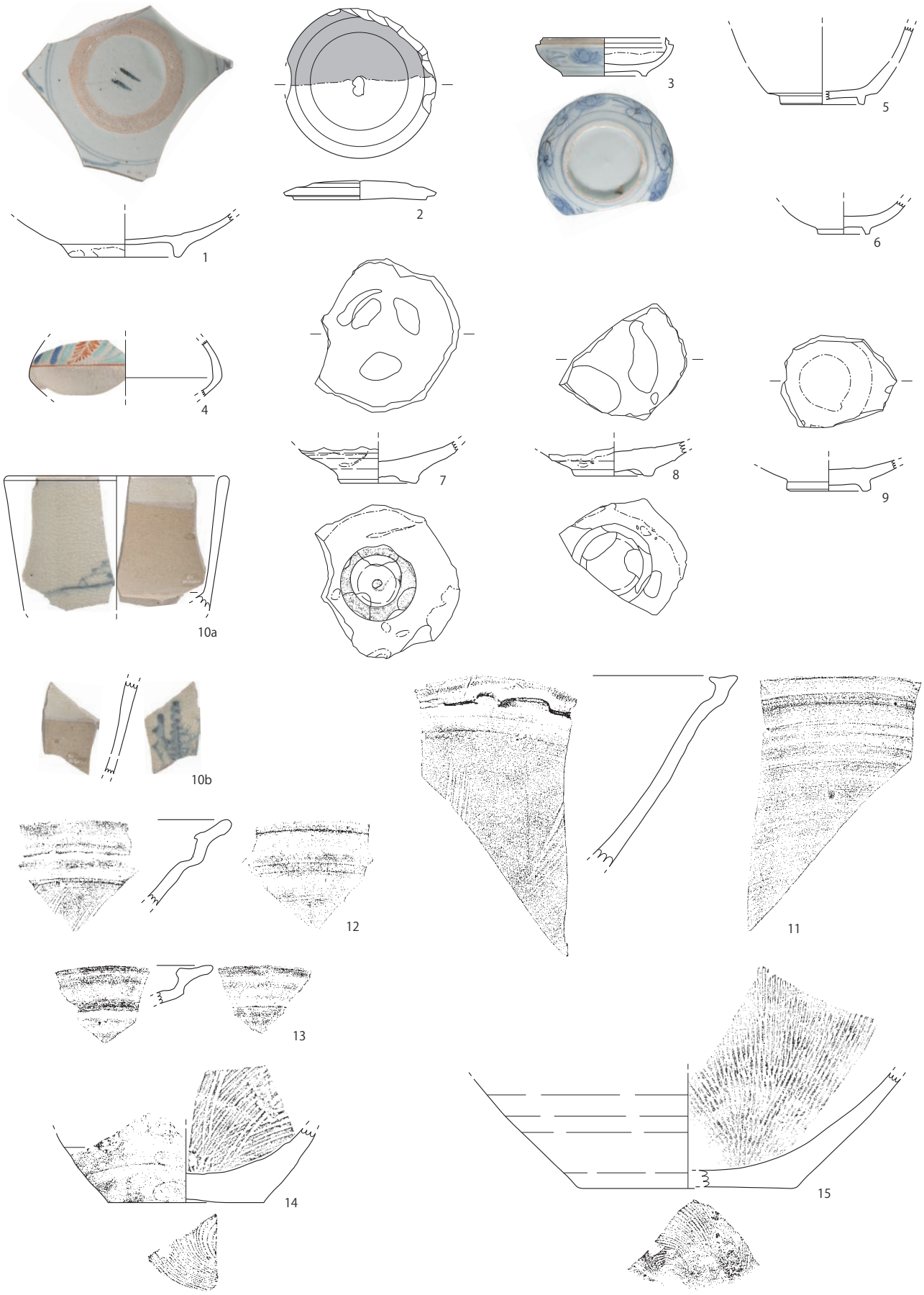
第 74 図　3 区西出土陶磁器 3



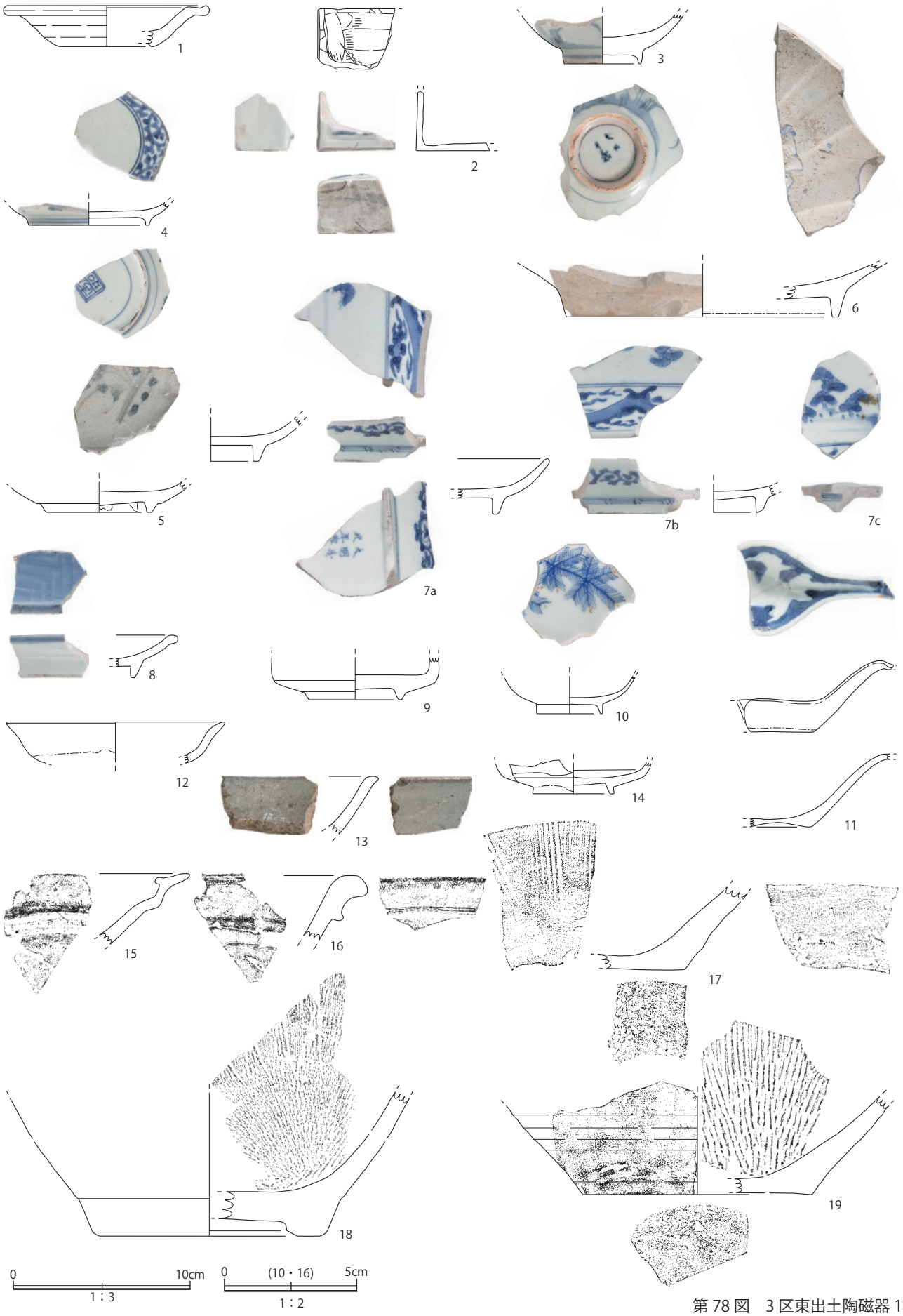
第 75 図　3 区西出土陶磁器 4



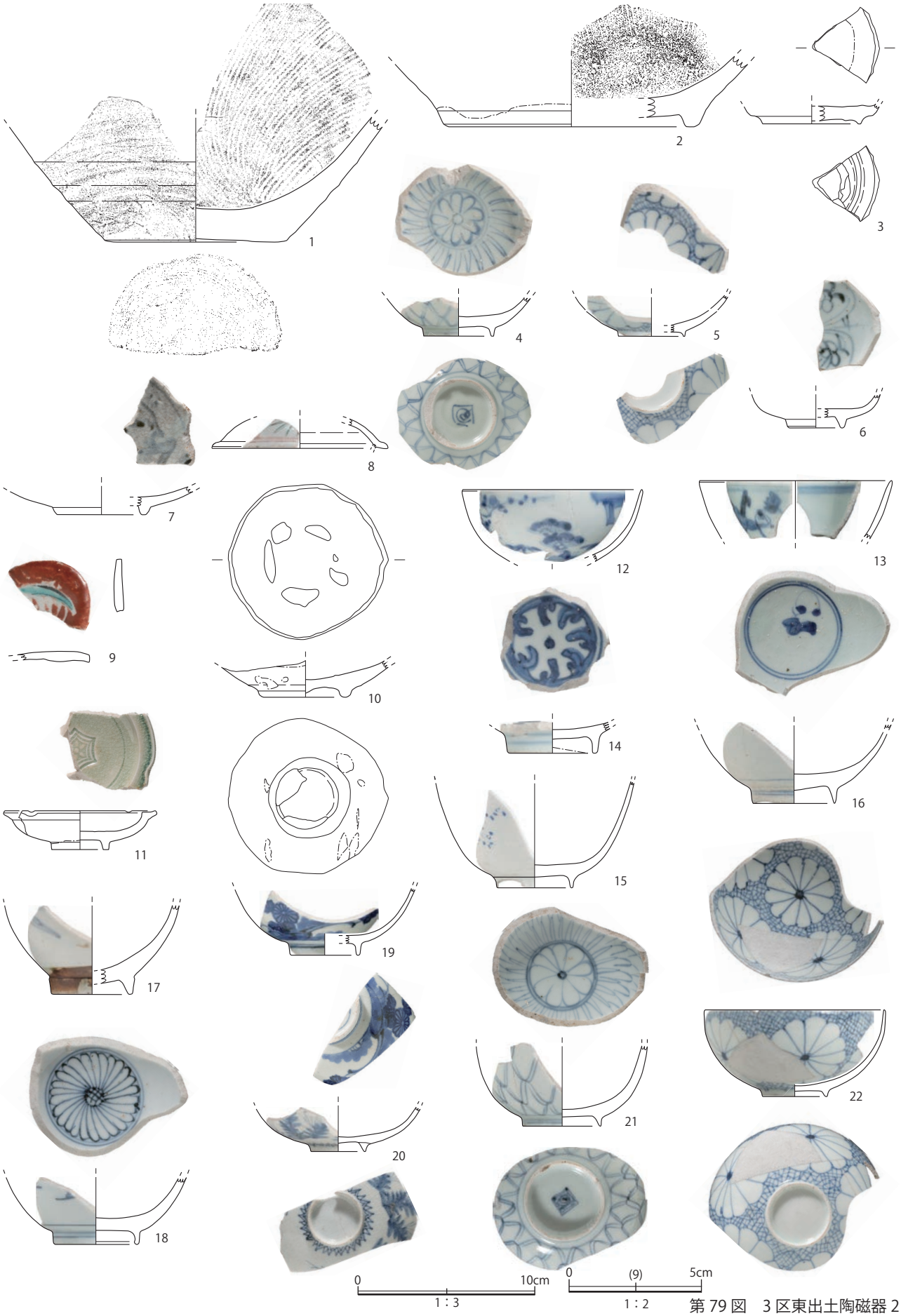
第 76 図　3 区西出土陶磁器 5



第 77 図　3 区西出土陶磁器 6



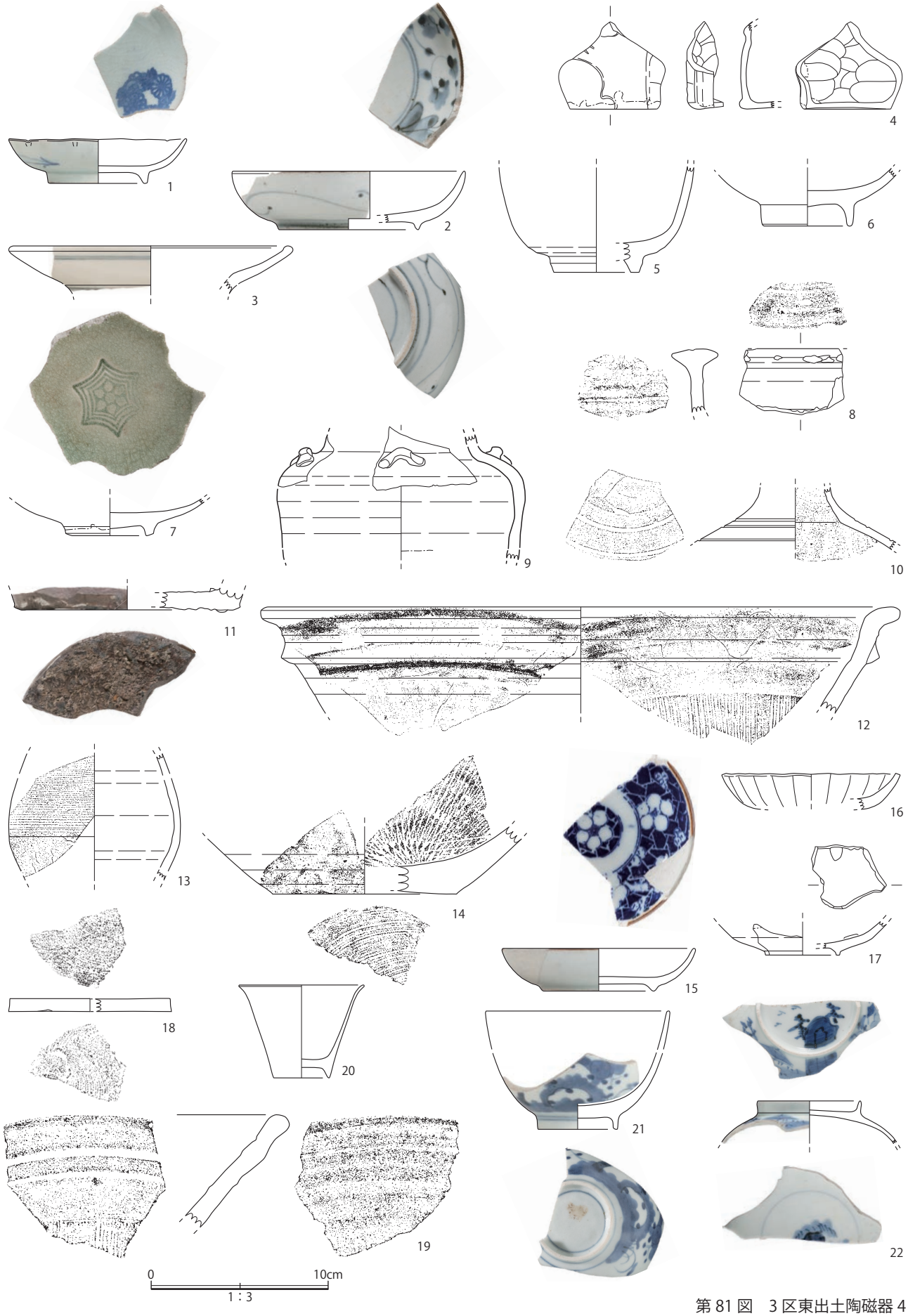
第 78 図　3 区東出土陶磁器 1



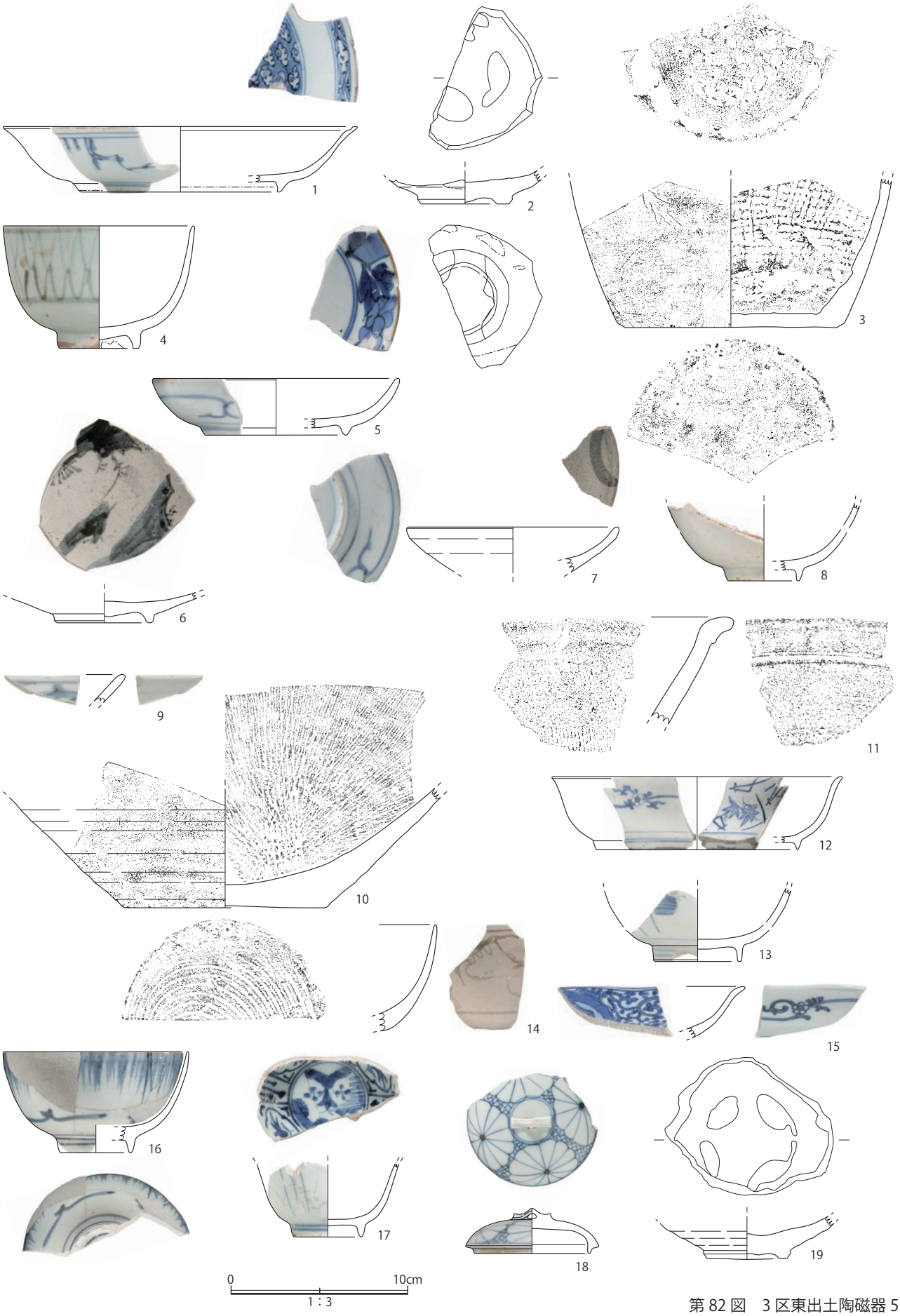
第 79 図　3 区東出土陶磁器 2



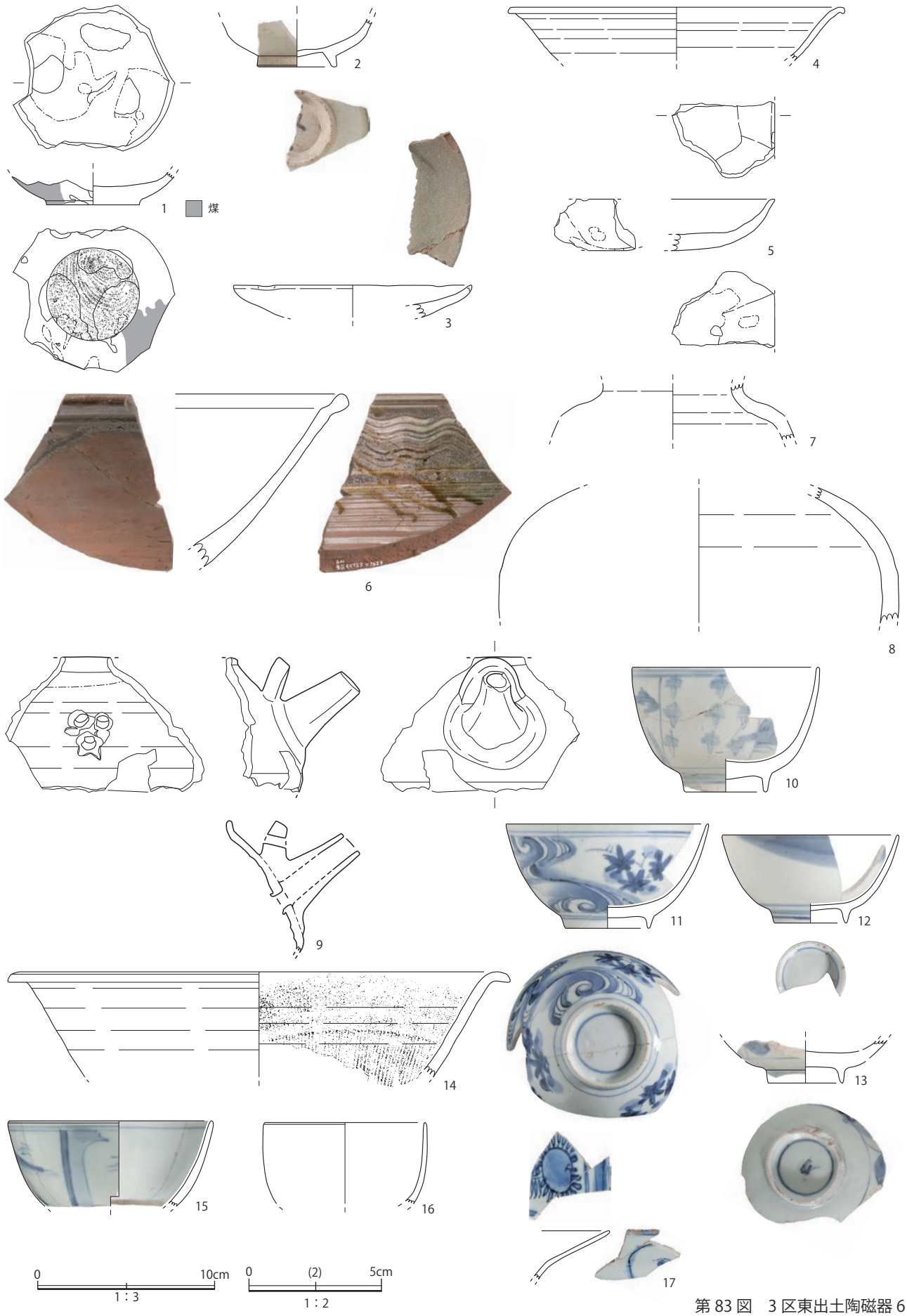
第 80 図　3 区東出土陶磁器 3



第 81 図　3 区東出土陶磁器 4



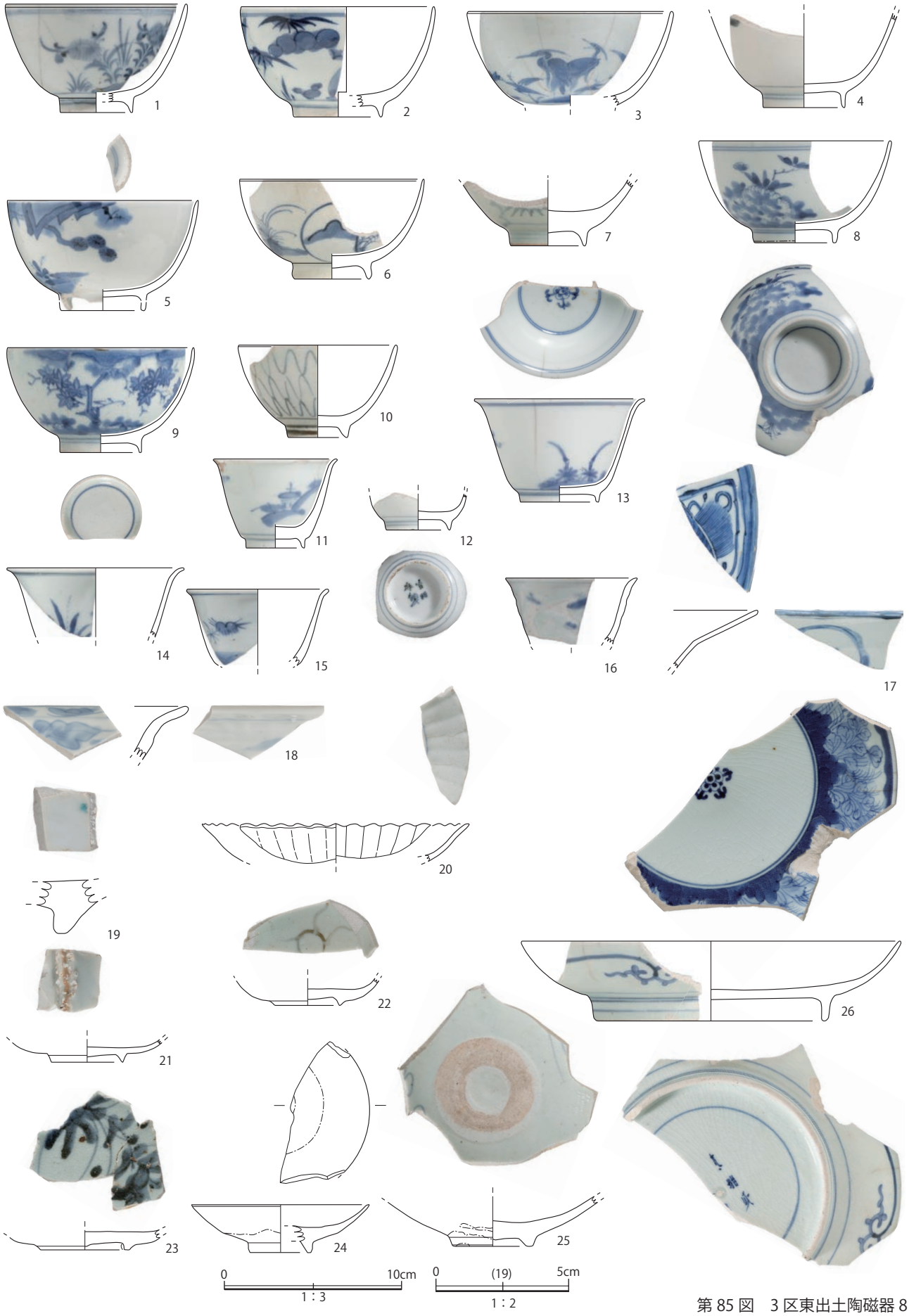
第 82 図　3 区東出土陶磁器 5



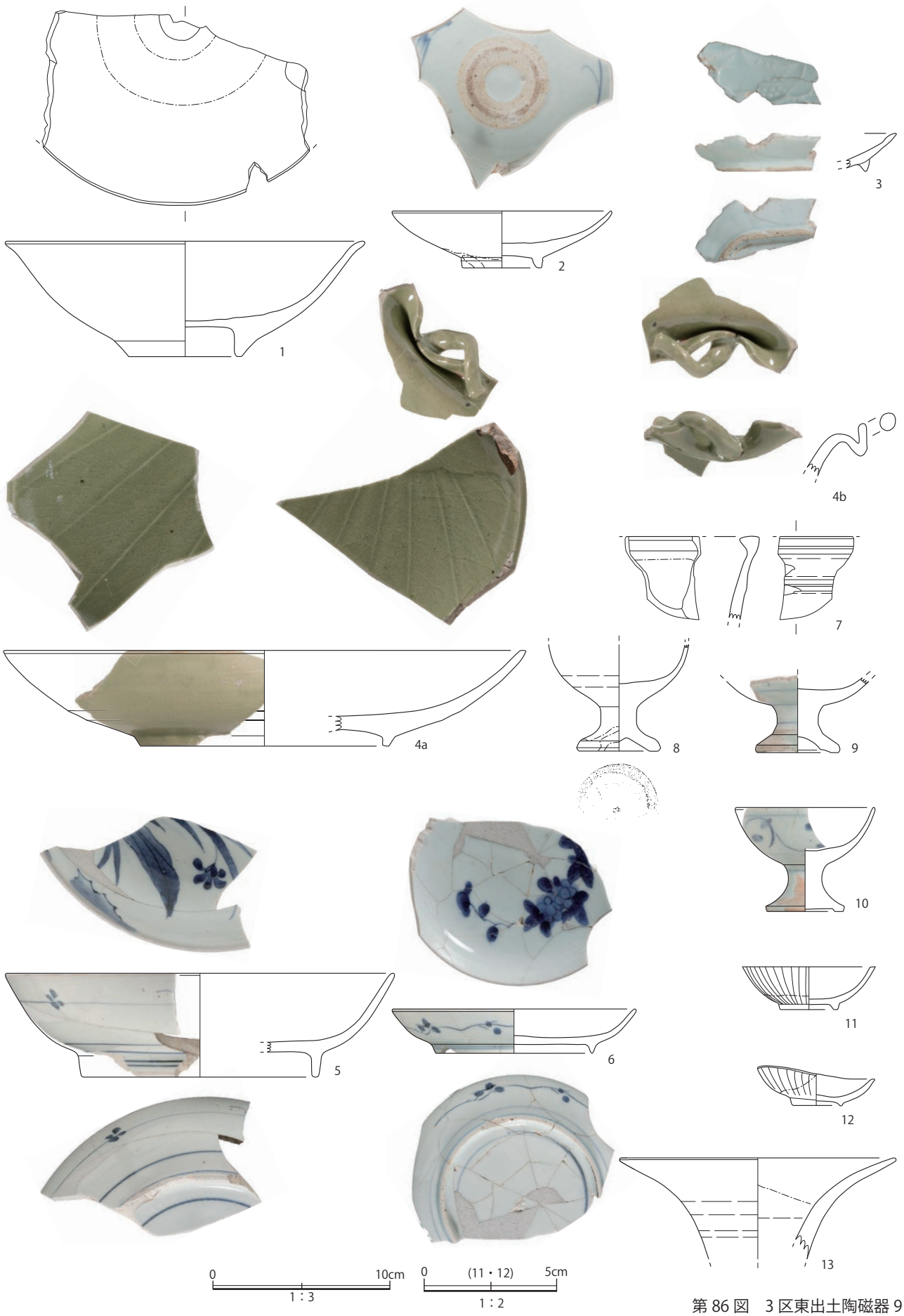
第 83 図　3 区東出土陶磁器 6



第 84 図　3 区東出土陶磁器 7



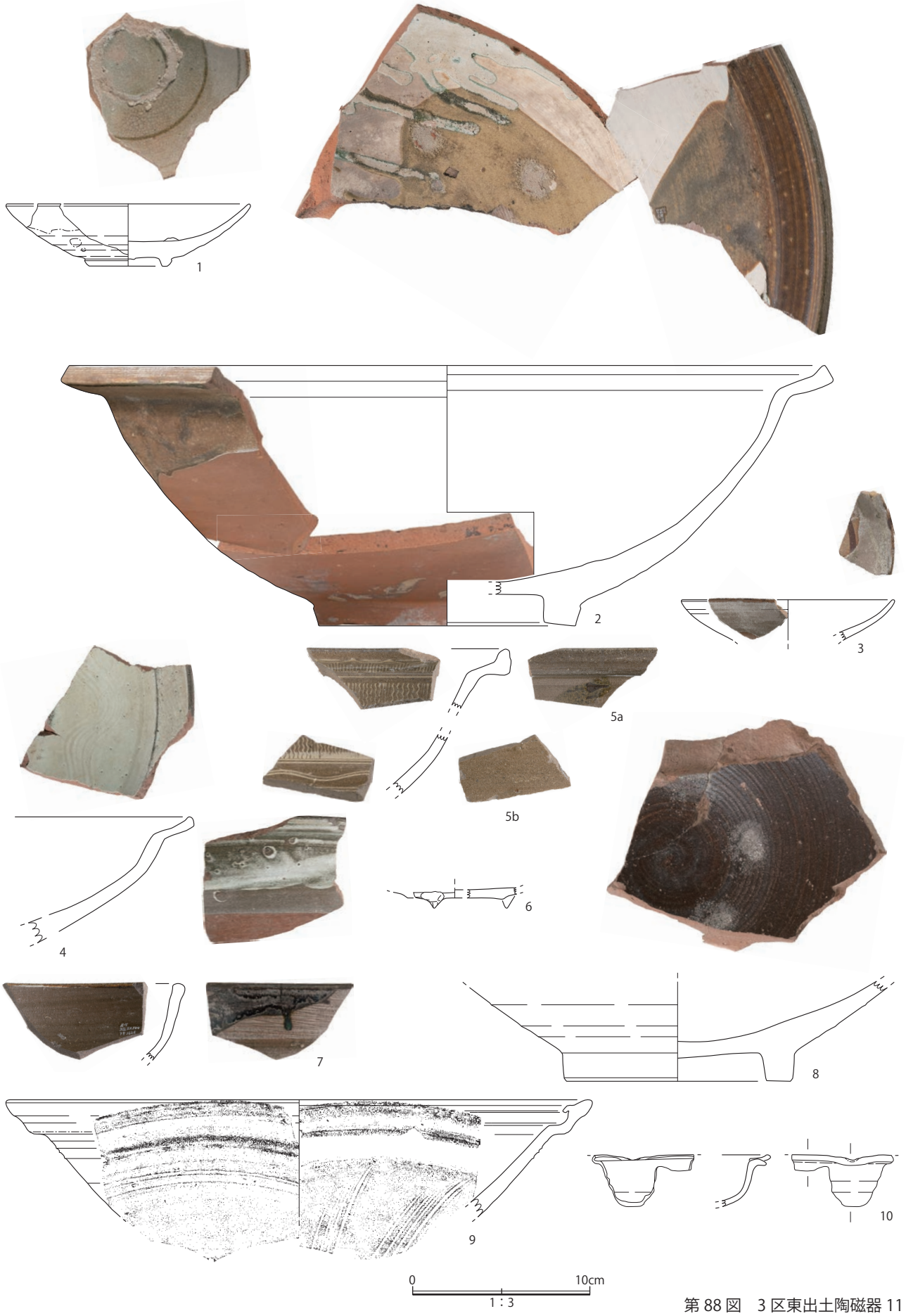
第 85 図　3 区東出土陶磁器 8



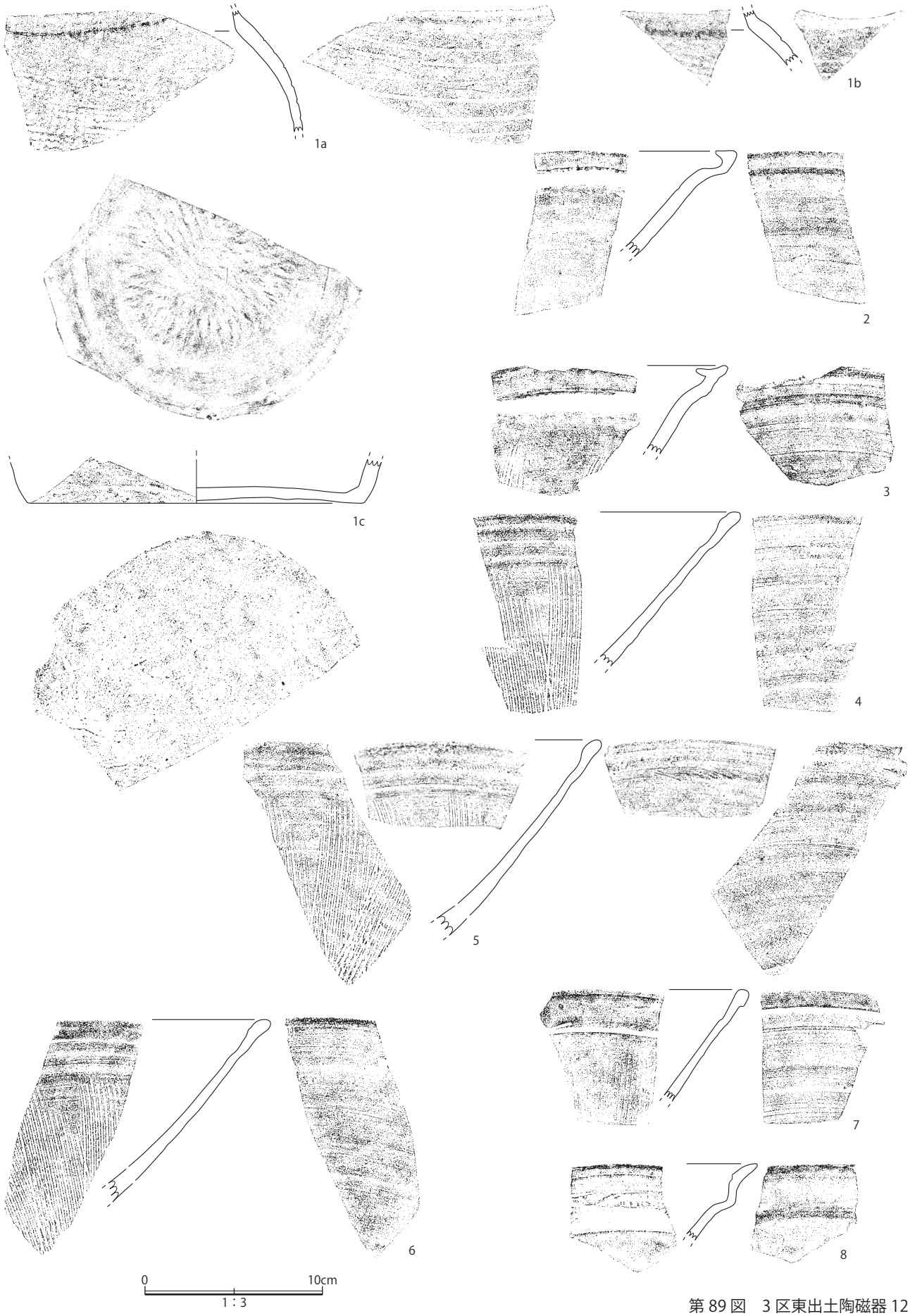
第 86 図　3 区東出土陶磁器 9



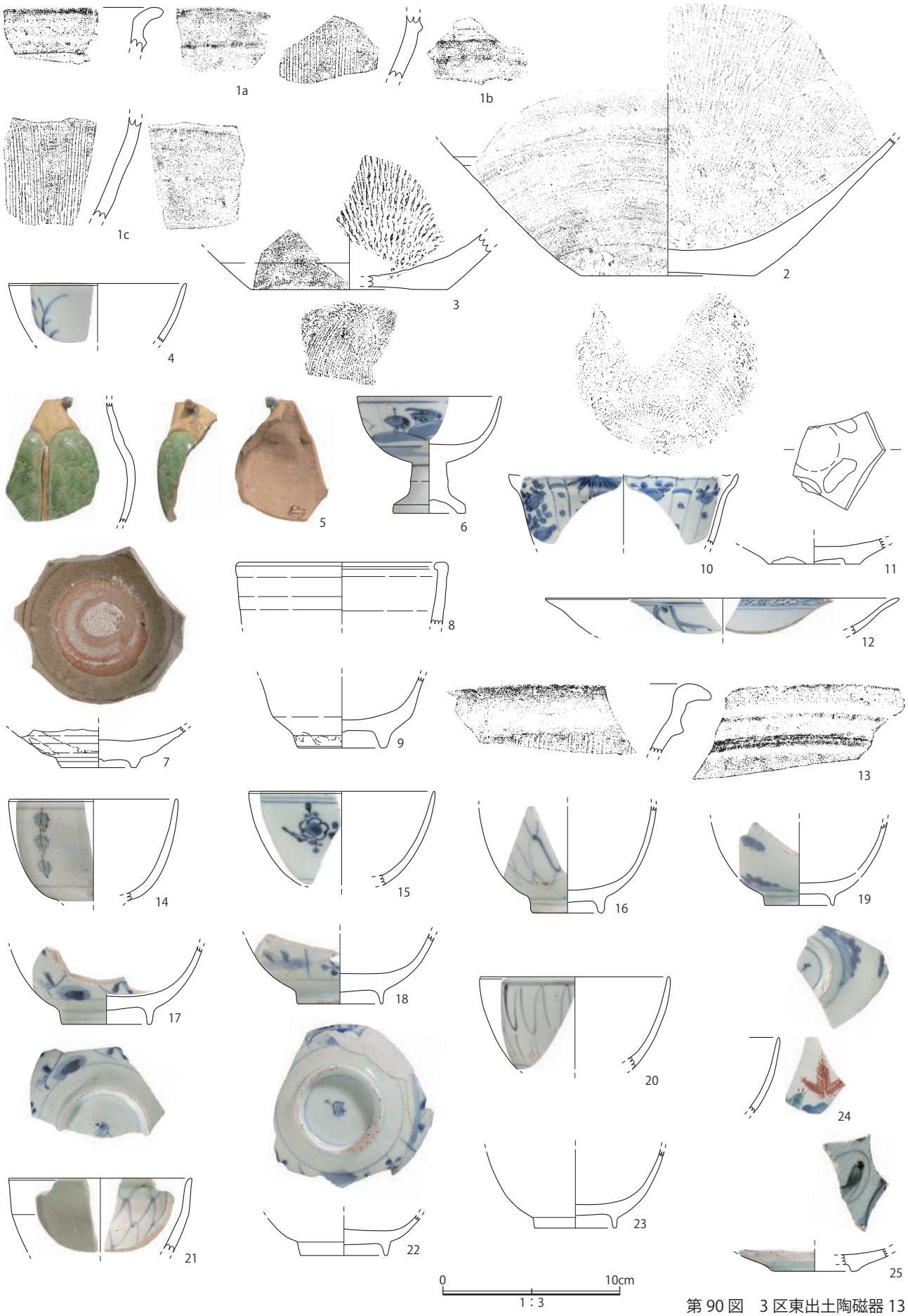
第 87 図　3 区東出土陶磁器 10



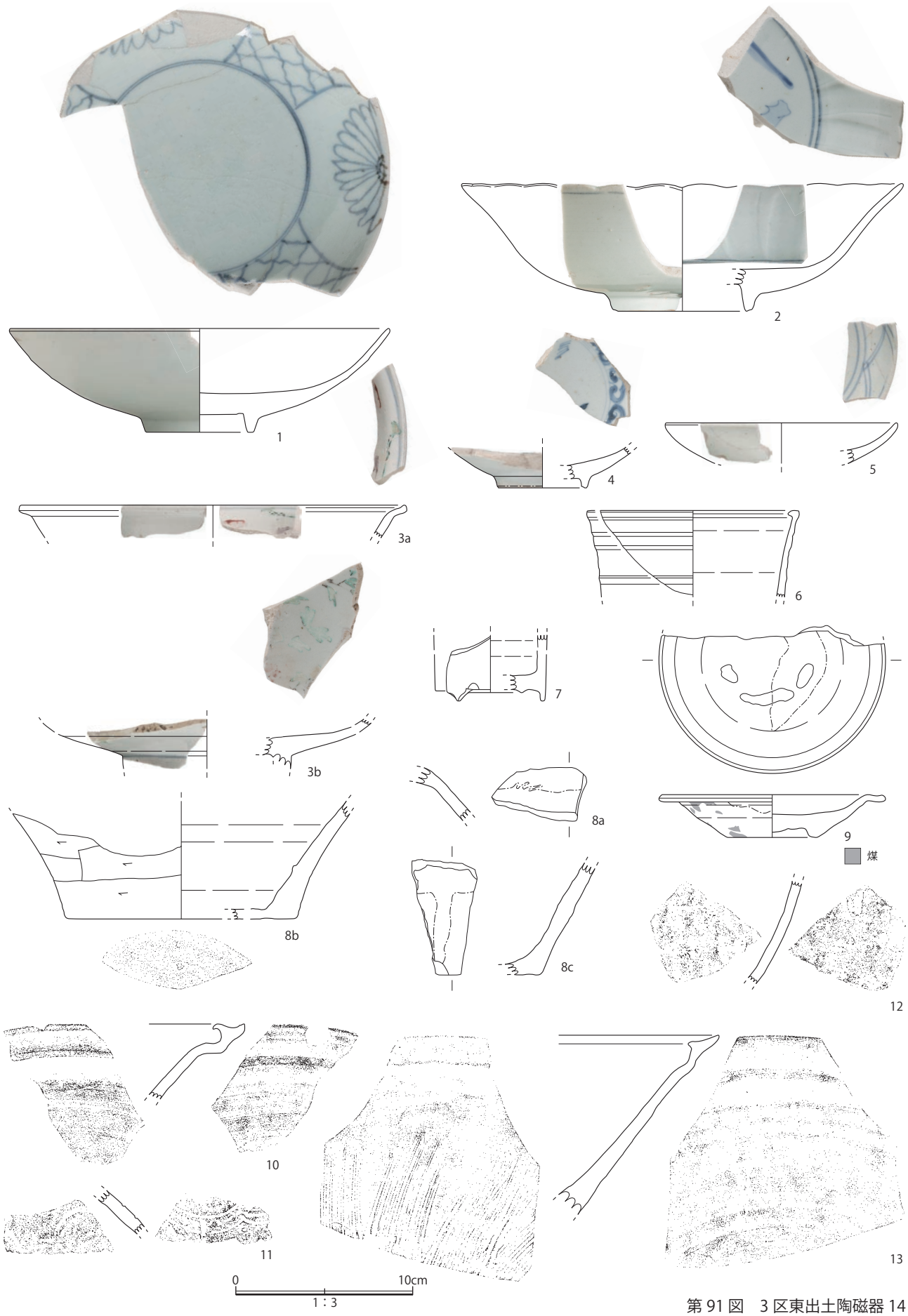
第 88 図　3 区東出土陶磁器 11



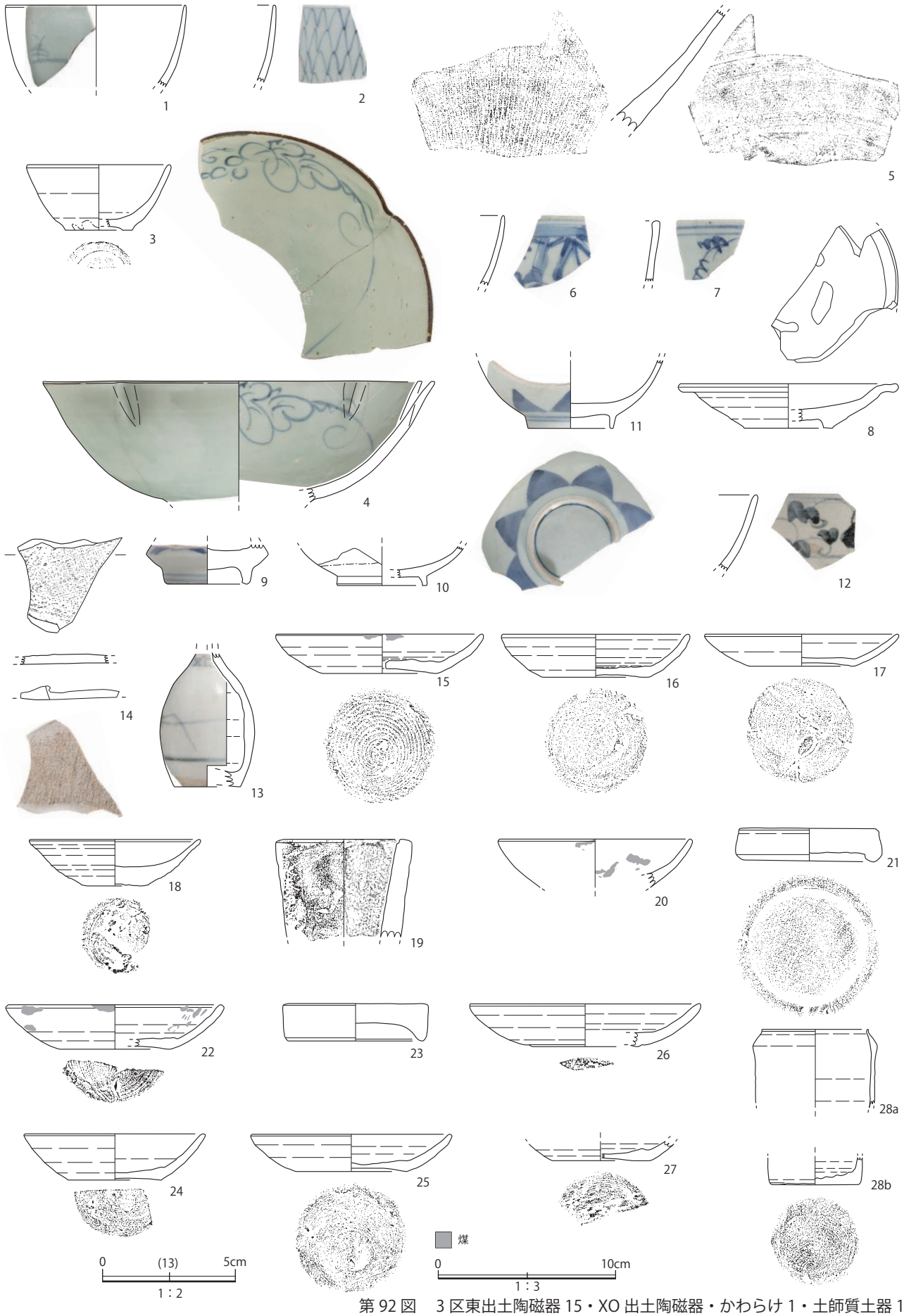
第 89 図　3 区東出土陶磁器 12



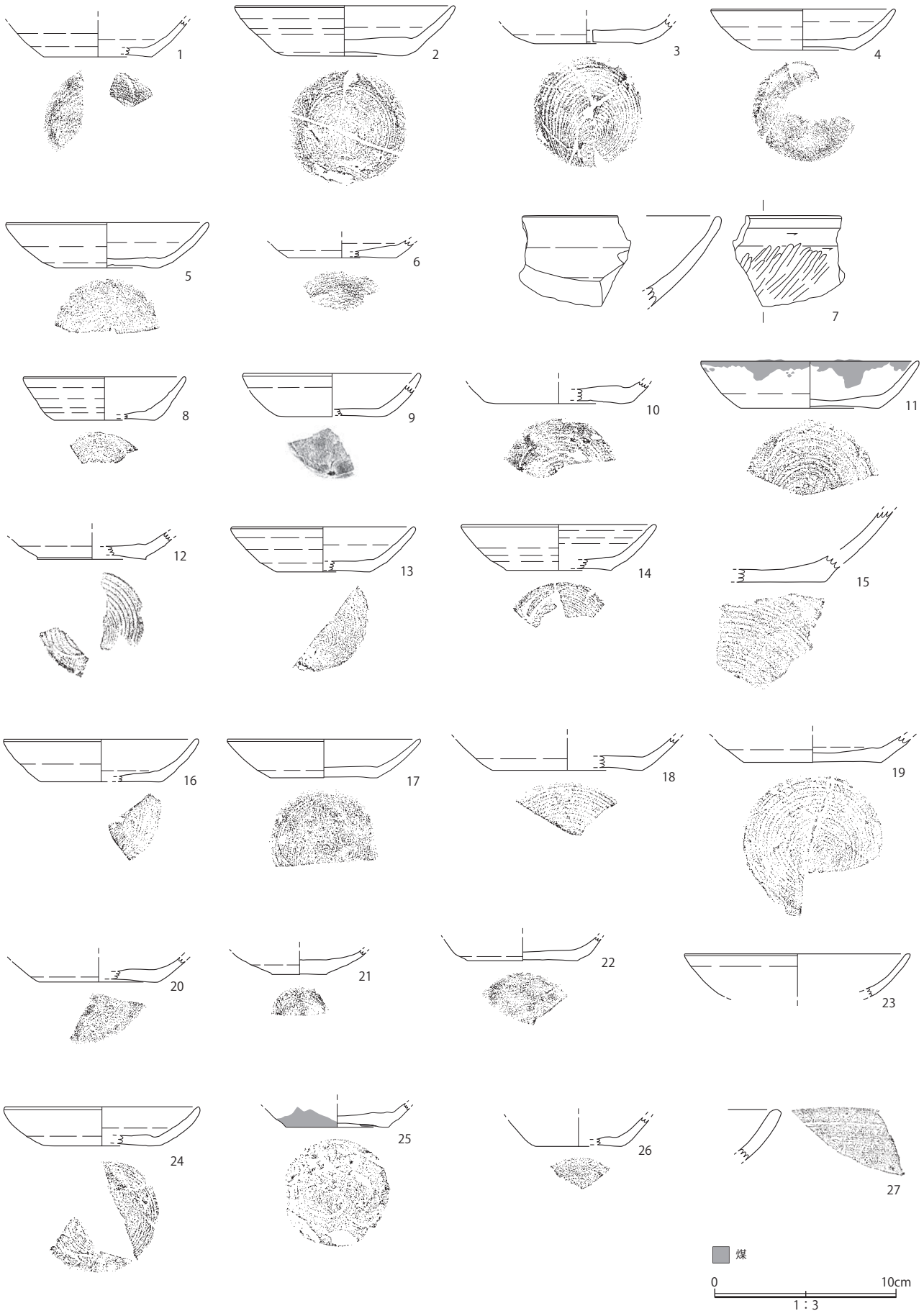
第 90 図　3 区東出土陶磁器 13



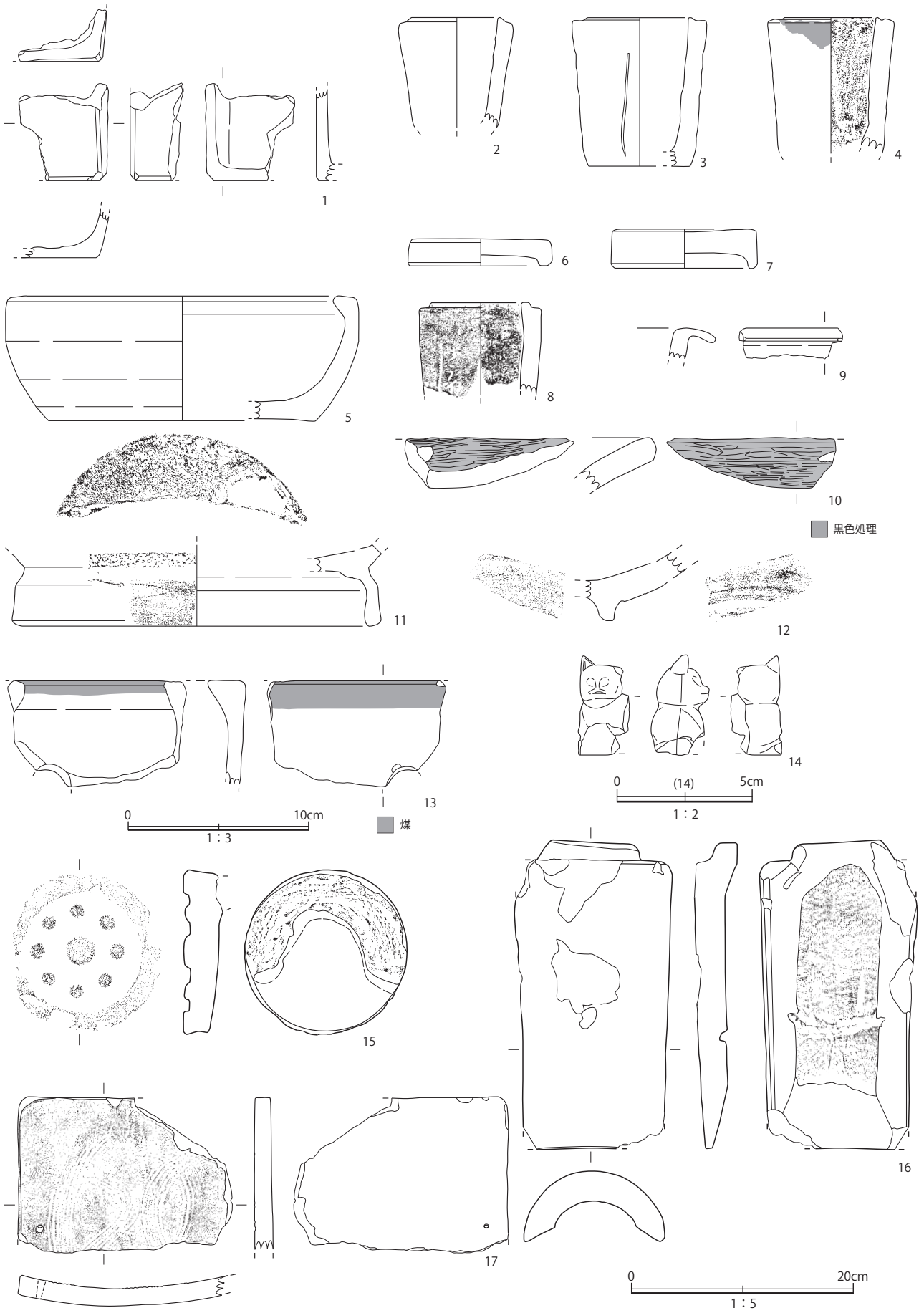
第 91 図　3 区東出土陶磁器 14



第 92 図　3 区東出土陶磁器 15・XO 出土陶磁器・かわらけ 1・土師質土器 1



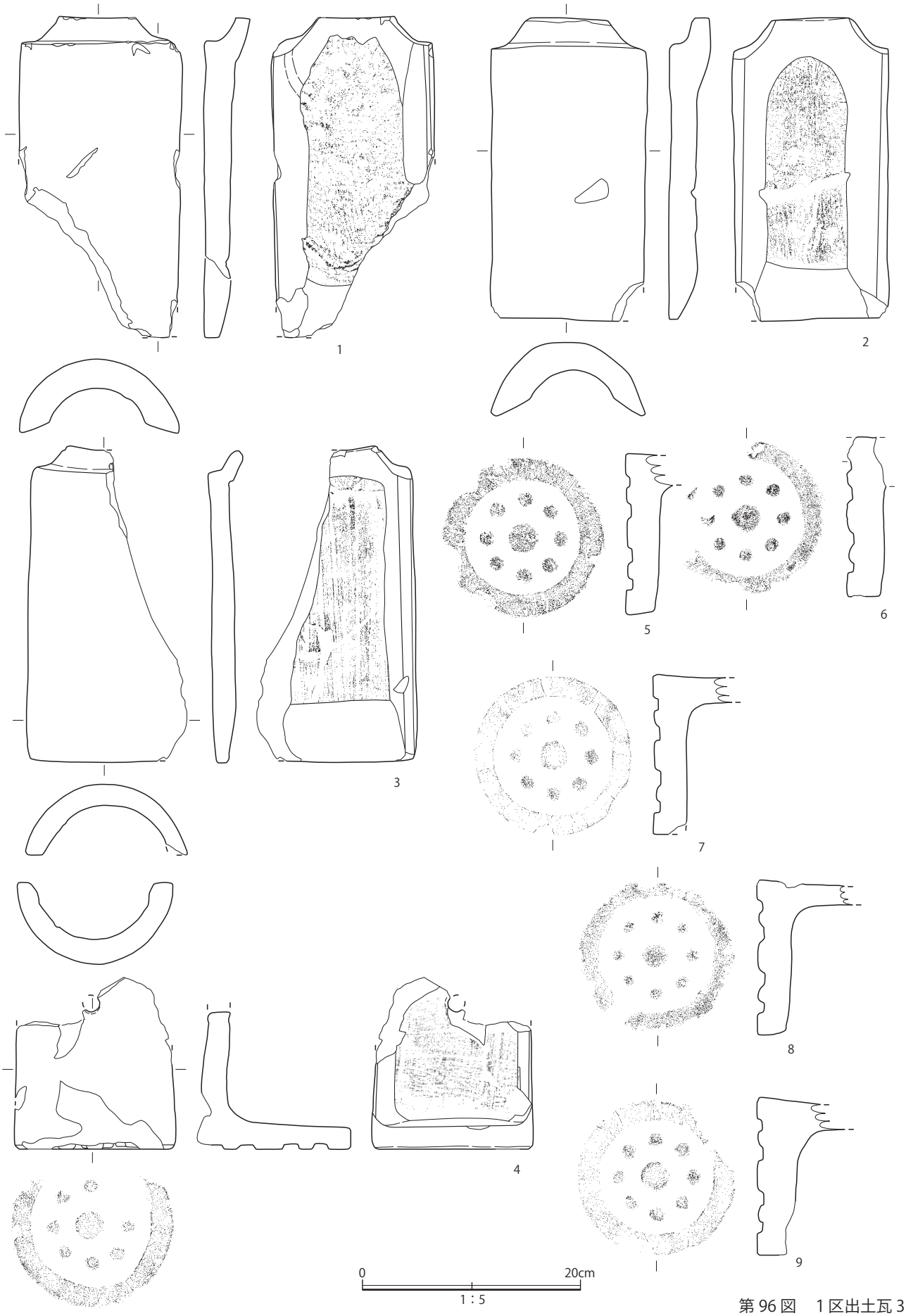
第 93 図　かわらけ 2・土師質土器 2



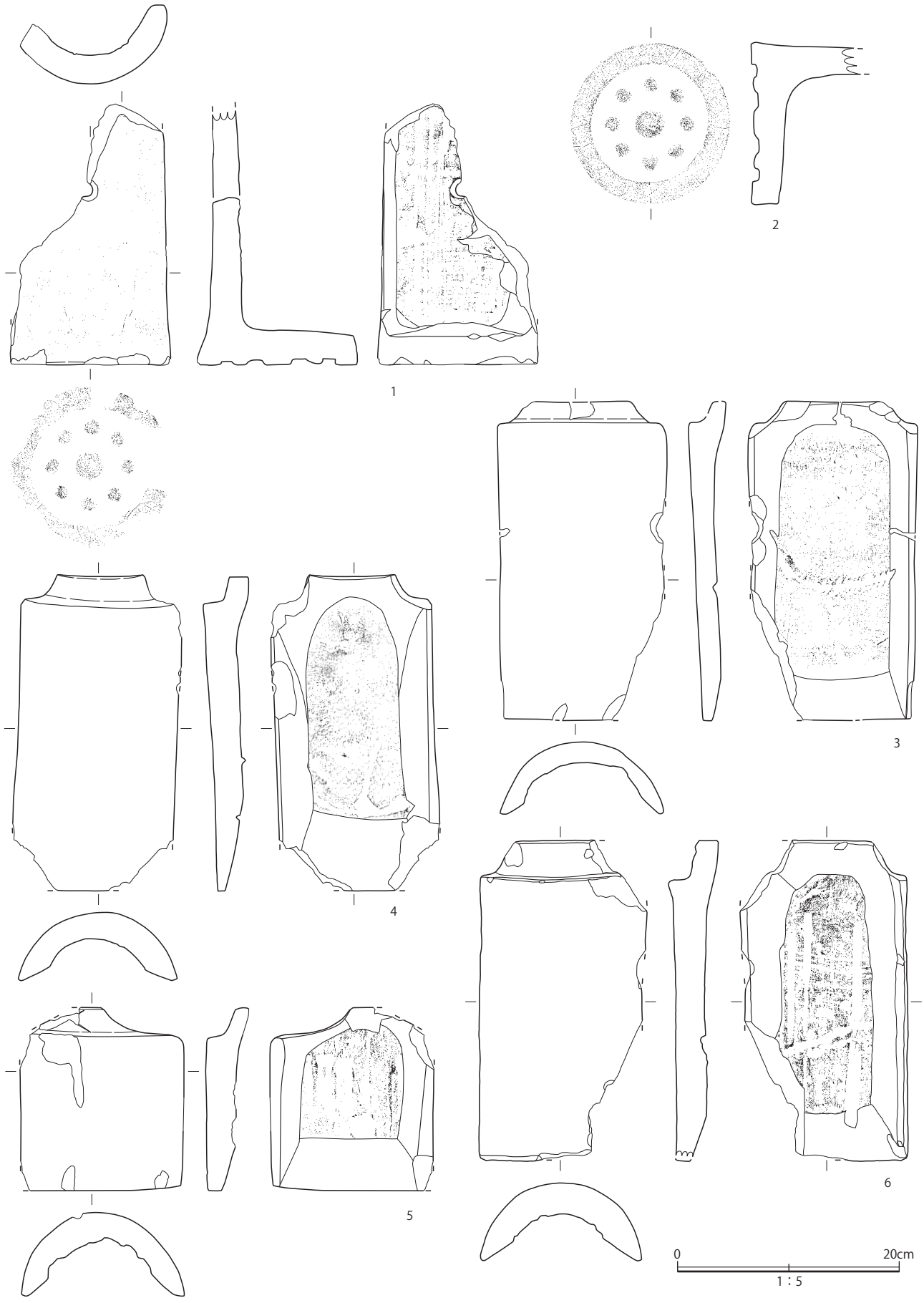
第 94 図　かわらけ 3・土師質土器 3・瓦質土器・土人形・1 区出土瓦 1



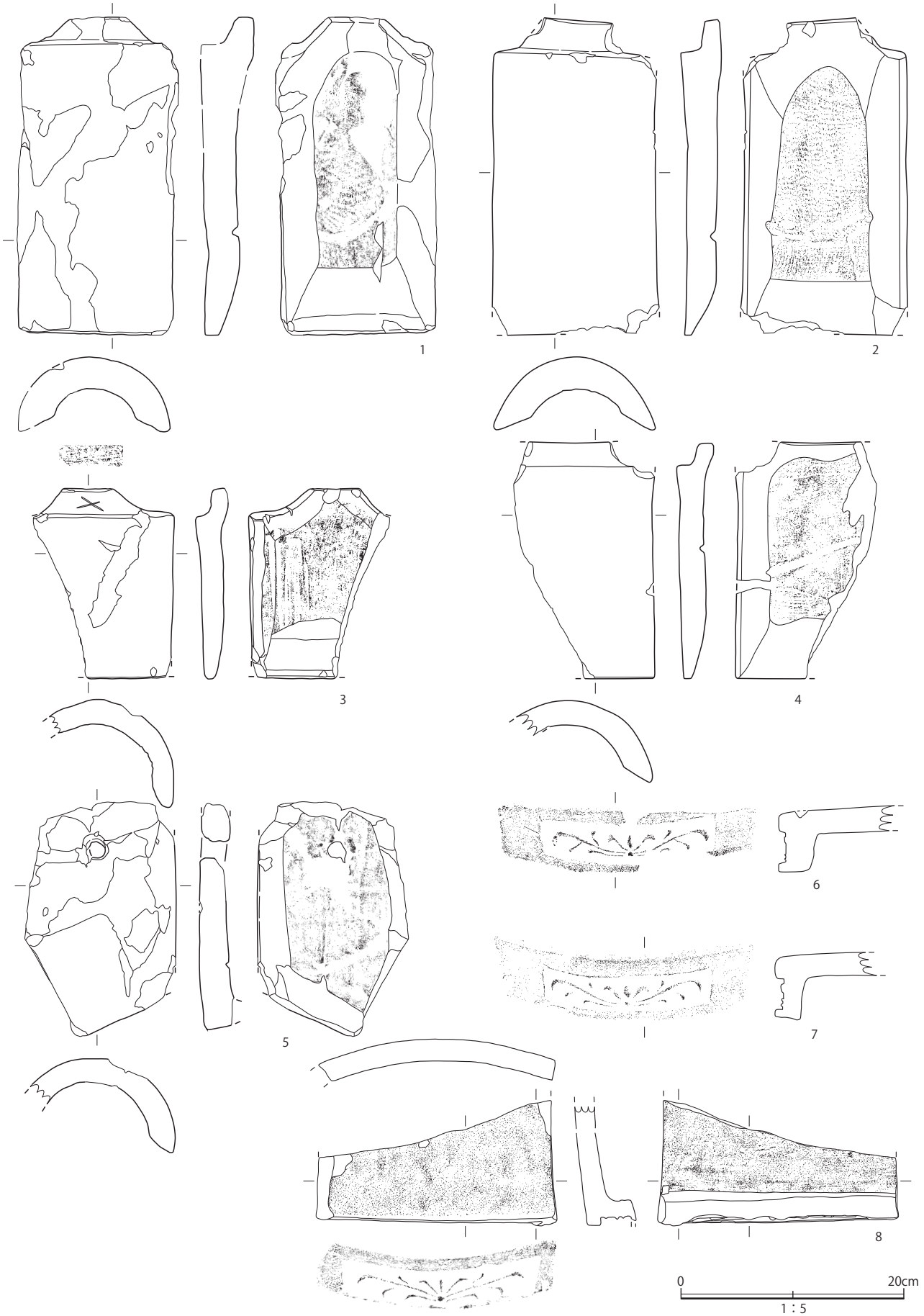
第 95 図　1 区出土瓦 2



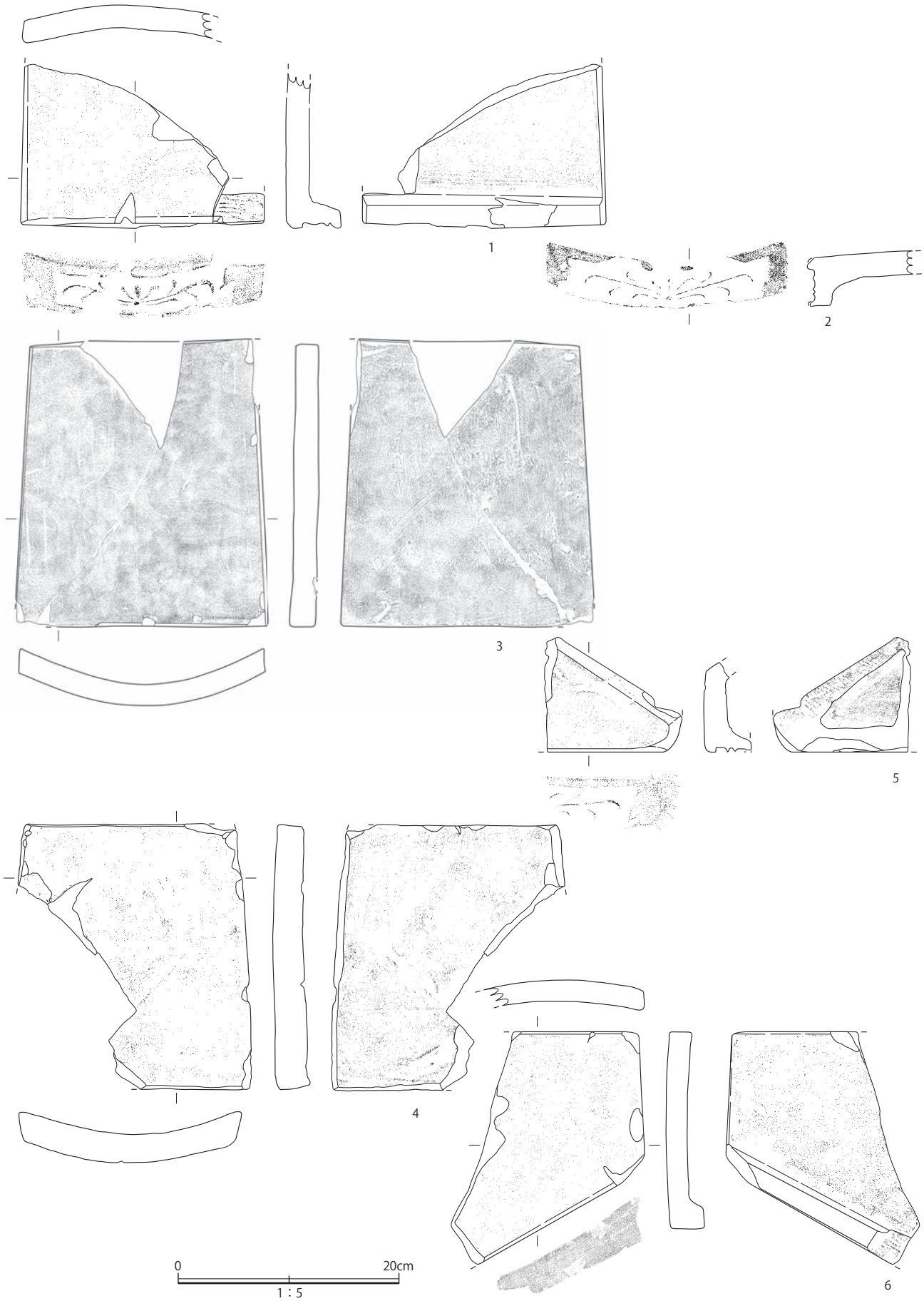
第 96 図　1 区出土瓦 3



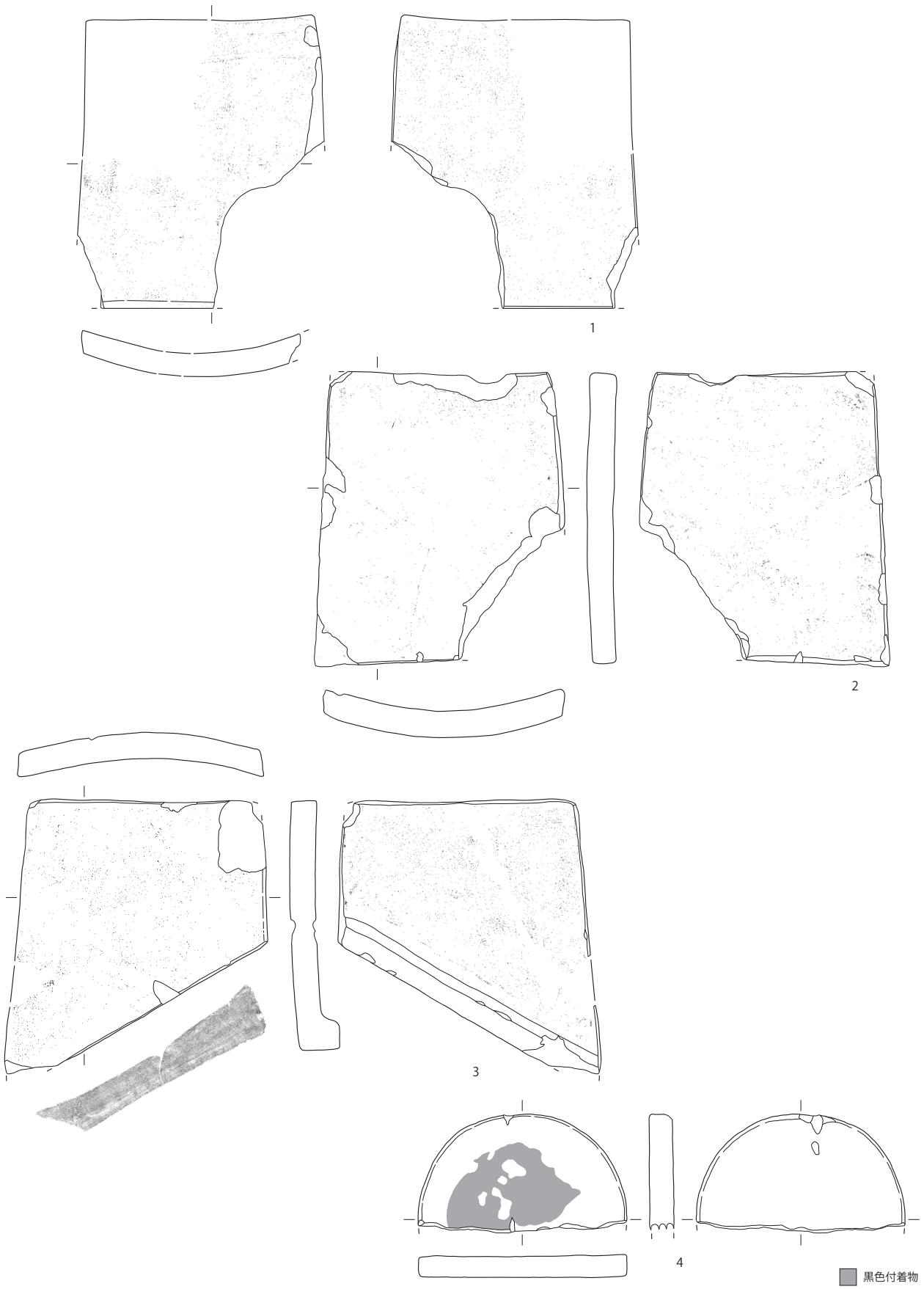
第 97 図　1 区出土瓦 4



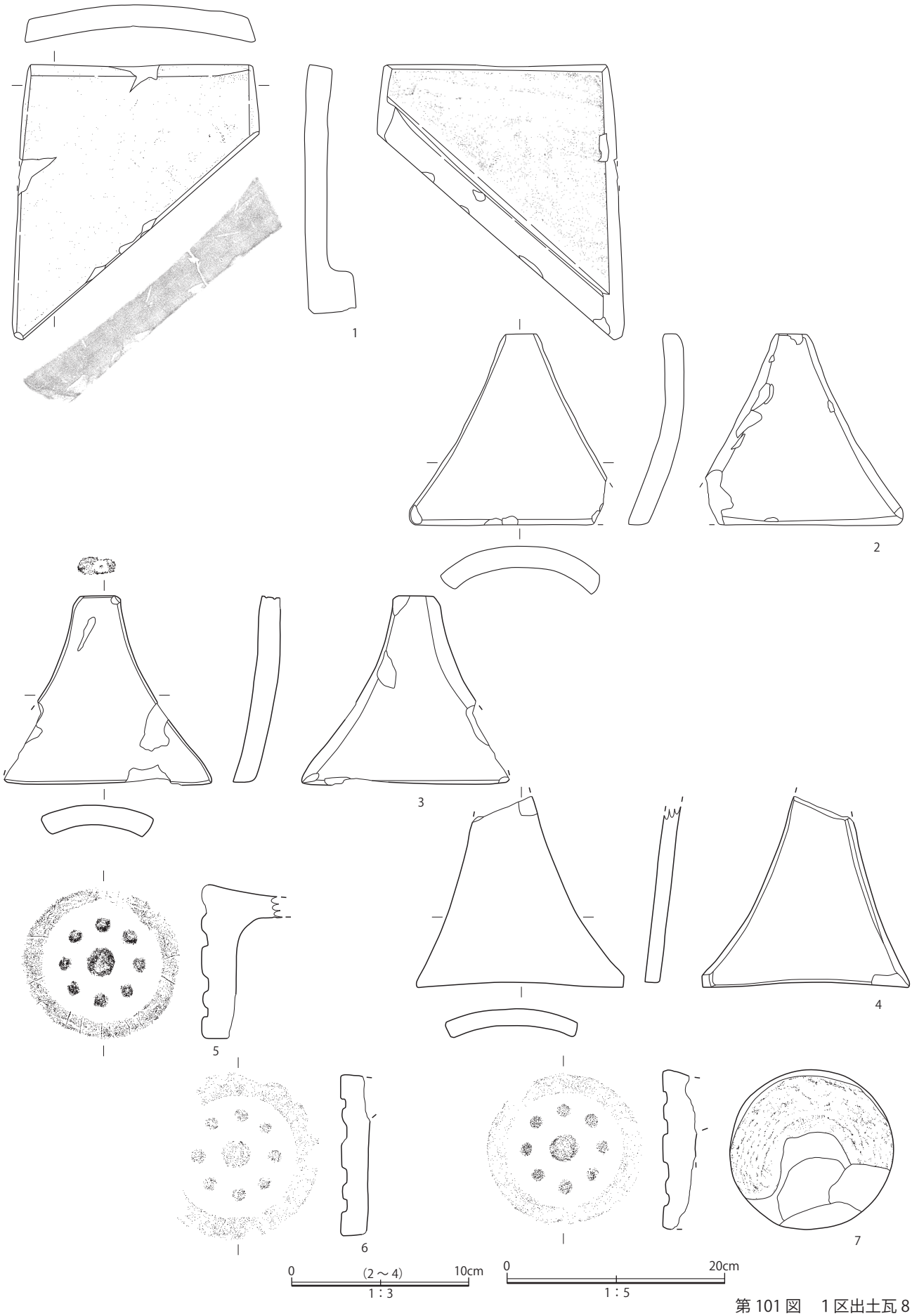
第 98 図　1 区出土瓦 5



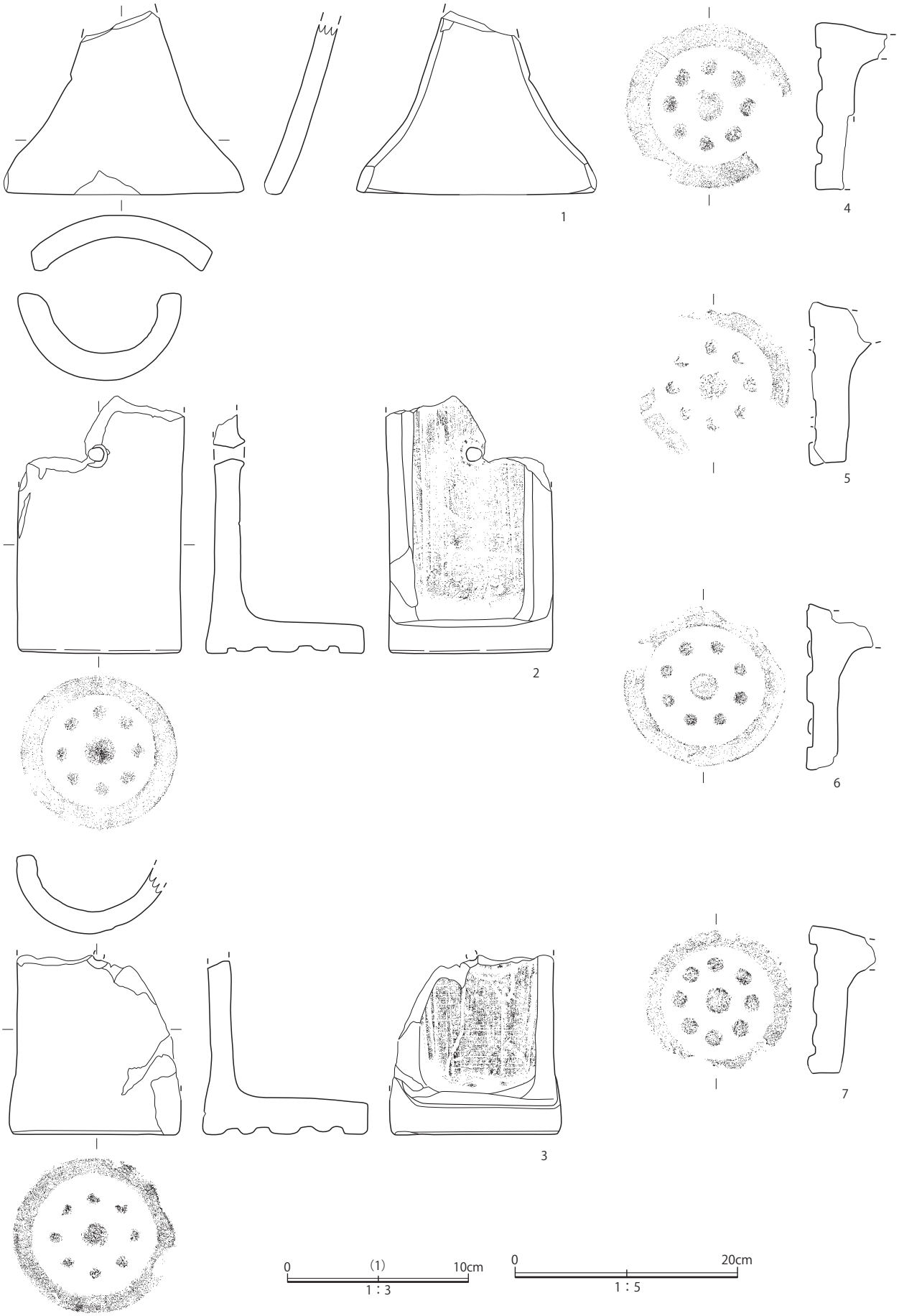
第 99 図　1 区出土瓦 6



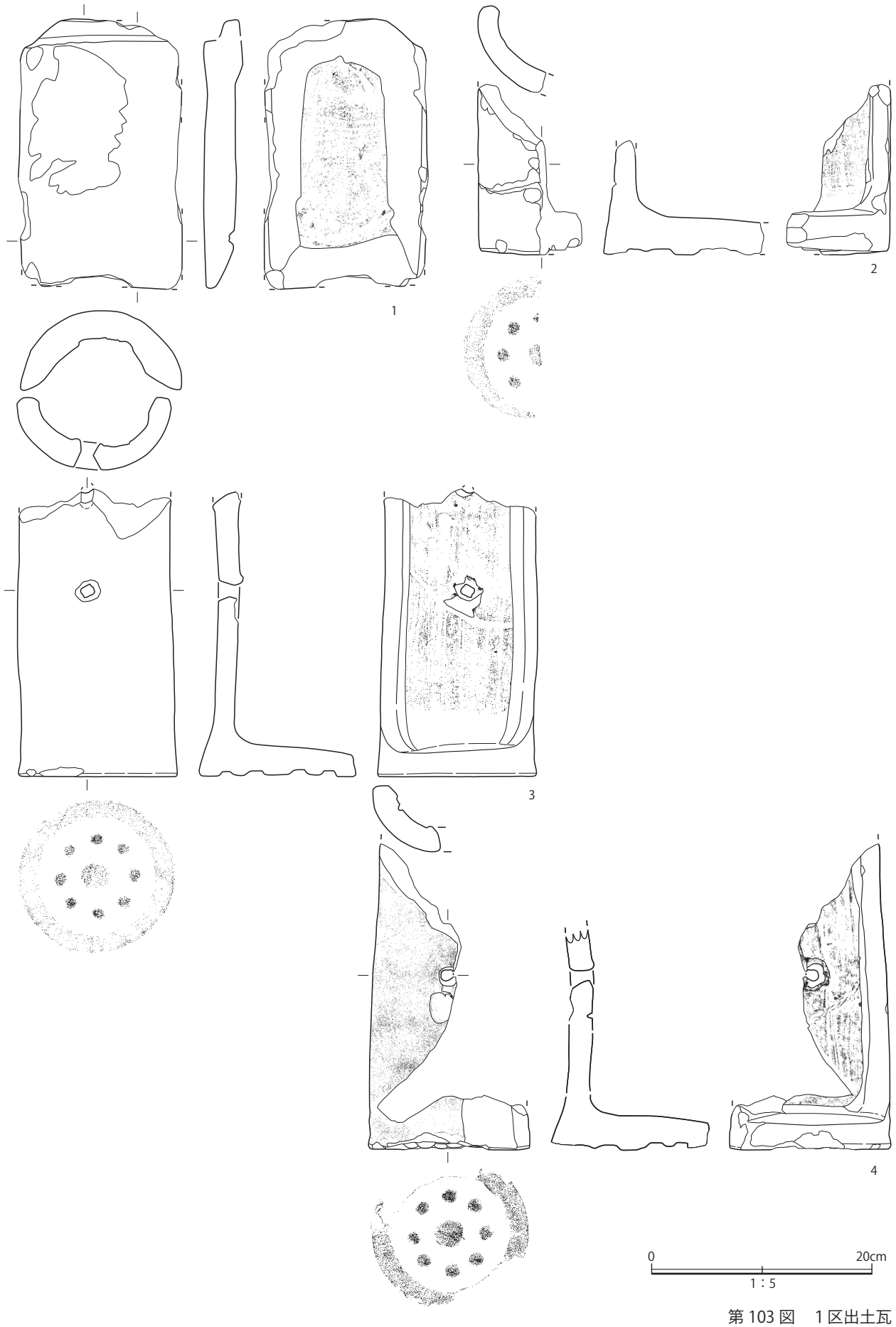
第 100 図　1 区出土瓦 7



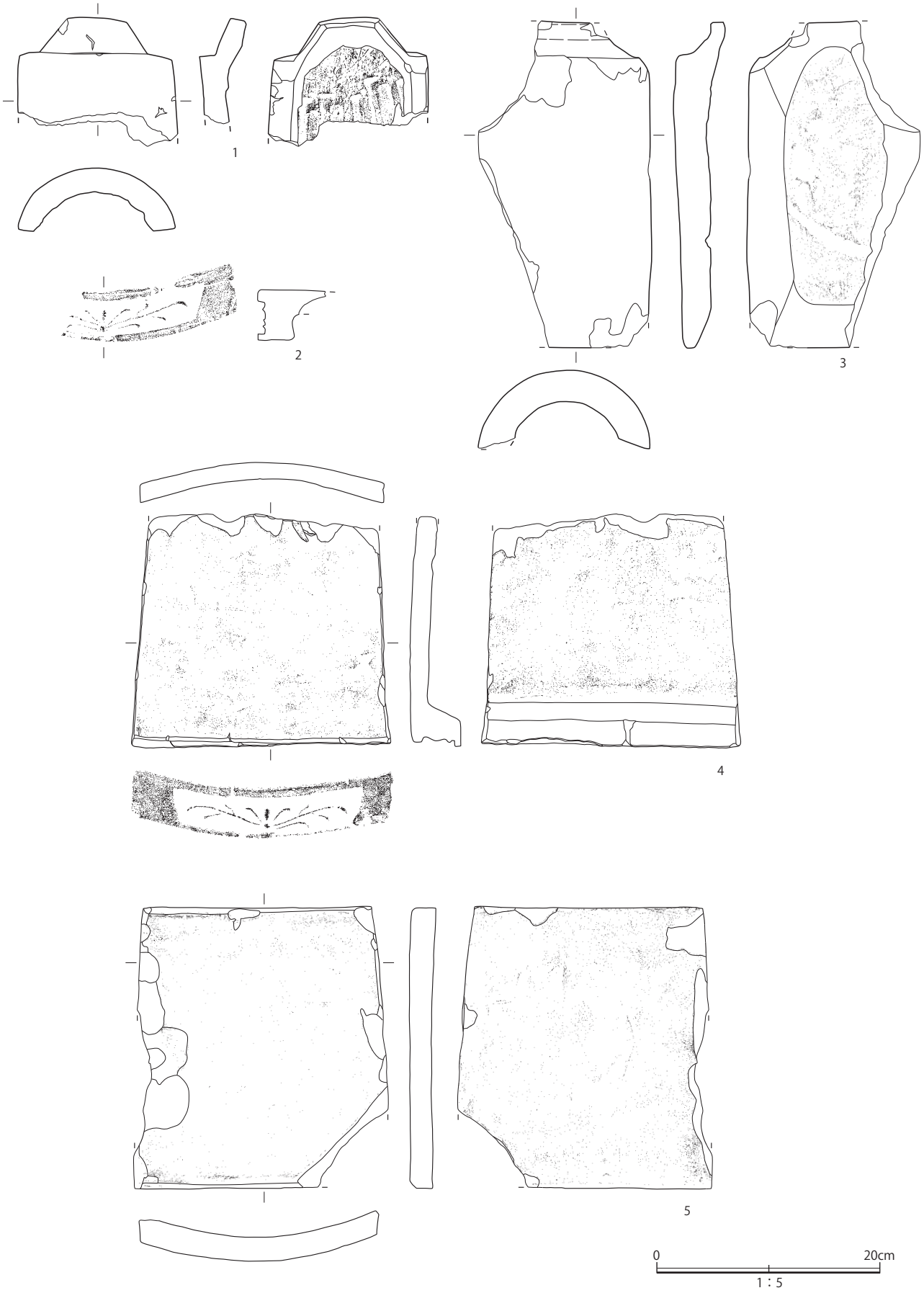
第 101 図　1 区出土瓦 8



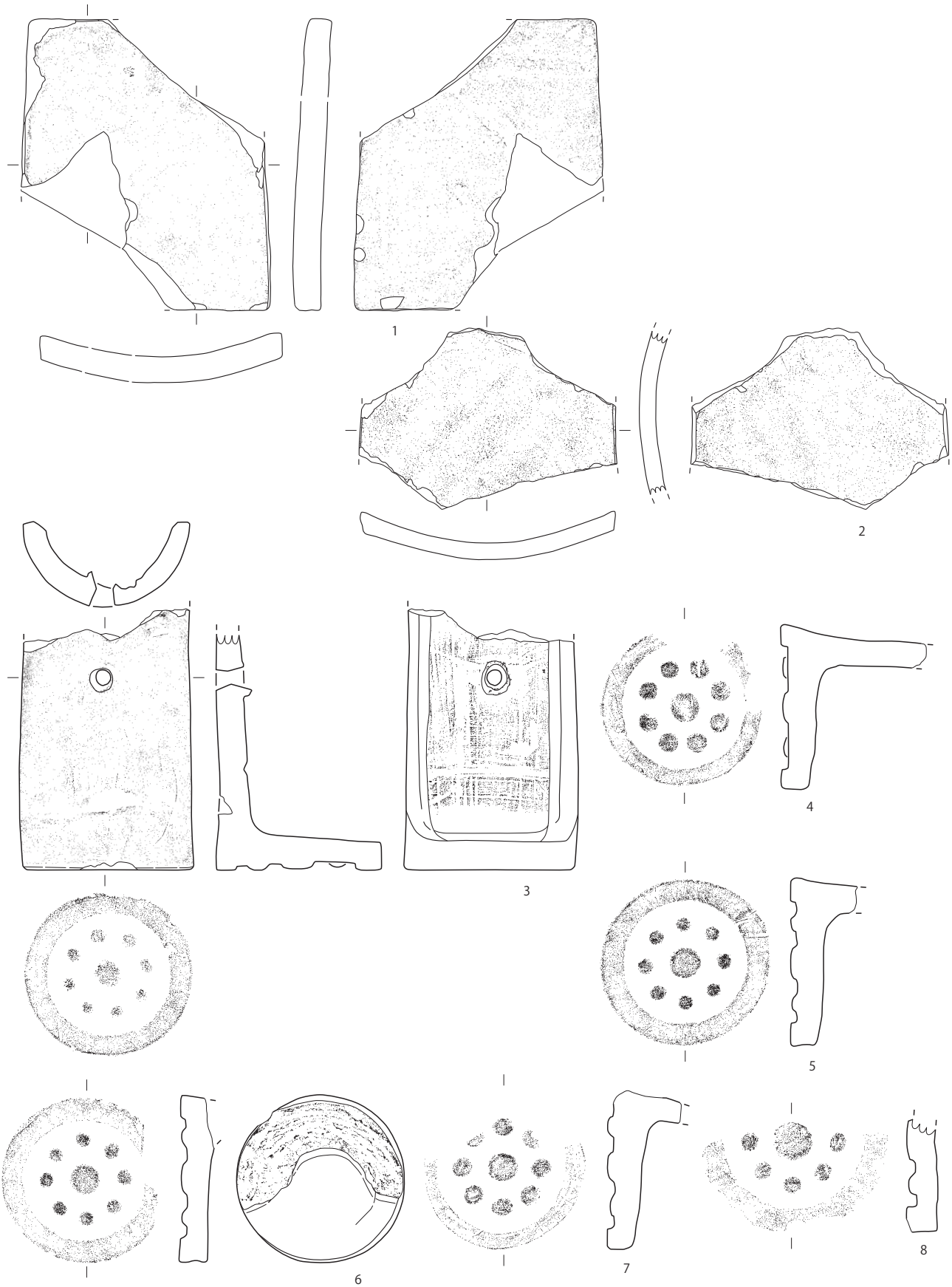
第 102 図　1 区出土瓦 9



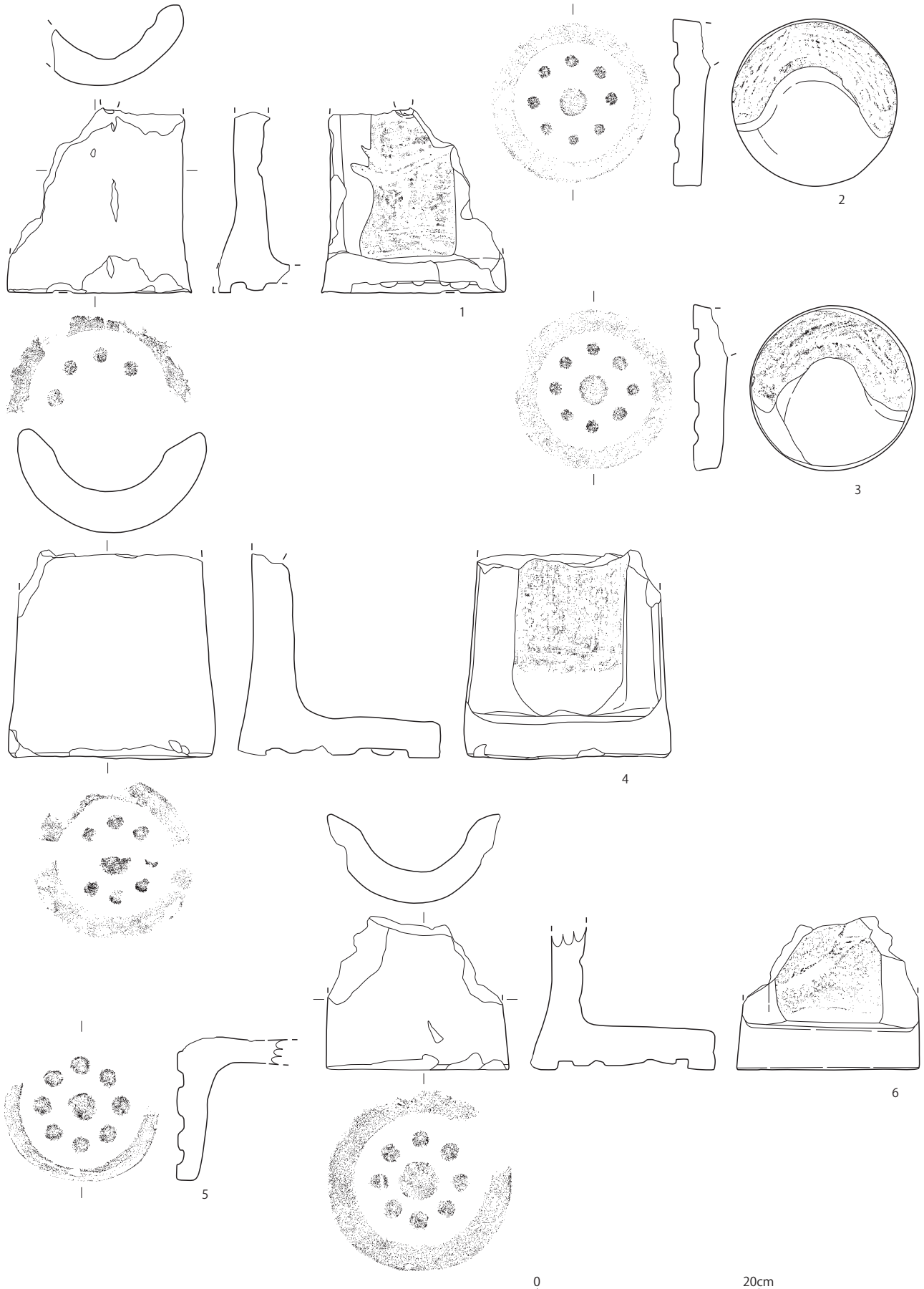
第 103 図　1 区出土瓦 10



第 104 図　1 区出土瓦 11



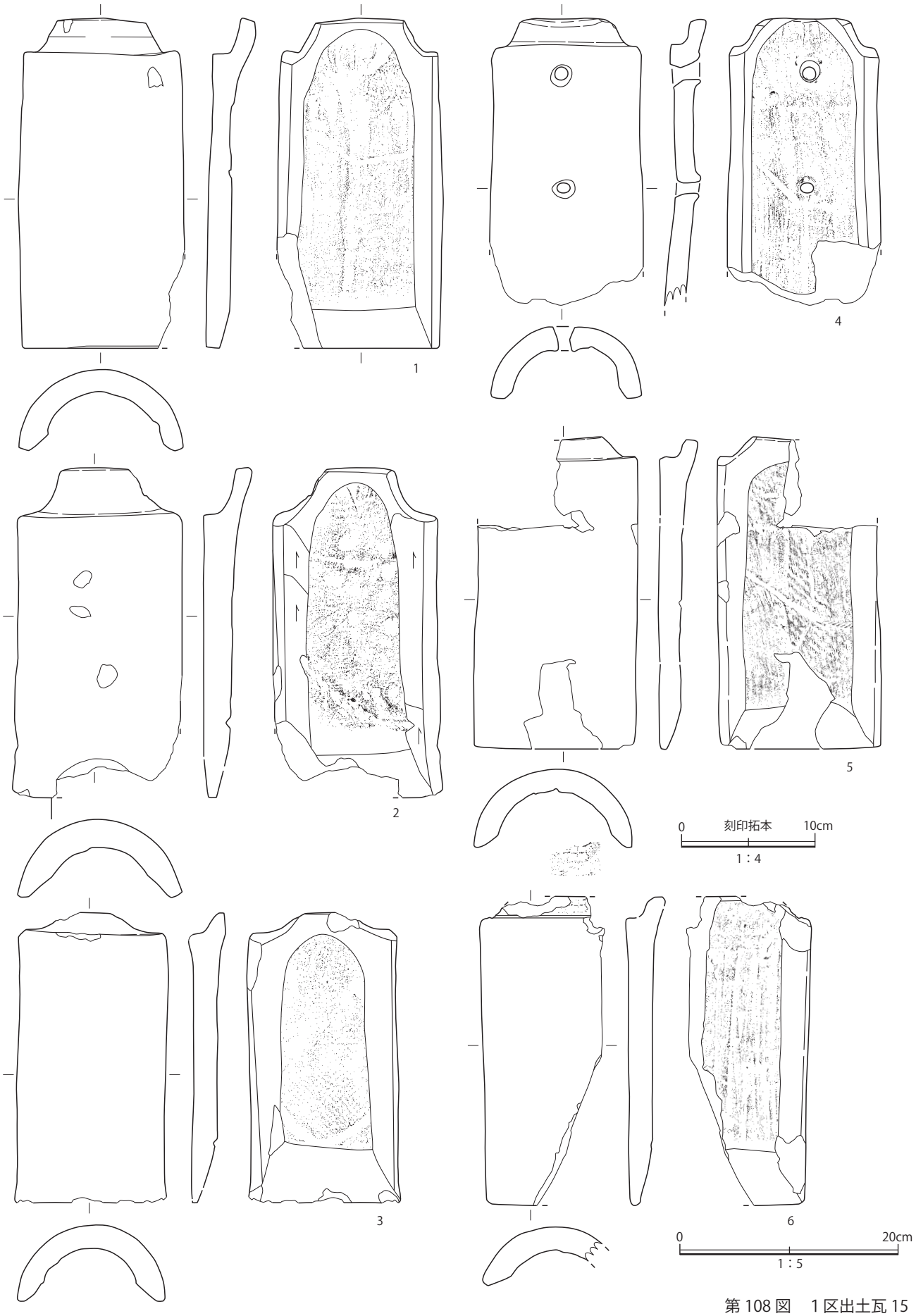
第 105 図　1 区出土瓦 12



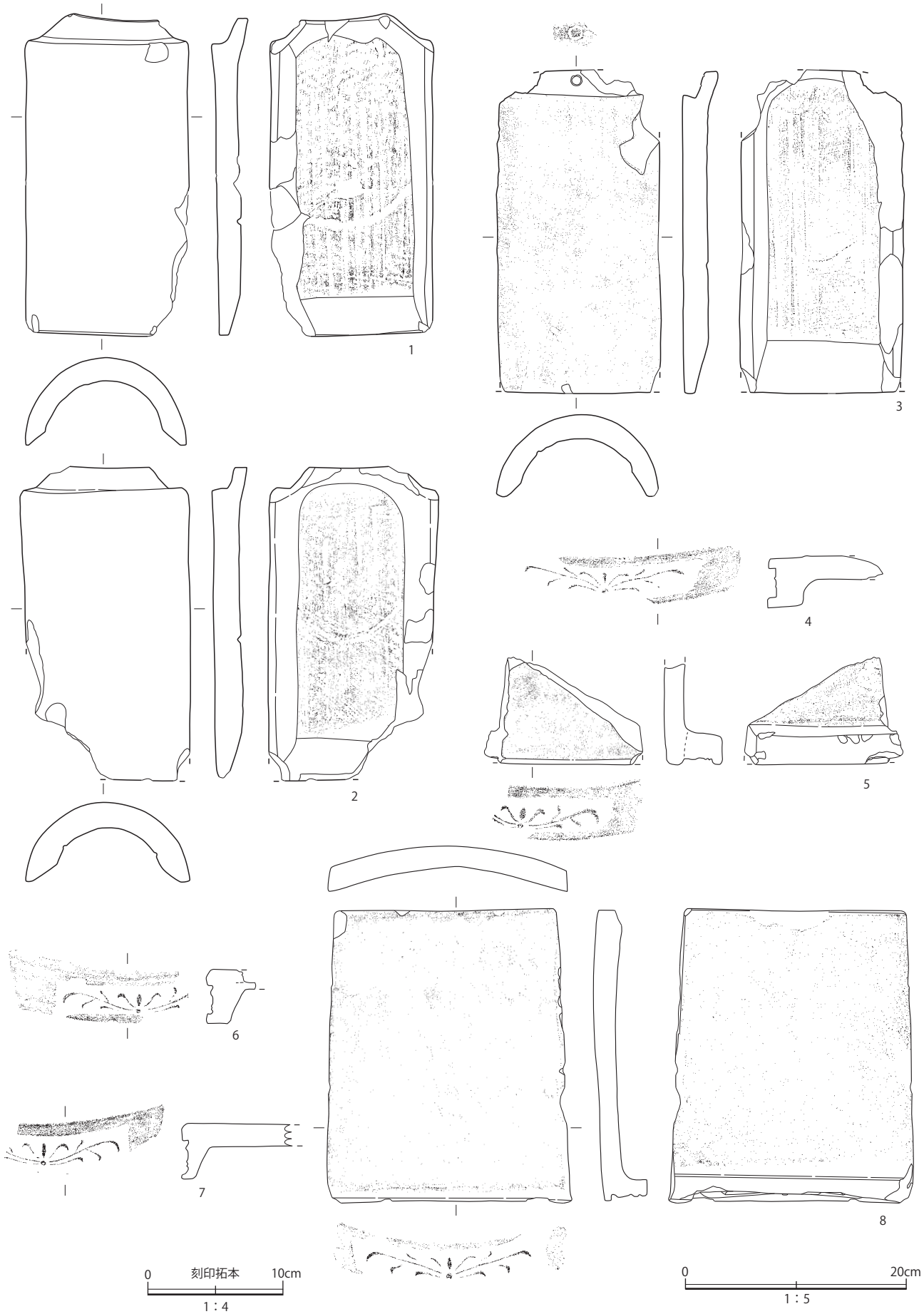
第 106 図　1 区出土瓦 13



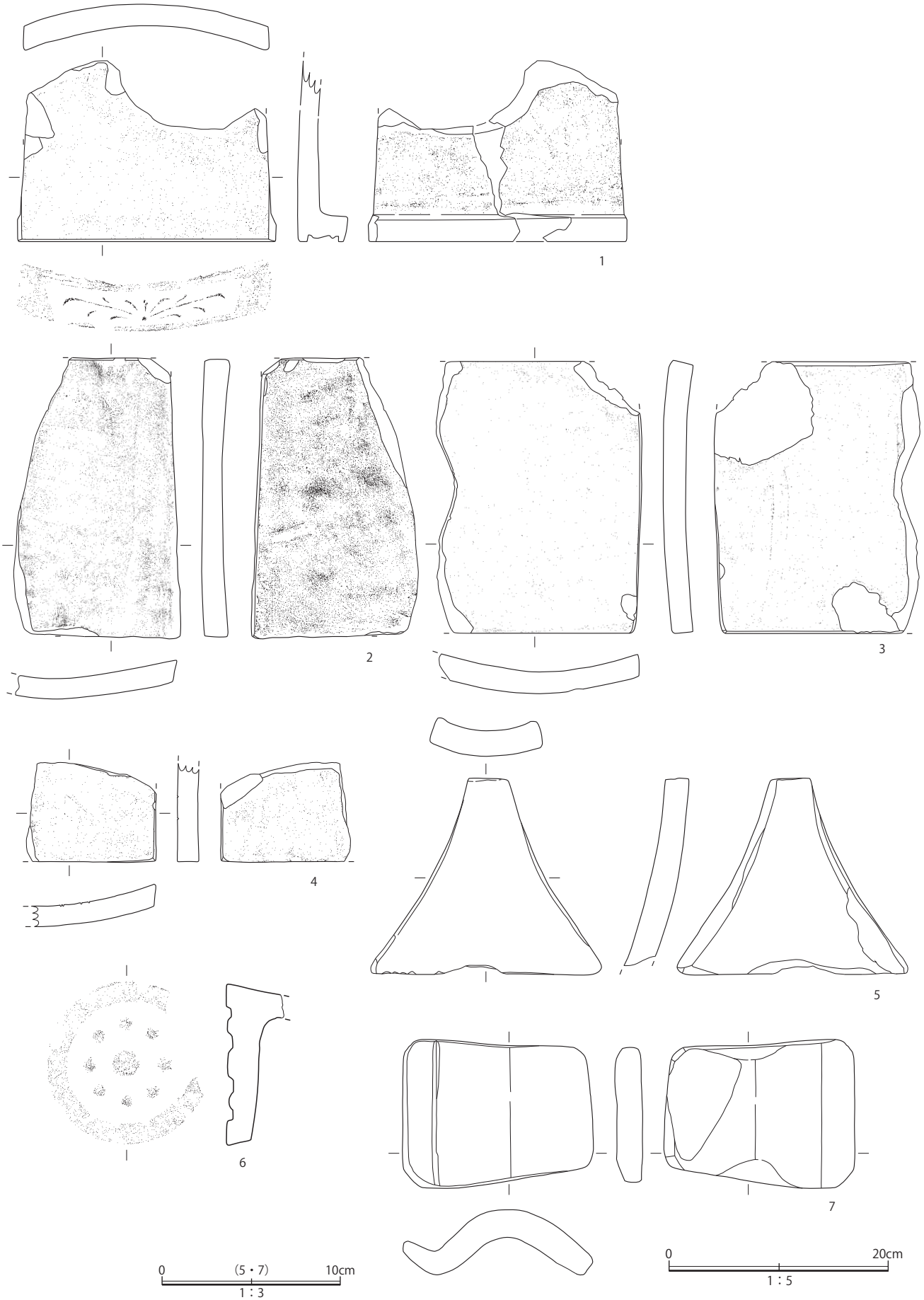
第 107 図　1 区出土瓦 14



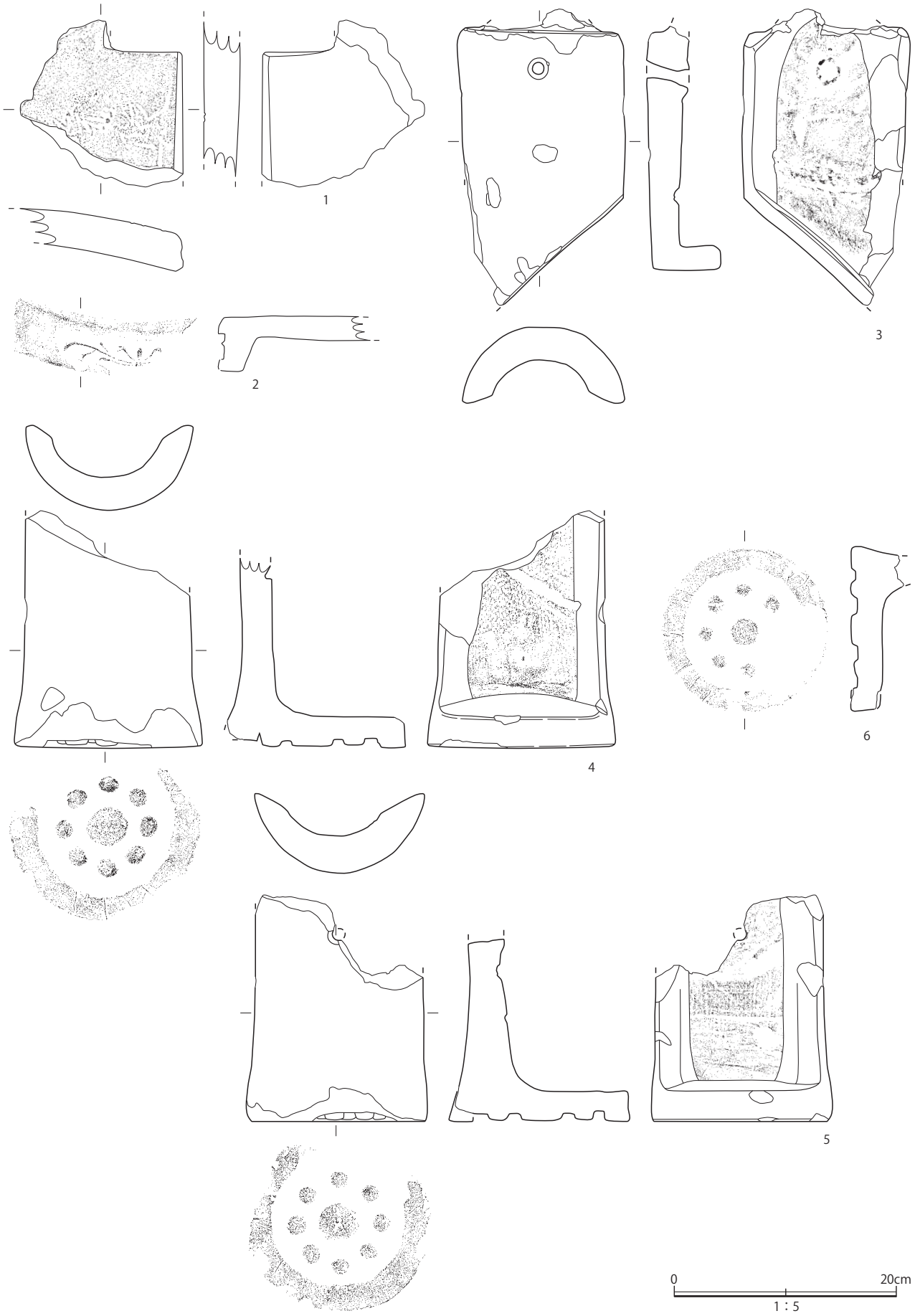
第 108 図　1 区出土瓦 15



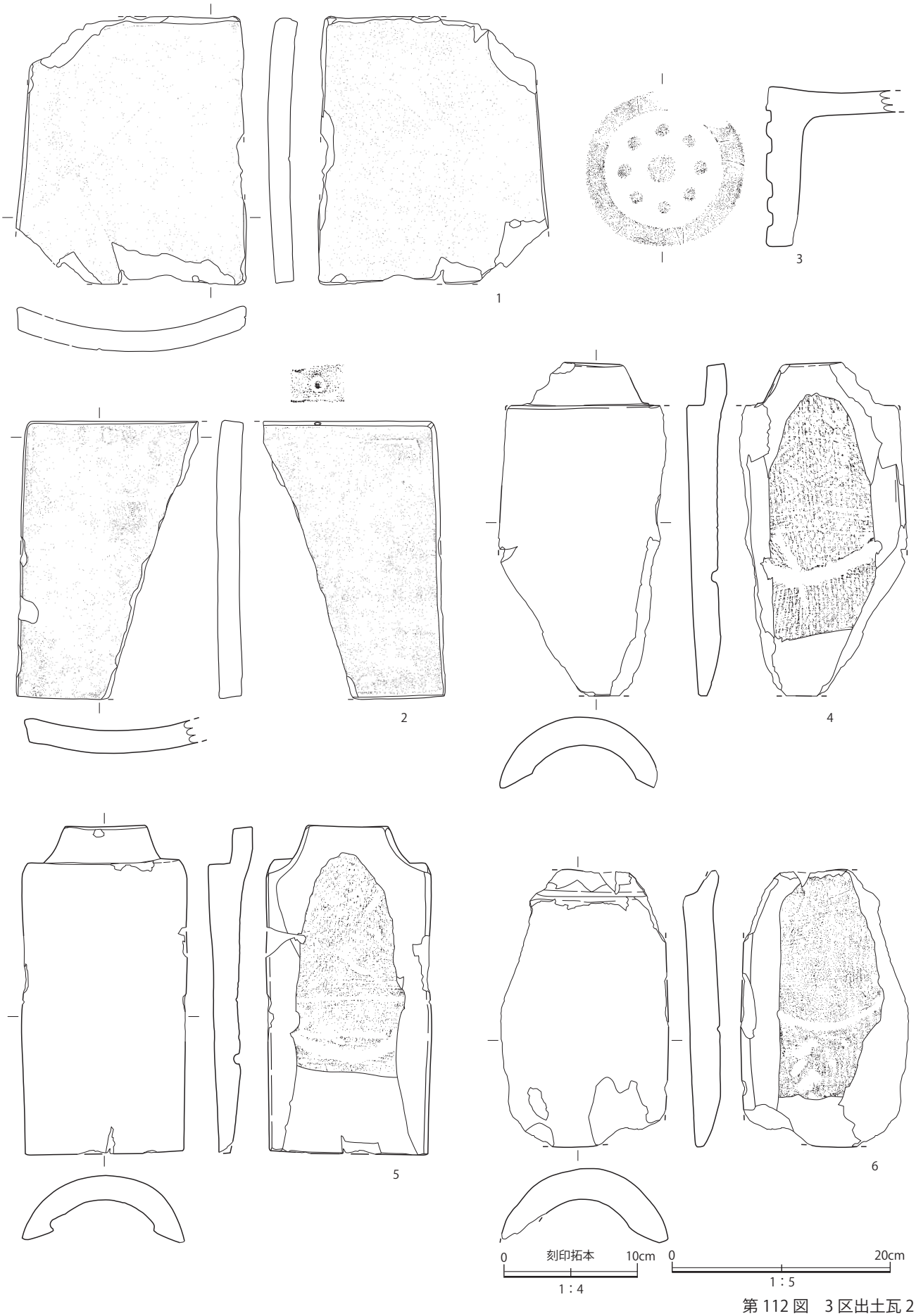
第 109 図　1 区出土瓦 16



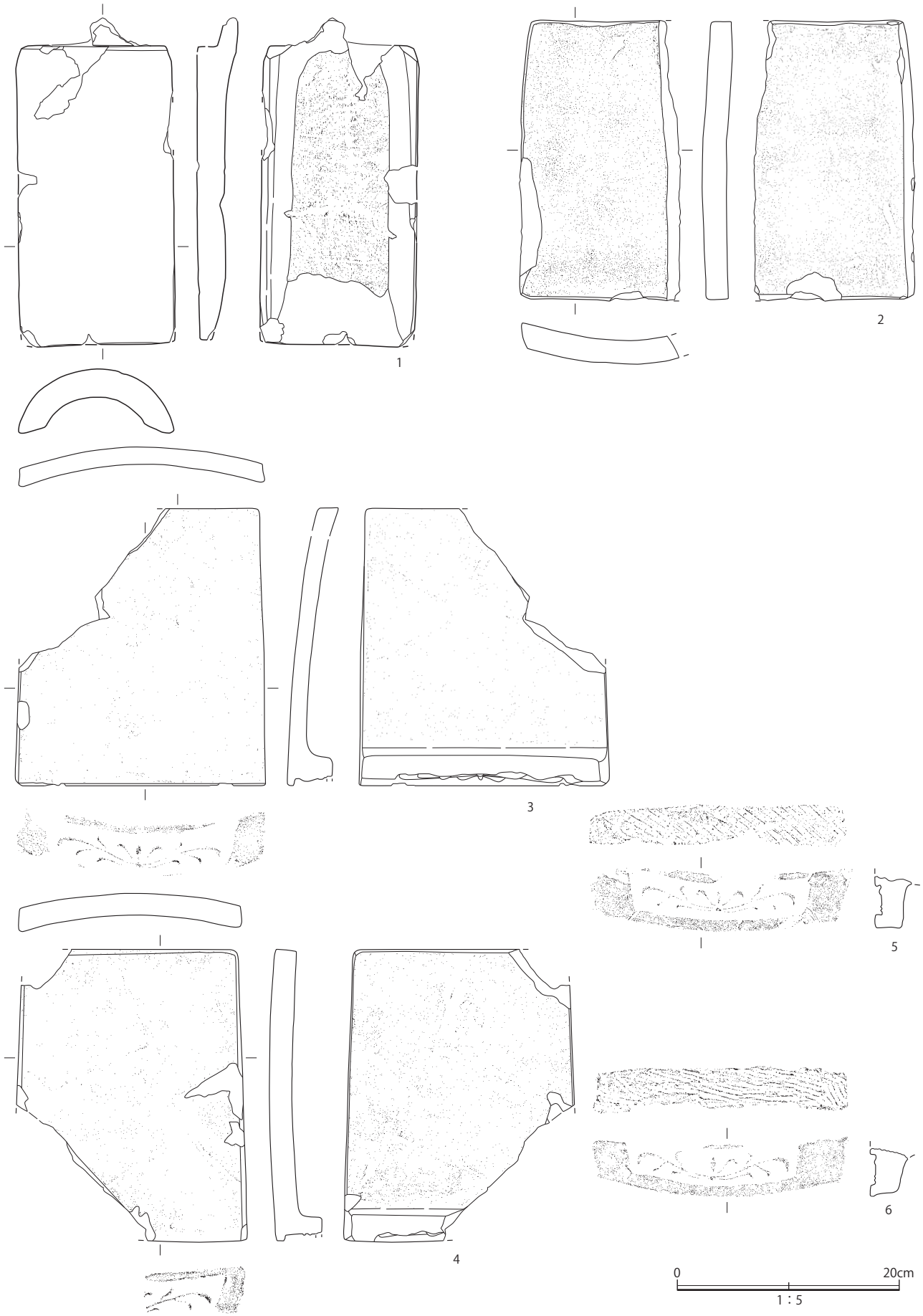
第 110 図　1 区出土瓦 17



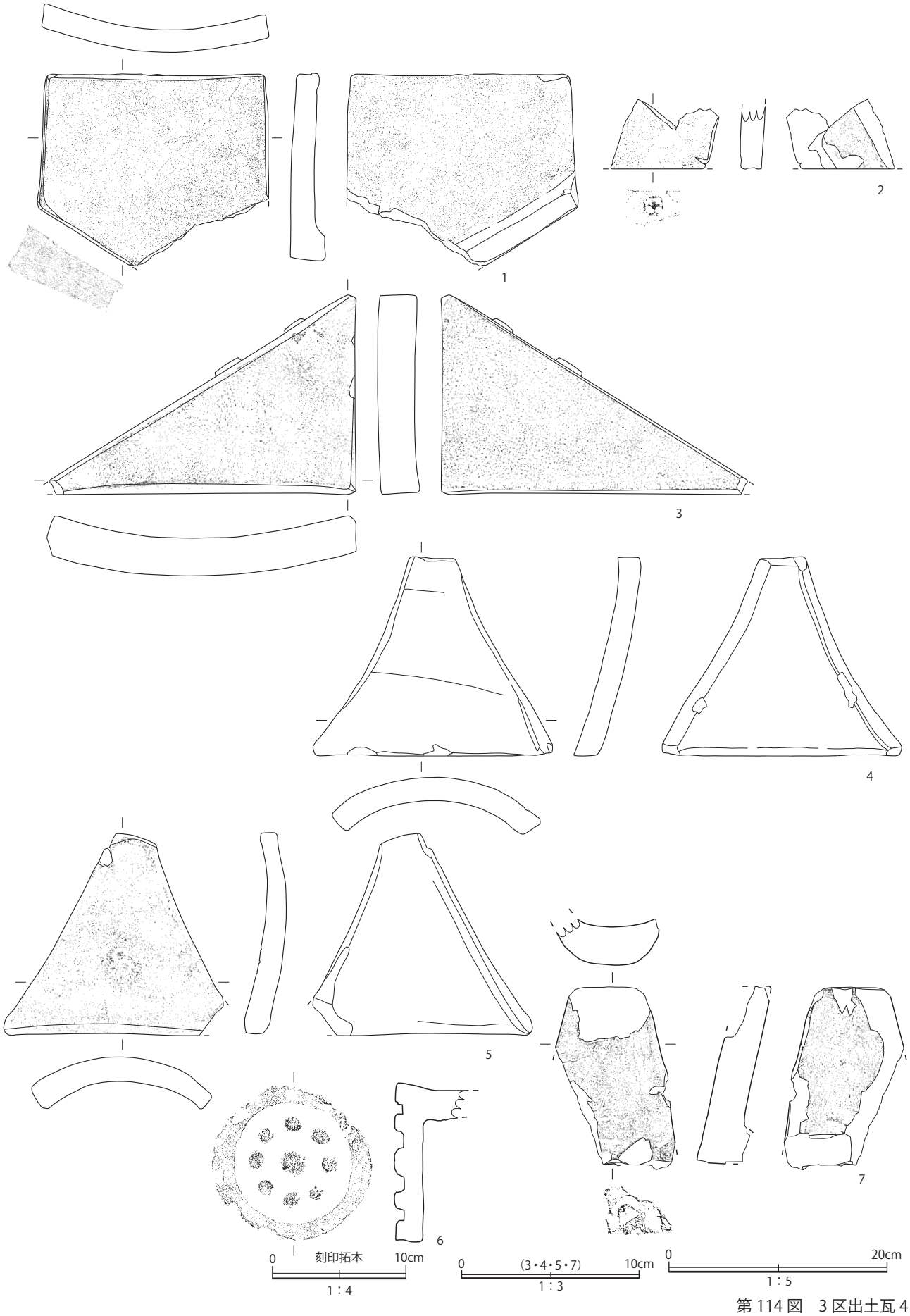
第 111 図　3 区出土瓦 1



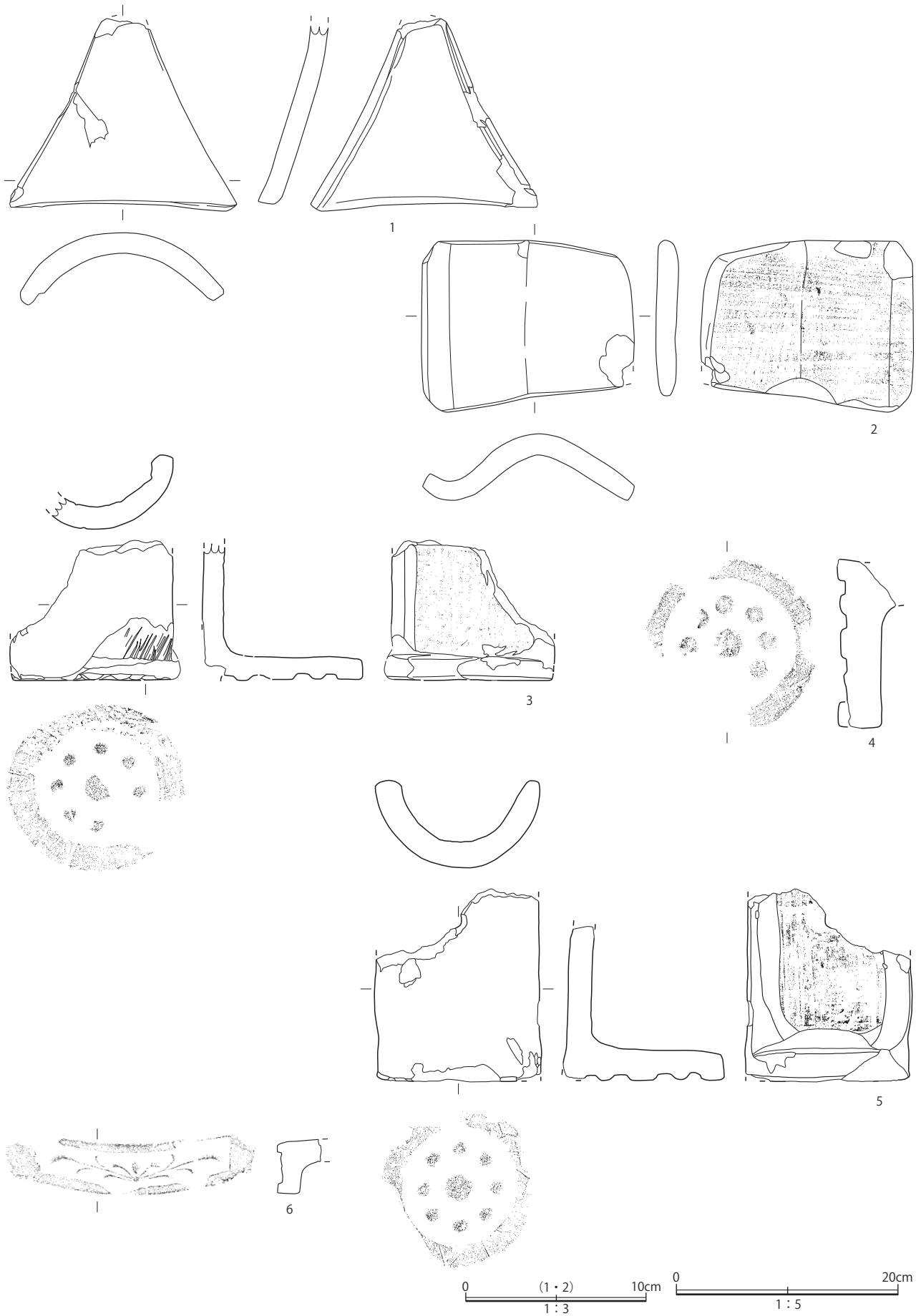
第 112 図　3 区出土瓦 2



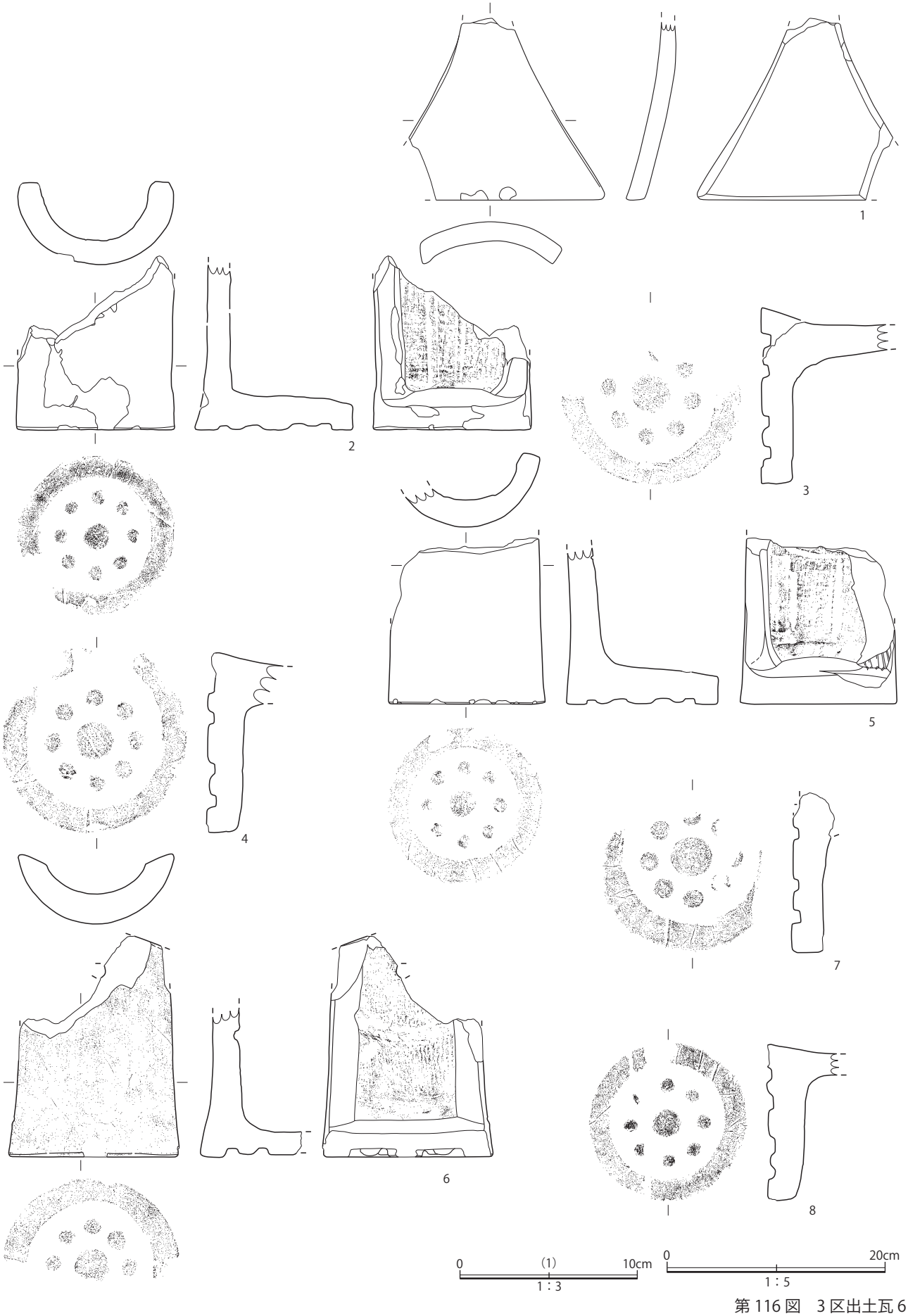
第 113 図　3 区出土瓦 3



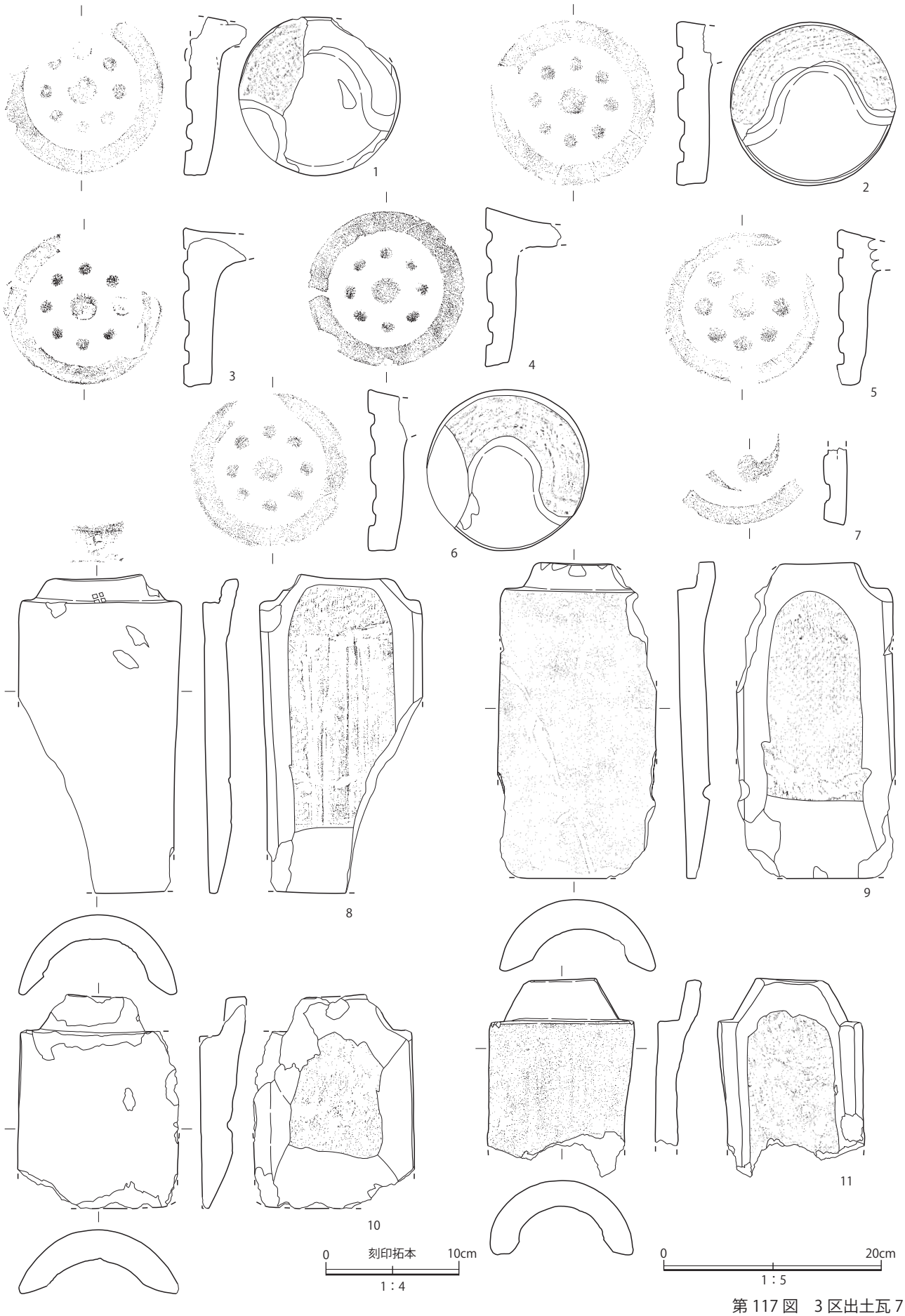
第 114 図　3 区出土瓦 4



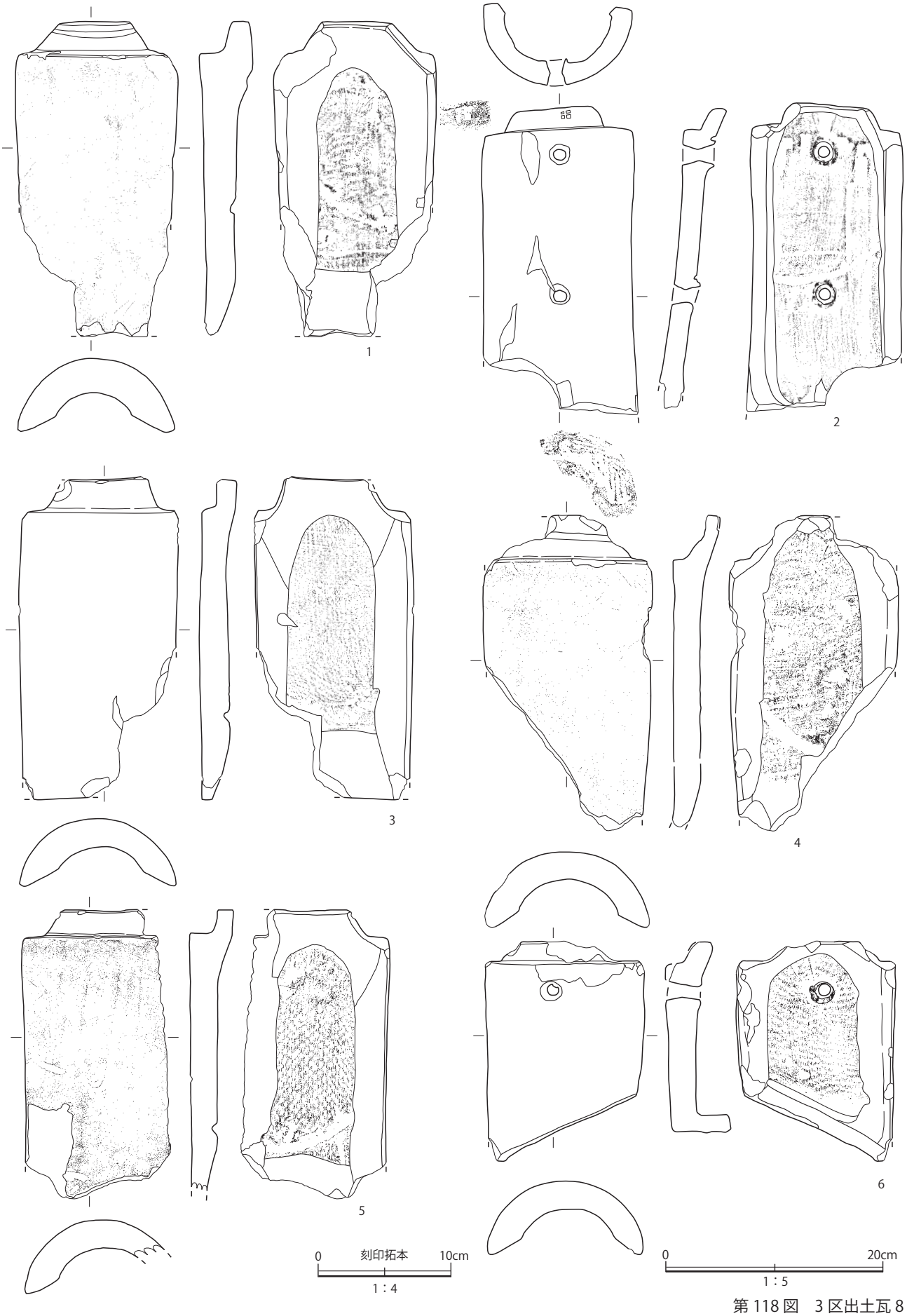
第 115 図　3 区出土瓦 5



第 116 図　3 区出土瓦 6



第 117 図　3 区出土瓦 7



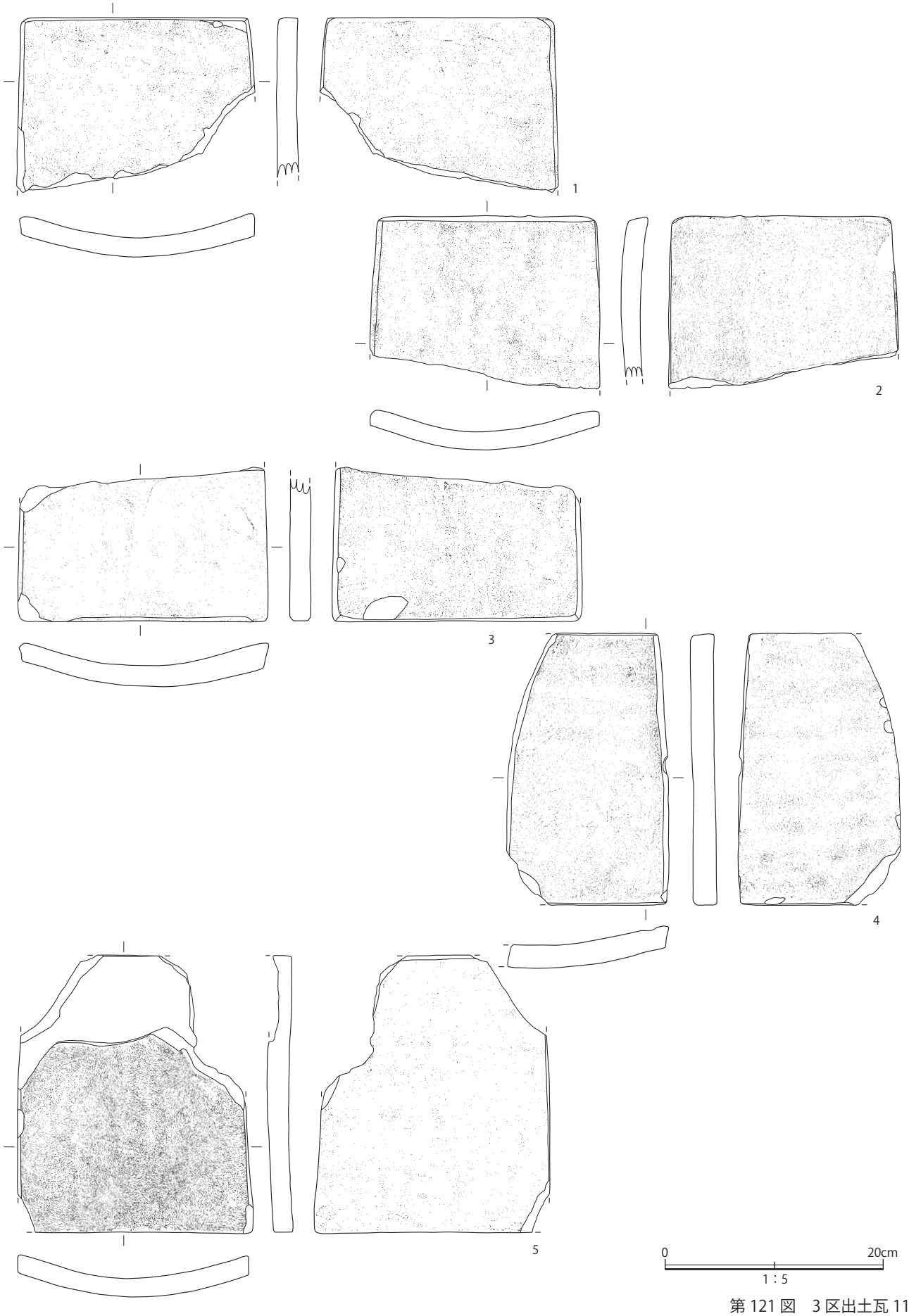
第 118 図　3 区出土瓦 8



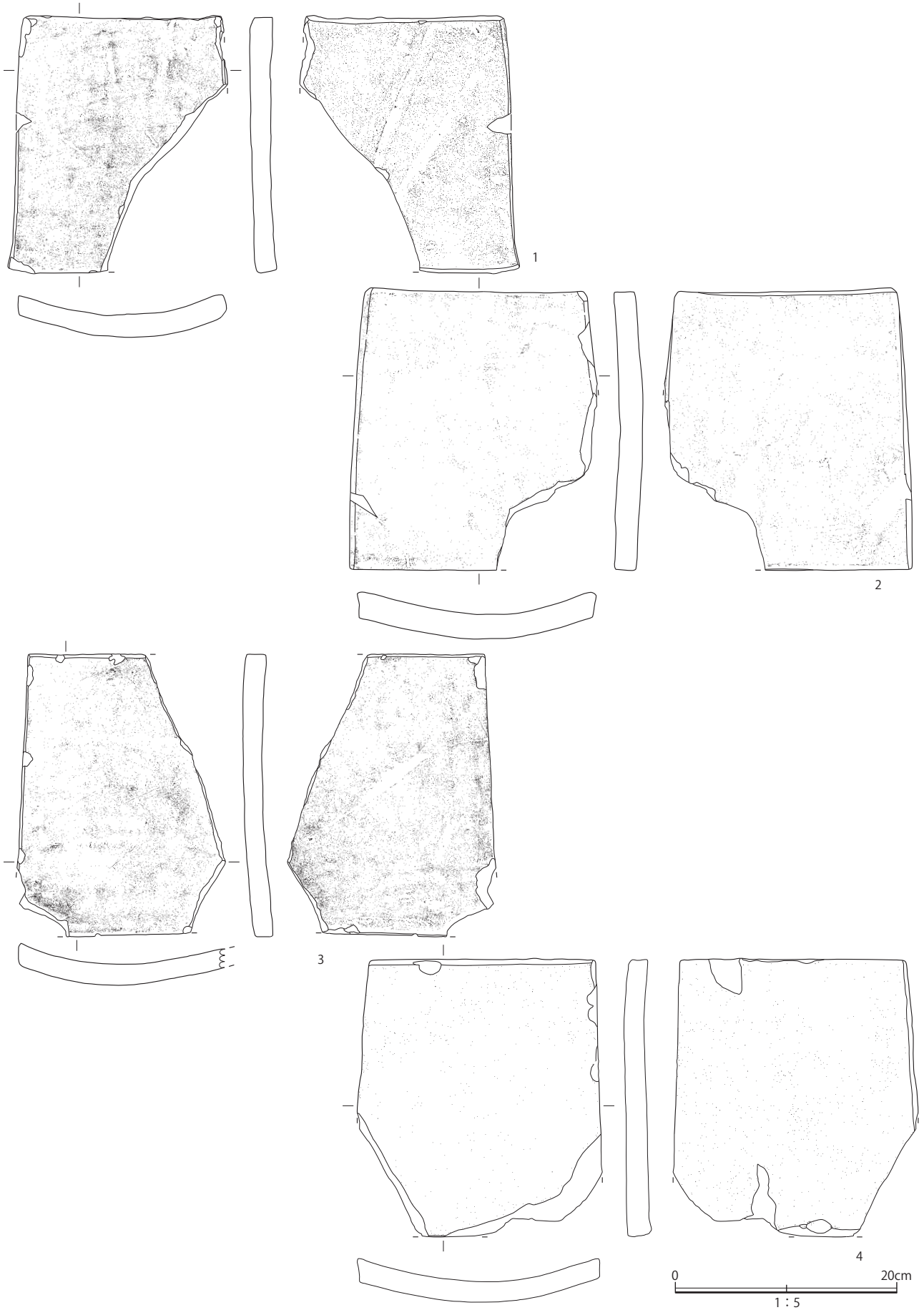
第 119 図　3 区出土瓦 9



第 120 図　3 区出土瓦 10



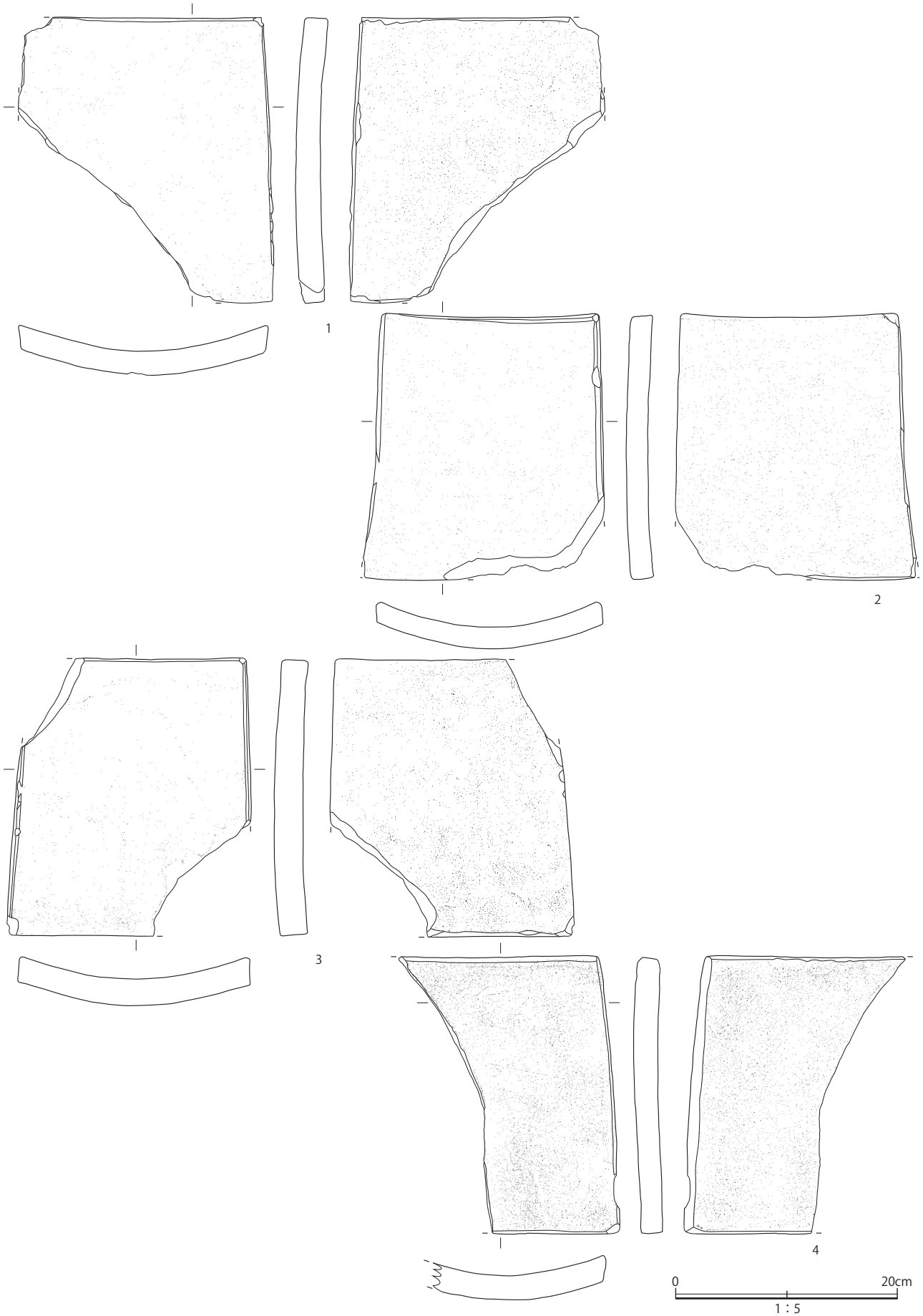
第 121 図　3 区出土瓦 11



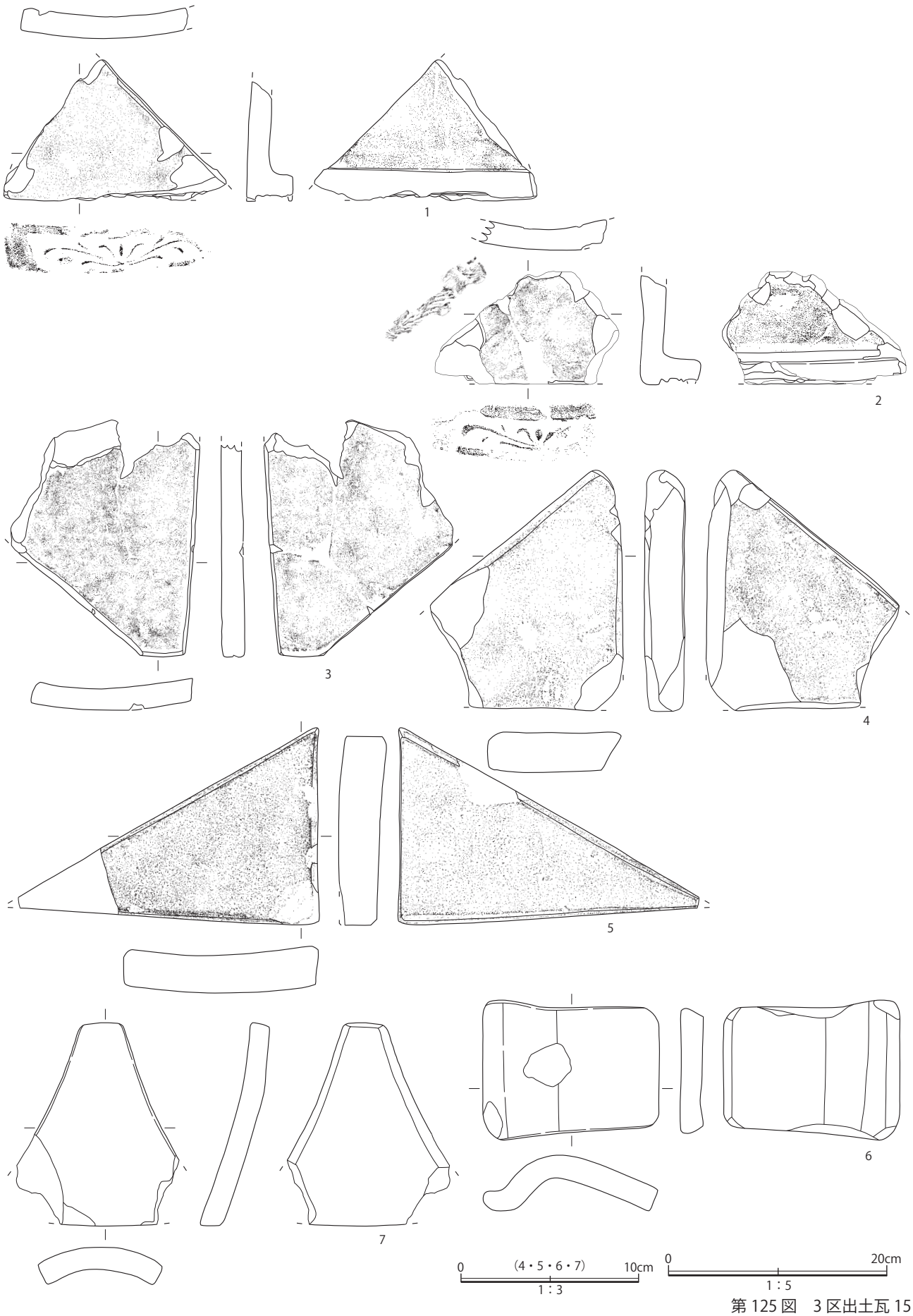
第 122 図　3 区出土瓦 12



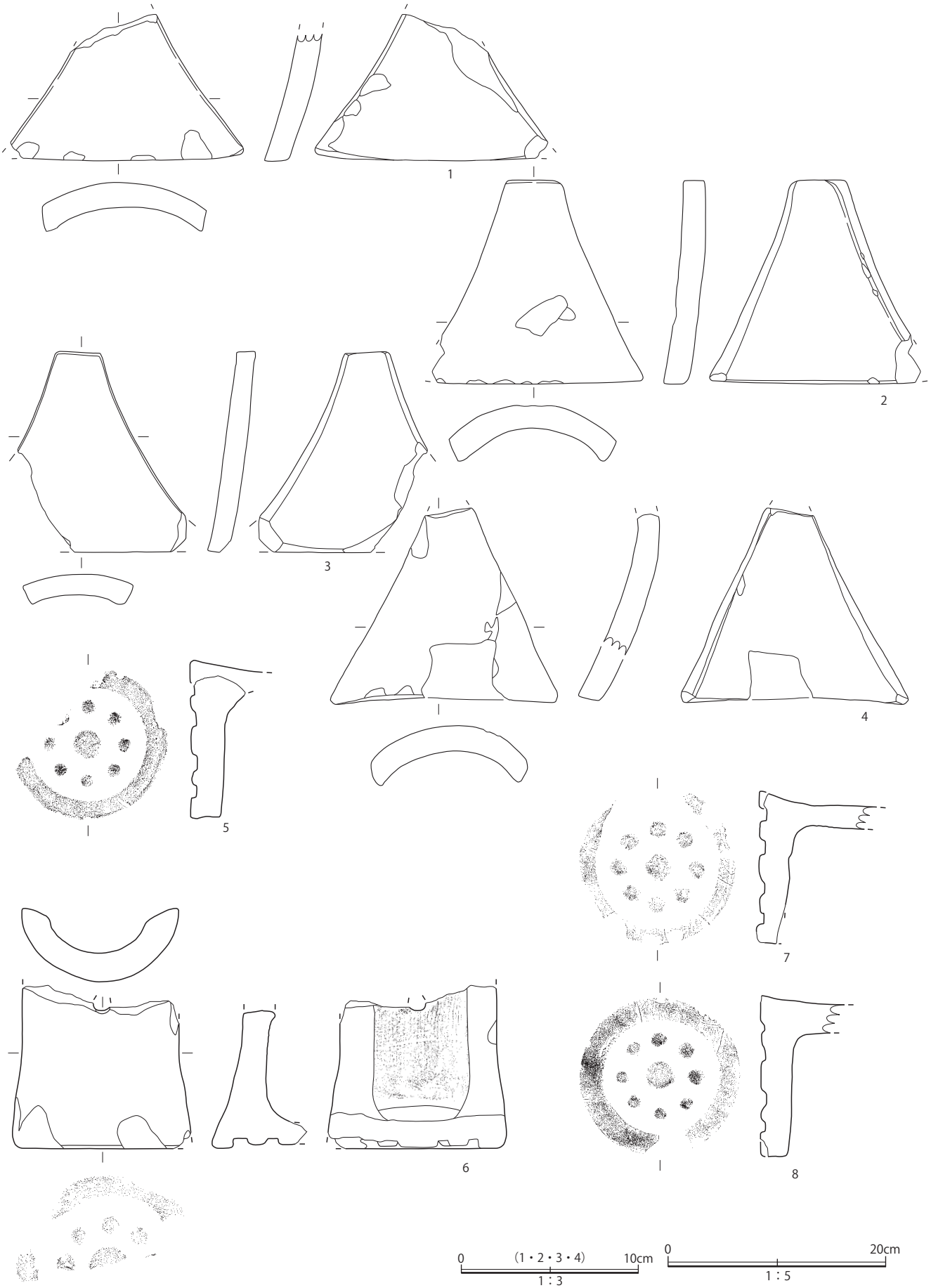
第 123 図　3 区出土瓦 13



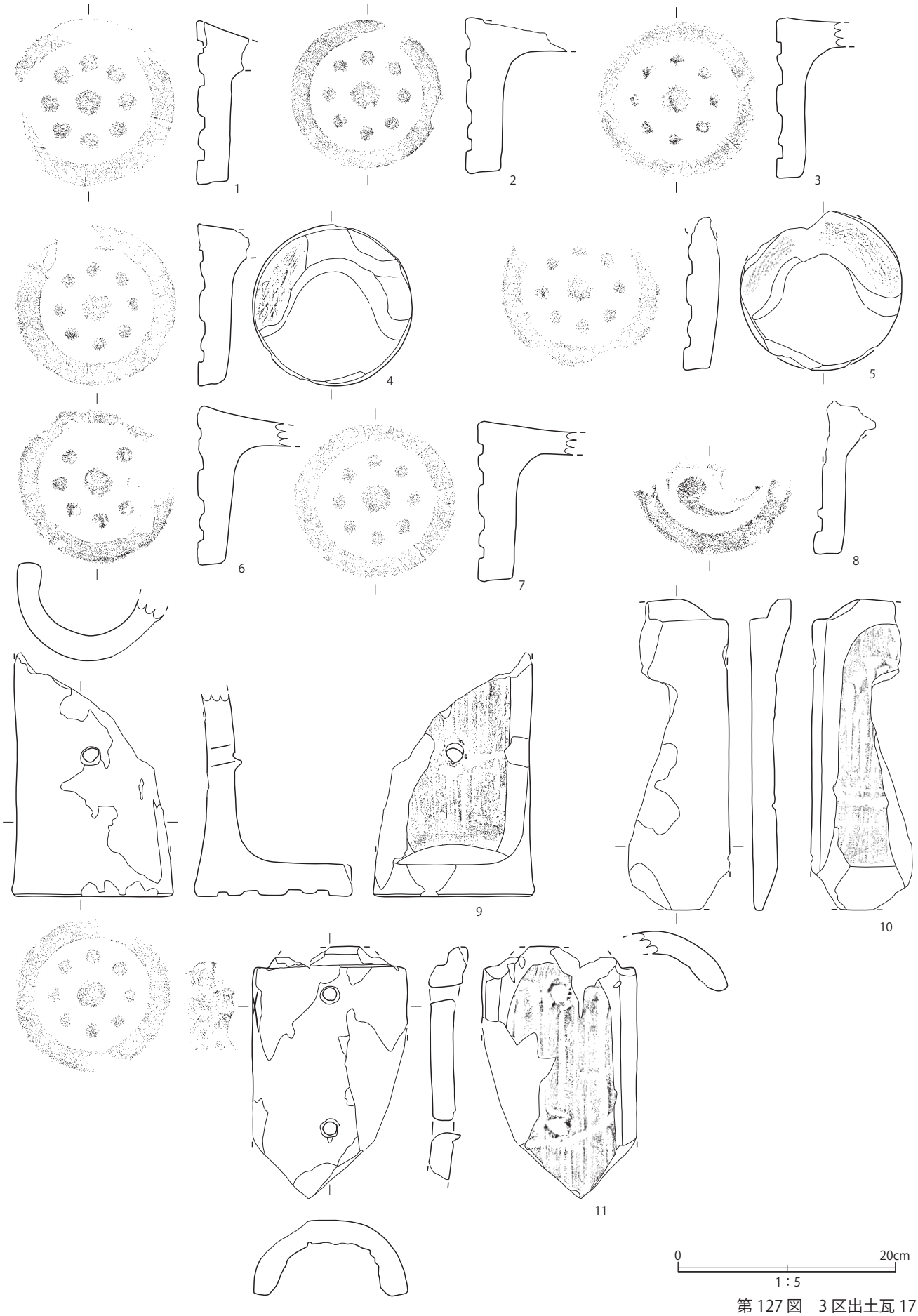
第 124 図　3 区出土瓦 14



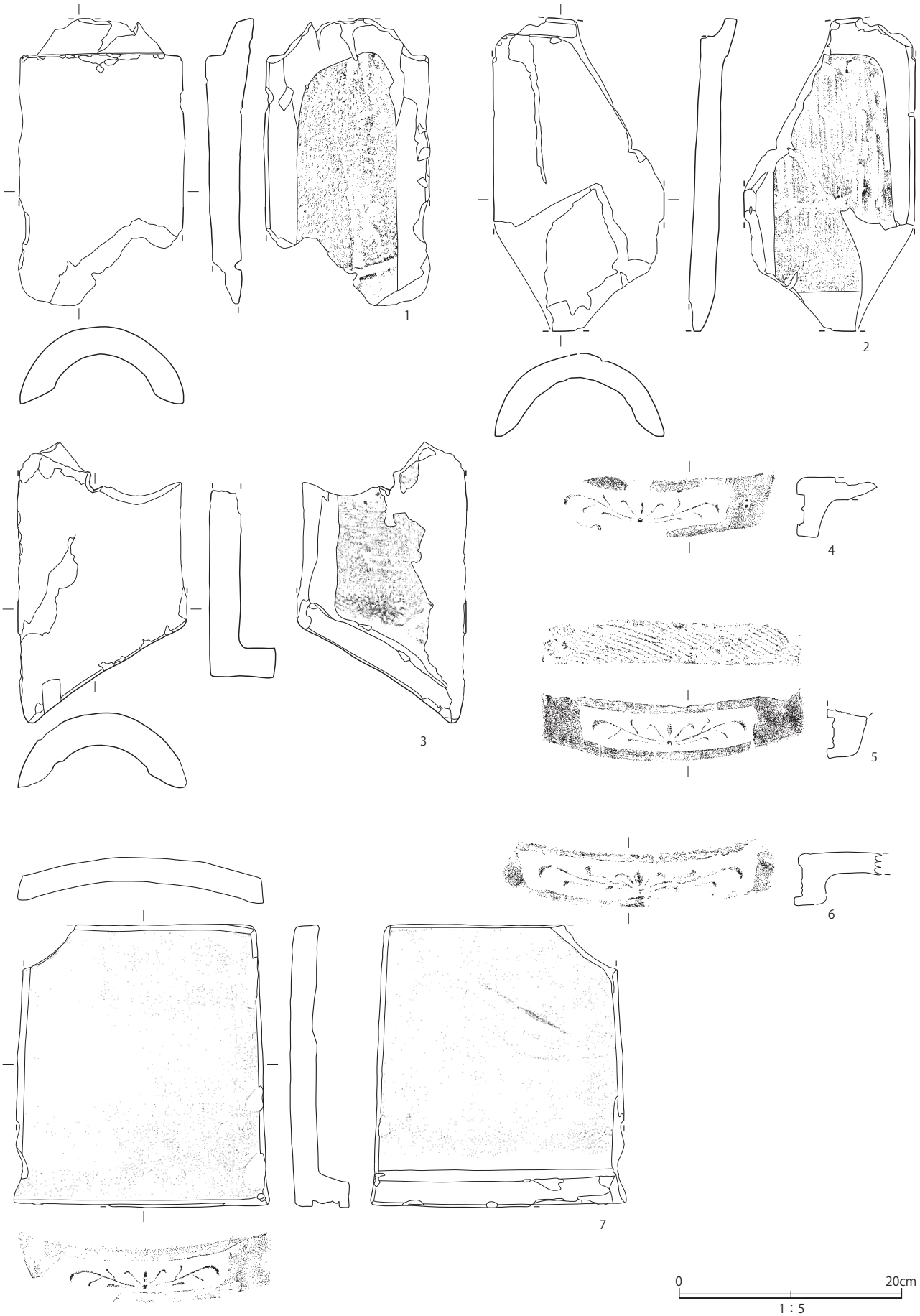
第 125 図　3 区出土瓦 15



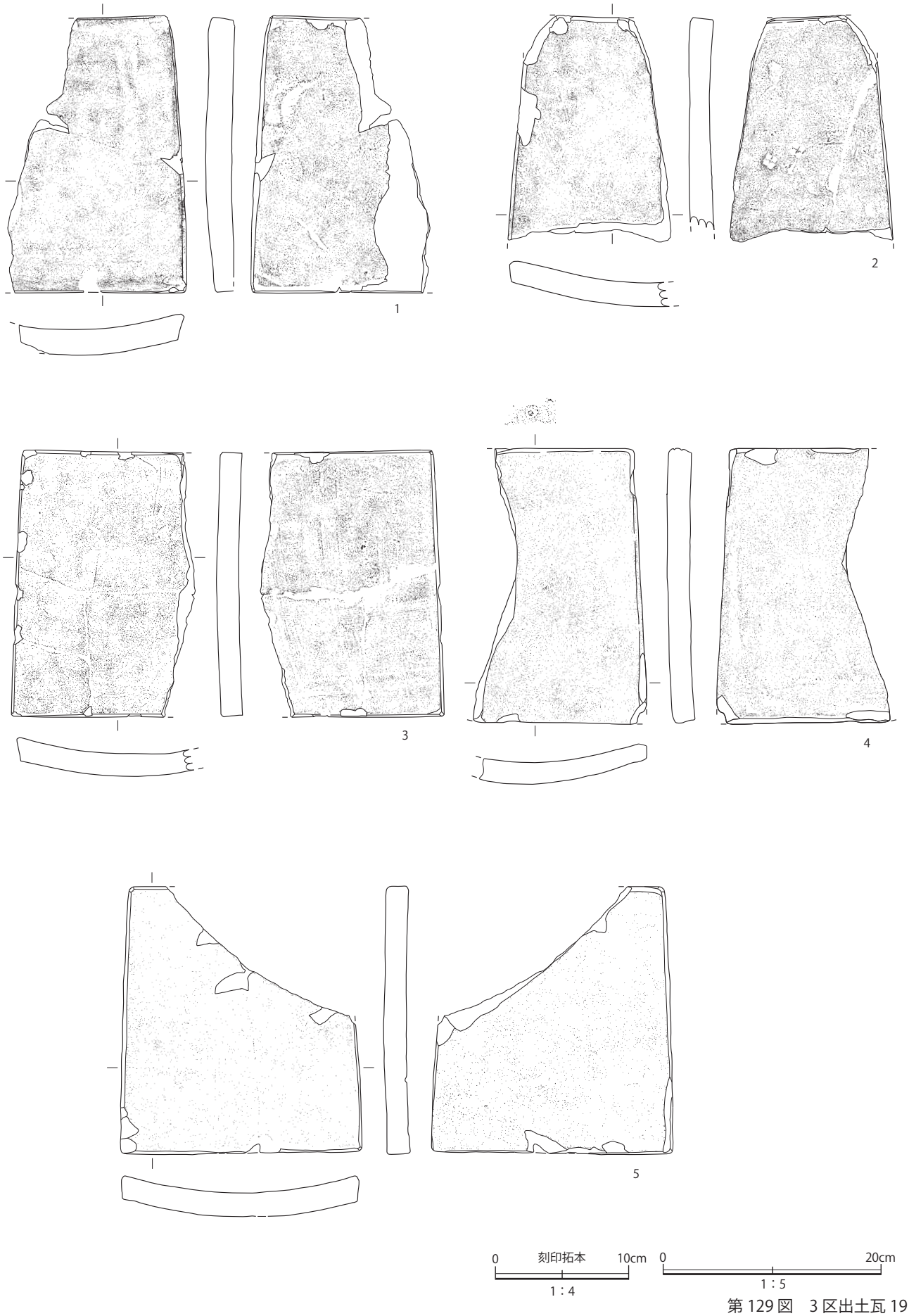
第 126 図　3 区出土瓦 16



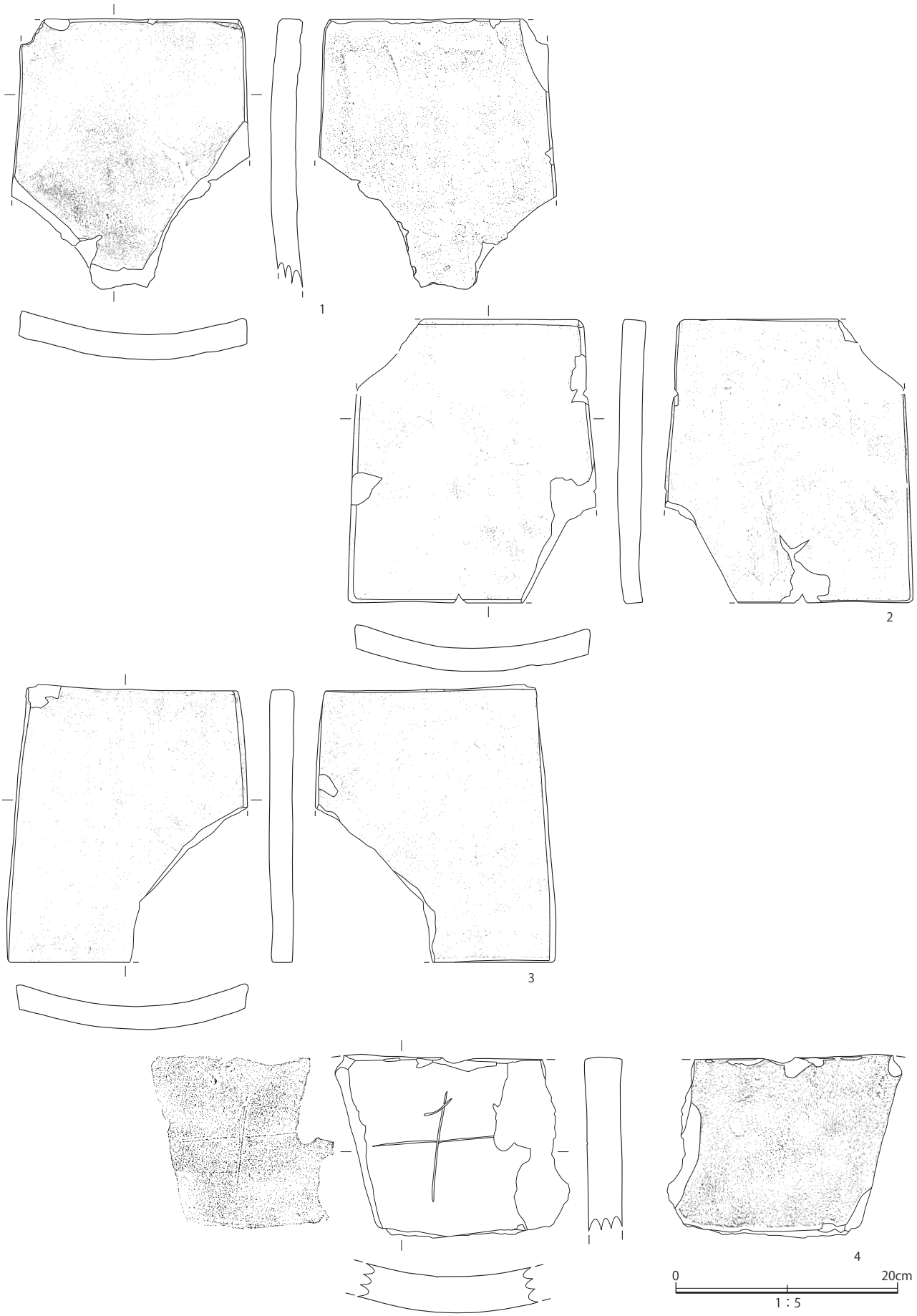
第 127 図　3 区出土瓦 17



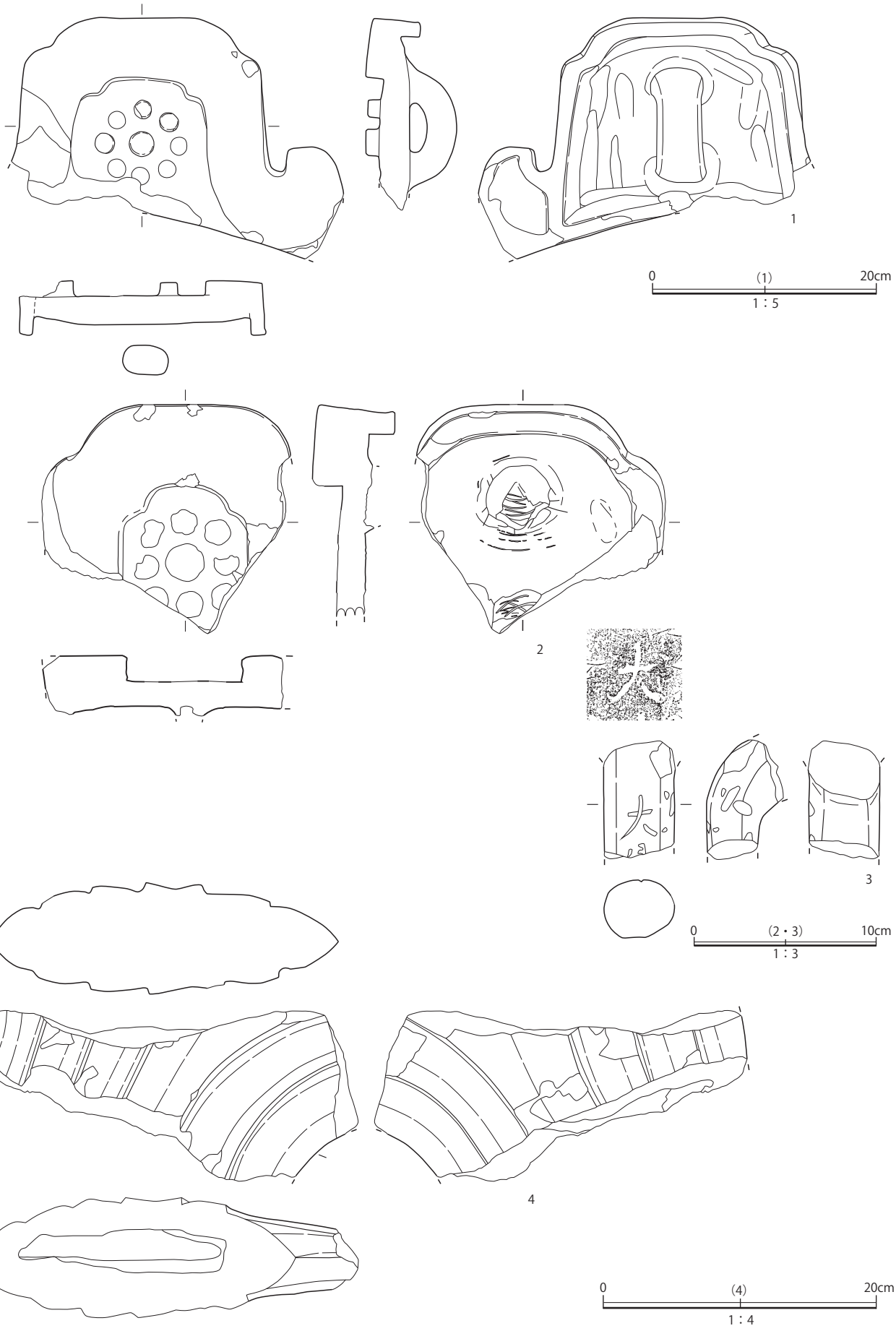
第 128 図　3 区出土瓦 18



第 129 図　3 区出土瓦 19



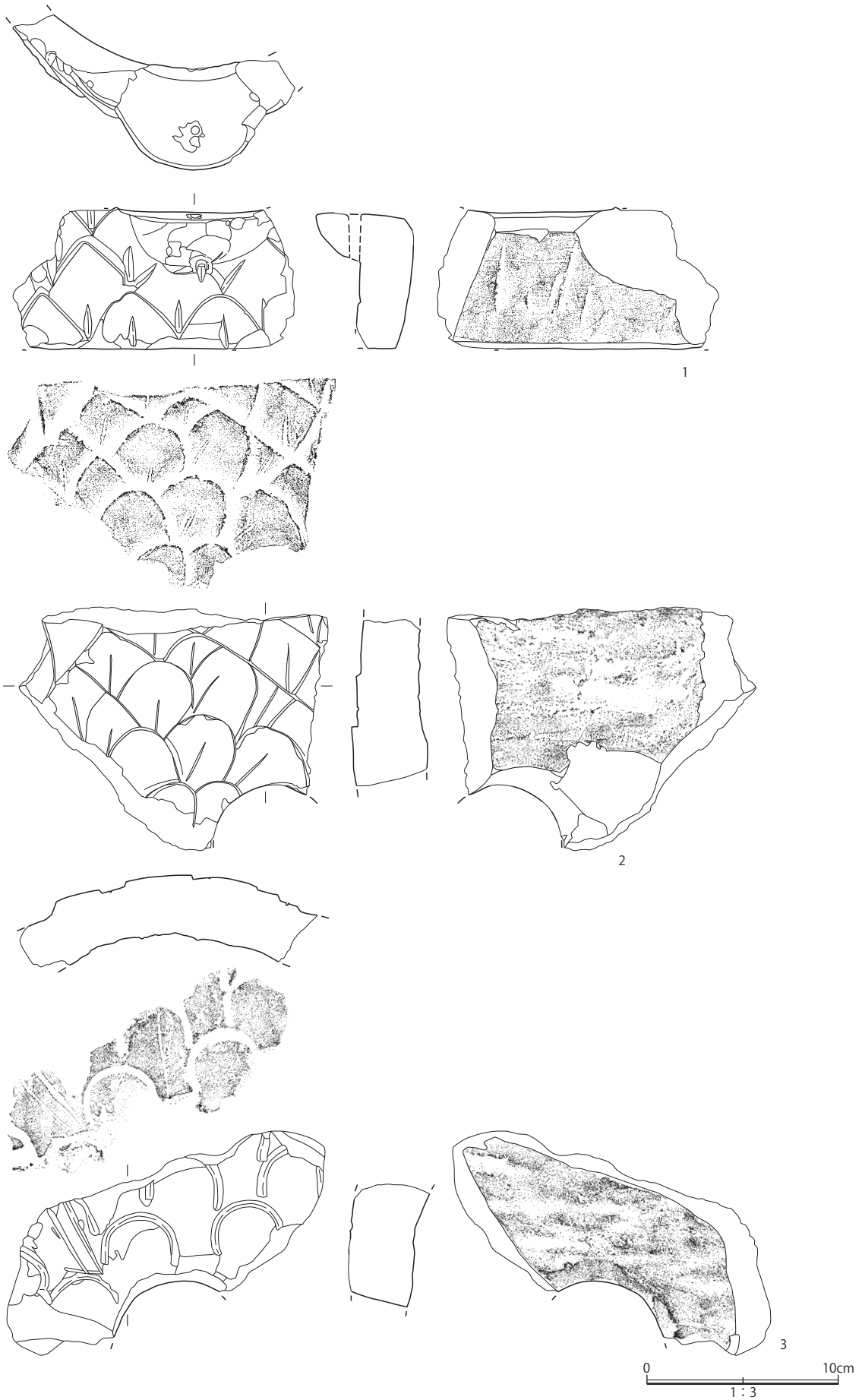
第 130 図　3 区出土瓦 20



第 131 図　1・2・3 区出土瓦 21



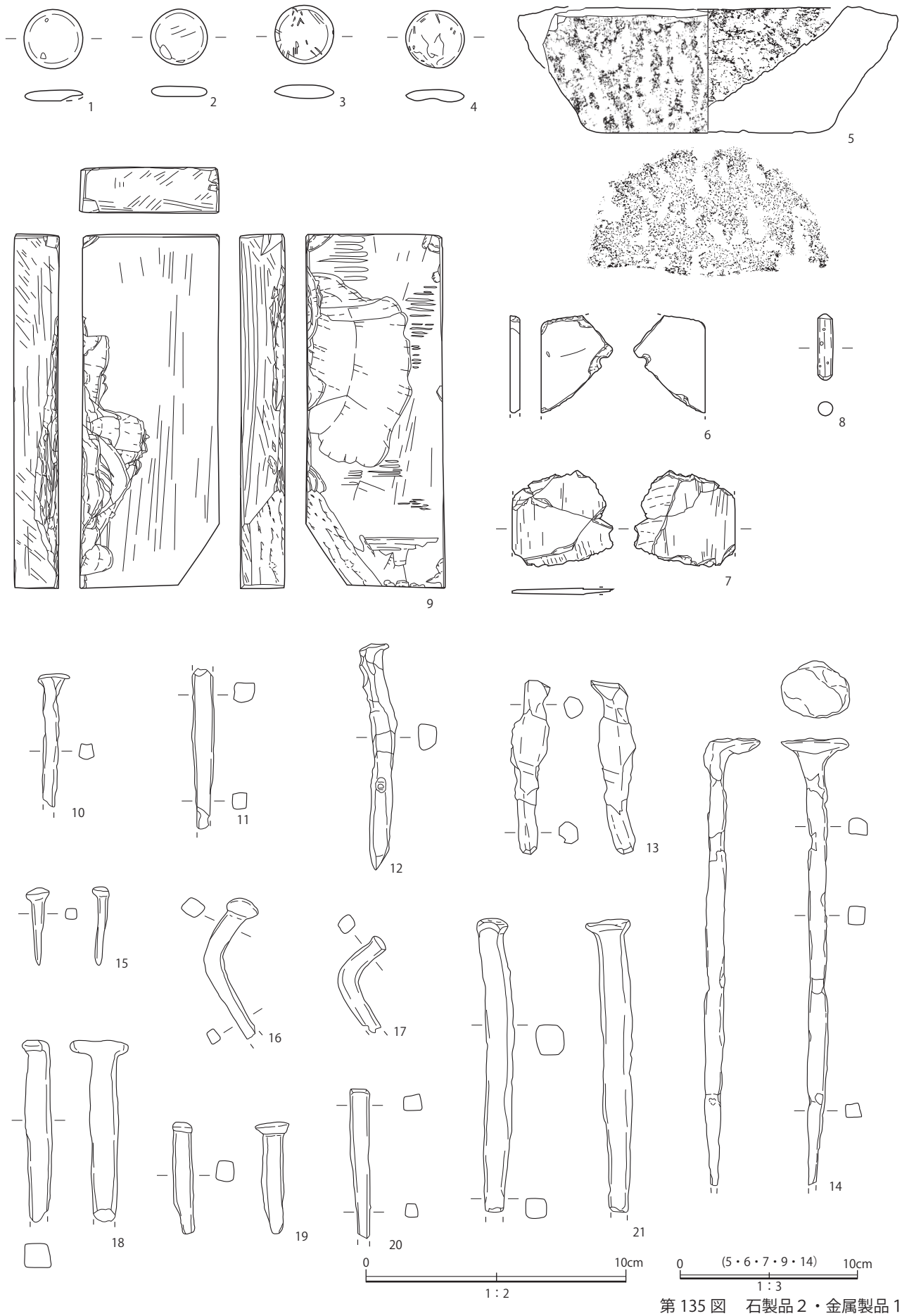
第 132 図　1・3 区出土瓦 22



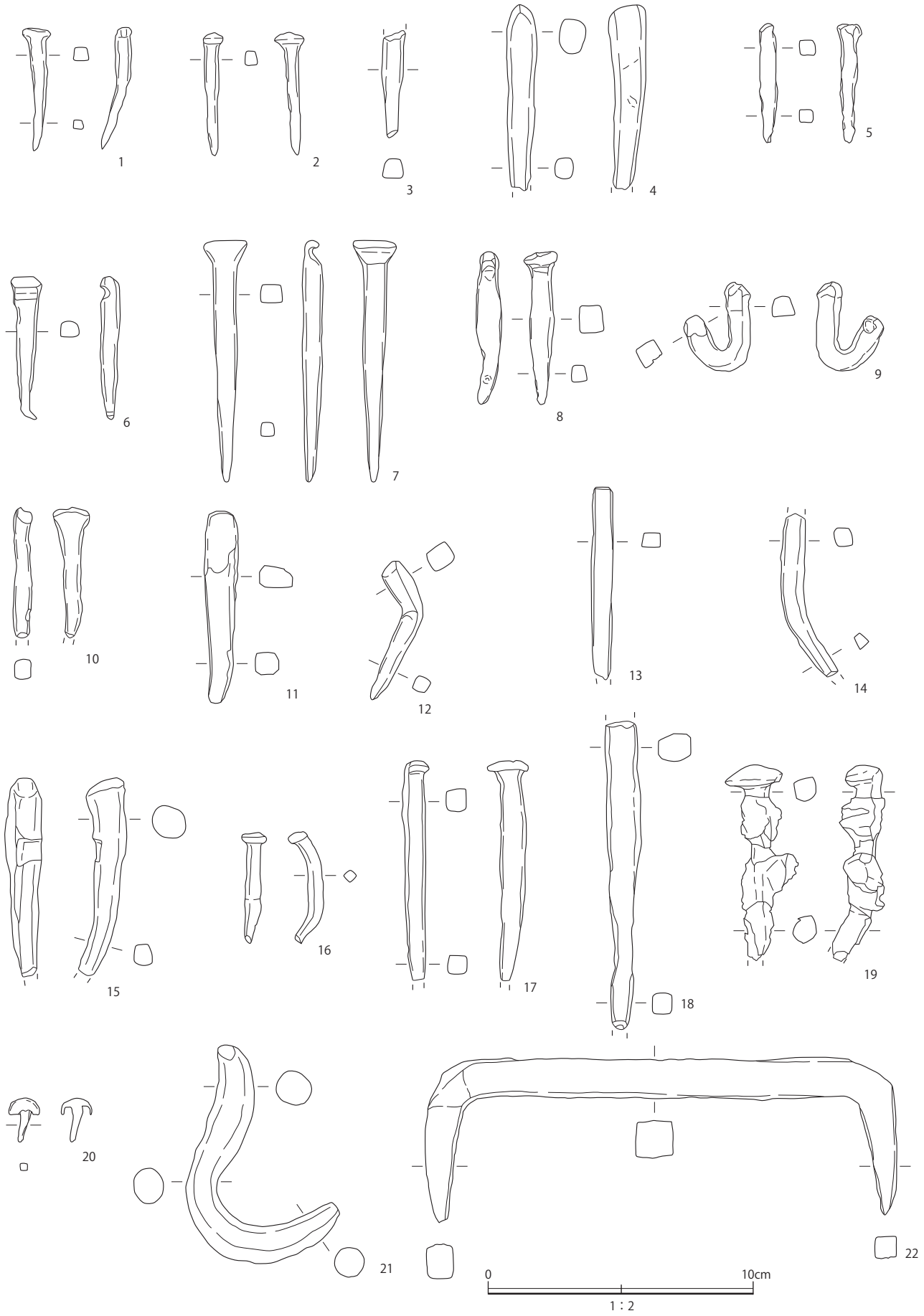
第 133 図　1・3 区出土瓦 23



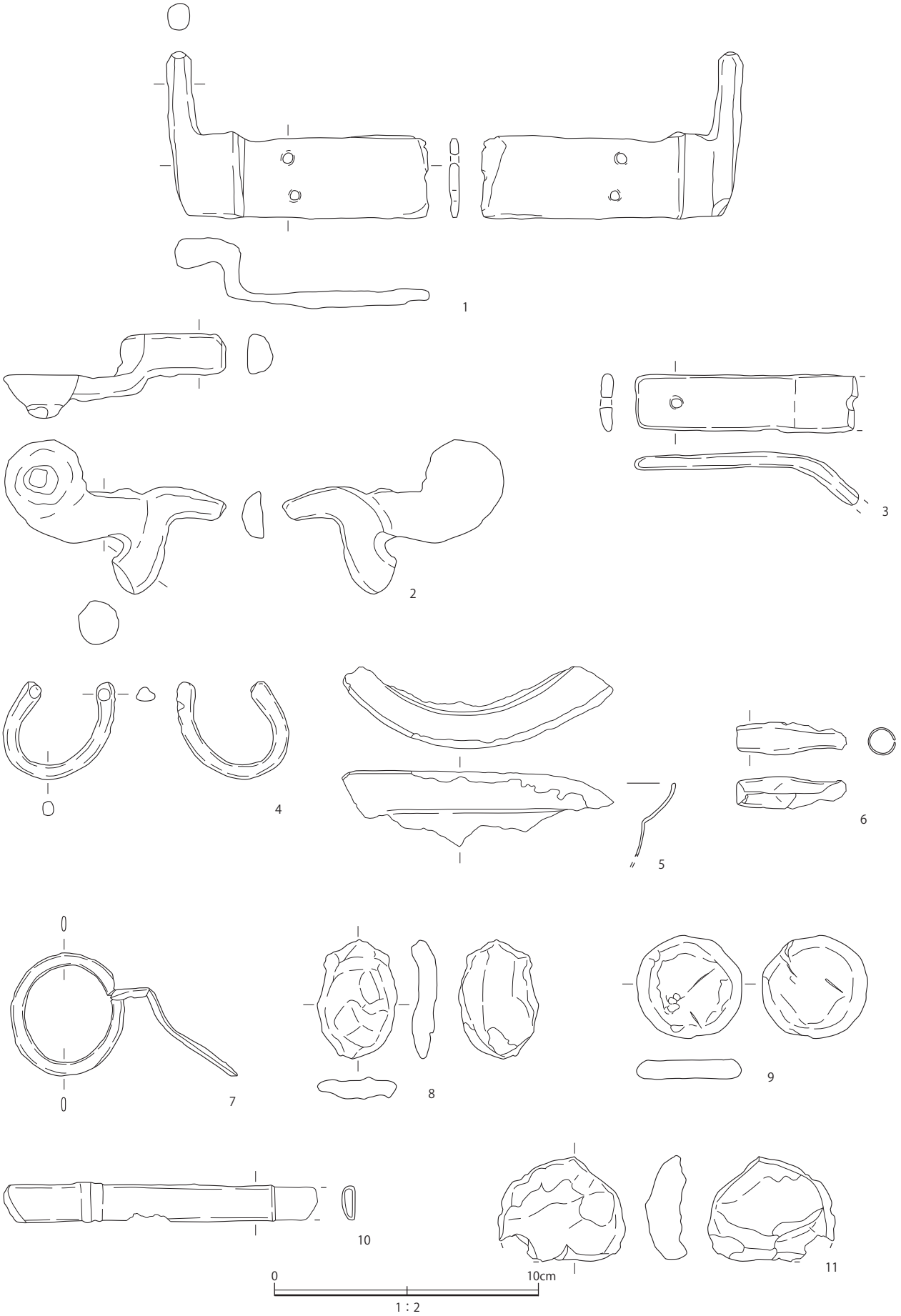
第 134 図　3 区出土瓦 24・石製品 1



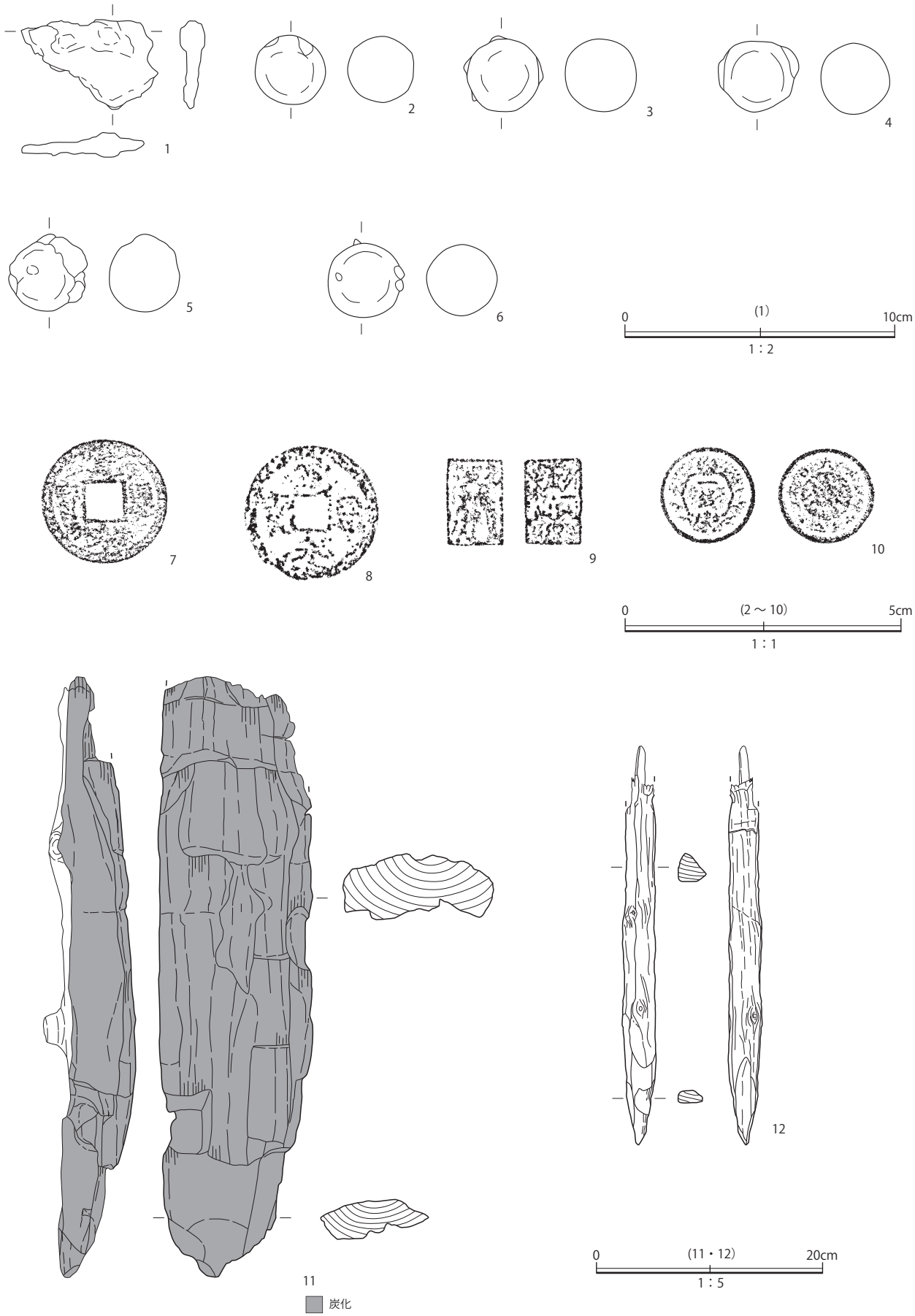
第 135 図　石製品 2・金属製品 1



第 136 図　金属製品 2



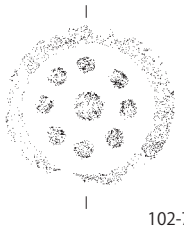
第 137 図　金属製品 3



第 138 図　金属製品 4・木製品

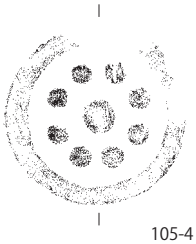
軒丸瓦

A1 類

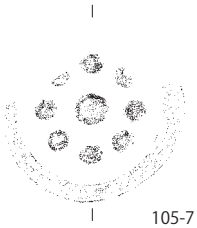


102-7

A2 類

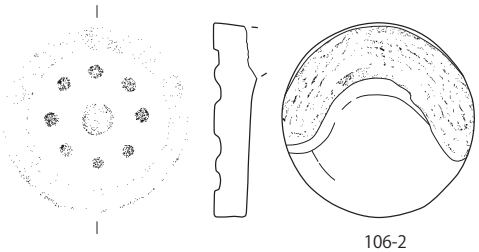


105-4



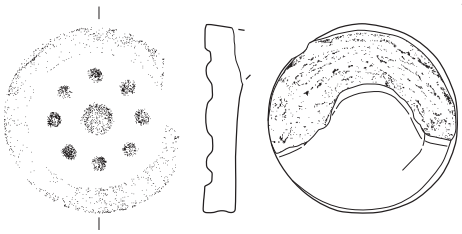
105-7

A3a 類



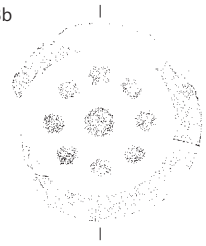
106-2

A3a 類



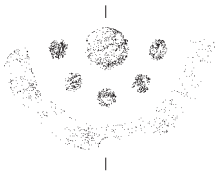
105-6

A3b

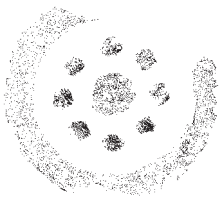


127-1

A4 類



105-8



107-1

0　20cm

1：6

B 類　巴文



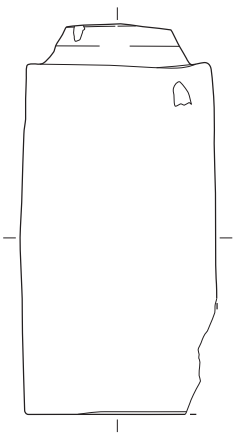
127-8

軒丸瓦の分類

A 類－九曜文が施されるもの。瓦当の直径と九曜文の種類で細分される。
A1　瓦当の直径が約 13.5cm。九曜文のパーツはやや大きい。（第 102 図 7）
A2　瓦当の直径が約 14.5cm。九曜文のパーツは大きい。（第 105 図 4・第 105 図 7）
A3a　瓦当の直径が約 15cm。九曜文のパーツは小さい。（第 105 図 6、第 106 図 2）
A3b　瓦当の直径が約 15cm。九曜文のパーツはやや大きい。（第 127 図 1）
A4　瓦当の直径が約 16 ～ 17cm。九曜文の中心の丸が大きい。（第 105 図 8、第 107 図 1）
B 類－巴文が施されるもの（第 127 図 8）。

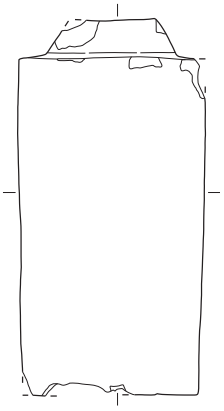
丸瓦

1 類 a



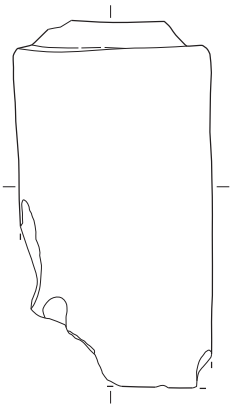
108-1

1 類 a



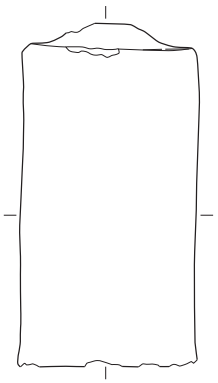
119-1

1 類 b



109-2

1 類 c



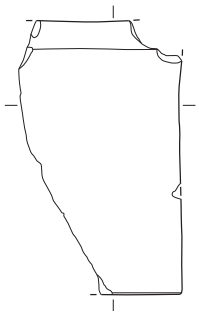
108-3

1 類 d



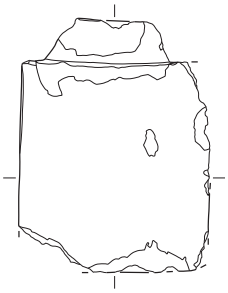
103-1

1 類 e



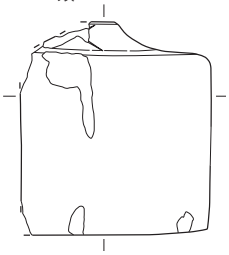
98-4

1 類 f



117-10

2 類



97-5

丸瓦の分類

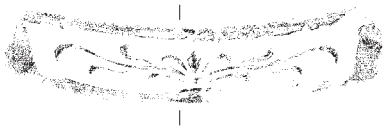
1 類－丸瓦部分と玉縁部分が左右対称に成形されるもの。
　サイズにより細分される。
1a　長さ 30.5 ～ 29.5cm（一尺）、幅約 15.cm。（第 108 図 1・第 119 図 1）
1b　長さ 28.5 ～ 29cm、幅 14.2 ～ 15.2cm。（第 109 図 2）
1c　長さ約 26.5cm、幅約 14cm。（第 108 図 3）
1d　長さ約 25cm、幅約 15cm。（第 103 図 1）
1e　長さ約 21.5cm。（第 98 図 4）
1f　長さ約 20cm。（第 117 図 10）
2 類－長さが短く（16 ～ 19cm）、玉縁部分が片側に寄る。
　ヘラ描きの「×」が玉縁部に見られる（第 97 図 5）。

0　20cm

1：6

第 139 図　軒丸瓦・丸瓦分類図

軒平瓦
1 類



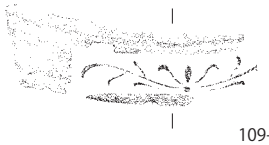
128-6

2 類



109-4

3 類

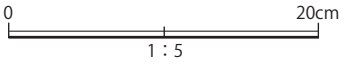


109-6

5 類



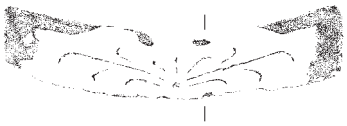
115-6



4 類



109-8

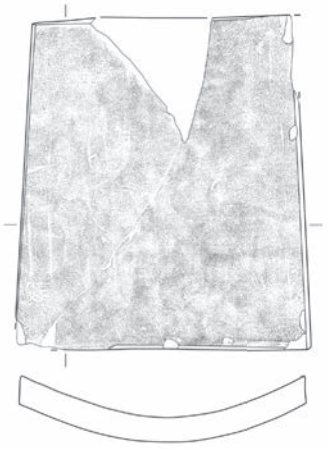


99-2

軒平瓦の分類
均整唐草文が施されるもの。瓦当の大きさと唐草の種類で細分される。
1　瓦当の幅が約 25cm。唐草の末端の葉が太い。（第 128 図 6）
2　瓦当の幅が約 24cm。唐草は細い。（第 109 図 4）
3　瓦当の幅が約 24cm。唐草の中心から 2 番目の葉が太く短い。（第 109 図 6）
4　瓦当の幅が約 22.5cm。唐草文が細い。（第 109 図 8、第 99 図 2）
5　瓦当の幅が約 22.5cm。唐草の中心から 2 番目の葉が太く短い。（第 115 図 6）

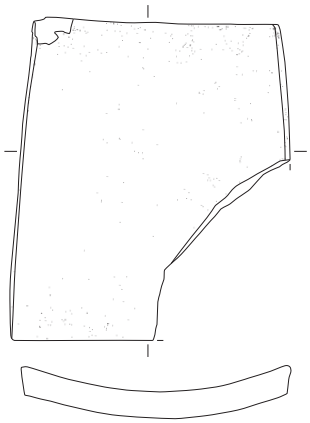
平瓦の分類
1 類ーサイズにより細分した。
1a　長さが約 26 ～ 26.5cm、幅 23.5cm。（第 99 図 3）
1b　長さが約 25.5cm 前後。（第 130 図 3）
1c　長さが約 24.5cm 前後。幅が約 24cm。（第 124 図 2）
1d　長さが約 23.5cm 前後。（第 122 図 1）

平瓦
1 類 a



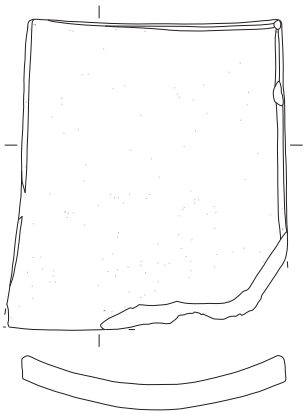
99-3

1 類 b



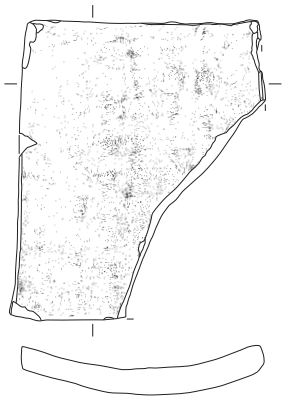
130-3

1 類 c

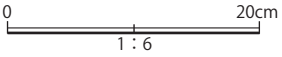


124-2

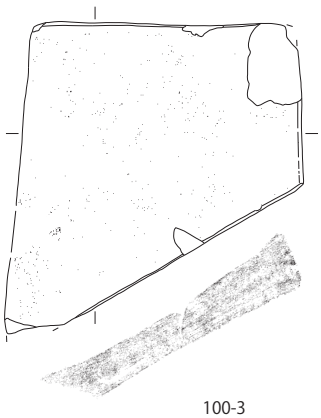
1 類 d



122-1

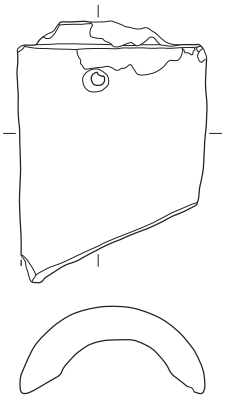


谷唐草瓦（右）



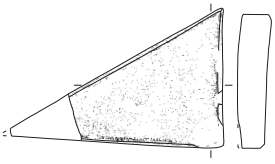
100-3

谷丸瓦（右）



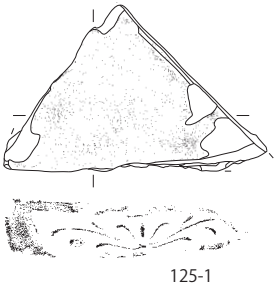
118-6

隅平瓦？



125-5

隅切瓦？



125-1

第 140 図　軒平瓦・平瓦・その他の瓦分類図

表３　陶磁器観察表

※計測値の口は口径、底は底径、高は器高を表す。また、( ) 内の値は復元による推定値、〔 〕内の値は残存値を示す。

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
61	1	45	須恵器蓋	3 区 E	SX110F		ロクロ、回転ヘラ切りか・ロクロ	奈良・平安時代
61	2	45	青磁碗	3 区 E	SD66F		ロクロ・ロクロ	線描連弁文・青磁釉・龍泉窯・15c 後半
61	3	45	青磁碗	3 区 E	SX109-1529		ロクロ・ロクロ	細描蓮弁文・青磁釉・龍泉窯・15c 後半
61	4	45	青磁稜花皿	3 区 E	SX75W ベルト 1624		ロクロ・ロクロ	青磁釉・龍泉窯・15c 後半
61	5	45	須恵器系陶器甕	3 区 E	撹乱		タタキ・アテ、ケズリ	珠洲焼・中世前半（13・14c）
61	6	45	須恵器系陶器壺か	3 区 W	Ⅳ上 1718	底 -(84)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	中世
61	7	45	珠洲擂鉢	3 区 W	Ⅳ		ロクロ・ロクロ	卸目・中世前半（13・14c）
61	8	45	陶器壺	1 区 W	撹乱 2323	底 -(120)	ロクロ→ケズリ・ロクロ	鉄釉・灰釉・在地・江戸後期 18c 後半～19c
61	9		肥前染付磁器小坏	1 区 W	Ⅱ	口 -(62)　底 -(24)　高 -28	ロクロ・ロクロ	草花文・17c 末～ 18c 初頭
61	10	45	肥前系陶器擂鉢	1 区 W	Ⅱ		ロクロ・ロクロ	卸目・鉄釉・江戸後期
61	11		肥前 (有田) 染付磁器蓋	1 区 W	Ⅱ	口 -(100)　高 -29	ロクロ・ロクロ	草花文 (コンニャク印判)・漆接ぎ・1680 ～ 1700 年代
61	12	45	染付磁器皿	1 区 W	Ⅱ	底 -(66)	ロクロ・ロクロ	山水文・蛇ノ目凹形高台・肥前系か東北の可能性あり・19c 初頭～幕末
61	13	45	肥前陶器皿	1 区 W	Ⅱ	底 -34	ロクロ・ロクロ・ケズリ	鉄絵・胎土目・1590 ～ 1610 年代
61	14		肥前青磁碗	1 区 W	Ⅲ	口 -(102)	ロクロ・ロクロ	雷文・1820 ～ 1860 年代
61	15		関西系染付磁器小坏	1 区 W	Ⅲ	底 -(26)	ロクロ・ロクロ	草花文・19c
61	16	45	白磁紅皿	1 区 W	2523 Ⅲ	口 -(54)　底 -28　高 -19		型打ち成形・産地不明・19c 後半
61	17	45	波佐見系白磁皿	1 区 W	2521 Ⅲ	口 -(124)　底 -44　高 -35	ロクロ・ロクロ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c 後半
61	18	45	陶器甕	1 区 W	Ⅲ	口 -(162)	ロクロ・ロクロ	灰釉か・在地か・19c ？
61	19		肥前染付磁器瓶	1 区 W	2421 Ⅲ		ロクロ・ロクロ	草花文・18c 後半
61	20		肥前染付磁器瓶	1 区 W	2622(RP25)、2421 Ⅲ	底 -48	ロクロ・ロクロ・ケズリ	草花文・18c 後半
61	21		肥前染付磁器碗	1 区 W	SB20ED204	口 -(98)　底 -(38)　高 -46	ロクロ・ロクロ	草花文・１区Ⅳ 2222 からも出土・18c 前半
61	22		肥前染付磁器小碗	1 区 W	SB20EP209	底 -(25)	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文 (内面・外面)・18c 中葉～末
61	23		関西系色絵陶器碗	1 区 W	SX215(RP37)	口 -(94)	ロクロ・ロクロ	草花文・京焼か・18c
61	24		肥前青磁瓶	1 区 W	SX215(RP11)		ロクロ・ロクロ	鎬・青磁釉・波佐見か・18c
61	25	45	肥前染付磁器皿	1 区 W	SB270EP231	口 -(126)　底 -42　高 -40	ロクロ・ロクロ	二重斜格子目文・蛇ノ目釉剝ぎ・波佐見系・18c 後半
61	26		肥前染付磁器油壺	1 区 W	SK261(RP106)	口 -(30)　底 -50　高 -93	ロクロ・ロクロ	唐草文・内面に黒色の付着物・18c 前半頃
62	1		肥前染付磁器碗	1 区 W	１トレ (RP28)	口 -(120)　底 -(34)　高 -48	ロクロ・ロクロ	唐子文・18c 前半
62	2		肥前染付磁器碗	1 区 W	２トレ (RP36)	口 -(104)　底 -44　高 -75	ロクロ・ロクロ	草花文・雲・口縁部に雷文帯・１区 W4 トレと接合・1640 ～ 1660 年代
62	3		磁器染付碗	1 区 W	１トレ	底 -(36)	ロクロ・ロクロ	圏線・寿字文・在地・江戸後期
62	4		瀬戸・美濃系染付磁器碗	1 区 W	SD253	口 -(84)　底 -(30)　高 -42	ロクロ・ロクロ	宝文・圏線・1 区 SX200F ②からも出土・11 小期
62	5	45	陶器鍋	1 区 W	１トレ 2421	口 -(210)	ロクロ・ロクロ	なまこ釉・外面炭化物・東山か・19c 代
62	6		肥前（有田）染付磁器蓋物	1 区 W	３トレⅣ 2721	口 -(50)　底 -(26)　高 -30		蛇ノ目高台・高台ケズリ・型押し成形・17c 末～ 18 初頭
62	7	45	備前系陶器擂鉢	1 区 W	１トレⅣ 2400	口 -(416)　底 -(200)　高 -(161)	ロクロ→ケズリ・ロクロ	鉄釉・卸目・17c ～ 18c
62	8	46	肥前陶器皿	1 区 W	SD265	口 -(105)	ロクロ・ロクロ	灰釉・1590 ～ 1610 年代
62	9	46	肥前陶器擂鉢	1 区 W	SK267F1		ロクロ・ロクロ	鉄釉・17c 前半
62	10	46	肥前系陶器皿	1 区 W	SK267F2		ロクロ・ロクロ	灰釉・肥前系 (福岡)・17c 代
62	11		肥前（有田）染付磁器皿	1 区 W	SK267	底 -(90)	ロクロ・ロクロ	亀甲文様・漆接ぎ・1660 ～ 1680 年代
62	12		肥前染付磁器小皿	1 区 W	SX260S	口 -(144)　底 -76　高 -42	ロクロ・ロクロ	唐草文・雪輪草花文・大明年製・ハリ支え・輪花皿・18c 前半
62	13		肥前系染付磁器小碗	1 区 W	Ⅳ	口 -(84)　底 -(36)　高 -48	ロクロ・ロクロ	草花文・内面文様あり・茶飲み用・18c 後半～ 19c 初頭

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区　出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
62	14		肥前染付磁器碗	1区W 2622 Ⅳ上	口 -(102)	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文 (内面・外面)・18c 第 2 ～ 3 四半期
62	15		肥前染付磁器碗	1区W Ⅳ	口 -(110)	ロクロ・ロクロ	網干・18c 前半～中葉
62	16		肥前染付磁器碗	1区W Ⅳ	底 -(40)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	草花文・18c 前半
62	17		肥前 (有田) 染付磁器猪口	1区W Ⅳ	底 -(40)	ロクロ・ロクロ	型紙摺り・若松文・銘あり・1670 ～ 1700 年代
62	18		瀬戸・美濃系染付磁器碗	1区W Ⅳ	口 -(98)　底 -(40)　高 -53	ロクロ・ロクロ	紅葉・折れ松葉・内面染付 (不明)・11 小期
62	19		肥前染付磁器碗	1区W Ⅳ	底 -(38)	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文 (内面・外面)・18c 中葉～末
62	20		瀬戸・美濃色絵磁器碗	1区W 2420 Ⅳ	口 -(80) 底 -(33)　高 -46.5	ロクロ・ロクロ・ケズリ	雀・銘あり・明治
63	1		瀬戸・美濃磁器碗	1区W 2422 Ⅳ	底 -(40)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	銅板転写・楼閣山水文ほか・三峰園製・明治 20 年以降
63	2	46	在地 (瀬戸・美濃系) 白磁角皿	1区W Ⅳ	長 -〔78〕 幅 -〔55〕 高 -22		型打ち成形・19c 後半～幕末・明治
63	3		肥前染付磁器仏飯器	1区W Ⅳ	口 -(74)　底 -39　高 -66	ロクロ・ロクロ	唐草文・17c 後半
63	4	46	瀬戸・美濃系陶器土瓶	1区W 2421 Ⅳ	最大径 -(131) 口 -(64)	ロクロ・ロクロ	透明釉・江戸後期以降
63	5	46	大堀相馬陶器碗	1区W Ⅳ	口 -(100)	ロクロ・ロクロ	鉄釉、灰釉・18c
63	6		肥前染付磁器瓶	1区W Ⅳ	底 -(82)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	17c 後半
63	7	46	関西系陶器小碗	1区W Ⅳ	底 -28	ロクロ・ロクロ	口縁に緑釉・江戸後期
63	8		肥前染付磁器碗	1区W SX260S	口 -(108)　底 -(42)　高 -64	ロクロ・ロクロ	山水文か・大明年製 (崩れ)・18c 前半～中葉
63	9		肥前染付磁器碗	1区W SX260(RP108)	口 -(108)　底 -40　高 -51	ロクロ・ロクロ	松・18c 第 2 ～ 3 四半期
63	10		肥前染付磁器碗	1区W SX260N	口 -(102)　底 -(44)　高 -47	ロクロ・ロクロ	草花文か・18c 前半
63	11		肥前染付磁器碗	1区W SX260S	口 -(97)　底 -(42)　高 -53	ロクロ・ロクロ	二重網目文・一重網目文、菊花文・銘あり・18c 前半
63	12		肥前染付磁器碗	1区W SX260S	底 -(40)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	二重網目文・18c 後半
63	13		肥前系染付磁器小碗 (湯呑)	1区W SX260S	口 -(80)	ロクロ・ロクロ	丸文・19c 前半
63	14		肥前 (有田) 染付磁器小碗	1区W SX260S	口 -(92) 底 -(38)　高 -50.5	ロクロ・ロクロ	草花文・17c 後半
63	15		肥前（有田）染付磁器小坏	1区W SX260N	口 -(76)	ロクロ・ロクロ	草花文・1670 ～ 1690 年代
63	16		肥前 (有田) 染付磁器色絵碗	1区W SX260	口 -(90)	ロクロ・ロクロ	草花文・四方襷文・18c 前半～中葉
63	17		肥前染付磁器猪口	1区W SX260S	口 -(74)	ロクロ・ロクロ	草花文・18c 前半頃
63	18		肥前染付磁器筒型碗	1区W SX260S	口 -(82)	ロクロ・ロクロ	羽づくし・18c
63	19		瀬戸・美濃系染付磁器碗	1区W SX260N	口 -(91)　底 -(40)　高 -49	ロクロ・ロクロ	雲・見込みに圏線、岩か・11 小期
63	20	46	肥前白磁小坏	1区W SX260N	口 -(64)　底 -29　高 -27	ロクロ・ロクロ	17c 後半～ 18c 初頭
63	21		肥前（有田）染付磁器蓋付小鉢	1区W SX260N	口 -49　底 -29　高 -13.5	ロクロ・ロクロ	圏線・18c 後半
63	22		肥前染付磁器小皿	1区W SX260S	口 -(142)　底 -(54)　高 -27	ロクロ・ロクロ	柳文・型打ち成形・1640 年代
63	23		肥前 (有田) 染付磁器皿	1区W SX260S	底 -(84)	ロクロ・ロクロ	山水文・大明年製・1640 年頃
63	24		肥前 (有田) 染付磁器皿	1区W SX260S	口 -(159)　底 -(95)　高 -40	ロクロ・ロクロ	蓮弁文・松竹梅・輪花皿・ハリ・柿右衛門様式・南川原・1670 ～ 1690 年代
64	1		肥前染付磁器小皿	1区W SX260S	口 -(140) 底 -(80)　高 -38.5	ロクロ・ロクロ	花唐草文・松竹梅文か・渦福・輪花・18c 前半

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
64	2		肥前染付磁器皿	1区W	SX260S	口-(136) 底-(75)　高-(46)	ロクロ・ロクロ	唐草文・松竹梅・渦福・輪花皿・18c前半
64	3	46	肥前色絵磁器小碗	1区W	SX260（RP109）	口-100　底-40　高-37	ロクロ・ロクロ	草花文・見込み蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半
64	4	46	波佐見系染付磁器皿	1区W	SX260S	口-124　底-43　高-32.5	ロクロ・ロクロ・ケズリ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半か
64	5	46	肥前染付磁器皿	1区W	SX260S	底-56	ロクロ・ロクロ	見込み蛇ノ目釉剝ぎ・17c中葉～末
64	6	46	波佐見系染付磁器小皿	1区W	SX260N	口-122　底-44　高-38	ロクロ・ロクロ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半～中葉
64	7		波佐見系染付磁器皿	1区W	SX260S	口-134　底-80　高-34	ロクロ・ロクロ	唐草文・五弁花（コンニャク印判）・渦福・18c中葉～末
64	8	46	肥前（有田）染付磁器手塩皿	1区W	SX260S	口-(100)　底-45　高-22		若松文・糸切り細工・型押し成形・17c末～18c初頭
64	9		肥前（有田）青磁小皿	1区W	SX260S	口-(90)　底-(54)　高-20	ロクロ・ロクロ	口紅・青磁釉・17c後半
64	10		肥前染付磁器蓋	1区W	SX260S	口-(105)　高-〔30〕	ロクロ・ロクロ	花唐草文・18c前半～中葉
64	11	46	美濃陶器折縁皿	1区W	SX260N	口-(114)	ロクロ・ロクロ	内削ぎ・灰釉・大窯4期後半
64	12		肥前陶胎染付火入れ	1区W	SX260N	口-(100)	ロクロ・ロクロ	圏線・貫入・17c後半～18c前半
64	13	46	陶器碗	1区W	SX260S	口-(94)　底-42　高-56	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉か・関西系か・17c後半～18c前半か
64	14	46	大堀相馬陶器碗	1区W	SX260N	底-(40)	ロクロ・ロクロ	灰釉・18c
65	1	46	肥前系陶器皿	1区W	SX260N	底-(38)	ロクロ・ロクロ	灰釉・胎土目・1590～1610年代
65	2	46	肥前染付磁器皿	1区W	SX260S	底-(52)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	焼成不良・1630～1650年代
65	3	46	肥前陶器壺蓋	1区W	SX260S	口-(96)　底-50　高-22	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	鉄釉・17c頃
65	4	46	肥前陶器皿	1区W	SX260S	底-(43)	ロクロ・ロクロ	緑釉掛け分け・蛇ノ目釉剝ぎ・内ノ山を写したか・18c前半
65	5	46	肥前陶器皿	1区W	SX260S	底-(54)	ロクロ・ロクロ	呉須絵・印「木下弥」・山水文・京焼風陶器・1670～1690年代
65	6		陶器大鉢	1区W	SX260N		ロクロ・ロクロ、カキメ	波状文・灰釉流し・鉄泥→灰釉・肥前系か・17c第2～3四半期
65	7	46	陶器灯火具	1区W	SX260N	口-(81)　底-50　高-42.5	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	鉄釉・煤付着・重ね痕・在地（東北窯）・18～19c
65	8	46	肥前陶器擂鉢	1区E	SX260N	口-(383)	ロクロ・ロクロ、タタキ	鉄釉・タタキ成形・18c
65	9	47	肥前陶器擂鉢	1区W	SX260N	口-(360) 底-(128)　高-141	ロクロ・ロクロ・ケズリ	鉄漿・卸目・18c後半～19c前半
65	10	47	肥前陶器擂鉢	1区W	SX260N	口-(346)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・18c
65	11	47	肥前陶器擂鉢	1区W	SX260S	底-(100)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c後半
65	12	47	陶器擂鉢	1区W	SX260N	底-(156)	ロクロ・ロクロ	鉄漿・卸目・18c～19c
66	1	47	肥前陶器擂鉢	1区W	SX260S		ロクロ・ロクロ	17c後半
66	2		肥前染付磁器碗	1区W	4トレⅣ	口-(100)　底-40　高-49	ロクロ・ロクロ	唐草文・「筒江」銘・武雄・18c前半～中葉
66	3		肥前染付磁器碗	1区W	4トレ	口-(104)　底-(43)　高-51	ロクロ・ロクロ	二重網目文・一重網目文、菊花・渦福・18c前半
66	4		肥前染付磁器碗	1区W	4トレ	口-(102)　底-(39)　高-48	ロクロ・ロクロ	松・雪の輪・染付不良・18c前半
66	5		肥前染付磁器碗	1区W	4トレ	口-99	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文（内面・外面）・18c中葉～末
66	6		肥前染付磁器碗	1区W	SX260S	口-102	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文（内面・外面）・18c第2～3四半期
66	7		肥前系染付磁器広東碗	1区W	4トレ	口-(96)　底-44　高-54	ロクロ・ロクロ	割菊文・圏線・1780～19c前半
66	8	47	肥前白磁小坏	1区W	4トレ	口-70　底-26　高-50	ロクロ・ロクロ	SX260Nからも出土・18c
66	9a・b・c	47	肥前染付磁器皿	1区W	SX260S-4トレ	口-(300) 底-(170)　高-53	ロクロ・ロクロ	山水文か・外側に化粧土・嬉野、志田窯・19c初～幕末
	1	47	肥前青磁鉢・皿	1区W	SX260S	長-〔75〕 幅-〔147〕	ロクロ・ロクロ	内面に片切彫りの文様・波佐見か・1630～1650年代

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
66	10		肥前染付磁器水滴	1区W	4トレ	長 -〔81〕 幅 -〔64〕 高 -〔16〕		漆付着・型押し成形・18c 後半頃
66	11		関西系色絵陶器小坏	1区W	4トレ	口 -(66)	ロクロ・ロクロ	貫入・18c ～幕末
	2	47	関西系陶器鬢盥	1区W	4トレ	長 -〔63・100〕 高 -33		鉄絵の草花文・17c 末～ 18c
66	12	47	陶器瓶・壺	1区W	SX260-4 トレ F5	底 -(58)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・瀬戸美濃か・16c 末～ 17c
66	13		肥前染付磁器皿	1区W	SX260-4 トレ拡 F5	口 -(210)	ロクロ・ロクロ	花唐草文・草花文・18c 前半
66	14		肥前染付磁器蕎麦猪口	1区W	SX260-4 トレ拡 F6	口 -(72)	ロクロ・ロクロ	松竹梅か・18c 前半頃
67	1	47	肥前染付青磁火入れ	1区W	SX260-4 トレ拡 F6	口 -98　底 -70　高 -76	ロクロ・ロクロ	青磁釉・蛇ノ目凹形高台・18c
67	2	47	肥前青磁灰落とし	1区W	SX260-4 トレ拡 F6	口 -(58)　底 -52　高 -74	ロクロ・ロクロ	青磁釉・18c
67	3	47	肥前染付磁器小皿	1区W	SX260-4 トレ拡 F6	口 -124　底 -40　高 -35	ロクロ・ロクロ	波佐見系・18c 前半～中葉
67	4		関西系色絵陶器小碗	1区W	SX260-4 トレ拡 F6	口 -(68)　底 -(24)　高 -40	ロクロ・ロクロ	菊花・18c ～ 19c 初頭
67	5		肥前（有田）染付磁器蓋付鉢	1区W	4トレ F11	口 -（110）	ロクロ・ロクロ	水草・流水・蛇籠・1690 ～ 1730 年代
67	6	48	陶器皿	1区E	撹乱 2429	底 -(152)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・型打ち成形・瀬戸・美濃系か・底面にピン積み状の痕・17c ～ 18c か
67	7		染付磁器碗蓋	1区E	2326	底 -(32)	ロクロ・ロクロ	花唐草文・松竹梅・銘あり・コバルト顔料・肥前の可能性・近代
67	8	48	肥前染付磁器小皿	1区E	2326	底 -(42)	ロクロ・ロクロ	二重斜格子文・蛇ノ目釉剝ぎ・18c 前半～中頃
67	9		肥前染付磁器手塩皿	1区E	Ⅱ	底 -(54)	ロクロ・ロクロ	唐草文か・山水文・19c 初頭～幕末
67	10		瀬戸・美濃染付磁器碗	1区E	Ⅱ	口 -(118)　底 -(44)　高 -61	ロクロ・ロクロ	11 小期
67	11		瀬戸・美濃系磁器碗	1区E	Ⅱ	口 -(76)	ロクロ・ロクロ	銅版転写・明治後半～大正
67	12		瀬戸・美濃染付磁器蓋	1区E	Ⅱ	口 -(86)　底 -(32)　高 -22	ロクロ・ロクロ	桜花・江戸時代末
67	13		肥前染付磁器段重	1区E	Ⅱ	口 -(150) 底 -(102)　高 -63	ロクロ・ロクロ	宝文・18c 後半～ 19c 初頭
67	14		肥前染付磁器小皿	1区E	2326 Ⅱ	底 -(52)	ロクロ・ロクロ	渦巻文・1630 ～ 1650 年代
67	15	48	瀬戸・美濃系白磁角皿	1区E	Ⅱ	高 -26		目痕あり・型押し成形・在地・19c 後半～幕末・明治
67	16		肥前染付磁器小瓶	1区E	2326 Ⅲ	底 -(54)	ロクロ・ロクロ	草花文か・17c 後半
67	17	48	肥前陶器皿	1区E	2229 Ⅱ	口 -(116)　底 -(38)　高 -29	ロクロ・ロクロ	灰釉・砂目・1600 ～ 1630 年代
67	18		瀬戸・美濃系陶器皿	1区E	2228 Ⅲ	底 -(69)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	鉄絵・草花文か・ピン積み・17c ～ 18c
67	19	48	肥前陶器擂鉢	1区E	2526 Ⅲ		ロクロ・ロクロ	鉄釉・17c
67	20		肥前 (有田) 染付磁器碗	1区E	SP238	口 -(110)　底 -44　高 -59	ロクロ・ロクロ	流水文・草花文・17c 後半
67	21		肥前染付磁器碗	1区E	Ⅳ	口 -(106)　底 -42　高 -62	ロクロ・ロクロ	17c 末～ 18c 初頭
67	22		肥前染付磁器碗	1区E	2127 Ⅳ	口 -(110)	ロクロ・ロクロ	1640 ～ 1660 年代
67	23		肥前 (有田) 染付磁器碗	1区E	Ⅳ	底 -(40)	ロクロ・ロクロ	草花文・大明年製・漆接ぎ・上手・1670 ～ 1690 年代
68	1	48	肥前染付磁器大皿	1区E	Ⅳ		ロクロ・ロクロ	草花文・漆接ぎ・1630 ～ 1640 年代
68	2		肥前青磁皿	1区E	Ⅳ	底 -(140)	ロクロ・ロクロ	雷文・蛇ノ目釉剝ぎ・1650 ～ 1660 年代
68	3	48	瀬戸・美濃系白磁角皿	1区E	Ⅳ	高 -23		花・青海波・型押し成形・切込か・19c 後半～幕末・明治
68	4	48	肥前陶器皿	1区E	2127 Ⅳ	底 -46	ロクロ・ロクロ	灰釉・砂目・1600 ～ 1630 年代
68	5	48	肥前陶器小皿	1区E	Ⅳ	底 -(40)	ロクロ・ロクロ	灰釉・蛇ノ目釉剝ぎ・17c 後半頃
68	6		肥前陶器大皿	1区E	Ⅳ	口 -(368) 底 -(132)　高 -139	ロクロ・ロクロ	二彩手・灰釉・砂目・胎土目・高台ケズリ・中に釉をかけている・武雄地域で主に製作・17c 後半

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
68	7		肥前染付磁器碗	1 区 E	SX200F ② 2225	口 -(102)　底 -(41)　高 -48	ロクロ・ロクロ	雪の輪・松・梅・18c 前半
68	8		肥前系染付磁器碗	1 区 E	SX200F ② 2224	口 -(100)	ロクロ・ロクロ	18c 後半
68	9		波佐見系染付磁器碗	1 区 E	SX200F ② 2225	口 -(94)　底 -(40)　高 -51	ロクロ・ロクロ	雪輪草花文・大明年製 (崩れ) ・くらわんか手・18c 後半
68	10		肥前染付磁器小碗	1 区 E	SX200F2-2224	口 -(100)　底 -(36)　高 -50	ロクロ・ロクロ	芙蓉手・花・焼成不良・1770 ～ 1810 年代
68	11		肥前染付磁器碗	1 区 E	SX200F ② 2225	底 -(40)	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文・18c 前半～中葉
68	12		肥前染付磁器猪口	1 区 E	SX200F ① 2225	口 -(74)　底 -(50)　高 -60	ロクロ・ロクロ	梅樹・18c 前半
68	13	48	波佐見系磁器皿	1 区 E	SX200F ② 2225	底 -40	ロクロ・ロクロ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c 中葉～末
68	14		関西系陶器碗	1 区 E	SX200F ② 2325	口 -(104)　底 -50　高 -73	ロクロ・ロクロ・ケズリ	若松文・18c 頃
68	15	48	青花皿	1 区 E	SX200-2325	底 -(70)	ロクロ・ロクロ	明山手・鹿・景徳鎮窯・17c 前半
68	16		肥前 (有田) 色絵磁器碗	1 区 E	SX200F ② 2325		ロクロ・ロクロ	17c 後半
69	1	48	青花大皿	1 区 E	SK213		ロクロ・ロクロ	圏線・景徳鎮窯か・17c 前半
69	2		肥前陶器碗	1 区 E	SX216F	口 -(110)	ロクロ・ロクロ	緑釉流し・玉子手・17c 後半
69	3		肥前染付磁器碗	1 区 E	SX216Y	口 -(106)	ロクロ・ロクロ	一重網目文・17c 後半
69	4	48	肥前陶器皿	1 区 E	SX216	底 -(42)	ロクロ・ロクロ	灰釉・蛇ノ目釉剝ぎ・内外面に炭化物付着・1610 ～ 17c 中葉
69	5		青花小皿	1 区 E	SX216	口 -(160)　底 -(84)　高 -26	ロクロ・ロクロ	花唐草文・焼成不良・17c 前半か
	1 a	48	美濃志野陶器向付	1 区 E	SX216F	長 -(46)　幅 -(25)		底部・内面に鉄絵・大窯 4 末
	1b	48	美濃志野陶器向付	1 区 E	SX217 中央トレ西	長 -(38)　幅 -(18)		体部・内面に鉄絵・大窯 4 末
69	6		肥前染付磁器碗	1 区 E	SX217F-2227	底 -44	ロクロ・ロクロ	草花文・18c 前半
69	7		肥前陶胎染付碗	1 区 E	SX217	口 -(92)　底 -42　高 -63	ロクロ・ロクロ	コンニャク印判・18c 前半
69	8		肥前染付磁器碗	1 区 E	SX217	底 -36	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文・18c 第 2 ～ 3 四半期
69	9		肥前染付磁器碗	1 区 E	SX217F 下	口 -(110)	ロクロ・ロクロ	寿字文・1650 ～ 1660 年代
69	10		肥前染付磁器碗	1 区 E	SX217F ②		ロクロ・ロクロ	寿字文・1650 ～ 1660 年代
69	11		肥前（有田）染付磁器碗	1 区 E	SX217	口 -(180)	ロクロ・ロクロ	唐草文・雪の輪・17c 末～ 18c 前半
69	12	48	肥前染付磁器小皿	1 区 E	SX217F ②	口 -(126)　底 -50　高 -33	ロクロ・ロクロ	柳文・1640 ～ 1650 年代
69	13		肥前 (有田) 色絵磁器瓶	1 区 E	SX217		ロクロ・ロクロ	1690 ～ 1730 年代
69	14		肥前（有田）染付磁器蓋	1 区 E	SX217	最大径 -(70)　口 -(58)　高 -〔18〕	ロクロ・ロクロ	氷裂文・小さい段重の蓋・18c 後半
69	15		肥前（有田）染付磁器皿	1 区 E	SX217 中央トレ F1	底 -80	ロクロ・ロクロ	唐草文・松竹梅・手描き五弁花・渦福・ハリ支え・18c 前半
69	16	48	陶器碗	1 区 E	SX217	口 -(100)	ロクロ・ロクロ	灰釉・貫入・大堀相馬か・18c
69	17	48	肥前陶器皿	1 区 E	SX217	底 -30	ロクロ・ロクロ・ケズリ	胎土目・灰釉・1590 ～ 1610 年代
69	18	48	肥前陶器皿	1 区 E	SX217F	底 -(46)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・砂目・1600 ～ 1630 年代
69	19	48	肥前系陶器皿	1 区 E	SX217 中央トレ F3	底 -(54)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	胎土目か・焼成不良・1590 ～ 1610 年代
69	20	48	肥前陶器小皿	1 区 E	SX217	底 -(40)	ロクロ・ロクロ	灰釉・蛇ノ目釉剝ぎ・砂目・1610 ～ 1640 年代
69	21	48	肥前系陶器壺・瓶	1 区 E	SX217	口 -(157)	ロクロ・ロクロ	焼締・16c ～ 17c 代
69	22a・b	48	信楽陶器壺	1 区 E	SX217F 下 2327		ロクロ・ロクロ	鉄釉・18c ～ 19c
70	1	49	肥前陶器壺・甕	1 区 E	SX217		タタキ・アテ	鉄釉・タタキ成形・格子目・1630 ～ 17c 後半か
70	2a・b	49	肥前陶器壺・甕	1 区 E	SX217F1		アテ	沈線・土灰釉・17c 後半～ 18c
70	3	49	肥前陶器擂鉢	1 区 E	SX217-2128		ロクロ・ロクロ	鉄釉・17c 前半
	1	49	青花皿	1 区 E	SB270EP222		ロクロ・ロクロ	雲鶴文・角福・景徳鎮窯・17c 前半
70	4	49	肥前陶器擂鉢	1 区 E	SP224		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・片口あり・17c 前半
70	5	49	陶器袋物か	1 区 E	SX217 中央トレ F2	底 -(228)	ロクロ・ロクロ	灰釉・鉄釉・歪み・信楽焼か・17c か
70	6	49	肥前陶器擂鉢	1 区 E	SX217		ロクロ・ロクロ	片口あり・鉄泥・18c 頃

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
70	7	49	陶器擂鉢	1区E	SX217		ロクロ、タタキ・ロクロ	鉄釉・卸目・肥前か・タタキ成形か・18c か
70	8		肥前陶器碗	1区E	SB270EP221F	底 -50	ロクロ・ロクロ	透明釉・銅緑釉・玉子手・17c 後半
70	9	49	陶器碗	1区E	SX225-2128			白色釉・隆帯状の弧状文・漆接ぎ・関西系又は萩・17c 後半～幕末
70	10		肥前染付磁器碗	1区E	SB269EP229F	底 -(40)	ロクロ・ロクロ	圏線・漆接ぎ・17c 後半
70	11	49	肥前系陶器擂鉢	1区E	SB269EP227		ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・18 ～ 19c
70	12	49	在地陶器甕	1区E	SX225	口 -(240)	ロクロ・ロクロ	灰釉か・被熱・東山焼か・19c 代
71	1	50	肥前陶器擂鉢	1区E	SX225(RP107)	底 -100	ロクロ・ロクロ	卸目・17c 後半
71	2		肥前陶器香炉	1区E	SP243		ロクロ・ロクロ	二彩手・刷毛目・緑釉・17c 後半頃
	1	50	美濃志野陶器菊皿	1区E	SB269EP229			被熱・大窯 4 後半以降～末
71	3	50	肥前系陶器皿	1区E	SB269EP229 下	口 -116　底 -34　高 -33	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・胎土目・1590 ～ 1610 年代
71	4		肥前染付磁器碗	1区E	SP234		ロクロ・ロクロ	二重網目文・一重網目文・漆接ぎ・18c 前半
71	5		肥前青磁染付猪口	1区E	SD245	底 -(60)	ロクロ・ロクロ	二重網目文・渦福・18c 前半
71	6	50	肥前陶器擂鉢	1区E	SB269EP229F	底 -(120)	ロクロ・ロクロ	卸目・江戸後期
71	7	50	肥前陶器擂鉢	1区E	SB268EP237		ロクロ・ロクロ	灰釉か・17c 前半
71	8		青花皿	1区E	SX217F ②		ロクロ・ロクロ	折り枝文・四方襷文・景徳鎮・SD245 からも出土・17c 前半
71	9	50	肥前陶器擂鉢	1区E	SB268EP237	底 -(120)	ロクロ・ロクロ	卸目・高台が剥落・タタキ成形・18c
71	10	50	陶器擂鉢	1区E	SB270EP244	底 -(120)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り？	鉄釉・卸目・在地か・18c 後半～ 19c
71	11	50	肥前陶器擂鉢	1区E	SD245	底 -(110)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c 後半
71	12		肥前（有田）染付磁器皿	1区E	SD245	口 -(138)　底 -(86)　高 -28	ロクロ・ロクロ	花唐草文・亀甲文様・1660 ～ 1680 年代
71	13	50	肥前陶器皿	1区E	SD245	口 -(108)　底 -36　高 -25	ロクロ・ロクロ	灰釉・胎土目・1590 ～ 1610 年代
71	14	50	在地系陶器擂鉢	1区E	SD253		ロクロ→ケズリ・ロクロ	鉄釉・卸目・18c ～ 19c
71	15		瀬戸・美濃系染付磁器皿	1区E	SD253	口 -(94)　底 -(54)　高 -17	ロクロ・ロクロ	口紅・龍・幕末～明治前半
72	1		瀬戸・美濃系磁器碗	2区	撹乱	口 -(116)　底 -(40)　高 -56	ロクロ・ロクロ	近代
72	2	51	白磁パレットか	2区	撹乱	直径 -(73)		瀬戸・美濃系か・近代
72	3		瀬戸・美濃磁器湯呑碗	2区	Ⅱ	口 -(80)	ロクロ・ロクロ	銅版転写・明治
72	4	51	肥前系白磁小皿	2区	Ⅱ	口 -(82)　底 -(28)　高 -17	ロクロ・ロクロ	18c ～ 19c
72	5		肥前 (有田) 色絵磁器水滴か	2区	Ⅱ	長 -〔35〕 幅 -〔24〕		俵形・型押し成形・17c 後半～ 18c 頃
72	6		肥前染付磁器碗	2区	Ⅲ	底 -42	ロクロ・ロクロ	草花文・渦福・18c 前半
72	7		肥前染付磁器小坏	2区	Ⅲ 2121	底 -(26)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	圏線・被熱・17c 後半
72	8		陶器 (瓶？)	2区	Ⅱ		ロクロ・ロクロ	灰釉・鉄釉・大堀相馬か
72	9	51	肥前系陶器皿	2区	Ⅲ 2121	底 -52	ロクロ・ロクロ	灰釉か・砂目・17c 前半
72	10	51	瀬戸・美濃陶器植木鉢	2区	Ⅲ	底 -(174)	ロクロ・ロクロ	灰釉・江戸後期
72	11	51	在地陶器擂鉢	2区	Ⅲ 2119	底 -(126)	ロクロ、ケズリ・ロクロ	鉄漿・卸目・18c 後半～ 19c
72	12	51	肥前（有田）染付磁器皿	2区	Ⅳ	底 -(76)	ロクロ・ロクロ	二重斜格子目文・蛇ノ目釉剝ぎ・18c 中葉～末
72	13		肥前染付磁器猪口	2区	Ⅳ	底 -(52)	ロクロ・ロクロ	山水文か・圏線・銘あり・17c 末～ 18c 初頭
72	14		肥前染付磁器碗	2区	Ⅳ	底 -40	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文・18c 中葉～末
72	15	51	肥前染付磁器小皿	2区	Ⅳ	口 -(122)　底 -(40)　高 -30	ロクロ・ロクロ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c 中葉～末
72	16		肥前染付磁器碗	2区	6トレ		ロクロ・ロクロ	草花文・17c 後半
72	17	51	肥前 (波佐見系) 染付磁器小皿	2区	6トレ	底 -42	ロクロ・ロクロ・ケズリ	蛇ノ目釉剝ぎ・17c 後半頃
72	18		肥前（有田）染付磁器皿	2区	6トレ	底 -(76)	ロクロ・ロクロ	圏線・山水文・焼成不良・1640 ～ 1660 年代
72	19		肥前染付磁器碗蓋	3区W	撹乱	口 -(84) 底 -(30)　高 -(23)	ロクロ・ロクロ	1820 ～ 1860 年代

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
72	20		瀬戸・美濃染付磁器湯呑碗	3区W Ⅱ		口-82　底-32　高-54	ロクロ・ロクロ	瓢箪（3単位）・圏線・江戸後期後半
72	21		肥前系染付磁器小碗	3区W Ⅱ		口-(72) 底-(36)　高-(67)	ロクロ・ロクロ	生け花・圏線・四方襷文・1820～1860年代
72	22		肥前染付磁器湯呑碗	3区W Ⅱ		底-(36)	ロクロ・ロクロ	蛸唐草文・松竹梅・漆接ぎ・18c後半
72	23		肥前系染付磁器小碗	3区W Ⅱ		口-(90)	ロクロ・ロクロ	18c後半～19c初頭
72	24		瀬戸・美濃染付磁器碗	3区W Ⅱ		口-(110)	ロクロ・ロクロ	草花文・圏線・11小期
72	25		瀬戸・美濃染付磁器碗	3区W Ⅱ		口-(82)	ロクロ・ロクロ	源氏香文・口紅・11小期
72	26		瀬戸・美濃染付磁器碗	3区W Ⅱ		口-(98)	ロクロ・ロクロ	花唐草か・明治前半
72	27	51	肥前染付磁器皿	3区W Ⅱ		底-(76)	ロクロ・ロクロ	山水文か・1630～1640年代
73	1		肥前染付磁器皿	3区W Ⅱ		口-(138)　底-(80)　高-37	ロクロ・ロクロ	唐草文・内面文様あり・18c
73	2		肥前（有田）磁器大皿	3区W Ⅱ		底-(100)	ロクロ・ロクロ	牡丹文・銘あり・1740～1770年代
73	3	51	磁器戸車	3区W Ⅱ 2018		直径-(50) 高-10		砂付着、近世
73	4		肥前染付磁器仏飯器	3区W Ⅱ		底-(34)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	外面に文様あり・17c末～18c前半
73	5		肥前陶器鉢	3区W Ⅱ		底-(60)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	刷毛目・透明釉・蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半
73	6		陶器行平鍋	3区W Ⅱ			ロクロ・ロクロ	鉄釉・在地の可能性・19c
73	7		陶器皿・鉢	3区W Ⅱ		口-(228)	ロクロ・ロクロ	緑釉・相馬か・18c～19c
73	8	51	東山陶器鉢	3区W Ⅱ		底-74	ロクロ・ロクロ	なまこ釉(外面・内面)
73	9		在地系陶器壺	3区W Ⅱ			ロクロ・ロクロ	鉄釉・被熱・19c
73	10		瀬戸・美濃陶器植木鉢	3区W Ⅱ				陰刻による文様・灰釉・鉄釉流しがけ・被熱・輪積みか・8小期～江戸後期
73	11	51	肥前陶器擂鉢	3区W Ⅱ			ロクロ・ロクロ	鉄釉・18c～19c前半
73	12		波佐見系染付磁器皿	3区W Ⅱ・Ⅲ		口-(122)　底-(70)　高-38	ロクロ・ロクロ	唐草文・扇・18c中葉～末
73	13		美濃陶器丸碗	3区W Ⅲ 1918(RP10)		口-(124)　底-(48)　高-60	ロクロ・ロクロ	鉄絵・志野・大窯4末
73	14		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ		口-(102)	ロクロ・ロクロ	草花文・18c第2～3四半期
73	15		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ		底-40	ロクロ・ロクロ	草花文か・銘あり(崩れ)・波佐見系か・18c中～末か
73	16		肥前（有田）染付磁器碗	3区W Ⅳ 1917			ロクロ・ロクロ	蜘蛛の巣・吹き墨・17c後半
73	17		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ② 2018		口-(100)　底-40　高-58	ロクロ・ロクロ	コンニャク印判・大明年製・1690～18c前半
73	18		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ② 1919		底-40	ロクロ・ロクロ	外面文様あり・高台内施釉・1630～1650年代
73	19		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ① 2019		口-(100)	ロクロ・ロクロ	18c前半
73	20		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ② 2018		口-104　底-(38)　高-47	ロクロ・ロクロ	氷裂丸文・18c前半
73	21		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ③ 2019		口-(96)	ロクロ・ロクロ	コンニャク印判・1680～1700年代
74	1		肥前陶器小坏	3区W Ⅳ 1819		口-(70)　底-(34)　高-33	ロクロ・ロクロ	山水文・近世
74	2		肥前(有田)染付磁器小坏	3区W Ⅳ		底-34	ロクロ・ロクロ	草花文・17c後半
74	3		肥前染付磁器碗	3区W Ⅳ③ 2017		底-42	ロクロ・ロクロ	草花文・蛇ノ目釉剝ぎ・18c
74	4		肥前染付磁器猪口	3区W Ⅳ 1819		口-(74)　底-36　高-54	ロクロ・ロクロ	雨降文・18c前半
74	5	51	白磁小坏か	3区W Ⅳ 1522		底-(36)		型押し成形・肥前か・近世
74	6	51	肥前染付磁器手塩皿	3区W Ⅳ② 2018		口-(85)　底-36　高-23	ロクロ・ロクロ	菊花文か・1640～1650年代

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区　出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
74	7	51	肥前青磁火入れ	3区W Ⅳ③ 2018	口-94　底-(64)　高-50	ロクロ・ロクロ	青磁釉・鉄釉・蛇ノ目凹形高台・18c前半～中葉
74	8		肥前染付磁器蓋	3区W Ⅳ② 2017	最大径-(80)　口-(72)　高-〔18〕	ロクロ・ロクロ	丸文・近世
74	9	51	波佐見系染付磁器皿	3区W Ⅳ 1819	口-(126)　底-(42)　高-33	ロクロ・ロクロ	斜格子文・18c後半～19c初頭
74	10		肥前（有田）染付磁器鉢	3区W Ⅳ 1523	口-(250)	ロクロ・ロクロ	唐草文・梅樹・18c前半
74	11	51	肥前青磁香炉か	3区W Ⅳ② 2019	口-(118)	ロクロ・ロクロ	青磁釉・漆接ぎ・17c後半
74	12		肥前色絵磁器油壺	3区W Ⅳ③ 2018	最大径-(72)	ロクロ・ロクロ	17c後半
74	13	51	肥前陶器小皿	3区W Ⅳ② 2118	底-49	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	鉄釉・砂目・1610～1630年代
74	14	51	肥前陶器皿	3区W Ⅳ③ 1919	底-(44)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	釉薬あり・蛇ノ目釉剝ぎ・焼成不良・17c
74	15		肥前陶器大皿	3区W Ⅳ 1821		ロクロ・ロクロ	鉄絵・灰釉・1590～1610年代
74	16	51	肥前陶器皿	3区W Ⅳ	底-84	ロクロ・ロクロ	灰釉・砂目積み・割り高台・1600～1630年代
74	17	51	肥前陶器皿	3区W Ⅳ② 1919	底-(106)	ロクロ、ケズリ・ロクロ・ケズリ	鉄釉・砂胎土目・17c第2～3四半期
75	1		肥前陶器大皿	3区W Ⅳ		ロクロ・ロクロ	二彩手・17c中葉～末
75	2	51	肥前陶器大皿	3区W Ⅳ上 1721(RP6)	底-(136)	ロクロ・ロクロ	二彩手・割り高台・1610～1640年代
75	3	51	陶器壺	3区W Ⅳ① 2019	底-(64)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・肥前か・17c後半
75	4		肥前陶器壺	3区W Ⅳ② 2018		ロクロ・ロクロ	緑釉・鉄釉・17c第2～3四半期
75	5	51	肥前陶器壺	3区W Ⅳ③ 2018	口-(196)	タタキ・アテ(格子状)	17c中葉～18c前半
75	6	51	肥前陶器擂鉢	3区W Ⅳ 1620		ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・18c
75	7		美濃陶器天目茶碗	3区W SB2EP22		ロクロ・ロクロ	地に鉄漿・鉄釉・大窯4前半
75	8		肥前染付磁器小広東碗	3区W SB2EP22	底-(34)	ロクロ・ロクロ	梵字文・1770～1810年代
	2	59	肥前陶器甕	3区W SB2EP22	長-〔138〕　幅-〔112〕	ロクロ・ロクロ	二彩か・17c末～18c
75	9		肥前染付磁器碗	3区W SX79F	口-(110)　底-(50)　高-60	ロクロ・ロクロ	松竹梅か・四方襷文・手描き五弁花・渦福・18c前半
75	10	52	肥前染付磁器碗	3区W SX79F	口-(124)　底-38　高-34	ロクロ・ロクロ	内面に文様あり・蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半か
75	11	52	肥前陶器高台付皿	3区W SX79F		ロクロ・ロクロ	呉須絵・透明釉・高台はめ込み・17c末～18c初頭
75	12		肥前（有田）染付磁器鉢	3区W SX85-1820		ロクロ・ロクロ	草花文・唐草文・1660～1680年代
75	13		肥前陶器碗	3区W SX85F-1920	底-(40)	ロクロ・ロクロ	鉄絵・灰釉・高台内無釉・1590～1610年代
76	1		肥前陶器碗	3区W SD88	底-(46)	ロクロ・ロクロ	刷毛目・17c後半～18c初頭
76	2		陶器壺・甕	3区W SP94	最大径-(190)	ロクロ・ロクロ→ナデ	鉄釉・産地不明、信楽焼か・SX100F1-1626からも出土・近世
76	3		肥前染付磁器小坏か	3区W SK95	口-(100)	ロクロ・ロクロ	印判・17c後半
76	4		肥前染付磁器碗	3区W SP96	底-(40)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	一重網目文・17c後半
76	5	52	肥前系陶器擂鉢	3区W SX85-1820		ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・18c後半～19c
76	6	52	肥前陶器擂鉢	3区W SP96	底-(120)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c前半
76	7	52	肥前陶器碗	3区W SP97	底-46	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉か・高台施釉・1610～1630年代
76	8		肥前染付磁器碗	3区W SX120S	口-(110)　底-(48)　高-65	ロクロ・ロクロ	柳文・1640～1660年代
76	9		肥前（有田）色絵磁器碗	3区W SX120N	口-(96)　底-38　高-55	ロクロ・ロクロ	草花文・大明年製・1690～1710年代
76	10		肥前染付磁器碗	3区W SX120S	口-(103)　底-(40)　高-58	ロクロ・ロクロ	圏線・大明年製・17c後半か
76	11		肥前染付磁器碗	3区W SX120S	口-(106)	ロクロ・ロクロ	二重網目文・18c後半～19c初頭
76	12		肥前（有田）染付磁器碗	3区W SX120S	底-(42)	ロクロ・ロクロ	型紙摺りの桐・大明年製・1670～1700年代
76	13		肥前陶胎染付碗	3区W SX120S	底-(44)	ロクロ・ロクロ	外面文様あり・18c前半
76	14		肥前染付磁器台付碗	3区W SX120N	口-82　底-48　高-49	ロクロ・ロクロ	外面文様あり・1640～1660年代

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
76	15	52	美濃陶器丸皿	3区W	SX120S	口-(102)　底-(62)　高-22	ロクロ・ロクロ	灰釉・大窯4前半～16c末
76	16		肥前(有田)染付磁器皿	3区W	SX120S	口-(204) 底-(128)　高-(34)	ロクロ・ロクロ	花唐草文・草花文・1660～1670年代
76	17		青花皿	3区W	SX120N		ロクロ・ロクロ	四方襷文・景徳鎮窯・1620～1630年代
76	18		肥前青磁染付深皿	3区W	SX120S	口-(224) 底-(120)　高-69	ロクロ・ロクロ	松竹梅・青磁釉・蛇ノ目凹形高台・1740～1770年代
76	19	52	肥前白磁蓋	3区W	SX120S	最大径-(92) 口-(67) 高-〔25〕	ロクロ・ロクロ	内面無釉・近世
77	1	52	肥前染付磁器皿	3区W	SX120S	底-60	ロクロ・ロクロ・ケズリ	蛇ノ目釉剝ぎ・内面に文様・17c後半～18c前半
77	2	52	肥前磁器蓋	3区W	SX120S	最大径-(84) 口-(73) 高-〔11〕	ロクロ・ロクロ	鉄釉・近世
77	3		肥前染付磁器合子(身)	3区W	SX120S	最大径-76 口-68　高-21	ロクロ・ロクロ	花唐草文・17世紀後半
77	4		肥前色絵磁器油壺	3区W	SX121-8トレ	最大径-(96)	ロクロ・ロクロ	17c末～18c前半
77	5	52	関西系陶器碗	3区W	SX120S	底-46	ロクロ・ロクロ	白色釉・18c
77	6	52	大堀相馬碗	3区W	SX120S	底-(28)	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉(貫入あり)・18c
77	7	52	肥前陶器小皿	3区W	SX120S	底-42	ロクロ・ロクロ	灰釉・砂目・1600～1630年代
77	8	52	肥前陶器小皿	3区W	SX120S	底-44	ロクロ・ロクロ	灰釉・砂目・1600～1630年代
77	9	52	肥前陶器小皿	3区W	SX120-5トレ拡F2	底-42	ロクロ・ロクロ・ケズリ	銅緑釉・蛇ノ目釉剝ぎ・17c第4四半期～18c前半
77	10		陶胎染付火入れ	3区W	SX120S	口-(118)	ロクロ・ロクロ	呉須絵・関西系・18世紀か
77	11	52	肥前陶器擂鉢	3区W	SX120S		ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・17c前半
77	12	52	肥前陶器擂鉢	3区W	SX120F1		ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・17c前半
77	13	52	肥前陶器擂鉢	3区E	SX102F		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・17c前半
77	14	52	肥前陶器擂鉢	3区W	SX120S	底-(86)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c前半
77	15	52	肥前陶器擂鉢	3区W	SX120F1	底-(120)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c後半
78	1	53	美濃陶器折縁皿	3区E	撹乱	口-(116)　底-54　高-23	ロクロ・ロクロ	灰釉・大窯4前半
78	2		肥前染付磁器水滴	3区E	Ⅱ	長-〔43〕 幅-〔33〕 高-〔34〕		底面に墨書、「平」カ・型押し成形・18c後半頃
78	3		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅱ	底-42	ロクロ・ロクロ	草花文・大明年製の崩れ・18c前半～中葉
78	4		肥前（有田）染付磁器皿	3区E	Ⅱ	底-(66)	ロクロ・ロクロ	唐草文・「嘉」銘・南川原・柿右衛門窯系・・1670～1700年代
78	5		肥前染付磁器小皿	3区E	Ⅱ	底-(60)	ロクロ・ロクロ	草花文・1640～1650年代
78	6		肥前(有田)磁器皿	3区E	Ⅱ	底-(154)	ロクロ・ロクロ	薄瑠璃釉の可能性・団扇・高台に雷文帯・型打ち成形・南川原か・焼成不良・1660～1670年代
78	7		肥前染付磁器長皿	3区E	1728撹乱	高-31		唐草文・雷文・大明成化年製・龍・松原文様・型打ち成形・1670～1700年代
78	8		肥前（有田）磁器角皿	3区E	Ⅱ			瑠璃釉掛分け・型打ち成形・糸切細工・1650～1670年代
78	9	53	肥前青磁蓋物か	3区E	Ⅲ	底-52	ロクロ・ロクロ	青磁釉・17c末～18c前半
78	10	53	色絵磁器小坏	3区E	Ⅲ壁	底-25	ロクロ・ロクロ	瀬戸・美濃か・近代
78	11	53	瀬戸・美濃染付磁器蓮華	3区E	Ⅱ	長-〔90〕 幅-〔56〕 高-40		型打ち成形・19c
78	12	53	肥前陶器小皿	3区E	Ⅱ	口-(122)	ロクロ・ロクロ	灰釉・1590～1630年代
78	13		陶器鉢	3区E	Ⅱ		ロクロ・ロクロ	なまこ釉・東山焼か・19c～近代
78	14	53	大堀相馬碗	3区E	Ⅱ	底-46	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・近世
78	15	53	肥前陶器擂鉢	3区E	Ⅱ		ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・17c前半
78	16	53	陶器擂鉢	3区E	Ⅱ		ロクロ・ロクロ	鉄釉・在地か・18c～19c
78	17	53	肥前系陶器擂鉢	3区E	Ⅱ		ロクロ・ロクロ	卸目・砂底・焼成不良・16c～17cか

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
78	18	53	在地陶器擂鉢	3区E	Ⅱ	底 -(122)	ロクロ、ケズリ・ケズリ	鉄釉・卸目・在地・18c ～ 19c
78	19	53	肥前系陶器擂鉢	3区E	Ⅱ	底 -(130)	ナデ	卸目・タタキ成形・18c ～ 19c
79	1	53	肥前陶器擂鉢	3区E	Ⅱ	底 -(100)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c 前半
79	2	53	陶器擂鉢	3区E	Ⅱ	底 -(140)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・高台・在地か・江戸後期
	1	59	瀬戸・美濃染付磁器碗	3区E	Ⅱ	口 -117　底 -43　高 -52	ロクロ・ロクロ	吹き墨・手描き鷺・明治後半
79	3	53	瀬戸・美濃陶器内禿皿	3区E	3面	底 -(56)	ロクロ・ロクロ	灰釉・輪トチン痕・大窯３後半以降
79	4		肥前染付磁器碗	3区E	3面 1427	底 -40	ロクロ・ロクロ	二重網目文・菊花文・崩れた渦福・18c 前半
79	5		肥前染付磁器碗	3区E	3面 1726	底 -(38)	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文・18c 中葉～末
79	6	53	肥前青磁染付手塩皿	3区E	3面 1726	底 -(32)	ロクロ・ロクロ	草花文・1630 ～ 1650 年代
79	7	53	肥前染付磁器小皿	3区E	3面 1429	底 -(54)	ロクロ・ロクロ	内面に文様あり・1640 ～ 1650 年代
79	8	53	肥前 (有田) 色絵磁器蓋物蓋	3区E	3面 1729	最大径 -(99)　高 -〔17〕	ロクロ・ロクロ	17c 後半
79	9		肥前色絵磁器人形	3区E	3面 1427	長 -〔31〕　幅 -〔26.5〕		17c 末～ 18c 前半
79	10	53	肥前陶器小皿	3区E	3面 1526	底 -45	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・砂目積み・1600 ～ 1630 年代
79	11	53	陶器皿	3区E	3面 1526	口 -(86)　底 -(32)　高 -23	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・スタンプ (花菱)・口縁輪花状・大堀相馬か・近世
79	12		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ	口 -(102)	ロクロ・ロクロ	松竹梅・18c 前半
79	13		肥前系染付磁器碗	3区E	Ⅳ	口 -(108)	ロクロ・ロクロ	圏線・在地の可能性も・19c ～幕末
79	14		青花碗	3区E	Ⅳ	底 -49	ロクロ・ロクロ	花文か・圏線・景徳鎮窯・16c 末～ 17c 初頭
79	15		肥前（有田）色絵磁器碗	3区E	Ⅳ	底 -43	ロクロ・ロクロ	1660 ～ 1680 年代
79	16		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ	底 -46	ロクロ・ロクロ	圏線・草花文か・近世
79	17		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ	底 -46	ロクロ・ロクロ	高台内外に錆釉・1640 ～ 1650 年代
79	18		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ	底 -47	ロクロ・ロクロ	圏線・菊花文・17c 後半
79	19		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ上 1727	底 -38	ロクロ・ロクロ	コンニャク印判・草花文・1690 ～ 18c 前半
79	20		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ上	底 -31	ロクロ・ロクロ	草花文か・蓮弁花・18c 中葉～末
79	21		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ	底 -44	ロクロ・ロクロ	二重網目文・菊花文・渦福・18c 前半
79	22		肥前染付磁器碗	3区E	Ⅳ上 1429(RP1)	口 -(100)　底 -36　高 -49	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文・18c 中葉～末
80	1		肥前 (有田) 染付磁器碗	3区E	Ⅳ	口 -(90)　底 -(38)　高 -59	ロクロ・ロクロ	丸文・手描き五弁花・18c 前半
80	2		肥前染付磁器小坏	3区E	Ⅳ	口 -72　底 -(32)　高 -48	ロクロ・ロクロ	折れ松葉・17c 後半
80	3	53	肥前青磁皿・鉢	3区E	Ⅳ上 1730(RP2)	底 -(128)	ロクロ・ロクロ	青磁釉・17c 後半
80	4		青花皿	3区E	Ⅳ上 1826	底 -(90)	ロクロ・ロクロ	圏線・玉取り獅子・景徳鎮窯・16c 前半
80	5a・b		青花大皿	3区E	Ⅳ	底 -(196)	ロクロ・ロクロ	圏線・草花文・漳州窯・16c 末～ 1630 年代
80	6		青花大皿	3区E	Ⅳ F		ロクロ・ロクロ	圏線・漳州窯・16c 末～ 17c 前半
80	7		青花大皿	3区E	Ⅳ	底 -(180)	ロクロ・ロクロ	花唐草文か・高台に砂付着・16c 末～ 1630 年代
80	8		肥前 (有田) 染付磁器深皿	3区E	Ⅳ	口 -(156)　底 -96　高 -43	ロクロ・ロクロ	鋸歯文・松竹梅・角福・輪花・南川原・1660 ～ 1680 年代
80	9		肥前（有田）染付磁器皿	3区E	Ⅳ	口 -242　底 -138　高 -47	ロクロ・ロクロ	唐草文・花・大明成化年製・1690 ～ 1730 年代
80	10	53	肥前染付磁器小皿	3区E	Ⅳ	底 -(52)	ロクロ・ロクロ	型打ち成形・1630 ～ 1640 年代
80	11	53	肥前染付磁器小皿	3区E	Ⅳ	底 -48	ロクロ・ロクロ	瓜文・1630 ～ 1640 年代
81	1		肥前染付磁器皿	3区E	Ⅳ上 1526	口 -(100)　底 -(56)　高 -25	ロクロ・ロクロ	折れ松葉・コンニャク印判・型押し成形・輪花・17c 末～ 18c 前半か
81	2		肥前染付磁器皿	3区E	Ⅳ	口 -(130)　底 -(78)　高 -33	ロクロ・ロクロ	唐草文・花唐草文・近世
81	3		肥前磁器壺か	3区E	Ⅳ上 1719	口 -(160)	ロクロ・ロクロ	圏線・近世
81	4	53	肥前（有田）白磁人形	3区E	Ⅳ	長 -〔60〕　幅 -〔21〕　高 -〔49〕		型押し成形・牛か・17c 後半
	3	59	肥前染付磁器皿	3区E	Ⅳ	長 -〔108〕	ロクロ・ロクロ	岩に鳳凰・ハリ支え・南川原の可能性高い・1660 ～ 80 年代

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
81	5	53	肥前陶器碗	3区E	ⅣF	底 -48	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・1610 ～ 1630 年代
81	6	53	肥前陶器碗	3区E	Ⅳ	底 -50	ロクロ・ロクロ	灰釉か・卵手・17c 後半
81	7	53	大堀相馬陶器皿	3区E	Ⅳ	底 -48	ロクロ・ロクロ	スタンプ (花菱)・灰釉・貫入・近世
81	8	53	肥前陶器壺	3区E	Ⅳ上 1524		ロクロ・アテ	鉄釉・タタキ成形・17c 後半～ 18c 前半
81	9	53	信楽陶器壺	3区E	Ⅳ	最大径 -(140)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・近世
81	10	53	肥前陶器瓶	3区E	Ⅳ		アテ痕	平行沈線文・タタキ成形・17c
81	11		肥前陶器壺	3区E	Ⅳ上 1919	底 -(128)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・籾殻底部付着・16c 末～ 17c 前半
81	12	54	肥前陶器擂鉢	3区E	Ⅳ	口 -(360)	ロクロ・ロクロ	卸目・タタキ成形擂鉢・18c
81	13	54	陶器徳利か	3区E	Ⅳ上 1727、1728	最大径 -(88)	カキメ・ロクロ	産地不明・近世
81	14	54	肥前陶器擂鉢	3区E	Ⅳ	底 -(104)	ロクロ・回転糸切り	卸目・17c 後半
81	15		瀬戸・美濃磁器皿	3区E	SB4EP44	口 -(110)　底 -(62)　高 -24	ロクロ・ロクロ	口紅・銅版転写・明治 20 ～ 30 年代
81	16	54	白磁皿	3区E	SB4EP44	口 -(100)		型打ち成形・近世
81	17	54	肥前系陶器皿	3区E	SB4EP48	底 -(42)	ロクロ・ロクロ	灰釉・胎土目・1590 ～ 1610 年代
81	18	54	陶器窯道具	3区E	SB4EP52	直径 -(92) 高 -7	回転糸切り	ハマ・在地
81	19	54	陶器擂鉢	3区E	SB5EP62		ロクロ・ロクロ	卸目・在地か・18c ～ 19c
81	20	54	肥前白磁小坏	3区E	SD65F(RP9)	口 -(70)　底 -32　高 -53	ロクロ・ロクロ	17c 後半
81	21		肥前染付磁器碗	3区E	SD65F(RP7)	口 -(104)　底 -(45)	ロクロ・ロクロ	雪輪花草文・18c 前半か
81	22		肥前染付磁器碗蓋	3区E	SD65(RP15)	底 -(58)　高 -〔24〕	ロクロ・ロクロ	楼閣山水文・岩波文か・18c 後半～ 19c 前半
82	1		青花皿	3区E	SD65(RP13)	口 -(200) 底 -(112)　高 -37	ロクロ・ロクロ	折り枝文・四方襷文・雲文・高台に砂付着・景徳鎮窯・1620 ～ 1630 年代
82	2	54	肥前陶器小皿	3区E	SD65(RP12)	底 -51	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・砂目・1600 ～ 1630 年代
82	3	54	肥前陶器壺	3区E	SD65F(RP8)	底 -(120)	格子目状タタキ・格子目状アテ・ナデ	鉄釉・タタキ成形・籾殻底部付着か・17c 中葉～ 18c 前半
82	4		肥前染付磁器碗	3区E	SD66(RP5)	口 -(108)　底 -44　高 -69	ロクロ・ロクロ・ケズリ	一重網目文・17c 後半
82	5		肥前染付磁器皿	3区E	SD66(RP3)	口 -(140)　底 -(80)　高 -32	ロクロ・ロクロ	口紅・唐草文・草花文・18c
82	6	54	肥前染付磁器皿	3区E	SD66(RP4)	底 -52	ロクロ・ロクロ	山水文・近世
82	7	54	肥前陶器小皿	3区E	SD66	口 -(118)	ロクロ・ロクロ	鉄絵・灰釉・1590 ～ 1610 年代
82	8		肥前染付磁器碗	3区E	SX67	底 -(40)	ロクロ・ロクロ	高台に砂付着・1650 ～ 1660 年代
82	9		青花大皿	3区E	SX67F		ロクロ・ロクロ	漳州窯・16c 末～ 17c 前半
82	10	54	肥前陶器擂鉢	3区E	SX68	底 -(114)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c 後半
82	11	54	在地陶器擂鉢	3区E	SD70F		ロクロ、ケズリ・ナデ	鉄釉・卸目・19c
82	12		肥前染付磁器皿	3区E	SK74	口 -(164) 底 -(113)　高 -41	ロクロ・ロクロ	花唐草文・折れ松葉・もみじ・底面に圏線・平戸藩の御用窯の可能性・1670 ～ 1690 年代代
82	13		肥前染付磁器碗	3区E	SX75(RP88)	底 -(49)	ロクロ・ロクロ	外面に文様・17c 後半
82	14		肥前染付磁器碗	3区E	SX75(RP90)		ロクロ・ロクロ	草花文か・1630 ～ 1650 年代
82	15		肥前 (有田) 染付磁器皿	3区E	SX75F 下 1524		ロクロ・ロクロ	花唐草文・波状・1670 ～ 1690 年代
82	16		肥前染付磁器碗	3区E	SX75F 下 1624	口 -(104)　底 -(40)　高 -57	ロクロ・ロクロ	雨降文・18c 前半
82	17		肥前 (有田) 染付磁器小鉢	3区E	SX75(RP87)	底 -38	ロクロ・ロクロ	芙蓉手・17c 末～ 18c 前半
82	18		肥前染付磁器蓋	3区E	SX75(RP14)	最大径 -80 口 -70　高 -26	ロクロ・ロクロ	氷裂菊花文・18c 中葉～末
82	19	54	肥前陶器小皿	3区E	SX75F1524	底 -45	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・砂目・1600 ～ 1630 年代
83	1	54	肥前陶器小皿	3区E	SX75(RP89)	底 -52	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	鉄釉・砂目・外面に煤付着・1610 ～ 1630 年代
83	2		関西系陶器小碗	3区E	SX75F ②	底 -28	ロクロ・ロクロ・ケズリ	白色釉・底面に墨書・高台は露胎・18c 末～ 19c 前半
83	3		肥前陶器小皿	3区E	SX75F 下	口 -(134)	ロクロ・ロクロ	鉄絵・灰釉・1590 ～ 1610 年代
83	4	54	肥前陶器皿	3区E	SX75F 下 1624	口 -(190)	ロクロ・ロクロ	灰釉・17c 後半～ 18c 前半
83	5	54	瀬戸・美濃陶器型打ち皿	3区E	SX75F 下 1624	高 -29		灰釉・型打ち成形・連房 1
83	6		肥前陶器大皿	3区E	SX75F 下 1623		ロクロ・ロクロ	二彩手・刷毛目・銅緑釉・17c 後半

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
83	7	54	関西系陶器壺	3区E	SX75-1625		ロクロ・ロクロ	漆を塗布か・19c
83	8	54	在地陶器壺	3区E	SX75F		ロクロ・ロクロ	鉄釉・江戸後期
83	9	55	在地陶器土瓶	3区E	SX75F下(RP83)		ロクロ・ロクロ	鉄釉・19c
83	10		肥前染付磁器碗	3区E	SX99-1527	口-(104)　底-46　高-70	ロクロ・ロクロ	寿学文・1650～1660年代
83	11		肥前（有田）染付磁器碗	3区E	SX99(RP40)	口-(114)　底-48　高-59	ロクロ・ロクロ	流水文・もみじ・高台内に圏線・17c後半
83	12		肥前（有田）染付磁器碗	3区E	SX99(RP43)	口-(100)　底-40　高-50	ロクロ・ロクロ	高台内に圏線・口にうわぐすり流し・漆接ぎ・1660～1680年代
83	13		肥前染付磁器碗	3区E	SX99(RP45)	底-42	ロクロ・ロクロ	銘あり(崩れ)・近世
83	14	55	陶器擂鉢	3区E	SX75F下1624	口-(270)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・丹波か・18c～19c
83	15		肥前染付磁器碗	3区E	SX99F	口-(114)	ロクロ・ロクロ	山水文か・17c後半
83	16	55	肥前（有田）白磁碗	3区E	SX99-1527	口-90	ロクロ・ロクロ	17c後半
83	17		青花皿	3区E	SX99F		ロクロ・ロクロ	芙蓉手・景徳鎮窯・17c前半
84	1	55	肥前染付磁器小皿	3区E	SX99(RP72)	口-(124)　底-50　高-33	ロクロ・ロクロ	柳文・底面に砂付着・1640～1650年代
84	2	55	肥前染付磁器小皿	3区E	SX99(RP99)	口-(150)　底-64　高-32	ロクロ・ロクロ	花・1640～1650年代
84	3	55	肥前白磁皿	3区E	SX99F	口-(96)　底-36　高-25	ロクロ・ロクロ・ケズリ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c後半
84	4		肥前染付磁器手塩皿	3区E	SX99-1527	底-(36)	ロクロ・ロクロ	菊花文・1640～1650年代
84	5		肥前染付磁器瓶	3区E	SX99(RP81)	底-(98)	ロクロ・ロクロ	高台に砂付着・17c後半
84	6	55	肥前陶器碗	3区E	SX99(RP46)	底-52	ロクロ・ロクロ	灰釉・玉子手・17c中葉～末
84	7	55	肥前陶器溝縁小皿	3区E	SX99F	口-(124)	ロクロ・ロクロ	灰釉・1610～1630年代
84	8	55	肥前陶器溝縁小皿	3区E	SX99F	口-(126)	ロクロ・ロクロ	灰釉・1610～1630年代
84	9	55	肥前陶器溝縁皿	3区E	SX99-1527	口-(120)	ロクロ・ロクロ	灰釉・1610～1630年代
84	10	55	陶器壺	3区E	SX99F	口-(106)	ロクロ、ナデ・ロクロ、ナデ	焼締・肥前か・17cか
84	11	55	肥前陶器皿	3区E	SX99	底-40	ロクロ・ロクロ・ケズリ	灰釉・蛇ノ目釉剝ぎ・17c中葉～後半
84	12	55	肥前系陶器擂鉢	3区E	SX99		ロクロ	鉄釉・卸目・タタキ成形・18c
84	13		肥前染付磁器碗	3区E	SX100	口-100	ロクロ・ロクロ	鹿・漆接ぎ・1670～1700年代
84	14		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F-1727	口-(110)	ロクロ・ロクロ	楼閣山水文・1640～1660年代
84	15		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F1-1727	底-40	ロクロ・ロクロ	草花文・大明年製(崩れ)・18 c前半～中葉
84	16	55	肥前白磁碗	3区E	SX100(RP62)	口-(106)　底-52　高-54	ロクロ・ロクロ	17c後半
84	17		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F1-1625・1626	口-(100)　底-42　高-67	ロクロ・ロクロ	外面に文様・1650～1660年代
84	18		肥前色絵磁器碗	3区E	SX100	口-(92)	ロクロ・ロクロ	樹木・18c前半
84	19		肥前(有田)染付磁器碗	3区E	SX100F1(RP100)	口-(102)　底-(46)　高-55	ロクロ・ロクロ	竹に竹の子・18c前半
84	20		肥前染付磁器碗	3区E	SX100トレF4-1726	底-(40)	ロクロ・ロクロ	野菜文・18c前半
84	21		肥前（有田）染付磁器碗	3区E	SX100F2-1526	口-(110)	ロクロ・ロクロ	雨降文・型紙刷り・漆接ぎ・1670～1690年代
84	22		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F1-1626	口-(120)	ロクロ・ロクロ	一重網目文・17c後半
84	23		肥前（有田）色絵磁器碗	3区E	SX100F2-1627・1628	底-(43)	ロクロ・ロクロ	外面・内面に色絵・17c後半
84	24	55	肥前染付磁器碗か	3区E	SX100F1-1625・1626	底-48	ロクロ・ロクロ	草花文・蛇ノ目釉剝ぎ・17c後半～18c前半
85	1		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F2-1626	口-(102)　底-(40)　高-61	ロクロ・ロクロ	草花文・底面に圏線・17c後半
85	2		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F2-1727(RP116)	口-(108)　底-(48)　高-62	ロクロ・ロクロ	雪持ち笹か・17c後半
85	3		肥前（有田）染付磁器碗	3区E	SX100-1727(RP105)	口-(114)	ロクロ・ロクロ	鷺文・1670～1690年代
85	4		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F2(RP101)	底-45	ロクロ・ロクロ	外面に文様・17c後半
85	5		肥前染付磁器碗	3区E	SX100(RP132)	口-(108)　底-(46)　高-62	ロクロ・ロクロ	松・漆接ぎ・1670～1690年代
85	6		肥前染付磁器碗	3区E	SX100(RP122)	口-(104)　底-42　高-56	ロクロ・ロクロ	草花文・丸文・17c末～18c初頭
85	7		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F2-1626	底-42	ロクロ・ロクロ	外面文様あり・波佐見か・近世

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
85	8		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F3-1626	口-(108)　底-46　高-57	ロクロ・ロクロ	草花文・漆か・1670～1690年代
85	9		肥前（有田）染付磁器碗	3区E	SX100F3-1626(RP119)	口-(104)　底-46　高-59	ロクロ・ロクロ	もみじ・コンニャク印判・1680～1690年代
85	10		肥前染付磁器碗	3区E	SX100F3-1526(RP121)	口-(88)　底-34　高-52	ロクロ・ロクロ	一重網目文・17c後半
85	11		肥前染付磁器小坏	3区E	SX100(RP63)	口-(68)　底-33　高-50	ロクロ・ロクロ	楼閣山水文・17c後半
85	12		肥前染付磁器小坏	3区E	SX100F1-1625・1626	底-36	ロクロ・ロクロ	「宣明年製」銘・1660～1680年代
85	13		肥前染付磁器小坏	3区E	SX100(RP59)	口-(96)　底-44　高-58	ロクロ・ロクロ	松竹梅・手描き五弁花・17c後半～18c初頭
85	14		肥前染付磁器小碗	3区E	SX100F2-1727	口-(100)	ロクロ・ロクロ	草花文・17c後半
85	15		肥前染付磁器小碗	3区E	SX100F3-1626	口-(80)	ロクロ・ロクロ	外面に文様・17c後半
85	16		肥前染付磁器小坏	3区E	SX100F2-1526	口-(74)	ロクロ・ロクロ	外面に文様・17c後半か
85	17		青花皿	3区E	SX100F2-1727(RP113)		ロクロ・ロクロ	芙蓉手・景徳鎮窯・17c前半
85	18		青花大皿	3区E	SX100F1-1626		ロクロ・ロクロ	圏線・草花文・漳州窯・16c末～1630年代
85	19		呉須赤絵大皿	3区E	SX100F3-1726		ロクロ・ロクロ	高台に砂付着・漳州窯・17c前半
85	20	55	肥前染付磁器小皿	3区E	SX100F2-1526	口-(150)	ロクロ・ロクロ	内面に圏線・型打ち成形・1630～1650年代
85	21	55	肥前白磁皿	3区E	SX100F1-1626	底-40	ロクロ・ロクロ	近世
85	22	55	肥前青磁染付手塩皿	3区E	SX100F3-1626(RP118)	底-36	ロクロ・ロクロ	捻文・1640～1650年代
85	23	55	肥前染付磁器小皿	3区E	SX100F2-1726	底-51	ロクロ・ロクロ	草花文・1640～1650年代
85	24	55	肥前白磁皿	3区E	SX100F1-1625・1626	口-(100)　底-(34)　高-27	ロクロ・ロクロ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c中葉～末
85	25	55	肥前染付磁器皿	3区E	SX100-1726(RP129)	底-44	ロクロ・ロクロ	蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半か
85	26		肥前（有田）染付磁器皿	3区E	SX100(RP68)	口-(214)　底-(218)　高-45	ロクロ・ロクロ	唐草文・草花文・手描き五弁花・大明成化年製・ハリ支え・1690～1730年代
86	1	55	肥前青磁皿	3区E	SX100-1726N端(RP130)	口-(201)　底-(64)　高-65	ロクロ・ロクロ	砂敷き・蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半～中葉
86	2	55	肥前染付磁器皿	3区E	SX100-1626S端(RP13)	口-(124)　底-45　高-32	ロクロ・ロクロ	草花文か・蛇ノ目釉剝ぎ・18c前半か
86	3		肥前白磁小皿	3区E	SX100F2-1626	高-22		葡萄？・糸切り細工初期のもの・1640～1650年代
86	4		肥前青磁皿	3区E	SX100(RP27・61)	口-(294)　底-(140)　高-54	ロクロ・ロクロ	団扇・漆付着・高台内蛇ノ目釉剝ぎ・SX109(RP57)からも出土・1650～1660年代
86	5		肥前（有田）染付磁器皿	3区E	SX100下(RP78)	口-(220)　底-(132)　高-59	ロクロ・ロクロ	花唐草文・草花文・圏線・漆接ぎ・1660～1680年代
86	6		肥前（有田）染付磁器小皿	3区E	SX100F2-1626	口-(138)　底-88　高-25	ロクロ・ロクロ	唐草文・椿か・ハリ支え・1660～1690年代
86	7	55	肥前青磁香炉	3区E	SX100F1下(RP91)		ロクロ・ロクロ	沈線・青磁釉・1630～1650年代
86	8	56	肥前白磁仏飯器	3区E	SX100Nトレ(RP73)	底-45	ロクロ・ロクロ・回転糸切り→ケズリ	1630～1650年代
86	9		肥前染付磁器仏飯器	3区E	SX100F2-1726	底-46	ロクロ・ロクロ	圏線・1630～1650年代
86	10		肥前染付磁器仏飯器	3区E	SX100F3-1526(RP120)	口-(78)　底-42　高-59	ロクロ・ロクロ・ケズリ	花唐草文・17c後半
86	11	56	白磁紅皿	3区E	SX100F1～F2-1727	口-50　底-20　高-16		型押し成形・近世
86	12	56	肥前白磁紅皿	3区E	SX100(RP74)	口-44　底-18　高-15		型打ち成形・近世
86	13	56	肥前磁器瓶	3区E	SX100-1626(RP128)	口-(156)	ロクロ・ロクロ	焼成不良・17c後半～18c前半
87	1		肥前青磁足付き皿	3区E	SX100F2-1526、SX100F上(RP79)	高-59		桜花流水文・青磁釉・底面に鉄漿・型打ち成形・凹形高台・漆接ぎ・1650～1660年代
87	2		肥前染付磁器香炉	3区E	SX100(RP117)	底-62	ロクロ・ロクロ	草花文・脚3本、獣面の足（猿か）・1640～1660年代
87	3		肥前色絵磁器油壷	3区E	SX100F1～F2-1727	最大径-(90)	ロクロ・ロクロ	丸文・3区E1529Ⅳ上からも出土・1650～1660年代

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
87	4	56	肥前色絵磁器瓶	3区E	SX100F1b		ロクロ・ロクロ	外面に色絵・17c後半
87	5		肥前染付磁器瓶	3区E	SX100F1(RP102)	底-68	ロクロ・ロクロ	外面に文様・17c後半
87	6	56	肥前白磁人形	3区E	SX100F1-1727	長-〔34〕 幅-〔13〕 高-〔20〕		型押し成形・近世
87	7		肥前(有田)色絵磁器水滴・置物	3区E	SX100F1-1727	長-〔28〕 幅-〔24〕		鳥・型打ち成形・合子の可能性も・1650～1670年代
87	8		肥前(有田)色絵磁器水滴・置物	3区E	SX100F1-1727	長-〔36〕 幅-〔21〕		鶏形・型打ち成形・鶏形・17c後半
87	9	56	美濃陶器天目茶碗	3区E	SX100F1-1626		ロクロ・ロクロ	鉄釉・大窯4後半～末
87	10		肥前陶器碗	3区E	SX100F(RP76)	口-117　底-50　高-71	ロクロ・ロクロ	透明釉・銅緑釉流し・玉子手・17c後半
87	11		肥前陶器碗	3区E	SX100(RP67)	口-(110)　底-46　高-72	ロクロ・ロクロ	透明釉・銅緑釉流し・玉子手・17c後半
87	12		関西系色絵陶器碗	3区E	SX100F(RP75)	口-(95)	ロクロ・ロクロ	京都・18c
87	13	56	肥前陶器碗	3区E	SX100-F1-1526・1626・1727	口-(124)	ロクロ・ロクロ	玉子手・17c後半
87	14	56	肥前陶器碗	3区E	SX100トレF4-1726	底-48	ロクロ・ロクロ	玉子手・17c後半
87	15	56	肥前陶器小碗	3区E	SX100F3-1526	底-41	ロクロ・ロクロ	透明釉・内ノ山の可能性・17c後半か
87	16	56	陶器碗	3区E	SX100F3-1726	口-(130)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・玉縁状・片口の可能性・肥前か・17c
87	17	56	肥前陶器碗	3区E	SX100F2-1626	底-(52)	ロクロ・ロクロ	灰釉・胎土目・籾殻付着・1590～1610年代
87	18	56	美濃陶器内禿皿	3区E	SX100F1-1526	底-(52)	ロクロ・ロクロ	灰釉・大窯3後半以降
87	19	56	肥前陶器溝縁小皿	3区E	SX100F1下(RP84)	口-(117)　底-56　高-25	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	鉄釉・砂目・口縁内外に炭化物、灯明皿・1610～1630年代
87	20	56	肥前陶器小皿	3区E	SX100F2-1626	底-39	ロクロ・ロクロ	灰釉か・砂目・焼成不良・1600～1630年代
87	21	56	肥前陶器溝縁皿	3区E	SX100F2	口-(128)	ロクロ・ロクロ	灰釉・1610～1630年代
87	22		肥前陶器皿	3区E	SX100F2-1727	口-(126)	ロクロ・ロクロ	鉄絵・焼成不良・1590～1610年代
88	1	56	肥前陶器小皿	3区E	SX100F2-1726	口-(138)　底-44　高-35	ロクロ・ロクロ	鉄絵・重ね痕・17c第2～3四半期
88	2		肥前陶器大皿	3区E	SX100(RP111)	口-(440) 底-(144)　高-156	ロクロ・ロクロ	二彩手・焼成やや不良・漆接ぎ・17c後半・RP77
88	3		陶器小皿	3区E	SX100F3-1626	口-(120)	ロクロ・ロクロ	鉄絵・肥前か・17cか
88	4		肥前陶器大皿	3区E	SX100F1下(RP85)		ロクロ・ロクロ	二彩手・焼成不良・17c中葉～末
88	5		肥前陶器大皿	3区E	SX100F1(RP103)		ロクロ・ロクロ	三島手・1610～1650年代
88	6	56	美濃陶器香炉	3区E	SX100F-1627	底-(54)	ロクロ・ロクロ・回転ヘラケズリ	鉄釉・連房中期～18c前半
88	7		肥前陶器皿・鉢	3区E	SX100F2-1626		ロクロ・ロクロ	鉄釉・砂胎土目・17c第2～3四半期
88	8	56	肥前陶器鉢・甕	3区E	SX100F2-1726	底-(128)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・17c第2～3四半期
88	9	56	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F1-1727	口-(330)	ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・卸目・17c前半
88	10	56	陶器皿	3区E	SX100F1b1727		ロクロ・ロクロ	灰釉・輪花・大堀相馬か・近世
89	1	56	肥前陶器壺・甕	3区E	SX100	底-(190)	タタキ・アテ	平行沈線・タタキ成形・SX75Fからも出土・17c中葉～18c前半
89	2	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F1-1626		ロクロ・ロクロ	鉄釉・17c前半
89	3	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F3-1726		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・卸目・17c前半
89	4	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F-1727		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・卸目・17c第2四半期
89	5	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F-1727		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・卸目・17c第2四半期
89	6	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F1-1727		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・卸目・17c第2四半期
89	7	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F3-1726		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・卸目・17c後半
89	8	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F2-1526		ロクロ・ロクロ	鉄釉・17c前半
90	1	57	肥前系陶器擂鉢	3区E	SX100-1526		ロクロ・ロクロ	卸目・肥前か福岡・17c～18c
90	2	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F1下(RP86-1)	底-100	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	17c後半
90	3	57	肥前陶器擂鉢	3区E	SX100F-1727	底-(110)	ロクロ・ロクロ・回転糸切り	卸目・17c後半
90	4		肥前染付磁器碗	3区E	SX101	口-(100)	ロクロ・ロクロ	草花文・18c前半～中葉
90	5		陶器置物か	3区E	SX100F2-1727(RP112)	長-〔71〕 幅-〔52〕		緑釉・黄色釉・指頭痕・中国か
	1	57	肥前陶器小皿	3区E	SX100F3-1726	長-〔47〕 幅-〔25〕	ロクロ・ロクロ	藁灰釉・福岡の可能性あり・1580～1590年代(肥前の場合)

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
90	6		肥前染付磁器仏飯器	3区E	SX102(RP47)	口-(82)　底-40　高-66	ロクロ・ロクロ	楼閣山水文・17c後半
90	7	57	肥前陶器小皿	3区E	SX102(RP80)	底-42	ロクロ・ロクロ	鉄絵・見込み蛇ノ目釉剝ぎ・17c第2～3四半期
90	8	57	肥前系陶器火入れ	3区E	SX104F	口-(116)	ロクロ・ロクロ	緑釉・肥前か福岡・18c頃か
90	9	57	肥前陶器碗	3区E	SK105F	底-48	ロクロ・ロクロ	釉あり・高台無釉・焼成不良・17cか
90	10		青花小鉢	3区E	SK105F	口-(129)	ロクロ・ロクロ	芙蓉手・景徳鎮窯・17c前半
90	11	57	肥前系陶器小皿	3区E	SK107	底-(52)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・砂目・17c前半
90	12		青花皿	3区E	SK107	口-(200)	ロクロ・ロクロ	四方襷文・景徳鎮窯・1620～1630年代
	2	57	瀬戸・美濃陶器天目茶碗	3区E	SK107F	長-(40)　幅-(42)	ロクロ・ロクロ	鉄釉・大窯期
90	13	58	肥前陶器擂鉢	3区E	SX108F		ロクロ・ロクロ	鉄釉・卸目・タタキ擂鉢・18c
90	14		肥前染付磁器碗	3区E	SX109(RP55)	口-(94)	ロクロ・ロクロ	寿字文・1650～1660年代
90	15		肥前染付磁器碗	3区E	SX109(RP48)	口-(94)	ロクロ・ロクロ	梅・1660～1680年代
90	16		肥前染付磁器碗	3区E	SX109(RP49)	底-40	ロクロ・ロクロ	一重網目文・17c後半
90	17		肥前染付磁器碗	3区E	SX109(RP54)	底-(50)	ロクロ・ロクロ	芙蓉手・高台内圏線と文様あり・長吉谷窯・1655～1660年代
90	18		肥前染付磁器碗	3区E	SX109(RP58)	底-48	ロクロ・ロクロ	芙蓉手・銘あり・長吉谷窯・ハマの付着痕・1655～1660年代
90	19		肥前染付磁器碗	3区E	SX109(RP51)	底-(40)	ロクロ・ロクロ	草花文・大明年製・18c前半～中葉
90	20		肥前染付磁器碗	3区E	SX109	口-(106)	ロクロ・ロクロ	一重網目文・17c後半
90	21		肥前青磁染付碗	3区E	SX109	口-(103)	ロクロ・ロクロ	一重網目文・青磁釉・17c後半
90	22	58	肥前(有田)白磁碗	3区E	SX109(RP53)	底-48	ロクロ・ロクロ	17c後半
90	23	58	肥前(有田)白磁碗	3区E	SX109(RP52)	底-46	ロクロ・ロクロ	17c後半
90	24		肥前(有田)色絵磁器碗	3区E	SX109-1529		ロクロ・ロクロ	若松文・1670～1690年代
90	25		肥前染付磁器小皿	3区E	SX109-1529	底-(50)	ロクロ・ロクロ	文様あり・1630～1650年代
91	1		波佐見染付磁器皿	3区E	SX109-1629・1727(RP38)	口-(214)　底-60　高-58	ロクロ・ロクロ	網目文・菊花文・17c後半
91	2		肥前染付磁器深皿・鉢	3区E	SX109(RP50)	口-(250)　底-(80)　高-72	ロクロ・ロクロ	外面に圏線、内面に圏線と文様・ヘラ彫り・輪花・外面に指痕・1630～1640年代
91	3a・3b		肥前(有田)磁器色絵皿	3区E	SX109(RP70)	口-(216)　底-(94)	ロクロ・ロクロ	初期色絵・1640～1650年代
91	4		肥前染付磁器小皿	3区E	SX109	底-(50)	ロクロ・ロクロ	如意頭文・1630～1640年代
91	5		肥前染付磁器皿	3区E	SX109-1629	口-(130)	ロクロ・ロクロ	二重斜格子文・18c後半
91	6	58	肥前青磁香炉か	3区E	SX109	口-(120)	ロクロ・ロクロ	17c後半
91	7	58	肥前(有田)磁器香炉	3区E	SX109-1529	底-(62)	ロクロ・ロクロ	瑠璃釉・伏せ焼き・長吉谷窯・1655～1660年代
91	8	58	信楽陶器壺	3区E	SX109(RP64)	底-(130)	ロクロ→ケズリ・ロクロ・ケズリ	鉄釉・茶壷・18c～19c
91	9	58	肥前陶器溝縁皿	3区E	SX109(RP69)	口-128　底-51　高-24	ロクロ・ロクロ	白色釉・砂目・外面に炭化物付着・1610～1630年代
91	10	58	肥前陶器擂鉢	3区E	SX109-1529		ロクロ・ロクロ	鉄釉・17c前半
91	11	58	肥前陶器壷	3区E	SX109-1529		アテ痕(同心円状)	波状文(櫛描き)・鉄釉か・タタキ成形・1580～1630年代
91	12	58	肥前陶器袋物	3区E	SX109-1629		アテ痕	被熱・タタキ成形・16c末～1630年代
91	13	58	肥前陶器擂鉢	3区E	SX110(RP66)		ロクロ・ロクロ	口縁に鉄釉・卸目・17c前半
92	1		肥前染付磁器碗	3区E	SX110-1529	口-(100)	ロクロ・ロクロ	草花文・1640～1650年代
92	2		肥前染付磁器碗	3区E	SX110(RP60)		ロクロ・ロクロ	一重網目文・3面1427・17c後半
92	3	58	肥前陶器小坏	3区E	SX111	口-(80)　底-(38)　高-37	ロクロ・ロクロ・回転糸切り、ケズリ	灰釉・1590～1630年代
92	4		波佐見青磁染付鉢	3区E	SK112(RP65)	口-(220)	ロクロ・ロクロ	葡萄文・口紅・指押し・輪花・17c後半
92	5	58	肥前陶器擂鉢	3区E	SX114F1		ロクロ・ロクロ	卸目・17c後半
92	6		肥前染付磁器碗	3区E	SK115		ロクロ・ロクロ	竹文・1660～1680年代
92	7		肥前染付磁器碗	3区E	SK115F		ロクロ・ロクロ	草花文・1640～1650年代
92	8	58	肥前陶器溝縁皿	3区E	SK116-1623	口-(121)　底-(50)　高-25	ロクロ・ロクロ	灰釉・砂目・1610～1630年代
92	9		肥前(有田)染付磁器瓶	3区E	SK116-1623	底-44	ロクロ・ロクロ	外面に文様・17c後半
92	10	58	関西系陶器小皿か	3区E	SX118-1622	底-(50)	ロクロ・ロクロ	白色釉・京焼か・17c末～18c前半
92	11		肥前染付磁器碗	3区E	SX118(RP98)	底-48	ロクロ・ロクロ	草花文・1650～1670年代

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
92	12		肥前染付磁器碗	3区E	SX118-1622		ロクロ・ロクロ	草花文・1630 ～ 1650 年代
92	13		肥前染付磁器小瓶	区なし	XO	最大径 -(36) 底 -(25)	ロクロ・ロクロ	折れ松葉・17c 後半頃
92	14		肥前磁器水滴か	区なし	XO	長 -〔59〕 幅 -〔53〕 高 -〔8〕	ナデ	底面に布目・内面に布目と櫛歯状工具の条線・底面に墨書・19c 頃
	1	58	肥前磁器染付鉢	1区E	Ⅳ	長 -〔70〕 幅 -〔57〕	ロクロ・ロクロ	唐草文・桐・漆接き・17c 後半
	2a	58	肥前陶器皿	3区E	SX100F1-1626	長 -〔25〕 幅 -〔25〕	ロクロ・ロクロ	三島手・17c 後半頃
	2b	58	肥前陶器皿	3区E	SX100	長 -〔37〕 幅 -〔24〕	ロクロ・ロクロ	三島手
92	15	59	かわらけ	1区W	壁3面 2721	口 -116　底 -66　高 -22	ロクロ・ロクロ・回糸切	底部に穿孔・外面内面口縁に炭化物付着
92	16	59	かわらけ	1区W	壁3面 2721	口 -105　底 -60　高 -24	ロクロ・ロクロ・回糸切	
92	17	59	かわらけ	1区W	Ⅲ 2721	口 -(108)　底 -58　高 -18	ロクロ・ロクロ・回糸切	
92	18	59	かわらけ	1区W	1トレ周　Ⅳ 2421	口 -96　底 -38　高 -26	ロクロ・ロクロ・回糸切	
92	19	59	焼塩壺	1区W	3トレⅣ	口 -(77)		刻印「泉湊伊織」
92	20	59	かわらけ	1区E	SX200F ② 2325	口 -(108)	ロクロ・ロクロ	外面内面に炭化物付着
92	21	59	焼塩壺の蓋	1区E	SX200F ②	口 -77　底 -82.5　高 -18		布目痕
92	22	59	かわらけ	1区W	EP208F	口 -(123)　底 -(63)　高 -25	ロクロ・ロクロ・回糸切	外面内面口縁に炭化物付着
92	23	60	焼塩壺の蓋	1区W	SX260S	口 -76　底 -82　高 -21		
92	24	60	かわらけ	1区W	SX260N	口 -(102)　底 -(52)　高 -26	ロクロ・ロクロ・回糸切	
92	25	60	かわらけ	1区W	SX260(RP110)	口 -112　底 -62　高 -21	ロクロ・ロクロ・回糸切	
92	26	60	かわらけ	1区W	SX260N	口 -(130)　底 -(60)　高 -24	ロクロ・ロクロ・回糸切	
92	27	60	かわらけ	1区W	SX260N	底 -(56)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
92	28a	60	焼塩壺？	1区W	SX260N	口 -(60)	ロクロ・ロクロ	
92	28b	60	焼塩壺？	1区W	SX260N	底 -50	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	1	60	かわらけ	1区W	SX260F6-4トレ拡	底 -(30)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	2	60	かわらけ	1区W	SX260N	口 -120　底 -64　高 -28	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	3	60	かわらけ	1区W	SK263	底 -(60)	ロクロ・ロクロ・回糸切	底部に穿孔
93	4	60	かわらけ	1区W	SK267F1	口 -(100)　底 -56　高 -23	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	5	60	かわらけ	1区W	SK267F2	口 -110　底 -(58)　高 -25	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	6	60	かわらけ	3区E	SX75F 下層 1624	底 -(60)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	7	61	かわらけ？	3区E	SX75F 下層 1624		ロクロ・ロクロ→ケズリ→ミガキ	
93	8	61	かわらけ	3区E	SX75W ベルト 1624	口 -(88)　底 -(56)　高 -24	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	9	61	かわらけ	3区E	SX75F 下層 1524	口 -(97) 底 -(60)　高 -(24)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	10	61	かわらけ	3区W	SX79	底 -(68)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	11	61	かわらけ	3区W	SX79F	口 -(120)　底 -(76)　高 -26	ロクロ・ロクロ・回糸切	外面内面口縁に炭化物付着
93	12	61	かわらけ	3区E	SX99F	底 -(60)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	13	61	かわらけ	3区E	SX100F1(RP99)	口 -(100)　底 -(52)　高 -25	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	14	61	かわらけ	3区E	SX100	口 -(106)　底 -(58)　高 -25	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	15	61	かわらけ	3区E	SX100F1 b 1727		ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	16	61	かわらけ	3区E	SX100F2	口 -(108)　底 -(68)　高 -23	ロクロ・ロクロ・回糸切	

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値(mm)	調整　外面・内面・底面	文様・釉薬・調整技法 遺物番号・年代
93	17	61	かわらけ	3区E	SX100F2-1726	口-(106)　底-(59)　高-21	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	18	61	かわらけ	3区E	SX100F3-1726	底-(83)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	19	61	かわらけ	3区E	SX100F-1727	底-76	ロクロ・ロクロ・回糸切	内面外面に被熱による黒変・炭化米付着
93	20	61	かわらけ	3区E	SK117	底-(66)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	21	61	かわらけ	3区W	Ⅱ	底-(30)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	22	61	かわらけ	3区W	SX79F	底-(60)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	23	61	かわらけ	3区E	Ⅳ上 1523	口-(124)	ロクロ・ロクロ	
93	24	62	かわらけ	3区E	1623 Ⅳ・1523 Ⅳ上	口-(108)　底-(62)　高-22	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	25	62	かわらけ	3区W	Ⅳ② 1918	底-58	ロクロ・ロクロ	外面に褐色の付着物・内面に炭化物付着
93	26	62	かわらけ	3区W	Ⅲ 2018	底-(48)	ロクロ・ロクロ・回糸切	
93	27	62	かわらけ	3区E	撹乱 1824		ロクロ・ロクロ	
94	1	62	土師質土器焜炉	3区W	Ⅳ 1919	高-[44]		
94	2	62	焼塩壺	3区E	SX75F ④ 1524	口-(62)		
94	3	62	焼塩壺	3区E	SX100-1626(RP125)	底-(56)　高-82.5		強く被熱・内面の体部下が黒変・縦の沈線か
94	4	62	焼塩壺	3区E	SX100F1 ～ F2-1727	口-(68)		強く被熱・口縁外面に黒色付着物
94	5	62	土師質土器火鉢？	3区E	SX100-1626(RP124)	口-(191)　底-(148)　高-〔69〕	ロクロ・ロクロ・回糸切→ナデ	底面に脚の剥落痕
94	6	62	焼塩壺の蓋	1区W	SX260N	口-80　底-76　高-15		
94	7	62	焼塩壺の蓋	1区W	SX260S	口-81　底-78　高-21.5		
94	8	62	焼塩壺	1区W	7トレ検出面	口-(67)	ケズリ？	刻印「泉湊伊織」か
94	9	62	土師質土器火鉢か	3区E	SX100		ロクロ・ロクロ、ミガキ	近世か
94	10	62	瓦質土器火鉢？	3区E	3面 1526	口-(440)	ミガキ、黒色処理・ミガキ、黒色処理	
94	11	62	土師質土器火鉢か	2区	Ⅱ	底-(204)	ロクロ・ロクロ	高台に「○」のスタンプ
94	12	62	土師質土器火鉢か	3区W	SX120S		ロクロ・ロクロ	近世か
94	13	62	瓦質土器火鉢か	3区W	Ⅳ③ 2019		ロクロ・ロクロ	口縁の内外に煤付着
94	14	62	土製品人形	3区W	Ⅱ	幅-〔19〕厚-20　高-37		近世

※回転糸切りを、回糸切と略記した。

表4　瓦観察表

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値(mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
94	15	63	軒丸瓦（黒）	1区W	Ⅲ 2322	長-〔35〕　瓦当-151 × 150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文・カキヤブリ
94	16	63	丸瓦（黒）	1区W	Ⅲ 3723	長-285　幅-143　高-65	ナデ・布目、縄	良好・1b
94	17	63	平瓦（赤釉）	1区W	SK213	長-〔144〕　幅-〔197〕	条線・—	良好・赤釉
95	1		丸瓦（黒）	1区W	Ⅲ 2721	長-300　幅-156　高-71	ナデ、ミガキ・布目、縄、ナデ	良好・1a
95	2	63	軒丸瓦（黒）	1区W	SX215 ⑪	長-34　瓦当-150 ×〔145〕	離れ砂、ナデ・ナデ	不良・A3a・カキヤブリ・九曜文
95	3	63	丸瓦（黒）	1区W	SX215 ①	長-307　幅-159　高-72	ナデ、擦痕？・布目、縄	良好・1a
95	4	63	丸瓦（黒）	1区W	SX215 ⑤	長-304　幅-152　高-75	ナデ、布目・ヘラ	普通・1a・刻印「田」
95	5		丸瓦（黒）	1区W	SX215 ③	長-290　幅-153　高-71	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・1b
95	6	63	丸瓦（黒）	1区W	SX215 ⑤	長-294　幅-153　高-75	ナデ・布目、縄	普通・1a
95	7	63	軒平瓦（黒）	1区W	SX215 ②	長-〔39〕　幅-〔224〕　瓦当-〔224〕× 45	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
96	1		丸瓦（黒）	1区W	SX215 ⑦	長-301　幅-152　高-69	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
96	2	64	丸瓦（黒）	1区W	SX215 ⑧	長-285　幅-147　高-69	ナデ・布目、縄	不良・1b・コビキB
96	3		丸瓦（黒）	1区W	SX215 3トレⅣ	長-298　幅-151　高-67	ナデ・布目、縄、ヘラ	普通・1a・刻印「○」
96	4		軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F ② 2225	長-〔161〕　幅-150　瓦当-150	ナデ・布目	普通・A3a・九曜文
96	5		軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F ② 2224	長-〔57〕　瓦当-150	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
96	6		軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F②	長-〔55〕 瓦当-〔148〕×〔146〕	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文・カキヤブリ・RP34
96	7		軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔75〕 瓦当-150	ナデ・布目、ナデ	良好・A3a・九曜文
96	8		軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔112〕 瓦当-〔145〕×〔145〕	ケズリ・布目	良好・A3a・九曜文・コビキB
96	9		軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔108〕 瓦当-150	ナデ・布目	普通・A3a・九曜文
97	1		軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔242〕 幅-148 瓦当-148	ナデ・布目、ケズリ、ヘラ	良好・A3a・九曜文
97	2	64	軒丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2224・2124	長-〔105〕 瓦当-150	ナデ・ヘラ	普通・A3a・九曜文
97	3		丸瓦（黒）	1区E	SX200F① 2225	長-295 幅-156 高-66	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
97	4	64	丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-292 幅-148 高-63	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
97	5	64	丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-169 幅-151 高-77	ナデ・布目、ナデ、ヘラ	普通・2・刻書「×」
97	6		丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-295 幅-150 高-71	ナデ・布目、縄、ケズリ	良好・1a
98	1		丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-291 幅-(140) 高-69	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・1a
98	2		丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-292 幅-153 高-67	ナデ、ミガキ・布目、縄、ナデ	良好・1a
98	3	64	丸瓦？（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-175 幅-〔129〕 高-98	ナデ・布目、ケズリ、ヘラ	普通・2・刻書「×」
98	4		丸瓦（黒）	1区E	SX200F② 2124	長-218 幅-〔129〕 高-75	ナデ・布目、縄	普通・1e
98	5		谷丸瓦（右）（黒）	1区E	SX200F① 2225	長-〔216〕 幅-〔137〕	ナデ・布目、縄、ナデ	普通
98	6	64	軒平瓦（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-〔106〕 幅-〔238〕 瓦当-〔238〕×50	ナデ・ナデ	不良・3・均整唐草文・カキヤブリ
98	7	64	軒平瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔94〕 幅-240 瓦当-240×55	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
98	8	64	軒平瓦（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-〔115〕 幅-〔221〕 瓦当-〔221〕×45	ナデ・ナデ	良好・4・均整唐草文
99	1		軒平瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔143〕 幅-225 瓦当-225×50	ナデ・ナデ	不良・5・均整唐草文・カキヤブリ
99	2	64	軒平瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔97〕 幅-225 瓦当-225×44	ナデ・ナデ	良好・4・均整唐草文
99	3	65	平瓦（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-267 幅-235	ナデ・ケズリ	良好・1a
99	4		平瓦（黒）	1区E	SX200F① 2225	長-245 幅-〔215〕	ナデ・ケズリ	良好・1c
99	5		隅切瓦？（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔107〕 幅-〔127〕 瓦当-〔110〕×40	ナデ・ナデ	普通・A3a・均整唐草文・カキヤブリ
99	6		谷唐草瓦（右）・（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔216〕 幅-〔180〕 瓦当-〔180〕×〔40〕	ナデ・ナデ	不良・カキヤブリ
100	1		平瓦（黒）	1区E	SX200F① 2225	長-265 幅-〔221〕	ナデ・ナデ	普通・1a
100	2		平瓦（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-265 幅-〔225〕	ナデ・ナデ	良好・1a
100	3		谷唐草瓦（右）・（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-〔248〕 幅-〔226〕 瓦当-〔260〕×45	ナデ・ナデ	普通
100	4	64	瓦（不明）	1区E	SX200F② 2225	長-〔105〕 幅-187	ナデ・ナデ	良好・黒色付着物
101	1	65	谷唐草瓦（右）・（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-260 幅-232 瓦当-293×40	ナデ・ナデ	普通
101	2	65	輪違い（黒）	1区E	SX200F② 2224	長-108 幅-〔112〕 高-38	—・ナデ	普通
101	3	65	輪違い（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-105 幅-〔118〕 高-34	ナデ・ナデ	普通・刻印「○」
101	4		輪違い（黒）	1区E	SX200F② 2225	長-〔107〕 幅-118 高-31	ナデ・ナデ	良好

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
101	5	65	軒丸瓦（黒）	1区E	SX217中央トレ	長-〔120〕　瓦当-148	ナデ・布目、ナデ、ヘラ	不良・A3a・九曜文
101	6		軒丸瓦（黒）	1区W	SK267	長-〔45〕　瓦当-150	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文・カキヤブリ
101	7	65	軒丸瓦（黒）	1区W	壁3面2721	瓦当-145	ナデ・ナデ	不良・A3a・九曜文・カキヤブリ
102	1		輪違い（黒）	1区E	SX200F②2225	長-〔101〕　幅-133　高-31	ナデ・ナデ	良好
102	2	66	軒丸瓦（黒）	1区E	SX217中央トレ	長-〔237〕　幅-151　高-80　瓦当-145×145	ナデ・布目、縄、ヘラ	良好・A3a・九曜文
102	3	65	軒丸瓦（黒）	1区E	SX217中央トレ	長-〔165〕　幅-〔150〕　瓦当-152×150	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・A3a・九曜文
102	4		軒丸瓦（黒）	1区W	3トレS2721Ⅳ	長-〔66〕　瓦当-150	ナデ・ナデ	不良・A3b・九曜文
102	5		軒丸瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔52〕　瓦当-150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文
102	6	65	軒丸瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔57〕　瓦当-150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文
102	7	65	軒丸瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔56〕　瓦当-137	ナデ・ナデ	良好・A1・九曜文
103	1		丸瓦（黒）	1区E	SX217中央トレ	長-248　幅-150　高-74	ナデ・布目、縄、ナデ	不良・1d
103	2		軒丸瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔155〕　幅-〔95〕　瓦当-〔145〕×〔71〕	ナデ・ヘラ	良好・A3a・九曜文
103	3	66	軒丸瓦（黒）	1区W	Ⅳ 2622	長-〔268〕　瓦当-145	ナデ・布目、縄、ナデ、ヘラ	普通・A3a 九曜文
103	4	66	軒丸瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔280〕　瓦当-148	ナデ・布目、縄、ヘラ	良好・A3a・九曜文
104	1	66	丸瓦？（赤）	1区W	Ⅳ	長-〔119〕　幅-145　高-58	ナデ・布目、ヘラ	良好
104	2		軒平瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔77〕　幅-〔156〕　瓦当-〔156〕×45	ナデ・ナデ	良好・2・均整唐草文
104	3		丸瓦（黒）	1区W	Ⅳ 2322	長-300　幅-158　高-70	ナデ・布目、縄	普通・1a・コビキB
104	4		軒平瓦（黒）	1区W	3トレⅣ	長-〔215〕　幅-237　瓦当-237×42	ナデ・ナデ	普通・2・均整唐草文
104	5	66	平瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-257　幅-〔234〕	ナデ・ナデ	良好・1b
105	1	67	平瓦（黒）	1区W	4トレ	長-261　幅-〔217〕	離れ砂・ナデ	良好・1a
105	2		平瓦（赤）	1区W	Ⅳ	長-〔155〕　幅-〔230〕	ナデ・ナデ	良好（焼締）
105	3	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-〔234〕　幅-154　瓦当-150	ナデ・布目、縄	良好・A3a・九曜文
105	4	66	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔131〕　瓦当-147×145	ヘラ・布目	良好・A2・九曜文・コビキB
105	5	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔60〕　瓦当-150	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文
105	6	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260	長-〔30〕瓦当-150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文・カキヤブリ
105	7	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔71〕　瓦当-145	ヘラ・ヘラ	良好・A2・九曜文
105	8		軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	瓦当-〔165〕×〔100〕	ナデ・ナデ	良好・A4・九曜文
106	1		軒丸瓦（黒）	1区W	SX260N	長-〔171〕　幅-〔167〕　瓦当-〔167〕×〔70〕	ナデ・布目、縄	良好・A4・九曜文・コビキB
106	2	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260N	瓦当-150	離れ砂・ナデ	普通・A3a・九曜文・カキヤブリ
106	3	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260N	瓦当-150	ナデ・ナデ	A3a・九曜文・カキヤブリ
106	4		軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔155〕　幅-152　瓦当-152	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・A4・九曜文
106	5	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260N	長-〔102〕　瓦当-145	ナデ・布目	良好・A2・九曜文
106	6	67	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔141〕　幅-170　瓦当-170	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・A4・九曜文
107	1		軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔132〕　幅-172　瓦当-172	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・A4・九曜文
107	2	68	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔130〕　幅-175　瓦当-175×170	ナデ・布目、縄	不良・A4・九曜文
107	3		軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔85〕　瓦当-170	ナデ・ナデ	普通・A4・九曜文
107	4	68	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔48〕　瓦当-150	ナデ・布目	良好・A3a・九曜文
107	5		軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔60〕　瓦当-150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文
107	6	68	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔92〕　幅-〔160〕　瓦当-〔160〕×〔140〕	ナデ・布目、ナデ	良好・A3a・九曜文・カキヤブリ
107	7	68	軒丸瓦（黒）	1区W	SX260N	瓦当-150	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文・カキヤブリ
108	1	68	丸瓦（黒）	1区W	SX260N	長-310　幅-155　高-76	ナデ・布目、縄、ナデ、ヘラ	良好・1a・コビキB
108	2		丸瓦（黒）	1区W	SX260N	長-〔310〕　幅-155　高-73	ナデ・布目、縄、ケズリ	普通・1a・コビキB
108	3	68	丸瓦（黒）	1区W	SX260S	長-272　幅-142　高-71	ナデ・布目、縄	良好・1c

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
108	4		丸瓦（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-〔270〕 幅-144 高-67	ナデ・布目、縄、ヘラ	普通
108	5	68	丸瓦（黒）	1区W	SX260F6-4トレ拡	長-293 幅-152 高-71	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
108	6		丸瓦（黒）	1区W	SX260F6-4トレ拡	長-290 幅-〔112〕 高-55	ナデ・ヘラ状工具、布目	良好・1b・刻印「田」
109	1	69	丸瓦（黒）	1区W	SX260F6-4トレ拡	長-300 幅-150 高-81	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
109	2	69	丸瓦（黒）	1区W	SX260F6-4トレ拡	長-291 幅-153 高-74	ナデ・布目跡、縄	良好・1b
109	3		丸瓦（黒）	1区W	7トレ外黒色土	長-300 幅-151 高-76	ナデ・布目、縄、ヘラ	良好・1a・刻印「○」
109	4	69	軒平瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔132〕 幅-〔219〕 瓦当-〔219〕×〔44〕	ナデ・ナデ	普通・2・均整唐草文
109	5		軒平瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔104〕 幅-〔150〕 瓦当-〔135〕×〔50〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
109	6	69	軒平瓦（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-〔58〕 幅-〔170〕 瓦当-〔170〕×〔50〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
109	7		軒平瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔144〕 幅-〔142〕 瓦当-〔142〕×〔48〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
109	8	69	軒平瓦（黒）	1区W	SX260S	長-273 幅-〔227〕 瓦当-〔227〕×40	ナデ、指跡・ケズリ	良好・4・均整唐草文
110	1	69	軒平瓦（黒）	1区W	SX260S	長-〔169〕 幅-240 瓦当-240×45	ナデ・ナデ、ケズリ	普通・2・均整唐草文
110	2		平瓦（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-259 幅-〔150〕	ヘラナデ・ヘラ	良好・1a
110	3		平瓦（黒）	1区W	SX260F5	長-254 幅-〔187〕	ナデ・ナデ	良好・1b
110	4		平瓦（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-〔92〕 幅-〔122〕	ナデ・ナデ	良好・刻書「#」
110	5	69	輪違い（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-110 幅-130 高-39	ナデ・ナデ	良好
110	6		軒丸瓦（黒）	1区W	7トレ外黒色土	長-〔54〕 瓦当-150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文
110	7	68	小型瓦A	1区W	7トレ外黒色土	長-84 幅-107 高-36	ナデ・ナデ	良好
111	1	70	桟瓦（赤釉）	3区E	Ⅱ	長-〔92〕 幅-〔90〕	ナデ・ナデ	良好・刻書「□隊ヵ」・赤釉
111	2		軒平瓦（黒）	3区W	Ⅲ 2018	長-〔160〕 幅-〔175〕 瓦当-〔175〕×〔50〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
111	3	70	谷丸瓦(右)・(黒)	3区E	SD82	長-〔273〕 幅-153 高-70	ナデ・布目、縄、ナデ	普通
111	4	70	軒丸瓦（黒）	3区E	SK95	長-〔219〕 幅-173 瓦当-170	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・A4・九曜文
111	5	70	軒丸瓦（黒）	3区E	SK95F	長-〔209〕 幅-166 瓦当-165	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・A4・九曜文
111	6		軒丸瓦（黒）	3区E	SX75F ③ 1624	長-〔60〕 瓦当-151	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文
112	1		平瓦（黒）	3区W	SX79F	長-252 幅-〔216〕	ナデ・ナデ	良好・1b
112	2		平瓦（黒）	3区E	SK95	長-261 幅-〔163〕	ナデ・ナデ	良好・1a・刻印「○」
112	3	70	軒丸瓦	3区E	SX75F 1624	長-〔132〕 瓦当-150	ナデ・布目、ヘラ	普通・A3a・九曜文
112	4		丸瓦（黒）	3区E	SX75F ① 1524	長-313 幅-〔152〕 高-69	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a・コビキB
112	5	70	丸瓦（黒）	3区E	SX75F ③ 1524	長-310 幅-155 高-69	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
112	6		丸瓦（黒）	3区E	SX75F ① 1525	長-261 幅-〔157〕 高-75	ナデ・布目、縄、ナデ	不良・1c
113	1		丸瓦（黒）	3区E	SX75F 下 1624	長-〔304〕 幅-144 高-59	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・1a
113	2		平瓦（黒）	3区E	SX75F ① 1624	長-257 幅-〔148〕	ナデ・ナデ	良好・1b
113	3	70	軒平瓦（黒）	3区E	SX75F 下 1624	長-255 幅-230 瓦当-230×43	ナデ・ナデ	普通・4・均整唐草文
113	4		軒平瓦（黒）	3区E	SX75F 下 1623	長-270 幅-〔210〕 瓦当-〔90〕×〔42〕	ナデ・ナデ	普通・均整唐草文
113	5	70	軒平瓦（黒）	3区E	SX75F1 1525	長-〔38〕 幅-〔235〕 瓦当-〔235〕×〔47〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文・カキヤブリ
113	6	70	軒平瓦（黒）	3区E	SX75F 下 1524	長-〔36〕 幅-〔232〕 瓦当-〔232〕×〔44〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文・カキヤブリ

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
114	1	71	谷唐草瓦 (左)・(黒)	3区E	SX75F 下 1524	長 -〔180〕 幅 -217	ナデ・ナデ	良好・瓦当にナデ
114	2		平瓦（黒）	3区E	SX75F1 1723	長 -〔65〕 幅 -〔103〕	ナデ・ナデ	普通・刻印「田」
114	3	71	隅平瓦 (黒)	3区E	SX75F 下 1524	長 -122 幅 -〔174〕	ナデ・ナデ	良好
114	4	71	輪違い（黒）	3区E	SX75F ② 1525	長 -112 幅 -135 高 -32	ナデ・ナデ	良好
114	5	71	輪違い（黒）	3区E	SX75F ① 1624	長 -114 幅 -〔122〕 高 -29	ナデ・ナデ	良好・刻印「○」2つ
114	6	71	軒丸瓦（黒）	3区E	SX99	長 -〔69〕 瓦当 -148	ナデ・布目、ナデ	良好・A3a・九曜文・RP42
114	7	71	瓦（不明）・(黒)	3区E	SX99	長 -〔105〕 幅 -〔58〕 高 -〔41〕	ナデ・ナデ	良好・瓦当に文様あり、菊丸瓦か
115	1	71	輪違い（黒）	3区E	SX75F 下 1624	長 -〔102〕 幅 -〔126〕 高 -45	ナデ・ナデ	良好
115	2	71	小型瓦 A（黒）	3区E	SX75F 下層 1624	長 -95 幅 -117 高 -37	ナデ・ナデ	良好・内面に条線状圧痕
115	3		軒丸瓦（黒）	3区E	SX100F2	長 -〔130〕 幅 -〔157〕 瓦当 -155	ナデ・ナデ	普通・A4・九曜文・カキヤブリ・RP104
115	4		軒丸瓦（黒）	3区E	SX100	長 -〔80〕 瓦当 -158	ナデ・ナデ	普通・A3b・九曜文
115	5		軒丸瓦（黒）	3区E	SX100F2 1726	長 -〔178〕 幅 -152 高 -80 瓦当 -〔145〕×〔145〕	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・A3a・九曜文
115	6	71	軒平瓦（黒）	3区W	SX118-1622	長 -〔97〕 幅 -230 瓦当 -230 × 45	ナデ・ナデ	良好・5・均整唐草文・摩滅し文様の残りが浅い
116	1		輪違い（黒）	3区W	SX118 1622	長 -〔102〕 幅 -〔109〕 高 -24	ナデ・ナデ	良好
116	2		軒丸瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長 -164 幅 -150 瓦当 -150 × 148	ナデ・布目、ナデ	良好・A3a・九曜文
116	3		軒丸瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長 -〔120〕 幅 -〔166〕 瓦当 -〔166〕	ナデ・布目、ナデ	良好・A4・九曜文
116	4	71	軒丸瓦（黒）	3区W	1819 Ⅳ	長 -〔70〕 瓦当 -165	ナデ・ナデ	不良・A4・九曜文
116	5		軒丸瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長 -〔155〕 幅 -〔145〕 瓦当 -145	ナデ・布目、縄、ヘラ、ナデ	良好・A3a・九曜文
116	6		軒丸瓦（黒）	3区W	2118 Ⅳ③	長 -〔208〕 幅 -157 瓦当 -〔157〕	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・A4・九曜文
116	7		軒丸瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長 -〔60〕 瓦当 -170	—・ナデ	不良・A4・九曜文
116	8	71	軒丸瓦（黒）	3区W	1918 Ⅳ②	長 -〔95〕 瓦当 -147	ナデ・布目、ヘラ、ナデ	良好・A3a・九曜文
117	1		軒丸瓦（黒）	3区W	2018 Ⅳ②	長 -〔67〕 瓦当 -150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文・カキヤブリ
117	2	72	軒丸瓦（黒）	3区W	2018 Ⅳ①	長 -〔38〕 瓦当 -150	—・ナデ	良好・A3a・九曜文・カキヤブリ
117	3		軒丸瓦（黒）	3区W	2017 Ⅳ②	長 -〔64〕 瓦当 -150	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文
117	4	72	軒丸瓦（黒）	3区W	2019 Ⅳ①	長 -〔74〕 瓦当 -150	ナデ・ヘラ、ナデ	良好・A3a・九曜文・カキヤブリ
117	5	72	軒丸瓦（黒）	3区W	2019 Ⅳ③	長 -〔60〕 瓦当 -145	ナデ・ナデ	良好・A2・九曜文
117	6	72	軒丸瓦（黒）	3区W	2019 Ⅳ①	長 -〔30〕 瓦当 -150	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文・カキヤブリ
117	7	72	軒丸瓦（赤）	3区E	Ⅳ	長 -〔102〕 幅 -〔118〕 瓦当 -（140）	ナデ・ナデ	良好・B・巴文
117	8		丸瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長 -300 幅 -153 高 -75	ナデ・布目、縄、ヘラ	良好・1a
117	9	72	丸瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長 -298 幅 -147 高 -67	ナデ・布目、縄	良好・1a
117	10	72	丸瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長 -202 幅 -151 高 -60	ナデ・布目、ケズリ、ナデ	良好・1f
117	11		丸瓦？（赤）	3区W	Ⅳ	長 -〔186〕 幅 -135 高 -70	ナデ・布目、ナデ	良好
118	1		丸瓦（黒）	3区W	1525 Ⅳ	長 -297 幅 -153 高 -70	ナデ・布目、縄目、ナデ	良好・1a
118	2		軒丸瓦（黒）	3区W	2017 Ⅳ②	長 -〔286〕 幅 -〔143〕 高 -〔76〕	ナデ・布目、縄、ケズリ、ヘラ、ナデ	良好・瓦当部分剥落、カキヤブリ
118	3		丸瓦（黒）	3区W	2017 Ⅳ③	長 -304 幅 -148 高 -63	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
118	4		丸瓦（黒）	3区W	2019 Ⅳ③	長 -〔295〕 幅 -160 高 -71	ナデ・ナデ	普通・1a
118	5		丸瓦（黒）	3区W	2018 Ⅳ②	長 -〔272〕 幅 -〔133〕 高 -〔70〕	ナデ・ナデ	良好
118	6	72	谷丸瓦 (右)・(黒)	3区W	2019 Ⅳ③	長 -207 幅 -150 高 -70	ナデ・ナデ	普通
119	1	72	丸瓦（黒）	3区W	2019 Ⅳ③	長 -300 幅 -149 高 -65	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・1a
119	2		丸瓦（黒）	3区W	2019 Ⅳ③	長 -〔244〕 幅 -157 高 -68	ナデ・布目、縄、ナデ	良好・破断面を再調整
119	3		丸瓦（黒）	3区W	1523 Ⅳ	長 -〔102〕 幅 -〔56〕 高 -〔50〕	ナデ・布目、ヘラ	普通
119	4		丸瓦（黒）	3区W	1918 Ⅳ①	長 -159 幅 -〔140〕 高 -57	ナデ・ヘラ、ナデ	普通・2
119	5	72	丸瓦（黒）	3区W	2019 Ⅳ③	長 -188 幅 -150 高 -78	ナデ・布目、ナデ	良好・2・コビキ B

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
119	6		瓦（不明）・(黒)	3区W	1819Ⅳ	長-124　幅-〔90〕　高-45	ナデ・布目、ケズリ、ナデ	良好
119	7		軒平瓦（黒）	3区W	1918Ⅳ①	長-〔130〕　幅-〔150〕　瓦当-〔150〕×〔45〕	ナデ・ナデ	良好・均整唐草文
119	8		軒平瓦（黒）	3区W	1918Ⅳ①	長-〔100〕　幅-〔120〕　瓦当-〔120〕× 44	ナデ・ナデ	良好・均整唐草文
119	9	73	軒平瓦（黒）	3区W	1917Ⅳ	長-〔33〕　幅-230　瓦当-230×〔38〕	—・ナデ	良好・4・均整唐草文・カキヤブリ
119	10		軒平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ②	長-〔32〕　幅-〔160〕　瓦当-〔160〕×〔40〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文・カキヤブリ
120	1	72	軒平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ②	長-〔75〕　幅-225　瓦当-225 × 50	ナデ・ナデ	良好・5・均整唐草文
120	2	72	軒平瓦（黒）	3区W	2019Ⅳ③	長-〔108〕　幅-〔180〕　瓦当-〔180〕× 45	ナデ・ナデ	不良・3・均整唐草文
120	3	72	軒平瓦（赤釉）	3区E	Ⅳ 1429	長-〔86〕　幅-〔130〕　瓦当-〔130〕×〔45〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
120	4		軒平瓦（黒）	3区W	2019Ⅳ①	長-〔147〕　幅-〔137〕　瓦当-〔127〕×〔50〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文
120	5	73	軒平瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長-〔220〕　幅-233　瓦当-233 × 42	ナデ・ナデ	良好・4・均整唐草文
120	6		平瓦（黒）	3区W	Ⅳ①	長-〔176〕　幅-〔230〕	ナデ・ナデ	良好
120	7		平瓦（黒）	3区W	1918Ⅳ②	長-257　幅-〔130〕	ナデ・ナデ	良好・1b
120	8		平瓦（黒）	3区W	1918Ⅳ①	長-263　幅-〔146〕	ナデ・ナデ	良好・1a
121	1		平瓦（黒）	3区W	1819Ⅳ	長-〔164〕　幅-〔222〕	ナデ・ナデ	良好
121	2		平瓦（黒）	3区W	1917Ⅳ①	長-〔162〕　幅-〔215〕	ナデ・ナデ	良好
121	3		平瓦（黒）	3区W	1917Ⅳ①	長-〔145〕　幅-〔235〕	ナデ・ナデ	普通
121	4		平瓦（黒）	3区W	1917Ⅳ①	長-257　幅-〔152〕	ナデ・ナデ	普通・1b
121	5		平瓦（黒）	3区W	2118Ⅳ③	長-260　幅-〔221〕	ナデ・ナデ	普通・1a
122	1		平瓦（黒）	3区W	2118Ⅳ②	長-238　幅-〔202〕	ナデ・ナデ	良好・1d
122	2	73	平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ③	長-260　幅-〔223〕	ナデ・ナデ	良好・1a
122	3		平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ③	長-260　幅-〔192〕	ナデ・ナデ	良好・1a
122	4		平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ③	長-257　幅-〔224〕	ナデ・ナデ	良好・1b
123	1		平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ②	長-266　幅-〔133〕	ナデ・ナデ	良好・1a
123	2		平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ②	長-〔186〕　幅-〔214〕	ナデ・ナデ	不良
123	3		平瓦（黒）	3区W	2019Ⅳ③	長-〔202〕　幅-〔233〕	ナデ・ナデ	良好
123	4		平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ③	長-273　幅-〔122〕	ナデ・ナデ、指圧痕	良好・1a
123	5		平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ②	長-〔160〕　幅-〔233〕	ナデ・ナデ	普通
123	6		平瓦（黒）	3区W	2019Ⅳ③	長-270　幅-〔228〕	ナデ・ナデ	不良・1a
123	7		平瓦（黒）	3区W	2019Ⅳ③	長-265　幅-〔132〕	ナデ・ナデ	良好・1a
124	1		平瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長-264　幅-〔231〕	ナデ・ナデ	良好・1a
124	2	73	平瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長-247　幅-〔220〕	ナデ・ナデ	良好・1c
124	3	73	平瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長-255　幅-〔219〕	ナデ・ナデ	良好・1b
124	4		平瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長-257　幅-〔185〕	ナデ・ナデ	良好・1b
125	1	73	切隅瓦（黒）	3区W	2118Ⅳ②	長-〔132〕　幅-〔207〕　瓦当-〔207〕× 44	ナデ・ナデ	不良・均整唐草文
125	2		切隅瓦（黒）	3区W	1918Ⅳ①	長-〔101〕　幅-〔172〕　瓦当-〔155〕× 48	ナデ・ナデ	普通・均整唐草文・カキヤブリ
125	3		隅瓦（黒）	3区W	1819Ⅳ	長-〔222〕　幅-〔176〕	ナデ・ナデ	普通
125	4		隅平瓦（黒）	3区W	2017Ⅳ②	長-〔135〕　幅-〔108〕	ナデ・ナデ	普通
125	5	74	隅平瓦(黒)	3区W	Ⅳ	長-111　幅-〔169〕	ナデ・ナデ	良好
125	6	73	小型瓦A（黒）	3区W	2018Ⅳ②	長-78　幅-99　高-31	ナデ・ナデ	良好
125	7		輪違い（黒）	3区W	2018Ⅳ②	長-114　幅-〔91〕　高-21	ナデ・ナデ	普通
126	1		輪違い（黒）	3区W	1919Ⅳ②	長-〔82〕　幅-〔130〕　高-27	ナデ・ナデ	良好
126	2	74	輪違い（黒）	3区W	2118Ⅳ③	長-115　幅-〔119〕　高-31	ナデ・ナデ	良好
126	3		輪違い（黒）	3区W	2017Ⅳ③	長-114　幅-〔93〕　高-〔32〕	ナデ・ナデ	良好
126	4	74	輪違い（黒）	3区W	Ⅳ	長-〔107〕　幅-127　高-〔50〕	ナデ・ナデ	良好
126	5		軒丸瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔75〕　瓦当-149	ナデ・ナデ	良好・A3a・九曜文
126	6		軒丸瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔154〕　幅-〔168〕　瓦当-〔160〕	ナデ・布目、ナデ	不良・A4・九曜文
126	7	73	軒丸瓦（黒）	3区W	SX120	長-〔114〕　幅-142　瓦当-142	ナデ・布目、ナデ	良好・A3b・九曜文
126	8	73	軒丸瓦（黒）	3区W	SX120	長-〔85〕　瓦当-150	ナデ・布目、ナデ	良好・A3a・九曜文
127	1		軒丸瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔59〕　幅-154　瓦当-154	ナデ・ナデ	良好・A3b・九曜文
127	2	73	軒丸瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔140〕　瓦当-148	ナデ・布目、ヘラ、ナデ	良好・A3a・九曜文
127	3	73	軒丸瓦（黒）	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-〔75〕　瓦当-152	ナデ・ナデ	普通・A3a・九曜文

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
127	4		軒丸瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔65〕　瓦当-150	—・ナデ	良好・A3a・九曜文・カキヤブリ
127	5		軒丸瓦（黒）	3区W	SX120S	長-35　瓦当-150	—・ナデ	不良・A3a・九曜文・カキヤブリ
127	6		軒丸瓦（黒）	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-〔105〕　瓦当-150	ナデ・布目、ナデ	普通・A3a・九曜文
127	7	74	軒丸瓦（黒）	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-〔110〕　瓦当-150	ナデ・布目、ヘラ、ナデ	良好・A3a・九曜文
127	8	74	軒丸瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔45〕　幅-〔155〕　瓦当-〔150〕	ナデ・ナデ	良好・B・巴文・外面に砂痕
127	9	74	軒丸瓦（黒）	3区W	SX120F2	長-〔229〕　幅-150　瓦当-150	ナデ・布目、縄、ヘラ、ナデ	良好・A3a・九曜文
127	10		丸瓦（黒）	3区W	SX120-5トレ	長-293　幅-〔95〕　高-55	ナデ・布目、縄、ナデ	普通・1a
127	11		軒丸瓦（黒）	3区W	SX120-5トレ	長-〔236〕　幅-145　高-72	ナデ・縄、ヘラ、ナデ	不良・刻書「×」
128	1		丸瓦（黒）	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-〔263〕　幅-〔153〕　高-〔71〕	ナデ・布目、縄、ナデ	普通
128	2		丸瓦（黒）	3区W	SX120F3-5トレ拡	長-288　幅-157　高-76	ナデ・縄、ヘラ、ナデ	普通・1b
128	3		谷丸瓦(右)・(黒)	3区W	SX120S	長-〔258〕　幅-〔155〕　高-69	ナデ・ナデ	良好
128	4	74	軒平瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔75〕　幅-〔190〕　瓦当-〔190〕×53	ナデ・ナデ	良好・2・均整唐草文・刻印「○」2つ
128	5	74	軒平瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔37〕　幅-237　瓦当-237×〔47〕	ナデ・ナデ	良好・3・均整唐草文・カキヤブリ
128	6	74	軒平瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔80〕　幅-〔252〕　瓦当-〔252〕×47	ナデ・ナデ	不良・1・均整唐草文
128	7	74	軒平瓦（黒）	3区W	SX120F2	長-260　幅-〔235〕　高-92　瓦当-〔235〕×50	ナデ・ナデ	良好・2・均整唐草文
129	1		平瓦（黒）	3区W	SX120F1-5トレ拡	長-260　幅-〔168〕	ナデ・ナデ	良好・1a
129	2		平瓦（黒）	3区W	SX120F1-5トレ拡	長-〔213〕　幅-〔152〕	ナデ・ナデ	良好・刻印「田」2つ
129	3		平瓦（黒）	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-251　幅-〔167〕	ナデ・ナデ	良好・1b
129	4		平瓦(黒)	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-259　幅-〔164〕	ナデ・ナデ	良好・1a・刻印「○」
129	5		平瓦（黒）	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-252　幅-227	ナデ・ナデ	良好・1b
130	1		平瓦（黒）	3区W	SX120F2-5トレ拡	長-〔250〕　幅-〔217〕	ナデ・ナデ	良好
130	2	75	平瓦（黒）	3区W	SX120F3-5トレ拡	長-262　幅-〔226〕	ナデ・ナデ	良好・1a
130	3	75	平瓦（黒）	3区W	SX120F3 5トレ拡	長-257　幅-〔214〕	ナデ・ナデ	良好・1b
130	4		平瓦（黒）		表土	長-〔100〕　幅-〔115〕	ナデ・ナデ	良好・刻書「千」カ
131	1	75	鬼瓦（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-〔221〕　幅-〔305〕　高-83.5	ナデ・ナデ、指ナデ	良好
131	2	75	鬼瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔168〕　幅-〔178〕　高-〔61〕	ナデ・指圧痕、ナデ	良好・九曜文(剝落)・把手剝落・カキヤブリ
131	3	75	鬼瓦（黒）	2区	2223攪乱	長-〔65〕　幅-〔40〕　高-〔31〕	ナデ・ナデ	良好・刻書「大□」
131	4	75	鯱瓦（黒）	1区W	SX260F5-4トレ拡	長-〔126〕　幅-〔273〕	ナデ・ナデ	良好・ヒレ・尾の根元の部位
132	1	76	鯱瓦（黒）	1区W	SX260F6-4トレ拡	長-〔202〕　幅-〔225〕	ナデ、ミガキ・ナデ、ミガキ	良好・ヒレ
132	2	76	鯱瓦（黒）	1区W	4トレ	長-〔132〕　幅-〔178〕	ナデ、ミガキ・ナデ、ミガキ	良好・カキヤブリ
132	3	76	鯱瓦（黒）	3区E	SX100F1-1626	長-〔88〕　幅-〔95〕	ナデ・ナデ	良好・鰭
132	4	76	鯱瓦（黒）	3区W	SX120S	長-〔75〕　幅-〔109〕	ナデ・ナデ	普通・鰭
132	5	76	鯱瓦（黒）	3区W	Ⅳ	長-〔120〕　幅-〔180〕	ナデ・輪積み痕、指頭痕	良好・鱗・差し込みの孔
133	1	76	鯱瓦（黒）	3区E	SX75F下	長-〔74〕　幅-〔147〕	ナデ・ナデ	良好・鱗・縦の穿孔・RP82
133	2	77	鯱瓦（黒）	1・3区W	SX120・260	長-〔126〕　幅-〔154〕	ナデ・輪積み痕	良好・鱗・差し込みの孔

図版番号	遺物番号	写真図版	種別・器種	地区	出土地点・層位	計測値 (mm)	調整　外面・内面	焼成・文様及び分類・釉薬・調整技法・遺物番号
133	3	76	鯱瓦（黒）	3区E		長-〔112〕 幅-〔166〕	ナデ・輪積み痕・ナデ	良好・鱗（スタンプ状）・差し込みの孔・RP26
134	1	77	鯱瓦（黒）	3区W	Ⅳ① 1918	長-〔148〕 幅-〔113〕	ナデ・輪積み痕、指頭痕、ナデ	良好・鱗・差し込みの孔
143	1	77	平瓦（赤）	1区W	Ⅳ	長-〔178〕 幅-〔76〕	ナデ・ナデ	普通・試料1
143	2	77	平瓦（赤）	1区W	Ⅳ	長-〔150〕 幅-〔111〕	ナデ・ケズリ、ナデ	良好・試料2
143	3	77	平瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔100〕 幅-〔103〕	ナデ・ケズリ	不良・試料3
143	4	77	平瓦（黒）	1区W	Ⅳ	長-〔175〕 幅-〔104〕	ナデ・ナデ	普通・試料4
143	5	77	平瓦（赤か）	横前	窯跡表採	長-〔117〕 幅-〔168〕	ナデ・ナデ	良好・試料5
143	6	77	桟瓦（赤）	横前	窯跡表採	長-〔208〕 幅-〔100〕	ナデ・ナデ	良好・試料6
143	7	77	平瓦（赤）	横前	表採	長-〔213〕 幅-〔148〕	ナデ・ナデ	良好・鉄釉・試料7

表5　石製品観察表

図版番号	遺物番号	写真図版	器種	地区	出土地点・層位	計測値（mm） 長さ・直径	幅	暑さ	重量	石材	備考（RQ・加工・付着物等・時代）
134	2	78	砥石	1区E	SX225	〔39〕	〔39.5〕	5	15.5	泥岩	中央で折れる・江戸時代
134	3	78	砥石	1区W	SX260S	〔24〕	〔29〕	2	2.0	泥岩	一面のみ残る・江戸時代
134	4	78	砥石	3区E	SX67	〔96〕	46	5	41.5	泥岩	江戸時代？
134	5	78	砥石	3区W	SK81F	〔64〕	45	11	52.5	凝灰岩	両端を欠く・江戸時代
134	6	78	砥石	3区E	SX100F2-1726	〔58〕	39	10	29.5	不明	両端を欠く・江戸時代
134	7	78	砥石	3区E	SX100F	〔86〕	55	44	369.5	凝灰岩	江戸時代
134	8	78	砥石	3区W	Ⅳ① 1918	〔45〕	21	4	7.0	泥岩	両端を欠・江戸時代
134	9	78	砥石	3区W	Ⅳ 2018	〔42〕	〔43〕	8	19.0	泥岩	大部分が欠ける・江戸時代
134	10	78	硯	3区W	SX100F-1727	〔74〕	〔64〕	18	49.5	泥岩	裏面に刻書・表と側面に墨付着・江戸時代
134	11	78	硯？	1区W	1トレ 2421 Ⅳ	〔41〕	61	3	16.0	粘板岩	中央から欠ける・江戸時代
134	12	78	硯	1区W	SX260N	〔128〕	48	8	99.5	泥岩	江戸時代
134	13	78	硯	3区W	SB5EP57	〔93〕	62	7	83.0	不明	墨の付着あり・江戸時代
135	1	78	碁石	1区W	SX200-2425	22		4	3.0	頁岩	裏面の縁を欠く・江戸時代
135	2	78	碁石	2区	Ⅱ	21		4	3.0	頁岩	江戸時代？
135	3	78	碁石	3区	SB4EP46	22		5	4.0	頁岩	江戸時代？
135	4	78	碁石	3区W	Ⅳ① 1918	22		5	3.0	頁岩	裏面に欠けあり・江戸時代
135	5	78	石鉢	3区E	SX75F1-1624	口 (214)	底（136）	71	909.0	凝灰質砂岩	江戸時代？
135	6	78	不明	3区E	SX75F①-1624	〔55〕	〔40〕	6	12.5	玄武岩か？	江戸時代？
135	7	78	石盤？	3区		〔51〕	〔57〕	4	15.5	粘板岩	大部分が欠ける・近代
135	8	78	石筆	3区W	Ⅲ 1918	25	5.5	5.5	1.5	方解石	近代
135	9	78	不明	3区E	1728 撹乱	198	78	26	819.5	頁岩	機械の切断痕と推測・近代？

表6　金属製品観察表

図版番号	遺物番号	写真図版	器種	地区	出土地点・層位	計測値（mm） 長さ・直径	幅	厚さ	重量(g)	備考
135	10	79	釘	1区W	1トレンチ	〔50〕	12	6	5.0	鉄製品・先端を欠く
135	11	79	釘	1区W	Ⅳトレンチ周囲-2420	〔60〕	8.5	8	9.0	鉄製品・先端を欠く
135	12	79	釘	1区W	SX260F6-4 トレ拡	85	10	7	9.5	鉄製品・木質が付着
135	13	79	釘	3区W	Ⅳ 1522	66	14	8		鉄製品
135	14	79	釘	1区W	SX260	〔252〕	38	10	62.5	鉄製品
135	15	79	釘	3区W	Ⅳ② 2118	29	9	4	0.5	鉄製品
135	16	79	釘	3区E	SX75-1524	〔53〕	12	6	6.0	鉄製品・曲がる、先端を欠く
135	17	79	釘	3区E	SX75F-1624	〔36〕	8	6	3.0	鉄製品・曲がる、先端を欠く
135	18	79	釘	3区E	SX75F	〔68〕	22	9	15.0	鉄製品・先端を欠く
135	19	79	釘	3区E	SX100F1b	〔42〕	12	7.5	5.5	鉄製品・先端が摩滅
135	20	79	釘	3区E	SX100F1b	〔56〕	7	6	5.0	鉄製品・先端を欠く
135	21	79	釘	3区E	SX75F 下層	〔110〕	18	11	20.0	鉄製品・先端を欠く
136	1	79	釘	3区E	SX100F1b	45	10	5	2.0	鉄製品・少し曲がる
136	2	79	釘	3区E	SX100F1b	45	11	5	2.5	鉄製品
136	3	79	釘	3区E	SX100F1-1626	〔39〕	8	7	2.5	鉄製品・両端を欠く
136	4	79	釘	3区E	SX100F1-1626	〔68〕	14	13	14.5	鉄製品・先端を欠く
136	5	79	釘	3区E	SX100F2-1726	44	9	6	3.0	鉄製品
136	6	79	釘	3区E	SX100F2-1727	52	11	6	3.5	鉄製品
136	7	79	釘	3区E	SX100F2-1526	89	16	7	9.0	鉄製品

図版番号	遺物番号	写真図版	器種	地区	出土地点・層位	計測値（mm） 長さ・直径	幅	厚さ	重量（g）	備考
136	8	79	釘	3区E	SX100F3　1626	56	13	10	6.5	鉄製品
136	9	79	釘？	3区E	SX100F3　1626	33	25	7	8.0	鉄製品
136	10	79	釘	3区E	SK105F	〔48〕	13	7	3.5	鉄製品
136	11	79	釘	3区E	SX109-1529	71	12	8		鉄製品
136	12	79	釘	3区E	SK114F	52	9	9	6.0	鉄製品・曲がる
136	13	79	釘	3区W	SX120S	〔71〕	8	5	7.0	鉄製品・先端を欠く
136	14	79	釘	3区W	SX120S	〔60〕	8	7		鉄製品・両端を欠く
136	15	79	釘	3区E	SX110F-1429	〔73〕	14	12	14.5	鉄製品・先端を欠き曲がる
136	16	79	釘	3区E	SK115F	41	9	5	2.0	鉄製品・曲がる
136	17	79	釘	3区E	SX110F-1429	〔81〕	10	8	14.0	鉄製品・先端を欠く
136	18	79	釘	3区E	SK115F	〔113〕	12.5	10	25.0	鉄製品・両端を欠く
136	19	79	釘	3区W	SK117	〔72〕	20	9	14.0	鉄製品・曲がる
136	20	79	鋲	3区E	SX75F	16	12	2	2.0	銅製品
136	21	79	不明	3区E	SX100	80	57	13	46.0	鉄製品・S字状・RM126
136	22	79	鏃	1区W	3トレS　2771	58	173	14	193.5	鉄製品
137	1	80	金具	3区E	SX75F	62	〔97〕	10	55.5	鉄製品
137	2	80	銃の撃鉄	1区W	Ⅳ1トレ北隣	57	82	16	96.5	鉄製品
137	3	80	金具	3区E	Ⅳ 1525	〔83〕	22	4	29.5	鉄製品・一端を欠く
137	4	80	把手？	1区E	SX216	36	40	7		銅製品
137	5	80	容器	1区E	SX216F	〔28〕	〔100〕	1	18.5	銅製品
137	6	80	煙管	3区E	Ⅳ 1329	〔41〕	12	10	2.5	銅製品
	1	80	煙管	1区W	Ⅱ	29	8	9	2.5	銅製品
137	7	80	不明	1区E	SX200F1 ①	84	45	1.5	7.5	鉄製品・薄い環状
137	8	80	不明	1区W	Ⅳ 2420	44	30	8	17.5	鉄製品
137	9	80	不明	3区E	SX75 下	38	39	7	72.5	鉛製品・RM97
137	10	80	小柄	3区E	SX109-1529	〔116〕	15	5	15.0	鞘は銅製・先端が破損
137	11	80	不明	3区E	SK115	38	〔47〕	11	29.5	鉄製品
138	1	80	不明	3区W	SK117	〔32〕	〔45〕	9		鉄製品
138	2	80	鉄砲玉	1区W	SX260S	13			11.0	鉛製品
138	3	80	鉄砲玉	3区E	SX100F1-1526	13	14		10.0	鉛製品
138	4	80	鉄砲玉	3区E	SX100F1-1727	13	14		10.5	鉛製品
138	5	80	鉄砲玉	3区E	SX100F2-1727	14	12		9.5	鉛製品・RM115
138	6	80	鉄砲玉	3区E	SX100F2	13	13		11.0	鉛製品・RM96
138	7	80	銭貨	1区E	SX200F ②	23		0.6	2.5	銅製品・RM35・寛永通宝一文銭
138	8	80	銭貨	1区W	1トレ北隣 2421	23.5		1.6	3.0	銅製品・寛永通宝一文銭
138	9	80	銭貨	1区W	1トレ	9.0	5.5		4.5	金製品・元禄一分金・RM31
138	10	80	銭貨	1区W	1トレ	17.5		1.5	1.0	アルミ製・RM30・一銭、昭和十五年
	2	80	銭貨	3区W	2018 Ⅳ②	20.5		0.9	1.0	銅製品・寛永通宝一文銭・腐食
	3	80	銭貨	3区E	Ⅳ 1623	24.0		1.5	2.0	鉄製品・寛永通宝一文銭
	4	80	銭貨	1区E	SX225	〔19.5〕		0.6	0.5	銅製品・寛永通宝一文銭

表7　木製品観察表

図版番号	遺物番号	写真図版	器種	地区	遺構	計測値（mm）	備考
138	11	80	柱材（角材）	3区W	SX260N	長〔544〕・幅〔137〕・厚〔60〕	外面が炭化する
138	12	80	杭	1区W	SX260S	長〔362〕・幅〔30〕・厚〔25〕	全体が腐食

表8　ガラス製品観察表

図版番号	遺物番号	写真図版	器種	地区	遺構	計測値（mm）	備考
	5	80	インク瓶	1区	表土	長55・幅43.5・高38	近現代
	6	80	薬瓶	3区E	SD66F	口15・底20・高55	近現代

Ⅳ　理化学分析

1　新庄城二の丸跡出土遺物の自然化学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

新庄城二の丸跡（山形県新庄市堀端町 4 番地）は、新庄盆地の中央部、泉田川扇状地から連続する地形面のうち開析が進み段丘化した段丘（新庄段丘；米地 ,1980）に立地する。新庄城は、新庄藩の初代藩主の戸沢政盛により築城され、寛永 2 年（1625 年）に完成されたとされている。

新庄跡二の丸跡の発掘調査では、新庄城廃城後の明治時代以降の整地面（近現代の遺構面）、戊辰戦争時の火災にあった幕末の遺構面、新庄城築城後に二の丸が整備された面の計 3 面の遺構面が確認されている。

本分析では、新庄城から出土した瓦と新庄城の瓦が製作されたとされている新庄市横前から出土した瓦について、その材質（胎土）を分析および比較検討することにより、当時の瓦の生産に係る資料を作成する。また、戊辰戦争によって焼失した米蔵に由来する炭化材などを対象に樹種同定を実施し、建築材等の木材利用に関わる資料を作成する。

1　胎土分析

（1）試料

試料は、新庄城二の丸跡から出土した瓦 4 点（試料番号 1 ～ 4)と新庄市横前の瓦窯から出土した瓦 2 点(試料番号 5・6）および同横前から出土した瓦 1 点の計 7 点（試料番号 7）である。なお、新庄城二の丸跡の瓦試料は、試料番号 1・2 が赤瓦、試料番号 3・4 が黒瓦である。また、新庄市横前の瓦試料は、試料番号 5・6 が素焼の瓦であり、試料番号 7 は施釉された赤瓦であり、いずれも近代の所産とされている。分析に供された瓦試料の詳細を表 9 に示す。

（2）分析方法

リガク製波長分散型蛍光Ｘ線分析装置（ZSX Primus Ⅲ +）を用い、ガラスビード法により分析を実施した。測定用のプログラムは、定量アプリケーションプログラムの FP 定量法を使用し、SiO_2,TiO_2,Al_2O_3,Fe_2O_3,MnO,MgO,CaO,Na_2O,K_2O,P_2O_5 の主要 10 元素および Rb,Sr,Y,Zr,Ba の微量 5 元素について定量分析を実施した。なお、標準試料には独立行政法人産業技術総合研究所の地球化学標準試料（JA-1,JA-2,JA-3,JB-1a,JB-2,JB-3,JCh-1,JF-1,JF-2,JG-1a,JG-2,JG-3,JGb-1,JGb-2,JH-1,JLk-1,JR-1,JR-2,JR-3,JSd-1,JSd-2,JSd-3,JSl-1,JSl-2,JSy-1）を用いた。

(a) 装置

（株）リガク製 走査型蛍光Ｘ線分析装置 ZSX Primus Ⅲ +（FP 定量法アプリケーション）

(b) 試料作成

機械乾燥（110℃）した試料を、振動ミル（CMT 製 TI-100;10ml 容タングステンカーバイト容器）で粉砕・混合し、ガラスビードを表 10 の条件で作製した。

(c) 測定条件

上記作製したガラスビードを専用ホルダーにセットし、走査型蛍光Ｘ線分析装置（(株）リガク製 ZSX Primus Ⅲ +)を用い、表 11・12 の条件で測定を実施した。

（3）結果

結果を表 13 に示す。ここでは試料間の組成を比較する方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した（第 141・142 図)。

(1) 化学組成中で最も主要な元素である SiO_2 と $Al2O_3$ をそれぞれ横軸と縦軸とする。

(2) 粘土の母材を考える上で長石類（主にカリ長石、斜長石）の種類構成は重要である。このことから、指標

表 9　胎土分析試料一覧

試料番号	試料	採取場所	備考
1	赤瓦	1 区西Ⅳ層	江戸時代・焼成軟質
2	赤瓦	1 区西Ⅳ層	江戸時代・焼成堅固
3	黒瓦	1 区西Ⅳ層	江戸時代・焼成軟質
4	黒瓦	1 区西Ⅳ層	江戸時代・焼成軟質
5	瓦 (素焼)	新庄市横前の瓦窯	近代
6	瓦 (素焼)	新庄市横前の瓦窯	近代
7	瓦 (施釉)	新庄市横前出土	近代

表 10　ガラスビード作成条件

溶融装置	リガク製卓上型高周波ビードサンプラ (3091A001)
融剤及び希釈率	融剤 ($Li_2B_4O_7$)5.000g: 試料 0.500g
剥離剤	LiI
溶融温度 , 時間	1200℃ ,600sec

表 11　蛍光 X 線装置条件

ターゲット	Rh
管電圧 (kV)	50
管電流 (mA)	50
試料マスク	30mm φ
試料スピン	ON
ダイアフラム	30mm φ
測定雰囲気	真空

表 12　蛍光 X 線定量測定条件

測定元素	測定スペクトル	1 次フィルタ	アッテネータ	スリット	分光結晶	検出器	PHA		角度（deg）			計測時間（S）	
							LL	UL	Peak	＋ BG	－ BG	Peak	BG
SiO_2	Si-K α	OUT	OUT	S4	PET	PC	120	300	109.030	105.00	113.00	40	20
TiO_2	Ti-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	80	340	86.140	84.50	88.50	60	60
Al_2O_3	Al-K α	OUT	OUT	S4	PET	PC	110	300	144.770	138.00	-	40	20
Fe_2O_3	Fe-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	90	320	57.494	55.50	60.00	40	20
MnO	Mn-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	90	20	62.966	62.00	63.68	60	20
MgO	Mg-K α	OUT	OUT	S4	RX25	PC	110	420	39.596	37.00-37.50 (0.10step)	41.50-42.50 (0.20step)	60	20
CaO	Ca-K α	OUT	OUT	S4	LIF(200)	PC	120	290	113.124	110.20	115.90	40	20
Na_2O	Na-K α	OUT	OUT	S4	RX25	PC	120	300	48.134	45.90	50.30	60	20
K_2O	K-K α	OUT	OUT	S4	LIF(200)	PC	120	280	136.674	-	142.00	40	20
P_2O_5	P-K α	OUT	OUT	S4	GE	PC	150	270	141.096	138.10	143.20	60	20
Rb	Rb-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	300	26.598	25.60-25.80 (0.10step)	27.06-27.14 (0.04step)	120	40
Sr	Sr-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	300	25.134	24.40-24.70 (0.10step)	25.60-25.80 (0.10step)	120	40
Y	Y-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	300	23.758	23.04-23.16 (0.06step)	24.30-24.50 (0.10step)	120	40
Zr	Zr-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	310	22.536	22.16	23.04	120	60
Ba	Ba-L α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	290	87.164	84.50	88.50	120	60

表 13　蛍光 X 線分析結果（化学組成）

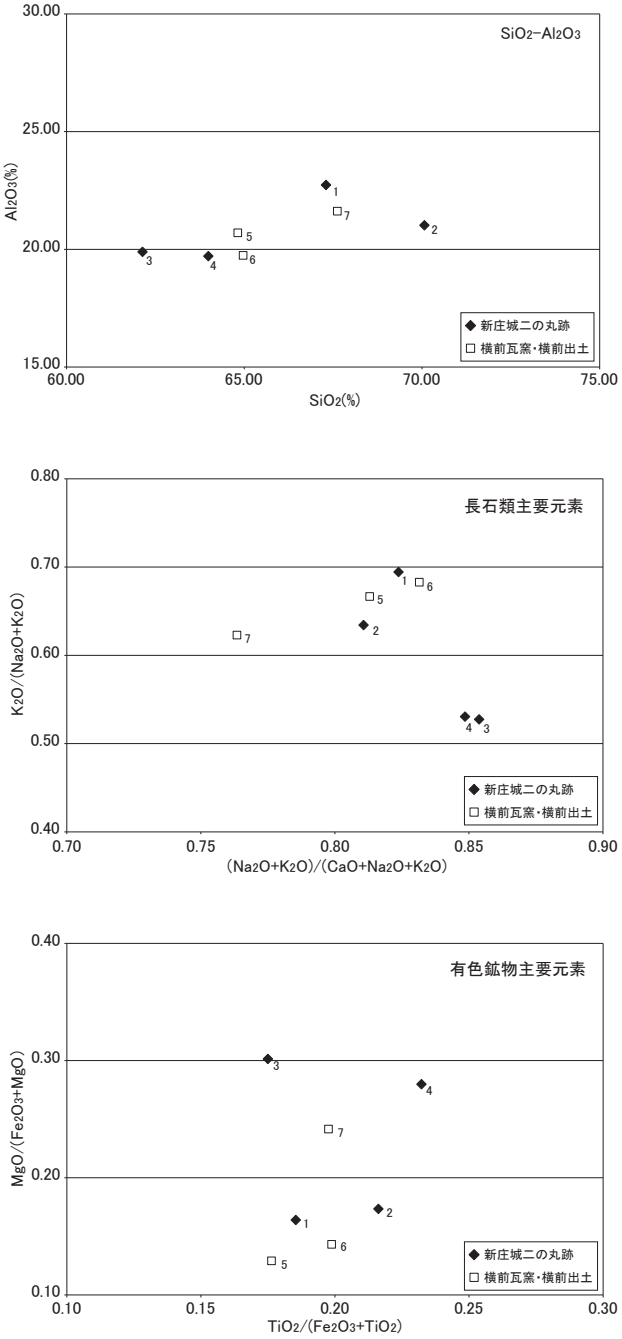
試料番号	試料	主要元素										微量元素					Total (%)
		SiO_2 (%)	TiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	MnO (%)	MgO (%)	CaO (%)	Na_2O (%)	K_2O (%)	P_2O_5 (%)	Rb (ppm)	Sr (ppm)	Y (ppm)	Zr (ppm)	Ba (ppm)	
1	赤瓦	67.30	0.94	22.73	4.13	0.02	0.81	0.49	0.70	1.59	0.06	88	61	26	225	384	98.85
2	赤瓦	70.07	0.96	21.02	3.48	0.03	0.73	0.60	0.94	1.63	0.03	81	70	26	231	378	99.57
3	黒瓦	62.14	0.91	19.89	4.29	0.05	1.85	0.75	2.07	2.31	0.17	95	94	26	190	509	94.52
4	黒瓦	63.99	0.95	19.71	3.14	0.03	1.22	0.73	1.92	2.17	0.53	86	89	22	198	491	94.48
5	瓦 (素焼)	64.82	0.91	20.70	4.25	0.02	0.63	0.49	0.71	1.42	0.03	92	54	20	217	354	94.05
6	瓦 (素焼)	64.97	0.95	19.74	3.83	0.02	0.64	0.46	0.72	1.55	0.03	102	61	21	224	358	92.99
7	瓦 (施釉)	67.62	0.99	21.62	4.02	0.04	1.28	0.92	1.12	1.85	0.04	93	92	24	209	478	99.59

として長石類の主要元素である CaO、Na_2O、K_2O の 3 者を選択し、長石類全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合（Na_2O ＋ K_2O）/（CaO ＋ Na_2O ＋ K_2O）を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合 K_2O/（Na_2O ＋ K_2O）を縦軸とする。

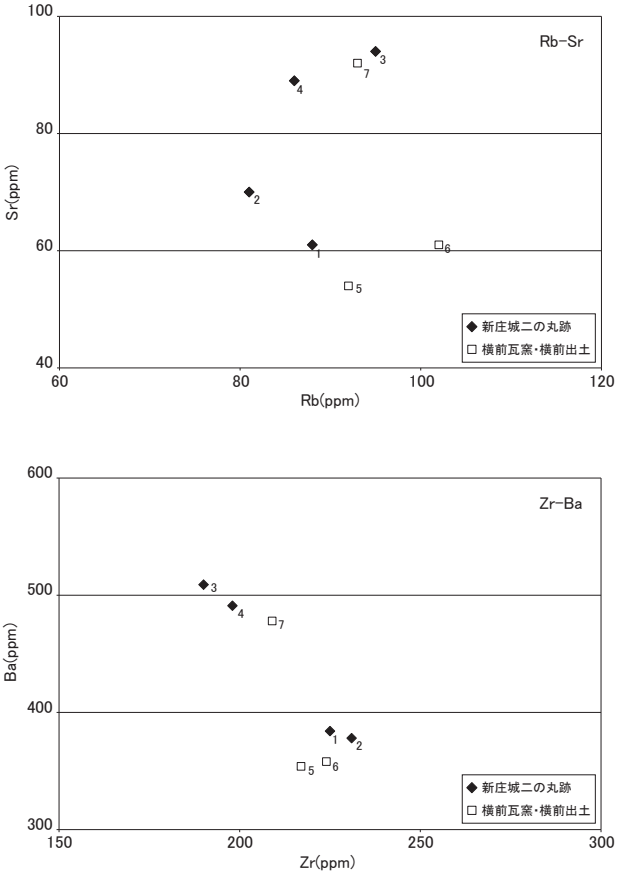
（3）輝石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素を選択する。ここでは、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、TiO_2、Fe_2O_3、MgO を選択し、Fe_2O_3 を分母とした TiO_2 の割合を横軸とし、Fe_2O_3 を分母とした MgO の割合を縦軸とする。

（4）各微量元素を選択する。組み合わせは、Rb-Sr と Zr-Ba とする。特に Rb と Sr は粘土の地域差を示す微量元素であると指摘されている（三辻 ,2013）。

5 つの散布図を概観すると、新庄城二の丸跡出土の瓦 4 点（試料番号 1 ～ 4）は、いずれの図においても試料番号 1・2 は近い位置にあり、これらとは離れた位置に試料番号 3・4 があり、試料番号 3・4 は互いに近い位置にある。横前瓦窯および横前出土の瓦 3 点（試料番号 5 ～ 7）については、試料番号 5・6 は、SiO_2-Al_2O_3 以外の 4 つの散布図において試料番号 1・2 に近い位置にあり、試料番号 7 は SiO_2-Al_2O_3 と長石類主要元素以外の 3 つの散布図において試料番号 3・4 に近い位置にある。



第 141 図　胎土化学組成散布図（1）



第 142 図　胎土化学組成散布図（2）

（4）考察

新庄城二の丸跡から出土した瓦のうち、試料番号 1・2 は赤瓦であり、試料番号 3・4 は黒瓦である。結果の項で述べたように、化学組成散布図上では赤瓦と黒瓦との間で有意な化学組成の違いが窺える。おそらく、赤瓦と黒瓦との間では、異なる素地土が使用されていた可能性が高いと考えられる。現時点では、「異なる素地土」が、材料となった砂や粘土の調整の違いに由来するのか砂や粘土の採取場所が異なるのかあるいは両者の複合かは不明である。

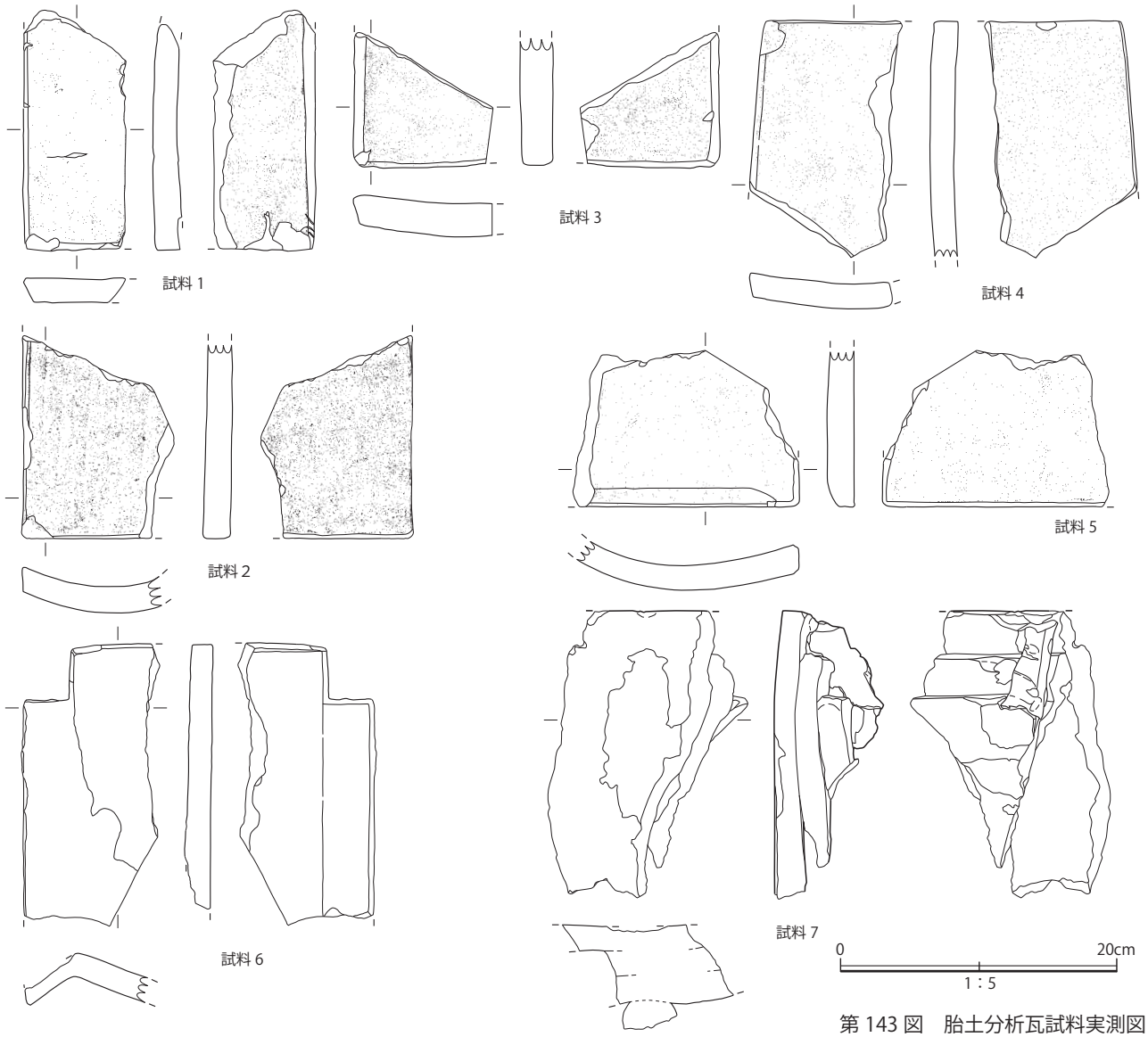
また、今回の分析結果からは、赤瓦の胎土と横前瓦窯出土瓦の胎土との間に近似性が窺える。赤瓦は近代まで続く横前の瓦窯で製作されていた可能性があると考えられる。一方、黒瓦の胎土については、横前の瓦窯出土品との間に有意な違いが認められた。横前出土とされた試料番号 7 の出土状況は不明であるが、横前にも複数の瓦窯があり、窯ごとに異なる土で瓦が作られていた可能性がある。今後、横前地域の瓦窯跡出土試料の分析事例を蓄積して比較検討する必要があると考えられる。

（斉藤紀行・矢作健二）

2　樹種同定

（1）試料

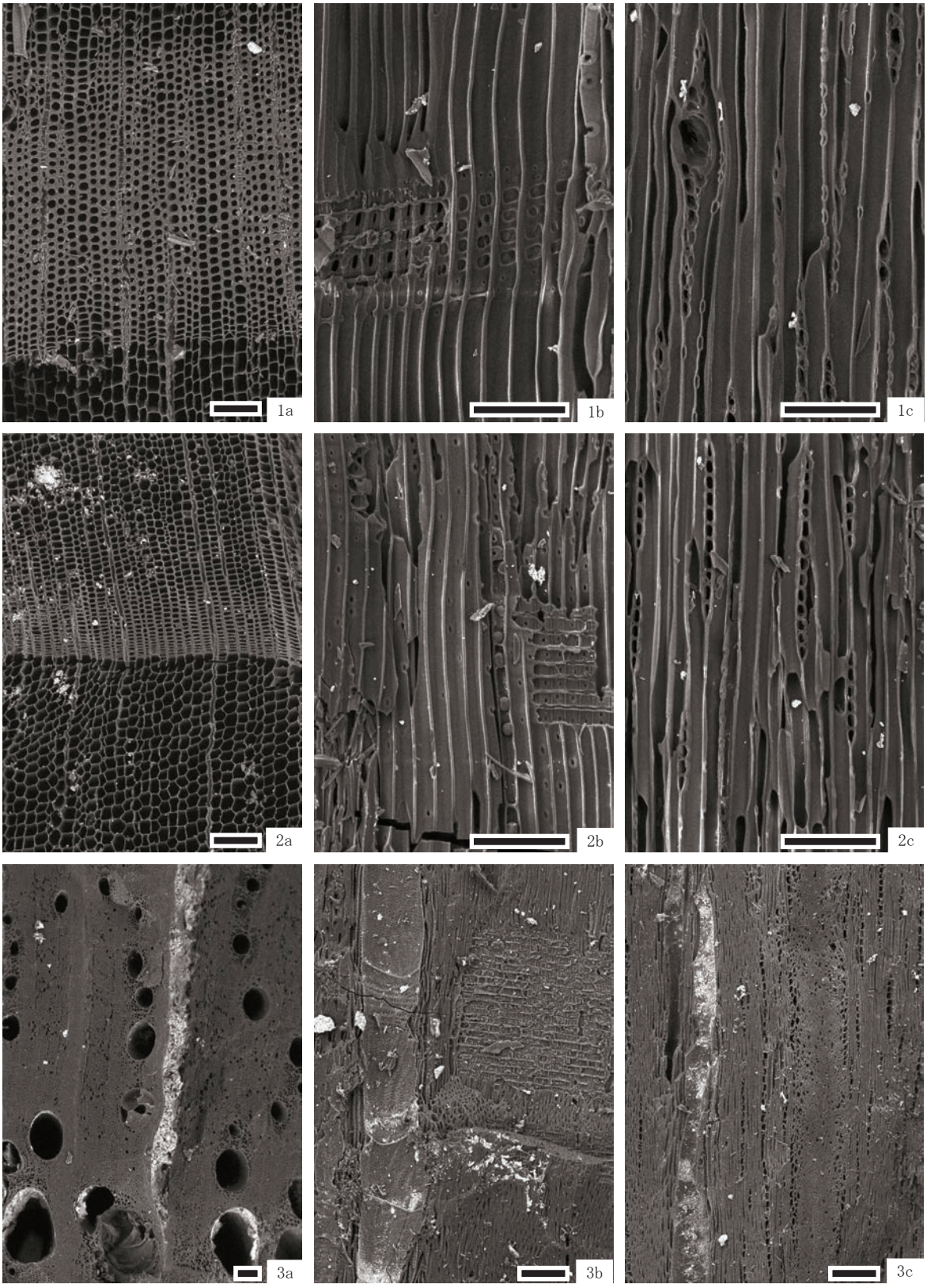
試料は、新庄城二ノ丸跡から出土した炭化材 15 点、および木製品 2 点である。なお、ムシロ状に検出された炭化植物遺体（試料番号 17）は、試料観察時に中空円筒状を呈するもの、小径木様を呈するもの、さらに中空円筒状の植物遺体に由来すると思われる薄板状を呈するものなどが確認された。そのため、a ～ d の仮名を付して、それぞれを分析対象としている。試料の詳細（採



第 143 図　胎土分析瓦試料実測図

表 14　樹種同定結果

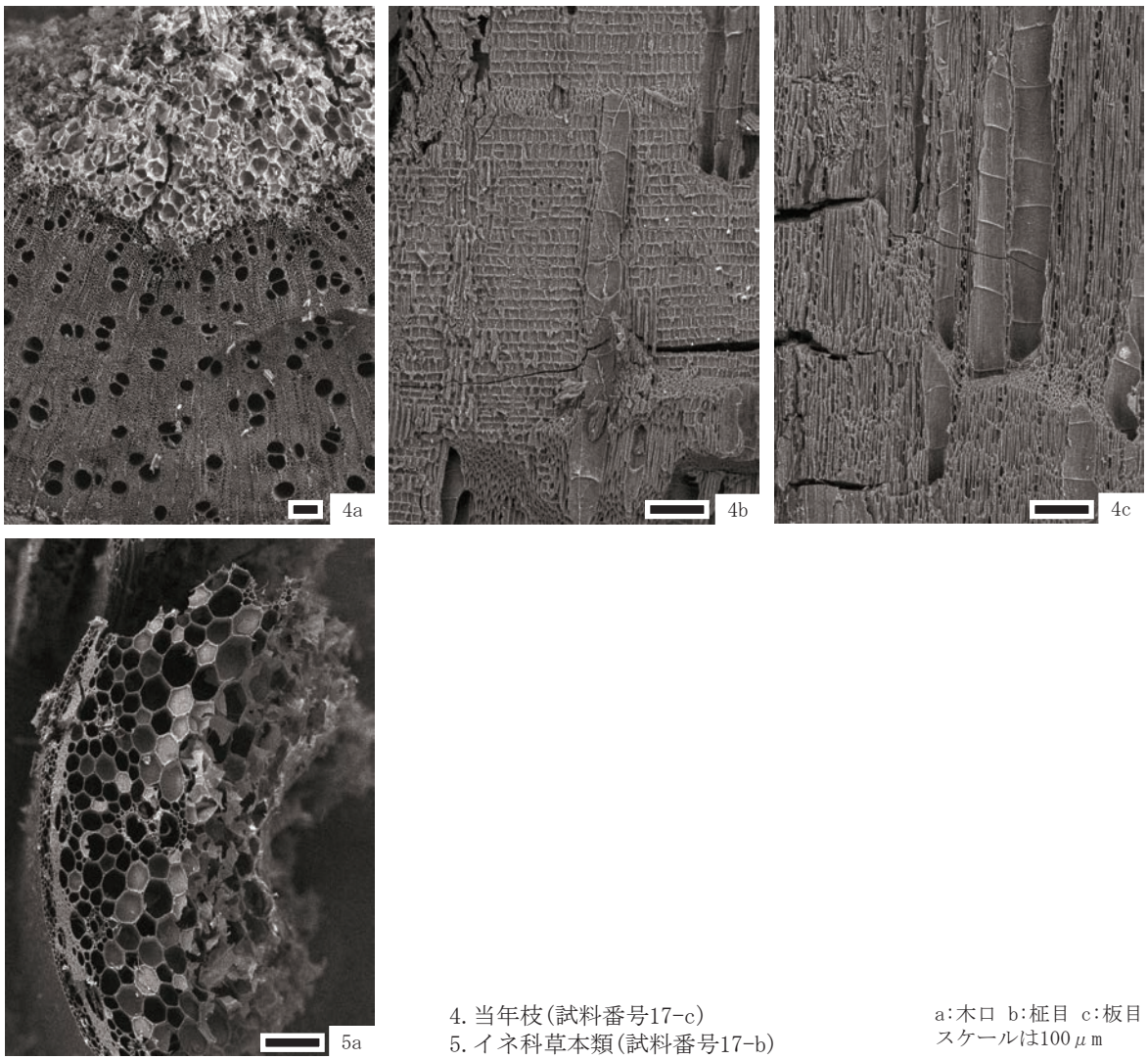
試料番号	採取場所			性状	木取り	備考	樹種
	区・面	Gr・遺構	地点・層位等				
8	1 区 2 面	2622 グリッド	RW22	炭化材	破片 (板目状)		スギ
9	1 区 2 面	2622 グリッド	RW23	炭化材	破片 (板目状)		スギ
10	1 区 2 面	2622 グリッド	RW24	炭化材	破片 (板目状)		スギ
11	1 区 2 面	2622 グリッド	RW19	炭化材	破片 (板目～追柾)		スギ
12	1 区 2 面	2622 グリッド	RW20	炭化材	破片 (追柾状)		スギ
13	1 区 2 面	2622 グリッド	RW21	炭化材	破片 (角材状)		スギ
14	1 区 2 面	2622 グリッド	RW16	炭化材	破片 (板目状)		スギ
15	1 区 2 面	2622 グリッド	RW17	炭化材	破片 (板目状)		スギ
16	1 区 2 面	2622 グリッド	RW18	炭化材	小片		スギ
17-a	3 区	SX84 焼土遺構		炭化した植物	小径木 (φ 2mm)	ムシロ状に検出	当年枝
17-b	3 区	SX84 焼土遺構		炭化した植物	稈 (中空円筒状)		イネ科 (草本類)
17-c	3 区	SX84 焼土遺構		炭化した植物	小径木 (φ 5mm)		当年枝
17-d	3 区	SX84 焼土遺構		炭化した植物	薄板状		イネ科 (草本類)
18	3 区	1727 グリッド	Ⅲ層下	炭化材	破片 (追柾状)	幕末焼土面で一括出土	スギ
19	3 区	SK117 土坑		炭化材	破片 (ミカン割状)		コナラ属コナラ亜属クヌギ節
20	1 区	SX225-2228G		炭化材	破片 (半裁状)		マツ属複維管束亜属
21	3 区	SX119 土坑		炭化材	破片 (板目状)		マツ属複維管束亜属
22	1 区	SX260	整地層北側	炭化材	破片 (柾目状)	炭化した部分を採取	スギ
23	1 区	SX260	整地層北側	生材 (板材)	小片		スギ
24	1 区	SX260	整地層南側	生材 (杭)	小片		クリ



1. マツ属複維管束亜属(試料番号20)
2. スギ(試料番号8)
3. クヌギ節(試料番号19)

a:木口 b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第144図　炭化材（1）



4. 当年枝(試料番号17-c)
5. イネ科草本類(試料番号17-b)

a:木口 b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第 145 図　炭化材（2）

取場所、備考、観察所見など）は結果とともに表 14 に示したので参照されたい。

（2）分析方法

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の切片を作製する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は、試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995・1996・1997・1998・1999）を参考にする。

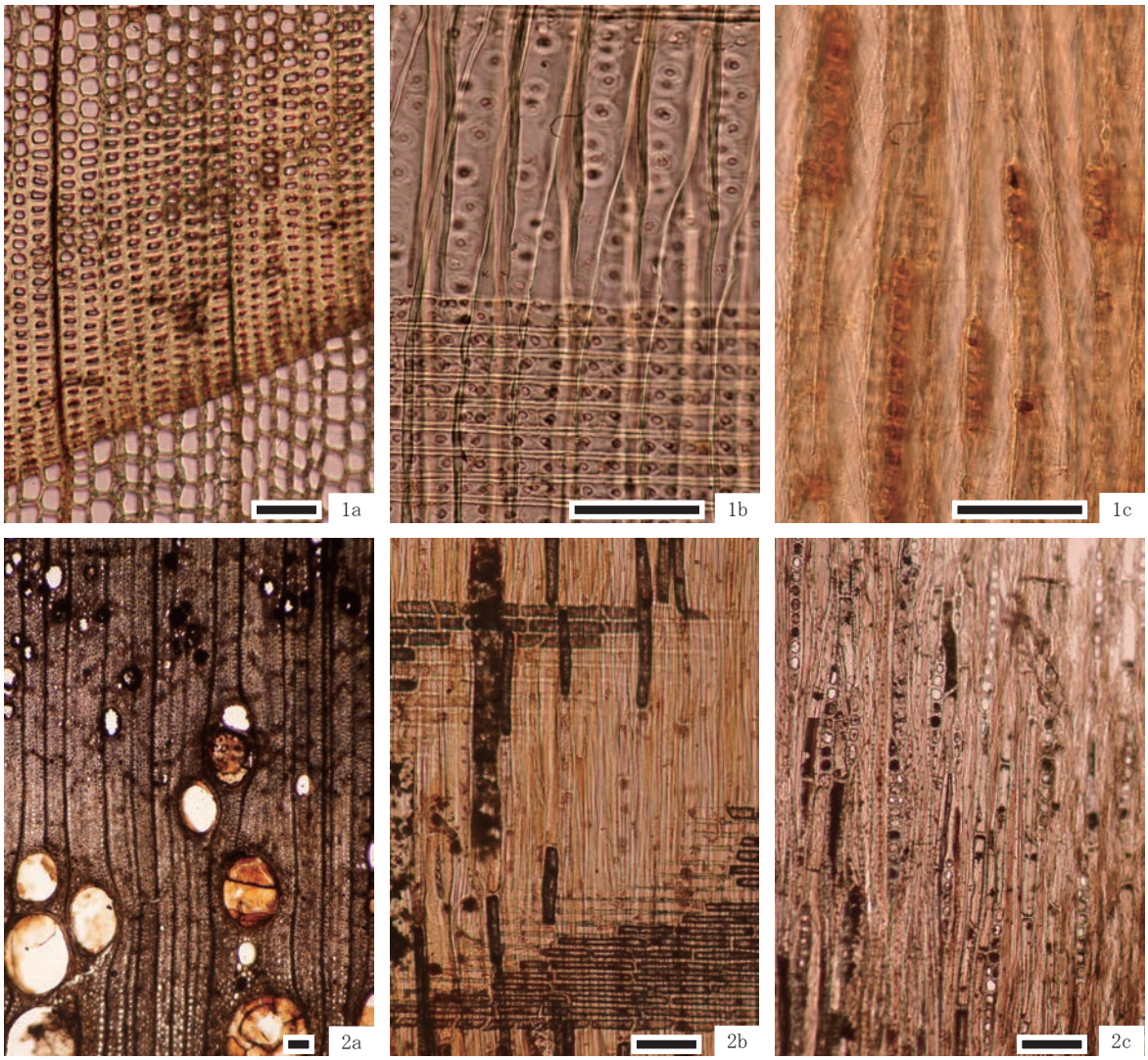
（3）結果

結果を表 14 に示す。生材および炭化材からは針葉樹 2 種類（マツ属複維管束亜属、スギ）、広葉樹 2 種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節、クリ）、イネ科草本類が確認された。この他、種類不明の当年枝が含まれる。以下に検出された種類（分類群）の解剖学的特徴を述べる。

・マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　マツ科

軸方向組織をみると、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道と、樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don）　スギ



1. スギ（試料番号23）
2. クリ（試料番号24）

a：木口 b：柾目 c：板目
スケールは100μm

第 146 図　炭化材（3）

科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1 ～ 3 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ～ 20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

・イネ科草本類（Gramineae grass）

試料は、厚密を受けて潰れている。横断面では、2 対 4 個の道管の外側に師部細胞があり、これらを繊維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成する。繊維細胞がタケ類に比べると薄いので、草本類と思われる。維管束は組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

（4）考察

生材および炭化材の樹種同定の結果、針葉樹 2 種類（マツ属複維管束亜属、スギ）、広葉樹 2 種類（クヌギ節、クリ）、イネ科（草本類）が検出された。

確認された種類のうち、マツ属複維管束亜属は、生育範囲が広く、人里近くや、広葉樹の生育に不適な尾根筋や湿地周辺などに生育する。スギは多湿な場所を好み、主に谷沿いや湧水池周辺などに生育する。クヌギ節やクリは人里近くに生育し、里山林を構成する一種である。また、木材の材質についてみると、マツ属複維管束亜属は重硬で強度があり、強靭である。水湿に強く、保存性も良い。スギは、樹木は高い巨木になり、太くまっすぐな材を得やすい。また、水湿に強く、軽軟で加工がし易い。いずれも建築材や土木材をはじめとして、様々な用途で利用される。クヌギ節は重硬、強靭で、保存性も高く、クリは重硬で強度と耐久性が高く水湿に強い。これらの木材も建築材や土木材をはじめとする用途に利用が認められる。

米蔵に由来すると考えられる炭化材（試料番号８～16）は、すべてスギであった。試料は板状を呈する破片が主体を占めるが、試料番号 13 は角材状を呈するものが含まれる。分析結果から、スギを主体とする木材利用が窺える。また、幕末の焼土面（3 区 1727 グリッドⅢ層下）より出土した炭化材（試料番号 18）、3 面より検出された SX260 から出土した炭化材（試料番号 22）や板材（試料番号 23）などもスギであった。試料番号 18・22 は詳細な用途の推定には至らないが、板材（試料番号 23）は割裂性の高いスギの利用が考えられる。

3 区 SX84 焼土遺構からムシロ状に検出された炭化植物遺体（試料番号 17）は、出土状況からは編組の痕跡は見出せなかったが、イネ科草本類および当年枝から構成されることが確認された。イネ科（草本類）は、稲藁や茅などの可能性があるが、これらは古くから様々な資材として利用されている。

焼土遺構（3 区 SK117 土坑）から出土した炭化材はクヌギ節（試料番号 19）、焼土遺構（1 区 SX225-2228G）から出土した炭化材（試料番号 20）および 3 区 SX119 土坑から出土した炭化材（試料番号 21）はマツ属複維管束亜属、1 区 SX260 整地層南側から出土した杭（試料番号 24）はクリであった。試料番号 19～21 は、試料の形状等からは用途の推定には至らないが、スギ以外の木材利用があったことが指摘できる。杭（試料番号 24）はクリであった。クリは木材の材質的特徴から杭として適材と考えられ、選択利用された可能性がある。

（東澤　翔・田中義文）

引用文献

Bronk Ramsey, C.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林謙一　2009「近畿地方以東の地域への拡散」『西本豊弘編　新弥生時代のはじまり　第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代』p.55～p.82　雄山閣

小林謙一　2017『縄文時代の実年代　―土器型式編年と炭素 14 年代―』同成社

小林達雄編　2008『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

Reimer, P.J. et al.　2020　The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), Radiocarbon 62(4),725-757

Stuiver, M. and Polach, H.A.　1977　Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

林　昭三　1991『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1995　日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編）,2012, 木の考古学　出土木製品用材データベース . 海青社 ,449p.

三辻利一 ,2013, 新しい土器の考古学 . 同成社 ,219p.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H. G.,Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E., 2004, IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E., 1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

米地文夫 ,1980, Ⅱ 地形分類 . 土地分類基本調査　新庄　5 万分の 1　国土調査 , 山形県 ,15-25.

2　新庄城二の丸跡発掘調査出土イネの出土状況と粒形質分析

上條信彦（弘前大学人文社会科学部）

1　分析の目的と対象資料

新庄城二の丸跡発掘調査においては、大量の炭化米を含む層が広範囲にわたって検出された。これらの炭化米は、戊辰戦争の際、米蔵とともに焼失したものと推定される。新庄城の炭化米については、かつて、『日本の古代米』（1971 年）を執筆された佐藤敏也氏により、新庄市新城北高校が昭和 32 年に発掘したものの一部が調査され、その資料について筆者らは『日本の出土米Ⅲ』（2018 年）で再分析した（小泉・田中ほか 2018）。

焼失年代が明らかであり、近代にも継続するイネの状態や形質を明らかにすることで、火災直前までの貯穀状態を解明する手がかりとなる可能性がある。詳細観察に際しては、ふるい分けによるイネの分類観察に加え、土壌剥ぎ取り法を適用し、その有効性を検証するとともに、埋没状況に基づく炭化米の形成過程についても考察を加える。

2　分析方法

対象は剥ぎ取り資料と炭化米塊、炭化米粒である。炭化米塊と炭化米粒は 16 地点 24 点分ある（表 15）。このうち、塊のみの詳細観察 4 点、粒形質分析（フルイ掛け後）10 点、塊の詳細観察と粒形質分析双方 10 点を実施した。なお、資料番号は調査時の遺物番号を用いる。

（1）剥ぎ取り資料の詳細観察

剥ぎ取り調査は、2023 年 10 月 13 日に炭化米の密度が特に高い調査区において実施した（第 147 図参照）。具体的には、調査区 1719 西壁（剥ぎ取り№ 1・2）および調査区 1619 南壁（剥ぎ取り№ 3）、調査区北壁（剥ぎ取り№ 4）の 4 箇所を対象とし、いずれも幅 50cm、高さ 30cm の範囲にわたって行った。剥ぎ取りには、三恒商事製の土層転写セットを使用した。作業手順は以下のとおりである。

① 対象土層の表面をできる限り平滑にクリーニングする。
② 接着剤（トマック NS-10）を土層表面に塗布する。
③ 寒冷紗を用いて裏打ちを施したのち、再度接着剤を塗布して補強する。
④ 完全に乾燥させた後、土層を丁寧に剥ぎ取る。
⑤ 転写面を水で洗浄し、再度乾燥させる。
⑥ 研究室に搬入後、転写面にアクリル樹脂を塗布して表面を強化する。
⑦ 最終的に、展示・保管用として既製の浅型平箱（いわゆる番重）に貼り付けて保存する。

4 ヶ所のうち、調査区 1719 西壁（剥ぎ取り№ 1）以外は、展示・保管用として調査地に隣接する新庄市歴史民俗資料館、および山形県埋蔵文化財センターに寄贈した。観察に際しては、デジタル一眼レフカメラ（Canon EOS R8）にマクロレンズを装着し、総合倍率 1 ～ 10 倍の範囲で撮影・観察を行った。

（2）炭化米塊詳細観察

11 地点 13 点ある。剥ぎ取り資料と同じく、デジタル一眼レフカメラ（Canon EOS R8）にマクロレンズを装着し、総合倍率 1 ～ 10 倍の範囲で撮影・観察を行った。

（3）粒形質分析

本研究で分析対象とした出土イネ試料は、撹乱のない明瞭な出土状況が確認された 14 地点 19 点、総計 985 粒を用いた（表 19 ～ 28）。出土試料は、ふるい分けさ



西壁（剥ぎ取り№1）表面クリーニング後　寒冷紗で裏打ち後、接着剤塗布による強化　剥ぎ取り直後

第 147 図　含炭化米層の剥ぎ取り

表 15　観察資料と分析結果

試料番号	採取地点	状態	粒計測	籾有無	混入物	種子長 平均値(mm)	種子長 SD	種子長 CV	種子幅 平均値(mm)	種子幅 SD	種子幅 CV	相関係数	粒形（長幅比） 中円粒	長円粒	短短粒	中短粒	長短粒	短長粒	中長粒	長長粒	平均値	SD	CV	粒大（長幅積） 極小	小	中	大	平均値	SD	CV	分類
1	3区 SK86-F	塊（土壌＋胚乳）	○	○	焼土粒	4.29	0.45	0.10	2.45	0.32	0.13	0.27	0	1	13	14	11	10	1	0	1.78	0.27	0.15	5	35	10	0	10.55	2.02	0.19	A
2	3区 SP98	塊（籾）	○	○		4.36	0.32	0.07	2.32	0.24	0.10	0.25	0	0	3	13	21	12	1	0	1.90	0.22	0.11	3	44	3	0	10.12	1.40	0.14	A
3	3区 SK81-F	塊（土壌＋胚乳）	○	○	木炭（小片）・焼土粒	4.37	0.36	0.08	2.72	0.30	0.11	0.36	1	3	17	19	8	1	0	0	1.62	0.18	0.11	1	23	25	0	11.93	1.85	0.16	B
4	3区 SP71	フルイ掛け（5㎜）	○	○		4.62	0.40	0.09	2.76	0.30	0.11	0.52	0	2	14	24	7	2	0	0	1.68	0.17	0.10	2	17	26	4	12.81	2.14	0.17	B
5	3区 SP72	塊（土壌＋胚乳）	○	○	木炭（小片）・焼土粒	4.41	0.43	0.10	2.69	0.30	0.11	0.66	0	2	17	26	5	1	0	0	1.65	0.14	0.08	2	27	20	2	11.94	2.19	0.18	B
7	1区 SX225 2128	小塊（籾）	―		木炭（丸材）																										
8	1区 SX225 2229	フルイ掛け（5㎜）	○	○		4.52	0.30	0.07	2.85	0.28	0.10	0.40	0	4	21	14	4	0	0	0	1.60	0.15	0.09	0	14	26	3	12.91	1.79	0.14	C
10	1区 SX225 2129	フルイ掛け（5㎜）	○	○		4.48	0.34	0.08	2.86	0.30	0.10	0.36	0	6	24	12	6	0	0	0	1.58	0.17	0.11	0	12	34	2	12.84	1.96	0.15	C
11	1区 EP229-F	塊（土壌＋胚乳）	○	○	木炭（小片）・焼土粒	4.31	0.39	0.09	2.70	0.32	0.12	-0.09	0	0	20	27	3	0	0	0	1.62	0.18	0.11	1	29	21	0	11.61	1.60	0.14	B
12	SX119	塊（籾）	○	○	木炭（小片・板材）・焼土粒	4.43	0.37	0.08	2.68	0.26	0.10	0.45	0	3	16	26	5	2	0	0	1.66	0.16	0.10	1	28	23	0	11.90	1.79	0.15	B
17	1区 EP229	フルイ掛け（5㎜）、小塊	○	○		4.34	0.35	0.08	2.65	0.31	0.12	0.66	0	2	16	22	9	0	0	0	1.65	0.14	0.09	1	26	21	1	11.54	2.09	0.18	B
20	3区西 1917 Ⅳ層	塊（籾）	―																												
24	3区剥ぎ取り南西壁Ⅲ層	フルイ掛け（5㎜）、小塊	○	○		4.48	0.31	0.07	2.84	0.32	0.11	0.53	0	5	26	13	7	0	0	0	1.59	0.15	0.10	1	17	29	4	12.78	2.02	0.16	C
50	SX119	塊（籾）	―		木炭（小片）・焼土粒																										
51	1区 EP227	塊（土壌＋胚乳）	○	○	木炭（小片）・焼土粒	4.27	0.29	0.07	2.64	0.24	0.09	0.38	0	4	17	25	6	1	0	0	1.63	0.15	0.09	0	34	19	0	11.30	1.47	0.13	B
52	1区 SX225 2228	フルイ掛け（5㎜）	○	○		4.43	0.31	0.07	2.88	0.27	0.09	0.40	0	8	26	12	4	0	0	0	1.55	0.14	0.09	0	20	30	0	12.81	1.77	0.14	C
53	1区 SX225 2128	フルイ掛け（3㎜）、小塊	○	○		4.46	0.32	0.07	2.85	0.32	0.11	0.34	1	7	22	12	6	2	0	0	1.58	0.18	0.12	0	19	27	4	12.74	1.97	0.15	C
54	1区 SX200 2325F②	フルイ掛け（3㎜）、小塊	○	○		4.36	0.41	0.09	2.76	0.31	0.11	0.75	0	4	24	23	2	0	0	0	1.59	0.12	0.08	2	21	28	2	12.13	2.30	0.19	B
55	1区 2325G Ⅱ	塊（土壌＋胚乳）	―																												
57	1区 2427G Ⅱ②	フルイ掛け（5㎜）	○	○		4.42	0.30	0.07	2.75	0.28	0.10	0.58	0	2	21	24	5	0	0	0	1.62	0.13	0.08	0	24	28	0	12.20	1.82	0.15	B
64	1区 2327G Ⅱ③	フルイ掛け（5㎜）	○	○		4.52	0.38	0.08	2.71	0.27	0.10	0.66	0	0	17	28	9	0	0	0	1.67	0.13	0.08	0	27	24	3	12.32	2.07	0.17	B
66	1区東 2228 Ⅲ層①	小塊（籾）	○	○	壁材	4.26	0.33	0.08	2.69	0.32	0.12	0.47	0	4	25	12	5	2	0	0	1.60	0.18	0.11	1	30	17	0	11.52	1.94	0.17	B
69	1区東 2129 Ⅲ層	小塊（籾）	○	○		4.41	0.35	0.08	2.77	0.32	0.12	0.38	0	7	16	18	7	1	0	0	1.61	0.18	0.11	1	24	23	1	12.24	2.00	0.16	B
75	1区東 2228 Ⅲ層	小塊（籾）	○	○		4.55	0.33	0.07	2.70	0.28	0.10	0.23	0	0	16	21	10	4	0	0	1.70	0.21	0.12	0	24	26	1	12.30	1.71	0.14	B

粒径：30%以上、粒大：40%以上

れたもの 10 点、塊からの遊離資料 10 点に分けられる。計測は籾殻（穎）が脱落した玄米または胚乳状態の試料 50 粒ほどを無作為抽出した。著しい焼損・変形・欠損を示す粒および粃は分析対象から除外した。各イネ種子には個別の番号を付与し、杉藤製 TS-XL-CZ2 マクロズームレンズシステム 02 を用いて倍率 0.8 ～ 6.4 倍で撮影を行った。

観察項目は炭化穀物の種類、穀粒の状態、ならびに付着物の状態である。種子の長さおよび幅の計測には、Image J 1.54k（National Institute of Mental Health, USA）を用いた。膨張部位や付着物が認められた場合には、それらを除外して計測を実施した。計測値に基づき、各粒の粒形（長幅比）および粒大（長幅積）を算出し、松本（1994）に準拠して種子分類を行った（表 16）。

各試料における粒形・粒大の平均値、標準偏差、ならびに集団間の有意差検定は Excel ソフトウェアを用いて実施した。また長さと幅の相関係数は、0.7 ～ 1：かなり強い相関、0.4 ～ 0.7：やや相関、0.2 ～ 0.4：弱い相関、0 ～ 0.2：ほとんど相関なしと判断した。また表記における SD は標準偏差、CV は変動係数である。また付着物がある場合はこの箇所を除いて計測した。粒形と粒大は、全体に占める割合が粒形 30%、粒大 40%以上であるものを主要タイプと定義した。ただし、このタイプ分類は形質の傾向を把握するためのものであり、各タイプが特定のイネ品種に直接対応するものではないことに留意する必要がある。

3　剥ぎ取りの観察結果〔調査区西壁（剥ぎ取り No.1）第 148 図〕

表 16　出土米の粒形と粒大の分類基準

粒形		長幅比
長粒	長	2.60 - 3.60
	中	2.30 - 2.60
	短	2.00 - 2.30
短粒	長	1.80 - 2.00
	中	1.60 - 1.80
	短	1.40 - 1.60
円粒	長	1.20 - 1.40
	中	1.00 - 1.20
	短	1.00 以下

粒大	長幅積
極大	20.00 以上
大	16.00 - 20.00
中	12.00 - 16.00
小	8.00 - 12.00
極小	8.00 以下

※松本（1994）の一部を改変した。

観察可能な範囲においては、イネ（*Oryza sativa*）のほか、木炭片、焼土粒が確認された。木炭および焼土はいずれも 3 cm 以下の小片が大半を占める。土質および遺物の混入状況に基づき、全体は a ～ d 層の 4 層に層別される（第 148 図①参照）。

a 層は厚さ約 15 cm を測り、全体の半分以上が土壌で構成されている。イネ種子のほか、木炭および焼土の混入が顕著である。第 148 図②に示されるように、土壌は d 層に比して砂分を多く含む。焼土は明黄色～赤褐色を呈し、内部に藁すさの痕跡が認められるものもあることから、本来は土壁の一部であった可能性が高い（第 148 図②右下）。当該層におけるイネ種子の配向は不定で、特定箇所に集中することなく、全体として均質に分散している様子が確認される。出土したイネ炭化粒は、b 層に比して籾殻が脱落したものが多く、半数以上は子葉を一部残した胚乳状態で、筋状構造が明瞭に残存している。また、変形粒・破片・発泡粒は少ない。イネ炭化粒は 5 × 5 cm の範囲に約 10 粒程度含まれる。

b 層は厚さ最大 8 cm で、部位によってはより薄い。a 層との層境は不明瞭であり、a 層に含まれるイネの一部は b 層に由来するとみられる（第 148 図①）。当該層はイネ種子のみから構成され、土壌、木炭、焼土等の混入は認められない。種子の配向は不定であるが、変形は見られず、全体に高密度で分布する。出土したイネ種子のほとんどは籾殻（内・外穎）に覆われた状態で、護穎、小穂軸、さらには小枝梗の一部も観察される（第 148 図、第 150 図）。一方で芒や枝梗は確認されず、いわゆる脱穀・籾押し（籾打）後の籾の状態であると考えられる。

籾同士は部分的に融着し、全てが炭化して黒色を呈するわけではなく、約 10 粒に 1 粒程度で茶褐色の変色を示すものも認められる。籾殻が割れた個体からは胚乳が露出し、胚乳は発泡せず、籾との間に空隙を残すため、容易に脱落する。胚乳内部には筋状構造が明瞭に残り、糠層によって光沢を帯びる例も観察された。イネ炭化粒は、3 × 3 cm の範囲に約 115 粒を含む。

c 層は b 層の直下に位置し、厚さ 6 ～ 10 mm である（第 148 図①）。明黄褐色の粘土質で構成され、d 層との層境は明瞭ではなく、連続的な色調変化を示すことから、d 層が被熱によって焼土化したものと推定される。礫や砂の混入は少なく、d 層と同様の土質であるが、c 層・



1．西壁（剥ぎ取りNo.1）



①埋没状態



②埋没状態（a 層）



③①拡大、出土イネの状態

第 148 図　剥ぎ取りの詳細写真

d 層いずれもイネ種子・木炭等の遺物を含まず、土蔵の整地層に該当するものと考えられる。

b 層以下に撹乱が見られないことから、c 層はイネが炭化する過程において形成されたと推定される。具体的には、貯穀されたイネが出火によって焼損し、地表に落下した際、周囲の粘土が 600℃前後に加熱されて赤変した段階で、炭化米が生成された可能性が高い。

4　炭化穀物塊の類型と特徴（第 149・150 図、表 15）

本調査で確認された炭化種子は、すべてイネ（*Oryza sativa*）である。観察の結果、形態的特徴および出土状況に基づき、以下の 2 類型に大別される。

塊 A 類：籾塊（6 地点 7 試料）

この類型には、試料 2・7・12・20・50・66・69 が該当し、剥ぎ取り調査で確認された b 層に類似する。ただし、木炭片や焼土粒（壁材由来と推定される）の混入が認められる場合もある。籾の配向は不定であるが、全体として密に分布し、著しい変形は認められない。籾同士が融着し、塊状を呈する例が多いが、試料 12（SX119）のように、籾間に空隙があり、かつ全体に土壌の付着が顕著であるため、籾同士が遊離しやすい例も存在する。

籾粒はほぼすべてが籾殻（穎）に覆われており、護穎や小穂軸、小枝梗の一部も観察される。芒や枝梗は確認されず、脱穀・籾押し（籾打）後の状態であると考えられる。籾殻が破損した個体からは胚乳が露出し、多くは原形を保ちつつ、籾殻との間に隙間を形成しており、内部から容易に脱落する。その胚乳には筋状構造が明瞭に残存し、表面には糠層が認められ、光沢を帯びる個体もある。一方で、試料 69（1 区東 2129 Ⅲ層）のように、胚乳が発泡し微細に破砕された結果、籾殻のみが蜂の巣状に残存する例も認められる。これはより強い被熱によるものと判断される。

塊 A 類には籾以外の付着物も観察される。たとえば試料 12（SX119）では、板材上に籾塊が付着しており、板材は厚さ約 1 cm、柾目の木材と推定される（第 150 図右上）。籾の配向は不定であるが、板表面に圧着する様子が確認される。また、試料 66（1 区東 2228 Ⅲ層）では、籾間に植物の茎とみられる繊維が挟在する（第 150 図左下）。当該茎はイネ科植物に由来するとみられ、径約 8 mm、表面に複数の縦筋を有する直線状の構造を呈している。同じ地点からは壁材とみられる焼土塊も出土しており、径約 3 cm、外面は黒変して面取りされ、内部は明黄褐色である。その内部には複数のイネ科植物の茎・葉痕が不定方向に分布し、粘土中に細かく混在することが観察された。これらは藁すさとして壁材に利用されたものであると判断される。

塊 B 類：土壌＋胚乳（6 地点 6 試料）

試料 1・3・5・11・51・55 が該当し、剥ぎ取りにより確認された a 層に類似する。土壌中にはイネ種子のほか、木炭片、焼土、礫などが混在しており、撹乱を受けた状態である。イネ種子の配向は不定であり、特定箇所に集中することなく、全体として均質に分散する傾向が認められる。当該層に含まれるイネ種子は、籾殻が脱落しているものが多く、半数以上が子葉の一部を残した胚乳状態で出土する。胚乳には筋状構造が明瞭に保持されており、保存状態は比較的良好である。

5　粒形質分析の結果（第 150 図、表 15・19 ～ 28）

表 15 に各試料の基本的な計測値を、第 150 図に代表的な籾および胚乳（玄米）の形態を示す。また、胚乳の計測値は表 19 ～ 28 に示した。

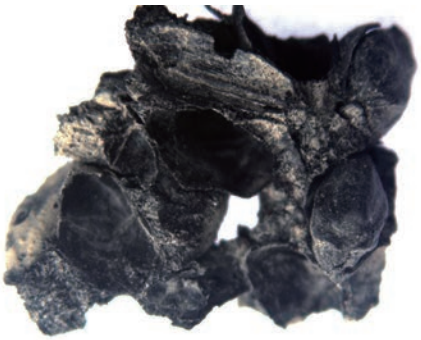
計測結果によれば、胚乳の平均長は 4.26 ～ 4.62 mm、平均幅は 2.32 ～ 2.88 mm の範囲にあり、長さと幅の相関係数は平均 0.44 であった。これは、全体として弱い正の相関、あるいはやや明瞭な相関が認められることを示す。粒形（長幅比）は 1.55 ～ 1.90 に分布し、全体の粒形の割合は、短短粒（1.3 未満）が 37％、中短粒（1.3 ～ 1.7 未満）が 38％、長短粒（1.7 以上）が 14％であった。

短短粒が全体の 4 割以上を占めるのは、試料 8・10・24・52・53・66 であり、これらは 1 区 SX225、1 区東 2228 Ⅲ層、3 区南西壁Ⅲ層に該当する。なかでも 1 区 SX225 は該当試料 6 点中 4 点を占めた。また、これらの一部にはより円形に近い中円粒が含まれる例も確認された。

中短粒が 4 割以上を占めるのは、試料 4・5・11・12・17・51・75 であり、それぞれ 1 区 EP229、1 区 EP227、1 区 2327G、1 区 2427G、3 区 SP72、3 区



試料 2 3 区 SP98



試料 2 3 区 SP98（拡大）



試料 7 1 区 SX225 2128



試料 7 1 区 SX225 2128（拡大）



試料 12 SX119（拡大）



試料 69 1 区東 2129Ⅲ層



試料 11 1 区 EP229-F



試料 55 1 区 2325G Ⅱ

1cm

第 149 図　炭化物塊の詳細写真



試料66 1区東 2228Ⅲ層①

籾



試料66 1区東 2228Ⅲ層①

2cm

胚乳（玄米）



試料 66 1 区東 2228Ⅲ層①

2cm

植物茎が混入した塊



試料 12 SX119（拡大）

板材に圧着した籾塊







試料 66 1 区東 2228Ⅲ層①

藁すさが混ぜられた土壁

第 150 図　炭化物塊と関連資料の詳細写真

SP73、SX119 に対応する。1 区 EP229 では、2 試料ともに同様の傾向を示した。

短短粒および中短粒が併せて 2 割以上を占めるのは、試料 1・3・54・57・69 であり、該当地点は 1 区東 2129、1 区 SX225、3 区 SK81、3 区 SK86 である。比較的長粒に分類される長短粒が 4 割以上を占めたのは、試料 2（3 区 SP98）のみであり、ここでは中長粒も 1 粒確認された。

粒大（長幅積）は 10.12 ～ 12.91 の範囲にあり、全体の傾向として小粒（49%）と中粒（47%）がほぼ均等に分布していた。小粒が 4 割以上を占めたのは、試料 1・2・51・66 であり、これらの試料には極小粒も含まれていた。該当地点は、1 区 EP227、1 区東 2228 Ⅲ層、3 区 SP98、3 区 SK86 である。

一方、中粒が 4 割以上を占めたのは、試料 4・8・10・24・53 であり、1 区 SX225、3 区 SP71、3 区南西壁Ⅲ層に該当する。特に 1 区 SX225 では、該当 5 点中 3 点がこの傾向を示した。小粒および中粒が 4 割以上を占めたのは、試料 3・5・11・12・17・52・54・57・64・69 の 10 試料であり、この中には 1 区 EP229 が 2 点とも含まれる。

各属性のヒストグラムは単峰性を示し、長さと幅の相関係数は -0.09 ～ 0.75 の範囲に分布した。20 試料中、強い正の相関は試料 54 の 1 点、やや相関ありが 11 試料、弱い相関が 7 試料、ほとんど相関なしは試料 11 の 1 点であった。

標準偏差は、粒形で 0.12 ～ 0.27、粒大で 1.40 ～ 2.30 の範囲にあり、特に試料 1 および試料 2 ではばらつきが大きく、粒形では円粒ほどばらつきが小さく、長粒になるほどばらつきが大きくなる傾向が認められた。粒大についても、中粒～大粒が多い場合にばらつきが顕著となる。なお、変動係数（CV 値）に基づくばらつきの相対的評価では、試料 1 を除いて明確な傾向は認められなかった。

以上の結果より、粒形・粒大・ばらつきと出土地点との間には一定の相関が認められた。総じて、粒形が円形に近いほど粒大が大きく、長粒になるほど粒大が小さくなる傾向が確認される。これらの観察結果に基づき、出土イネ種子の形質は、A ～ C 群の 3 つのグループに大別される。

A 群：粒形が多様で小型米が多い。粒形のばらつきが大きい（試料 1・2）。

B 群：粒形に短短粒と中短粒が多く、短長粒を含む。小～中型米が多い（試料 3・4・5・11・12・17・51・54・57・64・66・69・75）。

C 群：粒形に短短粒が多い。中型米が多く、大型米も数粒含む。（試料 8・10・24・52・53）

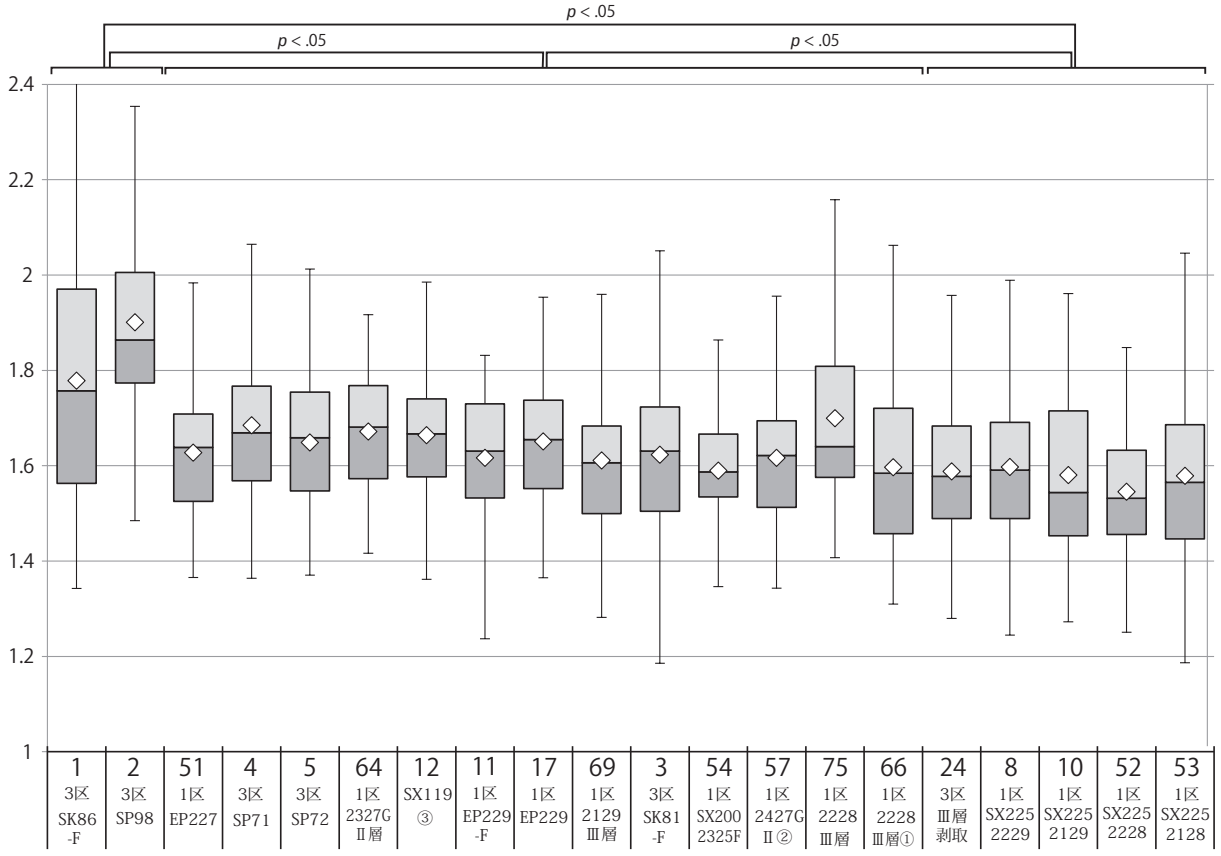
6　各地点の粒形質の比較

第 151 図に示すように、各試料における粒形質の特徴に基づき、出土イネは A ～ C 群の三つのグループに分類された。この傾向を統計的に検証するため、有意水準 5% における両側検定の t 検定を実施した。その結果、粒形および粒大において、A 群・B 群・C 群の間にはそれぞれ有意差が認められた。したがって、これら三群間には粒形質に基づく品種的な差異が存在する可能性が高いと考えられる。

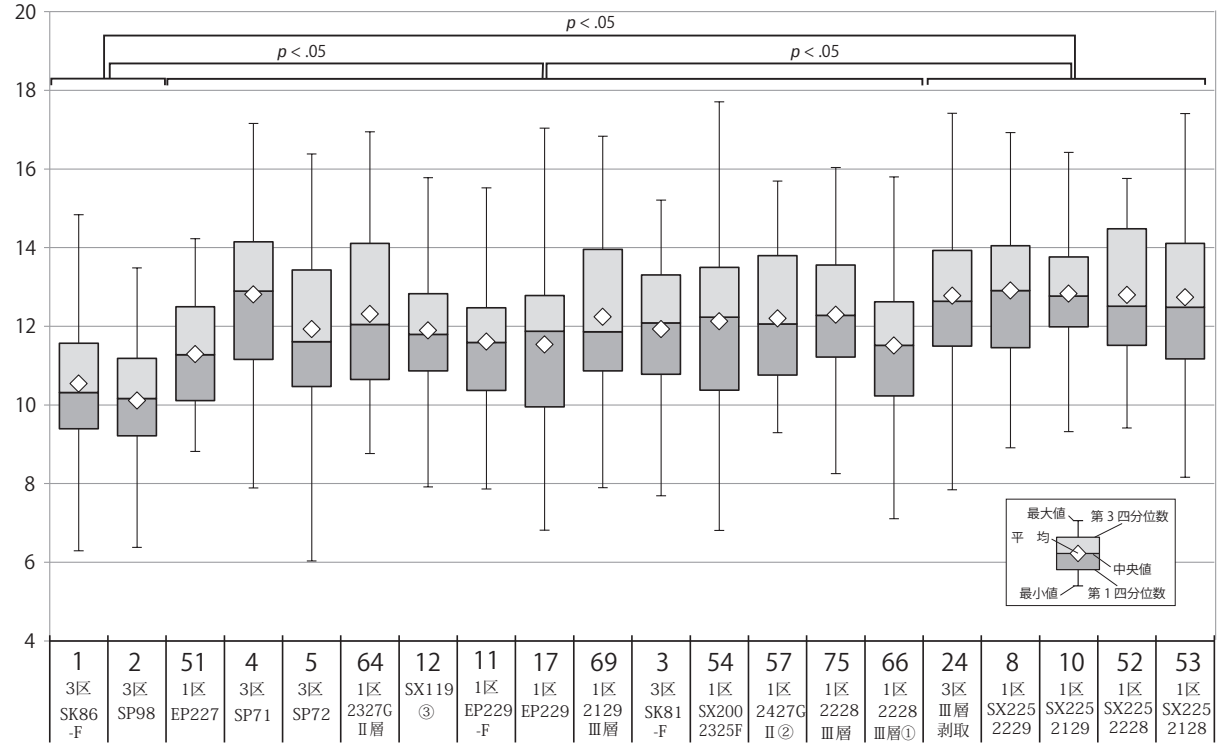
次に、第 2 面における A ～ C 群の出土位置を第 152 図に示す。これによれば、A 群は 2 箇所の遺構から検出され、両者は隣接した位置関係にある。B 群は約 4 箇所にまとまり、第 2 面では 3 箇所に分布する。試料 3（3 区 SK81）および試料 4・5（SP71・SP72）は、各遺構の覆土から集中して検出されており、局所的な堆積と判断される。一方、その他の B 群試料は、1 区の広い範囲に分布し、およそ 12 × 16 m の範囲に及ぶ。なお、この分布の南北方向は調査区外にも延びると考えられる。

第 3 面では 1 箇所に分布が認められ（第 153 図）、SX119 から出土した試料 12・50 が該当する。当該遺構はⅢ層下に位置しており、第 2 面の堆積に対して掘り込みを伴う後続の遺構とみられるが、層位的には第 2 面と同時期の埋没と推定される。

C 群は 2 箇所に集中して検出される。うち 1 箇所は 1 区 SX225 であり、ここから出土した 4 点すべてが C 群に分類された。SX225 は B 群の広域分布域内に位置するものの、異なる群に属することから、同地点は B 群とは別時期あるいは別段階に堆積した可能性が高い。隣接する試料 66・69・75 は B 群であるため、SX225 の形成は B 群とは時間的・機能的に異なる段階に対応すると考えられる。もう一箇所の C 群分布は、3 区で剥ぎ取り調査を実施した地点に相当する。

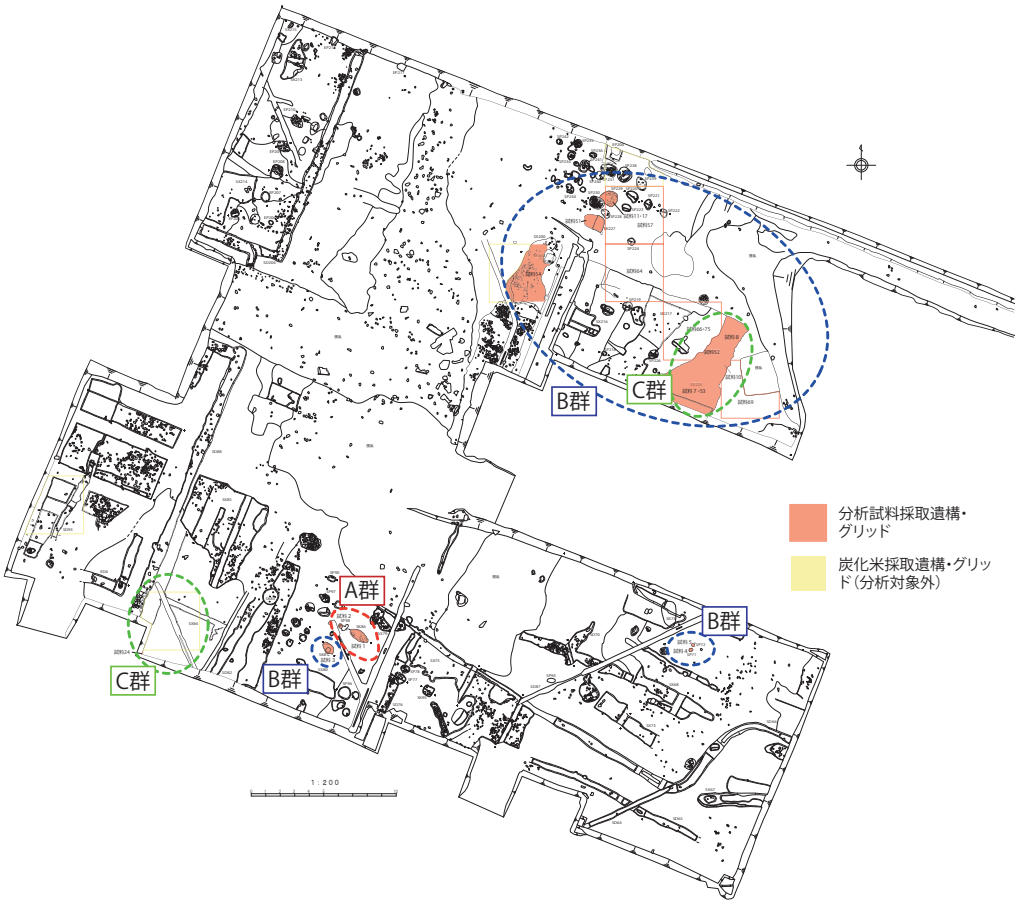


粒　形



粒　大

第 151 図　新庄城二の丸跡各地点間の比較



第 152 図　第 2 面炭化米出土地点と形質のまとまり



第 153 図　第 3 面炭化米出土地点と形質のまとまり

以上のように、粒形質の違いは、試料ごとの群分けだけでなく、出土位置における空間的分布とも対応しており、このことは、A ～ C 群が異なる品種群に由来する可能性を支持する重要な証拠といえる。

7　考　察

（1）出土米の粒形質評価

まず、本資料にみられる 3 群（A ～ C 群）の粒形質について、現代品種との比較を行う。温帯ジャポニカに分類される現代品種「コシヒカリ」の玄米の長さは平均 4.6mm、標準偏差 0.266 とされる（佐藤 1992）。また、在来品種 100 種から 1 粒ずつ抽出し混合した試料では、平均長 5.2mm、標準偏差 0.413 と報告されている（同上）。これに対し、本資料における A 群の長さ平均は 4.33mm（標準偏差 0.38）、B 群は 4.41mm（0.36）、C 群は 4.47mm（0.32）であり、いずれもコシヒカリよりも短く、ばらつきはやや大きい。ただし、ばらつきについては炭化過程に伴う熱変形の影響も考慮すべきである。

また、嵐（1974）が報告する赤米主体の在来長粒系統は、長さ 6.0mm 以上、粒形（長幅比）2.3 以上が多く、本資料にはこれに該当する例はない。また、日本におけるインディカ種の基準である粒形 3.0 以上に相当する粒も認められなかった。したがって、本資料に含まれる出土米はすべてジャポニカ種に属し、赤米主体の在来長粒系統は含まれていないと判断される。

次に、東北地方の在来品種との比較を試みる。山形県では、江戸時代には「細葉」が、明治期初頭には「繁治郎早生」「大野早生」「亀ノ尾」が知られる（西尾・藤巻 2020）。農業生物資源ジーンバンクの特性データによれば、大野早生（JP5748、秋田）は玄米長 3.3 ～ 5.0mm・幅 2.6 ～ 3.2mm、大国早生（JP5755、山形）は玄米長 4.1 ～ 4.7mm・幅 2.6 ～ 3.1mm、亀ノ尾（JP5903、山形）は玄米長 3.8 ～ 4.8mm・幅 2.2 ～ 3.0mm であり、いずれも本資料 3 群の範囲に収まる。ただし、大野早生や亀ノ尾はいずれも粒が長く、また概して粒大 15.0 以上であり、本資料よりも大粒である傾向がみられる。形質的により近似する在来品種として、A 群には「細稈」「赤もち」「大国早生」、B 群には「ちらけ糯」、C 群には「五平早生」「むらさき」、および近代以降の「奥羽 10 号」「奥羽 22 号」などが挙げられる。早生種が多く、A 群と B 群には糯種が含まれることが注目される。もちろん、被熱の影響や産地・収穫年の違いも考慮する必要があるが、明治期にかけては粒の大型化が進んだ傾向が認められ、これは江戸後期から民間育種が活発であった庄内地域の特色を反映する可能性がある。

続いて、周辺の出土米との比較を行う。九州における弥生時代から古墳時代にかけての出土米データ（上條 2018）においては、粒形 1.7、粒大 11.0 を基準として 4 区分（パターン①～④）が提案されている（表 17）。この区分を本資料に適用すると、A 群は粒形 1.7 以上かつ粒大 11.0 以下に該当し、パターン①に分類される。

一方、B 群および C 群は粒形 1.7 以下かつ粒大 11.0 以上であり、パターン②に分類される。このことは、従来一括されていたパターン②に内在するさらなる細分化の可能性を示唆するものである。パターン②は、主として西日本の沖積平野における大規模灌漑水田跡から検出されており、DNA 分析の結果では温帯ジャポニカ系が多い。B 群・C 群の多くがこうした地理的・気候的条件下で栽培されたことを示唆する。

表 18 に山形県内、および近世東北地方の出土米分析例を示す。本資料と同じ新庄城二の丸跡の分析例として新庄北高校に保管され佐藤敏也氏が分析した採集品がある（佐藤 1971、小泉・田中ほか 2018）。この結果では A ～ C 群の平均的な粒形質を示しており、複数の品種群が混在した状況を反映する可能性がある。東北地方において、江戸時代の出土米形質分析例は稀であり、福島県三春城下の近世追手門前通遺跡群が唯一の例である。同遺跡の出土米は A ～ C 群よりも長粒であり、パターン④に相当する。長粒品種は、古墳時代の島遺跡や今塚遺跡、平安時代の升川遺跡、中世の荒川 2 遺跡などで検出されており、とくに中世城館跡からの出土例が多く、32 例中 20 例がパターン④に分類される。このことは、古代～中世の東北地方においては長粒種が広く栽培されていたが、江戸時代には、庄内藩において改良が進められ、より円粒化した品種への移行が進んだ可能性を示す。一方、太平洋側ではヤマセ等の冷害の影響もあり、長粒種の系譜が一定程度維持されたとみられる。

本資料との個別比較において、A 群と形質的に近いのは中世末期の酒田市亀ヶ崎城跡出土米であり、B 群に類

似するのは古代の米沢市笹原遺跡である。古墳時代には、A ～ C 群と類似する形質をもつ出土米が認められるが、これらが古代以降に継続しないことから、直接的な系譜関係を確認するには至っていない。特筆すべきは、パターン④に分類されてきた長粒系統が多いなかで、酒田市亀ヶ崎城跡の出土米が A 群よりもさらに円粒かつ小粒の形質を示す点である。この城跡は、最上川河口の酒田湊に隣接し、庄内藩とのゆかりも深い。このような出土米が、江戸時代における庄内米の主要形質につながっていく可能性を示すものとして、中世末にまでさかのぼるジャポニカ系統の存在は重要な意味をもつといえる。

表 17　上條（2018）における粒形質遺跡パターン

		粒形	
		1.7 ＜（長粒多）	1.7 ≧（円粒多）
粒大	11.0 ＞（小型多）	①	③
	11.0 ≦（中型多）	④	②

（2）出土状態からみた炭化米の形成過程と貯穀状態

出土した炭化米は、その形態および周辺の出土状況の観察結果から、被熱によって炭化したものであると判断される。本研究では、16 地点において炭化米を採取・分析し、粒形質に基づく差異から、粒形質ごとに分布上のまとまりが認められた。これらのまとまりは、炭化米がもともと蔵内部の異なる区画に分けて貯蔵されていた可能性を示唆しており、当時においてイネ品種が意識的

表 18　新庄城跡出土米と他遺跡との比較

遺跡名	市町村	試料 / 遺構	時期	n	粒形		種子幅		上條（2018）パターン	出典
					平均	標準偏差	平均	標準偏差		
新庄城二の丸跡	新庄市	A 群	19 世紀	100	1.84	0.25	10.3	1.8	①	本例
新庄城二の丸跡	新庄市	B 群	19 世紀	661	1.64	0.16	12.0	2.0	②	本例
新庄城二の丸跡	新庄市	C 群	19 世紀	242	1.58	0.16	12.8	1.9	②	本例
新庄城址	新庄市	新庄北高校保管品	19 世紀	87	1.60	0.21	10.5	1.4	③	出土米Ⅲ
近世追手門前通遺跡群	田村郡三春町	B 地点／第 2 遺構面／ 179 号遺構	江戸	80	1.91	0.26	12.1	1.9	④	出土米Ⅳ
亀ヶ崎城跡	酒田市	第 4･5 次 A 区 1 面 第 0001 号土坑 F 区 試料番号 16	中世末	48	1.71	0.17	7.7	1.3	①	出土米 I
荒川 2 遺跡	米沢市	溝跡 SD544 ／覆土最上層	中世	19	1.79	0.16	11.5	1.3	④	出土米Ⅳ
嶋遺跡	山形市	第 11 次調査　B1-b5 区 III 上層 No.1102	15 世紀中頃	23	1.70	0.23	12.6	1.8	④	出土米 I
升川遺跡	遊佐町	第 143 号土坑 2・3･5･6 層	平安中期	100	1.78	0.19	12.8	1.6	④	出土米 I
升川遺跡	遊佐町	B-2 グリッド／土坑 SK143 ／ 2・3 層	平安	100	1.80	0.17	13.4	1.4	④	出土米Ⅳ
笹原遺跡	米沢市	拡張区 19 ～ 28-44 ～ 50 ／ SD3 ／第 7 層／籾なし	奈良	103	1.62	0.13	13.5	1.6	②	出土米Ⅳ
今塚遺跡	山形市	竪穴住居跡 ST702 ／甕 RP438 内	古墳前期	20	1.81	0.13	11.5	1.0	④	出土米Ⅳ
嶋遺跡	山形市	第 8 次調査 トレンチ No.26 D4-1c 炭化層	古墳後期	61	1.70	0.15	13.7	2.1	④	出土米 I
嶋遺跡	山形市	第 11 次調査 A0-b5 III 上層 No.132	古墳後期	61	1.88	0.21	9.1	1.1	①	出土米 I
嶋遺跡	山形市	炭化籾の塊①	古墳後期	100	1.55	0.13	12.1	1.7	②	出土米 I
嶋遺跡	山形市	炭化籾の塊②	古墳後期	99	1.74	0.20	10.9	2.0	①	出土米 I
嶋遺跡	山形市	炭化籾の塊③	古墳後期	98	1.74	0.16	11.3	1.7	④	出土米 I
西沼田遺跡	天童市	第 5 次発掘調査 6 トレンチ	古墳後期	99	1.56	0.18	11.4	1.7	②	出土米 I
一ノ坪遺跡	山形市	第 4 号竪穴住居跡	5 世紀	95	1.59	0.15	9.8	1.2	③	出土米 I

に区別されていたことが推察される。

また、剥ぎ取り調査および炭化穀物塊の観察により、炭化米の形成過程が一定程度明らかとなった。炭化穀物塊は、主に籾塊主体で木材や焼土など他の焼失物を含む「塊 A 類」と、土壌と胚乳から構成される「塊 B 類」に区分される。剥ぎ取りにおける層序および構成物の差異から、塊 A 類がより古く、塊 B 類がその後に形成されたと解釈される。塊 A 類は、蔵が火災により焼失・崩落した直後、もしくは火がくすぶる中でその場に堆積した炭化籾である。一方、塊 B 類は、焼失後に残存していた米が回収・再配置あるいは整地される過程において、籾殻から脱粒し、他の焼失物や土壌と混合・拡散したものと推定される。そのため、塊 B 類は比較的広範囲に分散して検出される傾向を示すが、元来の貯蔵状態を反映していないと考えられる。

このように、貯穀状態を示す直接的証拠として信頼しうるのは、塊 A 類に限られる。出土した籾に関しては、穂首や枝梗、芒の遺存は認められず、種子にそれらが融着している例も確認されなかった。これらの観察結果から、出土したイネは稲穂のままではなく、脱穀・籾おし（籾打ち）により脱芒された「籾」として保存されていた、すなわち「穀」として保管されていたと推定される。

さらに、塊 A 類には板材および植物の茎状遺存体（イネ科植物と推定）が同伴または付着していた。これらの事実から、籾は俵などの容器に収納された状態で、板壁に接していた、あるいは板床の上に安置されていたと推察される。また、観察されたイネ種子の多くは籾殻が脱落し、一部は子葉を残した胚乳状態であった。多くの胚乳には筋状構造が明瞭に認められ、種皮や小穂軸が残存する例も確認された。通常、胚乳が直接高温に曝されると、膨張によって筋状構造が失われ、隣接粒との融着が生じることが多い。しかし、本資料においてはそのような形態変化はほとんど認められなかった。このことから、イネ粒は直接高温に曝されたのではなく、貯蔵量の多さや籾殻に覆われていたことにより、籾表層が焼失しても内部は比較的低温状態に保たれたと推定される。その結果、内部は蒸し焼きのような状態となり、胚乳の原形が比較的良好に保存されたと考えられる。

（3）出土状態からみた炭化米の推定量

出土状態の観察および剥ぎ取り調査の結果をもとに、出土炭化米の全体量を一定の仮定のもとに概算した。調査区における剥ぎ取り面では、単位面積あたりの炭化米密度が確認されており、これにより出土量の推定が可能となった。具体的には、a 層では 5 × 5 cm の範囲に 10 粒、b 層では 3 × 3 cm の範囲に 115 粒が確認された。これを奥行 5 cm と仮定して体積換算すると、a 層は 125 cm³ あたり 100 粒、b 層は 27 cm³ あたり 339 粒となる。次に、炭化米の集中分布域に基づき、全体の出土量を推定した。炭化米のうち、塊 B 類（a 層に相当）は最小で 12 × 16 m の範囲に広がっており、塊 A 類（b 層に相当）は各遺構および剥ぎ取り区画（例：試料 24 周辺の 4 × 4 m）に限定される。層の厚さについては、剥ぎ取り結果に基づき、a 層を 15 cm、b 層を 8 cm と仮定する。これをもとに、1 区（12 m × 16 m × 0.15 m）の体積は 28.8 m³ となり、a 層における炭化米は約 2,304 万粒と推定される。また、剥ぎ取り区（4 m × 4 m）に関しては、a 層が 2.4 m³（192 万粒）、b 層が 1.28 m³（1,607 万粒）と換算され、計 1,799 万粒となる。さらに、塊 A 類に相当し、集中して検出された 1 区 SX225（3.6 m³）および SX119（0.3 m³）は、それぞれ約 4,520 万粒および 377 万粒と推定される。これらを合算すると、調査区における総出土量はおよそ 9,000 万粒に達する。この数値を容量に換算するため、玄米 1 升（10 合）あたりの粒数を 64,827 粒、1 俵（1 石）＝ 10 斗＝ 1,000 合＝約 650 万粒と仮定した場合、出土炭化米はおよそ 14 俵分に相当する。この量が当該蔵全体の貯蔵量のどの程度を占めるかは不明であるが、現存する南部藩の米蔵「御蔵」（下町博物館）の事例では、約 360 m² の面積において 6,000 俵の貯蔵が可能とされており、本遺構における推定量も一定の規模をもつ貯穀施設の一部を反映していると考えられる。もちろん、本推定には出土密度および分布範囲の仮定、火災後の整地・撹乱・消失といった諸要因が含まれるため、蔵内全体の保管量を厳密に反映するものではない。しかしながら、出土密度と分布範囲の組み合わせから、貯蔵規模の概算とその相対的な大きさを把握することは可能である。

本分析では、火災により焼失した蔵という特殊な保存状況の下で、単なる貯穀量の推定にとどまらず、粒形質による品種の識別、さらには当時の品種管理や分類意識にまで踏み込んだ考察が可能となった。その背景には、

遺跡発掘時に炭化米を一括して回収せず、出土状態を詳細に観察し、出土単位ごとに分別・記録を徹底した調査体制が大きく寄与している。今後も、出土状態および出土位置の精密な記録を伴う穀物分析の蓄積が進むことで、日本史上における稲作の実態や流通制度との関連性のさらなる解明が期待される。

謝　辞

分析に際し、(公財)山形県埋蔵文化財センターからは、本研究にご理解賜り、発掘調査時の剥ぎ取りから試料提供までご協力を得ました。また、中畑 広 氏には計測でご援助を賜りました。末筆ながら御礼申し上げます。なお、本分析の一部は、JSPS 科研費 JP23H00008 の助成を受けました。

引用文献

嵐　嘉一 1974『日本赤米考』雄山閣出版
上條信彦 2018「水稲農耕定着段階における九州出土米の粒形質変異」『九州考古学』93，1 － 21 頁
小泉翔太・田中克典・上條信彦 2018『日本の出土米Ⅲ 佐藤敏也コレクションの研究』弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
小泉翔太・田中克典・上條信彦 2020『日本の出土米Ⅴ 西日本出土米の粒形質・DNA 分析』弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
佐藤敏也 1971『日本の古代米』雄山閣出版
佐藤洋一郎 1992『稲のきた道』裳華房
田中克典・佐藤洋一郎・上條信彦 2015『日本の出土米Ⅱ 佐藤敏也コレクションの研究』弘前大学人文学部北日本考古学研究センター・六一書房
西尾敏彦・藤巻 宏 2020『日本水稲在来品種小事典』農山漁村文化協会
農林水産技術会議事務局 1970『わが国の在来稲品種の特性』
農業生物資源ジーンバンク　https://www.gene.affrc.go.jp/index_ja.php
松本　豪 1994「日本の稲作遺跡と古代米に関する研究」『大阪府立大学紀要（農学・生命科学）』46，135 － 194 頁

表 19　新庄城跡 炭化米観察表 1

1　3 区 SK86-F						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.30	2.51	1.71	中短粒	10.80	小
2	4.42	2.51	1.76	中短粒	11.10	小
3	3.68	2.57	1.43	短短粒	9.46	小
4	4.26	2.43	1.75	中短粒	10.35	小
5	4.43	2.85	1.56	短短粒	12.62	中
6	3.43	2.55	1.34	長円粒	8.75	小
7	4.50	2.18	2.07	短長粒	9.80	小
8	4.85	2.22	2.19	短長粒	10.75	小
9	4.16	2.66	1.56	短短粒	11.08	小
10	4.20	2.43	1.73	中短粒	10.20	小
11	3.93	2.72	1.44	短短粒	10.68	小
12	5.07	2.26	2.25	短長粒	11.45	小
13	5.28	3.02	1.74	中短粒	15.95	中
14	4.69	3.00	1.56	短短粒	14.08	中
15	4.25	2.93	1.45	短短粒	12.47	中
16	4.99	2.39	2.09	短長粒	11.90	小
17	4.83	2.99	1.61	中短粒	14.46	中
18	4.76	2.13	2.23	短長粒	10.16	小
19	4.60	2.68	1.72	中短粒	12.33	中
20	4.31	2.96	1.46	短短粒	12.75	中
21	4.91	2.39	2.06	短長粒	11.70	小
22	5.16	2.93	1.76	中短粒	15.14	中
23	4.60	3.11	1.48	短短粒	14.29	中
24	3.97	2.71	1.47	短短粒	10.73	小
25	4.31	2.68	1.61	中短粒	11.54	小
26	4.44	2.28	1.95	長短粒	10.11	小
27	4.30	2.64	1.63	中短粒	11.35	小
28	4.10	2.51	1.63	中短粒	10.29	小
29	4.39	2.64	1.66	中短粒	11.58	小
30	3.64	2.50	1.46	短短粒	9.10	小
31	3.35	2.27	1.48	短短粒	7.60	極小
32	4.33	2.26	1.92	長短粒	9.80	小
33	4.25	2.25	1.89	長短粒	9.57	小
34	4.17	2.31	1.81	長短粒	9.62	小
35	4.41	2.13	2.07	短長粒	9.38	小
36	3.97	2.36	1.68	中短粒	9.34	小
37	4.12	1.94	2.12	短長粒	8.00	極小
38	4.14	2.09	1.98	長短粒	8.64	小
39	3.67	2.60	1.41	短短粒	9.51	小
40	3.53	2.00	1.77	中短粒	7.06	極小
41	3.68	1.71	2.15	短長粒	6.29	極小
42	4.76	1.88	2.53	中長粒	8.95	小
43	4.43	2.35	1.88	長短粒	10.39	小
44	4.12	2.11	1.96	長短粒	8.67	小
45	3.89	1.97	1.98	長短粒	7.67	極小
46	4.45	2.43	1.83	長短粒	10.83	小
47	4.77	2.55	1.87	長短粒	12.18	中
48	3.66	2.57	1.42	短短粒	9.43	小
49	4.16	2.30	1.81	長短粒	9.58	小
50	4.03	2.01	2.01	短長粒	8.08	小

2　3 区 SP98						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.88	2.26	2.16	短長粒	11.01	小
2	4.27	1.88	2.27	短長粒	8.01	小
3	4.43	1.96	2.26	短長粒	8.68	小
4	4.69	2.49	1.88	長短粒	11.67	小
5	3.95	2.66	1.48	短短粒	10.49	小
6	4.59	2.43	1.89	長短粒	11.14	小
7	4.26	2.45	1.74	中短粒	10.43	小
8	4.45	2.29	1.95	長短粒	10.18	小
9	4.33	2.47	1.75	中短粒	10.68	小
10	4.90	1.94	2.53	中長粒	9.50	小
11	4.51	2.99	1.51	短短粒	13.49	中
12	4.28	1.94	2.21	短長粒	8.30	小
13	4.07	2.18	1.87	長短粒	8.87	小
14	4.54	2.58	1.76	中短粒	11.70	小
15	4.68	2.55	1.83	長短粒	11.96	小
16	4.56	2.55	1.79	中短粒	11.62	小
17	3.84	2.41	1.60	短短粒	9.24	小
18	4.05	2.47	1.64	中短粒	9.99	小
19	4.19	2.58	1.62	中短粒	10.80	小
20	4.22	1.95	2.17	短長粒	8.23	小
21	4.38	2.37	1.85	長短粒	10.38	小
22	4.60	2.03	2.27	短長粒	9.32	小
23	4.64	2.11	2.20	短長粒	9.80	小
24	4.71	2.49	1.89	長短粒	11.73	小
25	4.16	2.43	1.71	中短粒	10.09	小
26	4.74	2.41	1.96	長短粒	11.43	小
27	4.44	1.98	2.24	短長粒	8.81	小
28	4.20	2.31	1.82	長短粒	9.69	小
29	4.60	2.28	2.02	短長粒	10.49	小
30	4.58	2.54	1.80	長短粒	11.63	小
31	4.54	2.65	1.71	中短粒	12.02	中
32	4.54	2.08	2.18	短長粒	9.47	小
33	3.86	2.18	1.77	中短粒	8.39	小
34	3.47	2.07	1.68	中短粒	7.18	極小
35	4.29	2.26	1.90	長短粒	9.67	小
36	4.07	2.49	1.63	中短粒	10.16	小
37	4.54	2.47	1.84	長短粒	11.20	小
38	4.40	2.36	1.87	長短粒	10.36	小
39	4.01	2.26	1.78	中短粒	9.05	小
40	3.84	2.06	1.87	長短粒	7.92	極小
41	4.98	2.30	2.17	短長粒	11.45	小
42	4.37	2.30	1.90	長短粒	10.05	小
43	4.58	2.32	1.97	長短粒	10.63	小
44	4.66	2.50	1.86	長短粒	11.65	小
45	3.61	1.77	2.05	短長粒	6.38	極小
46	4.12	2.24	1.84	長短粒	9.20	小
47	4.35	2.43	1.79	中短粒	10.56	小
48	4.71	2.60	1.81	長短粒	12.24	中
49	4.36	2.24	1.94	長短粒	9.77	小
50	4.08	2.26	1.81	長短粒	9.20	小

表 20　新庄城跡 炭化米観察表 2

3　3区 SK81-F						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.80	3.07	1.56	短短粒	14.76	中
2	4.00	2.70	1.48	短短粒	10.78	小
3	4.36	3.24	1.34	長円粒	14.13	中
4	4.15	2.93	1.42	短短粒	12.14	中
5	4.07	2.30	1.77	中短粒	9.33	小
6	4.45	2.46	1.80	長短粒	10.95	小
7	4.66	2.62	1.78	中短粒	12.20	中
8	4.77	2.51	1.90	長短粒	11.98	小
9	4.42	2.59	1.71	中短粒	11.46	小
10	5.12	2.97	1.72	中短粒	15.21	中
11	4.49	3.07	1.46	短短粒	13.79	中
12	4.25	2.57	1.65	中短粒	10.93	小
13	4.25	3.08	1.38	長円粒	13.08	中
14	4.88	2.92	1.67	中短粒	14.23	中
15	4.26	2.53	1.68	中短粒	10.76	小
16	4.18	2.75	1.52	短短粒	11.52	小
17	3.80	2.70	1.41	短短粒	10.24	小
18	4.53	2.70	1.68	中短粒	12.22	中
19	4.82	2.44	1.98	長短粒	11.73	小
20	4.89	3.05	1.60	中短粒	14.92	中
21	4.68	3.03	1.54	短短粒	14.20	中
22	4.52	2.83	1.60	中短粒	12.78	中
23	4.31	2.86	1.50	短短粒	12.32	中
24	3.92	2.51	1.56	短短粒	9.81	小
25	4.93	2.70	1.83	長短粒	13.29	中
26	3.72	2.07	1.80	長短粒	7.69	極小
27	4.79	2.41	1.98	長短粒	11.55	小
28	4.45	2.72	1.64	中短粒	12.09	中
29	4.19	2.77	1.51	短短粒	11.59	小
30	4.56	2.11	2.16	短長粒	9.64	小
31	3.80	2.25	1.69	中短粒	8.57	小
32	4.08	2.21	1.85	長短粒	9.00	小
33	4.71	2.85	1.65	中短粒	13.42	中
34	4.37	3.16	1.38	長円粒	13.79	中
35	3.87	2.15	1.80	長短粒	8.30	小
36	4.08	2.84	1.44	短短粒	11.61	小
37	4.81	2.93	1.64	中短粒	14.06	中
38	3.81	2.65	1.44	短短粒	10.11	小
39	4.00	2.78	1.44	短短粒	11.12	小
40	4.39	2.93	1.50	短短粒	12.88	中
41	3.97	3.35	1.19	中円粒	13.31	中
42	4.73	2.89	1.64	中短粒	13.65	中
43	4.77	2.93	1.63	中短粒	13.96	中
44	4.64	2.78	1.67	中短粒	12.90	中
45	4.27	2.80	1.53	短短粒	11.96	小
46	3.64	2.41	1.51	短短粒	8.78	小
47	4.13	2.38	1.73	中短粒	9.82	小
48	4.59	2.82	1.63	中短粒	12.95	中
49	4.46	2.95	1.51	短短粒	13.16	中
50						

4　3区 SP71						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	5.12	3.07	1.66	中短粒	15.73	中
2	5.12	3.27	1.57	短短粒	16.70	大
3	4.65	2.76	1.69	中短粒	12.83	中
4	4.78	3.10	1.55	短短粒	14.80	中
5	4.63	2.95	1.57	短短粒	13.65	中
6	5.00	2.51	2.00	長短粒	12.53	中
7	4.54	2.99	1.52	短短粒	13.60	中
8	4.25	2.70	1.58	短短粒	11.46	小
9	4.51	3.31	1.36	長円粒	14.90	中
10	4.86	2.61	1.86	長短粒	12.68	中
11	4.69	2.99	1.57	短短粒	14.02	中
12	4.66	2.82	1.65	中短粒	13.14	中
13	4.38	3.14	1.40	長円粒	13.74	中
14	4.45	2.67	1.66	中短粒	11.88	小
15	4.70	3.07	1.53	短短粒	14.43	中
16	5.27	2.66	1.98	長短粒	14.00	中
17	4.87	2.97	1.64	中短粒	14.46	中
18	4.62	2.79	1.65	中短粒	12.89	中
19	3.77	2.11	1.79	中短粒	7.94	極小
20	4.86	2.91	1.67	中短粒	14.14	中
21	5.21	2.97	1.75	中短粒	15.47	中
22	4.49	3.14	1.43	短短粒	14.09	中
23	4.22	2.39	1.77	中短粒	10.07	小
24	4.18	2.66	1.57	短短粒	11.11	小
25	5.06	2.76	1.83	長短粒	13.97	中
26	4.88	2.71	1.80	長短粒	13.20	中
27	4.68	2.77	1.69	中短粒	12.95	中
28	4.38	2.55	1.72	中短粒	11.16	小
29	4.07	2.46	1.65	中短粒	10.01	小
30	5.01	3.28	1.53	短短粒	16.45	大
31	4.23	2.53	1.67	中短粒	10.69	小
32	5.06	2.23	2.27	短長粒	11.29	小
33	4.41	2.55	1.73	中短粒	11.26	小
34	3.75	2.11	1.78	中短粒	7.89	極小
35	3.92	2.59	1.51	短短粒	10.14	小
36	3.94	2.70	1.46	短短粒	10.63	小
37	4.55	2.55	1.79	中短粒	11.59	小
38	4.67	3.04	1.54	短短粒	14.18	中
39	4.42	2.76	1.60	中短粒	12.20	中
40	4.50	2.59	1.74	中短粒	11.66	小
41	4.74	2.70	1.76	中短粒	12.77	中
42	4.36	2.51	1.74	中短粒	10.93	小
43	4.12	2.55	1.61	中短粒	10.52	小
44	5.39	3.18	1.69	中短粒	17.15	大
45	4.52	2.36	1.92	長短粒	10.66	小
46	5.10	3.33	1.53	短短粒	17.00	大
47	5.47	2.74	2.00	短長粒	14.98	中
48	4.86	2.79	1.74	中短粒	13.54	中
49	4.44	2.42	1.83	長短粒	10.75	小
50	4.08	2.26	1.81	長短粒	9.20	小

表 21　新庄城跡 炭化米観察表 3

5 3区 SP72						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.35	2.34	1.86	長短粒	10.20	小
2	4.20	2.62	1.60	中短粒	10.98	小
3	3.94	2.42	1.63	中短粒	9.53	小
4	3.82	2.48	1.54	短短粒	9.46	小
5	4.73	3.05	1.55	短短粒	14.44	中
6	4.55	2.55	1.79	中短粒	11.61	小
7	4.46	2.68	1.66	中短粒	11.93	小
8	4.16	3.02	1.38	長円粒	12.55	中
9	4.92	2.44	2.01	短長粒	12.00	中
10	4.03	2.53	1.59	短短粒	10.20	小
11	4.55	2.70	1.69	中短粒	12.26	中
12	4.87	2.76	1.76	中短粒	13.42	中
13	4.25	2.44	1.74	中短粒	10.37	小
14	4.25	2.37	1.79	中短粒	10.10	小
15	4.58	2.53	1.81	長短粒	11.59	小
16	5.17	3.04	1.70	中短粒	15.72	中
17	4.76	2.65	1.80	中短粒	12.64	中
18	3.64	2.17	1.67	中短粒	7.90	極小
19	4.15	2.51	1.65	中短粒	10.40	小
20	4.89	3.35	1.46	短短粒	16.38	大
21	4.32	2.44	1.77	中短粒	10.54	小
22	4.11	2.42	1.70	中短粒	9.95	小
23	3.82	2.72	1.41	短短粒	10.39	小
24	5.02	2.97	1.69	中短粒	14.93	中
25	4.12	2.82	1.46	短短粒	11.62	小
26	4.38	2.57	1.70	中短粒	11.27	小
27	4.43	2.58	1.72	中短粒	11.43	小
28	4.87	3.21	1.52	短短粒	15.66	中
29	4.58	2.66	1.72	中短粒	12.17	中
30	3.88	2.29	1.69	中短粒	8.89	小
31	4.70	2.70	1.74	中短粒	12.67	中
32	4.15	2.66	1.56	短短粒	11.04	小
33	4.26	2.57	1.66	中短粒	10.95	小
34	4.43	2.40	1.85	長短粒	10.61	小
35	4.35	2.69	1.61	中短粒	11.70	小
36	4.98	3.27	1.52	短短粒	16.31	大
37	4.54	2.96	1.53	短短粒	13.44	中
38	4.33	3.16	1.37	長円粒	13.68	中
39	4.93	3.22	1.53	短短粒	15.87	中
40	4.59	2.95	1.56	短短粒	13.53	中
41	4.17	2.67	1.56	短短粒	11.14	小
42	4.88	3.01	1.62	中短粒	14.69	中
43	2.95	1.79	1.65	中短粒	5.28	極小
44	4.14	2.74	1.51	短短粒	11.36	小
45	4.81	2.72	1.77	中短粒	13.08	中
46	4.28	2.88	1.48	短短粒	12.33	中
47	4.44	2.49	1.78	中短粒	11.06	小
48	5.14	2.73	1.88	長短粒	14.03	中
49	3.86	2.69	1.44	短短粒	10.40	小
50	5.14	2.82	1.82	長短粒	14.49	中

8 1区 SX225 2229						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	5.10	3.19	1.60	短短粒	16.26	大
2	4.85	3.47	1.40	長円粒	16.81	大
3	4.65	2.80	1.66	中短粒	13.04	中
4	4.30	2.96	1.45	短短粒	12.72	中
5	4.36	3.50	1.24	長円粒	15.28	中
6	3.93	2.50	1.57	短短粒	9.82	小
7	4.19	2.87	1.46	短短粒	12.02	中
8	4.71	2.96	1.59	短短粒	13.95	中
9	4.36	2.49	1.75	中短粒	10.85	小
10	4.80	2.55	1.88	長短粒	12.23	中
11	4.83	3.51	1.38	長円粒	16.92	大
12	4.49	3.13	1.43	短短粒	14.05	中
13	4.29	2.83	1.51	短短粒	12.13	中
14	4.30	2.76	1.56	短短粒	11.89	小
15	4.32	2.51	1.72	中短粒	10.83	小
16	4.80	2.93	1.64	中短粒	14.07	中
17	4.65	2.64	1.76	中短粒	12.26	中
18	4.76	2.99	1.59	短短粒	14.25	中
19	4.35	2.46	1.77	中短粒	10.72	小
20	4.29	2.70	1.59	短短粒	11.57	小
21	4.74	3.02	1.57	短短粒	14.29	中
22	4.68	2.94	1.59	短短粒	13.77	中
23	4.58	2.97	1.54	短短粒	13.61	中
24	3.80	2.34	1.62	中短粒	8.91	小
25	3.95	2.66	1.49	短短粒	10.52	小
26	4.50	2.82	1.59	短短粒	12.70	中
27	4.46	3.14	1.42	短短粒	14.00	中
28	4.58	3.07	1.49	短短粒	14.04	中
29	4.69	2.89	1.63	中短粒	13.55	中
30	4.60	3.08	1.49	短短粒	14.15	中
31	4.78	2.98	1.60	中短粒	14.28	中
32	4.59	2.88	1.60	短短粒	13.20	中
33	4.39	3.14	1.40	長円粒	13.79	中
34	4.44	2.56	1.73	中短粒	11.39	小
35	5.01	2.64	1.90	長短粒	13.22	中
36	4.78	2.40	1.99	長短粒	11.48	小
37	5.06	3.15	1.61	中短粒	15.93	中
38	4.04	2.79	1.45	短短粒	11.26	小
39	4.70	2.73	1.72	中短粒	12.80	中
40	4.49	2.53	1.77	中短粒	11.35	小
41	4.60	2.81	1.64	中短粒	12.91	中
42	4.56	2.51	1.81	長短粒	11.43	小
43	4.03	2.75	1.47	短短粒	11.09	小

表 22　新庄城跡 炭化米観察表 4

10 1 区 SX225 2129						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.61	2.40	1.92	長短粒	11.06	小
2	4.71	2.83	1.67	中短粒	13.32	中
3	4.15	3.07	1.35	長円粒	12.74	中
4	4.35	2.76	1.57	短短粒	12.01	中
5	4.58	3.13	1.46	短短粒	14.34	中
6	5.08	2.96	1.71	中短粒	15.04	中
7	3.70	2.66	1.39	長円粒	9.83	小
8	4.23	2.91	1.45	短短粒	12.31	中
9	4.54	3.21	1.42	短短粒	14.57	中
10	4.63	2.73	1.69	中短粒	12.66	中
11	5.21	3.29	1.58	短短粒	17.15	大
12	4.25	2.88	1.47	短短粒	12.25	中
13	4.38	3.04	1.44	短短粒	13.30	中
14	4.54	2.76	1.65	中短粒	12.54	中
15	4.54	2.68	1.69	中短粒	12.18	中
16	4.42	2.91	1.52	短短粒	12.85	中
17	4.62	3.00	1.54	短短粒	13.85	中
18	4.26	3.02	1.41	短短粒	12.83	中
19	4.72	2.72	1.73	中短粒	12.83	中
20	4.61	2.98	1.55	短短粒	13.73	中
21	5.01	2.55	1.96	長短粒	12.79	中
22	4.43	2.97	1.49	短短粒	13.16	中
23	3.92	2.70	1.45	短短粒	10.58	小
24	4.26	2.77	1.54	短短粒	11.80	小
25	4.76	2.68	1.78	中短粒	12.73	中
26	5.00	2.67	1.87	長短粒	13.34	中
27	4.66	3.10	1.50	短短粒	14.44	中
28	4.31	3.04	1.42	短短粒	13.12	中
29	4.29	2.36	1.82	長短粒	10.12	小
30	4.89	3.15	1.55	短短粒	15.41	中
31	5.59	3.57	1.56	短短粒	19.93	大
32	4.27	2.78	1.53	短短粒	11.88	小
33	4.59	2.68	1.72	中短粒	12.28	中
34	4.40	2.34	1.88	長短粒	10.29	小
35	4.74	2.55	1.86	長短粒	12.06	中
36	4.14	2.40	1.72	中短粒	9.95	小
37	4.27	2.79	1.53	短短粒	11.91	小
38	4.40	3.22	1.37	長円粒	14.14	中
39	4.10	2.31	1.78	中短粒	9.48	小
40	4.61	2.91	1.58	短短粒	13.41	中
41	4.20	2.92	1.44	短短粒	12.26	中
42	4.29	3.37	1.27	長円粒	14.48	中
43	4.57	3.34	1.37	長円粒	15.24	中
44	4.26	2.91	1.47	短短粒	12.41	中
45	4.40	3.38	1.30	長円粒	14.86	中
46	3.98	2.70	1.47	短短粒	10.75	小
47	3.93	2.23	1.77	中短粒	8.74	小
48	4.63	2.85	1.63	中短粒	13.17	中

11 1 区 EP229-F						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.88	2.72	1.79	中短粒	13.28	中
2	4.64	2.62	1.77	中短粒	12.13	中
3	4.23	2.90	1.46	短短粒	12.25	中
4	3.95	2.73	1.45	短短粒	10.78	小
5	4.17	2.49	1.68	中短粒	10.35	小
6	3.78	2.62	1.44	短短粒	9.87	小
7	4.44	2.57	1.72	中短粒	11.42	小
8	5.02	3.08	1.63	中短粒	15.44	中
9	4.65	2.61	1.78	中短粒	12.15	中
10	4.65	3.00	1.55	短短粒	13.93	中
11	4.55	2.63	1.73	中短粒	11.96	小
12	4.23	2.32	1.82	長短粒	9.79	小
13	4.41	2.61	1.69	中短粒	11.52	小
14	3.91	2.19	1.79	中短粒	8.57	小
15	4.15	2.58	1.61	中短粒	10.69	小
16	4.23	2.42	1.75	中短粒	10.25	小
17	4.30	2.43	1.77	中短粒	10.44	小
18	4.59	2.53	1.81	長短粒	11.60	小
19	4.28	2.96	1.45	短短粒	12.67	中
20	4.56	2.99	1.53	短短粒	13.64	中
21	4.22	2.48	1.70	中短粒	10.48	小
22	5.33	2.91	1.83	長短粒	15.52	中
23	4.35	2.67	1.63	中短粒	11.59	小
24	4.34	2.66	1.63	中短粒	11.57	小
25	3.92	2.55	1.54	短短粒	9.98	小
26	4.23	2.68	1.58	短短粒	11.32	小
27	4.19	2.48	1.69	中短粒	10.38	小
28	4.05	2.76	1.47	短短粒	11.15	小
29	4.21	2.43	1.73	中短粒	10.23	小
30	4.67	2.64	1.77	中短粒	12.32	中
31	4.57	2.61	1.75	中短粒	11.94	小
32	3.91	2.53	1.55	短短粒	9.89	小
33	4.60	2.89	1.59	短短粒	13.30	中
34	4.37	2.58	1.70	中短粒	11.26	小
35	3.63	2.17	1.68	中短粒	7.86	極小
36	3.89	2.32	1.68	中短粒	9.03	小
37	4.61	3.08	1.50	短短粒	14.20	中
38	4.51	2.68	1.68	中短粒	12.09	中
39	4.77	2.78	1.71	中短粒	13.28	中
40	4.10	2.46	1.66	中短粒	10.09	小
41	4.22	2.35	1.80	中短粒	9.90	小
42	3.79	2.66	1.43	短短粒	10.06	小
43	4.55	3.00	1.52	短短粒	13.65	中
44	4.62	3.01	1.54	短短粒	13.89	中
45	4.34	2.91	1.49	短短粒	12.63	中
46	2.79	4.38	0.64	短円粒	12.23	中
47	4.51	2.83	1.59	短短粒	12.74	中
48	4.24	2.84	1.50	短短粒	12.02	中
49	4.13	2.70	1.53	短短粒	11.13	小
50	4.31	2.80	1.54	短短粒	12.07	中

表 23　新庄城跡 炭化米観察表 5

12 SX119						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.32	3.02	1.43	短短粒	13.02	中
2	4.27	2.55	1.68	中短粒	10.87	小
3	4.94	3.23	1.53	短短粒	15.94	中
4	5.29	2.89	1.83	長短粒	15.28	中
5	4.12	2.70	1.53	短短粒	11.11	小
6	4.37	2.61	1.67	中短粒	11.41	小
7	4.67	2.97	1.58	短短粒	13.86	中
8	4.55	2.90	1.57	短短粒	13.22	中
9	4.97	2.94	1.69	中短粒	14.59	中
10	4.64	2.73	1.70	中短粒	12.67	中
11	4.28	2.74	1.56	短短粒	11.71	小
12	4.77	2.27	2.10	短長粒	10.83	小
13	3.91	2.35	1.66	中短粒	9.17	小
14	4.63	2.94	1.58	短短粒	13.59	中
15	5.10	2.96	1.72	中短粒	15.12	中
16	4.49	2.83	1.59	短短粒	12.70	中
17	3.98	2.30	1.73	中短粒	9.12	小
18	4.01	2.53	1.59	短短粒	10.12	小
19	4.17	3.06	1.36	長円粒	12.77	中
20	4.30	2.48	1.73	中短粒	10.65	小
21	4.49	2.63	1.70	中短粒	11.80	小
22	4.89	3.01	1.63	中短粒	14.72	中
23	4.04	2.36	1.71	中短粒	9.52	小
24	4.27	2.61	1.64	中短粒	11.15	小
25	3.48	2.15	1.62	中短粒	7.49	極小
26	4.42	2.48	1.78	中短粒	10.95	小
27	3.99	2.68	1.49	短短粒	10.69	小
28	5.09	2.81	1.81	長短粒	14.32	中
29	4.92	2.86	1.72	中短粒	14.07	中
30	4.37	2.62	1.67	中短粒	11.45	小
31	4.02	2.93	1.37	長円粒	11.79	小
32	3.96	2.20	1.80	中短粒	8.70	小
33	4.53	2.79	1.63	中短粒	12.63	中
34	4.56	2.88	1.58	短短粒	13.14	中
35	4.03	2.17	1.86	長短粒	8.72	小
36	4.44	2.80	1.59	短短粒	12.43	中
37	4.21	2.66	1.58	短短粒	11.21	小
38	4.02	2.39	1.69	中短粒	9.59	小
39	4.61	2.59	1.78	中短粒	11.95	小
40	4.60	2.55	1.80	長短粒	11.76	小
41	4.24	2.76	1.54	短短粒	11.68	小
42	4.83	2.61	1.85	長短粒	12.61	中
43	4.24	2.58	1.64	中短粒	10.95	小
44	4.33	2.47	1.76	中短粒	10.68	小
45	4.47	2.74	1.63	中短粒	12.27	中
46	4.60	2.75	1.67	中短粒	12.65	中
47	4.35	2.45	1.77	中短粒	10.66	小
48	4.05	2.75	1.47	短短粒	11.14	小
49	5.25	2.31	2.28	短長粒	12.10	中
50	4.58	2.61	1.76	中短粒	11.93	小

17 1 区 EP229						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.68	3.01	1.55	短短粒	14.09	中
2	4.01	2.67	1.50	短短粒	10.70	小
3	4.82	2.95	1.63	中短粒	14.24	中
4	4.91	3.52	1.40	長円粒	17.26	大
5	4.29	2.37	1.81	長短粒	10.15	小
6	4.68	2.59	1.81	長短粒	12.11	中
7	4.67	2.68	1.74	中短粒	12.53	中
8	4.23	2.64	1.60	中短粒	11.14	小
9	4.19	2.53	1.65	中短粒	10.63	小
10	4.31	2.97	1.45	短短粒	12.78	中
11	4.40	2.25	1.95	長短粒	9.90	小
12	4.78	2.89	1.66	中短粒	13.82	中
13	4.69	3.24	1.45	短短粒	15.17	中
14	4.78	2.80	1.70	中短粒	13.40	中
15	3.78	2.26	1.67	中短粒	8.54	小
16	4.55	2.74	1.66	中短粒	12.47	中
17	3.91	2.65	1.48	短短粒	10.34	小
18	4.17	2.23	1.86	長短粒	9.30	小
19	4.57	2.64	1.73	中短粒	12.07	中
20	4.55	2.89	1.58	短短粒	13.15	中
21	4.14	2.19	1.89	長短粒	9.06	小
22	3.77	2.18	1.73	中短粒	8.23	小
23	3.86	2.53	1.53	短短粒	9.77	小
24	3.95	2.15	1.84	長短粒	8.47	小
25	4.73	2.98	1.59	短短粒	14.10	中
26	4.65	2.67	1.74	中短粒	12.39	中
27	4.40	2.72	1.61	中短粒	11.97	小
28	4.10	2.32	1.76	中短粒	9.53	小
29	4.47	3.08	1.45	短短粒	13.76	中
30	3.69	2.32	1.59	短短粒	8.53	小
31	3.59	1.90	1.89	長短粒	6.82	極小
32	4.71	3.34	1.41	短短粒	15.75	中
33	4.99	2.58	1.94	長短粒	12.87	中
34	4.10	2.64	1.55	短短粒	10.84	小
35	3.81	2.79	1.36	長円粒	10.64	小
36	4.23	2.56	1.66	中短粒	10.82	小
37	4.53	2.78	1.63	中短粒	12.60	中
38	4.25	2.30	1.85	長短粒	9.79	小
39	4.11	2.65	1.55	短短粒	10.91	小
40	4.36	2.73	1.60	短短粒	11.88	小
41	4.14	2.54	1.63	中短粒	10.51	小
42	4.22	2.50	1.69	中短粒	10.53	小
43	4.11	2.42	1.69	中短粒	9.95	小
44	4.57	2.67	1.72	中短粒	12.20	中
45	4.57	2.63	1.73	中短粒	12.02	中
46	4.42	2.69	1.64	中短粒	11.90	小
47	3.94	2.52	1.56	短短粒	9.94	小
48	4.87	2.81	1.74	中短粒	13.67	中
49	4.23	2.94	1.44	短短粒	12.42	中

表 24　新庄城跡 炭化米観察表 6

24 3区剥ぎ取り南西壁Ⅲ層						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.16	3.20	1.30	長円粒	13.33	中
2	4.29	2.72	1.58	短短粒	11.64	小
3	4.88	3.57	1.37	長円粒	17.42	大
4	4.69	2.92	1.61	中短粒	13.68	中
5	4.31	2.90	1.49	短短粒	12.49	中
6	4.43	2.67	1.66	中短粒	11.84	小
7	4.55	3.07	1.48	短短粒	13.94	中
8	4.31	2.94	1.47	短短粒	12.68	中
9	4.32	2.44	1.77	中短粒	10.54	小
10	4.23	2.43	1.74	中短粒	10.26	小
11	4.10	2.25	1.82	長短粒	9.23	小
12	3.83	2.57	1.49	短短粒	9.85	小
13	4.61	2.98	1.55	短短粒	13.73	中
14	3.99	2.79	1.43	短短粒	11.11	小
15	4.25	2.78	1.53	短短粒	11.82	小
16	4.78	2.95	1.62	中短粒	14.12	中
17	4.54	2.49	1.82	長短粒	11.30	小
18	4.25	2.98	1.43	短短粒	12.64	中
19	4.53	2.51	1.81	長短粒	11.35	小
20	3.93	2.13	1.84	長短粒	8.38	小
21	4.51	2.73	1.65	中短粒	12.32	中
22	4.60	2.73	1.68	中短粒	12.56	中
23	4.09	2.85	1.43	短短粒	11.67	小
24	4.67	3.65	1.28	長円粒	17.07	大
25	4.58	3.04	1.51	短短粒	13.92	中
26	4.83	2.55	1.89	長短粒	12.31	中
27	4.52	2.51	1.80	長短粒	11.33	小
28	4.80	3.16	1.52	短短粒	15.20	中
29	4.77	2.84	1.68	中短粒	13.53	中
30	4.21	2.64	1.60	短短粒	11.10	小
31	4.47	2.89	1.55	短短粒	12.90	中
32	4.69	3.06	1.53	短短粒	14.34	中
33	4.74	3.11	1.52	短短粒	14.74	中
34	4.62	2.97	1.55	短短粒	13.70	中
35	3.49	2.18	1.60	短短粒	7.61	極小
36	5.04	3.09	1.63	中短粒	15.54	中
37	4.22	3.07	1.37	長円粒	12.94	中
38	4.25	2.84	1.50	短短粒	12.08	中
39	4.44	3.18	1.40	長円粒	14.12	中
40	4.91	3.07	1.60	短短粒	15.08	中
41	4.64	2.92	1.59	短短粒	13.53	中
42	4.38	2.87	1.53	短短粒	12.56	中
43	4.32	2.57	1.68	中短粒	11.08	小
44	4.54	2.66	1.71	中短粒	12.07	中
45	4.48	3.14	1.43	短短粒	14.08	中
46	5.04	3.33	1.51	短短粒	16.78	大
47	4.64	2.91	1.59	短短粒	13.51	中
48	5.06	2.58	1.96	長短粒	13.07	中
49	4.49	2.53	1.77	中短粒	11.35	小
50	4.54	2.63	1.72	中短粒	11.93	小

51 1区 EP227						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.22	2.11	2.00	短長粒	8.88	小
2	4.29	2.88	1.49	短短粒	12.36	中
3	4.28	2.68	1.60	短短粒	11.46	小
4	4.40	2.74	1.61	中短粒	12.05	中
5	4.16	2.72	1.53	短短粒	11.32	小
6	4.23	2.31	1.83	長短粒	9.78	小
7	4.37	2.31	1.89	長短粒	10.11	小
8	3.98	2.33	1.71	中短粒	9.28	小
9	3.76	2.69	1.40	長円粒	10.10	小
10	4.47	2.62	1.70	中短粒	11.72	小
11	3.84	2.81	1.37	長円粒	10.79	小
12	4.03	2.93	1.37	長円粒	11.81	小
13	4.68	3.04	1.54	短短粒	14.23	中
14	4.15	2.54	1.64	中短粒	10.52	小
15	4.16	2.40	1.74	中短粒	9.97	小
16	4.29	2.50	1.72	中短粒	10.70	小
17	4.77	2.70	1.77	中短粒	12.88	中
18	4.35	2.92	1.49	短短粒	12.68	中
19	4.13	2.73	1.51	短短粒	11.28	小
20	4.27	3.02	1.41	短短粒	12.88	中
21	4.21	2.55	1.65	中短粒	10.71	小
22	4.36	2.72	1.60	中短粒	11.85	小
23	4.68	3.00	1.56	短短粒	14.06	中
24	4.24	2.42	1.75	中短粒	10.27	小
25	4.39	2.63	1.67	中短粒	11.53	小
26	4.27	3.00	1.42	短短粒	12.83	中
27	3.97	2.40	1.65	中短粒	9.53	小
28	3.92	2.47	1.59	短短粒	9.68	小
29	4.59	3.03	1.51	短短粒	13.92	中
30	4.08	2.54	1.61	中短粒	10.35	小
31	4.46	2.80	1.59	短短粒	12.50	中
32	3.72	2.60	1.43	短短粒	9.66	小
33	4.08	2.26	1.81	長短粒	9.22	小
34	4.17	2.44	1.71	中短粒	10.17	小
35	4.57	2.77	1.65	中短粒	12.65	中
36	3.97	2.42	1.64	中短粒	9.61	小
37	4.07	2.35	1.73	中短粒	9.56	小
38	4.13	2.48	1.66	中短粒	10.23	小
39	3.81	2.31	1.65	中短粒	8.82	小
40	4.21	2.54	1.66	中短粒	10.69	小
41	4.57	2.45	1.87	長短粒	11.20	小
42	4.03	2.51	1.60	中短粒	10.12	小
43	4.52	2.73	1.66	中短粒	12.34	中
44	4.36	3.00	1.45	短短粒	13.07	中
45	3.93	2.39	1.65	中短粒	9.37	小
46	4.23	2.52	1.68	中短粒	10.67	小
47	4.24	2.80	1.52	短短粒	11.86	小
48	4.35	2.77	1.57	短短粒	12.06	中
49	4.81	2.61	1.84	長短粒	12.54	中
50	4.35	2.85	1.53	短短粒	12.42	中

表 25　新庄城跡 炭化米観察表 7

52 1 区 SX225 2228						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.13	2.66	1.55	短短粒	11.01	小
2	4.46	2.94	1.52	短短粒	13.10	中
3	4.00	2.73	1.47	短短粒	10.92	小
4	4.84	3.11	1.56	短短粒	15.07	中
5	4.04	2.69	1.50	短短粒	10.87	小
6	4.13	2.85	1.45	短短粒	11.77	小
7	4.82	3.22	1.50	短短粒	15.52	中
8	4.80	3.04	1.58	短短粒	14.60	中
9	5.08	2.79	1.82	長短粒	14.16	中
10	4.19	3.00	1.40	長円粒	12.54	中
11	4.73	3.11	1.52	短短粒	14.69	中
12	4.23	2.96	1.43	短短粒	12.50	中
13	4.57	3.41	1.34	長円粒	15.60	中
14	4.44	2.55	1.74	中短粒	11.32	小
15	4.78	3.16	1.51	短短粒	15.09	中
16	4.52	2.76	1.64	中短粒	12.47	中
17	4.11	2.55	1.61	中短粒	10.49	小
18	4.49	3.02	1.49	短短粒	13.55	中
19	4.14	2.90	1.43	短短粒	11.98	小
20	4.19	2.90	1.44	短短粒	12.16	中
21	4.67	2.92	1.60	中短粒	13.63	中
22	4.44	3.31	1.34	長円粒	14.71	中
23	4.04	2.38	1.70	中短粒	9.60	小
24	4.26	3.40	1.25	長円粒	14.49	中
25	3.98	2.59	1.54	短短粒	10.30	小
26	4.60	2.72	1.69	中短粒	12.52	中
27	4.31	3.16	1.36	長円粒	13.63	中
28	4.13	2.78	1.49	短短粒	11.49	小
29	4.52	2.45	1.84	長短粒	11.09	小
30	3.83	3.03	1.27	長円粒	11.59	小
31	5.01	2.99	1.68	中短粒	14.97	中
32	4.46	3.40	1.31	長円粒	15.16	中
33	4.87	2.91	1.68	中短粒	14.14	中
34	4.47	2.80	1.59	短短粒	12.53	中
35	4.06	2.42	1.68	中短粒	9.82	小
36	4.89	2.84	1.72	中短粒	13.89	中
37	4.17	2.26	1.85	長短粒	9.41	小
38	4.70	3.07	1.53	短短粒	14.42	中
39	4.17	2.63	1.59	短短粒	10.95	小
40	4.61	2.52	1.83	長短粒	11.61	小
41	4.54	2.72	1.67	中短粒	12.35	中
42	4.06	2.68	1.52	短短粒	10.86	小
43	4.94	3.15	1.57	短短粒	15.53	中
44	4.11	3.02	1.36	長円粒	12.39	中
45	4.33	2.71	1.60	短短粒	11.73	小
46	4.75	3.32	1.43	短短粒	15.76	中
47	4.83	3.02	1.60	中短粒	14.60	中
48	4.61	3.12	1.48	短短粒	14.36	中
49	4.16	2.81	1.48	短短粒	11.69	小
50	4.22	2.75	1.53	短短粒	11.63	小

53 1 区 SX225 2128						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.79	2.62	1.82	長短粒	12.55	中
2	4.75	2.96	1.60	中短粒	14.07	中
3	4.74	3.23	1.47	短短粒	15.30	中
4	3.74	2.67	1.40	短短粒	9.98	小
5	4.14	3.13	1.32	長円粒	12.96	中
6	4.52	2.68	1.69	中短粒	12.11	中
7	4.22	2.99	1.41	短短粒	12.62	中
8	4.83	3.37	1.44	短短粒	16.25	大
9	4.26	2.85	1.49	短短粒	12.15	中
10	4.62	2.30	2.01	短長粒	10.61	小
11	4.12	2.95	1.40	長円粒	12.15	中
12	4.34	3.06	1.42	短短粒	13.29	中
13	5.08	3.18	1.59	短短粒	16.17	大
14	4.27	2.74	1.56	短短粒	11.68	小
15	3.86	2.82	1.37	長円粒	10.85	小
16	4.36	2.88	1.51	短短粒	12.57	中
17	5.01	2.87	1.75	中短粒	14.35	中
18	4.46	2.42	1.84	長短粒	10.78	小
19	4.60	3.30	1.40	長円粒	15.19	中
20	3.92	2.82	1.39	長円粒	11.07	小
21	4.43	2.68	1.65	中短粒	11.87	小
22	4.28	2.72	1.57	短短粒	11.62	小
23	4.77	2.93	1.63	中短粒	13.97	中
24	4.22	3.56	1.19	中円粒	15.00	中
25	4.65	3.55	1.31	長円粒	16.47	大
26	5.02	3.05	1.64	中短粒	15.31	中
27	4.10	2.42	1.69	中短粒	9.93	小
28	4.12	2.59	1.59	短短粒	10.68	小
29	4.28	2.90	1.48	短短粒	12.42	中
30	4.84	3.60	1.35	長円粒	17.41	大
31	3.94	2.67	1.48	短短粒	10.52	小
32	4.40	2.62	1.68	中短粒	11.54	小
33	4.62	3.01	1.53	短短粒	13.93	中
34	4.26	2.80	1.52	短短粒	11.96	小
35	4.79	2.95	1.63	中短粒	14.12	中
36	4.67	2.98	1.56	短短粒	13.93	中
37	4.55	3.09	1.47	短短粒	14.05	中
38	4.00	2.52	1.59	短短粒	10.06	小
39	4.59	2.68	1.71	中短粒	12.29	中
40	4.57	3.17	1.44	短短粒	14.51	中
41	4.15	1.97	2.11	短長粒	8.16	小
42	4.41	2.43	1.81	長短粒	10.71	小
43	4.28	2.60	1.64	中短粒	11.13	小
44	4.42	2.42	1.83	長短粒	10.68	小
45	4.63	3.07	1.51	短短粒	14.21	中
46	4.40	3.01	1.46	短短粒	13.25	中
47	5.13	2.86	1.80	中短粒	14.68	中
48	4.20	2.68	1.57	短短粒	11.28	小
49	4.66	2.58	1.80	長短粒	12.04	中
50	4.79	2.64	1.81	長短粒	12.65	中

表 26　新庄城跡 炭化米観察表 8

54 1 区 SX200 2325F ②						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.35	2.65	1.65	中短粒	11.51	小
2	4.79	3.02	1.59	短短粒	14.48	中
3	4.73	3.33	1.42	短短粒	15.78	中
4	4.83	2.99	1.62	中短粒	14.44	中
5	3.84	2.40	1.60	中短粒	9.20	小
6	4.51	2.67	1.69	中短粒	12.02	中
7	4.34	3.02	1.44	短短粒	13.10	中
8	4.58	2.76	1.66	中短粒	12.66	中
9	4.91	2.85	1.72	中短粒	13.97	中
10	4.16	2.37	1.75	中短粒	9.85	小
11	3.98	2.49	1.60	短短粒	9.90	小
12	4.36	2.32	1.88	長短粒	10.11	小
13	5.09	3.07	1.66	中短粒	15.62	中
14	3.94	2.49	1.58	短短粒	9.80	小
15	4.33	2.78	1.56	短短粒	12.05	中
16	4.29	2.64	1.63	中短粒	11.31	小
17	4.39	2.77	1.59	短短粒	12.14	中
18	4.33	3.07	1.41	短短粒	13.28	中
19	4.61	3.11	1.49	短短粒	14.32	中
20	4.40	3.18	1.38	長円粒	14.00	中
21	3.89	2.31	1.68	中短粒	8.97	小
22	4.64	2.77	1.67	中短粒	12.85	中
23	4.48	2.67	1.68	中短粒	11.94	小
24	4.66	2.90	1.61	中短粒	13.50	中
25	3.99	2.60	1.53	短短粒	10.36	小
26	3.67	2.69	1.37	長円粒	9.87	小
27	4.80	3.56	1.35	長円粒	17.07	大
28	4.70	3.06	1.54	短短粒	14.38	中
29	4.44	3.02	1.47	短短粒	13.39	中
30	4.10	2.67	1.54	短短粒	10.94	小
31	3.52	2.40	1.47	短短粒	8.47	小
32	4.30	2.77	1.55	短短粒	11.92	小
33	4.42	2.98	1.48	短短粒	13.14	中
34	4.23	2.76	1.53	短短粒	11.68	小
35	4.13	2.51	1.64	中短粒	10.38	小
36	4.39	2.79	1.57	短短粒	12.24	中
37	3.99	2.40	1.67	中短粒	9.56	小
38	3.32	2.05	1.61	中短粒	6.81	極小
39	3.96	2.92	1.36	長円粒	11.55	小
40	4.19	2.73	1.54	短短粒	11.45	小
41	4.21	2.96	1.43	短短粒	12.46	中
42	4.57	2.71	1.69	中短粒	12.39	中
43	4.51	2.85	1.58	短短粒	12.84	中
44	4.61	2.66	1.73	中短粒	12.24	中
45	4.45	2.75	1.62	中短粒	12.23	中
46	4.46	2.48	1.80	中短粒	11.05	小
47	4.54	2.71	1.68	中短粒	12.29	中
48	4.95	3.00	1.65	中短粒	14.85	中
49	3.67	2.35	1.56	短短粒	8.64	小
50	3.69	1.91	1.93	長短粒	7.05	極小

57 1 区 2427G Ⅱ②						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.45	2.75	1.62	中短粒	12.23	中
2	4.37	2.99	1.46	短短粒	13.08	中
3	4.51	2.98	1.51	短短粒	13.45	中
4	4.23	2.85	1.48	短短粒	12.07	中
5	4.63	2.98	1.55	短短粒	13.78	中
6	4.21	2.94	1.43	短短粒	12.36	中
7	4.57	2.45	1.86	長短粒	11.21	小
8	4.03	2.42	1.66	中短粒	9.75	小
9	4.49	2.62	1.72	中短粒	11.75	小
10	4.43	2.72	1.63	中短粒	12.05	中
11	3.86	2.41	1.60	短短粒	9.29	小
12	4.31	2.51	1.72	中短粒	10.80	小
13	4.30	2.50	1.72	中短粒	10.76	小
14	4.48	2.75	1.63	中短粒	12.31	中
15	4.19	2.60	1.62	中短粒	10.89	小
16	4.26	3.17	1.34	長円粒	13.52	中
17	4.30	2.50	1.72	中短粒	10.75	小
18	4.88	2.92	1.67	中短粒	14.26	中
19	4.39	2.42	1.82	長短粒	10.62	小
20	4.86	2.48	1.96	長短粒	12.07	中
21	3.88	2.48	1.56	短短粒	9.61	小
22	3.96	2.42	1.64	中短粒	9.58	小
23	4.86	2.95	1.64	中短粒	14.34	中
24	4.10	2.29	1.79	中短粒	9.41	小
25	4.66	2.57	1.81	長短粒	11.99	小
26	4.81	3.04	1.58	短短粒	14.64	中
27	3.79	2.51	1.51	短短粒	9.50	小
28	4.14	2.93	1.41	短短粒	12.11	中
29	4.12	2.48	1.66	中短粒	10.22	小
30	4.35	2.93	1.49	短短粒	12.72	中
31	4.22	2.79	1.51	短短粒	11.78	小
32	4.50	2.77	1.63	中短粒	12.46	中
33	4.67	2.97	1.58	短短粒	13.85	中
34	4.91	2.98	1.65	中短粒	14.65	中
35	4.74	3.30	1.43	短短粒	15.64	中
36	4.27	2.46	1.74	中短粒	10.50	小
37	4.14	2.39	1.73	中短粒	9.90	小
38	4.13	2.39	1.72	中短粒	9.88	小
39	4.25	2.72	1.56	短短粒	11.58	小
40	4.47	2.65	1.69	中短粒	11.83	小
41	4.84	2.87	1.69	中短粒	13.90	中
42	4.51	3.10	1.46	短短粒	13.98	中
43	4.31	2.61	1.65	中短粒	11.23	小
44	4.17	2.58	1.61	中短粒	10.76	小
45	4.88	3.19	1.53	短短粒	15.57	中
46	4.81	3.12	1.54	短短粒	15.04	中
47	4.63	2.92	1.59	短短粒	13.49	中
48	4.39	3.21	1.37	長円粒	14.11	中
49	4.15	2.52	1.64	中短粒	10.45	小
50	4.83	2.49	1.94	長短粒	12.03	中

表 27　新庄城跡 炭化米観察表 9

64 1 区 2327G Ⅱ③						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.13	2.37	1.74	中短粒	9.80	小
2	4.55	2.86	1.59	短短粒	13.02	中
3	4.87	2.92	1.67	中短粒	14.24	中
4	4.19	2.38	1.76	中短粒	9.95	小
5	4.54	3.08	1.47	短短粒	14.01	中
6	5.06	3.16	1.60	中短粒	15.97	中
7	4.55	2.63	1.73	中短粒	11.95	小
8	4.41	2.84	1.55	短短粒	12.53	中
9	4.63	2.59	1.79	中短粒	11.98	小
10	4.20	2.89	1.45	短短粒	12.12	中
11	3.84	2.28	1.69	中短粒	8.76	小
12	4.05	2.33	1.73	中短粒	9.44	小
13	4.49	2.51	1.79	中短粒	11.28	小
14	4.39	2.80	1.57	短短粒	12.28	中
15	4.75	2.70	1.76	中短粒	12.81	中
16	4.45	3.09	1.44	短短粒	13.75	中
17	4.55	3.21	1.42	短短粒	14.60	中
18	4.26	2.59	1.64	中短粒	11.04	小
19	4.97	3.32	1.50	短短粒	16.47	大
20	3.86	2.47	1.56	短短粒	9.51	小
21	4.07	2.62	1.56	短短粒	10.64	小
22	4.21	2.38	1.77	中短粒	10.03	小
23	4.57	2.53	1.81	長短粒	11.58	小
24	5.22	3.20	1.63	中短粒	16.68	大
25	4.22	2.31	1.83	長短粒	9.74	小
26	4.08	2.66	1.53	短短粒	10.83	小
27	5.19	2.72	1.91	長短粒	14.14	中
28	5.03	2.92	1.72	中短粒	14.70	中
29	4.28	2.23	1.92	長短粒	9.53	小
30	4.67	2.52	1.86	長短粒	11.76	小
31	4.90	2.98	1.64	中短粒	14.58	中
32	4.79	2.96	1.62	中短粒	14.19	中
33	5.15	2.82	1.83	長短粒	14.51	中
34	4.30	2.40	1.80	中短粒	10.31	小
35	4.65	2.95	1.58	短短粒	13.74	中
36	4.64	2.85	1.63	中短粒	13.23	中
37	4.79	3.15	1.52	短短粒	15.09	中
38	4.85	2.88	1.69	中短粒	13.95	中
39	4.23	2.40	1.76	中短粒	10.15	小
40	4.98	2.87	1.74	中短粒	14.26	中
41	4.72	2.74	1.72	中短粒	12.95	中
42	4.73	2.56	1.85	長短粒	12.12	中
43	4.13	2.59	1.59	短短粒	10.67	小
44	3.97	2.44	1.63	中短粒	9.68	小
45	4.09	2.65	1.54	短短粒	10.83	小
46	4.19	2.49	1.68	中短粒	10.44	小
47	4.33	2.85	1.52	短短粒	12.37	中
48	4.50	2.54	1.77	中短粒	11.44	小
49	5.13	2.81	1.82	長短粒	14.41	中
50	4.51	2.40	1.87	長短粒	10.83	小

66 1 区東 2228 Ⅲ層①						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.41	3.03	1.46	短短粒	13.34	中
2	4.21	2.10	2.01	短長粒	8.82	小
3	4.08	3.12	1.31	長円粒	12.72	中
4	3.86	2.32	1.67	中短粒	8.92	小
5	4.08	2.35	1.74	中短粒	9.57	小
6	4.28	2.50	1.72	中短粒	10.69	小
7	4.01	2.75	1.46	短短粒	11.03	小
8	4.16	2.19	1.90	長短粒	9.13	小
9	4.45	2.74	1.63	中短粒	12.18	中
10	4.06	2.83	1.43	短短粒	11.49	小
11	3.95	2.51	1.57	短短粒	9.89	小
12	4.35	2.73	1.59	短短粒	11.87	小
13	4.19	2.47	1.70	中短粒	10.32	小
14	4.06	2.81	1.44	短短粒	11.42	小
15	3.59	1.98	1.81	長短粒	7.11	極小
16	5.01	3.16	1.59	短短粒	15.79	中
17	4.17	2.77	1.50	短短粒	11.54	小
18	4.27	3.20	1.34	長円粒	13.68	中
19	4.02	2.53	1.59	短短粒	10.17	小
20	3.77	2.58	1.46	短短粒	9.72	小
21	4.45	2.83	1.57	短短粒	12.59	中
22	4.19	2.81	1.49	短短粒	11.77	小
23	4.08	2.56	1.59	短短粒	10.46	小
24	4.73	2.98	1.59	短短粒	14.12	中
25	4.16	2.86	1.46	短短粒	11.90	小
26	4.03	2.55	1.58	短短粒	10.25	小
27	4.43	2.98	1.48	短短粒	13.20	中
28	4.33	2.64	1.64	中短粒	11.41	小
29	5.02	3.02	1.66	中短粒	15.16	中
30	3.96	2.60	1.52	短短粒	10.31	小
31	4.70	2.57	1.83	長短粒	12.07	中
32	4.66	2.26	2.06	短長粒	10.52	小
33	4.50	2.57	1.76	中短粒	11.56	小
34	4.57	2.48	1.84	長短粒	11.33	小
35	3.34	2.53	1.32	長円粒	8.44	小
36	4.35	2.57	1.69	中短粒	11.17	小
37	4.50	2.58	1.74	中短粒	11.63	小
38	4.39	3.10	1.42	短短粒	13.62	中
39	3.98	2.12	1.88	長短粒	8.45	小
40	4.67	3.21	1.46	短短粒	14.98	中
41	4.50	3.04	1.48	短短粒	13.69	中
42	4.81	3.29	1.46	短短粒	15.80	中
43	3.93	2.58	1.52	短短粒	10.13	小
44	4.52	2.56	1.77	中短粒	11.55	小
45	4.19	3.16	1.33	長円粒	13.22	中
46	4.14	2.96	1.40	短短粒	12.25	中
47	4.06	2.31	1.76	中短粒	9.37	小
48	4.26	2.93	1.45	短短粒	12.48	中

表 28　新庄城跡 炭化米観察表 10

69 1 区東 2129 Ⅲ層						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.45	2.65	1.68	中短粒	11.79	小
2	4.83	2.58	1.87	長短粒	12.47	中
3	4.66	2.52	1.85	長短粒	11.76	小
4	4.50	2.84	1.58	短短粒	12.78	中
5	3.80	2.42	1.57	短短粒	9.18	小
6	4.63	3.14	1.47	短短粒	14.55	中
7	4.60	2.32	1.99	長短粒	10.67	小
8	4.56	2.75	1.66	中短粒	12.55	中
9	4.23	2.18	1.94	長短粒	9.20	小
10	4.22	3.22	1.31	長円粒	13.56	中
11	4.83	3.04	1.59	短短粒	14.70	中
12	4.61	2.91	1.59	短短粒	13.40	中
13	4.18	2.52	1.66	中短粒	10.55	小
14	4.20	3.27	1.28	長円粒	13.75	中
15	4.34	3.21	1.35	長円粒	13.96	中
16	4.33	2.49	1.74	中短粒	10.79	小
17	4.04	2.74	1.47	短短粒	11.08	小
18	4.08	2.48	1.64	中短粒	10.10	小
19	4.17	2.78	1.50	短短粒	11.62	小
20	3.82	2.38	1.61	中短粒	9.07	小
21	4.05	2.64	1.53	短短粒	10.67	小
22	4.68	2.66	1.76	中短粒	12.46	中
23	4.71	2.33	2.03	短長粒	10.95	小
24	3.43	2.30	1.49	短短粒	7.90	極小
25	4.42	2.75	1.61	中短粒	12.15	中
26	4.47	2.79	1.60	中短粒	12.46	中
27	4.08	2.82	1.45	短短粒	11.50	小
28	4.65	3.62	1.28	長円粒	16.83	大
29	4.19	2.49	1.68	中短粒	10.44	小
30	3.93	3.02	1.30	長円粒	11.86	小
31	4.95	2.90	1.71	中短粒	14.32	中
32	4.51	2.45	1.84	長短粒	11.05	小
33	4.19	2.60	1.61	中短粒	10.87	小
34	3.69	2.72	1.36	長円粒	10.06	小
35	4.21	2.73	1.54	短短粒	11.51	小
36	4.84	2.90	1.67	中短粒	14.01	中
37	4.11	2.20	1.87	長短粒	9.04	小
38	4.48	2.59	1.73	中短粒	11.59	小
39	4.60	3.11	1.48	短短粒	14.30	中
40	4.69	2.44	1.92	長短粒	11.43	小
41	4.76	2.96	1.61	中短粒	14.11	中
42	4.60	2.90	1.59	短短粒	13.35	中
43	4.67	3.05	1.53	短短粒	14.22	中
44	4.53	2.70	1.68	中短粒	12.26	中
45	5.01	3.09	1.62	中短粒	15.45	中
46	4.17	2.62	1.59	短短粒	10.93	小
47	4.86	3.21	1.51	短短粒	15.60	中
48	5.06	3.02	1.68	中短粒	15.29	中
49	4.54	3.46	1.31	長円粒	15.70	中

75 1 区東 2228 Ⅲ層						
番号	長さ	幅	粒形		粒大	
	(mm)	(mm)	長幅比	型	長幅積	型
1	4.87	2.50	1.95	長短粒	12.20	中
2	4.58	3.18	1.44	短短粒	14.58	中
3	5.15	3.11	1.66	中短粒	16.04	大
4	4.21	2.69	1.56	短短粒	11.35	小
5	4.57	2.79	1.64	中短粒	12.76	中
6	4.65	2.89	1.61	中短粒	13.43	中
7	4.83	2.92	1.66	中短粒	14.10	中
8	4.70	2.88	1.63	中短粒	13.54	中
9	4.86	2.80	1.74	中短粒	13.57	中
10	4.89	2.54	1.93	長短粒	12.39	中
11	4.56	2.46	1.85	長短粒	11.22	小
12	4.76	2.67	1.78	中短粒	12.69	中
13	4.82	2.81	1.71	中短粒	13.54	中
14	4.59	2.41	1.90	長短粒	11.04	小
15	4.13	2.27	1.82	長短粒	9.38	小
16	4.40	2.69	1.64	中短粒	11.83	小
17	4.22	2.60	1.63	中短粒	10.97	小
18	4.08	2.75	1.49	短短粒	11.21	小
19	4.64	2.69	1.72	中短粒	12.50	中
20	4.46	3.05	1.46	短短粒	13.60	中
21	4.80	3.00	1.60	短短粒	14.40	中
22	4.79	2.94	1.63	中短粒	14.09	中
23	4.61	3.17	1.46	短短粒	14.60	中
24	4.99	2.21	2.26	短長粒	11.01	小
25	3.95	2.35	1.68	中短粒	9.29	小
26	4.40	2.79	1.57	短短粒	12.28	中
27	4.63	2.51	1.84	長短粒	11.60	小
28	3.84	2.63	1.46	短短粒	10.09	小
29	4.61	2.01	2.30	短長粒	9.25	小
30	4.33	2.75	1.58	短短粒	11.92	小
31	4.05	2.76	1.47	短短粒	11.19	小
32	5.03	3.11	1.62	中短粒	15.63	中
33	4.48	2.77	1.62	中短粒	12.41	中
34	3.68	2.24	1.64	中短粒	8.25	小
35	4.31	2.63	1.64	中短粒	11.32	小
36	4.41	3.00	1.47	短短粒	13.23	中
37	5.05	3.02	1.67	中短粒	15.27	中
38	4.36	2.73	1.60	短短粒	11.91	小
39	4.96	2.58	1.92	長短粒	12.81	中
40	4.53	3.10	1.46	短短粒	14.06	中
41	4.47	2.48	1.80	長短粒	11.11	小
42	4.67	2.51	1.86	長短粒	11.73	小
43	4.73	3.06	1.55	短短粒	14.46	中
44	4.16	2.77	1.50	短短粒	11.51	小
45	4.10	2.36	1.74	中短粒	9.65	小
46	4.79	2.36	2.04	短長粒	11.29	小
47	4.62	2.49	1.86	長短粒	11.51	小
48	4.92	2.78	1.77	中短粒	13.70	中
49	4.16	2.96	1.41	短短粒	12.29	中
50	4.56	2.84	1.60	中短粒	12.97	中

3　微化石分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

1　はじめに

「新庄城跡」は、山形県北部新庄市堀端町地内に立地する遺跡である。また発掘調査が行われた場所は、新庄城内堀と外堀の間、本丸東方に位置する「米蔵屋敷地」内と考えられている（第 1 図）。

本報は文化財調査コンサルタント株式会社が、新庄城及び周辺地域での古植生を明らかにする目的で、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターからの委託を受け実施・報告した、花粉分析及び植物珪酸体分析に関する調査報告書を再編したものである。

2　分析試料について

全ての試料は、公益財団法人 山形県埋蔵文化財センターからの御提供を受けた。また、以下に示す平面図及び断面図も、公益財団法人 山形県埋蔵文化財センターより御提供を受けた原図をもとに、作成した。

試料が採取された 4 トレンチの位置を、第 154 図に示す。更に 4 トレンチ断面図を、第 155 図に示す。ハッチで示した 10a 層（試料№ 1）、10b 層（試料№ 2）で試料が採取されていた。

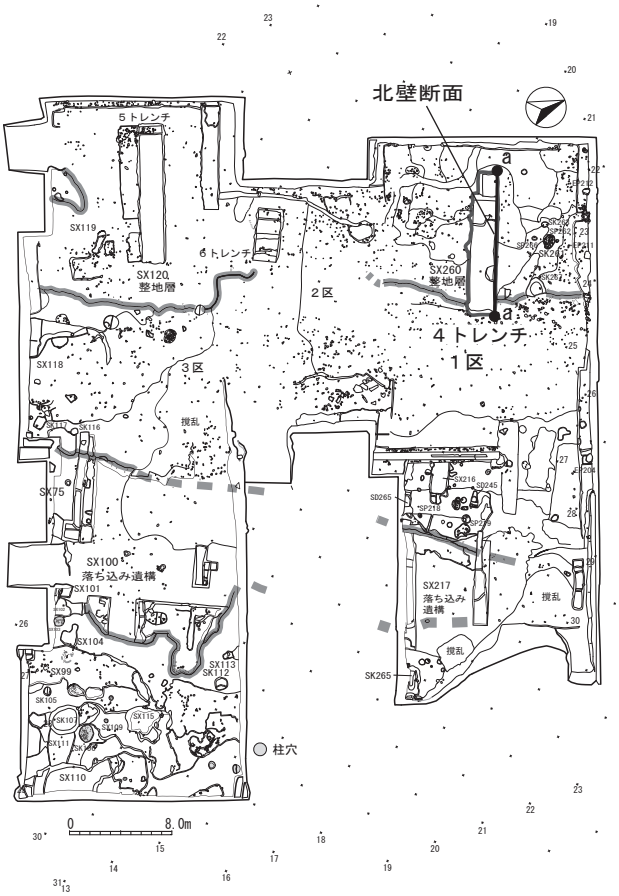
3　分析方法

（1）微化石概査方法

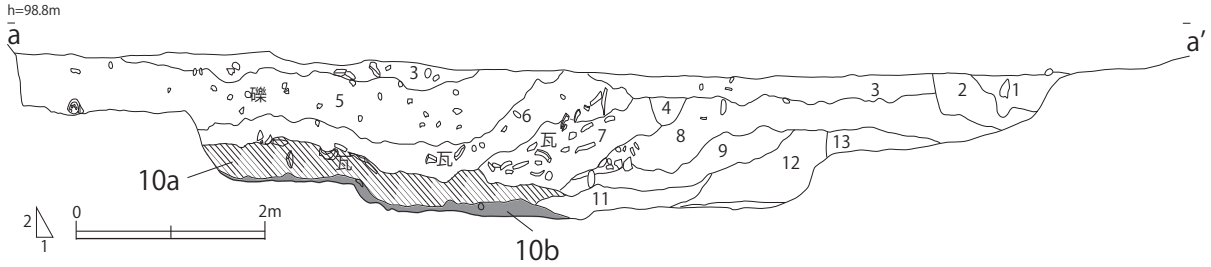
花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉（胞子）、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を 5 段階で示した。

（2）花粉分析方法

渡辺（2010）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ



第 154 図　調査トレンチ平面図（試料採取断面の位置）



1　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　しまり強　粘性中　撹乱　上層に黒褐色シルト層が入る。
2　10YR2/1　黒色シルト　しまり強　粘性中　炭化物（直径 5mm）を微量酸化鉄を少量含む。
3　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり強　粘性中　炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2% にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 2%。
4　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり強　粘性中　炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3% にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 20mm）を 3%。
5　10YR2/1　黒色シルト　しまり強　粘性中　礫（直径 70 ～ 80mm）を 7% 炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 3%。
6　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり強　粘性中　にぶい黄橙シルトブロック（直径 10 ～ 50mm）を 50% 含む炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1%。
7　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり強　粘性中　にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 50mm）を 10% 炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 2% 瓦を多く含む。
8　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり強　粘性中　にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 10mm）を 20% 黒色シルトブロック（直径 10 ～ 30mm）を 70% 瓦を含む炭化物（直径 10 ～ 20mm）を 5%。
9　10YR3/2　黒褐色シルト　しまり強　粘性中　炭化物（直径 5 ～ 10mm）を 1% 含む　焼土粒（直径 5 ～ 10mm）を 1%。
10a　10YR2/1　黒色シルト　しまり強　粘性中　炭化物塊（直径 10 ～ 100mm）を 15% にぶい黄橙シルトブロック（直径 5 ～ 30mm）を 10%。
10b　10YR4/1　褐灰シルト　しまり強　粘性中。
11　10YR2/1　黒色シルト　しまり中　粘性中　上層に炭化物の層あり　植物依存体を 多く含む。
12　10YR4/1　褐灰シルト　しまり強　粘性中　上層に炭化物混じりの層あり　酸化鉄を含む。
13　10YR6/3　にぶい黄橙シルト　しまり強　粘性やや強い　地山。

第 155 図　1 区 4 トレンチ北壁断面図（試料採取層準）

600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40 ミクロン以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科 (40 ミクロン未満) に細分した。

（3）植物珪酸体分析方法

藤原（1976）のグラスビーズ法に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。同定に際して、母植物との対応が明らかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群（表 29）を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が 300 を超えるまで、計数を行った。

4　分析結果

（1）微化石概査結果

微化石概査結果を、表 30 に示す。

花粉化石の含有量は 10a 層ではやや少なかったが、両試料共に統計処理に十分な量が検出できた。微粒炭、火山ガラスは豊富に含まれていた。植物片、珪藻化石、植物珪酸体化石は、やや少なかった。

表 29　同定・検鏡対象分類群
(同定分類群と推定母植物の関係)

同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
1	1	イネ	イネ
3	3	イネ籾殻（穎の表皮細胞）	イネ
	21	ムギ類（穎の表皮細胞）	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属（シコクビエ型）	シコクビエ
	61	キビ族型	ヒエ・アワ・キビ
	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
	66	エノコログサ属型	アワ
	84	ウシクサ族Ｂ	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
4	11	サヤヌカグサ属	サヤヌカグサ・アシカキ
	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属型	シバ属
	71	トダシバ属	トダシバ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族Ａ	チガヤ属など
	201	メダケ節型	メダケ節
	203	ネザサ節型	ネザサ節
	205	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
	207	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
	209	マダケ属型	マダケ属
	350	カヤツリグサ科（スゲ属など）	スゲ属
	390	シダ類	シダ類
	501	ブナ科（シイ属）	シイ類
	503	ブナ科（アカガシ亜属）	カシ類
	510	クスノキ科	バリバリノキなど（クスノキ以外）
	520	マンサク科（イスノキ属）	イスノキ属
	530	アワブキ科	アワブキ科
	540	モクレン属型	モクレン属
	570	マツ科型	マツ科
	580	マツ属型	マツ属
母植物との対応が明らかな分類群			
栽培植物との対応が明らかな分類群			

（2）花粉分析結果

分析結果を第 156 図の花粉ダイアグラム、第 31 表の花粉組成表に示す。

花粉ダイアグラムでは分類ごとに百分率（百分率の算出には、木本花粉総数を基数にしている。）を、分類群ごとに異なるハッチのスペクトルで表した。このほか、[総合ダイアグラム] として分類群ごとの割合を示したほか、[含有量ダイアグラム] として分類群ごとに含有量（湿潤試料 1g 中の粒数）を算出し、変化を示している。

また花粉化石組成表には、検出数、分類ごとの百分率（基数：木本花粉総数）、含有量の総数（粒数 /g）を示している。

検出された花粉化石群集は、胞子化石の割合が 10% 以下で、木本花粉 47 ～ 32%、草本・藤本花粉が 47 ～ 58% を示した。いずれの試料でも、木本花粉ではマツ属 (複維管束亜属）が 28、42%、スギ属が 63、43% と高率を示した。草本花粉では、イネ科（40 ミクロン未満）が 33、87%、イネ科（40 ミクロン以上）が 45、58% と高率を示した。草本花粉ではヨモギ属も 11、20% とやや高率を示し、栽培種であるソバ属が僅かに検出できた。

（3）植物珪酸体分析結果

植物珪酸体分析の結果を、第 157 図の植物珪酸体ダイアグラムと表 32 の植物珪酸体化石組成表に示す。

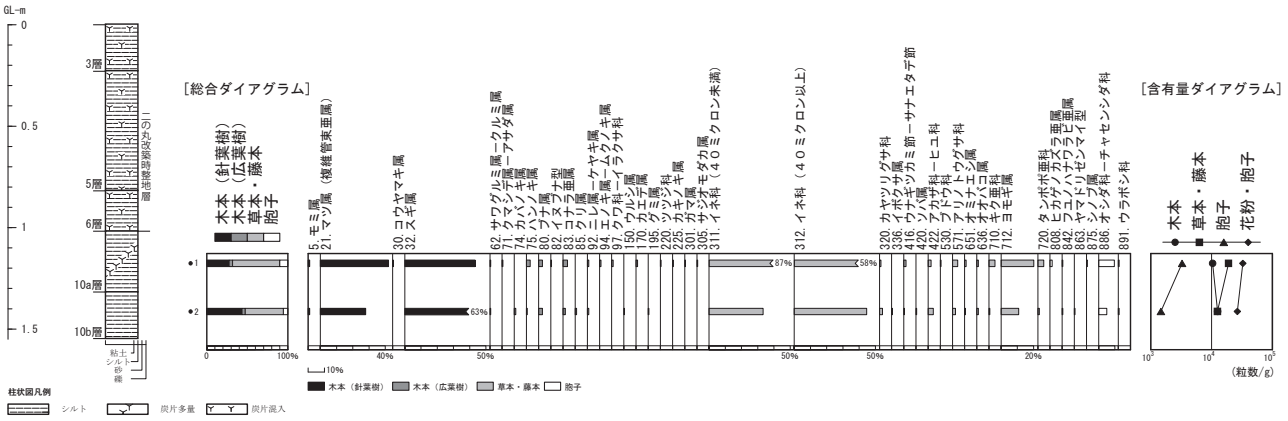
植物珪酸体ダイアグラムでは、検出密度を分類群ごとにスペクトルで表している（イネ科（機動細胞）は黒、樹木起源は白のスペクトルで表すが、今回は樹木起源の植物珪酸体は未検出）。また、寒暖の指標である「メダケ率」と、関東地方での積雪量の指標である「チマキザサ節型 / ミヤコザサ節型」をグラフで示した。

検出された植物珪酸体化石群集では、全体に、ススキ属型、イネが多量に検出できた。また、上位の 10a 層（試料№ 1）ではイネが 9600 粒 /g、下位の 10b 層（試料№ 2）でも 7000 粒 /g の検出密度を示した。

表 30　微化石概査結果

地区	地点	地層	試料No.	花粉	微粒炭	植物片	珪藻	植物珪酸体	火山ガラス
1区	4トレンチ北壁	10a	1	○	◎	○	○	○	◎
		10b	2	◎	◎	○	○	○	◎

凡例 ◎ ： 十分な数量が検出できる　○ ：少ないが検出できる　△ ：非常に少ない
△× ： 極めてまれに検出できる　× ：検出できない

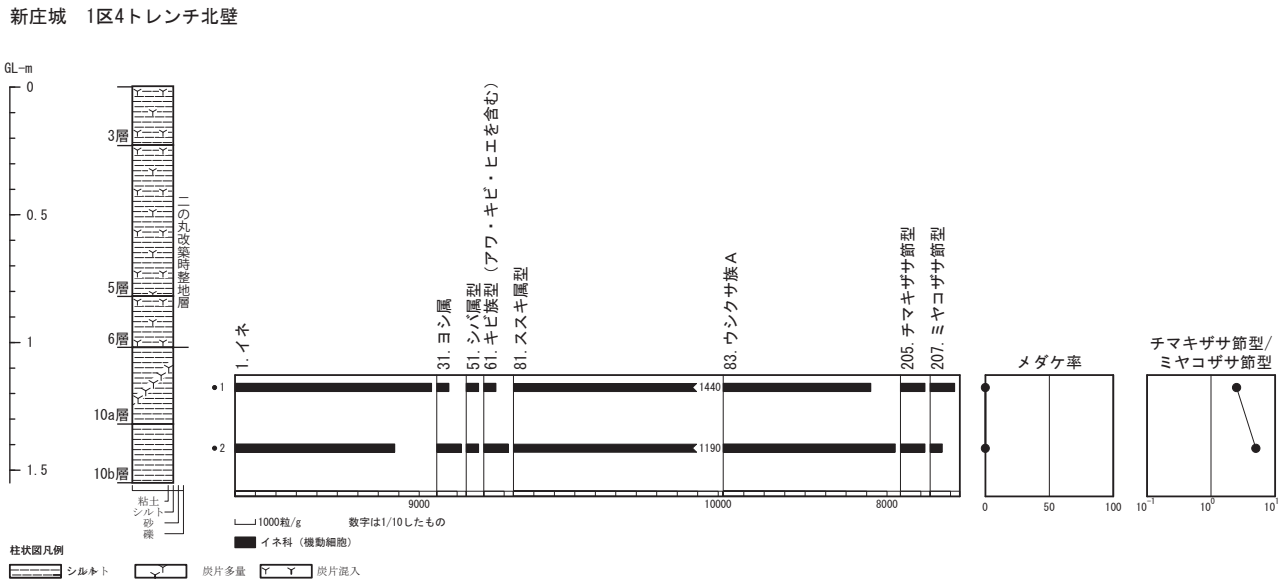


第 156 図　花粉組成ダイアグラム

表 31　花粉組成表

	調査区		1区			
	調査地点		4トレンチ			
	地層		10a		10b	
		試料No.	1		2	
5	*Abies*	モミ属	2	0.9%	2	0.9%
21	*Pinus*（*Diploxylon*）	マツ属（複維管束亜属）	92	42.0%	62	27.9%
30	*Sciadopitys*	コウヤマキ属	1	0.5%		
32	*Cryptomeria*	スギ属	95	43.4%	140	63.1%
62	*Pterocarya-Juglans*	サワグルミ属－クルミ属	1	0.5%	1	0.5%
71	*Carpinus-Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	1	0.5%		
74	*Betula*	カバノキ属			2	0.9%
75	*Alnus*	ハンノキ属	5	2.3%	1	0.5%
80	*Fagus*	ブナ属	5	2.3%	5	2.3%
82	*Fagus japonica* type	イヌブナ型	1	0.5%		
83	*Quercus*	コナラ亜属	6	2.7%	3	1.4%
85	*Castanea*	クリ属			2	0.9%
92	*Ulmus-Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属	2	0.9%	2	0.9%
94	*Celtis-Aphananthe*	エノキ属－ムクノキ属	2	0.9%		
97	Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科	2	0.9%		
150	*Rhus*	ウルシ属			1	0.5%
170	*Acer*	カエデ属	2	0.9%		
195	*Elaeagunus*	グミ属			1	0.5%
220	Ericaceae	ツツジ科	1	0.5%		
225	*Diospyros*	カキノキ属	1	0.5%		
301	*Typha*	ガマ属	1	0.5%		
305	*Alisma*	サジオモダカ属	1	0.5%		
311	Gramineae(<40)	イネ科（40ミクロン未満）	190	86.8%	74	33.3%
312	Gramineae(>40)	イネ科（40ミクロン以上）	127	58.0%	99	44.6%
320	Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	0.9%	4	1.8%
336	*Aneilema*	イボクサ属			1	0.5%
416	*Echinocaulon-Persicaria*	ウナギツカミ節－サナエタデ節	3	1.4%	1	0.5%
420	*Fagopyrum*	ソバ属			1	0.5%
422	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	4	1.8%	7	3.2%
530	Vitaceae	ブドウ科	1	0.5%		
571	Haloragaceae	アリノトウグサ科	7	3.2%	4	1.8%
636	*Plantago*	オオバコ属	2	0.9%	2	0.9%
651	*Patrinia*	オミナエシ属	2	0.9%	1	0.5%
710	Carduoideae	キク亜科	8	3.7%	1	0.5%
712	*Artemisia*	ヨモギ属	44	20.1%	24	10.8%
720	Cichorioideae	タンポポ亜科	8	3.7%	2	0.9%
808	Subgenus Lycopodium	ヒカゲノカズラ亜属	3	1.4%		
842	Subgenus Sceptridium	フユノハナワラビ亜属	1	0.5%	1	0.5%
863	*Osmunda Cinnamomea type*	ヤマドリゼンマイ型			1	0.5%
875	*Davallia*	シノブ属	1	0.5%		
886	Aspid.-Asple.	オシダ科－チャセンシダ科	21	9.6%	11	5.0%
891	Polypodiaceae	ウラボシ科	1	0.5%	1	0.5%
898	MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	7	3.2%	2	0.9%
899	TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	35	16.0%	10	4.5%
木本（針葉樹）			190	27.6%	204	43.5%
木本（広葉樹）			29	4.2%	18	3.8%
草本・藤本			400	58.1%	221	47.1%
胞子			69	10.0%	26	5.5%
総数			688		469	
含有量(粒数/g)			32,630		26,445	

左よりカウント粒数、百分率



第 157 図　植物珪酸体ダイアグラム

5　花粉分帯

花粉分析で解析を実施する際に、通常は花粉化石群集の特徴を基に花粉分帯を実施し、分帯ごとに古植生、古気候の復元を行う。今回の分析では試料間で花粉化石群集の違いが僅かであったことから、花粉分帯を行わなかった。

6　花粉分析結果から復元される植生

今回の分析試料は、二の丸改築前の旧表土とされる 10a 層、10b 層から採取されていた。10a 層から元禄期の陶磁器が出土しており、17 世紀末～ 18 世紀初頭を含む時期に 10a 層が形成されたと考えられる。今回の分析では木本花粉でマツ属とスギ属が高い割合を示し、僅かながらブナ属、コナラ亜属が検出された。このことから、アカマツを主要素とする薪炭林が新庄盆地周辺の丘陵～山地に広く分布していたと考えられる。またスギ属は一般的に、谷筋や扇状地端部など水環境の良い場所に生育する。新庄盆地全体が最上川の支流升形川と新田川の扇状地であり、更にこれらに合流する小河川も扇状地を成しているなど、スギの生育に適していたと考えられ、盆地内に広く分布していたと考えられる。また、僅かに検出されるブナ属やコナラ亜属は、現在も周辺山地に分布するブナ林やミズナラ林に由来したと考えられる。

草本ではイネ科(40 ミクロン以上)が高率で検出され、イネ由来の植物珪酸体も高い検出密度を示した。このことは調査地での水田の存在（分析試料が水田作土であったこと）を示唆する。また、微量であるがソバ属も検出され、水田の裏作などで栽培されていたと考えられる。

一方、草本花粉ではイネ科（40 ﾐｸﾛﾝ未満）やヨモギ属も高率で出現する。イネ科（40 ﾐｸﾛﾝ未満）は植物珪酸体の多量に検出されたススキ属型やウシクサ族に由来すると考えられ、ススキ類やチガヤ類にヨモギ類が混交

表 32　植物珪酸体化石組成表

調査区		1区	
調査地点		4トレンチ	
	地層	10a	10b
	試料No.	1	2
1	イネ	16	13
		96	78
		2.82	2.28
31	ヨシ属	1	2
		6	12
		0.38	0.75
51	シバ属型	1	1
		6	6
		–	–
61	キビ族型	1	2
		6	12
		–	–
81	ススキ属型	24	20
		144	119
		1.78	1.48
83	ウシクサ族A	12	14
		72	84
		–	–
205	チマキザサ節型	2	2
		12	12
		0.09	0.09
207	ミヤコザサ節型	2	1
		12	6
		0.04	0.02
プラント・オパール総数		59	55
カウントガラスビーズ数		424	430
カウント総数		483	485
試料重量(×0.0001g)		8490	8330
ガラスビーズ重量(×0.0001g)		236	234
メダケ率(%)		0.0	0.0
チマキザサ節型/ ミヤコザサ節型		2.50	5.00

上段　検出粒数
中段　検出密度（単位；×100粒/g）
下段　推定生産量（単位；kg/㎡・cm）

する草地の広がりも推定できる。

前述のように 10a 層は出土遺物から 17 世紀末～ 18 世紀初頭を含む時期に形成されたと考えられる。一方、下位の 10b 層からは遺物が検出されず、形成時期が不明である。10b 層と 10a 層では花粉化石群集に若干の差が認められることから、今後新庄盆地内での花粉化石層序が明らかになれば、10b 層に含まれる花粉化石群集との比較（花粉層序学的検討）から、10b 層の形成時期が明らかになる可能性がある。

7　既存花粉分析結果との比較

新庄城が所在する新庄盆地周辺では、地坂台遺跡や下中田遺跡などの縄文時代の遺跡で花粉分析が行われているものの（新山，2008a，2008b）、近世における花粉分析の報告は皆無である。このため本報告が、近世の新庄盆地周辺での古植生について、最初に触れたことになる。

一方、新庄盆地南方に位置する山形盆地周辺では、中世から近世の山城である中山城跡で花粉分析報告がされている（パリノ・サーヴェイ（株）2009）ほか、長表遺跡ではやや遡った中世堀跡での花粉分析が報告されている（パリノ・サーヴェイ（株）2001）。

中山城跡（パリノ・サーヴェイ（株）2009）では、武家屋敷内の遺構埋土を対象とした花粉分析が行われており、遺構ごとに異なる木本花粉組成が得られている。これらの遺構の幾つかからブナ属が高率で出現したことから、周囲の山地でブナ林が分布したことが指摘されている。ここで復元された盆地周辺山地の景観は、新庄盆地で復元できた景観と大差ない。一方、今回同様にマツ属やスギ属が高率を占める遺構もある。遺構によって得られた木本花粉化石群集が異なることから、マツ類やスギ類の分布を広域な分布ではなく、遺跡近辺（中山城内）での植栽など、局地的な植生を示していると考えている。

改めて今回の植生復元結果を見た場合、調査地が新庄城二の丸敷地内であることを踏まえると、多量に検出されたマツ属やスギ属花粉が、二の丸で植栽された樹木に由来する可能性が指摘できる。アカマツやスギの実際の分布域を明らかにするためには、今後新庄盆地内での花粉分析例を増やす必要がある。

今回の分析試料は、二の丸改築前の旧表土とされる 10a 層、10b 層から採取されていた。第 155 図（1 区 4 トレンチ北壁断面図）では、両層の上面は水平ではなく、特に 10b 層上面は階段状を示しているなど、盛り土の可能性が指摘できる。このことは、前述のように 10a 層、10b 層を成す堆積物が水田作土と考えられることと整合的である。前述のように花粉層序学的検討が成されれば、10a 層、10b 層の形成（堆積）時期が明らかになり、それぞれの層の由来が分かる可能性がある。

両層が盛り土であるとすれば、どこから持ち込まれたものかでマツ属やスギ属の推定分布域も変わってくる。今後、10a 層、10b 層の堆積状況についても検討し、両層が盛り土であったか否かの判断をする必要がある。仮に両層が盛り土であった場合、どこから持ち込まれた土砂を利用したかも、今後の検討課題となる。

8　まとめ

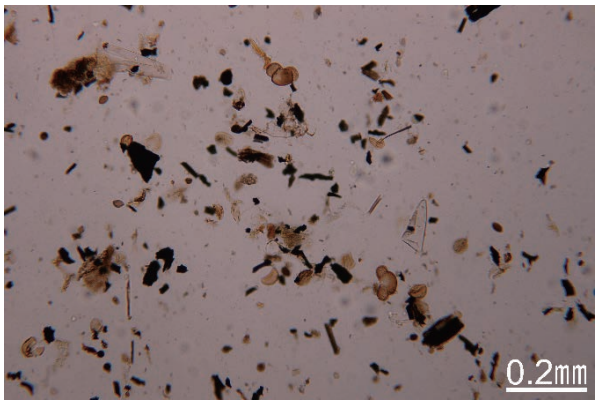
新庄城二の丸跡での発掘調査に伴って、花粉分析、植物珪酸体分析を行った。この結果、以下の事柄が明らかになった。

花粉分析の結果を基に、近世の新庄盆地周辺における森林景観を復元した。特筆すべき点は、周辺山地でのアカマツ薪炭林の分布と、平野部でのスギ林の分布である。一方、マツ類やスギは、城内で植栽されていた可能性も指摘できた。

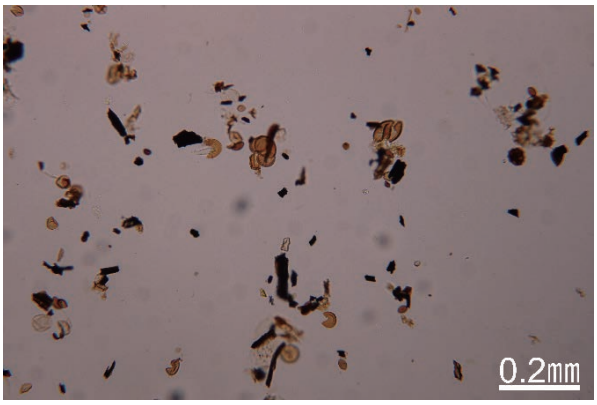
花粉分析結果、植物珪酸体分析結果から、分析対象とした 10a 層、10b 層に水田耕土の可能性が指摘できた。二の丸敷地内であることと、両層の堆積状況から、両層に盛り土の可能性が指摘できた。また今後、花粉層序学的検討が可能になれば、10b 層の形成（堆積）時期が明らかになる可能性がある。

引用文献

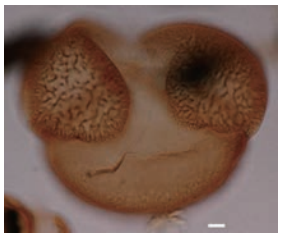
中村　純　1974 「イネ科花粉について、特にイネを中心として」『第四紀研究』13　p.187 ～ p.197
新山雅広　2008a 「地坂台遺跡の花粉化石群集」『地坂台遺跡・下中田遺跡・太郎水野 1 遺跡・太郎水野 2 遺跡発掘調査報告書 第一分冊』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 166　p.141 ～ p.143.
新山雅広　2008b 「下中田遺跡の花粉化石群集」『地坂台遺跡・下中田遺跡・太郎水野 1 遺跡・太郎水野 2 遺跡発掘調査報告書 第一分冊』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 166　p.144 ～ p.143.
パリノ・サーヴェイ株式会社　2001 「長表遺跡の自然科学分析（抜粋）」.『長表遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 87　付編 p.1 ～ p.5
パリノ・サーヴェイ株式会社　2009 「中山城跡の自然科学分析」『中山城跡 第 1・2 次発掘調査報告書（第一分冊 本文・表紙）』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 178　p.52 ～ p.91
藤原宏志　1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) －数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』9　p.15 ～ p.29
渡辺正巳　2010 「花粉分析法」『必携 考古資料の自然科学調査法』p.174 ～ p.177　ニュー・サイエンス社，東京.



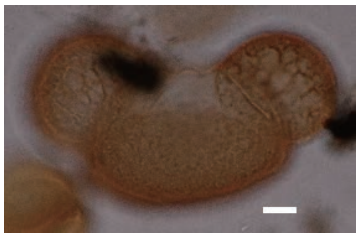
検出状況：No. 1



検出状況：No. 2



モミ属



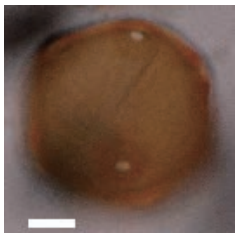
マツ属（複維管束亜属）



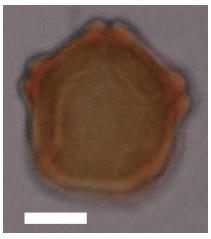
スギ属



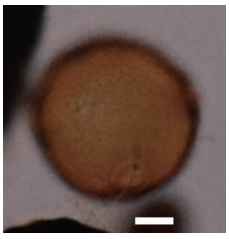
スギ属



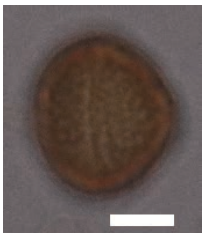
クルミ属ー
サワグルミ属



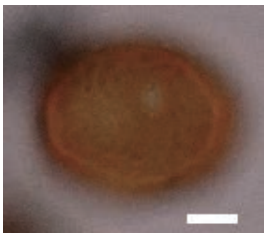
ハンノキ属



ブナ属



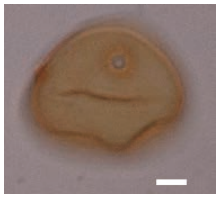
アカガシ亜属



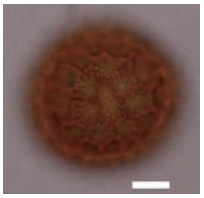
ニレ属ーケヤキ属



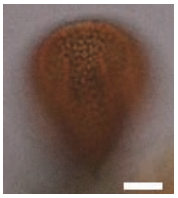
イネ科
（40ミクロン未満）



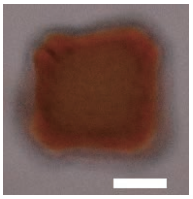
イネ科
（40ミクロン以上）



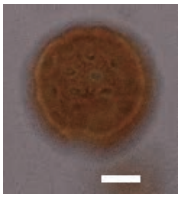
ウナギツカミ節ー
サナエタデ節



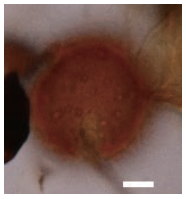
ソバ属



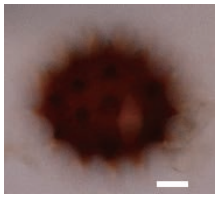
アリノトウグサ科



アカザ科ー
ヒユ科



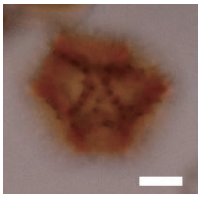
オミエナシ属



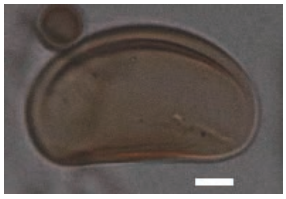
キク亜科



ヨモギ属



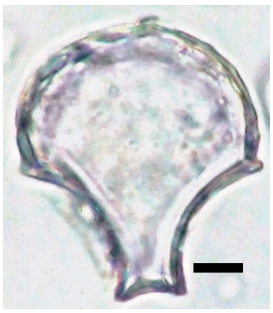
タンポポ亜科

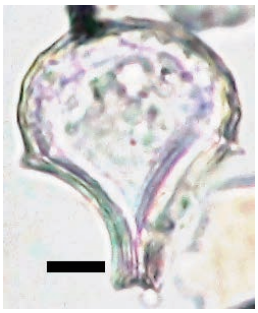


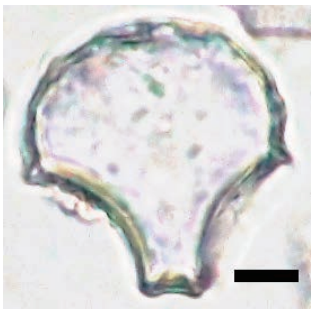
オシダーチャセンシダ科

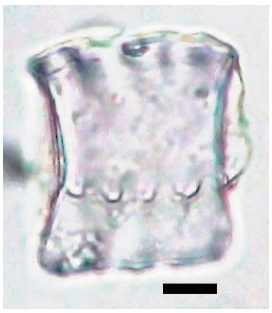
記述のあるもの以外、
スケールバーは 0.01㎜

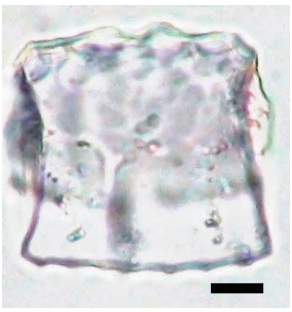
第 158 図　花粉・胞子化石　光学顕微鏡写真

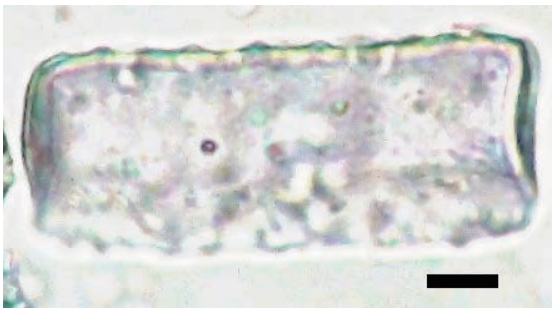

イネ

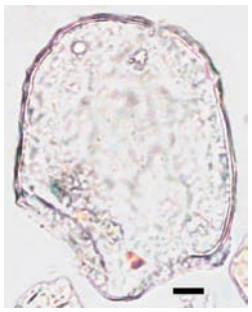

イネ

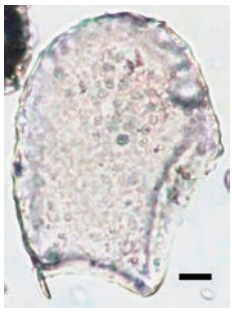

イネ

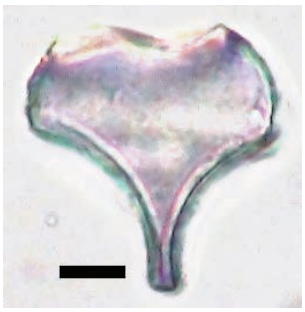

イネ（側面）

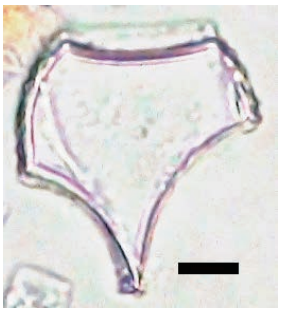

イネ（側面）

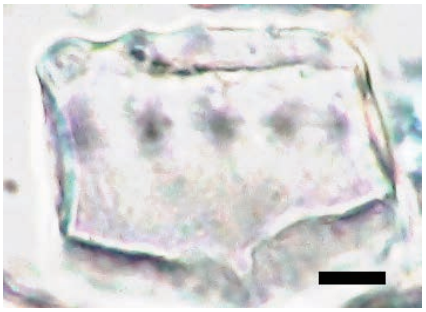

キビ族型

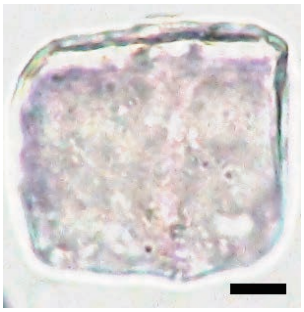

ヨシ属


ヨシ属


シバ属型


シバ属型


ススキ属型


ウシクサ族 A

スケールはすべて 0.01 ㎜

第 159 図　植物珪酸体化石　光学顕微鏡写真

Ⅴ　総　括

1　遺構と遺物の概要と考察

A　遺構の概要

新庄城二の丸跡では、第一面－近現代、第二面－幕末の戊辰戦争による火災面、第三面－米蔵設置前、江戸時代前半の面の三面の遺構面の調査を行った。

第一面では、昭和 49 年に移転した新庄北高等学校の旧校舎建物跡が確認された。建物はコンクリート基礎で、その下に基礎を据えた根石が確認された。校舎建物の建設、解体により、下の江戸時代の面の遺構が掘削され、その時期の遺物がこの時期の層に含まれていた。

第二面では（第 160 図）、焼土遺構、建物跡、柱穴、土坑、瓦廃棄遺構、整地層などが検出された。焼土遺構は、戊辰戦争の火災により米蔵などの建物が焼けた跡と考えられ、覆土に炭化材や炭化米を含む。1 区西 SX254 焼土遺構は、焼土面に建物の部材の炭化材が出土し、その中の SB247 建物跡が火災により焼失したと考えられる。1 区東の SX225 焼土遺構は、建物礎石などは確認されなかったが、焼土塊や炭化米が大量に残されていた。3 区西の SX84 焼土遺構も、強く焼けた焼土面が広がり、炭化米や炭化材の層や建物の土壁に由来すると考えられる焼土ブロックが覆っていた。

建物跡は、1 区西地区の調査区北壁にかかる礎石 2 基で構成される SB201 礎石建物跡、その北側に短い間隔で礎石列が南北方向に並ぶ SB247 礎石建物跡、1 区東地区に柱穴が集中する地点に重複し、SB268、SB269、SB270 の 3 棟の礎石建物跡がある。柱穴内には根固石が認められる。柱穴の出土遺物は、18 世紀～ 19 世紀代となり、この時期に建て替えされたと推測される。SB201 は米蔵建物の礎石と考えられ、絵図面のように（写真図版 1 下）南北方向に長軸がある建物と推測される。SB247 は別の建物で、蔵の柱を支える柱群や建物に関係する付属施設の可能性がある。

第 3 面で確認された遺構であるが（第 161 図）、3 区東側を中心に南北方向に延びる浅い溝状の遺構や（SX99・SX109）、礎石建物跡（SB122）、柱穴、土坑、落ち込み遺構（SX100、SX75、SX217）を確認した。3 区東側は、築城時には屋敷地的な場所であった事が推測される。屋敷地の西隣には、SX100、SX75、SX217 落ち込み遺構が確認され、整地し埋め立てた事が判明した。SX100 出土遺物の時期より、17 世紀後半から 18 世紀初め頃の時期に埋没したと推測される。調査区西端にも落ち込む地形が確認され、北側の SX260 整地層、南側の SX120 整地層を検出した。トレンチによる確認では、深い箇所では厚さ 80 ～ 90cm に及び、整地層底面付近から瓦が密に入り固く整地された状況が確認された。築城前や当初は、田畑や屋敷地の一部として利用されていた西側の場所を、大量の瓦と土砂を入れ整地した事が明らかとなった。SX120 整地層 4 トレンチの下面より、17 世紀末頃の肥前磁器が出土しており、整地層の形成もこの時期から開始された事がうかがわれる。

この 17 世紀後半頃の時期であるが、新庄藩二代藩主の戸沢正誠（まさのぶ）により、新庄城の改築・整備が行われており、この時期に米蔵も設置されたとされる（大友 2006）。二の丸内の調査区地点は、初代藩主の頃に武家屋敷地であったものが、米蔵へ転換されたものと思われる。1 区・3 区の調査区西側の整地層は、同じ頃に埋め立てて造成が開始され、その後も断続的に整地が行われていたと考えられる。

B　出土遺物について

最も古い時期の遺物として、奈良・平安時代の須恵器蓋が出土している。しかし、遺構に伴うものではない。

中世前半の遺物も少量ながら出土した。室町時代の中国産青磁碗や皿、国産陶器では珠洲や須恵器系陶器の甕、擂鉢、壺などが認められる。この時期の遺構は確認されず、近世の遺構に含まれて出土している。

近世であるが、陶磁器は肥前陶器が出土量の多くを占める。16 世紀末～ 17 世紀初め頃では、肥前陶器は胎土目段階の小皿や少量の鉄絵の皿が出土する。その他、美濃産を中心とする小皿類や志野菊皿、碗、向付など

も見られる。中国産の青花も出土する（第 162 図上）。ただし、この時期の遺物が単独で出土する遺構はない。16 世紀末は新庄の豪族であった日野左京がこの地に城を構えていた時期と推測され、その後、最上家家臣となった日野将監が慶長 19 年（1614）に新庄を領有し新庄城を本拠とした時期である（新庄市 1992）。

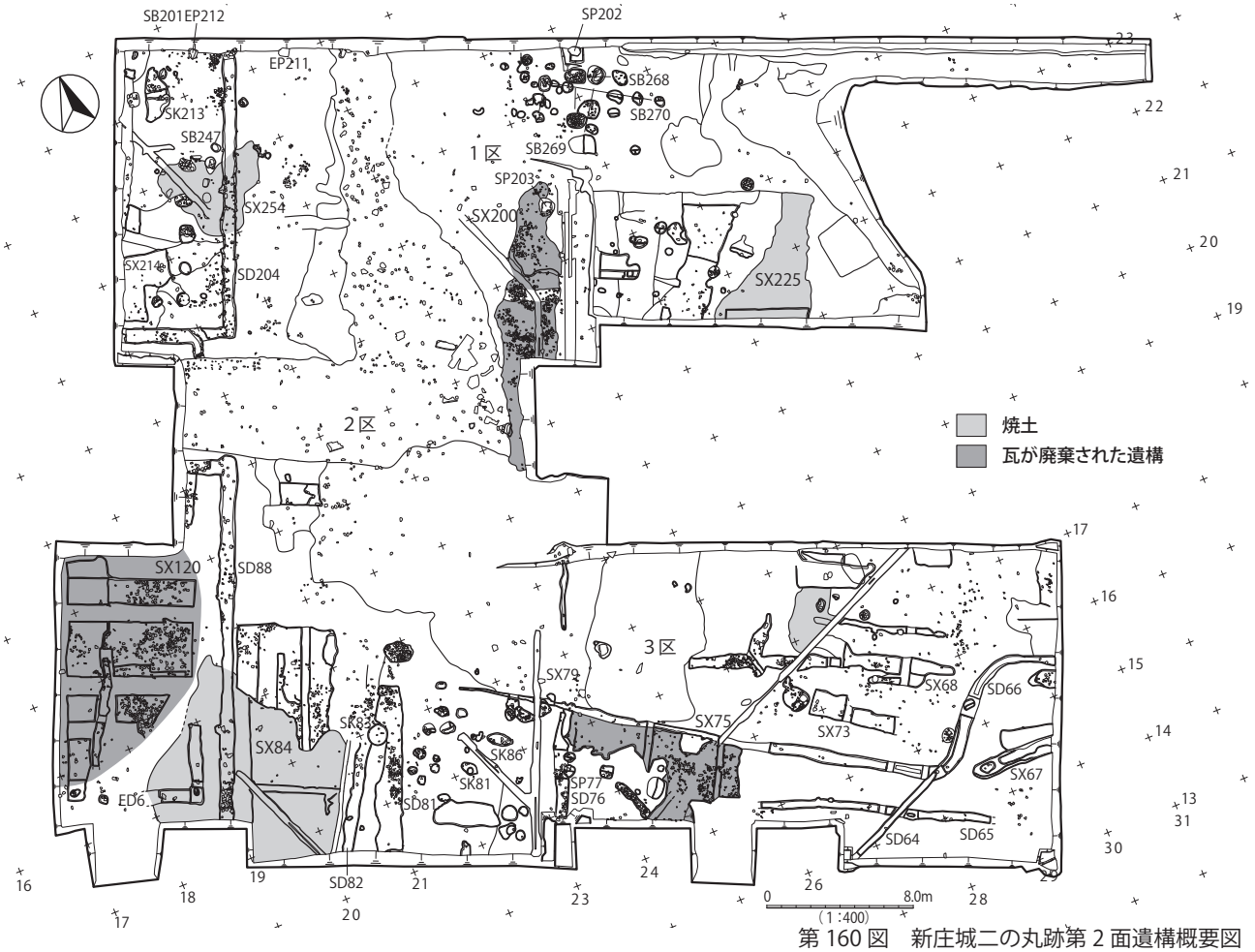
17 世紀前半は肥前陶器の出土量が増え、瀬戸・美濃産陶器の出土は少量である。また、1630 年代～ 1650 年代の肥前磁器の出土が認められる。青花の皿・大皿類がこの時期に伴う（第 162 図）。この時期は、日野将監が新庄城を居城としていたが、元和 8 年（1622）の最上氏改易に伴い、新庄藩初代藩主の戸沢政盛が入部し、寛永 2 年（1625）に新庄城を居城として築城・整備した時期である。

17 世紀後半の時期は、3 区東第 3 面の遺構を中心に、肥前産陶磁器の出土が多く（第 162・163 図・表 33 の左側）、武家屋敷で使用されるようなランクが高い陶磁器が出土する様相が見られる。この時期は二代目藩主正誠の治世である。

17 世紀末から 18 世紀代の時期であるが、1・3 区西側の整地層を中心として、肥前陶磁器が多く出土する。17 世紀末から 18 世紀初めは、ランクの高い陶磁器が見られるが、以後は波佐見産のくらわんか手の碗・皿類などの安価な量産品が多くを占める（第 163 図・表 33 右側）。また焼塩壺が落ち込み遺構や整地層から出土し、刻印や形状より 18 世紀代に関西から流通したと考えられる。

19 世紀代の陶磁器は出土量が少ない。肥前磁器や瀬戸・美濃産磁器、その他に在地の可能性がある陶磁器が伴う（第 164 図）。地元で生産された新庄東山焼も出土するが少ない。廃城後の造成などの影響も考えられる。

瓦は、コンテナで約 300 箱超、総重量で約 3890kg が出土し（表 34 参照）、最も出土量が多い遺物である。1 区 SX260 やⅣ層、SX200 瓦廃棄遺構、3 区 SX260 整地層やⅣ層で大量に出土している。本瓦葺きであり、軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦、谷丸瓦、谷唐草瓦、輪違い、鯱瓦、鬼瓦などが出土した。瓦は黒瓦と赤瓦が認められ、ほとんどが黒瓦になる。軒丸瓦の文様は九曜文と巴文が



第 160 図　新庄城二の丸跡第 2 面遺構概要図

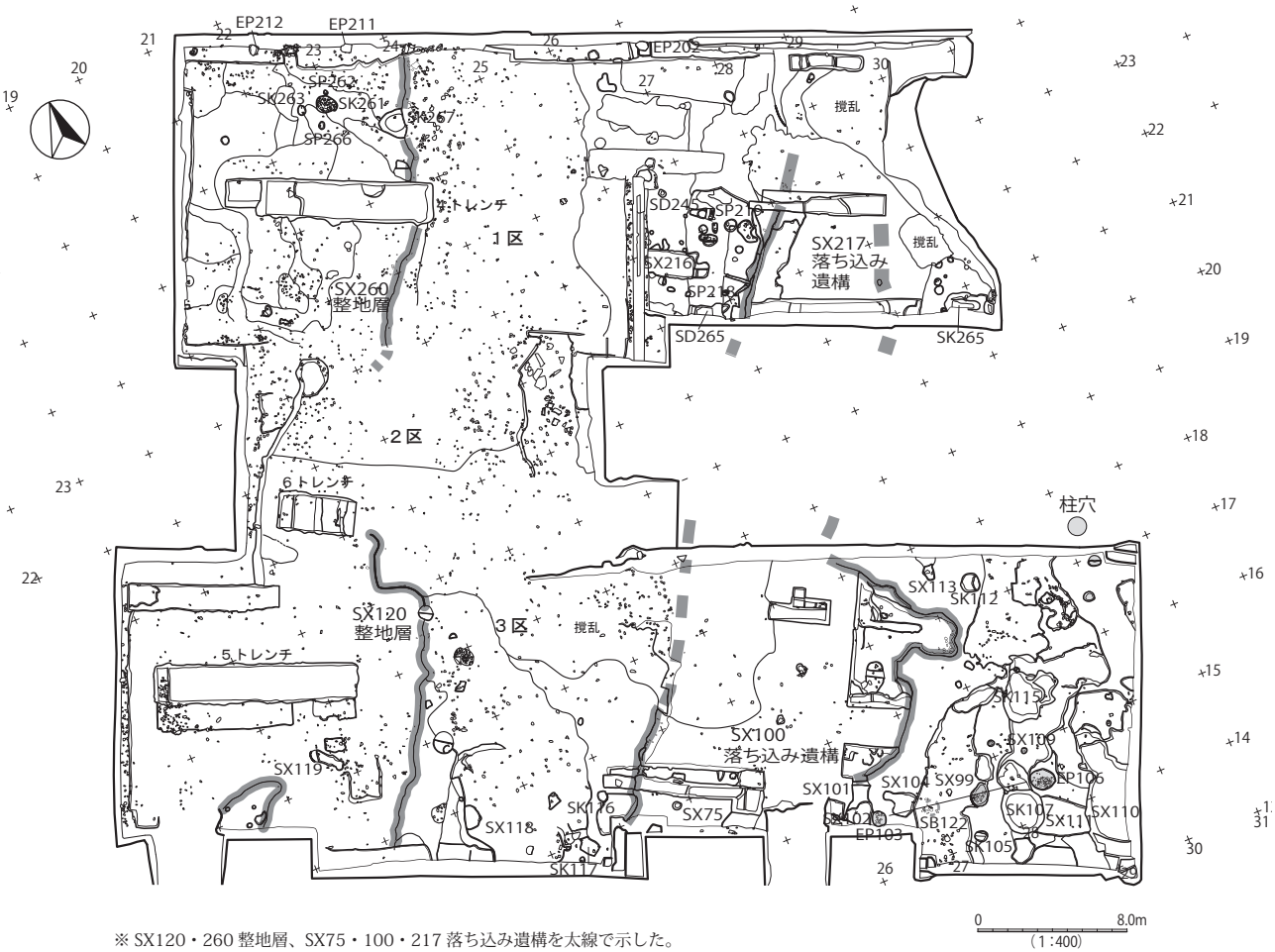
あり、九曜文は細分される。平瓦の文様は均整唐草文で細分される。鯱瓦はすべて黒瓦で、鱗の表現から３タイプが認められる。本丸東南隅櫓跡から出土した鯱瓦では（長沢 1988）、黒瓦と赤瓦が出土している。廃棄された瓦は製作時期に時期差が存在すると考えられる。また、鯱瓦は、城内の櫓や門などの限られた建物しか葺かれていない（絵図面による）ため、当地点の出土瓦は、城内の種々の建物に葺かれた瓦も搬入・廃棄されて混在していると推測される。正保の絵図面（17 世紀中頃）に、櫓や門の屋根に瓦が葺かれた表現がある。この頃には既に瓦が葺かれていたと考えられる。しかし城内全ての建物に葺かれていたわけではない。生産地は、市内の東山地区横前に瓦窯が存在し、その地で製作されていた事が指摘されている（大友 1991）。また、市内の谷地小屋地内で黒瓦の製作が行われていた可能性も指摘されている（大友 1992）。胎土分析では、出土した黒瓦と赤瓦、横前の近代に操業していた窯跡資料のサンプルを分析した結果、窯跡の瓦は赤瓦に一致し、同地点の窯跡外出土の溶着した瓦片は黒瓦に近いとの見解が得られた。

その他、金属製品として和釘が大量に出土した。これらは、この地点の建物や米蔵に由来すると考えられる。また、第３面の遺構から鉄砲の玉が出土した事や、第２面から銃の部品が出土した事も注目される。

以上のように、出土遺物により新庄城へ流通した江戸時代の陶磁器の様相や、建物に葺かれた瓦の様相など、大きな成果が得られた。

引用・参考文献

大友義助　1991 『新庄市横前の瓦人形』 新庄市教育委員会
大友義助　1992 「新庄城の瓦はどこで焼かれたか」『最上地域史』14　pp.50-53
大友義助　2006 『新庄藩』現代書館
新庄市　1989 『新庄市史　第一巻　自然・原始・古代・中世編』
新庄市　1992 『新庄市史　第二巻　近世（上）』
長沢正機　1988 『新庄城東南隅櫓跡発掘調査報告書』新庄市教育委員会



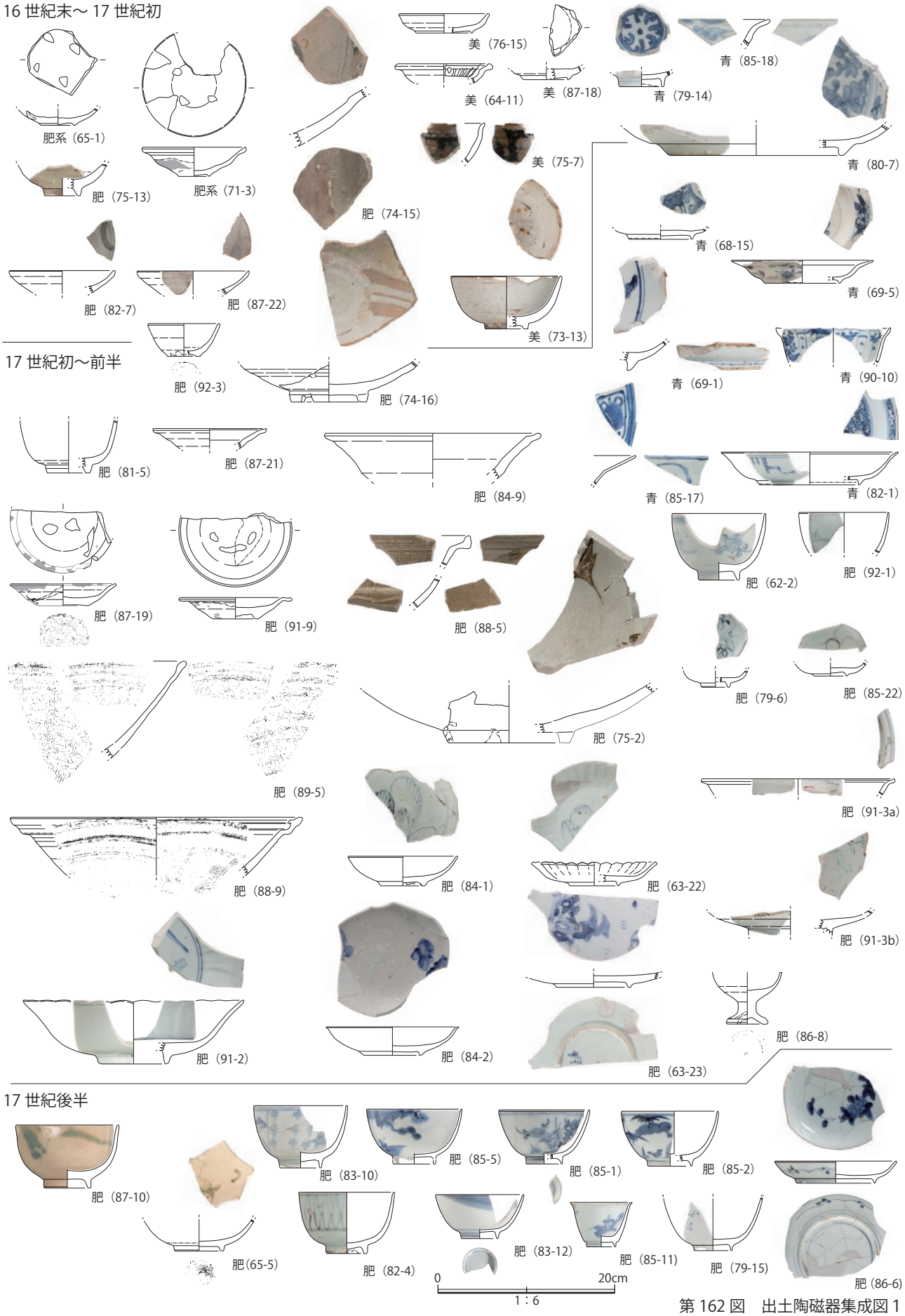
※ SX120・260 整地層、SX75・100・217 落ち込み遺構を太線で示した。

第 161 図　新庄城二の丸跡第３面遺構概要図

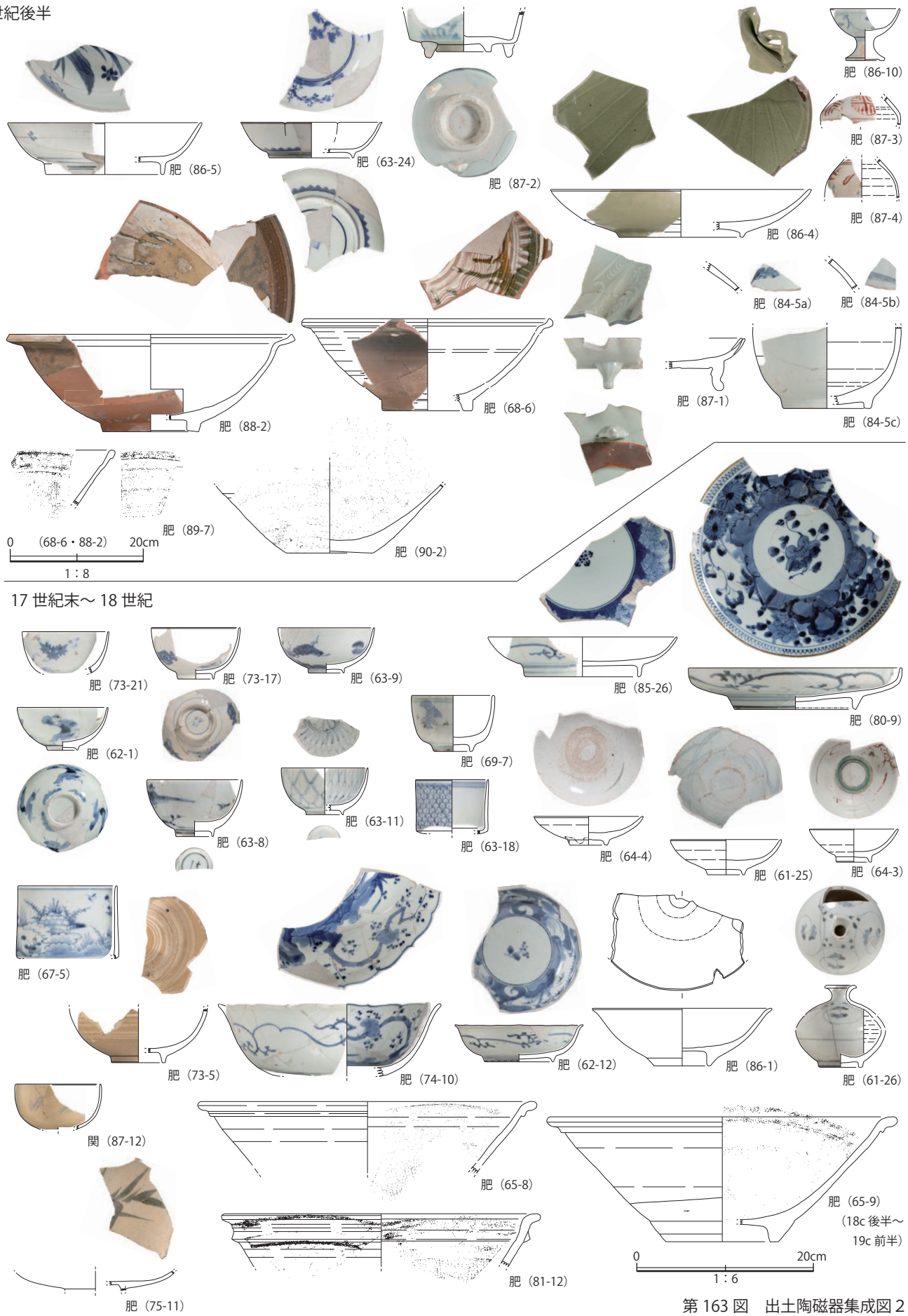
16 世紀末～ 17 世紀初

17 世紀初～前半

17 世紀後半

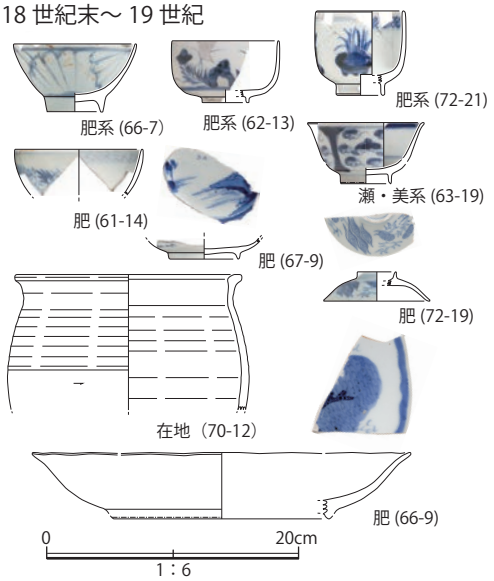


第 162 図　出土陶磁器集成図 1



第 163 図　出土陶磁器集成図 2

18 世紀末～ 19 世紀



第 164 図　出土陶磁器集成図 3

表 33　出土陶磁器の産地組成
※復元後の判別可能な個体を集計

第 3 面 SX100 出土陶磁器

産地	個数	比率
肥前磁器	64	58.72%
肥前陶器	35	32.11%
瀬戸・美濃	5	4.59%
青花	3	2.75%
関西系陶器	1	0.92%
在地	1	0.92%
合計	109	100%

第 3 面 SX99・109 出土陶磁器

産地	個数	比率
肥前磁器	34	70.83%
肥前陶器	12	25.00%
青花	1	2.08%
信楽陶器	1	2.08%
合計	48	100%

第 3 面 SX260 出土陶磁器

産地	個数	比率
肥前磁器	37	64.91%
肥前陶器	11	19.30%
瀬戸・美濃	3	5.26%
関西系	2	3.51%
在地	2	3.51%
不明	2	3.51%
合計	57	100%

1 区西Ⅳ層出土陶磁器

産地	個数	比率
肥前磁器	21	56.76%
肥前陶器	2	5.41%
瀬戸・美濃	5	13.51%
備前系	1	2.70%
関西系陶器	3	8.11%
在地	5	13.51%
合計	37	100%

表 34　出土遺物の集計表（中世・近世・近現代）　※重量は、瓦が kg、その他は g で表記。点数は接合前破片数である。

地区	遺構・グリッド	中世陶磁器		近世陶磁器		近現代陶磁器		瓦		金属製品		石製品		ガラス	
		重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数
1 区東	SX200	0	0	1336.0	126	12.5	8	801.957	6493	43.5	4	18.0	3	0	0
1 区東	SP202	0	0	4.5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP203	0	0	1.5	1	0	0	0.171	3	0	0	0	0	0	0
1 区東	SX216	0	0	247.0	24	0	0	0.355	9	95.5	9	0	0	0	0
1 区東	SX217	0	0	3278.5	254	0	0	28.935	185	23.0	5	13.5	2	0	0
1 区東	SX217 中央トレ西端	0	0	0	0	0	0	0.044	1	34.0	4	0	0	0	0
1 区東	SX219	0	0	0	0	0	0	1.466	9	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP220	0	0	11.5	3	0	0	0.729	1	0	0	0	0	0	0
1 区東	SK221	0	0	155.5	5	0	0	1.705	11	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP222	0	0	25.5	7	0	0	0.294	2	0	0	0	0	0	0
1 区東	SK223	0	0	50.0	11	0	0	0.52	5	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP224	0	0	70.0	8	0	0	6.774	23	1.5	1	0	0	0	0
1 区東	SX225	0	0	790.0	21	0	0	14.624	97	95.0	5	38.5	2	0	0
1 区東	SP226	0	0	0	0	0	0	1.007	15	0	0	0	0	0	0
1 区東	SK227	0	0	0.5	1	0	0	1.186	16	0	0	215.0	1	0	0
1 区東	SP228	0	0	0	0	0	0	0.2	5	10.0	1	0	0	30.0	1
1 区東	SP229	0	0	666.5	13	0	0	0.125	3	0	0	306.5	1	0	0
1 区東	SP230	0	0	24.0	4	0	0	0.256	3	0	0	2.5	1	0	0
1 区東	SP231	0	0	115.0	3	0	0	0.029	1	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP234	0	0	59.0	5	0	0	0.38	8	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP236	0	0	0	0	0	0	0.064	1	33.0	3	0	0	0	0
1 区東	SP237	0	0	369.0	6	0	0	0.151	2	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP238	0	0	31.0	4	0	0	0.068	3	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP239	0	0	7.0	1	0	0	0.124	1	9.5	1	0	0	0	0
1 区東	SP240	0	0	6.5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP241	0	0	5.0	3	0	0	0.212	2	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP242	0	0	0	0	0	0	0.524	5	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP243	0	0	13.5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 区東	SP244	0	0	144.0	4	0	0	0.045	1	0	0	0	0	0	0
1 区東	SD245	0	0	438.0	11	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0
1 区東	SD246	0	0	18.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1 区東	SD253	0	0	96.5	17	35.5	8	4.067	53	0	0	0	0	0	0
1 区東	グリッド	0	0	97.0	13	83.0	8	18.768	342	0	0	0	0	0	0
1 区東	グリッドⅡ	3.0	1	1310.0	174	570.0	58	51.87	581	386.0	10	14.5	3	0	0
1 区東	グリッドⅡ・Ⅲ	0	0	0	0	0	0	1.007	11	0	0	0	0	0	0
1 区東	グリッドⅢ	0	0	837.5	58	2.0	3	30.1421	314	19.5	2	48.0	2	0	0
1 区東	グリッドⅣ	0	0	1772.5	144	34.0	5	5.027	32	0	0	0	0	0	0

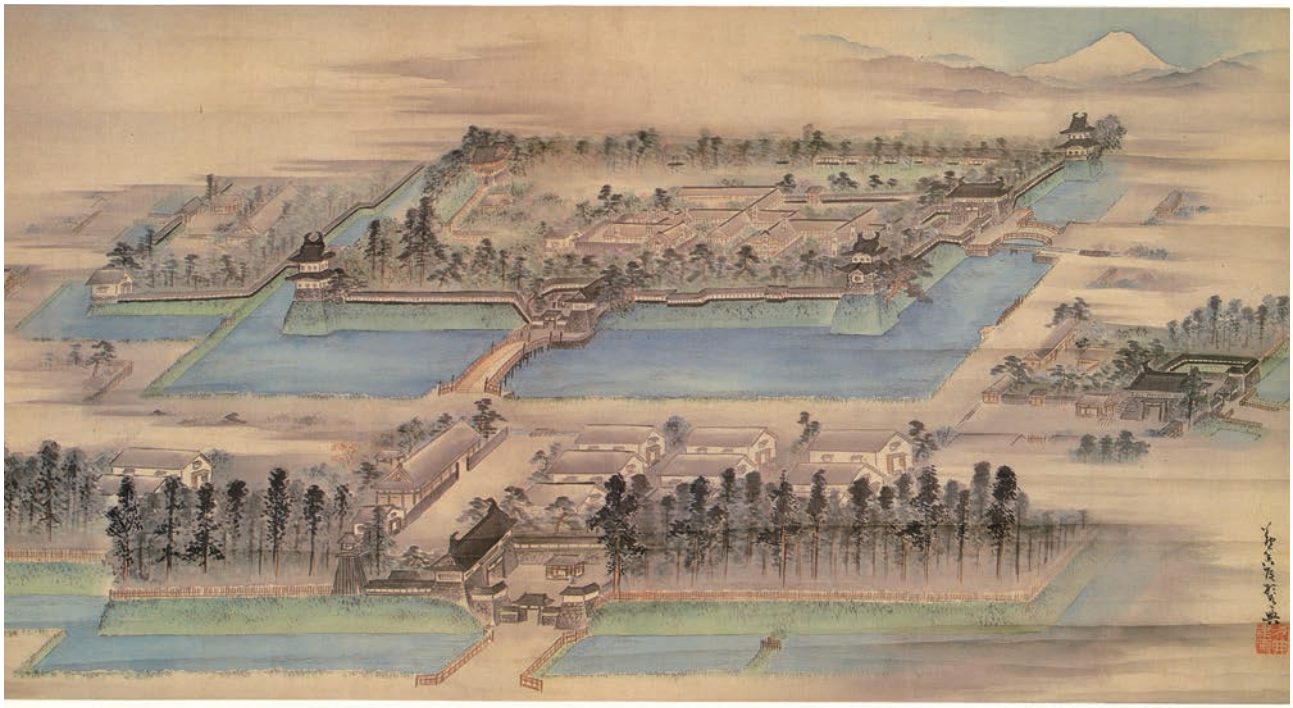
地区	遺構・グリッド	中世陶磁器		近世陶磁器		近現代陶磁器		瓦		金属製品		石製品		ガラス	
		重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数
1区東	撹乱	0	0	197.5	35	93.5	6	6.325	84	65.0	6	2.0	1	4.0	1
1区東	グリッド2面	0	0	0	0	0	0	0.712	11	0	0	0	0	0	0
1区東	グリッド3面	0	0	41.5	2	0	0	6.512	40	0	0	565.5	2	0	0
1区東	北壁トレンチ	0	0	0	0	0	0	9.015	46	0	0	0	0	0	0
1区東	東端	0	0	373.5	49	0	0	4.946	32	6.0	1	0	0	0	0
1区西	SB20	0	0	271.0	30	18.5	6	8.995	119	16.5	1	0	0	2.5	1
1区西	SK213	0	0	80.0	8	0	0	4.369	35	0	0	0	0	0	0
1区西	SX214	0	0	50.5	11	7.0	2	2.28	34	0	0	0	0	0	0
1区西	SX215	0	0	362.0	58	0	0	32.925	136	4.5	1	816.5	4	0	0
1区西	SX260	0	0	29215.0	1398	61.0	2	172.986	689	148.9	10	101.5	2	0	0
1区西	SK261	0	0	0	0	0	0	15.563	67	0	0	0	0	0	0
1区西	SK263	0	0	0	0	0	0	1.235	16	0	0	0	0	0	0
1区西	SP266	0	0	22.0	1	0	0	0.939	6	9.0	1	0	0	0	0
1区西	SK267	0	0	338.5	25	0	0	5.837	34	0	0	0	0	0	0
1区西	グリッド	0	0	39.0	10	6.0	1	3.484	55	0	0	0	0	0	0
1区西	グリッドⅡ	0	0	687.0	52	296.0	37	22.131	509	55.5	5	11.5	2	0	0
1区西	グリッドⅡ・Ⅲ	0	0	11.5	6	0	0	2.749	46	0	0	0	0	0	0
1区西	グリッドⅢ	0	0	582.0	81	63.0	11	44.964	629	37.0	9	0	0	38.5	3
1区西	グリッドⅣ	0	0	2544.9	226	170.5	24	176.058	1724	59.5	4	477.5	3	7.0	2
1区西	2面	0	0	0	0	0	0	1.376	13	0	0	0	0	0	0
1区西	3面	0	0	178.5	4	0	0	1.598	8	0	0	0	0	0	0
1区西	1トレンチ	0	0	1155.5	67	123.0	5	69.456	711	155.0	8	0	0	0	0
1区西	2トレンチ	0	0	45.0	8	0	0	4.79	61	15.5	2	454.5	4	0	0
1区西	3トレンチ	0	0	74.5	7	0	0	33.644	223	290.0	1	0	0	1.5	1
1区西	4トレンチ	0	0	1374.5	97	0	0	33.203	176	0		579.5	2	0	0
1区西	7トレンチ	0	0	156.0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	3.0	1
1区西	7トレ外整地	0	0	0	0	0	0	3.664	10	0	0	0	0	0	0
1区西	表土	0	0	0	0	0	0	2.719	20	114.0	1	0	0	0	0
1区西	撹乱	4.5	1	580.5	59	187.5	23	4.041	109	0.5	1	19.0	2	19.5	2
1区西	その他	0	0	27.0	6	8.5	2	0	0	0	0	0	0	4.0	2
1区	表土・XO	0	0	689.5	24	476.0	10	25.931	219	0	0	1340.0	1	44.0	1
1・3	SX120・SX260	0	0	259.5	3	0	0	132.759	247	0	0	0	0	0	0
1・3	整地層下面	0	0	0	0	0	0	2.981	7	0	0	0	0	0	0
1・3	表土	0	0	0	0	0	0	0.317	1	0	0	0	0	0	0
2区	グリッド	0	0	5.0	1	0	0	1.255	7	32.0	1	0	0	0	0
2区	グリッドⅡ	0	0	699.5	117	316.0	44	4.943	53	95.0	2	3.0	1	0	0
2区	グリッドⅢ	0	0	299.5	11	253.5	3	3.328	20	0	0	378.0	8	0	0
2区	グリッドⅣ	17.0	1	621.5	45	104.0	13	4.958	36	6.0	1	0	0	0	0
2区	撹乱	0	0	273.0	15	237.0	11	3.108	37	44.0	2	6.5	1	0	0
2区	6トレンチ	0	0	272.0	12	0	0	0.239	5	0	0	0	0	0	0
2区	表土・不明	0	0	89.0	7	6.5	6	18.718	116	0	0	0	0	1.0	1
3区東	SB4	0	0	120.5	14	70.0	9	3.848	43	0	0	446.0	3	1.0	1
3区東	SB5	0	0	353.0	11	0	0	0.093	1	0	0	83.0	1	0	0
3区東	SD64	0	0	0	0	0	0	0.026	1	113.0	1	0	0	0	0
3区東	SD65	0	0	720.0	29	7.5	6	0.56	9	229.0	2	10.0	1	0	0
3区東	SD66	0	0	388.0	19	2.5	1	0.897	16	292.0	4	7.5	2	11.5	1
3区東	SX68	0	0	120.0	17	0	0	0.81	9	60.0	5	300.5	3	0	0
3区東	SD70	0	0	229.5	23	0	0	0.337	3	12.5	1	0	0	0	0
3区東	SX71	0	0	1.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区東	SX73	0	0	37.5	7	0	0	0.074	1	5.0	1	0	0	0	0
3区東	SK74	0	0	42.5	12	0	0	0.053	2	5.0	1	0	0	0	0
3区東	SX75	2.5	1	3160.0	245	254.0	3	329.508	2301	314.0	17	2510.5	14	1.5	1
3区東	SD76	0	0	0	0	0	0	0.706	7	0	0	0	0	0	0
3区東	SP77	0	0	0	0	0	0	0.932	9	0	0	8.0	1	0	0
3区東	SD87	0	0	0	0	0	0	0.536	8	0	0	0	0	1.0	1
3区東	SP94	0	0	75.5	2	0	0	1.84	13	0	0	0	0	0	0
3区東	SK95	0	0	19.0	5	0	0	41.584	222	60.0	9	489.5	9	0	0
3区東	SX99	0	0	1850.0	126	0	0	4.642	30	0	0	0	0	0	0
3区東	SX100	0	0	12018.0	705	450.5	25	32.488	180	892.0	50	967.5	7	0	0

地区	遺構・グリッド	中世陶磁器		近世陶磁器		近現代陶磁器		瓦		金属製品		石製品		ガラス	
		重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数
3区東	SX101	0	0	20.5	4	0	0	0.07	1	0	0	0	0	0	0
3区東	SX102	0	0	186.0	7	0	0	0.262	2	0	0	0	0	0	0
3区東	SX104	0	0	44.0	6	0	0	0.122	1	0	0	0	0	0	0
3区東	SK105	12.0	1	134.5	2	0	0	0	0	11.5	1	0	0	0	0
3区東	SX107	7.5	1	112.0	19	0	0	0.259	2	6.0	3	0	0	0	0
3区東	SX108	0	0	171.0	21	0	0	0.304	5	0	0	0	0	0	0
3区東	SX109	7.0	2	2108.5	143	0	0	8.677	49	73.0	6	87.0	2	0	0
3区東	SX110	5.0	3	605.5	77	0.5	1	3.056	11	53.0	2	369.5	1	0	0
3区東	SX111	0	0	40.5	3	0	0	0	0	4.5	1	0	0	0	0
3区東	SK112	0	0	120.5	2	0	0	0	0	1.0	1	0	0	0	0
3区東	SX113	0	0	0	0	0	0	0	0	99.5	6	0	0	0	0
3区東	SK114	0	0	147.5	9	0	0	0.319	2	45.5	5	0	0	0	0
3区東	SK115	0	0	219.0	40	0	0	1.876	8	96.0	4	0	0	0	0
3区東	SK224	0	0	0	0	0	0	0.436	3	0	0	0	0	0	0
3区東	グリッド	0	0	104.0	12	0	0	17.47	176	34.5	1	0	0	0	0
3区東	グリッドⅡ	0	0	2273.5	382	1629.5	101	0	0	242.5	16	0	0	9	4
3区東	グリッドⅡ・Ⅲ	0	0	5.5	1	32.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
3区東	グリッドⅢ	0	0	320.0	23	3.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
3区東	3面	0	0	926.5	101	17.5	1	0.523	1	9.0	1	183.5	3	0	0
3区東	グリッドⅣ	185.0	3	4635.5	325	148.0	27	32.397	341	172.5	22	14.0	3	24.0	1
3区東	撹乱	0	0	582.0	89	10.5	3	0.112	2	1352.5	3	941.5	4	117.0	3
3区東	不明	0	0	0	0	12.5	1	26.383	253	0	0	19.5	3	0	0
3区西	SB1	0	0	205.5	49	0	0	1.817	33	16.0	6	10.0	2	27.0	12
3区西	SB2	0	0	450.0	31	0	0	0.504	5	0	0	0	0	0	0
3区西	SX67	0	0	93.5	10	0	0	0	0	0	0	41.5	1	0	0
3区西	SX79	0	0	339.5	18	0	0	8.683	113	0	0	633.5	2	0	0
3区西	SX80	0	0	82.0	11	2.5	1	6.688	36	0	0	0	0	0	0
3区西	SD81	0	0	0	0	2450.0	2	0	0	0	0	52.5	1	0	0
3区西	SD82	0	0	53.0	5	0	0	6.958	26	0	0	0	0	0	0
3区西	SK83	0	0	11.5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区西	SX84	0	0	21.0	10	0	0	2.167	17	0	0	0	0	0	0
3区西	SX85	0	0	2261.0	26	0	0	20.259	178	0	0	968.5	3	0	0
3区西	SK86	0	0	25.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区西	SD87	0	0	1.5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区西	SD88	0	0	27.5	3	0	0	1.311	24	0	0	0	0	0	0
3区西	SK89	0	0	22.0	1	0	0	0.474	4	0	0	0	0	0	0
3区西	SP90	0	0	0	0	0	0	0.007	1	0	0	0	0	0	0
3区西	SD93	0	0	0	0	0	0	8.457	63	10.0	1	0	0	0	0
3区西	SP96	0	0	256.5	2	0	0	0.217	2	0	0	0	0	0	0
3区西	SP97	0	0	69.5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区西	SK116	6.5	1	1845.5	14	9.0	2	1.927	15	0	0	0	0	0	0
3区西	SK117	0	0	11.5	4	13.0	1	3.615	31	45.0	4	0	0	0	0
3区西	SX118	0	0	114.0	9	0	0	5.484	24	0	0	0	0	0	0
3区西	SX119	0	0	1.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区西	SX120	0	0	3107.5	217	0	0	212.095	1095	40.5	4	174.5	2	0	0
3区西	SX120-5 トレ	0	0	64.5	5	0	0	74.586	363	16.5	2	0	0	0	0
3区西	グリッド	0	0	8.5	1	165.5	3	15.027	163	0	0	0	0	0	0
3区西	グリッドⅡ	0	0	0	0	0	0	0.395	2	201.0	2	486.0	4	0	0
3区西	グリッドⅡ・Ⅲ	0	0	2678.5	204	831.0	78	0	0	0	0	0	0	0	0
3区西	グリッドⅢ	0	0	97.5	27	15.0	6	55.399	681	9.5	4	3.0	2	0	0
3区西	グリッドⅣ	177.5	2	5457.1	416	458.0	41	1062.263	6379	55.0	11	6104.5	21	2.5	2
3区西	グリッド撹乱	0	0	7.5	2	2.5	2	0.417	4	0	0	0	0	0	0
3区西	8トレンチ	0	0	14.5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区西	不明	0	0	17.0	4	1.5	1	33.52	151	3.5	1	0	0	0	0
3区	不明	0	0	238.5	22	151.0	10	8.812	101	8.5	1	15.5	2	0	0
3区	Ⅱ	0	0	217.0	28	14.0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
3区	撹乱	77.0	1	348.0	66	279.0	33	0	0	10.0	3	51.0	1	0	0
不明	表土・XO	0	0	258.5	31	5.0	3	0.793	14	10.0	3	248.0	2	0	0
	合計	504.5	18	103894.5	7126	10199.5	664	3890.9541	27866	6518.4	308	20637.5	148	349.0	42

写真図版



遺跡遠景（西から）



新庄城絵図（尾形芦香描・新庄市教育委員会所蔵）



環境整備



重機による表土除去



1 区第 1 面の面整理作業



遺構精査



第 1 面遺構検出状況　（上が北）



3 区西 SB1 建物跡検出状況（南から）



3 区東 SB4 建物跡検出状況（東から）



1区西 SB20 建物跡検出状況（北から）



3区 SB2 建物跡検出状況（南から）



3区 SB3 建物跡検出状況（東から）



3区 SB5 建物跡検出状況（東から）



1区東第1面遺構検出状況（東から）


SB1 建物跡柱穴検出状況（南西から）


SB1EP18 柱穴断面（南西から）


SB1EP19 柱穴断面（南西から）


SB1EP8 柱穴断面（南から）


SB1EP15 柱穴断面（南から）


SB1EP14・13 柱穴断面（南西から）


SB2EP31 柱穴検出状況（南から）


SB2EP23 柱穴断面（南から）


SB2EP31 柱穴断面（南から）


SB4EP45 柱穴検出状況（東から）


SB4EP46 柱穴検出状況（北から）


SB4EP47 柱穴検出状況（東から）


SB4EP45 柱穴断面（南から）


SB4EP46 柱穴断面（南から）


SB4EP47 柱穴検出断面（南から）



1 区西第 2 面遺構検出状況（北から）



1 区西側北壁断面（南東から）



1 区 SX254 焼土遺構・SB247 建物跡検出状況（北東から）



1 区 SX215 瓦廃棄遺構遺物出土状況（南東から）



1 区 SX215 瓦出土状況（南東から）



1 区 SX215 瓦・陶磁器出土状況（東から）



SB201EP211 礎石（南から）



SB201EP212 礎石（南東から）



1 区東第 2 面遺構検出（東から）



1 区東第 2 面柱穴群（上が北）



1 区東第 2 面柱穴群（南東から）



1 区東柱穴群検出状況（南西から）



SP202 礎石検出状況（南西から）



SP202 礎石検出状況（南から）



SP202 礎石掘り方断面（南から）



SP203 礎石検出状況（西から）



1 区 SP203 礎石周辺の瓦出土状況（西から）



1 区 SP203 礎石周辺の瓦出土状況（西から）



SP203 周辺の瓦（96-6）・古銭（138-7）出土状況（西から）



1 区 SX200 瓦廃棄遺構南半部（西から）



SP203 礎石掘り方断面（西から）



SB268EP237 柱穴検出状況（南西から）



SB268EP237 柱穴断面（南西から）



SB268EP230 柱穴検出状況（南西から）



SB268EP230 柱穴断面（南から）



SB269EP238 柱穴断面（南西から）



SB269EP229 柱穴断面（南東から）


SB269EP229 柱穴掘り下げ状況（東から）


SB269EP227 柱穴断面（南から）


SB269EP227 根固石検出状況（北東から）


SB270EP220 柱穴断面（南西から）


SB270EP220 柱穴完掘状況（南東から）


SB270EP221 柱穴断面（南西から）


SB270EP222 柱穴断面（南から）


SB270EP231 柱穴根固石（南東から）


SB270EP231 柱穴断面（南東から）

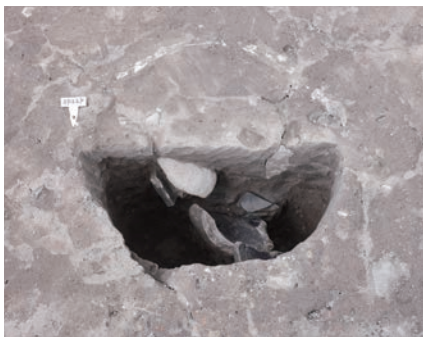

SB270EP241 柱穴断面（南から）


SB268EP239 柱穴断面（西から）


SB268EP239 柱穴完掘状況（東から）


1 区東 SP223 柱穴断面（南西から）


1 区東 SP223 柱穴完掘状況（東から）


1 区東 SP224 柱穴断面（南西から）


SP224 柱穴遺物出土状況（南西から）


SP228 完掘状況（東から）


SP234 柱穴断面（南から）


SP235 柱穴根固石（南から）


SP235 柱穴断面（南から）


SP236 柱穴根固石（南から）


SP236 柱穴断面（東から）


SB20EP205 柱穴断面（南から）


SB20EP208 柱穴断面（南から）


SB20EP209 柱穴断面（南から）


SP218 柱穴断面（南西から）


SP219 柱穴断面（南西から）


EP208 柱穴内 92-22 出土状況（南西から）


EP221 柱穴陶器出土状況（南西から）


3 区 SX120 整地層 73-13 出土状況（西から）



1 区東 SX225 焼土遺構検出状況（北から）



1 区東 SX225 焼土遺構完掘状況（北から）



1 区東 SX225 焼土遺構細部（北から）



1 区東 SX217 落ち込み遺構遺物出土状況（北から）



SX225 焼土遺構陶器甕出土状況（北から）



SX217 落ち込み遺構遺物出土状況（北から）



SX217 落ち込み遺構遺物出土状況（北から）



SX217 落ち込み遺構遺物出土状況（北から）



1 区東 SX216 溝状遺構遺物出土状況（東から）



SX216 溝状遺構金属製品把手（137-4）出土状況（東から）



SX216 溝状遺構金属製品容器（137-5）出土状況（北から）



1 区東 SX200 瓦廃棄遺構遺物取り上げ作業（西から）



1 区東 SX200 瓦廃棄遺構・瓦出土状況（南から）



1 区 SX200 瓦廃棄遺構 2 回目取り上げ前（北から）



1 区 SX200 瓦廃棄遺構 2 回目取り上げ前（西から）



3 区東第 2 面遺構検出状況（東から）



3 区西第 2 面遺構検出状況（東から）



3 区 SX84 焼土遺構検出状況（北から）



3 区 SX84 焼土遺構断面（南東から）



3 区 SX84 焼土遺構検出作業状況（南から）



3 区 SX84 焼土遺構内の蓆状炭化物出土状況（南から）



1 区東炭化米出土状況



3 区東第 2 面遺構完掘状況（東から）



3 区西 SK86 土坑断面（南から）



3 区西 SK86 土坑遺物出土状況（南から）



3 区西 SX79 性格不明遺構東側遺物出土状況（北から）



3 区西 SX79 性格不明遺構完掘状況（北東から）


SK81 土坑断面（南東から）


3 区 SP91 柱穴断面（南西から）


3 区 SP91 柱穴完掘状況（北から）


3 区 SP90 柱穴断面（南から）


3 区 SP96 柱穴断面（南から）


3 区 SP96 柱穴遺物出土状況（南から）


3 区 SD65 溝跡断面（東から）


3 区 SD66 溝跡断面（西から）


SD66溝跡染付皿（82-5）出土状況（南から）


SD66溝跡染付皿（82-6）出土状況（南から）


SD65溝跡陶器壺（82-3）出土状況（南から）


3 区 SP77 柱穴断面（南から）


SX68 溝状遺構 82-10 出土状況（北から）


3区東2面染付碗（79-22）出土状況（東から）


3 区東炭化材出土状況（西から）



3区東 SX75 落ち込み遺構上層遺物出土状況（東から）



SX75 落ち込み遺構瓦出土状況（東から）



SX75 落ち込み遺構瓦出土状況（北から）



SX75 落ち込み遺構瓦出土状況（北東から）



3区 SX75 落ち込み遺構陶磁器出土状況（北から）



3 区西 SX120 整地層瓦出土状況（北東から）



SX120 整地層瓦出土状況（北東から）



SX120 整地層瓦出土状況（東から）



SX120 整地層瓦出土状況（東から）



SX120 整地層鯱瓦（133-2）出土状況（西から）



第２面遺構完掘状況（上が南）



３区東第２面遺構完掘状況（上が南）



3区西第2面柱穴群完掘状況　（上が南）



1区東第2面遺構完掘状況　（上が南）



1区西2トレンチ断面（北東から）



1区西2トレンチ断面（南東から）



1区西3トレンチ遺物出土状況（東から）



1区西1トレンチ掘り下げ状況（東から）



1区西2トレンチ遺物出土状況（南東から）



1区西4トレンチ断面（東から）



1区西4トレンチ遺構検出状況（南から）



1区西1トレンチ一分金（138-9）出土状況（北東から）



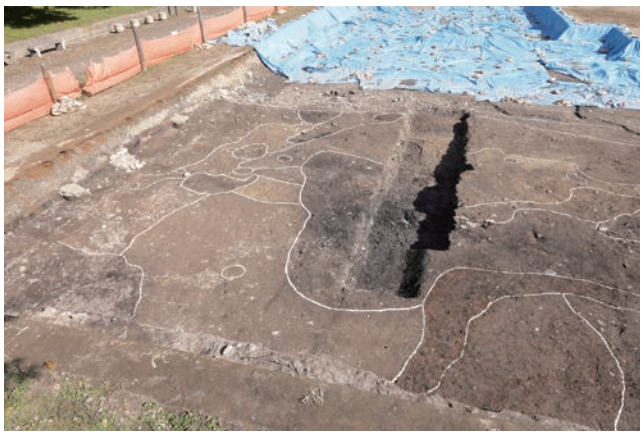
1区西1トレンチ染付碗（62-1）出土状況（南から）



1区2トレンチ染付碗（62-2）出土状況（南から）



1区3トレンチ色絵陶器碗（61-23）出土状況（南から）



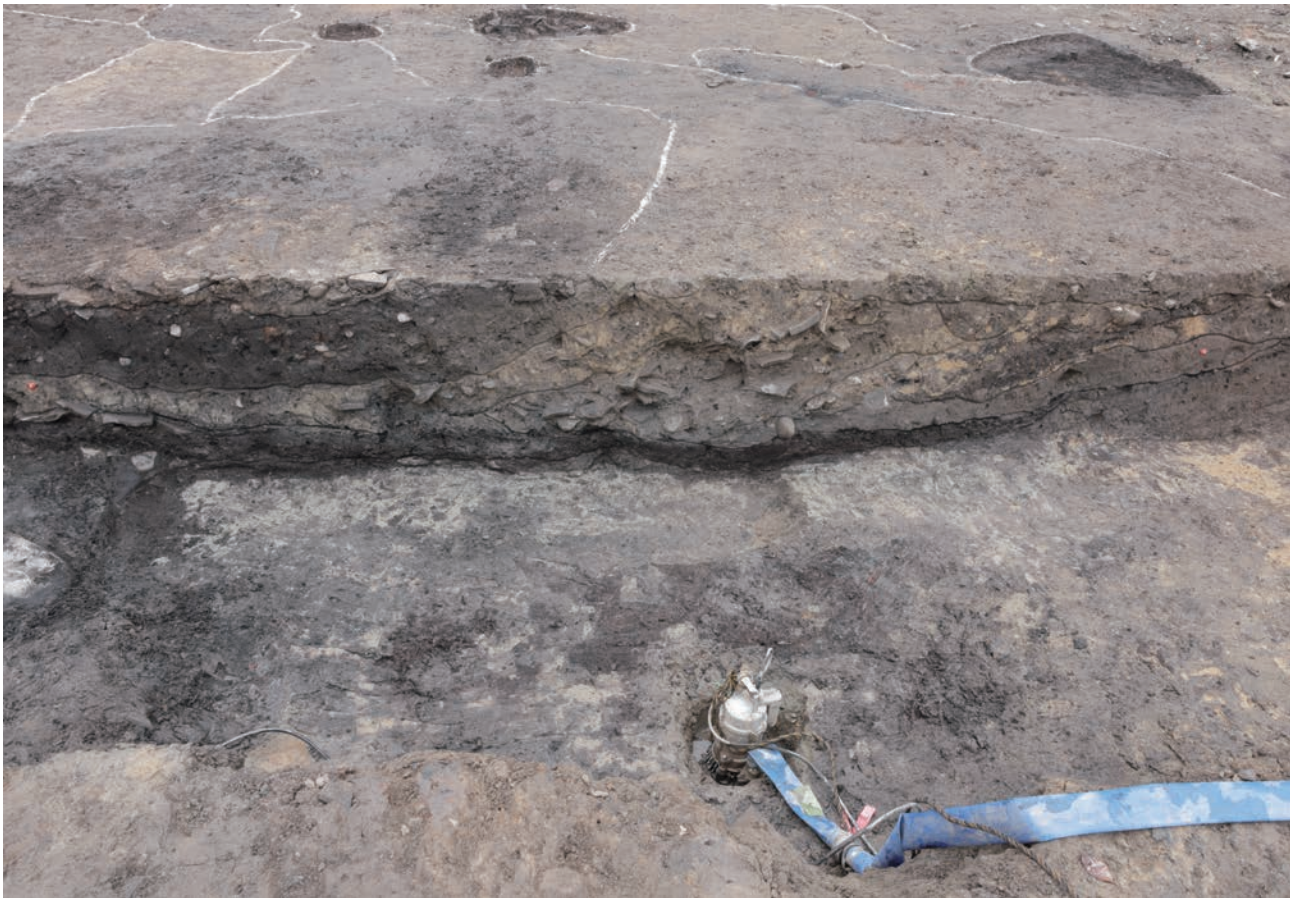
1区西4トレンチ拡張状況（西から）



1区西4トレンチ拡張状況（東から）



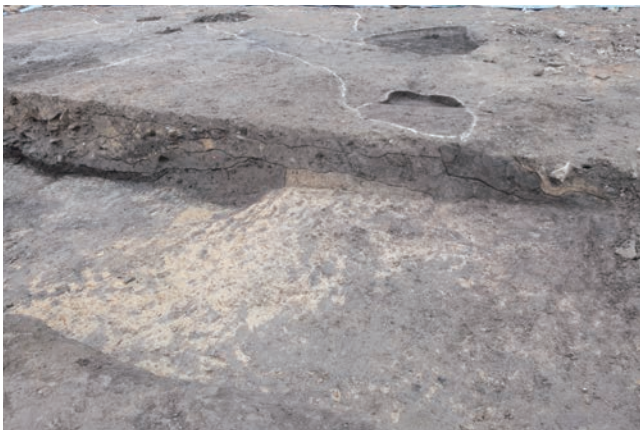
1 区西 SX260 整地層検出状況（北から）



1 区西 4 トレンチ中央断面（南から）



1 区西 4 トレンチ西側断面（南から）



1 区西 4 トレンチ東側断面（南から）



1 区西 SK261 土坑遺物出土状況（北から）



1 区西 SK261 土坑断面（北から）



1 区西 SK261 土坑完掘状況（北西から）



1 区西 SK267 土坑断面（南から）



1 区西 SK267 土坑完掘状況（北から）



1 区西 SP263 柱穴断面（北から）



1 区東第 3 面遺構検出状況（北西から）



1 区東南壁断面（北西から）



1 区東 SX217 落ち込み遺構中央トレンチ掘り下げ状況（北西から）



1 区 SP263 柱穴完掘状況（北から）



1 区 SD265 溝跡断面（北東から）



1 区 SX217 落ち込み遺構中央トレンチ遺物出土状況（北から）



1 区 SX217 落ち込み遺構中央トレンチ遺物出土状況（北から）



1 区東 SD245 溝跡掘り下げ状況（北から）



1 区東陶器擂鉢（71-1）出土状況（西から）



1 区西 4 トレンチ遺物（63-9、64-3、92-25）出土状況（南東から）



1 区西 4 トレンチかわらけ（92-25）出土状況（南から）



3 区東第 3 面遺構検出状況（東から）



3区東壁断面（西から）



3区北壁断面（南西から）



3区南壁断面（北東から）



第 3 面調査区遠景（北から）



第 3 面調査区全景（上が北）



第 3 面 3 区東遺構掘り下げ状況（上が北）



第 3 面 3 区西遺構掘り下げ状況（上が北）



3区東遺構掘り下げ状況（北西から）



3区東遺構掘り下げ状況（東から）



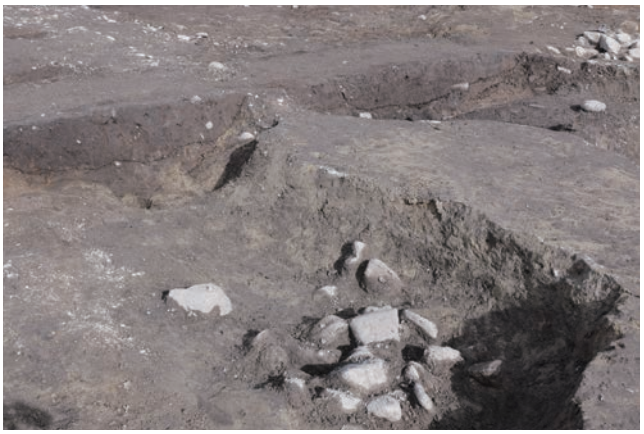
3区東 SK115 土坑断面（北東から）



3区東 EP103 柱穴断面（北東から）



3区東 SX99 溝状遺構断面（南西から）



3区東 SX99・109 溝状遺構断面（南から）



3区東 SX109 溝状遺構・EP106 柱穴断面（南東から）



3区東 SX111 溝状遺構断面（東から）



3区 SX99 溝状遺構染付碗（83-11）出土状況（北から）



3区 SX99 溝状遺構瓦（114-6）出土状況（北から）



3区東 SK105 土坑断面（北東から）



3区東 SK105 土坑完掘状況（北から）



3区東 SK112 土坑断面（南西から）



3区東 SK112 土坑青磁染付鉢（92-4）出土状況（東から）



3区東 SK112 土坑完掘状況（東から）



3区東 SK107 土坑断面（南から）



3区東 SK115 土坑遺物出土状況（東から）



3区 SK115 土坑陶器皿（91-9）出土状況（東から）



3 区東 SX109 溝状遺構断面（南西から）



3 区東 SX109 溝状遺構断面細部（南西から）



3 区東 SX110 溝状遺構北端断面（南西から）



3 区東 SX110 溝状遺構断面（南西から）



3 区東 SX100 落ち込み遺構トレンチ断面（北東から）



3区 SX100 落ち込み遺構断面（北東から）



3区 SX100 落ち込み遺構断面（東から）



3区 SX100 落ち込み遺構断面（北から）



3区 SX100 落ち込み遺構掘り下げ状況（南から）



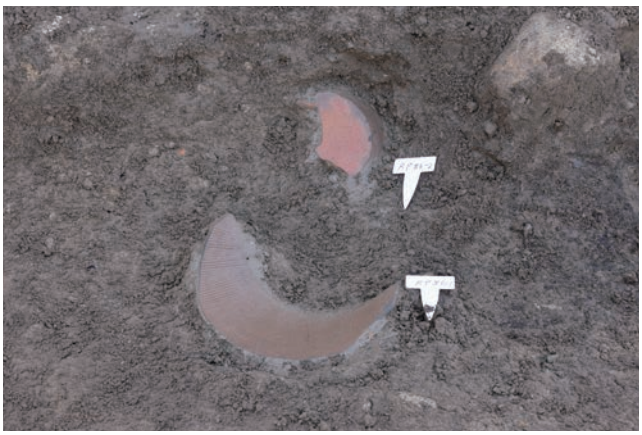
3区 SX100 落ち込み遺構青磁皿（86-4）出土状況（北から）



3区 SX100 落ち込み遺構磁器皿（91-3a）出土状況（南から）



3区SX100（右より）陶器碗・大皿（87-12・10、88-7）出土状況（北から）



3区 SX100 落ち込み遺構陶器擂鉢（90-2）出土状況（北東から）



3区 SX100 落ち込み遺構遺物出土状況（西から）



3区陶器小皿・青磁大皿（87-19、88-4）出土状況（西から）



3区土師質土器（94-5）火鉢・焼塩壺（94-3）出土状況（西から）



3区 SX100 落ち込み遺構遺物出土状況（北東から）



3区仏飯器・染付椀（86-10、85-10）出土状況（北から）



3区 SX100 落ち込み遺構鉄砲玉（138-6）出土状況（北から）



3区東 SX75 落ち込み遺構遺物出土状況（北東から）



3区 SX75 落ち込み遺構遺物出土状況（北西から）



3 区 SX100 落ち込み遺構完掘状況（北から）



3 区 SX75 落ち込み遺構断面（南東から）



3 区 SX75 落ち込み遺構断面（東から）



3 区 SX75 落ち込み遺構層断面（南西から）



3 区 SX75 落ち込み遺構鯱瓦（133-1）出土状況（西から）



3 区 SX75 落ち込み遺構陶器土瓶（83-9）出土状況（西から）



3 区東第 3 面遺構完掘状況（北から）



3 区東第 3 面遺構完掘状況（北から）



3 区西 SX120 整地層 5 トレンチ断面（南西から）



3 区西 5 トレンチ断面（南西から）



2 区 6 トレンチ（東から）



2 区 6 トレンチ断面（南東から）



3 区西 8 トレンチ掘り下げ状況（東から）



3 区西 8 トレンチ西側（西から）



3 区 8 トレンチ断面（南東から）



1 区西 7 トレンチ（西から）



1 区西 7 トレンチ（東から）



61-1



61-2



61-3



61-4





61-6



61-7



61-5







61-10



61-8



61-12

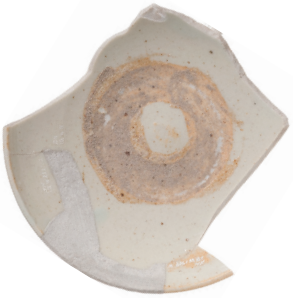




61-13



61-16





61-17





61-18



61-25



62-5

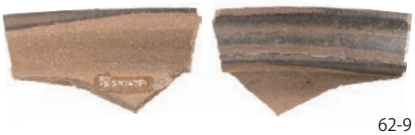




62-7

須恵器・青磁・珠洲・須恵器系陶器・1 区西出土陶磁器 1


62-8


62-9


62-10


63-2


63-4


63-5


63-7


63-20


64-3


64-4

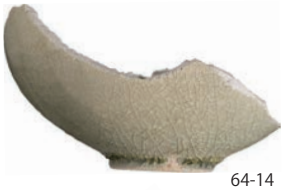

64-5


64-6


64-8

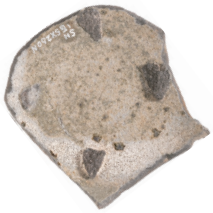

64-11


64-13

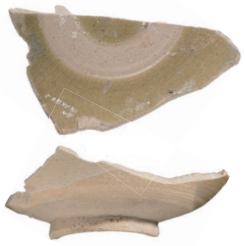

64-14


65-2





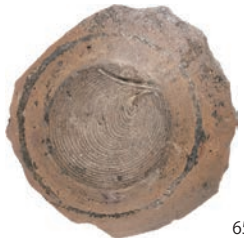

65-3


65-4


65-5


65-1




65-7




65-8

1 区西出土陶磁器 2





65-11





65-9



65-12





65-10





66-1



66-8



66-12



67-3



66-9



67-1



67-2





1



2a



2b

※ 1 ・2a・2b は写真図版のみ掲載

1 区西出土陶磁器 3




67-8

67-6




67-17




67-15



67-19

68-1


68-3


68-4



68-5

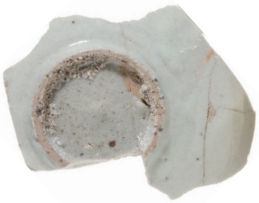


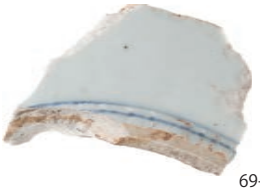
68-13


68-15



69-4


69-12


69-1


69-16



1a



1b




69-20


69-22a





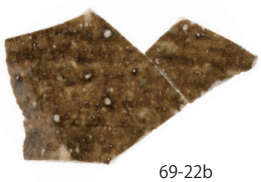


69-17

69-18

69-19


69-21


69-22b

※ 1a・1b は写真図版のみ掲載

1 区西出土陶磁器 4・東出土陶磁器 1



70-1



70-2b



70-3



70-4

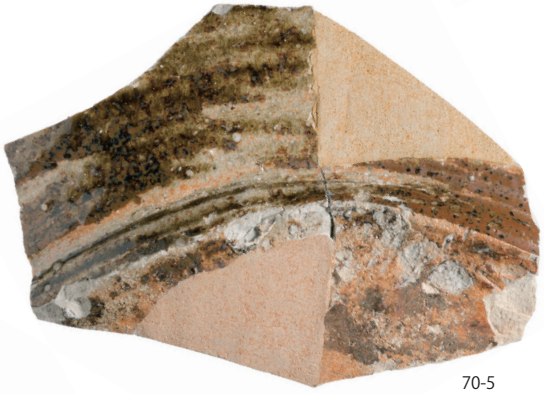


70-2a

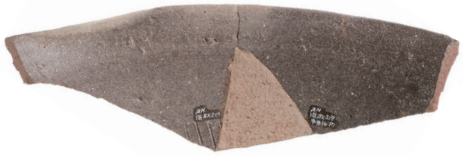


1



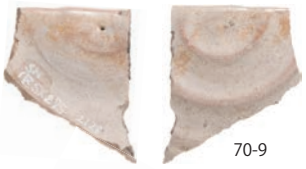


70-5





70-6



70-9

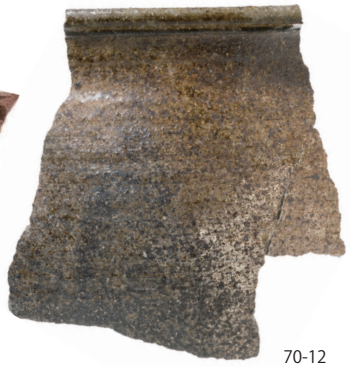


70-7





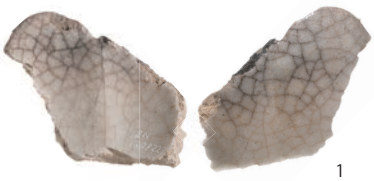
70-11



70-12

※ 1 は写真図版のみ掲載

1 区東出土陶磁器 2



1





71-1







71-3





71-9









71-13



71-6



71-10



71-7



71-11



71-14

※ 1 は写真図版のみ掲載

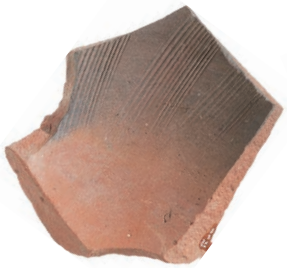
1 区東出土陶磁器 3


72-2
72-12
72-15
72-4
72-10
72-9
72-17
72-11
72-27
73-8
73-3
73-11
74-5
74-6
74-7
74-9
74-11
74-16
74-14
74-17
75-3
74-13
75-2
75-6
75-5

2・3 区西出土陶磁器 1


75-10


75-11




76-6


76-7




76-15


76-5


76-19




77-1


77-2


77-5


77-6






77-7




77-8




77-9




77-11




77-14




77-12




77-13




77-15

3 区西出土陶磁器 2


78-1
78-9
78-10
78-11
78-12
78-14
78-15
78-16
78-19
78-17
78-18
79-2
79-6
79-3
79-7
79-8
79-1
79-11
80-3
79-10
80-11
81-5
81-6
80-10
81-4
81-7
81-8
81-9
81-10

3 区東出土陶磁器 1


81-16
81-12
81-17
81-13
81-14
81-18
81-20
81-19
82-6
82-7
82-2
82-11
82-3
82-10
82-19
83-4
83-7
83-1
83-5
83-8

3 区東出土陶磁器 2


83-9
83-14
83-16
84-6
84-2
84-1
84-3
84-7
84-8
84-9
84-10
84-12
84-16
84-11
84-24
85-22
85-20
85-21
85-23
85-24
86-2
86-1
86-7
85-25

3 区東出土陶磁器 3


86-11
86-8
86-12
86-13
87-4
87-14
87-6
87-9
87-13
87-15
87-16
87-19
87-21
87-18
87-20
87-17
88-1
88-6
88-8
88-10
88-9
89-1a
89-1c
89-1b

3 区東出土陶磁器 4



89-2



89-3



89-4





89-5



89-6



89-7



90-1a



90-1b



89-8

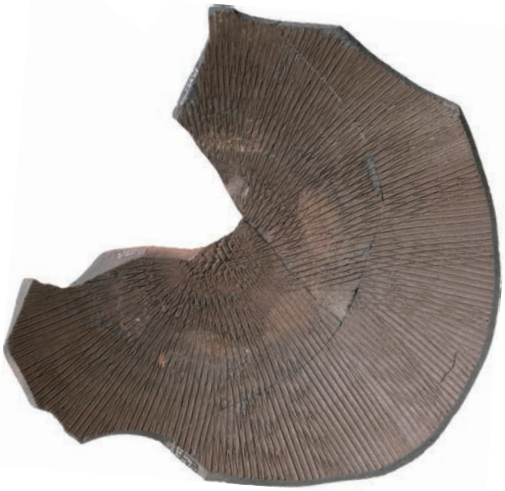




90-1c



1







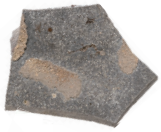
90-3



90-9



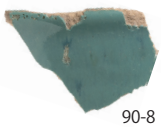
90-7



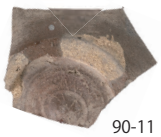


90-2





90-8



90-11



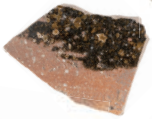
2

3 区東出土陶磁器 5



90-13

90-22

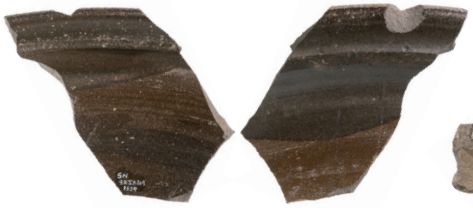
90-23

91-8a

91-6

91-7

91-8b

91-8c

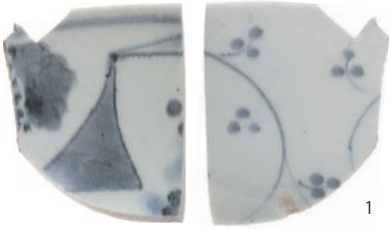

91-9

91-10


91-11


91-12

92-3


91-13


92-5

1


92-10

92-8

2a

2b

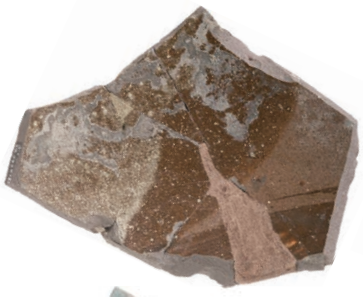
※ 1・2a・2b は写真図版のみ掲載

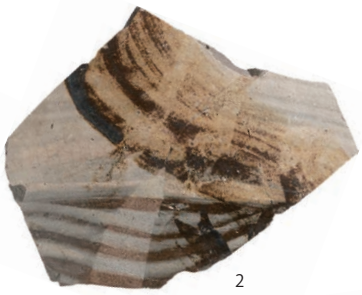
1 区・3 区東出土陶磁器 6





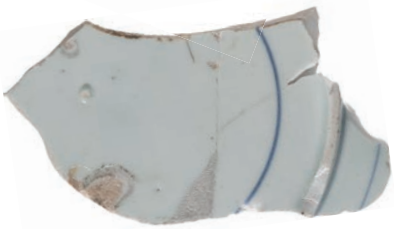
1





2





3









92-15

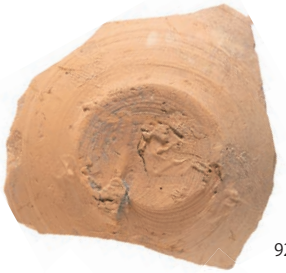


92-16



92-17





92-18













92-19



92-21



92-22





92-20

※ 1 ～ 3 は写真図版のみ掲載

3 区東出土陶磁器 7・3 区西出土陶磁器 3・かわらけ 1・焼塩壺 1



かわらけ 2・焼塩壷 2



93-7



93-8



93-9







93-10





93-12





93-11





93-14





93-13





93-15







93-16



93-17



93-19





93-18



93-20



93-21



93-22



93-23

かわらけ 3



93-24a



93-24b



93-25



93-26



94-1



94-2



93-27



94-3



94-4





94-5







94-6







94-7





94-8



94-9





94-10



94-11



94-12





94-13

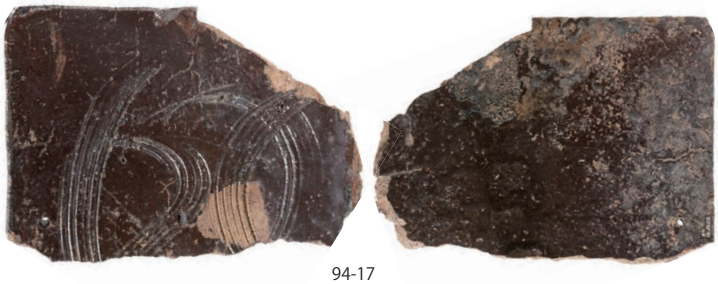


94-14

かわらけ 4・焼塩壷 3・土師質土器・瓦質土器・土人形



94-15



94-17



94-16



95-3



95-2



95-6



95-4



95-7

1区出土瓦1



96-2



97-5



97-2



98-7





98-6







97-4





98-3





98-8



99-2







100-4

1 区出土瓦 2



99-3



101-5



102-6



101-1



102-7



101-2



101-3



102-3



101-7

1 区出土瓦 3



102-2





103-3







103-4







104-1





104-5



105-4

1区出土瓦4



105-1



105--5



105-7



105-3



105-6





106-2



106-5



106-6



106-3



1 区出土瓦 5




107-2





107-4




107-7




108-3




107-6





108-1




108-5




110-7

1区出土瓦6



109-1



109-2





109-8



110-5





110-1



109-4



109-6

1区出土瓦7



111-1



111-3



111-4



111-5



112-3





112-5



113-3



113-5

113-6

3 区出土瓦 1



114-1



114-3



114-4



114-6



114-7



114-5





115-1



115-6



115-2



116-4



116-8

3 区出土瓦 2



117-2


117-4


117-5



117-6



117-7



117-10



117-9



118-6



119-1



119-5


120-1



120-2

120-3

3 区出土瓦 3



120-5





119-9



125-1







125-6





122-2







124-2



126-7



126-8





124-3



127-3



127-2

3 区出土瓦 4



125-5



127-7



127-8



126-2



127-9



126-4





128-4



128-5





128-7



128-6



3 区出土瓦 5



130-2



131-3



130-3



131-1



131-4



131-2

1・2・3 区出土平瓦・鬼瓦・鯱瓦 1



1・3 区出土鯱瓦 2





133-2



試料 -1





134-1





試料 -2





試料 -3





試料 -5





試料 -4







試料 -7





試料 -6

1・3 区出土鯱瓦 3・理化学分析試料瓦



134-2



134-3



134-4



134-5



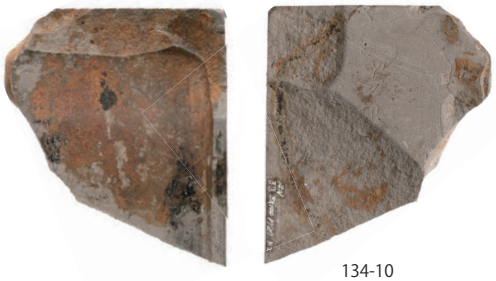
134-6



134-7



134-8



134-10



134-9



134-11



134-12



134-13



135-1 135-2 135-3 135-4



135-5



135-9



135-6



135-7



135-8

石製品


135-10
135-11
135-12
135-13
135-14
135-15
135-16
135-17
135-18
135-19
135-20
135-21
136-1
136-2
136-3
136-4
136-5
136-6
136-7
136-8
136-9
136-10
136-11
136-12
136-13
136-14
136-15
136-16
136-17
136-18
136-19
136-20
136-21
136-22

金属製品 1


137-1


137-2


137-3


137-4


137-6


1


137-5


137-10


137-7


137-11


138-2


138-3


138-4


138-5


138-6


137-8


137-9


138-1


138-7


138-8


138-9


2


3


138-12




138-11


138-10


4




5


6

※ 1 ～ 6 は写真図版のみ掲載

金属製品 2・木製品・ガラス

報告書抄録

ふりがな	しんじょうじょうにのまるあとはっくつちょうさほうこくしょ
書名	新庄城二の丸跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第256集
編著者名	菅原哲文
編集機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3246　山形県上山市中山字壁屋敷5608番地　TEL　023-672-5301
発行年月日	2026年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
新庄城二の丸跡 （しんじょうじょうにのまるあと）	山形県（やまがたけん） 新庄市（しんじょうし） 堀端町（ほりばたまち） 4番地（よんばんち）	6205	205-129	38°　46′　1.78″	140°　17′　45.40″	20230515 ～ 20231114	1,800	新庄市公立保育所整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新庄城二の丸跡	城館跡	奈良・平安時代		須恵器	幕末の遺構面の第２面で、米蔵と考えられる礎石建物跡や戊辰戦争の火災跡が検出され、大量の炭化米が出土した。第３面では武家屋敷跡に関連する遺構や整地の様相が明らかになった。江戸時代の大量の瓦や城内で使用された陶磁器などの遺物が出土した。 （文化財認定箱数：390）
		中世		陶磁器	
		近世	建物跡　6 焼土遺構　3 整地層　2 瓦廃棄遺構　2 落ち込み遺構　3 溝跡・溝状遺構 土坑	陶磁器 瓦 金属製品 石製品 木製品	

要約

新庄城は、江戸時代の寛永２年（1625）に新庄藩の初代藩主戸沢政盛により築城された。二の丸跡の調査区は、藩の米蔵が設置された場所である。調査では近現代の面と江戸時代の面が２面の３つの遺構面が確認された。戊辰戦争の火災で被災した第２面では、米蔵と考えられる礎石建物跡、焼土遺構、瓦廃棄遺構などが検出され、大量の炭化米も出土した。その下の第３面では、米蔵が建てられる以前にあった武家屋敷地の遺構群や調査区西側に瓦を大量に入れた整地層などが確認された。遺物では、中世の中国産の青磁、国産の珠洲焼、近世では大量の瓦や、九州の肥前産を中心とする陶磁器、石製品、金属製品などが出土した。当時の陶磁器などの流通や城内の生活の様相が明らかになった。

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 256 集

新庄城二の丸跡発掘調査報告書

2026 年 3 月 31 日発行

発行　公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒 999‐3246　山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
電話　023-672-5301
印刷　中央印刷株式会社
〒 990‐0051　山形県山形市銅町 1 丁目 1 番 5 号
電話　023‐631‐5533

この PDF データは下記の報告書を底本として作成しました。
閲覧を目的としていますので、詳細な写真や図面が必要な場合は、底本を参照して下さい。
底本は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター、山形県内の市町村教育委員会、図書館、各都道府県の埋蔵文化財センター、考古学を教える大学、国立国会図書館等に所蔵されています。
所蔵状況や利用方法は、直接各施設にお問い合わせ下さい。

書名：新庄城二の丸跡発掘調査報告書
発行：公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
〒 999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地
電話 :023-672-5301
URL:http://www.yamagatamaibun.or.jp/
mail:yac@yamagatamaibun.or.jp
電子版作成日：2026 年 4 月 14 日